人間と道徳

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS101
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間と道徳
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0001001　金2
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	人間，道徳心，自己理解，他者理解
学生の到達目標	1．人間各々の葛藤や幸せ，価値観があることが理解できるようになる。 2．大学生活や目標に向かって，自信を持とうとする力をつける。 3．モラルやマナーについて学び，適確な判断力をつける。
授業内容	第1回　ガイダンス「現在とこれからの自分の生き方」（目標１・２） 第2回　「人間について」と「道徳について」（目標１・２）

第3回	人間の「葛藤」（１）「夢と約束」（目標１）
第4回	人間の「挫折と克服」（目標１）
第5回	人間の「葛藤」（２）「家族と役割」（目標１）
第6回	人間の「幸せ」（目標１）
第7回	人間の「価値観」（目標１）
第8回	「葛藤」「価値観」「幸せ」について中間まとめ（目標１）
第9回	自分の長所と短所（目標２）
第10回	自信のもち方（目標２）
第11回	学園内での規範意識（目標３）
第12回	学外での規範意識（目標３）
第13回	規範意識「江戸しぐさ」から（目標３）
第14回	人間の「夢中」と「感動」（目標１・２）
第15回	将来の「自分の生き方やあり方」小論文（目標１・２・３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2~15回予習 各回のテーマ（葛藤、価値観、マナー・江戸しぐさ等）について調べる。「○○とは」「内容や関連事項」について書籍やインターネットを活用して調べレポートにまとめる。
	復習	第1~15回復習 身近な事例と学修したことを比較したことをもとに，これからどのようなことが求められるのか，また自分自身はどのような行動をとっていけばよいのか，レポートにまとめる。レポートにはコメントを入れ返却する。
	展開	第１３回の例：日常の行動と「江戸しぐさ」のマナーを比較し討論（聴き合い活動）をする。それらを通し，マナーはなぜ人間社会にあるのか考えを深める。自分の行動を振り返り今後にどのようにしていきたいかに繋げる。
成績評価	評価の基準	1.人間それぞれの葛藤や幸せ，価値観があることを理解したか。 2.大学生活や目標に向かって自信を持とうとする力がついたか。 3.モラルやマナーについて学び，適確な判断力がついたか。
	評価の方法	レポート（ 60%） 意見文（ 30%） 聴き合い活動（ 10%） レポート及び小論文，振り返りカードにより評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	○自己や他者と対話することが大事である。グループ協議では，自分の考えを持ち，お互いの意見を認め合い，社会的な視野を広げていくことを期待する。 ○授業の進め方（個別→グループ活動→全体シェアリング→個別）	

人間と道徳

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS101
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間と道徳
科目責任者	石野　高弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0001005　水3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	豊かな心　価値理解　人間理解　よりよく共に生きる力　学びに向かう力
学生の到達目標	1.世界や日本の思想、文化に触れ、自己の感性を磨くことができる。 2.様々な道徳性について、考え議論し、自己の道徳性を高めることができる。 3.国際社会に生きる日本人として、より高い道徳性に基づき、行動しようとすることができる。
授業内容	第1回　建学の精神「心の豊かなたくましい人間」とは何か、授業の進め方等のガイダンス（目標３）

第2回	道徳と人間性について、人類の歴史やマズロー、フロイトなどから人間性を考え、人間として生きる喜びを知る（目標３）
第3回	古代ギリシア哲学とキリスト教・イスラム教の思想について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）
第4回	中国思想と儒家・道家、インド思想と仏教について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）
第5回	日本の伝統的な人間観・自然観と神仏習合について触れ、思いやりの心や自分たちの生活との関わり、自己の在り方生き方を考える。（目標１）
第6回	コールバーグの認知発達論から、ジレンマ資料をつかって考え議論し、道徳の発達段階を知る。（目標３）
第7回	社会主義と資本主義の原理を確認し、現代社会の問題から、望ましい共生社会の在り方を考える。（目標３）
第8回	望ましい生活習慣や礼儀作法について資料をとおして考え議論し、自己をみつめ、道徳性を高める（目標２）
第9回	法やきまりを守り社会で共に生きることについて資料をとおして考え議論し、自己を見つめ、道徳性を高める（目標２）
第10回	自分を見つめ個性を伸ばすことについて資料をとおして考え議論し、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめ道徳性を高める（目標２）
第11回	生命倫理について資料をとおして考え議論し、物事を多面的・多角的に考え、自己をみつめ道徳性を高める（目標２）
第12回	思いやりについての資料をとおして考え議論し、価値を理解し、物事を多面的・多角的に考え、自己を高める（目標２）
第13回	持続可能な社会を目指すためにどのような課題があるかを知り、自分自身の問題として考え議論し、どのようなことが大切か考える（目標２）
第14回	アサーショントレーニング、アンガーマネジメントの概要を知り、自己主張の仕方や自分の中に生じた怒りの対処法を学ぶ（目標３）
第15回	自分づくり、人生づくりについて、アメリカ型社会とヨーロッパ型社会の例をとり、自分自身の「豊かさ」について考え、自己の生きる方向を探る（目標３）

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回：本学の「建学の精神と理念」を熟読しておく。 第2回：自分の善いところ、悪いところを書き出しておく。 第3回：イスラム教の戒律を具体的に調べておく。 第4回：自分が葬式をあげるとしたらどんな宗教の葬式をあげるか調べておく。 第5回：自宅周辺の神社仏閣について、３か所の名称と何を祭っているかを調べておく。 第6回：ピアジェの発達理論を調べておく。 第7回：「ポピュリズム「と「保護主義経済」、トランプ米大統領の政策について調べておく。 第8回：自分の知っているマナー、作法について１０項目書き出しておく。 第9回：法律の体系について調べておく。 第10回：自分の長所、短所を書き出しておく。 第11回～13回：講義に関する内容について、ニュース等で問題を把握しておく。 上記以外：毎回、学習内容をお互いにシェアリングする時間を設けるので、事前に講義内容について研究し、自分自身で課題をもって講義に参加する。

	復習	第1回～第15回：①講義の概要②話し合いをした他の学生の意見や考え③話し合い後の自分の意見や考え等を講義終了後、ノートに毎回まとめる。
	展開	授業で得られた知識を踏まえて、教え合ったり、議論する時間を設けるので、自分自身の考えを持ち、議論をとおして自分自身の在り方生き方を考え、自己の道徳的実践力の向上を目指す。
成績評価	評価の基準	1.世界や日本の思想、文化の源流を学び、自己の感性を高めることができたか。 2.様々な道徳性について考え議論し、自己の在り方生き方を向上させることができたか。 3.国際社会に生きる人間として、よりよく生きようとする意欲をもつことができたか。
	評価の方法	講義を記録したノート　50% 期末試験　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は、基本的にプレゼンテーションの後に学生間の議論、発表を中心とする。 参考文献等は、その都度紹介する。	

哲学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS102
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	哲学入門
科目責任者	川口　由起子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0002105　後期　金3 A0002101　後期　金3
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 3 共生社会
授業のキーワード	知識、懐疑、真理、普遍、意味	
学生の到達目標	1.哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解する。 2.自分とは異なる考えに対する関心を広げる。 3.ひとつの問題について、いろいろな視点から考える訓練をする。	

授業内容	第1回	ガイダンス−哲学とはどのような学問か（目標1・2）
	第2回	真偽とはどのようなことをいうのか（目標1・3） 論理的思考、スマリヤンのパラドクス
	第3回	意味の議論（目標1） 思考、言語、世界と他者に向かう理解
	第4回	機能について（１）（目標1・2） 概念分析と理論的定義の役割
	第5回	機能について（２）（目標1・3） 見えないものについて語る方法
	第6回	情報とは（１）（目標1・2） 私たちにとって知識となるもの
	第7回	情報とは（２）（目標1・3） 情報の流れと因果関係
	第8回	表象を考える（１）（目標1・2） 表象とは何か
	第9回	表象を考える（２）（目標1・3） 志向性について
	第10回	目的について（１）（目標1・2） 何のため？目的に向かうための推論
	第11回	目的について（２）（目標1・3） 幸福はどのようにして追及されるか、
	第12回	自由という大問題（１）（目標1・2） なぜ自由が問題になるのか
	第13回	自由という大問題（２）（目標1・3） 自由意志と決定論
	第14回	道徳と「人生の意味」（目標1・2）
	第15回	まとめ　ここまでの振り返りと、哲学的概念分析における重要ポイントの確認（目標1・3）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回：哲学とはどのような学問か、これまでの自分の知識から考えてくる。哲学で扱われると思われる課題を、具体的に2つ以上挙げておく。 第2回：論理的思考で真偽の概念が果たす役割について、調べておく。 第3回：意味がなぜ哲学の問題になるのか、また、意味論と語用論がどのような学問的領域を指すか、調べておく。 第4回：概念分析の役割、理論的定義の必要性、および、形而上学とはどのような学問的領域を指すか、調べておく。 第5回：目に見えない抽象的な概念についてどのような議論が行われてきたか、少なくとも一人の哲学者のひとつの課題について、調べておく。 第6回：知識論の概要について、とくに、プラトンによる知識の条件の議論と、ゲティア問題について、誰がいつ頃どのような議論をしたか、調べておく。 第7回：因果関係がどのようなものか、また、相関関係とどう区別すべきか、調べておく。 第8回：表象について、どの哲学者がどのような議論をしていたか、調べておく。 第9回：指向性について、どの哲学者がどのような議論をしていたか、調べておく。 第10回：目的がなぜ哲学の問題となるのか、また、目的について、アリストテレスがどのような議論をしていたか、調べておく。 第11回：幸福がなぜ哲学の問題となるのか、また、幸福について、アリストテレスがどのような議論をしていたか、調べておく。 第12回：自由がなぜ哲学の問題となるのか、調べておく。

第13回：自由意志について、どのような哲学者がいつ頃どのような議論をしていたか、調べておく。
第14回：道徳的価値について、どのような哲学者がいつ頃どのような議論をしていたか、調べておく。
第15回：第1～14回の議論のポイントと考察のまとめを再度見直しておくこと。疑問点と不明な専門用語があれば調べておくこと。

復習　第1回：哲学で扱われると思われる課題を2つ以上提示し、議論のポイントをまとめる。
第2回：論理的思考で真偽の概念が果たす役割についてまとめ、主要な議論を提示した哲学者の主張を要約する。
第3回：意味がなぜ哲学の問題になるのか、また、意味論と語用論がどのような学問的領域を指すか、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第4回：概念分析の役割、理論的定義の必要性、および、形而上学とはどのような学問的領域を指すか、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第5回：目に見えない抽象的な概念についてどのような議論が行われてきたか、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第6回：知識論の概要について、とくに、プラトンによる知識の条件の議論と、ゲティア問題について、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第7回：因果関係がどのようなものか、また、相関関係とどう区別すべきか、自分の言葉で要約し、それぞれの例を1つ以上書く。
第8回：表象について、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第9回：指向性について、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第10回：目的がなぜ哲学の問題となるのか、また、目的について、アリストテレスがどのような議論をしていたか、文献を参考に要約する。
第11回：幸福がなぜ哲学の問題となるのか、また、幸福について、アリストテレスがどのような議論をしていたか、文献を参考に要約する。
第12回：自由がなぜ哲学の問題となるのか、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。他者危害原理について箇条書きでまとめる。
第13回：自由意志について、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。合理性と責任の問題との関連を箇条書きでまとめる。
第14回：道徳的価値について、主要な議論を提示した哲学者の主張とともに、要約する。
第15回：第1～14回の議論のポイントと考察のまとめを再度見直し、哲学的な議論の重要ポイントをまとめておくこと。

展開　授業中に紹介する参考文献を読み、自身の主張を組み立てて書いてください。提出後は添削して返却します。

成績評価

評価の基準
1.哲学の領域で問題になってきたトピックについて理解できること。
2.自分とは異なる考えに関心を持てるようになること。
3.ひとつの問題について、いろいろな視点から考え、文章で適切に表現できるようになること。

評価の方法　平常点（授業への参加、発言、レジュメ作成等）-５０％
小レポート-５０％

教科書

書籍名	哲学入門 (ちくま新書)
著者名	戸田山 和久
出版社	筑摩書房
価格	1080円

	ISBN・ISSN	448006768X

推薦図書等	書籍名	哲学思考トレーニング (ちくま新書 (545))
	著者名	伊勢田 哲治
	出版社	筑摩書房
	価格	929円
	ISBN・ISSN	4480062459
	書籍名	心の哲学入門
	著者名	金杉 武司
	出版社	勁草書房
	価格	2,160 円
	ISBN・ISSN	432615392X
	書籍名	哲学入門 (ちくま学芸文庫)
	著者名	バートランド ラッセル(原著), 高村 夏輝 (翻訳)
	出版社	筑摩書房
	価格	1,080円
	ISBN・ISSN	4480089047

参考URL	
備考	問題をより身近なものとして考えるため、授業中に発言を求めたり、小問題の記述などの作業を行ってもらうことがあります。受講にあたって特別な知識は必要ありませんが、哲学に対する関心がないと参加は難しいと思いますので、履修に際しては自分自身と相談してください。 質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付けます。オフィスアワーに来訪できない場合は、個別に電子メールで相談してください。電子メールアドレスは研究室の入り口に掲示します。

心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0004001　前期　月5 A0004005　前期　月5
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	人間理解，心の特質と限界，客観的見方
学生の到達目標	1.心理学を身近なものであると感じられる。 2.心の様々な働きを理解する。 3.意識的にはコントロールが困難な行動を理解する。
授業内容	第1回　心理学とは,心理学の歴史と領域。心理学の歴史や領域を学びながら,心理学・心理学研究について概観する。(目標1)

第2回	進化から見た人間。比較行動学や進化心理学に基づいて,系統発生的に見た人間の心理を理解する。(目標1)
第3回	心の生理的基礎,中枢神経系。心の土台となる生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)について知る。(目標1,2)
第4回	感覚と知覚。感覚刺激の受容の仕組みや知覚がどのように形成されるのかを理解する。(目標1,2,3)
第5回	姿勢と運動。姿勢と運動が成立する仕組みを知り,心とどのように関連しているかを理解する。(目標1,2,3)
第6回	意識・感情。意識や感情のメカニズムを理解し,行動や認知との関連を解明する。(目標1,2,3)
第7回	イメージの世界。イメージがどのように認知や心的状態に影響するかについて学ぶ。(目標1,2,3)
第8回	学習。学習行動の種類やメカニズムを理解することで,望ましい学習の仕方について考える。(目標1,2,3)
第9回	記憶。記憶の生理学的基礎や種類を理解し,日常生活に現れる記憶の不思議に迫る。(目標1,2,3)
第10回	認知・思考。まわりの世界に対する認知がどのように形成されるか理解し,思考との関連を考える。(目標1,2,3)
第11回	発達,発達理論。人間の発達に対する考え方を見ながら,乳幼児期から老年期までの発達を概観する。(目標1,2,3)
第12回	社会(社会的認知,人間関係,集団力動)。社会や人間関係に対する認知のあり方や行動の傾向について学ぶ。(目標1,2,3)
第13回	個人差と性格,性格理論。個人差がどのように形成されるのか理解し,様々な性格理論を概観し,自分の性格を客観的に見ることができるようにする。(目標1,2,3)
第14回	自己制御(失敗,嗜癖)。いかに人間が自分の行動を制御するのかについて理解し,自己制御がうまくいかない場合の対処について考える。(目標1,2,3)
第15回	適応と病理。日常生活に見られる適応の仕方を理解するとともに,適応障害や精神病理についての理解を深める。(目標1,2,3)

予習・復習の内容 (毎回180分程度)	予習	第１回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価などについて理解しておくこと。さらに心理学の歴史や研究方法について調べておくこと。 第２回比較行動学や進化心理学について調べておくこと。 第３回心の生理的基礎や中枢神経系について調べておくこと。 第４回感覚刺激の受容や知覚の形成について調べておくこと。 第５回姿勢と運動の仕組み、心との関連について調べておくこと。 第６回意識・感情のメカニズムや認知・行動との関連について調べておくこと。 第７回イメージの認知や心の状態への影響について調べておくこと。 第８回学習行動の種類やメカニズムについて調べておくこと。 第９回記憶の生理学的基礎や日常的な記憶現象について調べておくこと。 第10回認知の形成や思考との関連について調べておくこと。 第11回人間発達に関する理論や発達の概要について調べておくこと。 第12回社会・人間関係に関する認知について調べておくこと。 第13回知能や性格に対する理論や個人差について調べておくこと。 第14回自己制御の仕組みや失敗について調べておくこと。 第15回日常生活での適応や適応障害・精神病理について調べておくこと。
	復習	

		第１回心理学の歴史や研究方法についてポイントや考察をまとめておくこと。 第２回比較行動学や進化心理学についてポイントや考察をまとめておくこと。 第３回心の生理的基礎や中枢神経系についてポイントや考察をまとめておくこと。 第４回感覚刺激の受容や知覚の形成についてポイントや考察をまとめておくこと。 第５回姿勢と運動の仕組み、心との関連についてポイントや考察をまとめておくこと。 第６回意識・感情のメカニズムや認知・行動との関連についてポイントや考察をまとめておくこと。 第７回イメージの認知や心の状態への影響についてポイントや考察をまとめておくこと。 第８回学習行動の種類やメカニズムについてポイントや考察をまとめておくこと。 第９回記憶の生理学的基礎や日常的な記憶現象についてポイントや考察をまとめておくこと。 第10回認知の形成や思考との関連についてポイントや考察をまとめておくこと。 第11回人間発達に関する理論や発達の概要についてポイントや考察をまとめておくこと。 第12回社会・人間関係に関する認知についてポイントや考察をまとめておくこと。 第13回知能や性格に対する理論や個人差についてポイントや考察をまとめておくこと。 第14回自己制御の仕組みや失敗についてポイントや考察をまとめておくこと。 第15回日常生活での適応や適応障害・精神病理についてポイントや考察をまとめておくこと。
	展開	日ごろの心の働きを意識し、自分の知りたいテーマの本を読み、さらに理解を深めていく。
成績評価	評価の基準	1)心理学に関する基礎的な知識について理解し、自分の考えを的確に表現できること。 2)身近な心理的問題について理解し、自分の考えを的確に表現できること。 3)意識的にはコントロールできない行動について理解し、自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	授業への参加態度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	重要であると指摘した事項の復習を行うこと。 日頃，心理学に関する本を読むこと。	

教育学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS105
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育学入門
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0005101　前期　火4 A0005105　前期　火4
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	人間の成長・発達，学校教育，家庭教育，地域・社会教育
学生の到達目標	本科目は、人間の成長・発達に必要不可欠なものとして教育をとらえた上で，学校教育のみに限定することなく、様々な視点から「教育」について学ぶことを目的としている。 1．「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理について理解する。 2．教育を社会事象としてとらえ、家庭・学校・地域社会の役割・機能に関する基礎知識を習得できるようになる。 3．日本の教育の現況と教育課題についての理解を深めるとともに,データや資料に基づいて,自らの考えをまとめることができるようになる。

授業内容	第1回	導入講義：授業の目的・ねらい、授業の進め方、課題および時間外を含めた学修方法、評価方法、グループ・ワーク等についての説明をする。（目標1・2・3）
	第2回	少子高齢社会と教育：教育を考える上での基礎データを読む。(目標3)
	第3回	人間の成長・発達と教育:「ヒトは教育によって人になる」といわれるが，なぜ人間には教育が必要なのかを学ぶ。(目標1)
	第4回	教育の場としての「家庭」:(1)教育基本法第10条の理解とともに、家庭教育の意義とは何かを考える。(目標2)
	第5回	教育の場としての「家庭」:(2)子どもの社会化に果たす役割とは何か。(目標2)
	第6回	教育の場としての「学校」:(1)初等・中等教育の役割と機能は何か。(目標2)
	第7回	教育の場としての「学校」:(2)高等教育の役割と機能は何か(目標2)
	第8回	教育の場としての「地域・社会」:(1)なぜ地域の教育力は低下したか。(目標2)
	第9回	教育の場としての「地域・社会」:(2)学校教育との効果的な連携を学ぶ。(目標2)
	第10回	教育とジェンダー:隠れたカリキュラム,役割取得と社会化とは何か。(目標2)
	第11回	保育とジェンダー:保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か。(目標２)
	第12回	教育政策の動向:法令の改正と学習指導要領の改訂の流れを学ぶ。(目標3)
	第13回	現代日本の教育課題:(1)教育の病理(体罰,不登校,いじめ,逸脱）G発表①(目標3)
	第14回	現代日本の教育課題:(2)多文化共生と教育　G発表②(目標3)
	第15回	現代日本の教育課題：(3)「確かな学力」の形成と国際調査の動向 G発表③（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	・事前に指定されたテキスト「コラム12」を読み、その内容と私見をまとめて提出できるように準備をする。併せて、現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについても理解をしておきたい。(第2－14回) ・事前配布の次回授業レジュメに目をとおして授業に臨む。(第2－14回) ・グループによるプレゼンテーションの準備を計画的に進める。（G発表第13・14・15回）
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめて、授業時に紹介のあった文献等にあたってみる。 ・発表に関する評価及び講評についてグループで共有する。（G発表第13・14・15回）
	展開	教育の諸課題をデータを用いながら整理し、グループで協働し発表することをとおして、全体の理解を深める。
成績評価	評価の基準	目標1～3に示した教育に関わる基礎的内容が，正しく理解できていることを基準とする。 1．「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理について理解できたか。 2．教育を社会事象としてとらえ、家庭・学校・地域社会の役割・機能に関する基礎知識を習得できたか。 3．日本の教育の現況と教育課題についての理解を深めるとともに,データや資料に基づいて,自らの考えをまとめることができるようになったか。

	評価の方法	授業への取り組み（グループ・ワークへの取組みと発言・発表）、提出物等（30%）＋定期試験（ 70%点）の成績等を総合して評価する。

教科書	書籍名	『教育の基礎と展開－豊かな教育・保育を目指して－』
	著者名	高野良子・武内清編著
	出版社	学文社
	価格	2000円＋税（2016年4月刊行予定）
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7620-2624-9　C3037

推薦図書等	書籍名	『教育学用語辞典』 2010年
	著者名	岩内亮一他
	出版社	学文社
	価格	2625円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4762020759
	書籍名	『少子社会の子育て力』　2013年
	著者名	高野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7620-2376-7

参考URL	文部科学省HP　http://www.mext.go.jp/
備考	・自覚的・主体的・能動的な受講が望まれる。 ・講義形式で進めるが、アクティブ・ラーニングの視点からの授業運営に配慮し、双方向・参加型授業につとめる。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

文学の世界

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS106
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	文学の世界
科目責任者	河村　真奈
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0006101　前期　月5 A0006105　前期　月5
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	日本文学　海外文学
学生の到達目標	1．講義で取り上げる日本・海外の代表的な文学史・作家・作品についての基礎的知識を習得する。 2．指定された作品を読み、十分に内容を理解できるようになること。 3．指定された作品・作家に関して自分の意見をまとめられるようになること。

授業内容	第1回	講義のガイダンス／日本文学①文学史概要：近代文学の成立（目標１）
	第2回	日本文学②1900年代：夏目漱石（目標１・２・３）
	第3回	日本文学③1980年代：村上春樹（目標１・２・３）
	第4回	日本文学④1990年代：よしもとばなな（目標１・２・３）
	第5回	日本文学⑤2000年代：小川洋子（目標１・２・３）
	第6回	イギリス文学①英米文学史概要（英語圏における近代文学の成立）／18～19世紀：シャーロット・ブロンテ（目標１・２・３）
	第7回	イギリス文学②18～19世紀：ジェーン・オースティン（目標１・２・３）
	第8回	イギリス文学③20世紀初頭：Ｊ・Ｒ・Ｒ・トールキン（目標１・２・３）
	第9回	イギリス文学④20世紀：カズオ・イシグロ（目標１・２・３）
	第10回	アメリカ文学①19世紀：ハーマン・メルヴィル（目標１・２・３）
	第11回	アメリカ文学②20世紀：Ｆ・スコット・フィッツジェラルド（目標１・２・３）
	第12回	アメリカ文学③20世紀：Ｊ・Ｄ・サリンジャー（目標１・２・３）
	第13回	アメリカ文学④20世紀：トルーマン・カポーティ（目標１・２・３）
	第14回	フランス文学①19世紀：ヴィクトル・ユーゴー（目標１・２・３）
	第15回	フランス文学②20世紀：サン＝テグジュペリ（目標２・３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回（共通）指定された作品についてなるべく目を通し、作家についても調べておく。
	復習	第1回～第15回（共通）講義の内容及び、自分の意見・感想・疑問点などをまとめる。
	展開	授業内で紹介された作品から選び、学期末レポートを作成することで、自分の考えをまとめ、表現することを学ぶ。
成績評価	評価の基準	１．文学史の基礎知識を理解していること。 ２．指定された作品への理解度。 ３．指定された作品を読み、自分の意見をまとめられていること。
	評価の方法	授業への貢献度（30%）、授業中に課す小レポートもしくは意見発表（30%）、学期末レポート（40%）という配分で評価。総合評価60%以上で合格とする。ただしこの比率は変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前に指定された作品を読み、授業内で発表、もしくは講義の後に感想文を書く形式とする（履修人数により変更する）。 第1回の授業で、取り上げる作品のリストを配布する。 また、授業内で必要な参考文献等、プリントで随時配布する。	

音楽の世界

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS107
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	音楽の世界
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0007101　後期　月2 A0007105　後期　月2
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 3 共生社会
授業のキーワード	創造力，音楽，コミュニケーション能力	
学生の到達目標	1．多くのジャンルの音楽に対して興味が広がる 2．他の学生の発表曲に対して関心を示し,発表に対する独自の見解が持てるようになる 3．音楽に関する対話型コミュニケーション能力が身につく	

授業内容	第1回	導入:異なるジャンルの何曲かの作品を聴き,各々の曲から受けた印象,各々の曲が与える効果についての討論(目標1,3)
	第2回	神々の時代の音楽の役割(目標1,3)
	第3回	音楽療法の起源(目標1,3)
	第4回	古代・中世の音楽の役割(目標1,3)
	第5回	キリスト教と音楽(目標1,3)
	第6回	ルネッサンス時代と音楽(目標1,3)
	第7回	バロック時代と音楽(目標1,3)
	第8回	オスペダーレ(養育院)での音楽教育(目標1,3)
	第9回	古典派の時代(目標1,3)
	第10回	ロマン派の時代(目標1,3)
	第11回	近世と音楽(目標1,3)
	第12回	明治期の洋楽移入の状況と明治以降の唱歌について(目標1,3)
	第13回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3)
	第14回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3)
	第15回	学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	神々の時代から現代までの音楽に関して、音楽史にそって話を進めていく。第2回から12回までは、授業の内容に示されている世界史の大きな流れが頭に入っていると音楽史との関連を楽しく受講できるので、高校時代に使用した世界史の教科書等を毎回読んで,再確認しておいて欲しい。
	復習	第1回から12回までは、音楽史に沿って話を進めながら毎回数曲の作品を部分的に鑑賞する。毎回の講義の中で関心が持てた曲、事柄、人物に関して、音楽辞典、授業の際に提示したその他の文献で調べ直したり、授業中に鑑賞した作品等の全体を図書館で再度鑑賞する事で興味の幅を広げて欲しい。
	展開	授業で鑑賞した楽曲および学生の発表曲に関心を持ち、さらに多くのジャンルの音楽に興味を広げて欲しい。
成績評価	評価の基準	1．多くのジャンルの音楽に対して興味が広がること 2．他の学生の発表曲に対して関心を持ち、発表に対する自らの見解をもてること 3．音楽に関する対話型コミュニケーション能力が高まること
	評価の方法	発表内容 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	教会カンタータの成立と展開ーバロック音楽の諸相
	著者名	川端眞由美共著
	出版社	アカデミア・ミュージック
	価格	5000円
	ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ４－８７０１７－０６３－９
	書籍名	モーツァルトを歌うためのベルカント唱法
	著者名	Ｈ．クライン著　川端眞由美訳
	出版社	シンフォニア

価格	2400円
ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ４－８８３９５－１８９－８

書籍名	ベルカント唱法　　技法と発展の歴史
著者名	Ｒ．チェレッティ著　川端眞由美訳
出版社	シンフォニア
価格	3500円
ISBN・ISSN	－

参考URL	
備考	様々のジャンルの音楽に沢山触れて，音楽に関心を持ってほしい。 学生各自にとって最もリラックスできる音楽について全員の前で発表し，鑑賞・討論をするので，問題意識をもった受講を望む。 ※推薦図書の「ベルカント唱法ー技法と発展の歴史」は図書館に寄贈されています。

歴史学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS108
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	歴史学
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0008001　前期　木3 A0008005　前期　木3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	ローマ帝国　ポエニ戦争　五賢帝時代　キリスト教　民族大移動
学生の到達目標	1．歴史的な事実が我々の日常生活に大きなかかわりを持っていることを知る。 2．教養としてローマ史の知識を修得する。 3．ヨーロッパの成立について理解する。
授業内容	第1回　導入：ローマとは何か（目標1） 第2回　王政時代（目標1,2）

	第3回	共和政時代（１）ローマ台頭以前の地中海世界（目標1,2）
	第4回	共和政時代（２）イタリアの統一（目標1,2）
	第5回	共和政時代（３）ポエニ戦争（目標1,2）
	第6回	共和政時代（４）共和政の危機（目標1,2）
	第7回	共和政時代（５）カエサルの登場（目標1,2）
	第8回	帝政前期（１）五賢帝時代（目標1,2）
	第9回	帝政前期（２）ローマの平和（目標1,2）
	第10回	帝政前期（３）五賢帝時代（目標1,2）
	第11回	帝政前期（４）３世紀の危機（目標1,2）
	第12回	帝政後期（１）キリスト教の成立と公認（目標1,2,3）
	第13回	帝政後期（２）ゲルマン民族の大移動（目標1,2,3）
	第14回	帝政後期（３）帝国の東西分割（目標1,2,3）
	第15回	帝政後期（４）西ローマ帝国の滅亡（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回~第１５回（共通）シラバスで指示した教科書の該当部分を熟読した上で講義に臨むこと。
	復習	第１回~第１５回（共通）各自が作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認すること。
	展開	講義を受けて興味をもった地域や時代に関して、読書やメディアを通じて好奇心を深めて欲しい。
成績評価	評価の基準	１．歴史的な事実が我々の日常生活に大きなかかわりを持っていることを知ったかを評価する。 ２．教養としてローマ史の知識を修得できたかを評価する。 ３．ヨーロッパの成立について理解したかを評価する。
	評価の方法	レポート（文章作成）100%。こちらが指定するテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	はじめて読む人のローマ史1200年（祥伝社新書）
	著者名	本村凌二
	出版社	祥伝社
	価格	840円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-396-11366-7
推薦図書等		
参考URL		
備考	※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書も行う。毎回、資料プリントを配布する予定。 ＤＶＤなどの視覚教材も使用する予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。 質問などは講義において教室で受け付ける。	

法学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS101
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	法学入門
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0009101　前期　水3 A0009105　前期　水3
教室	講義室3
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	秩序，強制，正義
学生の到達目標	1.法と社会のかかわりと法の特性について理解する。 2.憲法の意義とその特徴を知る。 3.身分や財産に係るルールと犯罪の構成要件等の基礎知識を理解する。

授業内容	第1回	社会の中における種々のルール(目標1)
	第2回	法というものの特質とその目的(目標1)
	第3回	債権物権という権利とその内容(目標1)
	第4回	裁判における争いの中味の内容(目標1)
	第5回	時、人、場所に係る法の効力(目標1)
	第6回	国家三権である立法、行政、司法の権能(目標2)
	第7回	憲法における国民主権、平和主義、基本的人権の保障という基本原理(目標2)
	第8回	刑法で守られる利益と刑罰の種類(目標3)
	第9回	法律の設置が前提となる犯罪の発生(目標3)
	第10回	婚姻や離婚の成立(目標3)
	第11回	子どもの種類、助け合いの義務、想像の要件等(目標3)
	第12回	人格の自由、所有権の自由、契約の自由、過失責任の原則という財産法の基本原則(目標3)
	第13回	権利の主体となる自然人と法人及びその権利の対象となる事柄(目標3)
	第14回	国家の作用から立法と司法を除いた作用の内容（行政法）(目標1,2)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　法の語意と法発生の歴史について調査すること。 第２回～１４回（共通）　次回のテーマの内容について予習すること。 予習の段階で疑義不明がある点があれば次回の講義の時にその旨申し出ること。
	復習	第１回～第１４回（共通）　講義中で念を押している内容については特に留意すること。
	展開	新聞記事を読み，社会現象と法のかかわりについて関心をもつこと。
成績評価	評価の基準	１．法の事柄についてその理由もしくは根拠に関する理解度。 ２．司法の権能である具体的争いの処理について、その争いの内容についての関心度。
	評価の方法	平常点（小テスト）30%，期末筆記試験70%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS102
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0010001　前期　水4 A0010002　前期　木4 A0010005　前期　水4
教室	大講義室
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	国家，国民，教育
学生の到達目標	1.日本国憲法の成立過程とその背景を知る。 2.日本国憲法の構成と三大原則を中心とした内容を理解する。 3.日本国憲法の改正に関する問題点を解明する。

授業内容	第1回	憲法の法律上の意味(目標1,3)
	第2回	世界における憲法の形式（成文と不文）と共通する特徴(目標1,2)
	第3回	日本国憲法は前文と本文とで構成されいる(目標2)
	第4回	日本国憲法における基本原理の意味(目標2,3)
	第5回	日本国憲法の第１の基本原理、国民主権の理念(目標2,3)
	第6回	日本国憲法の第２の基本原理、平和主義の内容とくに第９条の解釈(目標2,3)
	第7回	日本国憲法の第３の基本原理、基本的人権の保障の内容(目標2,3)
	第8回	国権である三権の中の立法と国会の関連(目標2)
	第9回	国権である三権の中の行政と内閣の関連(目標2)
	第10回	国権である三権の中の司法と裁判所の関連(目標2)
	第11回	国が作用する財政についての原則(目標2)
	第12回	地方自治の必要と自治のための二大原則(目標2)
	第13回	憲法が変る要因について(目標3)
	第14回	国内における主な憲法に係る裁判例(目標3)
	第15回	日本国憲法の要点をまとめる(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　「憲法」の語意について調べること及び憲法に係る情報を常に把握しておくこと。 第２回～１４回（共通）　次回テーマについて予習し、その段階で疑義、不明がある点について次回の講義で申し出ること。
	復習	第１回～１４回（共通）　講義中において念を押している内容については特に留意すること。
	展開	事後，新聞やテレビ等で報道される憲法の件について，関心をもって対応すること。
成績評価	評価の基準	1.日本国憲法の作成に係る過程とその背景の理解度。 2.日本国憲法における国家三権の権能と憲法三大基本原理の理解度。 3.憲法が変わる原因とその特性を知る。
	評価の方法	期末試験１００％。
教科書	書籍名	憲法要論
	著者名	林明博，石田光義著
	出版社	敬文堂
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	4-7670-0110-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書：参考資料として作成したレジュメを使用。 （第１回の講義日に配布する）	

政治学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS103
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	政治学
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0011001　前期　木2 A0011005　前期　木2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	民主主義　選挙　政党　議院内閣制　地方自治
学生の到達目標	1．政治学に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できるようにする。 2．日本の政治制度の仕組みとその課題を学修する。 3．日本の政治社会に対して問題関心をもてるようにする。
授業内容	第1回　導入：政治学とは何か(目標1) 第2回　総論：民主主義とは何か(目標1)

	第3回	総論：日本の政治のしくみ(目標1,2)
	第4回	各論：日本の選挙制度(目標1,2,3)
	第5回	各論：一票の格差問題(目標1,2,3)
	第6回	各論：衆議院と参議院(目標1,2)
	第7回	各論：派閥と政党(目標1,2,3)
	第8回	各論：日本の内閣制度(目標1,2)
	第9回	総論：大統領制と内閣制(目標1)
	第10回	各論：日本の官僚制度(目標1,2,3)
	第11回	総論：日本国憲法(目標1,2)
	第12回	各論：日本の裁判制度(目標1,2)
	第13回	各論：日本の地方自治制度(目標1,2,3)
	第14回	各論：日本の社会保障制度(目標1,2,3)
	第15回	総まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　新聞やテレビにおける報道に関心をもつようにしておく。第２回～第１５回（共通）前もって指示した教科書の該当部分を熟読した上で講義に臨むこと。
	復習	第１回～第１５回（共通）各自作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認すること。
	展開	講義を受けることで理解できた知識を生かして、テレビや新聞のニュースに関心を向けるようにし、さらなる読書も進めて欲しい。
成績評価	評価の基準	１．政治学に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できるようになったかを評価する。 ２．日本の政治制度の仕組みとその課題を学修できたかを評価する。 ３．日本の政治社会に対して問題関心をもてるようになったかを評価する。
	評価の方法	レポート（文章作成）100%。こちらが指定するテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	政治のことよくわからないまま社会人になった人へ
	著者名	池上彰
	出版社	海竜社
	価格	1,600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7593-1364-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書も行う。適時，資料プリントを配付する予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。 質問などは講義において教室で受け付ける。	

経済学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	経済学入門
科目責任者	小柏　喜久夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0012101　前期　月2 A0012105　前期　月2
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	価格，市場，リスク，情報，インセンティブ
学生の到達目標	1．経済学の基礎概念を理解し,経済学の考え方を習得する。 2．ビジネスの世界で現実に起きている諸問題を,経済学の手法を使って考察する力を養う。

授業内容	第1回	ガイダンス:経済学とは(目標1)
	第2回	経済学の考え方(目標1)
	第3回	ビジネス・エコノミクスの世界(目標1)
	第4回	価格戦略(目標1,2)
	第5回	価格から見えるビジネスの構造(目標2)
	第6回	市場メカニズム(目標1)
	第7回	エイジェンシー理論(目標1,2)
	第8回	「ゲーム」としてのビジネス(目標1,2)
	第9回	競争戦略(目標2)
	第10回	技術革新(目標2)
	第11回	新事業の創造(目標2)
	第12回	事業再構築(目標2)
	第13回	M&A(目標2)
	第14回	国境を越えるビジネス活動(目標2)
	第15回	変わり続けるビジネス環境(目標1)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　経済とは何かについて考え方を持って授業に臨むこと 第２回～第１５回（共通）　次回テーマと主な内容についての予告に従って，準備した上で臨むこと
	復習	第１回～第１５回（共通）　毎回の授業において，配付資料の内容を確認し，保管すること。また，個別に指摘された事項について，知識を身につけるように努めること。
	展開	紹介された参考文献等を手にし問題意識を深めるように努めること。
成績評価	評価の基準	１．経済学の基礎概念を理解していること，経済学の考え方を習得していること。 ２．現実の諸問題を経済学の手法をもって解読できること，を合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験60%と平常点（レポート・小テスト）40%による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS105
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会学入門
科目責任者	石川　千穂
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0013101　前期　水2 A0013105　前期　水2
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	社会、科学、近代、リスク社会
学生の到達目標	1. 「社会」や「近代」の歴史や条件を認識できる。 2. 「社会」や「近代」の延長線上に自分自身を捉えられる。 3. 他の学生との意見を交換するなかで互いに自身の理解を深められる。
授業内容	第1回　「イントロダクション」(目標２) 講師の行なっている研究をとおして社会学を紹介する。また、この講義全体の流れについて説明する。

第2回	「社会学とは①（「社会」とは）」(目標２) 私たちが日頃「社会」という言葉をどのように用いているかについて、ディスカッションを交えた考察を通して「社会」の条件を知る。
第3回	「社会学とは②（「科学」とは）」(目標１) 社会学が誕生する条件としての近代について、世界史の復習を兼ねて説明していく。
第4回	「社会学とは③（「社会科学」とは）」(目標１) 前回までの内容を踏まえ、「社会」を「科学」するとはどういう営みになるのかについて考察する。
第5回	「社会学の偉人①」(目標１、２) 「社会を科学する」具体例としてエミール・デュルケムの『自殺論』を概説する。
第6回	「社会学の偉人②」(目標１、２) マックス・ウェーバーの研究から、「意図せざる結果」など、現代社会を捉える上でも重要な概念を学ぶ。
第7回	「社会学の偉人③」(目標１、２) ゲオルク・ジンメルの研究から、社会という私たちの営みの不思議さを感じる。
第8回	「「社会」を物語る映画」(目標２) ある社会のありようを切り取った映画を鑑賞する。その映画にみる社会の考察は期末試験の問いの一つとする。
第9回	「リスク社会論①」(目標１) ウルリッヒ・ベックのリスク社会論で展開される歴史認識について確認する。
第10回	「リスク社会論②」(目標１、２) リスク社会である後期近代社会がどのような問題を抱えているのかを理解する。
第11回	「リスク社会論③」(目標２) 前回で説明したリスク社会の問題に私たちはどう向き合うべきかベックの考えを紹介する。
第12回	「リスク社会総論④」(目標２) 現在の日本でリスクと向き合うとはいかなることか具体例を示しながら考察していく。
第13回	「「社会」を「問う」①」(目標３) 「リスク社会」の問題を自ら切りとり考察する。各自持ち寄った新聞記事やデータをもとにグループディスカッションする。
第14回	「「社会」を「問う」②」(目標３) 前回のディスカッションの結果をまとめ発表する。
第15回	「まとめと復習」(目標３) 期末試験に向けて、これまでの議論をまとめ、質疑応答を交えて復習する。

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回～15回(共通）：講義テーマを事前に確認しておくこと。講義テーマについて、自分の知っていること・関心・疑問を言葉にしておくこと。
	復習	第1回～15回(共通）：授業内容をノートを見ながら確認し，疑問点や不明な点を言葉にしておくこと。授業内で提示する問いに対して、自分の言葉で答えられるようにしておくこと。
	展開	それぞれの抱える問題を、科学的知見や芸術作品に触れることで、より社会的に位置付けてみる。

成績評価	評価の基準	１．授業で説明した概念を理解しているか。 ２．３．社会学という学問の特色を自分なりに説明出来るか。

	評価の方法	13、14回のグループディスカッションに資料を持参し参加すること（やむを得ず出席出来ない場合は資料を事前に提出すること）→10点 期末筆記試験→90点 合計60点以上の得点があること
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	危険社会―新しい近代への道
	著者名	ウルリッヒ・ベック
	出版社	叢書・ウニベルシタス
	価格	5,250円
	ISBN・ISSN	4588006098
	書籍名	ジンメル・つながりの哲学
	著者名	菅野仁志
	出版社	NHKブックス
	価格	970円＋税
	ISBN・ISSN	4140019689
参考URL	関東社会学会機関誌バックナンバー 〈http://kantohsociologicalsociety.jp/annual_report/index.html.〉	
備考	参加人数によってはグループワークや発表の機会をつくれない場合があります。 授業外における教員との連絡方法については講義の最初でお伝えします。	

基礎物理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS102
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	基礎物理学
科目責任者	貫井　正納
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0014101　前期　火1 A0014105　前期　火1
教室	講義室12,基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	運動，　力，　エネルギー，　実験，　観察
学生の到達目標	（1）中学校理科の物理分野および高等学校で学習した物理学の基礎的な知識を確実に習得をする。 （2）現在の高度な科学技術時代に適応できる、幅広い知識と技能および柔軟な思考を育成する。 （3）科学の発達の歴史を振り返り,これからの科学,科学技術と社会生活のあり方を考える。

授業内容	第1回	1．物理学とは。 （目標1,2,3）
	第2回	２．計る（目標1,2,3）
	第3回	3．波の性質と働き ①色々な波　②波の要素 波の独立性　波固有の性質（目標1,2,3）
	第4回	(1) 波の働き　①波の性質　②干渉と回折 ホイヘンスの定理を用いて波の基本的な性質を解析する。（目標1,2,3）
	第5回	(2) 音波 もっとも身近な存在である音について現象を解析する。（目標1,2,3）
	第6回	(3) 光波の働き　光 光の現象を可視光線および不可視光線について学習する。（目標1,2,3）
	第7回	４．運動とエネルギー （1）運動　物体の運動と力の話 力とは何か、運動とは何かを日常の現象からその規則性を導き出す。(目標1,2,3)
	第8回	（２）速度と速さ　速度、運動量。ベクトルについて運動の規則性を導き出すための諸要素を学習する。(目標1,2,3)
	第9回	（３）モーメント 力の平衡とモーメント自然界ではバランスがとれるように物体が動いている。その法則性について学習する。(目標1,2)
	第10回	実験　加速度、力、質量の関係を調べる 簡単な装置をを使い、運動の測定実験を行う。(目標1,2,3)
	第11回	5．電流と電圧 電流の本質:電気とは、流れる電気と静電気 電気とは何か、流れる電気と流れない電気（目標1,2,3)
	第12回	（１）電流回路 電流の流れ方と抵抗　物体に電気が流れるとき、電流、抵抗、電圧の間に簡単な関係式が成り立つ。(目標1,2)
	第13回	（２）磁石の不思議 磁石は現在色々な分野で利用されている。磁石の働きと、磁石の本質について振り返ってみる。(目標1,2,3)
	第14回	（３）電流と磁石の秘密 電流と磁石は密接な関係を持っている。科学史を参照しその発展をみる。(目標1,2,3)
	第15回	実験　電流と抵抗および電圧の関係を調べる。 簡単な器具を使いオームの法則および分圧、直列、、並列の回路における電流を測定する。(目標1,3)

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回～第15回（共通） 中学校および高等学校の教科書を開き物理学に関する内容を今一度よく読んで、その内容を理解しておく。 物理学に関わる用語について新聞、テレビ、ネットなどから積極的に収集しておく。 物理学の発展に寄与した科学者の業績や科学史についてしらべてみる。 寺田寅彦の全集が図書館にある。必読の書である。 科学と技術および社会に与える影響について広く考えるようにする。
	復習	第1回～第15回（共通） 授業内容について、日常生活での利用の実態を考える。 物理学は非常に論理的であり、その考え方は物事の解決に有効である。実際に試行してみる事を勧める。

		物理学の表現は数式を使うことが多い。数式を使うことは暗記物ではない。必ず理屈がついている。ただ当てはめて計算するだけでなく、その理由をよく考えてするように。
	展開	簡単な実験を行い、なぜそのような現象が見られるのかを説明および学生との討議を基に授業を展開する。 簡単な器具や自作の道具を使い実験を行い、証拠に基づいた判断をするように指導する。 簡単な観察や実験でも自然の仕組みを解明することが可能であることに気づき、実験の楽しさを実感する。
成績評価	評価の基準	１．授業で説明した自然科学の基礎的な内容を日常生活の中で発見できる。 ２．物理学が自然科学のの中で基礎的な内容構成をしていることに興味を持っていたり、簡単な道具を作るその原理を説明できる。 ３．観察、実験が自然を探究していく大きな役割を持っていることを実践で示すことができる。 その他に、観察、実験の安全指導を理解し適切な行動がとれる。
	評価の方法	実験レポート，期末試験 70%，学習内容に対する関心の向上 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 自作のプリントを配布する。参考書はその都度紹介する。 学習指導要領解説　理科編　平成 20年発行	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・科学の発達の歴史を振り返り，これからの社会のあり方を考える。 ・観察，実験は随時行う。実験用のノート，グラフ用紙、プリント用のファイルを用意する。	

基礎化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS103
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	基礎化学
科目責任者	岡野　茂
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0015101　前期　木2 A0015105　前期　木2
教室	講義室14,基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	化学の基本概念，化学の基礎的な原理・法則，物質の性質と反応性
学生の到達目標	1　化学の基本概念を理解する 2　化学の基礎的な原理・法則を理解する 3　物質の性質や反応性を化学実験を通して理解し、専門科目の学習への基礎力を身につける
授業内容	第1回　導入、原子・分子・イオンと原子構造(電子配置,周期表)（目標1） 第2回　化学結合、原子量、分子量、物質量等（目標1）

	第3回	物質量と化学反応式(化学変化と量的関係等)（目標2,3）
	第4回	溶液の性質(溶解度,濃度,希薄溶液の性質等)(目標1,2)
	第5回	酸・塩基・塩(電離,[H+]とpH,中和反応と塩等)(目標1,2)
	第6回	酸・塩基・塩(中和の量的関係,中和滴定とpHの変化等)(目標2,3)
	第7回	酸化・還元反応(酸化と還元,酸化剤と還元剤等)(目標1,２)
	第8回	酸化・還元反応(酸化剤・還元剤の強さ,金属のイオン化傾向と反応性等)(目標3)
	第9回	電池(各種電池の原理と仕組み等)(目標2,3)
	第10回	電気分解(水溶液の電気分解と量的関係等)(目標2,3)
	第11回	有機化合物の特徴と分類(構造と分類,炭化水素等)(目標1,2)
	第12回	酸素を含む脂肪族化合物等(アルコール,アルデヒド)(目標3)
	第13回	酸素を含む脂肪族化合物等(カルボン酸とエステル)(目標3)
	第14回	油脂と洗剤,芳香族炭化水素等(目標3,4)
	第15回	酸素や窒素を含む芳香族化合物,まとめ等(目標3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）予告した授業内容について，教科書を参照するなどして，準備した上で授業に臨む。
	復習	第１回～１５回（共通）配布の授業資料及び教科書を参照して，演習プリントを完成させ，学習内容における基本概念や基礎的な原理・法則の理解に努める。
	展開	１．身の回りの物質や化学的現象に関心を持って，化学的見方・考え方ができるよう努める。 ２．物質の性質や化学的現象を既習事項と関連付けて，理解をより一層深める。
成績評価	評価の基準	１．身の回りの物質や化学的現象に関心を持って，化学の基本概念を理解し身に付けようとしている。 ２．化学の基礎的な原理・法則を概ね理解している。 ３．観察や実験などを通して，物質の性質や反応性を探究的に理解する態度が概ね身に付いている。
	評価の方法	１．取組状況20%（授業や演習プリントへの取組） ２．内容の理解と定着60%（期末試験） ３．探求的な理解20%（課題や実験レポート，小テスト） ※評価割合（%）は若干の変更が在り得る。
教科書	書籍名	高等学校「化学」
	著者名	山内　薫　ほか
	出版社	第一学習社
	価格	1085円
	ISBN・ISSN	978-4-8040-0638-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	高校の教科書「化学基礎」等を読んでおく。自作の講義・実験用プリント等を用いるので、綴じるA4版ファイルを用意するとよい。	

基礎生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	基礎生物学
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0016101　木1
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養
カリキュラムポリシー	1 徳育・教養

授業のキーワード　細胞，代謝，DNA，環境，多様性

学生の到達目標

1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。
2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。
3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できるようになる。

授業内容

第1回	代謝とエネルギー(目標1,2,3)
第2回	ヒトの体とエネルギーの関係(目標1,2,3)

第3回	糖の種類と性質(目標1,2,3)
第4回	糖からエネルギーを得るしくみ(目標1,2,3)
第5回	脂質の輸送と代謝(目標1,2,3)
第6回	脂質の輸送と代謝(目標1,2,3)
第7回	ビタミンとミネラルの働き(目標1,2,3)
第8回	細胞の構造と機能(目標1,2,3)
第9回	DNAの構造と働き(目標1,2,3)
第10回	DNAからタンパク質へ(目標1,2,3)
第11回	タンパク質の働き(目標1,2,3)
第12回	細胞内外の情報伝達(目標1,2,3)
第13回	細胞分裂のしくみと制御(目標1,2,3)
第14回	発生と分化(目標1,2,3)
第15回	細胞のストレス応答機構(目標1,2,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと 第2回　ヒトの体とエネルギーの関係について調べておくこと 第3回　糖の種類と性質について調べておくこと 第4回　糖からエネルギーを得るしくみについて調べておくこと 第5回　脂質の輸送と代謝について調べておくこと 第6回　脂質の輸送と代謝について調べておくこと 第7回　ビタミンとミネラルの働きについて調べておくこと 第8回　細胞の構造と機能について調べておくこと 第9回　DNAの構造と働きについて調べておくこと 第10回　DNAからタンパク質へについて調べておくこと 第11回　タンパク質の働きについて調べておくこと 第12回　細胞内外の情報伝達について調べておくこと 第13回　細胞分裂のしくみと制御について調べておくこと 第14回　発生と分化について調べておくこと 第15回 細胞のストレス応答機構について調べておくこと
	復習	第1回　代謝とエネルギーについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第2回　ヒトの体とエネルギーの関係についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第3回　糖の種類と性質についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第4回　糖からエネルギーを得るしくみについてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第5回　脂質の輸送と代謝についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第6回　脂質の輸送と代謝についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第7回　ビタミンとミネラルの働きについてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第8回　細胞の構造と機能についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第9回　DNAの構造と働きについてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第10回　DNAからタンパク質へについてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第11回　タンパク質の働きについてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第12回　細胞内外の情報伝達についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第13回　細胞分裂のしくみと制御についてについてのノートを見

		返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第14回　発生と分化についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること 第15回 細胞のストレス応答機構についてについてのノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図ること
	展開	生き物や生命現象についての基本的な知識を習得すると共に、日常生活との関連について気づくことができる。
成績評価	評価の基準	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得すること。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができること。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できること。
	評価の方法	筆記試験（70%），平常点（10%），ポートフォリオ・レポート等（20%）の総合評価とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生物学に基礎について，日常生活との関係から理解し，それに基づいて判断できるような資質の獲得を目指す。また，関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり，自分なりの生命観を持てるようになる。 授業は基本的に前半が講義で、後半が観察・実験になります。観察･実験に伴い、レポート等の提出を求めます。 収容可能人数は実験室に収容可能な40人 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。	

基礎生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	基礎生物学
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0016105　月2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　1 徳育・教養

カリキュラムポリシー　1 徳育・教養

授業のキーワード

細胞，タンパク質，代謝，DNA

学生の到達目標

1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。
2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。
3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できるようになる。

授業内容

第1回　生物学とはどのような学問か(目標1,2,3)

第2回　生物の基本的性質(目標1,2,3)

第3回	生物の階層性(目標1,2,3)
第4回	細胞の大きさと構造と内部構造(目標1,2,3)
第5回	細胞骨格と細胞分裂(目標1,2,3)
第6回	水の重要性・アミノ酸とタンパク質(目標1,2,3)
第7回	核酸と糖質(目標1,2,3)
第8回	脂質と生体内の微量成分(目標1,2,3)
第9回	酵素の働きと性質(目標1,2,3)
第10回	グルコースからのエネルギーの獲得(目標1,2,3)
第11回	その他の栄養素とエネルギー(目標1,2,3)
第12回	遺伝子の本体としてのDNA(目標1,2,3)
第13回	翻訳とタンパク質の行方(目標1,2,3)
第14回	DNA の複製と突然変異(目標1,2,3)
第15回	エネルギーはどのように獲得されるか(目標1,2,3)

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと 第2回　生物の基本的性質についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第3回　生物の階層性についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第4回　細胞の大きさと構造と内部構造についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第5回　細胞骨格と細胞分裂についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第6回　水の重要性・アミノ酸とタンパク質についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第7回　核酸と糖質についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第8回　脂質と生体内の微量成分についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第9回　酵素の働きと性質についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第10回　グルコースからのエネルギーの獲得についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第11回　その他の栄養素とエネルギーについての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第12回　遺伝子の本体としてのDNAについての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第13回　翻訳とタンパク質の行方についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第14回　DNA の複製と突然変異についての教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う 第15回 エネルギーはどのように獲得についての教科書を読み，事

		前に学習内容のイメージを持つ。発表に当たった学生は、特に詳しく学修すると共に、プレゼンの準備を行う
	復習	第1回　生物学とはどのような学問についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第2回　生物の基本的性質についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第3回　生物の階層性についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第4回　細胞の大きさと構造と内部構造についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第5回　細胞骨格と細胞分裂についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第6回　水の重要性・アミノ酸とタンパク質についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第7回　核酸と糖質についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第8回　脂質と生体内の微量成分についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第9回　酵素の働きと性質についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第10回　グルコースからのエネルギーの獲得についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第11回　その他の栄養素とエネルギーについての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第12回　遺伝子の本体としてのDNAについての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第13回　翻訳とタンパク質の行方についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第14回　DNA の複製と突然変異についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること 第15回 エネルギーはどのように獲得についての学習内容の定着を図ると共に、該当範囲のテスト問題を作成すること
	展開	第4回から学生が順番に先生役を勤め、他の学生に内容を分かりやすく伝える。
成績評価	評価の基準	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得すること。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができること。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できること。
	評価の方法	筆記試験（45%），発表（45%），ポートフォリオ・レポート等（10%）の総合とする。
教科書	書籍名	ヒトを理解するための生物学
	著者名	八杉貞雄
	出版社	裳華房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		授業は講義のみ。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

統計学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS105
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	統計学入門
科目責任者	岡田　聡志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0017101　後期　木2 A0017105　後期　木2
教室	PC室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	記述統計，確率分布，推測統計
学生の到達目標	1.データの要約として，種々の基本統計量を算出して，提示することができる。 2.データの特徴に合わせて適切な分析手法を適用し，分析結果を提示・解釈することができる。 3.統計リテラシーを身に付け，提示されたデータを批判的に解釈することができる。

授業内容	第1回	イントロダクション：　統計学は最強の学問である？（目標3）
	第2回	データの種類（目標1）
	第3回	データの記述：度数分布表と統計グラフ（目標1）
	第4回	分布の記述（1）：中心傾向の特性値（目標1）
	第5回	分布の記述（2）：分散と標準偏差（目標1）
	第6回	中間まとめと理解度の確認①（目標1）
	第7回	2変量間の関連：相関と因果（目標2）
	第8回	量的な2変量間の関連（目標2）
	第9回	質的な2変量間の関連（目標2）
	第10回	質・量2変量間の関連（目標2）
	第11回	中間まとめと理解度の確認②（目標2）
	第12回	確率論と確率分布（目標2）
	第13回	統計学手法の実際の利用方法について（1）（目標3）
	第14回	統計学手法の実際の利用方法について（2）（目標3）
	第15回	まとめ：データを批判的に解釈する（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	データを用いている自分の専門の文献（論文等）を検索し，データの使われ方を確認しておく。
	復習	ExcelやR等で，授業時のデータを再計算し，内容を再確認するとともに，ソフトウェアの使用の仕方に慣れる。
	展開	3変量以上の場合にはどのような統計処理が必要になるか，文献等を用いて，調べる。
成績評価	評価の基準	データの基礎的な統計処理の理解度とそれを他の場面で適用できること。
	評価の方法	授業内での課題提出及び確認テスト50%，期末試験50%
教科書	書籍名	統計学入門
	著者名	東京大学教養学部統計学教室
	出版社	東京大学出版会
	価格	2,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-13-042065-5
推薦図書等	書籍名	完全独習　統計学入門
	著者名	小島寛之
	出版社	ダイヤモンド社
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	9784478820094
	書籍名	入門統計学：検定から多変量解析・実験計画法まで
	著者名	栗原伸一

出版社	オーム社
価格	2,400円＋税
ISBN・ISSN	9784274068553

参考URL

備考

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS106
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0018001　前期　金1 A0018005　前期　金1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	自己理解，他者理解，よい人間関係，性格と感情
学生の到達目標	1.様々な人間関係のあり方について理解する。 2.様々な組織における人間関係の特徴を理解する。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,解決法を身につける。
授業内容	第1回　自己を理解する。自己概念とは。自己のとらえ方を学び,自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。(目標1,2)

第2回	性格と自己理解。性格の違いによって,自己の理解がどう変化するかを見る。(目標1)
第3回	自尊心と自己防衛。健全な自己形成や人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割を理解する。(目標1)
第4回	自己開示の心理。自己開示の意味を考え,心の健康にとってよりよい自己開示の仕方を考える。(目標1)
第5回	対人認知,印象と理性的判断,対人認知の歪み。人の行動の理解の仕方を学び,対人認知の歪みの危険性について理解する。(目標1,3)
第6回	対人感情 好き嫌いの心理。人に対する好き嫌いの感情がどのように形成されるのかについて学び,妥当な評価とは何かについて理解する。(目標1,2)
第7回	対人行動,異性とのつきあい。異性との関係において起こる特徴的な心理や行動を理解し,健全な関係について考える。(目標1,3)
第8回	学校における人間関係。生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴について理解し,学校における望ましい人間関係について考える。(目標2,3)
第9回	家族における人間関係。家族や地域社会における人間関係の特徴について理解し,よりよい家族や地域のあり方について考える。(目標2,3)
第10回	職場における人間関係。会社などの職場での人間関係の特徴について理解する。(目標2,3)
第11回	共感と社会的結合。人間関係における共感や思いやりの重要性について学ぶ。(目標1,3)
第12回	援助行動。援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理について理解し,よりよい援助のあり方について考える。(目標1,3)
第13回	感情のコントロールと人間関係 対人関係のトラブル。人間関係でのトラブルが起きる要因について理解し,トラブルの克服の仕方について考える。(目標3)
第14回	人間関係を円滑にする方法。悪化した人間関係を分析し,人間関係を円滑にする要因について考える。説得の技術を学ぶ。(目標1,3)
第15回	難しい人とのつきあい方。性格の偏りや人格障害について理解し,非社会的行動や反社会的行動への対処方法を考える。(目標1,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。さらに自己概念が人間関係に及ぼす影響について調べておくこと。 第２回性格の違いによる自己理解の変化について調べておくこと。 第３回人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割について調べておくこと。 第４回自己開示の意味と心の健康との関連について調べておくこと。 第５回対人認知（印象と理性的判断）とその歪みの危険性について調べておくこと。 第６回人に対する好き嫌いの感情の形成について調べておくこと。 第７回異性との関係において起こる特徴的な心理や行動について調べておくこと。 第８回生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴について調べておくこと。 第９回家族や地域社会における人間関係の特徴について調べておくこと。 第10回会社などの職場での人間関係の特徴について調べておくこと。 第11回人間関係における共感や思いやりの重要性について調べておくこと。 第12回援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理について調べておくこと。

		第13回人間関係でのトラブルが起きる要因やその克服の仕方について調べておくこと。 第14回悪化した人間関係や人間関係を円滑にする要因について調べておくこと。 第15回非社会的行動や反社会的行動への対処方法について調べておくこと。
	復習	第１回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。さらに自己概念が人間関係に及ぼす影響についてポイントおよび考察をまとめておくこと。。 第２回性格の違いによる自己理解の変化についてポイントおよび考察をまとめておくこと。。 第３回人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第４回自己開示の意味と心の健康との関連についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第５回対人認知（印象と理性的判断）とその歪みの危険性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第６回人に対する好き嫌いの感情の形成についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第７回異性との関係において起こる特徴的な心理や行動についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第８回生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第９回家族や地域社会における人間関係の特徴についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第10回会社などの職場での人間関係の特徴についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第11回人間関係における共感や思いやりの重要性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第12回援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第13回人間関係でのトラブルが起きる要因やその克服の仕方についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第14回悪化した人間関係や人間関係を円滑にする要因についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第15回非社会的行動や反社会的行動への対処方法についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
	展開	学んだことと実際の自分の人間関係を比較しながら、さらに学びたいことについて本を探して読み、理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.様々な人間関係のあり方について理解し、自分の考えを的確に表現できること。 2.様々な組織における人間関係の特徴を理解し、自分の考えを的確に表現できること。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,解決法を的確に見つけ出せること。
	評価の方法	授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	重要な事項は復習すること。	

国際関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS107
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	国際関係論
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0019001　後期　木3 A0019005　後期　木3
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	地域紛争、民族紛争、東西冷戦、領土問題
学生の到達目標	1．東西冷戦の前後で世界がどのように変化したかを学び、国際情勢を巨視的に把握する。 2．主要な個別の紛争に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できるようにする。 3．国際社会において日本が置かれた状況に関して理解を深める。

授業内容	第1回	導入：国際関係論とは何か（目標1）
	第2回	総論：東西冷戦までの国際社会（目標1）
	第3回	総論：東西冷戦以後の国際社会（目標1）
	第4回	各論：アジアにおける紛争（１）中国（目標2）
	第5回	各論：アジアにおける紛争（２）アフガン（目標2）
	第6回	各論：中東紛争（１）中東戦争（目標2）
	第7回	各論：中東紛争（２）パレスチナの現在（目標2）
	第8回	各論：中東紛争（３）湾岸戦争～イラク戦争（目標2）
	第9回	各論：「９・11同時多発テロ」以後の世界（目標１）
	第10回	各論：「アラブの春」の発生と現在（目標2）
	第11回	各論：「イスラーム国」の出現と混乱（目標2）
	第12回	各論：アフリカにおける紛争（１）ルワンダ（目標2）
	第13回	各論：アフリカにおける紛争（２）ソマリア（目標2）
	第14回	各論：日本の領土問題（目標3）
	第15回	総論：日本を取り巻く現状（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第３回（共通）東西冷戦について可能な範囲で調べておくこと。 第４回～第１５回（共通）教科書の該当する部分を熟読した上で講義に臨むこと。 第１回～第１５回（共通）普段から新聞やテレビにおける報道に関心をもつことが望ましい。
	復習	第１回～第１５回（共通）各自作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認する。
	展開	講義を受ける以前よりも知識が充実しているはずだから、それを生かしてテレビや新聞のニュースに目を向けるようにし、さらなる読書も進めて欲しい。
成績評価	評価の基準	１．東西冷戦の前後で世界がどのように変化したかを学び、国際情勢を巨視的に把握できたかを評価する。 ２．主要な個別の紛争に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できたかを評価する。 ３．国際社会において日本が置かれた状況に関して理解が深まったかを評価する。
	評価の方法	レポート100%。指定されたテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	世界紛争地図（日経文庫）
	著者名	日本経済新聞社
	出版社	日本経済新聞出版社
	価格	860円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-532-11287-5
推薦図書等		

参考URL	
備考	※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書も行う。適時、資料プリントを配付する予定。 ＤＶＤなどの視覚教材も使用する予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。 質問は講義において教室で受け付ける。

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS101
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	吉武　光世
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020001　後期　火4 A0020005　後期　火4
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	心理学、対人関係、バーバルコミュニケーション、ノンバーバルコミュニケーション、認知・感情
学生の到達目標	1. コミュニケーションの基礎に関する概念、理論を学び、理解する（人間関係がどのように形成されているか、形成されていくかについて理解することができる）。 2.コミュニケーションの基礎を学び、具体的な対人関係の場面で、どのような行動を人間がとりやすいのか心理学の側面から理解できる。 3.教育や医療の専門職として、実際の対人関係場面でのコミュニケーションの有り様を理解できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方、評価などの説明）「コミュニケーションとは？」（目標1,2,3）
	第2回	コミュニケーションの基礎（心理学とコミュニケーションの関連）（目標1,2,3）
	第3回	心理学からみたコミュニケーション入門（目標1,2,3）
	第4回	外界とのコミュニケーション（外界の知覚や情報処理）（目標1,2,3）
	第5回	記憶とコミュニケーション①（目標1,2,3）
	第6回	記憶とコミュニケーション②（目標1,2,3）
	第7回	他者を知ることのしくみ（社会的認知とコミュニケーション）（目標1,2,3）
	第8回	他者の認知（目標1,2,3）
	第9回	人間関係のコミュニケーション（目標1,2,3）
	第10回	対人関係、集団の認知とコミュニケーション（目標1,2,3）
	第11回	感情とコミュニケーション（目標1,2,3）
	第12回	動機づけとコミュニケーション（目標1,2,3）
	第13回	相手を知る、自分を知るためのコミュニケーション（目標1,2,3）
	第14回	発達とコミュニケーション（目標1,2,3）
	第15回	心理学からみたコミュニケーションのまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	心理学の理論からコミュニケーションを考えられるように、心理学の入門書を読んでおく（1回から7回までの予習）。 心理学の観点から書かれたコミュニケーション理論やコミュニケーション技法に関する書籍を1冊以上読み、日常生活に心理学を応用する方法を考える(8回から15回）。
	復習	心理学の基礎や応用の各分野からとらえた多様なコミュニケーションの側面について、他者に説明する。 心理学を現実の対人コミュニケーション、集団コミュニケーションにどのようにいかすことができるかと言う点について自分自身の言葉で文章にまとめる。（1回から15回）
	展開	普段の生活において授業内で学んだコミュニケーション理論やスキルを活用し、自分自身の理解や他者理解に活用する(1回から15回）。
成績評価	評価の基準	人間行動について、心理学の基礎分野や応用分野（認知、感情、知覚、対人関係、臨床、パーソナリティ、発達）といった幅広い分野から、コミュニケーションというキーワードをもとに、理解し、説明することができるかどうかが最終的な到達点である。具体的には、コミュニケーションについて、心理学の基礎的な理論や用語を覚え、他者にわかりやすく説明できること。また、コミュニケーションに関する理論や技術を、日常生活の場面でどのように活用していくかという展望を持つことができること。心理学のコミュニケーションに関する用語の正しい理解、暗記、説明が可能になっていること。
	評価の方法	試験成績（80%）持ち込み可、課題提出状況および内容の質（10%）、授業への参加意欲や態度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	図解 自分の気持ちをきちんと「伝える」技術―人間関係がラクになる自己カウンセリングのすすめ
	著者名	平木典子

出版社	PHP研究所
価格	1,296円
ISBN・ISSN	978-4569691558

書籍名	図解 相手の気持ちをきちんと<聞く>技術
著者名	平木典子
出版社	PHP研究所
価格	1,296円
ISBN・ISSN	978-4569814889

書籍名	グラフィック心理学
著者名	北尾倫彦・中島　実・井上　毅・石王敦子
出版社	サイエンス社
価格	1800円
ISBN・ISSN	4-7819-0825

参考URL

備考

環境科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS102
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	環境科学
科目責任者	村上　正孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0021001　後期　木1 A0021005　後期　木1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 共生社会 カリキュラムポリシー　3 共生社会
授業のキーワード	公害，地球環境問題，環境保全，環境教育
学生の到達目標	1.環境問題は有限な環境資源（人間―環境系）に対する人間の過度な活動により発生することを学ぶ。 2.環境を汚染・破壊する者と被害者（健康影響、生態系、自然資源、インフラ、人間の活動など）との間に深刻な社会的対立を引き起こすことを学ぶ。 3.環境問題の解決には人類のモラルの向上と科学的知見に基づく政策の立案そして、法律、制度、組織の整備が必須であり、加えて環境教育の充実が重要であることを学ぶ。

授業内容	第1回	環境科学の定義、授業の進め方、評価等のガイダンス(目標1,2,3)
	第2回	地域レベルの環境問題：大気汚染：産業型公害(目標1,2,3)
	第3回	水質汚染：産業型公害(水俣病)(目標1,2,3)
	第4回	大気汚染:生活型公害(目標1,2,3)
	第5回	騒音公害:精神・心理的影響(目標1,2,3)
	第6回	わが国における公害対策の歴史(目標1,2,3)
	第7回	地球規模の環境問題(目標1,2,3)
	第8回	温暖化ガスによる地球温暖化とその影響(目標1,2,3)
	第9回	地球環境問題に対する国際的取組み(目標2,3)
	第10回	廃棄物問題と低炭素・循環型社会(目標1,3)
	第11回	3分間スピーチ:環境問題についての発表(目標3)
	第12回	グループ討議:環境問題について討議し発表する(目標3)
	第13回	スピーチと討議についての講師のコメント(目標3)
	第14回	環境教育(目標3)
	第15回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	前回の授業で配布される、今回の授業についての講義メモにしたがって自分の知識の確認と質問事項を整理しておくこと。
	復習	各授業終了後，その講義内容に対する自分の意見，疑問点，批判などをまとめてノートしておくこと。
	展開	11回目以降、復習のとき作成したノートにもとづき，各自、3分間スピーチ原稿を作成し発表する。グループ討議のテーマは各グループのメンバーが決め，実り多き討論となるように積極的な参加が期待される。各自の発表の仕方について指導する。最後に、環境問題についてのレポートを作成する。推敲した原稿を採点後返却する。
成績評価	評価の基準	１）環境問題の発生機序と環境保全の方法論を概論として理解できているか否かを評価する。 ２）環境問題をテーマとして、3分間スピーチ、討論そしてレポートを作成する。その内容および基本的な作法の能力について評価する。
	評価の方法	レポート50%，スピーチ・討論など授業への積極的参加度50%として採点する。
教科書	書籍名	シンプル衛生公衆衛生学
	著者名	鈴木庄亮，久道茂監修
	出版社	南江堂
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	978－4－524－25358－5
推薦図書等	書籍名	プランB　2.0－エコ・エコノミーをめざして
	著者名	レスター・ブラウン
	出版社	ワールドウオッチジャパン
	価格	2500円

ISBN・ISSN	4-948754-24－2

書籍名	環境白書　循環型社会白書/生物多様性白書
著者名	環境省編集
出版社	日経印刷
価格	2571円
ISBN・ISSN	978－4－905427－45－2

書籍名	論文の教室
著者名	戸田山和久
出版社	ＮＨＫ出版
価格	1120円
ISBN・ISSN	978－4－14－001954－2

参考URL	環境省ホームページ:政策分野一覧に最新の関連情報あり.年度毎の環境白書あり。 例、廃棄物・リサイクル対策→循環型社会・３R関連→国内の取組：３R行動見える化ツールなど.
備考	第11回以降，各受講者は３分間スピーチを行う。さらに５人ずつグループをつくり，司会者と書記を選んで環境にかかわるテーマを決め討議し発表する。議論により環境問題への理解を深め，今後の取り組みに役立てて欲しい。参加型の授業である。文章表現演習を履修することが望ましい。高等学校の教科目(現代社会、地理）の環境問題に関連する内容を復習しておくこと、受講者数は20人以上にならないこと。教官との連絡は教務経由のこと。

障害インクルージョン論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎科目
授業科目名	障害インクルージョン論
科目責任者	野澤　和弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0020101　後期　水4, 5 A0020105　後期　水4, 5
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 共生社会

授業のキーワード	障害児者とのコミュニケーション　権利擁護　行動障害　アート
学生の到達目標	1．発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2．虐待の実態を知り,なぜ虐待が起きるのかを知る。 3．アートなどに見る障害児者の魅力も知る。

授業内容	第1回	ドラマや映画に登場する障害者(目標1)
	第2回	福祉と社会の変遷と障害者虐待～現実から学ぶ（目標１）
	第3回	障害のある子や人の思いをどうやって受け止められるのか(目標１)
	第4回	発達障害とコミュニケーション（目標１）
	第5回	なぜ人は虐待するのか～虐待の構造(目標２)
	第6回	行動障害とは何か～原因と対処法（目標２）
	第7回	社会と障害者～働くこと、芸術活動など（目標３）
	第8回	アール・ブリュット～世界で注目される日本の障害者アート（目標３）
	第9回	障害者のための新聞「ステージ」(目標1)
	第10回	わかりやすさとは何か（目標１）
	第11回	童話を作ってみる（目標３）
	第12回	障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標２)
	第13回	障害者差別をなくすための千葉県条例～差別の本質(目標２)
	第14回	マスメディア論(目標１)
	第15回	総括(目標1)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	新聞，テレビ，本，映画などで障害者が出てくる出来事，物語，事件などに関心を持って接すること。自分の中で感想や疑問や意見を思い浮かべ考えること。
	復習	授業の中で出てきた事件，出来事，制度，社会の問題について自分でさらに図書館やパソコンで調べる。そういう癖をつけること。
	展開	グループで話し合って，障害者の支援のあり方，権利擁護などについて考えを深める。
成績評価	評価の基準	障害のある子や人のコミュニケーション特性，虐待の構造，権利擁護の基本知識と姿勢が理解できているかどうか。
	評価の方法	期末レポート３０%，授業ごとのレポート４０%，授業への取り組み30%，など。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	条例のある街
	著者名	野沢和弘
	出版社	ぶどう社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89240-187-9
	書籍名	なぜ人は虐待するのか
	著者名	野沢和弘
	出版社	Ｓプランニング
	価格	1,000円＋税
	ISBN・ISSN	－

参考URL	
備考	授業中の私語（おしゃべり）など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は履修しないでください。

スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR101
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	実技
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A0023001　前期　水1 A0023002　後期　水2
教室	体育館,グラウンド
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	ニュースポーツ，コミュニケーション・ワーク，レクリエーション・ワーク，インストラクター
学生の到達目標	1.レクリエーション活動の意義を理解する。 2.様々な活動を通して、活動すること自体の喜びを実際に体験・理解する。 3.他者への支援ができるようにする。

授業内容	第1回	オリエンテーション,アイスブレーキング①(目標1,2)
	第2回	アイスブレーキング②道具を用いたゲーム(目標1,2,3)
	第3回	アイスブレーキング③音楽を用いたゲーム(目標1,2)
	第4回	ニュースポーツ（インディアカ）(目標1,2)
	第5回	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(目標1,2)
	第6回	ニュースポーツ(ディスクゴルフ)(目標1,2)
	第7回	ニュースポーツ(アルティメット)(目標1,2)
	第8回	ニュースポーツ（ドッチビー）(目標1,2)
	第9回	ニュースポーツ（ペタンク）(目標1,2)
	第10回	ニュースポーツ(ユニバーサルホッケー）(目標1,2)
	第11回	ニュースポーツ(カローリング)(目標1,2)
	第12回	支援実習①（計画）(目標1,2,3)
	第13回	支援実習②（計画）(目標1,2,3)
	第14回	支援実習③（計画）(目標1,2,3)
	第15回	支援実習④（実演）(目標1,2,3)
	第16回	支援実習⑤（実演）(目標1,2,3)
	第17回	支援実習⑥（実演）(目標1,2,3)
	第18回	支援実習⑦（実演）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～3回　アイスブレーキングに用いられるレクリエーション材について調べてから授業に臨むこと。 第4回～11回　次回行うニュースポーツを詳しく調べて授業に臨むこと。 第12回～18回　　レクリエーションプログラムの計画方法について詳しく調べてから授業に臨むこと。
	復習	第1回～3回　授業で行われたレクリエーション材を振り返り、展開方法を書くこと。　第4回～11回　授業で行われたニュースポーツを振り返り、展開方法を書くこと。 第12回～18回　レクリエーションプログラムを計画すること。また、他の班の発表の実施方法、展開方法を書いておくこと。
	展開	スポーツ・レクリエーションの具体的な効果を調べ、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1．レクリエーション活動の意義を理解度を、筆記試験を用いて評価する。 2．様々な活動を通して、活動すること自体の喜びを実際に体験・理解しているかを、筆記試験を通して評価する。 3．他者への支援ができるかを、支援実習の計画、実演を通して評価する。
	評価の方法	発表（50～60%）、筆記試験（20～30%）、授業態度（10～20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	レクリエーション活動を行うので服装は体操服（ジャージ上下）を必ず着用すること。また、体育館と外で授業を行うが、どちらの場合も運動靴を必ず履くこと。その他、装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。

スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR102
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0024001　後期　水1 A0024005　後期　水1
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	レクリエーション支援、現代社会とレクリエーション、レクリエーション事業
学生の到達目標	1.レクリエーション活動の意義を理解する。 2.レクリエーション支援のための指導理論を理解する。 3.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を養う。

授業内容	第1回	オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①(目標1)
	第2回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②,これからのレクリエーション運動(目標1)
	第3回	レクリエーション支援の考え方(目標2)
	第4回	レクリエーション・インストラクターの役割(目標2)
	第5回	ライフスタイルとレクリエーション①(乳幼児期から青年期)(目標2,3)
	第6回	ライフスタイルとレクリエーション② (青年期から高齢期)(目標2,3)
	第7回	高齢社会の課題とレクリエーション(目標2,3)
	第8回	少子化の課題とレクリエーション(目標2,3)
	第9回	地域とレクリエーション(目標2,3)
	第10回	レクリエーション事業とは(目標2)
	第11回	事業の展開方法(目標2)
	第12回	事業計画Ⅰ(PDCAサイクルに基づく計画立案)(目標2)
	第13回	事業計画Ⅱ(計画立案と広報活動)(目標2)
	第14回	レクリエーション活動の安全管理(目標2)
	第15回	まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～4回　レクリエーションの概念について詳しく調べておくこと。 第5回～9回　各世代の発達課題について詳しく調べておくこと。 第10回～15回　レクリエーション事業の具体例を調べておくこと。
	復習	第1回～4回　自らのレクリエーションについて明確にし、書き出しておくこと。 第5回～9回　各世代に合わせたレクリエーションの展開方法について復習すること。 第10回～15回　レクリエーション事業の展開例を挙げ、自らの見解を書き出すこと。
	展開	目的に合ったレクリエーションプログラムを作れるように、各レクリエーション材の特徴と効果を調べ、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	１．レクリエーション活動の意義の理解度をテスト、ワークシートを用いて評価する。 ２．レクリエーション支援のための指導理論の理解度を、テスト、ワークシートを用いて評価する。 ３．対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を、テスト、ワークシートを用いて評価する。
	評価の方法	試験（60～70%）、ワークシート（20～30%）、授業態度（10～20%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

スポーツ健康科学基礎理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR103
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ健康科学基礎理論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0026101　後期　火1 A0026105　後期　火1
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 2 障害支援 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養 2 障害支援
授業のキーワード	体力、スポーツ健康科学、生涯スポーツ、障害者スポーツ
学生の到達目標	1.運動による身体への生理的影響を理解し、説明することができるようになる。 2.健康を維持ないし増進させるために適した身体活動の内容および体力を向上させるためのトレーニングの方法を理解し、実践することができるようになる。 3.運動技能の仕組みを理解し、説明することができるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション,健康に影響のある危険因子と運動(目標1,2)
	第2回	障害者とスポーツ(目標1,2)
	第3回	運動中のエネルギー代謝(目標1,2,3)
	第4回	運動と栄養(目標1,2)
	第5回	体力トレーニング(目標1,2,3)
	第6回	運動の発生と上達の仕組み(目標1,2,3)
	第7回	スポーツ医学(目標1,2)
	第8回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	シラバスの授業内容について事前に文献もしくはインターネットで調べてくること。特別に予習の内容がある場合は授業内で指示する。 第1回：シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、到達目標、授業の内容および評価について理解しておくこと。生活習慣病について調べておくこと。 第2回：障害者スポーツ（パラスポーツ）の実状について調べておくこと。 第3回：基礎代謝およびエネルギー代謝について調べておくこと。 第4回：自分の好きおよび嫌いな食べ物に多く含まれる栄養素について調べておくこと。 第5回：自分の実践しているもしくはよく聞くトレーニング方法について調べておくこと。 第6回：ヒトの運動は練習をするとなぜ上達するのか調べておくこと。 第7回：スポーツ傷害について調べ、予防および対処方法について調べておくこと。 第8回：1～7回までのポイントを再度読んで理解すること。
	復習	毎回の授業後の小テストを復習とする。また、以下の課題も復習の課題とする。 課題①：自分の肥満度と1日のエネルギー必要量を調べる 課題②：自分の1日のエネルギー消費量を計算する 課題③：障害者スポーツをすることによる生活の変化について調べる 課題④：食品のカロリーを調べ、自分の1日のエネルギー摂取量を計算する 課題⑤：自分の必要な1日の運動量を計算する 課題⑥：脳の構造と機能をまとめる 課題⑦：自分に最適な運動強度を計算する 課題⑧：授業の要旨をまとめる（テスト事前対策）
	展開	スポーツ科学・健康科学に関する最新の図書や研究成果、情報について主体的に調べて知識・理解を深める。将来の自分の健康・体力の維持増進に繋げる。
成績評価	評価の基準	1.運動による身体への生理的影響を理解し、説明することができる。 2.健康を維持ないし増進させるために適した身体活動の内容および体力を向上させるためのトレーニングの方法を理解し、実践することができる。 3.運動技能の仕組みを理解し、説明することができる。
	評価の方法	期末試験 80%、授業に対する意欲・受講態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	入門運動生理学
	著者名	勝田茂

出版社	杏林書院
価格	2484円
ISBN・ISSN	ISBN：4764411598

書籍名	運動生理学20講
著者名	勝田茂編著
出版社	朝倉書店
価格	3456円
ISBN・ISSN	ISBN：4254690460

参考URL	日本障がい者スポーツ協会：http://www.jsad.or.jp/ 栄養検定協会：http://4fgmethod.jp/
備考	連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。

体育（ソフトボール）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR104
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（ソフトボール）
科目責任者	西田　智
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0025101　木1
教室	グラウンド,Eスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	2020年東京五輪正式種目、生涯スポーツ、体力、基礎運動技能、コミュニケーションスキル
学生の到達目標	1.スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保することができる。 2.準備・片付け、ゲームの審判、ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。 3.生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標2)
	第2回	基本技能：キャッチボールと打撃の基本（ティーボール）（目標1,2,3）
	第3回	基本技能：ゴロ捕球と送球、打撃の基本（ティーボール）（目標1,2,3）
	第4回	ゲーム1：ティーボール（目標1,2,3）
	第5回	基本技能：フライの捕球と送球、投球（目標1,2,3）
	第6回	応用技能：ゴロフライの打ち分け、ダブルプレーを取るには？（目標1,2,3）
	第7回	ゲーム2：実践形式の守備練習（目標1,2,3）
	第8回	ゲーム3：ルールと戦術の理解（目標1,2,3）
	第9回	リーグ戦の企画と実践（目標2）
	第10回	チーム練習およびリーグ戦（1）（目標1,2,3）
	第11回	チーム練習およびリーグ戦（2）（目標1,2,3）
	第12回	チーム練習およびリーグ戦（3）（目標1,2,3）
	第13回	チーム練習およびリーグ戦（4）（目標1,2,3）
	第14回	スキルテスト（目標1）
	第15回	総括（目標2）
予習・復習の内容（毎回20分程度）	予習	第1回　ソフトボールは2020年東京オリンピックの正式種目として採択された。そこで，日本におけるソフトボールの歴史的な背景やこれまでの実績等について調べておくこと。 第2回～第14回　ソフトボールの基本的なルールについて予習をし,怪我なく運動ができるようコンディションを整えて授業に臨むこと。
	復習	第1回 チームメートの名前をしっかりと記憶しておくこと。 第2回～第15回 授業で学んだソフトボールの基本的な技能については，自主的に練習・ゲームなどをして身につけること。また，実際のソフトボールのゲームを見て，ソフトボールの技能・戦術について学習すること。
	展開	ソフトボールにおける基本動作を学習し，簡易的なゲームを通して技能としての定着を図りながら，ソフトボールの実施へと展開していく。
成績評価	評価の基準	１．授業への取り組み姿勢、レポートの出来から総合的に評価する ２．授業の円滑な運営に貢献しようとする動きや、チーム内における自分の役割を心得えた全体を見渡しながらの行動ができているかを中心に評価する ３．授業を通して運動技能の習得が見られたかどうかを評価する。 ※個々の伸び具合を評価する ※スキルテストの結果は評価に含めない
	評価の方法	実技への参加・受講態度・積極性 70%、準備の手伝いおよび片付けなどの協力・協調性 10%、運動技能 20%。ただし、この比率は若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	http://www.teeball.com/disciple/ http://www.softball.or.jp/index.html	

備考	ジャージ，Tシャツ，スポーツシューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため，1時限あたりの履修者数が48名以内であることが望ましい。したがって，履修希望者過多の場合には抽選を実施することがある。 第1回目は体育館に集合すること。更衣は不要であるが屋内用運動靴を持参すること。チーム分けをするので欠席しないこと。 天候不良の際には，体育館内で屋内競技などを行うので，屋内用運動靴も常に準備しておくこと。 不明な点があれば担当教員　西田(baros5521@yahoo.co.jp)まで。

体育（バドミントン）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR105
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（バドミントン）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0025201　金2
教室	体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	生涯スポーツ、体力、健康、基礎運動技能、コミュニケーション・スキル
学生の到達目標	1.スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保することができるようになる。 2.準備・片づけ、ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができるようになる。 3.生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標2)
	第2回	基本技術(1);ドライブ、クリア(目標1,2,3)
	第3回	基本技術(2);ドロップ、カット、ロビング(目標1,2,3)
	第4回	基本技術(3);スマッシュ、ロビング、ヘアピン、および半面コートでのシングルスゲーム(目標1,2,3)
	第5回	基本技術(4);プッシュ、サーブ、および半面コートでのシングルスゲーム(目標1,2,3)
	第6回	応用技術(1);オールロング、オールショート、およびトリプルス(目標1,2,3)
	第7回	総合練習およびトリプルスリーグ戦(目標1,2,3)
	第8回	応用技術(2);ダブルスの攻撃と守備(目標1,2,3)
	第9回	ルールと戦術の理解、ダブルスゲーム(目標1,2,3)
	第10回	ミックスダブルス(目標1,2,3)
	第11回	ダブルス・リーグ戦(1)(目標1,2,3)
	第12回	ダブルス・リーグ戦(2)(目標1,2,3)
	第13回	ダブルス・リーグ戦(3)(目標1,2,3)
	第14回	体力テスト(目標1)
	第15回	まとめ;授業の振り返りと生涯スポーツについて(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回：シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、到達目標、授業の内容および評価について理解しておくこと。 第2-8回：シラバスに記載されたバドミントンの基本および応用的な技能について調べておくこと。 第6-13回：トリプルス・ダブルスのルール・審判法を調べて理解すること。またゲーム中の動き・戦術について調べておくこと。 第14回：実践する体力テストの行い方について調べておくこと。 第15回：これまでの授業で行ったバドミントンの基本的な技能やゲームの行い方および動きを振り返っておくこと。 普段より健康・体力の維持増進を図り、運動のできるコンディションを整えること。
	復習	第1回：この授業で身につけたいことをまとめて個人の目標を設定しておくこと。 第2-8回：バドミントンの基本および応用的な技能について、練習しておくこと。 第6-13回：トリプルス・ダブルスのルール・審判法をまとめて理解しておくこと。またゲーム中の動き・戦術について、練習しておくこと。 第14回：体力テストの結果より自分の体力を把握し、今後のスポーツ活動をどのようにするべきか考え、実践すること（レポート課題）。 第15回：自主的に練習・ゲームなどをしてバドミントンを生涯スポーツとすること。
	展開	バドミントンの特性に触れ、自主的な練習・ゲームなども行って、積極的に親しむことで生涯スポーツに必要な基礎を作る。 バドミントンの基本的な技能やゲームの戦術については資料やインターネットなどで調べて理解し、修得すること。
成績評価	評価の基準	1.スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保することができる。 2.準備・片づけ、ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。

		3.生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。
	評価の方法	実技の受講態度・積極性 70%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%、運動技能 10%、レポート 10%。体力テストの結果に関しては，評価に含めない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	http://www.badminton.or.jp/	
備考	ジャージ、Tシャツ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため、１時限あたりの履修者数が 36名以内であることが望ましい。したがって、履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。 第１回目は、体育館に集合すること。更衣は不要であるが、屋内用運動靴を持参すること。 体力テストは、外部施設で実施する予定である。詳細は、第１回目のオリエンテーションで説明する。 連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。	

体育（テニス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR106
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（テニス）
科目責任者	田村　尚雄
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0040001　木2
教室	テニスコート,Eスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	生涯スポーツ，基本技術，コミュニケーション，グループ活動
学生の到達目標	1.安全に留意しながら実践力を養い，健康を保持増進する運動量を確保できるようになる。 2.準備から片付けまでを含む授業に自ら積極的に参加し，ルールやマナーを遵守しなら実践できるようになる。 3.グループ内でメンバーとコミュニケーションをとり，公正・協力・責任などの役割を果たし，お互いが教え合うことで基本技術の修得と向上，およびゲームができるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標２，３）
	第2回	テニス：ストローク，ボレー（目標１，２，３）
	第3回	テニス：サービス，スマッシュ（目標１，２，３）
	第4回	テニス：総合練習と簡易ゲーム（目標１，２，３）
	第5回	テニス：シングルスゲーム（目標１，２，３）
	第6回	テニス：ダブルスゲーム（目標１，２，３）
	第7回	テニス：団体戦（目標１，２，３）
	第8回	ソフトテニス：ストローク，ボレー（目標１，２，３）
	第9回	ソフトテニス：サービス，スマッシュ（目標１，２，３）
	第10回	ソフトテニス：総合練習と簡易ゲーム（目標１，２，３）
	第11回	ソフトテニス：ダブルスゲーム（目標１，２，３）
	第12回	ソフトテニス：団体戦（目標１，２，３）
	第13回	グループ別実習：テニス（目標１，２，３）
	第14回	グループ別実習：ソフトテニス（目標１，２，３）
	第15回	グループ別実習：テニス・ソフトテニス（目標１，２，３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第3回(共通)テニス・ソフトテニスのゲームの進め方やルール，用語について事前に調べて理解しておくこと。 第4回～第15回(共通)映像などでテニスプレーヤーの実技を観察し，イメージを持つこと。
	復習	第1回～第15回(共通)自分の自由時間でテニスを実践し，技術修得とボール感覚を養うことがのぞましい。
	展開	グループメンバーと協力してシングルスやダブルスのゲームにトライする。
成績評価	評価の基準	技術修得度ならびに授業への積極的参加態度と，達成目標への取り組み度を評価する。
	評価の方法	１．運動量の確保と実践度(25%)， ２．準備・片付けを含めた意欲・実践内容(25%) ３．基本技術修得実技(50%) この比率は，最終的に変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	屋外で90分間連続して運動することが可能であり，自ら実践する者が履修すること。 授業には，ジャージ・Ｔシャツ・スポーツシューズ（スパイクなし）を着用して参加すること。その他装飾品や爪などは運動に支障がないようにすること。自己所有のラケットの使用可。 安全確保のため，履修数は40名程度であることが望ましい。授業状況により，内容変更の可能性もある。 第1回授業から実技を実施します。雨天時でもテニスコートに集合すること。	

体育（弓道）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR107
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（弓道）
科目責任者	秋山　和意
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0041001　木2
教室	弓道場,講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	伝統文化と弓道作法、安全と環境整備、精神集中
学生の到達目標	1．事故防止の観点から、整理整頓、弓具点検などを徹底する。 2．基本動作、基本の技術を身につけて正鵠を射る。 3．自己の意志力、忍耐力、集中力を養う。
授業内容	第1回　授業説明　（弓道の理念とその学び方、危険防止策、道場での約束事、班編成など）（目標1,2,3） 第2回　弓道の概要とその扱い方（弓、矢、弦、弽、胸当など）（目標1,2）

第3回	実技基礎(1)　基本動作と弓道八節(徒手,ゴム弓を使用して)(目標1,2)
第4回	実技基礎(2)　基本動作と弓道八節(徒手,ゴム弓を使用して)(目標1,2)
第5回	実技基礎(3)　基本動作と弓道八節(弓を使っての素引きなど)(目標1,2)
第6回	実技基礎(4)　基本動作の確認、弓の扱い方、弽の使い方、矢の扱い方など(目標1,2)
第7回	的前行射(1)　矢道の中程からの行射(目標1,2)
第8回	的前行射(2)　矢道の中程からの行射(目標1,2)
第9回	的前行射(3)　矢道の中程からの行射(目標1,2)
第10回	的前行射(4)　正規の位置(28メートル）からの行射(目標1,2)
第11回	的前行射(5)　正規の位置(28メートル）からの行射と基本体(目標1,2)
第12回	的前行射(6)　正規の位置(28メートル）からの行射と基本体(目標1,2)
第13回	的前行射(7)　正規の位置(28メートル）からの座射による行射(目標1,2,3)
第14回	的前行射(8)　正規の位置(28メートル）からの座射による行射(目標1,2,3)
第15回	実技の総仕上げ　座射で一手行射を行う(体配,射形,射の運行など)(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回10分程度）	予習	第１回　ガイダンス 第２回～第１５回　授業資料（第１回授業配布プリント）を読み，課題について考える。(目標1,2,3)
	復習	第１回～１５回（共通）　授業体験をもとに課題等整理して弓道理解し身に着けるようにする。(目標1,2,3)
	展開	実技中心で行うが、弓道概論についても説明する。 （特に、雨天時は講義室で行う。）

成績評価	評価の基準	授業への積極的な参加態度，実技の到達度，授業前後の準備・整理状況などについての定着度。課題の体現。 目標１・・・第１～15回毎時間に行う 目標２・・・第１～15回毎時間に行う 目標３・・・第１、13、14、15回に行う
	評価の方法	学科試験，実技試験を評価評定により評価する。 学科試験40% 実技試験60%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	武道の礼法
	著者名	小笠原　清忠
	出版社	日本武道館
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4.583-10238-2
	書籍名	弓執る心
	著者名	今村鯉三郎

出版社	不昧堂出版
価格	2,500円
ISBN・ISSN	ISBN4-8293-0449-9 c3075

参考URL

備考

①授業は弓道場で行う。雨天の場合は講義室１２で弓道概論を学ぶ。
②授業服装は大学指定のジャージ，Tシャツ（ボタンのないもの），靴下（白足袋）スポーツシューズ
③指輪，ピアス不可。
④弓道未経験者でも可。
⑤経験者は自分の弓具を使用してよい。

体育（ダンス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR108
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（ダンス）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	実技
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0042001　火2
教室	Eスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	ダンス，表現，身体，動き創り	
学生の到達目標	1.リズム感を養い,身体で表現する楽しさを味わうこと。 2.他者と共に身体で表現し合うことの楽しさを分かちあえること。 3.他者の動きや表現の違いに気づき,さらに自分の表現を磨いていくこと。	

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1,2)
	第2回	リズムとダンス(目標1,2)
	第3回	身体の部位への意識(目標2,3)
	第4回	様々なジャンルのダンス① (目標1,3)
	第5回	様々なジャンルのダンス②(目標1,3)
	第6回	様々なジャンルのダンス③ (目標1,3)
	第7回	様々なジャンルのダンス④ (目標1,3)
	第8回	コミュニケーションを通したダンス(目標1,2,3)
	第9回	色々なモノを使ったダンス（目標1,2,3）
	第10回	単純な動きからダンスへ(目標2,3)
	第11回	ダンス鑑賞（目標3）
	第12回	即興ダンス（目標1,2,3）
	第13回	創作1（目標1,2,3）
	第14回	創作2（目標1,2,3）
	第15回	発表とまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回20分程度）	予習	第2回～15回　お風呂上がりに家でできるストレッチを行い，身体をほぐしておくこと。
	復習	第2回～15回　できなかったステップや動きなどは復習しておくこと。
	展開	ダンス鑑賞をしたり，スポーツクラブやダンススタジオでのクラスを受けたり日頃からダンスに対する興味を持って知識を深めておくこと。
成績評価	評価の基準	1.基本的なステップの習得及び身体の柔軟性があるか。 2.身体を動かすことや他者と関わる活動に積極性があるか。 3.自らの課題を見つけ，その課題解決のための意欲があるか。
	評価の方法	受講態度・提出物等の提出状況（60%） 発表・レポート（40%） 授業の最後にグループでの創作ダンス発表を行う。 授業毎にミニレポートを提出する。 定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	からだ一気づき学びの人間学一
	著者名	高橋和子著
	出版社	晃葉書房
	価格	3,200円
	ISBN・ISSN	978-4-7710-1530-2
参考URL		
備考	動きやすい服装（ジーパン・スカートは不可）と積極的な姿勢で参加すること。飲料水，タオルは各自用意しておくこと。筆記用具持参。	

体育（水泳）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR109
開講年度	2017年度
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（水泳）
科目責任者	下永田　修二
授業形態	実技
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0043001 ２限：6/17（ガイダンス）
教室	中講義室,千葉大学プール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養
授業のキーワード	水泳指導，水中安全，水の特性	
学生の到達目標	1.水泳競技の基本的な4泳法について,基礎的な知識技能を身につける。 2.水の特性を活かした水中での運動および水中安全に関しての基礎的な知識技能を身につける。 3.水泳の指導法について基礎的な知識を身につける。	

授業内容	第1回	実技内容,水辺での安全に関するガイダンス（目標2）
	第2回	水の特性についての理解(浮力,水圧,抵抗)（目標2）
	第3回	浮力を活かした水中で運動（目標2）
	第4回	基礎的な泳法の習得(クロール)（目標1）
	第5回	基礎的な泳法の習得(平泳ぎ)（目標1）
	第6回	基礎的な泳法の習得(背泳ぎ)（目標1）
	第7回	基礎的な泳法の習得(バタフライ)（目標1）
	第8回	各種泳法の指導法1(フィンを用いた水泳指導)（目標3）
	第9回	各種泳法の指導法2(スタート・ターンの指導)（目標3）
	第10回	水中での安全(着衣泳)（目標2）
	第11回	水中での安全(救助法)（目標2）
	第12回	水中での安全(救助法)（目標2）
	第13回	水中での様々な遊び(潜る・浮く運動)（目標2）
	第14回	水中での様々な遊び(ボールを使った運動)（目標2）
	第15回	水中運動および各種泳法に関する総まとめ（目標1）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第２回～１４回　水泳に関する書籍，映像等を事前に調査，確認し，事前学習を行う。
	復習	第１回～１５回　授業で実施した内容について，書籍，HP等も用いて，復習を行う。
	展開	水・水泳に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.水および水泳・水中運動に関する基礎的な内容を理解し，技能を身につけていること。 2.水中安全に関する内容を理解できていること。 3.授業の内容をもとに水泳指導に関する自らの考えをもち，説明ができること。
	評価の方法	平常点，提出レポート，期末の実技試験で評価する。平常点３０%，レポート１０%，期末実技試験６０%の成績を総合する。ただし，この比率は，最終的に若干変更可能性もある。
教科書	書籍名	浮いて待て！命を守る着衣泳
	著者名	斎藤　秀俊
	出版社	新潟日報事業社
	価格	2000
	ISBN・ISSN	978-4-86132-503-8　C3075
推薦図書等	書籍名	いきいき水泳指導と学習カード
	著者名	井上佳昭、田中敬二、平田和孝、渡辺光雄
	出版社	教育技術MOOK
	価格	1350円
	ISBN・ISSN	4-09-104855-2

参考URL	
備考	プールにおける実技であり，水着，キャップ，ゴーグル等が必要である。

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027001　前期　月2 A0027002　前期　月3 A0027003　前期　火3 A0027007　前期　火2
教室	講義室14 講義室12
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	英語の基礎学力向上，異文化理解，教養，総合的な英語の運用能力養成
学生の到達目標	1.基本的な英語を聞いたり読んだりして理解できる。 2.聞いた英語を正確に書きとることができる。 3.自分の考えを英語で話したり書いたりできる。

授業内容	第1回	Money! Money! Money!（目標1･2･3）
	第2回	Let's Eat!（目標1･2･3）
	第3回	Serving the Community（目標1･2･3）
	第4回	Talking about Japan（目標1･2･3）
	第5回	Human Cloning: Do We Need It?（目標1･2･3）
	第6回	Your Culture or Mine?（目標1･2･3）
	第7回	City Food from Field to Table（目標1･2･3）
	第8回	The Making of a Nobel Prize-winner（目標1･2･3）
	第9回	Walking for Health: Yours and the Earth's（目標1･2･3）
	第10回	Changing Lives（目標1･2･3）
	第11回	How Fast Can We Travel?（目標1･2･3）
	第12回	Medical care for the Whole Person（目標1･2･3）
	第13回	Looking for a Job?（目標1･2･3）
	第14回	Follow your Dreams（目標1･2･3）
	第15回	まとめ　重要な語彙とフレーズ及び内容についての確認（目標1･2･3） (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回の各々で，指定された問題について，実際に自分で考えた答えを書く。
	復習	第1回～第15回の各々で，正解しなかった問題について，もう一度，辞典等を活用して理解をはかる。
	展開	テーマに関連した事項について，自分なりの考えを書いて発表する。
成績評価	評価の基準	1.基本的な英語を聞いたり読んだりして理解できるか。 2.聞いた英語を正確に書きとることができるか。 3.自分の考えを英語で話したり書いたりできるかについて，それぞれ到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	第1回～第15回の各々について，期末試験（70%），授業中の活動（20%），課題等の提出物（10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名	『English Fast Lane：異文化理解のための総合英語』2007.
	著者名	金森強他
	出版社	成美堂
	価格	1 ,900円（税別）
	ISBN・ISSN	978 -4-7919-1037-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	発達教育学部及び保健医療学部は指定されたクラスで実施する。 レベルによって，多少内容は変わります。	

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027004　前期　月2 A0027005　前期　月3 A0027006　前期　火3
教室	講義室20 レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	リーディング，リスニング，ライティング，スピーキング
学生の到達目標	1.中学校や高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2.基礎的な英文を理解する力を養う。 3.基礎的な英語を聞き取る力を養う。

授業内容	第1回	授業の進め方について
	第2回	The Giant Leader of the African Plain(1)（目標1）
	第3回	The Giant Leader of the African Plain（2）（目標2,3）
	第4回	Thinkers of the Forest（1）（目標1）
	第5回	Thinkers of the Forest（2）（目標2,3）
	第6回	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks（1）（目標1）
	第7回	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks（2）（目標2,3）
	第8回	ここまでの復習
	第9回	The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross（1）（目標1）
	第10回	The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross（2）（目標2,3）
	第11回	The Tragedy of the Pure-Hearted Sea Animal（1）（目標1）
	第12回	The Tragedy of the Pure-Hearted Sea Animal（2）（目標2,3）
	第13回	Never Give Up! -A Polar Bear's Struggle for Life-（1）（目標1）
	第14回	Never Give Up! -A Polar Bear's Struggle for Life-（2）（目標2,3）
	第15回	The Heart-Warming Story of the Emperor Penguin Chicks（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	各回の授業で学んだ教科書の内容をもとに、自分で調べ、考える力を養う。基礎的な単語や文法を応用でも活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	1. 高校生レベルの単語力を身に着けること 2. 高校生レベルの基礎的な文法力を身に着けること 3. 上記1,2 をもとに教科書を辞書を引きながら読みとる力を身に着けること 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。

教科書

書籍名	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom
著者名	荒金房子　他
出版社	南雲堂
価格	2,484円
ISBN・ISSN	9784523178378

推薦図書等	
参考URL	
備考	授業には，必ず，英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027008　火2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	リーディング，リスニング，ライティング，スピーキング
学生の到達目標	1.中学校や高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2.基礎的な英文を理解する力を養う。 3.基礎的な英語を聞き取る力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　The Giant Leader of the African Plain（目標1）

	第3回	The Giant Leader of the African Plain（2）（目標2,3）
	第4回	Thinkers of the Forest（1）（目標1）
	第5回	Thinkers of the Forest（2）（目標2,3）
	第6回	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks（1）（目標1）
	第7回	The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks（2）（目標2,3）
	第8回	1回～7回までの復習
	第9回	The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross（1）（目標1）
	第10回	The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross（2）（目標2,3）
	第11回	The Tragedy of the Pure-Hearted Sea Animal（1）（目標1）
	第12回	The Tragedy of the Pure-Hearted Sea Animal（2）（目標2,3）
	第13回	Never Give Up! -A Polar Bear's Struggle for Life-（1）（目標1）
	第14回	Never Give Up! -A Polar Bear's Struggle for Life-（2）（目標2,3）
	第15回	第15回 The Heart-Warming Story of the Emperor Penguin Chicks（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	各回の授業で学んだ教科書の内容をもとに、自分で調べ、考える力を養う。基礎的な単語や文法を応用でも活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	1. 高校生レベルの単語力を身に着けること 2. 高校生レベルの基礎的な文法力を身に着けること 3. 上記1,2 をもとに教科書を辞書を引きながら読みとる力を身に着けること 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom
	著者名	荒金房子　他
	出版社	南雲堂
	価格	2,484円
	ISBN・ISSN	9784523178378
推薦図書等		

参考URL	
備考	授業には，必ず，英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	北條　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0027009　前期　火2 A0027010　前期　月3 A0027011　前期　火2
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	異文化理解，コミュニケーション，聞く力話す力，プリゼンテーション，
学生の到達目標	1.英語圏の生活習慣を知り，英語の基礎知識を増やし，積極的にコミュニケーションができるようになる。 2.英語の聞く力と話す力を鍛え，身近な場面の基礎的な英会話ができるようになる。 3.身近な話題について，基礎的な英語で簡単なプリゼンテーションを行うことができるようになる。

授業内容	第1回	About English / 授業目標と進め方 / 英語学習の意義 / 初対面の会話 / Listening check1(目標1,2)
	第2回	St.Patrick's Day / 世界にはこんなことが① / 名前確認の会話 / 表現発表(1) / Unit1自己紹介(目標1,2,3)
	第3回	Animals and Us / 世界にはこんなことが② / 補助犬 / 動物とペットの会話 / Unit2家族・ペット(目標1,2,3)
	第4回	School Lives / 日本との違い① / 英語圏の学校生活 / 中高の思い出話 / Unit4大学生活(目標1,2,3)
	第5回	Food Culture / 日本との違い② /英語圏の食文化の特色 / 今朝の朝食の会話 / Unit5食べ物(目標1,2,3)
	第6回	Festivals / 日本との違い③ / 文化の変遷 / 褒め合う会話 / 表現発表(2) /Unit8日本文化紹介(目標1,2,3)
	第7回	Postal System / 日本との違い④ / 英米の英語 / 電話で話す / 基本文check1 /Unit9(目標1,2,3)
	第8回	Communities / 共に生きる① /英語圏の共同体と街づくり / 道案内の会話 / Unit7道案内 (目標1,2,3)
	第9回	Numbers / 日本との違い⑤ / 数字の概念 /数を入れる兄弟姉妹の会話 / Unit12 E-mailを送る(目標1,2,3)
	第10回	Symptoms / 困った時の訴え① / 温かい声掛け / 具合の悪そうな友との会話 / Unit22体調不良(目標1,2,3)
	第11回	Happiness-1(BF) / 共に生きる② / 松葉杖の友人との会話 / 表現発表(3) / Unit16レストランで(目標1,2,3)
	第12回	Happiness-2(UD) / 共に生きる③ / 空港で見られるUD / 空港での会話 / Unit14空港で (目標1,2,3)
	第13回	Courage & Efforts / 共に生きる④ / 欧米人の障害への意識 / 車いすを押す会話 / Unit20旅行案内(目標1,3)
	第14回	Castles / 困った時の訴え② / 話題を変える・会話を繋ぐ言い方 / 基本文check2 (目標1,3)
	第15回	3Rs / 聞き取りのコツ / 既習会話を応用する / Listening & Writing Check-2 (目標1,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～１５回（共通） 〇初回配布の「課題一覧」プリントを活用する。 ・授業テーマに関する課題や取り巻く状況について，英語は辞書で，項目は百科事典などで調べ，ノートにまとめ，自分なりの意見を発表できるようにしておく。 ・指定されるUnitの聞き取り問題や本文を，CDを聞き解答したり，内容を確認したりしてノートにメモしてくる。
	復習	第１回～１５回（共通） 〇初回配布の「課題一覧」プリントを活用する。 ・授業プリントやテキストを用いて，授業内容を見直し，テキストのまちがい直しや練習をする。 ・学習した英会話例を，友人２人と会話練習をする。 ・毎回指示されるテキストの基本文を，言ったり読んだり書いたりできるように，ノートに練習する。(余力があれば，残りの問題に挑戦する。) ・Presentationについても積極的に取り組み，発表原稿は期限に提出する。
	展開	･学習した国や習慣などについて，自分に当てはめて考 えたり他の例を調べたりして，知識を深める。 ･身近な話題について，既習の英会話を応用し，友人と自由英会話を試みる。 ･ラジオやテレビの英会話などに継続して取り組む。 ・英語検定やToeicなどの目標を持ち，自身の英語力を向上させる努力をする。

成績評価	評価の基準	1.英語を話す人々の社会習慣や考え方の例を理解し，平易な英語または日本語で説明することができる。 2.場面に応じて，基礎的な英会話でのコミュニケーションができる。 3.決められた観点に注意しながら，簡単な英語でのプリゼンテーションができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	1.筆記試験と授業中の発表　20% 2.会話実技試験と授業中の発表　30% 3.３回のPresentation発表と原稿提出　50% 以上の成績を総合する。 ただしこの比率は，若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ
	著者名	JACETリスニング研究会
	出版社	南雲堂
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	978-4-523-17624-4

推薦図書等	書籍名	Word by Wordイラスト英和辞典（日英版）
	著者名	Steven.J.Molinsky & Bill Bliss
	出版社	Pearson Japan
	価格	￥3,067.
	ISBN・ISSN	978-0131935429

参考URL	www.mext.go.jp 文部科学省　外国語活動　小学校学習指導要領 www.japanlink.co.jp/ka 日本文化，生活習慣の紹介

備考	○発達教育学部及び保健医療学部は、指定されたクラスで受講する。 1.授業は(1)English Communication Practice（PC映像や会話）(2)English Grammar Practice（聞き取りや基本文など）を進める参加型学習体制をとる。 2.毎回授業プリントとテキストを使って行う。プリントは保存する。 3.テキストと付属CDを活用できる環境を整え，十分活用する。なお，テキスト購入に関しては，初回の授業で明示する。 4.活動はできるだけ英語で行いたいが，不安な学生は申し出る。 5.授業を効果的に受け英語力をさらに向上させるために，指定される課題や表現発表，予習復習に積極的に取り組む。初回配布の「課題一覧」プリントを活用する。 6.活動をできるだけ英語で行いたいが，不安な学生は申し出る。 7.各自満足いくような3回の発表ができ， 少しでも英語に自信が持てるようになる-ことへの努力を期待する。 8.連絡は，北條のレターボックスにメモを入れるように。

英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028001　後期　月2 A0028005　後期　火2
教室	講義室19 講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	英語特有の音声変化やリズムの習得，英語の分析的読解力の養成，英語の論理的表現力の養成
学生の到達目標	1.英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」に関し,総合的な基礎学力を発展的に向上させる。 2.英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し,実際に聞いたり話したりする際に活用できる。 3.身近な話題についての英文記事を分析的に読解し,自分の意見を論理的に英語で表現できる。

授業内容	第1回	音の連結 My Heart Will Go On（目標1･2･3）
	第2回	音の脱落 ① Open Arms（目標1･2･3）
	第3回	音の同化 Don't Look Back In Anger（目標1･2･3）
	第4回	音の脱落 ② A Whole New World（目標1･2･3）
	第5回	Let's read ディズニー映画について（目標1･2･3）
	第6回	音の脱落 ③ Livin' La Vida Loca（目標1･2･3）
	第7回	短縮形の音 Kiss of Life（目標1･2･3）
	第8回	音声変化の複合 I Don't Want To Miss A Thing（目標1･2･3）
	第9回	音の脱落 ④ Everytime I Close My Eyes（目標1･2･3）
	第10回	注意すべき母音 Life（目標1･2･3）
	第11回	音の弱化 The Stranger（目標1･2･3）
	第12回	短縮形の音 ② All I Want For Christmas Is You（目標1･2･3）
	第13回	音の連結 ② Hey Now（目標1･2･3）
	第14回	Let's read 女性の求めるものの時代的変化について（目標1･2･3）
	第15回	まとめ　音の変化・リズム・重要フレーズ・内容等についての確認（目標1･2･3） (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回の各々で，指定した部分の問題を自分で実際に解いてみたり，発音の練習をしたりしてみる。
	復習	第1回～第15回の各々で，自分のできなかった箇所を，辞典等を活用して再度理解をはかったり，英語の表現を英語らしく言えるようにする。
	展開	テーマに関連した特定の事項について，自分の意見を文字英語と音声英語で表現できるようにする。
成績評価	評価の基準	1.英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」に関し,総合的な基礎学力を発展的に向上させられたか。 2.英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し,実際に聞いたり話したりする際に活用できるか。 3.身近な話題についての英文記事を分析的に読解し,自分の意見を論理的に英語で表現できるかについて，それぞれ到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	第1回～第15回の各々について、期末試験（70%），授業中の活動（20%），課題等の提出物（10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名	『ポップスで学ぶ総合英語　改訂新版』 2011.
	著者名	角山輝彦
	出版社	成美堂
	価格	2 ,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978 -4-7919-3086-9
推薦図書等		
参考URL		
備考	発達教育学部は登録順で 23名までとする。 保健医療学部は指定されたクラスで実施する。	

英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028002　木2
教室	講義室20
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	リーディング、リスニング、保育の英語
学生の到達目標	1.主として英語の「読む」「聞く」を中心に総合的な英語基礎学力を向上させる。 2.保育の英語を学ぶ。 3.欧米の食文化に親しむ。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Time for Tea 1（目標1,3）

	第3回	Time for Tea 2, 保育の英語（目標１,2）
	第4回	Fresh from the Garden 1（目標１,3））
	第5回	Fresh from the Garden 2, 保育の英語（目標１,2）
	第6回	Trick or Treat 1（目標１,3））
	第7回	Trick or Treat 2, 保育の英語（目標１,2）
	第8回	ここまでの復習
	第9回	Giving thanks 1　（目標１,3））
	第10回	Giving thanks 2, 保育の英語（目標１,2）
	第11回	From your valentine　1　（目標１,3））
	第12回	From your valentine　2, 保育の英語（目標１,2）
	第13回	The Meaning of Easter 1（目標１,3））
	第14回	The Meaning of Easter 2, 保育の英語（目標１,2）
	第15回	A New Sports Tradition（目標１,2,3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準	1. 高校生レベルの単語力を身に着けること 2. 高校生レベルの基礎的な文法力を身に着けること 3. 上記1,2 をもとに教科書を辞書を引きながら読みとる力を身に着けること 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	Food for Thought
	著者名	Shinobu Sunaga 他
	出版社	南雲堂
	価格	1700円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4523-17651-0
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅱ
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0028006　火2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	医療英語、リハビリテーション、リーディング
学生の到達目標	1.医療やリハビリテーションに関連する内容の英文を読むことを通して長文の概要を読み取る力を養う 2.リハビリテーションの現場で行われる基礎的な英会話表現を身につける 3.リハビリテーション関連のさまざまな英語の用語や知識を身につける
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Osteoporosis（骨粗鬆症）(1); 語彙，リーディング（目標１） 第3回　Osteoporosis（骨粗鬆症）(2); 会話，リスニング（目標２，３）

	第4回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第5回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第6回	Diabetes（糖尿病）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第7回	Diabetes（糖尿病）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第8回	第１回～第７回までの復習
	第9回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第10回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第11回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第12回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第13回	Diabetes Disease(糖尿病); 会話，リスニング（目標２，３）
	第14回	Chapter 12 Case Study（事例研究）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第15回	Chapter12 Case Study（事例研究）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	理学療法や医療関係の教科書を見て、本授業で学んだことを確認する。
成績評価	評価の基準	1. 高校生レベルの単語力, 文法力を身に着けること 2. 上記1をもとに教科書を辞書を引きながら読みとる力を身に着けること 3. 教科書に書かれている理学療法の基礎的な知識を身に着ける 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	The Art of Healing
	著者名	荒金房子他
	出版社	南雲堂
	価格	1700円＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-523-17707-4
推薦図書等		
参考URL	なし	
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

英会話

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC103
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英会話
科目責任者	マーク　レモン
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A0044001　前期　火1 A0044005　前期　火1 A0044002　後期　火1 A0044006　後期　火1
教室	講義室15 講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	英会話・英語・外国語
学生の到達目標	1.英語で言いたいことを積極的に表現する。 2.話し相手についての知りたいことを積極的に英語で質問する。 3.まちがいをおそれずに、積極的にコミュニケーションを取ることができる。

授業内容	第1回	Introductions: Students introduce themselves in English. Syllabus overview by teacher; student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities. (目標1,2,3)
	第2回	Asking questions to clarify meaning. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第3回	Asking and giving personal information. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第4回	Talking about Japanese holidays and events. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第5回	Discussing personal preferences. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第6回	Using adverbs of frequency and asking about habits. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第7回	Review main points from past classes using quiz format; students write speech; teacher checks speeches and outlines. points of evaluation.(目標1,2,3)
	第8回	Review of main points from past lessons carried out by teacher; oral presentations performed by the students.Teacher gives written feedback after presentations. (目標1,3)
	第9回	Talking about ability and degrees of proficiency. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities. (目標1,2,3)
	第10回	Describing and defining food. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities. (目標1,2,3)
	第11回	Asking about family, relatives and sports. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities. (目標1,2,3)
	第12回	Describing and defining living things. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第13回	Talking about experiences and telling a story. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第14回	Discussing future plans and dreams for travel and work. Student pairwork; students prepare conversation; teacher checks both activities.(目標1,2,3)
	第15回	Review of past main points using quiz format; writing and preparation for final presentations supervised by teacher; teacher outlines points of evaluation. (目標1,2,3)
	第16回	Review and final presentation. Final words of advice by teacher; students perform presentations. (目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第２回予習　プリントを利用して、発音しにくい英文字やつづりの言い方を練習する。 第３回予習　プリントを利用して、個人情報の言い方を練習する。 第４回予習　プリントを利用して、英語で日にちと数字の言い方を練習する。 第５回予習　プリントを利用して、名詞、動詞、同名詞の分け方を

練習する。
第６回予習　プリントを利用して、現在形と現在進行形の違いを練習する。
第７回予習　プリントを利用して、助動詞や法助動詞の使い方を練習する。
第８回予習　４５分間：８回目の英語スピーチを書く。
第９回予習　プリントを利用して、人についての質問の作り方の練習をする。
第10回予習　プリントを利用して、be動詞とhave動詞の違いについて練習をする。
第11回予習　プリントを利用して、現在完了形と過去形についての練習をする。
第12回予習　プリントを利用して、未来をを表す表現を練習をする。
第13回予習　プリントを利用して、目的を表す表現の練習をする。
第14回予習　プリントを利用して、最終発表の構成や内容について考えさせる。
第15回予習　４５分間：期末発表を書く。

復習　第２回復習　生徒が前回作った自己紹介についての会話発表。
第３回復習　生徒が前回作った不明の意味を明確にする会話発表。
第４回復習　生徒が前回作った個人情報についての会話発表。
第５回復習　生徒が前回作った日本の祭日についての会話発表。
第６回復習　生徒が前回作った好き嫌いについての会話発表。
第７回復習　４５分間：第２回～第６回の授業内容について、教師が質問して、生徒がプリントに答えをさがす。生徒が前回作った能力についての会話発表。
第８回復習　生徒が第６回の授業で作った習慣についての会話発表。
第9回復習　生徒が前回作った能力についての会話発表。
第10回復習　生徒が前回作った食べ物の説明のしかたについての会話発表。
第11回復習　生徒が前回作った家族いについての会話発表。
第12回復習　生徒が前回作った生き物の説明のしかたについての会話発表。
第13回復習　生徒が前回作った経験についての会話発表。
第14回復習　生徒が前回作った将来の夢についての会話発表。
第15回復習　生徒が今まで習った重要なポイントを含めた会話を発表する。

展開　英語で日常的な話題について友達と自由に会話を楽しむ。
NHKラジオ『基礎英語』や英会話のCDを繰り返し聞いて口を出して発音を真似したり、海外ドラマの字幕版やYoutubeの英語番組を見たり、洋楽を聞いたり、ノートに新しい単語やフレーズを書いて復習したり、英語で日記を書く。
英語の勉強に対して目標を設定して、毎日少しでも練習や勉強が習慣になるまで、英語での活動を続けることに努力する。

成績評価

評価の基準　到達目標1～３について，日常会話に関して，授業に取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。英語で言っていることが話し相手に通じること。を合格基準として評価する。

評価の方法　平常点60%，中間発表20%，期末発表20%

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	マーフィーのケンブリッジ英文法
著者名	Raymond Murphy
出版社	Cambridge University Press
価格	本体2,190円＋税
ISBN・ISSN	978-4-902290-04-2

書籍名	MP3 CD付 英会話3行革命
著者名	浦島 久
出版社	IBCパブリッシング
価格	本体1,944円＋税
ISBN・ISSN	978-4794603180

参考URL

備考

実践英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC104
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	実践英語
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045101 水3（第4水曜日を除く） A0045105 水3（第4水曜日を除く）
教室	講義室20
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	リーディング、リスニング、英語表現
学生の到達目標	1、映像をみながら英文の概要を聞き取れる。、 2、書かれている英文の内容を自分の言葉でまとめ、説明できる。 3、日常的な英語表現を身につける。

授業内容	第1回	授業の進め方について
	第2回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標1)
	第3回	Cambodia Animal Rescue (Tiger)(目標2)
	第4回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標3)
	第5回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標1,2,3)
	第6回	Cupid the Dolphin (目標1)
	第7回	Cupid the Dolphin (目標2)
	第8回	Cupid the Dolphin (目標3)
	第9回	Cupid the Dolphin (目標1,2,3)
	第10回	ここまでのまとめ
	第11回	Saving the Pandas (目標1)
	第12回	Saving the Pandas (目標2)
	第13回	Saving the Pandas (目標3)
	第14回	Saving the Pandas (目標1,2,3)
	第15回	英検2級の模擬試験(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	授業で扱ったテーマに関連して、自分なりの考えを英語でまとめ発表する。
成績評価	評価の基準	1. 高校生レベルの単語力を身に着けること 2. 高校生レベルの基礎的な文法力を身に着けること 3. 上記1,2 をもとに教科書を辞書を引きながら読みとる力を身に着けること 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点(授業への取り組み・態度、宿題)20%、授業の内容理解30%、レポートの提出度および内容50%により総合的に評価する。
教科書	書籍名	Messages from the Globe
	著者名	Miwako Yamashita他
	出版社	Cengage Learning
	価格	2415円
	ISBN・ISSN	978-4-86312-187-4
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)	

実践英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC104
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	実践英語
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0045102 A0045106
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	英語の聴解力，読解力，英語で論じる技能，資格試験，専門科目の学習に役立つ英語力
学生の到達目標	1.英語の聴解力と読解力を一段と強固なものにする。 2.英語で臨機応変に論じる技能を身につける。 3.資格試験や専門科目の学習に対応できる英語力を持つ。

授業内容	第1回	授業のオリエンテーションと課題の設定（目標1･2･3）
	第2回	課題達成のための教材の選定と対応（目標1･2･）
	第3回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の連結，発音の訓練１（目標1･2･3）
	第4回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の脱落，発音の訓練２（目標1･2･3）
	第5回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の同化，発音の訓練３（目標1･2･3）
	第6回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：弾音，発音の訓練４（目標1･2･３）
	第7回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：単語の弱形，発音の訓練５（目標1･2･3）
	第8回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：短縮形，発音の訓練６（目標1･2･3）
	第9回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：肯定文と否定文，発音の訓練７（目標1･2･3）
	第10回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識１（目標1･2･3）
	第11回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識２（目標1･2･3）
	第12回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識３（目標1･2･3）
	第13回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識４（目標1･2･3）
	第14回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識５（目標1･2･3）
	第15回	まとめ　学習対象となった教材をもう一度最初から見直し，自分自身の弱点を確認して補完する。（目標1･2･3） (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回～第15回の各々で，自分で予め学習事項を決め，過去問題等を使って実際に所定の時間で解いてみる。次に，自分で答え合わせを行い，辞書等を活用しながら解説を読んで，理解する。
	復習	第1回～第15回の各々で，授業での解説を参考にして，再度，辞書等を活用しながら，指定された部分の理解を深める。また，英語を流暢に読めて言えるように，自主練習をする。
	展開	解説を読んでも理解できなかった箇所を，担当教員に説明してもらい，疑問点の解決を図る。聴解力と英語で論じる技能を身に着けるため，視聴覚教材を使用して英語力を強化する。
成績評価	評価の基準	1.英語の聴解力と読解力が一段と強固なものになっているか。 2.英語で臨機応変に論じる技能を身につけられたか。 3.資格試験や専門科目の学習に対応できる英語力を持てたかについて，それぞれ到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	第1回～第15回の各々について，期末試験（60%），授業中の活動（30%），課題等の提出物（10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等

参考URL

備考

中国語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC105
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	中国語入門
科目責任者	佐久間　文麗
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A0046001　前期　火1 A0046002　後期　火1
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 9 キャリア形成 5 チーム医療 ・地域貢献

授業のキーワード	拼音，簡体字，表現力，中国文化の理解
学生の到達目標	1.基本発音ができる,簡体字と繁体字を区別する。 2.基本文型をしっかり覚える。 3.中国文化の一端を知り，日常生活を表現する。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業予定・学習方法・目標・評価について），発音練習（目標3）
	第2回	第1課　校門で／挨拶のことば／人称代名詞（目標,3）
	第3回	第2課　廊下で／人の呼び方／動詞述語文（目標1,2）
	第4回	第3課　キャンパスで／指示代名詞／形容詞述語文（目標1,2）
	第5回	第4課　携帯を見ながら／所有を表す（有）／反復疑問文（目標1,2）
	第6回	第5課　学生食堂で／二重目的文／方位詞＋テスト①（目標1,2,3,4）
	第7回	第6課　王先生の研究室で／動詞の重ね型／語気助詞（目標1,2）
	第8回	第7課　コンビニで／時を表すことば／助数詞（目標1,2）
	第9回	第8課　バスで／連動文／前置詞（目標1,2,3）
	第10回	中間復習＋テスト②（目標1,2,3）
	第11回	第9課　放課後に／主述述語文／助動詞（目標1,2）
	第12回	第10課　卓球の中継を見ながら／経験を表すことば／様態補語（目標1,2）
	第13回	第11課　ディズニーランドで待ち合わせ／選択疑問詞／方向補語（目標1,2,3）
	第14回	第12課　カフェテラスで／比較を表すことば／時間・時刻・動作の回数（目標1,2,3）
	第15回	総合復習及び学生による発表と討論及び総まとめの講義（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　教科書の第一課をCDで聞く 第２～４回　次の課の内容 第５回 第６回　第６課の内容をCDで聞く 第７～８回　次の課の内容 第９回 第１０回　第９課の内容をCDで聞く 第１１～１３回　次の課の内容 第１４回
	復習	第１回 １.中国語の四声と拼音構成 ２.中国と日本の漢字の違い ３.中国と日本の地図を見て,地理,人口,民族を確認 第２～４回 １．習った内容を教科書で再チェック ２．本文をCDで聞いて耳のトレーニングをする ３．各課の新しい単語の暗記（次の授業の時書き取りをする） 宿題：各課のトレーニングの提出 実習：復習した上で小グループで発声・会話（次回の授業中もチェック） 第５回 １～４課の本文とポイント文型・単語 宿題：第４課のトレーニングの提出 質問：復習した上で疑問点を次の授業のときに 第６回 テスト①を再チェックしてできてない部分をしっかり覚える 宿題：第５課のトレーニングを提出 第７・８回 第２～４回復習と同じ 第９回 ５～８課の本文・ポイント文型・単語 質問：５～８課の疑問点を質問 第１０回 テスト②で達成度のチェック

第１１～１３回
第２～４回復習と同じ
第１４回　期末試験
１．総合復習１～４，５～８，９～１２課を三段階で復習
２．ポイントの１，２，３を覚える
３．質問のまとめ

展開　テレビやラジオの中国語や中国文化の番組に関心を持つ。

成績評価

評価の基準
１．中国語入門段階の基礎発音，ヒヤリングの達成
２．習った単語，文型の把握
３，初歩的な会話が出来る

評価の方法　期末試験 40%，小テスト 30%，学習達成度・宿題など 30%

教科書

書籍名	はじめまして！中国語
著者名	喜多山幸子・鄭幸枝
出版社	白水社出版
価格	2,300円＋税
ISBN・ISSN	978-4-506-06921-9

推薦図書等

参考URL

備考

フランス語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC106
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	フランス語入門
科目責任者	小川　亮彦
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0047001　前期　金1 A0047005　前期　金1
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	フランス語，ヨーロッパ文化，異文化理解
学生の到達目標	1.フランス語の基本的な表現を聞き取ることができる。 2.フランス語で挨拶や自己紹介ができ,日常生活の基本的な状況を表現できる。 3.フランス語の平易な文章を辞書を用いて読解できる。

授業内容	第1回	フランス語の紹介と概説,教材の説明 フランス語の書記法則と発音体系(目標1,2)
	第2回	フランス語の書記法則と発音体系（第１回の続き） (目標1,2)
	第3回	名詞の性数と冠詞の性数 ・基本的な挨拶(目標1,2)
	第4回	規則動詞と不規則動詞の活用 肯定文と否定文（目標2,3）
	第5回	形容詞の性数変化 ・人間の性格や外見の表現（目標2,3）
	第6回	所有形容詞と指示形容詞 ・パリを案内する表現（目標1,2,3）
	第7回	重要な不規則動詞の活用 近接過去と近接未来の構文（目標1,3）
	第8回	命令文　疑問文 ・平易な質問と応答（目標1,2,3）
	第9回	形容詞,副詞の比較級と最上級 ・基本的な状況説明の表現（目標2,3）
	第10回	単純未来の構文 ・未来の事柄に関する表現（目標1,2,3）
	第11回	複合過去と半過去の構文 ・過去の事柄に関する表現（目標1,2,3）
	第12回	複合過去と半過去の構文(第11回の続き) ・過去の事柄に関する表現（目標1,2,3）
	第13回	非人称動詞の構文 ・時刻の表現,天候の表現（目標1,2）
	第14回	関係代名詞 ・複雑な事柄に関する表現（目標2,3）
	第15回	復習とまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	毎回教科書をひと通り読んでおくこと。詳細な下調べは必要ありません。 フランス文化，ヨーロッパ文化に関する報道やTV番組に接する機会を多くすること。
	復習	毎回の授業内容をまとめておくこと。 教科書付録のCDをくり返し聴くこと。
	展開	フランス語やフランス文化に興味を持ち、ＮＨＫＥテレやＢＳ放送などで関連番組を視聴する。また、図書館等で関連した著作に接し、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	平易な文章を，①「聞き取れる」こと，②「発話できる」こと，及び，基本的な文章を，③「読解できる」こと，を総合して判定します。
	評価の方法	学期末試験（筆記と聞き取り）を70%，平素の授業における学習達成度（小テスト，練習問題の解答，発話，その他）を30%として採点します。
教科書		
	書籍名	新・東京－パリ初飛行［新装改訂版］
	著者名	藤田　裕二　他　著

	出版社	駿河台出版社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-411-01114-5 C1085

推薦図書等	書籍名	パスポート初級仏和辞典
	著者名	内藤陽哉他著
	出版社	白水社
	価格	2,808円
	ISBN・ISSN	978-4-560-00040-3

参考URL	

備考	英語学習の経験を前提として授業を進めます。英語の得手，不得手は心配ありません。 授業では毎回，教科書と付属DVD教材を用いて初級文法の解説を行ない，同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら，辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後，必要と思われる部分に関して，再度解説を施します。講義内容をノートにとることよりも，自分でフランス語を発話し，自分でフランス語の文を読み，自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。ABCの読み方から始まって，辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので，安心して受講して下さい。 ただし，毎回の授業はすべて新出事項ばかりです。授業に欠席するのは勿体ないことなのだ，ということを忘れないでください。

ドイツ語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC107
開講年度	2017年度
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	ドイツ語入門
科目責任者	カレンベルク　ベレーナ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0048001　後期　水4 A0048005　後期　水4
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	ドイツ語の基礎　異文化理解
学生の到達目標	1．基本的な発音ができる。 2．聞いたアルファベットと数字を書きとることができる。 3．簡単な文を理解することができ，簡単な質問に答えることができる。

授業内容	第1回	アルファベットの発音(目標1)
	第2回	数字の読み方・書き方(目標1)
	第3回	四季・月名・曜日名,あいさつ,さまざまな疑問詞(目標2)
	第4回	地名の読み方・聞き取り・書き取り(目標2)
	第5回	第1課 Kennstdu Lena? 動詞の不定詞の活用(目標3)
	第6回	動詞 sein(目標2)
	第7回	第2課 Hast du einen Kugelschreiber? 動詞 haben(目標3)
	第8回	動詞と名詞の格との関係(目標2)
	第9回	前置詞と名詞の格(目標3)
	第10回	第3課 Hast du die Bälle? 名詞の複数形,数字の復習(目標1,2,3)
	第11回	第4課 Ich bringe dir die Pommes. いろいろな不規則変化動詞(目標3)
	第12回	人称代名詞の格と動詞の関係(目標3)
	第13回	第6課 Dein Handy ist nicht kaputt. 動詞と否定(第5課はとばす)(目標3)
	第14回	名詞と否定(目標2,3)
	第15回	復習とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第１５回（共通）授業で指示されたところ（教科書）を読んでおく。 第１回～第４回　動詞の変化について 第５回～第８回　定冠詞について 第９回～第１２回　否定のnichtとkeinについて
	復習	第１回～第１５回（共通）前回の配られたプリント授業内容を復習する。 第１回～第４回　アルファベットについて 第５回～第８回　動詞の変化について 第９回～第１２回　前置詞と名詞の格について
	展開	自分の自己紹介がドイツ語でできるように，ノートに自分のことについて短い文を書いてみましょう。 友達に質問もできるよう疑問文も書いてみましょう。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度をみて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験(70%)，授業中の活動(20%)，課題の提出(10%)を対象として総合的に評価する。ただし，６回以上欠席した者には期末試験を受けさせない。30分以上の遅刻３回で欠席１回とみなす。
教科書	書籍名	“Hallo,Benni!”ぼくらの未来ー映像と会話で学ぶ初級ドイツ語ー　2012年
	著者名	荻野蔵平他
	出版社	朝日出版社
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-255-25353-4

推薦図書等

書籍名	ドイツ語文法へのプロローグ　2007年
著者名	岡本順治
出版社	郁文堂
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	9784261011975

参考URL

備考

情報機器演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS101
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	情報機器演習
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A0035101　前期　金3 A0035102　前期　金4 A0035103　後期　火2 A0035104　後期　火3
教室	PC室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	選択	必修
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養 3 知識・技能・実践力
カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 3 知識・技能・実践力

授業のキーワード	コンピュータ，ソフトウェア，文書作成，プレゼンテーション
学生の到達目標	(1)コンピュータやインターネットにおける情報のやりとりの概要を説明できるようになる。 (2)インターネット，WWWの概要と適切な扱い方を理解できるようになる。 (3)教育・医療現場におけるコンピュータ関連技術の適切な利用法を身につける。

授業内容	第1回	イントロダクション コンピュータに慣れよう(目標1) 表計算ソフトウェア演習(1) 基本の関数とグラフ作成
	第2回	情報化とデジタルの概念 (目標1・2) 表計算ソフトウェア演習(2) シートの管理，より複雑な関数の利用
	第3回	ハードウェアとインターフェース，記憶装置，OSとアプリケーションソフトウェア (目標1) 表計算ソフトウェア演習(3) テーブルと並べ替え
	第4回	ネットワークの概要とインターネット関連技術の変遷 (目標2) 表計算ソフトウェア演習(4) まとめ
	第5回	効果的なプレゼンテーションのために (目標2・3) プレゼンテーションソフトウェア演習(1) 概要と基本操作
	第6回	マルチメディアと情報の信憑性 (目標1・2・3) プレゼンテーションソフトウェア演習(2) グループによる調査
	第7回	著作物の利用と法的ルール (目標2・3) プレゼンテーションソフトウェア演習(3) 発表に適したファイルの作成
	第8回	文書作成ソフトウェア(1) ソフトウェアの概要と基本的操作 (目標1)
	第9回	文書作成ソフトウェア(2) レイアウトの操作と表の挿入 (目標1)
	第10回	文書作成ソフトウェア(3) まとめ,他ソフトウェアとの連携 (目標1)
	第11回	情報セキュリティと個人情報の保護(目標2) プレゼンテーション演習(1) グループによる調査
	第12回	アカデミックライティングにおける引用(目標3) プレゼンテーション演習(2) プレゼンテーションの準備
	第13回	現代社会とICT(1)－教育における電子化とICT活用 (目標3) プレゼンテーション演習(3) 発表用ファイルの作成
	第14回	現代社会とICT(2)－現代社会・医療福祉現場での電子化とICT活用 (目標3) プレゼンテーション演習(4) プレゼンテーション実施と講評
	第15回	まとめ　ここまでの振り返りと、情報機器の活用における重要ポイントの確認(目標1・2・3)
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1回：学内のPCにログインするIDとパスワードを確認し、ログインできることを確認してくる。表計算ソフトウェアの用途を調べておく。 第2回：二進法とデジタル化について、調べておく。表計算ソフトウェアのセル操作を調べておく。 第3回：ハードウェアとソフトウェアの違いについて、また、主要なインターフェースについて調べておく。表計算ソフトウェアのシートの操作を調べておく。 第4回：ネットワークのしくみについて調べておく。インターネットに関連する技術について調べておく。表計算ソフトウェアの主要な関数を調べておく。 第5回：プレゼンテーションソフトウェアの用途を調べておく。 第6回：インターネットにおける情報の信憑性について調べておく。 第7回：知的財産権、著作権の保護について調べておく。 第8回：文書作成ソフトウェアの用途を調べておく。 第9回：文書作成ソフトウェアの機能を調べておく。 第10回：文書作成ソフトウェアの効率的な活用法を調べておく。 第11回：情報セキュリティの原則と個人情報の保護の考え方を調べておく。 第12回：アカデミックライティングの概要について調べておく。引用のルールを調べておく。 第13回：教育におけるICT活用の実例を調べておく。

		第14回：医療におけるICT活用の実例を調べておく。 第15回：第1～14回のポイントと各ソフトウェアの基本機能および操作方法を再度見直しておくこと。疑問点と不明な専門用語があれば調べておくこと。
	復習	第1回：学内のPCにログインし、基本的なキーボード入力（キー操作、主要なショートカットキーの操作）に慣れておく。 第2回：表計算ソフトウェアのセル操作のポイントをまとめておく。 第3回：ハードウェアとソフトウェアの違い、主要なインターフェースについてポイントをまとめておく。表計算ソフトウェアのシートの操作を確認する。 第4回：ネットワークのしくみとインターネットに関連する技術についてポイントをまとめておく。表計算ソフトウェアの主要な関数を確認する。 第5回：プレゼンテーションソフトウェアの基本操作をまとめておく。 第6回：インターネットにおける情報の信憑性と判定のポイントをまとめておく。検索エンジン活用のポイントをまとめておく。 第7回：知的財産権、著作権の保護のポイントをまとめておく。 第8回：文書作成ソフトウェアの基本操作をまとめておく。 第9回：文書作成ソフトウェアのレイアウト調整のポイントをまとめておく。 第10回：文書作成ソフトウェアの効率的な活用法のポイントをまとめておく。 第11回：情報セキュリティの原則と個人情報の保護のポイントをまとめておく。 第12回：アカデミックライティングと引用のルールのポイントをまとめておく。 第13回：教育におけるICT活用のポイントをまとめておく。 第14回：医療におけるICT活用のポイントをまとめておく。 第15回：第1～14回のポイントと各ソフトウェアの基本機能および操作方法を再度見直しておくこと。疑問点と不明な専門用語があれば調べておくこと。
	展開	第1～15週で扱った課題に関連する参考文献やサイトを参考に、やってみたい操作や使ってみたいソフトウエアを調べること。
成績評価	評価の基準	(1)コンピュータやインターネットにおける情報のやりとりの概要を説明できる。 (2)インターネット, WWWの概要と適切な扱い方を理解できる。 (3)教育・医療現場におけるコンピュータ関連技術の適切な利用法を身につける。
	評価の方法	授業中の課題への取り組み 60%，随時実施する達成度を確認する課題 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付けます。オフィスアワーに来訪できない場合は、個別に電子メールで相談してください。電子メールアドレスは研究室の入り口に掲示します。	

文章表現演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS103
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	文章表現演習
科目責任者	芦野　眞理子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0037001　前期　火3 A0037005　前期　火3
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	言語能力の育成・文章表現・相手意識・実用的文章
学生の到達目標	1.筋道の通った文や文章を記述できる。 2.読み手を意識し，状況に応じた適切な文章を書ける。 3.意欲を持って文章表現について必要とされる知識を習得する。

授業内容	第1回	受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価 (目標３)
	第2回	文章表現力向上のための基礎の習得Ⅰ　漢字・熟語（目標３）
	第3回	文章表現力向上のための基礎の習得Ⅱ　慣用句・故事成語・ことわざ（目標３）
	第4回	履歴書・手紙・葉書・各種書式(目標２)
	第5回	原稿用紙の使い方・文体(目標２)
	第6回	段落・構成を考えた文章の書き方(目標１)
	第7回	説明文の書き方(目標２)
	第8回	記録・通信文の書き方(目標２)
	第9回	評論の読解と要約文の書き方(目標１)
	第10回	文学的文章の内容紹介・感想文の書き方(目標１)
	第11回	意見文の書き方(目標１,２)
	第12回	課題文を読んで小論文を書く(目標１,２)
	第13回	テーマを決め，ブレイン・ストーミング法を使って２０００字の小論文を書く。(目標１,２)
	第14回	前回に自分の書いた小論文を推敲し，さらにグループでチェックし手直しする。(目標１,２,３)
	第15回	２０００字小論文・自己評価の提出 ポートフォリオによるまとめ(目標１,２,３)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　自身の文章表現能力の程度と弱点を確認しておく。 第2回～13回　次時の内容に関するテキスト部分を読んでおく。 第14回～15回　最終提出の2000字小論文を完成させる準備をする。
	復習	第1回～15回　授業で作成したノートを整理する。返却された前時の課題の添削部分を確認し修正する。
	展開	文章表現に関して自分の考えをまとめる。
成績評価	評価の基準	1.筋道の通った論理的文章を記述できること 2.目的に対応した適切な文章を記述できること 3.各種様式の文章，正しい表記・表現についての理解度
	評価の方法	グループ活動等における参加態度(20%)，課題提出(50%)，ポートフォリオ(30%)
教科書	書籍名	大学生のための論文・レポートの論理的な書き方
	著者名	渡邊淳子著
	出版社	研究社
	価格	1,300円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-327-38470-8
推薦図書等		
参考URL		

備考	○辞書を必ず携行する。 ○グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備する。 ○実際の場面で役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。 備考　漢字検定に挑戦して実力を向上させてほしい。 ※推薦図書は授業時に提示する。

文章表現演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS103
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	文章表現演習
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0037002　前期　火2 A0037006　前期　火2
教室	大講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	言語能力の育成・文章表現・相手意識・実用的文章
学生の到達目標	1．筋道の通った文や文章を記述できる。 2．読み手を意識し,状況に応じた適切な文章を書ける。 3．意欲を持って文章表現について必要とされる知識を習得する。

授業内容	第1回	受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価・文章表現ための発想(目標３)
	第2回	文章表現力向上のための基礎の習得Ⅰ（目標３）新聞記事の視写
	第3回	文章表現力向上のための基礎の習得Ⅱ（目標３）児童書・文学の視写・漢字の知識
	第4回	履歴書の書き方・文章表現の向上（目標２）履歴書・川柳
	第5回	礼状の書き方（目標２）
	第6回	小論文の書き方Ⅰ　出題者の意図のつかみ方（目標１）
	第7回	小論文の書き方Ⅱ　課題に正対した書き方（目標１）
	第8回	文学的文章の書き方Ⅰ（目標２）エッセイ
	第9回	文学的文章の書き方Ⅱ（目標２）創作文
	第10回	文章表現力向上のための基礎の確認（目標３）読み手を意識した文章
	第11回	マインドマップを利用した文章表現力の向上（目標２）
	第12回	実用的な文章の書き方（目標２）投書・評論文
	第13回	読み手を意識した文章の書き方（目標２）広告文・紹介文
	第14回	ポートフォリオによる授業リフレクション（目標３）
	第15回	ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	第2回：新聞記事を読んでくる。 第3回：児童書又は小説を読んでくる。 第4回：履歴書の自己アピール文等を書いてくる。 第5回：対象を決めて、礼状を書いてくる。 第6回：小論文の書き方について調べてくる。 第7回：小論文の書き方について調べてくる。 第8回：文学的文章の書き方（エッセイ）について調べてくる。 第9回：創作文について調べてくる。 第10回：書店のポップカード等の書き方を調べてくる。 第11回：マインドマップについて下調べをする。 第12回：新聞の投書欄を読んでくる。 第13回：広告文や店舗の紹介文を読んでくる。 第14回：これまで学んだことをポートフォリオの形でまとめる。 第15回：文章形態ごとにどのような書きぶりが必要かを考えてくる。
	復習	第2回：新聞のコラム欄や社説を視写する。 第3回：児童書又は小説の好きな場面を視写する。 第4回：履歴書を完成させる。 第5回：礼状を書いてみる。 第6回：課題に応じた小論文を６００字程度で書く。 第7回：課題に応じた小論文を６００字程度で書く。 第8回：思い出をエッセイ風の文体で書く。 第9回：課題に沿った創作文を書く。 第10回：様々な場面の相手を意識した文章を書く。 第11回：自分の課題についてマインドマップ使って記述してみる。 第12回：新聞の投書欄に投稿できるような文章を書く。
	展開	第2回：新聞の書きぶりを学ぶ。 第3回：児童書や文学の書きぶりを学ぶ。 第4回：履歴書の書き方を学ぶ。 第5回：時候の挨拶、書き出し等、正式な手紙の書き方を学ぶ。 第6回：初め中終わりの形態を学ぶ。 第7回：収集した情報をもとに内容を豊かにする書き方を学ぶ。 第8回：見本を参考に詩的表現を踏まえながら書く文体を学ぶ。

		第9回：創作文の書き方を学ぶ。 第10回：読み手を意識した文章の書き方を学ぶ。 第11回：マインドマップを使って、書く内容を様々な視点で見つめ直すことを学ぶ。 第12回：新聞を元に、自分の意見の書き方を学ぶ。 第13回：見本文を元に、広告文や店舗の紹介文の書き方を学ぶ。 第14回：学んだことに対して振り返りながらコメントを付けてまとめていく。 第15回：グループごとにポートフォリオを読みながら互いに評価し合う。
成績評価	評価の基準	１，はじめ・中・おわりの形式を用いて、筋道の通った論理的な文章を書くことができたか。 ２，相手意識を持って、様々な形態の文章の書き方が理解できたか。 ３，視写や見本文を通して、文体に合った文章形態を理解できたか。主として、提出されたレポートをもって評価する。
	評価の方法	グループ活動等における参加態度２０％、課題提出５０％，ポートフォリオ３０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	○この科目を履修するためには、様々な形態の文章を積極的に読もうという姿勢が必要である。 ○グループ学習やディスカッションを多用し、幅広い知識を獲得できるようにする。 ○連絡が必要な場合は、研究室6まで来室すること。	

読書技術演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	読書技術演習
科目責任者	芦野　眞理子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0038101　前期　水3 A0038105　前期　水3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養
授業のキーワード	語句の理解・精読・内容理解・主体的，批判的な読み	
学生の到達目標	1.語句・文章を正確に理解する。 2.問いを持って読み，主旨・主題を解明する力をつける。 3.主体的・批判的な読書週間をつける。	

授業内容	第1回	受講の決まり，ポートフォリオの作り方，グループ編成。短文を読み自分の弱点を知る。（目標１,２）
	第2回	基礎的な評論文の読み方，文章の仕組み，構成（目標１,２）
	第3回	接続語・指示語に注目。論旨の読み取り（目標１,２）
	第4回	段落相互の関係から読み取る方法（目標１,２）
	第5回	評論文を通読し，構成図を作る。（目標１,２）
	第6回	段落ごとの要約文を書き，主旨をまとめる。（目標２）
	第7回	文学的文章を読み，表現上の疑問点をまとめる。（目標１,２）
	第8回	第7回の疑問点をグループで検討し，解決する。（目標１,２）
	第9回	評論文を通読して疑問点を持ち，解読のためグループごとに調べる。（目標１,２,３）
	第10回	第9回の評論文を精読し，要旨をまとめる。（目標１,２,３）
	第11回	短編小説をグループで選んで通読し，第7回，第8回の手順で熟読する。（目標１,２,３）
	第12回	第11回の小説を代表者が紹介する。（目標１,２,３）
	第13回	第12回で紹介された短編小説から一作品について感想文を書く。（目標１,２,３）
	第14回	授業全体のリフレクション（目標１,２,３）
	第15回	テスト形式評価・読書力の自己評価 ポートフォリオによるまとめ（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　自身の読書歴や傾向を確認しておく。 第2回～11回　次時の課題文やテキストを読んでおく。 第12回～14回　班別の発表準備を各班で行う。 第15回　前時までに学んだ各種文章を読み直しておく。
	復習	第1回～11回　返却された前時の課題を読み直して，理解を深める。 第12回～15回　発表内容を見直し，各自のポートフォリオを整理する。
	展開	読書に関する様々な技術を理解し，意欲的に読書に取り組む姿勢を身につけ，どのような現場でも活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	1.語句や文章を正確に，かつ丁寧に理解しようとする態度が養われていること。 2.各種文章の，主旨・主題を解明する能力が養われていること。 3.問題意識を持って，主体的・批判的に読む習慣をつけていること。
	評価の方法	課題提出の内容（60%），ポートフォリオや通常授業時の課題の提出状況（30%），授業への参加意欲・態度（10%）とする。
教科書		
	書籍名	『クリティカル・リーディング入門』人文系のための読書レッスン
	著者名	慶應義塾大学教養研究センター監修　大出敦　著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7664-2274-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	推薦図書は授業時に紹介

読書技術演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS104
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	読書技術演習
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A0038102　後期　火4 A0038106　後期　火4
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	速読法，ビブリオバトル,読後交流，主体的な読み
学生の到達目標	1.速読法について知る。 2.読書に関する技術について理解する。 3.主体的な読書習慣を身につける。

授業内容	第1回	「授業概要説明・速読の基礎知識」-現代社会における速読の有効性-（目標１，３）
	第2回	「眼球運動トレーニング」-眼球運動と内容理解の関連性-（目標１，２）
	第3回	「速読による内容理解のためのキーワードトレーニング」（目標１，２）
	第4回	「ビブリオバトル」の基礎知識（目標２）
	第5回	「ビブリオバトル・トレーニング」絵本（目標２）
	第6回	「ビブリオバトル・トレーニング」児童書（目標２）
	第7回	「ビブリオバトル・トレーニング」説明的文章（目標２）
	第8回	「ビブリオバトル・トレーニング」「読書座談会」科学的文章（目標２）
	第9回	「ビブリオバトル・トレーニング」「読書座談会」文学的文章（目標２）
	第10回	「読書座談会」「読書体験の共有化」文学的文章（目標２，３）
	第11回	「読書座談会」「読書体験の共有化」グループでの課題選択読書（目標２，３）
	第12回	「読書体験の共有化」グループでの課題選択読書（目標２，３）
	第13回	「読書技術の向上」　図書館の活用（目標２）
	第14回	「読書技術の向上」　批判的読み（目標３）
	第15回	授業全体のリフレクション・相互評価（目標３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。 第2回眼球運動トレーニング及び速読について調べておくこと。 第3回速読に関する文献を読み、練習をすること。 第4回ビブリオバトルについて、文献やネット等で調べておくこと。 第5回絵本を読み、ビブリオバトルの準備を進めておくこと。 第6回児童書を読み、ビブリオバトルの準備を進めておくこと。 第7回説明的文章を読み、ビブリオバトルの準備を進めておくこと。 第8回科学的文章を読み、ビブリオバトルの準備を進めておくこと。 第9回文学的文章を読み、 ビブリオバトルの準備を進めておくこと。 第10回「読書座談会」について、ネット等で方法を調べておくこと。 第11回グループで読んでくる本を決め、その本を読んでくること。 第12回ジャンルの違う本について、読んで来る本を決め、その本を読んでくること。 第13回図書館の利用方法について、調べてくること。 第14回批判的読みについて、その内容と方法について調べてくること。 第15回授業の中で、読んできた本の中で一番心に残った本についてレポートを書いてくること。
	復習	第1回この科目の授業によって理解を深めたい事柄をまとめておくこと。 第2回眼球トレーニングと速読の技術について、練習をしておくこと。 第3回速読の技術について、復習し練習を積むこと。

第4回ビブリオバトルのやり方等についてレポートにまとめること。
第5回児童書ビブリオバトルに関してのレポートをまとめること。
第6回説明的文章ビブリオバトルに関してのレポートをまとめること。
第7回科学的文章ビブリオバトルに関してのレポートをまとめること。
第8回文学的文章ビブリオバトルに関してのレポートをまとめること。
第9回「読書座談会」に関してのレポートをまとめること。
第10回各グループで選んだ本に関して，感想等を書くこと。
第11回各グループで選んだ本に関して，レポートをまとめること。
第12回ジャンルの違う本について，感想等を書くこと。
第13回図書館の利用方法に関して，レポートをまとめること。
第14回批判的読みに関してのレポートをまとめること。
第15回レポートを読み合い，作品に関しての感想を書くこと。

展開　読書に関する様々な技術を理解し，幼稚園・保育園・小学校・特別支援学校・介護施設・福祉施設・病院等の現場に出た際に活用できるようにする。

成績評価

評価の基準
1，速読法について理解することができたか。
2，読書に関する技術を身につけることができたか。
3，主体的に読書をする習慣が身についたか。

評価の方法　レポートの内容（60%），通常授業時の課題提出状況および内容（30%），授業への参加意欲・態度（10%）とする。

教科書

書籍名	ほんとうに頭が良くなる「速読法」のつくり方
著者名	苫米地英人
出版社	PHP出版
価格	５９６円
ISBN・ISSN	45697439

推薦図書等

参考URL

備考　参考文献等については，授業中に連絡をする。

自然科学基礎演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS105
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	自然科学基礎演習
科目責任者	山本　雅哉
担当教員	小池　和子 倉山　太一
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A0039101　前期　水1 A0039105　前期　水1
教室	講義室19
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	生物学，化学，物理学
学生の到達目標	1.人体や環境を理解するための生物学的概念を説明できる。 2.人体や環境を理解するための化学的概念を説明できる。 3.人体や環境を理解するための物理学的概念を説明できる。

授業内容	第1回	「自然科学序論」-自然科学を学ぶ目的および学問としての自然科学を理解する 「単位と数」-自然科学を理解する上での単位の使われ方を理解する(目標1,2,3) 担当教員: 小池　和子
	第2回	「気体の溶解」-細胞が生きて行くために必要な酸素がどのように溶けているのかを理解する(目標1,2,3) 担当教員: 山本　雅哉
	第3回	「生命の基本単位」-生命の基本単位である細胞の構造を理解する(目標1) 担当教員: 山本　雅哉
	第4回	「3大栄養素」-生命を維持する栄養素,特に糖質,タンパク質,脂質の構造・性質を理解する(目標1) 担当教員: 山本　雅哉
	第5回	「代謝とエネルギー」-生命を維持するエネルギー源を理解する。-(目標1) 担当教員: 山本　雅哉
	第6回	「遺伝」-親から子へ伝えられる形質について理解する(目標1) 担当教員: 山本　雅哉
	第7回	「物質の構成」-物質を構成する原子や分子について理解する(目標2) 担当教員: 山本　雅哉
	第8回	「溶液」-人体を構成する細胞内液や外液が化学的溶液であることを理解する(目標2) 担当教員: 山本　雅哉
	第9回	「pH」-pHの概念と人体における pH調節の重要性について理解する(目標1,2) 担当教員: 山本　雅哉
	第10回	「圧力」-人体の受けている圧力や人体が作る圧力を理解する(目標1,3) 担当教員: 山本　雅哉
	第11回	「速度・加速度」-直線運動の基本的概念を理解する(目標3) 担当教員: 倉山　太一
	第12回	「力と運動(1)」-運動方程式,つりあい,回転運動についてを理解する-(目標3) 担当教員: 倉山　太一
	第13回	「力と運動(2)」-仕事,エネルギーについて理解する。(目標3) 担当教員: 倉山　太一
	第14回	「波動」-聴覚や視覚の源となる光や音の物理的性質を理解する(目標3) 担当教員: 倉山　太一
	第15回	「電気」-電気の基本的概念を理解する(目標3) 担当教員: 倉山　太一

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回～第５回、第６回～第１０回、第１１回～第１５回：それぞれ、生物学、化学、物理学を中心に学習する。それぞれの回ごとに、テーマと合わせてキーワードを示しているが、どんな意味を示すのか予め調べ理解、確認しておくこと。
	復習	第１回～第５回、第６回～第１０回、第１１回～第１５回：それぞれ、生物学、化学、物理学を中心に学習するが、それぞれの回のテーマについて、学んだことがいかに重要なのか、また、生活にいかに関わっているのか説明できるようにすること。
	展開	専門科目を理解する上で必要な知識であることを意識する。

成績評価	評価の基準	1. 生物学の基本的概念、例えば生物の定義について説明できること。 2. 化学の基本的概念、例えば我々を構成する成分はどういった元素が主体で構成されているのか説明できること。 3. 物理学の基本的概念、例えば、動作を説明する上でのテコの原理などについて説明できること。
	評価の方法	定期試験 70%，小テスト 30%として総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GB$106
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A0039501
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	3 共生社会 9 キャリア形成

授業のキーワード	海外の福祉，国際教育，異文化交流
学生の到達目標	1.訪問地の言語，文化，歴史，福祉，教育，各分野での取り組みについて理解する。 2.海外福祉研修に必要な準備（渡航手続き等）や，訪問地での活動に積極的に参加する。 3.訪問地での活動，体験を言語化する。

授業内容	研修前のオリエンテーション（複数回実施）に参加し，研修に備える。現地での具体的研修内容については，オリエンテーション時に提示する。帰国後に，まとめを行い，成果を報告する。 現地では，主に福祉・教育現場やホームステイでの人との交流を通して体験的な学びを行う。保育園・幼稚園で日本語を教え，教材研究の手伝い等，保育スタッフとして演習を行うこともある。	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	学生自身が研修課題を決め，目的意識をもって取り組むために，研修先の社会や文化，宗教等を調べる。他国の文化交流を通して，国を越えて求められる必要な知識・スキル等の予習をする。
	復習	研修課題や，目的意識をもって取り組んだこと，諸外国の異文化に触れ，外国語による学生の自発的なコミュニケーションを通じて，これからの福祉のあり方，自己のあり方について振り返りまとめる。
	展開	自分が学んだ，諸外国の異文化，外国語による学生の自発的なコミュニケーションによって，これからの教育・福祉のあり方，自己のあり方について考えをさらに深める。報告会等で発表する。
成績評価	評価の基準	目標1.2.3に照準を合わせるとともに事前・事後の授業への取り組み態度等により総合的に評価する。 1.海外福祉研修は学生の将来の目標に合わせた幅広い経験学習の場として，学生自身が研修課題を決め，目的意識をもって取り組めたか。 2.諸外国の異文化に触れ，外国語による学生の自発的なコミュニケーションを通じて，これからの教育・福祉のあり方，自己のあり方について考えを深める機会とすることが出来たか。 3.訪問地の活動をまとめ発表することができる。
	評価の方法	研修先における成績（６０％），オリエンテーション（前後）（２０％）の学びとレポート，報告会での成果（２０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・オフィス・アワー：月曜日，5限 ・連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp	

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS106
開講年度	2017年度
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	山本　雅哉
担当教員	上倉　將太 倉山　太一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A0039505
教室	
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養
カリキュラムポリシー	1 徳育・教養

授業のキーワード	グローバル、ユニバーサルスキル、国際交流
学生の到達目標	1. 異なる環境の中で、自らが学んできたことの意義、理解を深化させる。 2. 活発な交流を試み、国際化される社会に対応しようとする意識を高める。 3. 国外での生活体験を通じ、異なる文化がもたらすルール、配慮などについて学ぶ。

授業内容	研修前オリエンテーションを通じ、渡航手続きや異文化という背景がもたらす生活環境の相違について学ぶ。（目標１・３） 現地での研修は、健康福祉のみならず、それを包括する生活・文化を体験できるようなプログラムを準備する。（目標１・２・３） 帰国後に学んだこと、体験したことを総括・発表会を通じ、目標をどれほど達成できたか評価する。（目標１・３）	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	研修前オリエンテーションを通じ、訪問国の文化的背景を学び、現地での生活に備える。また、研修内容から予測される主要項目について予め整理し、英語での学習に備える。
	復習	疑問点は即メモを取ることを心がけ、何が理解できなかったか考える。研修中に解決できるものもあろうが、解決に時間がかかる疑問もあろうかと思われる。問題提起を含め、大切に記録し、今後の成長の糧とする。
	展開	異なる文化の中に身を置くことは、物事を異なる視点で考察するきっかけになる。学ぶことへのモチベーション、また、進む国際化に対応する意識を高め、学んだことを広く実践する意識を育てる。
成績評価	評価の基準	現地での研修、交流を主たる評価対象とするが、そこに至る研修前オリエンテーションなどで、渡航を含めた現地研修への準備を適切に進めることができたか、また、帰国後の発表会で、経験した学びをどれほど具体化し、共有できたかなどの達成度を合わせて評価する。
	評価の方法	研修前オリエンテーション（２０％）、研修における成績（６０％）、発表会での評価（２０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

児童文学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT201
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童文学演習
科目責任者	河村　真奈
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1005001　月4
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	児童文学
学生の到達目標	1．児童文学・絵本についての知識（児童文学史、絵本史、「子ども」と児童文学の関係、「大人」と児童文学の関係などに関する知識）を身につける。 2．作品を読み、児童文学が「子ども」に社会をどのように伝えようとしてきたのかを考える。 3．「子ども」と児童文学との関わりに対して、自分を含めた「大人」はどのように関わっていくべきか考えを深める。

授業内容	第1回	講義のガイダンス（目標１）
	第2回	日本児童文学①：基礎知識、文学史等（目標１）
	第3回	日本児童文学②：作品紹介　1950年代まで（目標２・３）
	第4回	日本児童文学③：作品紹介　1960年代以降（目標２・３）
	第5回	日本児童文学④：作品紹介　1960年代以降（目標２・３）
	第6回	英米児童文学①：基礎知識、文学史等（目標１）
	第7回	英米児童文学②：作品紹介　19世紀（目標２・３）
	第8回	英米児童文学③：作品紹介　20世紀初頭（目標２・３）
	第9回	英米児童文学④：作品紹介　20世紀～現代（目標２・３）
	第10回	絵本（日本）①：基礎知識、文学史等（目標１）
	第11回	絵本（日本）②：作品紹介　「ぐりとぐら」シリーズなど（目標２・３）
	第12回	絵本（日本）③：作品紹介　メディアミックスされた絵本（目標２・３）
	第13回	絵本（海外）①：基礎知識、文学史等（目標１）
	第14回	絵本（海外）②：作品紹介　動物絵本など（目標２・３）
	第15回	絵本（海外）③：作品紹介　ポストモダン絵本（目標２・３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回（共通）推薦図書、授業内で指定された作品を読んでおくこと。
	復習	第1回～第15回（共通）授業内で紹介された作品や参考文献を読み、児童文学への知識、理解を深めること。
	展開	古典・近代の代表的な児童文学作品をふまえた上で、最新の児童文学作品についても知識・理解を深める。 授業内で紹介された作品から選び、学期末レポートを作成することで、自分の考えをまとめ、表現することを学ぶ。
成績評価	評価の基準	１．児童文学・絵本についての知識（児童文学史、絵本史、「子ども」と児童文学の関係、「大人」と児童文学の関係などに関する知識）への理解度・定着度。 ２．児童文学作品を読んだ上で、「子ども」と社会の関係性を十分に考察できているか。 ３．「子ども」と児童文学との関わりに対して、自分を含めた「大人」はどのように関わっていくべきか、十分に考察できているか。
	評価の方法	授業への貢献度（30%）、授業中に課す小レポートもしくは意見発表（30%）、学期末レポート（40%）という配分で評価。総合評価60%以上で合格とする。ただしこの比率は変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	児童文学の教科書
	著者名	川端有子
	出版社	玉川大学出版部
	価格	2,484円
	ISBN・ISSN	978-4472404634

書籍名	シリーズ・日本の文学史１　はじめて学ぶ　日本児童文学史
著者名	鳥越信
出版社	ミネルヴァ書房
価格	3,240円
ISBN・ISSN	4-623-03252-3

書籍名	シリーズ・はじめて学ぶ文学史６　はじめて学ぶ　英米児童文学史
著者名	桂宥子、牟田おりえ
出版社	ミネルヴァ書房
価格	3,024円
ISBN・ISSN	4-623-03850-5

参考URL	
備考	事前に指定された作品を読み、授業内で発表、もしくは講義の後に感想文を書く形式とする（履修人数により変更する）。 第1回の授業で取り上げる作品リストを配布する。 また、授業内で必要な参考文献等、プリントで随時配布する。

幼児・児童音楽演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT202
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	幼児・児童音楽演習
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1006001　木4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	幼児・児童の歌の伴奏法，アンサンブル，音楽劇	
学生の到達目標	１．幼児・児童の歌のレパートリーが増え，伴奏を付けて楽しく歌える。 ２．グループで一つの音楽劇作品を創作する力が身に付く。 ３．ギターの伴奏で弾き歌いができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	幼児・児童の歌のレパートリーを増やす（１）やさしい伴奏を付ける(目標1)

第3回	幼児・児童の歌のレパートリーを増やす（２）伴奏型を変える。子どもの歌の伴奏法(目標1)
第4回	リズム遊び,幼児・児童の歌(目標1) 模擬授業（１）
第5回	子供の歌の伴奏法(目標1) 模擬授業（２）
第6回	ギターを弾く為の基礎技能（１）(目標3)
第7回	ギターを弾く為の基礎技能（２）伴奏法(目標3)
第8回	幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標3)
第9回	グループ発表準備（１） グループ毎に発表の題材を決める（目標2）
第10回	グループ発表準備（２） グループ活動、役割分担等（目標2）
第11回	グループ発表準備（３） グループ活動、台本作成（目標2）
第12回	グループ毎にアンサンブルの練習（１）役割分担、パート練習(目標1,2,3)
第13回	グループ毎にアンサンブルの練習（２）パート練習(目標1,2,3)
第14回	グループ毎にアンサンブルの練習（３）パート練習、全体練習(目標1,2,3)
第15回	グループ毎のアンサンブルの発表（目標1,2,3）。授業の総括,提出レポートに関するガイダンス

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1回予習：保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）と初等音楽教育通論で学んだ楽典の和音・和声の基礎知識を振り返っておく事。第2回~5回予習：幼児・児童の歌の弾き歌いのレパートリーを増やせるように努力する。同時に伴奏形態を変えて演奏できるようにする。第6回~第8回予習：ギターのC.F.Gの各コードの構成音及びギターの弦の配置等について調べておく。第9回~15回予習：音楽劇のグループ発表に向けた準備を各グループ毎に進める。
	復習	第1回復習：ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音とカデンツを演奏できるようにする。第2回~第5回復習：弾き歌いの曲の旋律に対してどのように和音を配置できるか。またその伴奏法を各自学び直して、歌唱声部が引き立つ奏法を探る。第6回~第8回復習：ギターのC.F.Gのコードの奏法を振り返っておく。ギターで簡単な幼児・児童の歌に伴奏ができるようにする。第9回~第15回復習：音楽劇のグループ発表に向けて、各回毎に改善点等を見出せるようにする。
	展開	教育現場ではギターの伴奏による歌の指導も増えてきている。主要三和音とその分散和音を使用して、ギターによる弾き歌いのレパートリを増やすように努力する。音楽劇の題材を探し、台本の作成、大道具・小道具、照明、音楽作品作成等の知識や技術を一層深めるようにする。

成績評価	評価の基準	1.幼児・児童の歌のレパートリーが増え、伴奏を付けて歌えること 2.グループで音楽劇作品を創作できること 3.ギターの伴奏で弾き歌いができること
	評価の方法	グループ毎のアンサンブルの発表 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%

教科書

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた（１）」
著者名	東　保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

書籍名	「心を育む子どもの歌」
著者名	南　曜子・今村方子・今川恭子共著
出版社	教育芸術社
価格	1 ,800円 ＋税
ISBN・ISSN	4-87788-323-1

推薦図書等	
参考URL	
備考	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』を履修していることが望ましい。

絵本・児童画演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT203
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	絵本・児童画演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1007001　木2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術

授業のキーワード　絵本，絵本作り,お絵かき，教材研究，子ども

学生の到達目標

(目標1)絵本や子ども絵に興味関心を持ち、子ども絵や絵本の基本的知識を習得する。子どもにとって良い絵本とは何かを知る。
(目標２)絵本を読む楽しみや喜びを体験し,保育・授業の中で取り扱う絵本について理解を深める。保育,授業に生かすための絵を描くための基本的な教材等の知識,技能を習得する。
(目標３)保育・授業に活かすことができる絵本作りを行う。子どもの絵本作りの支援が出来る。

授業内容	第1回	イントロダクション　本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方 （目標１）
	第2回	絵本について　絵本紹介（目標１）
	第3回	保育で絵本を読むために、その準備と実際（目標１．２）
	第4回	絵本から遊びへ　絵本「へんしんとんねる」のペープサート作り（目標１．２）
	第5回	保育現場の教材としての絵本についてとその実際、こども園、幼稚園、保育園の教材としての絵本とその活用を知る（目標１．２）
	第6回	絵本作り１：お話の材料集め、お話作り（目標２．３）
	第7回	絵本作り２：お話と絵の構成（目標２．３）
	第8回	絵本作り３：製本について（目標２．３）
	第9回	絵本作り４：中身作り、表紙作りについてとその実際（目標２．３）
	第10回	子どもの絵本作りの支援と実際（目標１．２．３）
	第11回	子ども絵の特徴・お絵かきの技法（目標１．２）
	第12回	絵本作り５：絵本の修正（目標2.3）
	第13回	絵本を保育に活かす:子どもの絵本作りの支援と指導の方法(目標3)
	第14回	絵本を保育に活かす:子どもの絵本作りの支援と指導の実際(目標3)
	第15回	まとめ、授業の振り返りと絵本の子どもに与える影響の再確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解しておくこと 第2回　興味のある絵本を数冊読んでおくこと 第3回　子どもにとって良いと思う絵本を数冊選んでおくこと 第4回　絵本を読んで絵本の内容をヒントになった遊びを考えておくこと 第5回　こども園、幼稚園、保育園の教材としての絵本を調べておく第6回絵本作りを行うために、作りたい絵本やストーリーを考えておく 第7回　絵本作りのために、お話と絵の構成を考えておく 第8回　絵本作りのために、お話と絵の構成を準備しておく 第9回　絵本作りのために材料や素材を準備しておく 第10回　子どもの絵本作りの支援と実際を調べておく 第11回　子ども絵の特徴・お絵かきの技法を調べておく 第12回　さらに絵本作りのために材料や素材を準備しておく 第13回　子どもの絵本作りの支援と指導の方法を調べておく 第14回　子どもの絵本作りの支援と指導の実際を調べておく 第15回　第1回～14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
	復習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解たことをまとめておくこと 第2回　子どもにとって良い絵本を考察しまとめておくこと 第3回　子どもにとって良い絵本を考察し、リストにする等、自分でまとめておく 第4回　絵本を読んで絵本の内容をヒントになった遊びを考察しまとめておくこと 第5回　こども園、幼稚園、保育園の教材としての絵本を考察しまとめておくこと

		第6回　絵本作りを行うために、作りたい絵本やストーリーをまとめておくこと 第7回　絵本作りのために、お話と絵の構成をまとめておくこと 第8回　絵本作りのために、お話と絵の構成をまとめておくこと 第9回　絵本作りのために材料や素材を活用できるように教材研究をしてまとめておく 第10回　子どもの絵本作りの支援と実際を考察しまとめておく 第11回　子ども絵の特徴・お絵かきの技法を考察しまとめておく 第12回　さらに絵本作りのために材料や素材を教材研究をしてまとめておく 第13回　子どもの絵本作りの支援と指導の方法を考察してまとめておく 第14回　子どもの絵本作りの支援と指導の実際を考察しまとめておく 第15回　第1回～14回のポイント及び考察の記述を読みまとめておく 上記の復習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
	展開	第1回～15回で扱った内容に関して、絵本・児童画に関する教材研究を行い、保育・教育の現場で活用する。
成績評価	評価の基準	1）授業目標についての理解と取り組みの姿勢 2）子どもにとって良い絵本の理解 3）作品の成果とその発表の内容
	評価の方法	発表（30%），レポート（30%），作品（30%），授業への取り組む姿勢（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	教材費（絵本セット代等）1000円程度必要 汚れてもいい服装 ・オフィス・アワー：月曜日，５限 ・連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp	

玩具・遊具演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT204
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	玩具・遊具演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1008001　木1
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術

授業のキーワード	玩具，遊具，教材研究，子ども，
学生の到達目標	(目標１)玩具・遊具とは何かを知る。教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。 (目標２)教育・保育の中で取り扱う遊具の教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。 (目標3)グッド・トイについて理解し、他者に対してその良さを伝えられるようプレゼンテーション力を身につける。

授業内容	第1回	本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定、子どもの遊びとおもちゃと遊具（目標１）
	第2回	玩具と遊具、教育・保育教材について（目標１）
	第3回	おもちゃ学入門、グッドトイとは何か（目標１）
	第4回	教育・保育教材と素材としてのおもちゃ（目標２）
	第5回	手作りおもちゃの計画と素材準備（目標２）
	第6回	おもちゃ作り（目標2）
	第7回	作ったおもちゃで遊ぶ（目標２）
	第8回	手作りおもちゃとグッドトイ発表準備（目標１）
	第9回	共遊玩具、子どもの発達とおもちゃについて学ぶ。障害のある子のおもちゃ。（目標１）
	第10回	おもちゃと子ども（援助と補助）（目標２）幼稚園、保育園の玩具・遊具の実際（目標２）
	第11回	手作りおもちゃ発表（目標１．２．３）
	第12回	手作りおもちゃ発表と振り返り（目標１．２．３）
	第13回	グッド・トイの調査（目標１．２．３）
	第14回	グッド・トイの発表（目標１．２．３）
	第15回	第1回～14回のポイント及び玩具、遊具の再確認（目標１．２．３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解しておくこと 第2回　興味のある玩具、遊具を調べておくこと 第3回　子どもにとって良いと思う玩具を調べておくこと 第4回　教育・保育教材と素材としての玩具を調べておくこと 第5回　こども園、幼稚園、保育園の教材としての玩具を調べておく 第6回　玩具作りを行うために、作りたい玩具を考えておく 第7回　作りたい玩具の教材研究をしておくこと 第8回　玩具作りのために、作り方や材料を準備しておく 第9回　共遊玩具、子どもの発達とおもちゃについて準備しておく 第10回　おもちゃと子ども（援助と補助）と、幼稚園、保育園の玩具・遊具の実際について考察し、まとめておく 第11回　手作りおもちゃの作り方、遊び方を発表できるよう準備をする 第12回　さらに、手作りおもちゃの作り方、遊び方を発表の方法を考え準備をする 第13回　グッド・トイについて、また選考方法等調べておく 第14回　グッド・トイについて理解したことを発表できるように準備しておく 第15回　第1回～14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
	復習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方についてまとめておくこと 第2回　興味のある玩具、遊具を考察しまとめておくこと 第3回　子どもにとって良いと思う玩具を考察しまとめておくこと 第4回　教育・保育教材と素材としての玩具を考察しまとめておくこと 第5回　こども園、幼稚園、保育園の教材としての玩具を考察しまとめておくこと

		第6回　玩具作りを行うために、作りたい玩具を考察しまとめておくこと 第7回　作りたい玩具の教材研究を考察しまとめておくこと 第8回　玩具作りのために、作り方や材料を準備しておく 第9回　共遊玩具、子どもの発達とおもちゃについてまとめておくこと 第10回　おもちゃと子ども（援助と補助）と、幼稚園、保育園の玩具・遊具の実際について考察し、まとめておく 第11回　手作りおもちゃの作り方、遊び方を発表できるよう準備をする 第12回　さらに、手作りおもちゃの作り方、遊び方を発表の方法を考察しまとめておくこと 第13回　グッド・トイについて、また選考方法等考察しまとめておくこと 第14回　グッド・トイについて理解したことを発表できるようにまとめておくこと 第15回　第1回～14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記復習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める 授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。
	展開	グッド･トイの発表を行うことで、プレゼンテーションカを身につける。授業で学習したことを基に、玩具・遊具・教材を開発、製作し、保育・教育の現場で活用する。
成績評価	評価の基準	1）授業目標についての理解と取り組みの姿勢 2）子どもにとって良い玩具・遊具の理解 3）作品の成果とその発表の内容
	評価の方法	発表（ 30%），レポート（ 30%），作品提出（ 30%），授業への取り組む姿勢（ 10%）
教科書	書籍名	おもちゃで遊ぼう
	著者名	認定ＮＰＯ方針日本グッド・トイ委員会
	出版社	東京おもちゃ美術館
	価格	１,000円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。 ・オフィス・アワー：月曜日，5限 ・連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT201
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1012101　月2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-1 保育の本質・目的
授業のキーワード	保育の意義、子ども観、保育の目的、保育の内容　保育の方法
学生の到達目標	1.保育の意義を理解する。 2.保育の思想や歴史から今日の保育の役割を理解する。 3.保育の目的を理解し、内容と基本的な方法を知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション 子どもを理解する（目標1） 第2回　保育の意義①保育所保育指針（目標1） 第3回　保育の意義②幼稚園教育要領（目標1） 第4回　保育の意義③保育が捉える子ども（目標1）

第5回	保育の意義④保育の対象（目標1）
第6回	保育の思想と歴史①諸外国（目標2）
第7回	保育の思想と歴史②日本（目標2）
第8回	保育の思想と歴史③制度・政策の変遷（目標2）
第9回	保育の思想と歴史④子ども観（目標2）
第10回	保育の目的（目標3）
第11回	保育の内容と方法①物的環境（目標3）
第12回	保育の内容と方法②人的環境（目標3）
第13回	保育の内容と方法③遊び（目標3）
第14回	保育の内容と方法④子どもと家庭、社会（目標3）
第15回	全期のまとめ（目標1，2，3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	次授業の予告を受け情報を探し、自分なりの考察を持つ。
	復習	返却されたリアクションペーパーの内容について、授業内容を踏まえて再考する。
	展開	再考した内容について、文献や授業内容を参考に継続して考察し、自分の考えを言語化できるようにする。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%

教科書	書籍名	保育所保育指針平成20年告示 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館等
	価格	126円
	ISBN・ISSN	457781241X
	書籍名	幼保連携型認定こども園教育・保育要領
	著者名	内閣府
	出版社	フレーベル館等
	価格	162円
	ISBN・ISSN	457781367X

推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領平成２０年告示
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館等
	価格	100円
	ISBN・ISSN	978-4-577-81240-2

参考URL

備考

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT202
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1011101　月1
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-1 保育の本質・目的
授業のキーワード	子育て家庭、子どもの権利、保育の役割
学生の到達目標	1.子どもと子育て家庭に関する現状と福祉的支援について理解する。 2.権利主体としての子ども理解を前提として、児童福祉の法律や政策を歴史的変遷と併せて知る。 3.国内外の状況をふまえ、子ども支援全体における児童福祉および保育士の役割について考える。

授業内容	第1回	オリエンテーション、子どもと子育て家庭の現状①育児不安、育児ストレス（目標1）
	第2回	子ども・子育て家庭の現状 ②貧困（目標1）
	第3回	子ども・子育て家庭の現状③児童虐待（目標1）
	第4回	子ども・子育て家庭の現状 ④学齢以降の子どもの現状など（目標1）
	第5回	権利主体としての子ども理解（目標２）
	第6回	子どもの権利条約（目標2）
	第7回	児童福祉の歴史①近代国家成立以前と以降（目標２）
	第8回	児童福祉の歴史 ②ニーズ対応型から権利基盤型アプローチへ（目標２）
	第9回	児童福祉に関する法律（目標２）
	第10回	児童福祉の費用（目標２）
	第11回	児童福祉に関する相談機関・施設とその担い手（目標3）
	第12回	子どもと子育て支援の連携、ネットワーク（目標3）
	第13回	海外の児童福祉（目標3）
	第14回	児童福祉の役割と保育（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	子どもと子育て家庭についての現状を、新聞記事などから把握する。
	復習	返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。
	展開	再考したテーマについて、文献や授業内容を参考に継続して考察し、自分の考えを言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	新保育士養成講座編纂委員会編『新保育士養成講座第３巻 児童家庭福祉』
	著者名	全国社会福祉協議会
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	１,900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978 -4-7935-1028-1
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT101
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1009101　金5
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　3 共生社会
授業のキーワード	社会福祉の意義と歴史的変遷，社会福祉制度，児童の人権と家庭支援，社会福祉の制度，権利擁護
学生の到達目標	(目標1）社会福祉の意義を歴史的変遷との関わりで説明できるようになる。 (目標2)対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等、また相談援助や利用者保護の仕組みについて説明できるようになる。 (目標3)社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。
授業内容	第1回　社会福祉をめぐる状況(目標1)

	第2回	社会福祉の理念と概念(目標1)
	第3回	社会福祉の歴史的変遷(目標1)
	第4回	社会福祉の仕組み（制度と法体系）（目標2）
	第5回	社会福祉の仕組み（行財政と実施機関、施設）（目標2）
	第6回	社会福祉と社会保障の関係　（目標2）
	第7回	社会保障と関連制度（目標2）
	第8回	低所得者の福祉（目標2，3）
	第9回	子どもと家庭の福祉1（現代の家族と「子ども家庭福祉」（目標2，3）
	第10回	子どもと家庭の福祉2（子どもの人権擁護と家庭支援）（目標2，3）
	第11回	障害者福祉（目標2，3）
	第12回	高齢者福祉（目標2，3）
	第13回	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（目標2，3）
	第14回	社会福祉における相談援助（目標2，3）
	第15回	社会福祉の動向と課題（目標2，3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	毎回予習：次回の該当する内容をテキスト等で確認する。授業の際には、テキストの内容を補足する形で説明する。 第1回予習：データから社会福祉をめぐる現状について調べる。 第2回～5回予習：社会福祉の理念と基本となる枠組みについて調べる。 第6回～7回予習：地元の社会福祉協議会について、直接訪問しボランティア活動している団体の現状と、社会福祉協議会の役割等を調べたものをレポートして提出。授業でその内容の共有及びコメントを行う。 第8回～10.回予習：授業で配布された資料についての見解と、生活保護制度をめぐる現状をレポートとして提出。授業でその内容の共有及びコメントを行う。 第11回～15回予習：今までに取り扱った内容を再度確認することで、それぞれの回のテーマとの関連付けを意識した予習を心掛ける。
	復習	第1回復習：配布された資料(データ)から読み取れることを再度確認する。 第2回～5回復習:授業内容ノートや配布資料等を用いて、授業の要旨を作成する。 第6回～7回復習：授業の要旨を作成する。 第8回～10.回復習：授業の要旨の作成に加え、社会福祉の根幹である貧困問題についての理解を、配布資料等をもとに深める。 第11回～14回復習：授業の要旨の作成に加え、今までの講義内容を再度振り返る。 第15回復習：社会福祉の全体像の理解と今後の課題について、授業で示された資料等を用いて整理を試みる。
	展開	疑問点等について、文献等を利用しさらに理解を深めることで、社会福祉の全体像をつかむ。
成績評価	評価の基準	(1) 社会福祉の意義を歴史的変遷との関わりで説明できること。 (2) 対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等、また相談援助や利用者保護の仕組みについて説明できること。 (3) 社会福祉の動向と課題について理解し、考察できること。
	評価の方法	平常点（期間中に課すレポート）（30%），期末筆記試験（70%）で評価を行う。

教科書	書籍名	保育士を目指す人の社会福祉
	著者名	相澤譲治編
	出版社	（株）みらい
	価格	2 ,000円 +税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-86015-252-9

推薦図書等	
参考URL	
備考	オフィスアワー：金曜1限 e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT203
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1010102　前期　金3 A1010101　前期　金1
教室	中講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 9 キャリア形成
授業のキーワード	援助過程，援助関係，コミュニケーション，福祉倫理	
学生の到達目標	1.相談援助の意義・目的を理解する。 2.相談援助の方法を理解し,基本的な相談援助技術を身につけ,保育場面で相談実践が出来るようになる。 3.相談援助を行う者の有する価値・倫理・倫理綱領を学び,保育場面で遵守することができるようになる。	

授業内容	第1回	授業の進め方・評価方法 相談援助とは(目標1)
	第2回	相談援助場面(構成要素・展開過程・倫理)(目標1)
	第3回	相談援助の技法1援助関係(目標2)
	第4回	相談援助の技法2コミュニケーション(目標2)
	第5回	相談援助の技法3傾聴(目標2)
	第6回	相談援助の技法4記録(目標2)
	第7回	相談援助の技法5面接(目標2)
	第8回	相談援助の技法6アセスメント(目標2)
	第9回	相談援助の技法7評価(目標2)
	第10回	相談援助の事例1(目標1,2,3)
	第11回	相談援助の事例2(目標1,2,3)
	第12回	相談援助の事例3(目標1,2,3)
	第13回	相談援助の事例4(目標1,2,3)
	第14回	関連機関との連携(目標1,2,3)
	第15回	チームアプローチ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～１５回（共通）教科書の指定箇所を読んで，ワークシートを仕上げる。
	復習	第１回～１５回（共通）授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べ，まとめておく。
	展開	保育の現場で相談支援を行う基礎として学び、保育相談支援ができるように展開する。
成績評価	評価の基準	上記に掲げた１・２・３の達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業へ取り組む意欲10%で評価する。
教科書	書籍名	「相談援助ワークブック」
	著者名	古川繁子、根本曜子、田村光子、井上深雪
	出版社	学文社
	価格	1800
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2453-5
推薦図書等		
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成する。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要である。	

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT204
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1014101　後期　火1 A1014102　後期　火2
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	社会的養護，子どもの最善の利益、児童虐待，児童福祉施設，家庭的養護，	
学生の到達目標	1.子どもの社会的養護をめぐる現状(特に虐待問題)を知り,児童の権利擁護と保育所,学校,施設の新たな役割を認識する。 2.社会的養護の意義とその制度・実施体系及び歴史を学び,基礎的な知識を身につける。 3.児童福祉施設の現状と課題を理解し,これからの児童養護のあり方について自ら考えることができる。	

授業内容	第1回	社会的養護とは何かⅠ・・・社会的養護の理念と体系(目標1)
	第2回	社会的養護の現状と課題（１）児童虐待の現状と地域福祉(目標1、２，３)
	第3回	社会的養護の現状と課題（２）児童家庭福祉と社会的養護～子育てをめぐる社会状況～(目標1)
	第4回	社会的養護の歴史的変遷(1)古代から明治期まで(目標2)
	第5回	社会的養護の歴史的変遷(2)明治期から現代まで(目標2)
	第6回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（１）児童相談所の役割(目標2)
	第7回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（２）養育環境に問題がある児童の施設養護①(乳児院)(目標3)
	第8回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（３）養育環境に問題がある児童の施設養護②(児童養護施設 母子生活支援施設)(目標3)
	第9回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（４）情緒・行動面に問題がある児童の施設養護(児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設)(目標３)
	第10回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（５）障害のある児童の施設養護(福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設)(目標３)
	第11回	社会的養護のしくみと施設養護の実際（６）家庭養育を支援する施設（児童発達支援センター・児童家庭支援センター）(目標３)
	第12回	家庭的養護と施設養護(目標３)
	第13回	子どもの権利擁護と自立支援(目標１．２．３)
	第14回	被措置児等虐待の防止と倫理の確立(目標１，２，３)
	第15回	社会的養護とはⅡ・・・社会的養護のまとめ(目標１，２，３)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1～3回　虐待等の子どもに係る社会的問題に日頃から関心を持ち，新聞・テレビ等の報道を調べておくこと。及ぶ自らの体験と合わせて理解しておくこと。 第4～15回　授業内容に関連した項目について，事前に教科書や関連図書を読んでおくこと。
	復習	第1～15回　毎回の授業のプリントを見直し、理解しておくこと。さらに毎回の授業に関連する教科書の内容を読み、知識・理解を深めること。
	展開	１　社会的養護に関する最新の新聞情報等や研究成果を調べ、知識・理解を深める。 ２　社会的養護における将来の自分（保育士・教師等）の役割について考えていくこと。
成績評価	評価の基準	１　社会的養護を巡る状況及び子どもの権利擁護の理解度、定着度。 ２社会的養護の歴史と制度について基礎的な知識を身につけていること。 ３　児童福祉施設の特色と現状を理解し、社会的養護とは何か、その中での保育士の役割を的確に説明できること。
	評価の方法	期末試験90%　授業中のレポート10%

教科書

書籍名	新保育ライブラリ　社会的養護(新版)
著者名	櫻井慶一編著
出版社	北大路書房

	価格	1700円
	ISBN・ISSN	978－4－7628－2840-9　C3337

推薦図書等	書籍名	ぶどうの木
	著者名	坂本洋子
	出版社	幻冬社文庫
	価格	583円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－344－40443－4

参考URL	厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/
備考	その他の「推薦図書等」は授業中に紹介する。

子どもの保健ＩＡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT301
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＡ
科目責任者	内海　恵美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1015101　月2
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	小児保健，発育，発達，健康，子どもの病気
学生の到達目標	1.小児の保健の意義と目的を理解する。 2.小児の発育・発達過程について基本的な知識を身につける。 3.小児に特有な事故，疾病についての知識を得て，基本的対応がわかる。
授業内容	第1回　小児保健総論(目標1) 第2回　発育発達（1）(目標2)

第3回	発育発達（2）(目標2)
第4回	生理機能(目標2)
第5回	運動機能(目標2)
第6回	精神発達(目標2)
第7回	食事・栄養(目標2)
第8回	環境・生活(目標2,3)
第9回	事故・応急処置(目標2,3)
第10回	予防接種・感染症(目標1,3)
第11回	子どもの病気（1）呼吸器・循環器(目標2,3)
第12回	子どもの病気（2）消化器・腎・血液(目標2,3)
第13回	子どもの病気（3）内分泌・代謝(目標2,3)
第14回	子どもの病気（4）免疫・アレルギー(目標2,3)
第15回	母子保健対策(目標1,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　下記２点をレポート用紙一枚にまとめておく（授業後提出） ①小児保健に関して学びたいこと・興味関心があること200文字程度 ②小児保健分野における文献・書籍・Websitesなどで今後参考になりそうと思われたものを５件程度 第2～15回（共通）　シラバスを参考に，次回の授業内容について関連図書等を読み，授業内での質問・疑問や考えを表出できるようにしておく。
	復習	第1～15回（共通）　授業の要旨をまとめておく。また，関連するニュースや知見を収集する。
	展開	小児保健に関する内容で興味関心のあるテーマについて，文献や研究成果を調べ，知識を深める。

成績評価	評価の基準	1. 小児の保健の意義と目的の理解度。 2. 小児の発育・発達過程について基本的な知識の習熟度。 3. 小児に特有な事故・疾病についての知識/基本的対応の理解度。
	評価の方法	筆記試験80%，講義への参加度(レポート等)20%，試験結果によって再試験を実施。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	新保育士養成講座　第7巻　子どもの保健　改訂2版(2015/08)
	著者名	新保育士養成講座編纂委員会編
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	1900円＋税
	ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ：978-4-7935-11707

参考URL

備考

子どもの保健ＩＢ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT302
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＢ
科目責任者	内海　恵美
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1016101　月2
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	障がいをもつ子ども，発達障害，医療的ケア
学生の到達目標	1.子どもの障がいについて知識を習得する。 2.障がいの内容とその対処法について理解する。 3.一人一人に合った対応を自ら考え、実践につなげることができる。
授業内容	第1回　障がいとは(目標1) 第2回　視覚障害・聴覚障害(目標1,2)

第3回	肢体不自由・脳性麻痺(目標1,2)
第4回	知的障害(目標1,2)
第5回	精神疾患・発達障害（1）知識(目標1,2)
第6回	精神疾患・発達障害（2）対応(目標1,2)
第7回	内部障害(目標1,2)
第8回	遺伝性疾患・先天性疾患(目標1,2)
第9回	重症心身障害児(目標1,2)
第10回	医療的ケア(目標1,2)
第11回	特別支援教育(目標1,2)
第12回	小児のリハビリテーション(目標1,2)
第13回	医療費助成・福祉制度(目標1,3)
第14回	虐待(目標1,3)
第15回	保健室登校(目標1,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　下記２点をレポート用紙一枚にまとめておく（授業後提出） ①子どもの障がいに関して学びたいこと・興味関心があること200文字程度②障害児保育・教育分野における文献・書籍・Websitesなどで今後参考になりそうと思われたものを５件程度 第2～15回（共通）　シラバスを参考に，次回の授業内容について関連図書等を読み，授業内での質問・疑問や考えを表出できるようにしておく。
	復習	毎回授業の要旨をまとめておく。
	展開	子どもの障がいに関する内容で興味関心のあるテーマについて，文献や研究成果を調べ，知識を深める。

成績評価	評価の基準	１．子どもの障がいについて知識の習熟度。 ２．障がいの内容とその対応方法についての理解度。 ３．事例に合わせた対応を自ら考える能力が表現されていること。
	評価の方法	筆記試験80%，講義への参加度（レポート等）20% 試験結果によって再試験を実施

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	障害児保育－子どもとともに成長する保育者を目指して
	著者名	藤永　保　監修
	出版社	萌文書林
	価格	1,900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978－4－89347－166－6

参考URL	
備考	

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT303
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A1017101　前期　金5 A1017102　後期　月4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	小児の発育と発達，小児の疾患，救急処置，感染症予防	
学生の到達目標	1.健常な小児の発育とその判定基準を理解し,健康診断の意義を知る。 2.小児の疾患の早期発見と保育施設での援助の実際を知る。 3.感染症の対応と予防について学び,応急手当が適切に行える。	

授業内容	第1回	小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱、母子健康手帳（目標1）
	第2回	身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ（目標1）
	第3回	発達の判定（目標1）
	第4回	子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題）（目標1）
	第5回	排泄（目標1）
	第6回	睡眠（目標1）
	第7回	衣服，健康増進，遊び（目標1）
	第8回	衛生管理（目標1）
	第9回	応急手当（目標3）
	第10回	応急手当（目標3）
	第11回	病気と異常（症状と対応）（目標2）
	第12回	病気と異常（主な病気と対応）（目標2）
	第13回	くすり（目標2） 感染症（目標3）
	第14回	感染症（目標3）
	第15回	問題演習（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	1~3回　母子健康手帳の内容を調べる。（60分） 4回　栄養素について調べる。 　自分の食事を栄養学的に評価する（90分） 5回　排尿排便のメカニズムについて調べる。（60分） 6回　自分の睡眠時間を記録し体調と比較してみる。（60分） 7,8回　子どもの入浴、歯磨き、手洗い、服装について　調べる。（45分） 9,10回　傷の手当の方法を書き出す。（90分） 11,12回　発熱のメカニズムを調べる。発熱時のケアについて書いてみる。 13,14回　学校感染症の2種を書き出し潜伏期間、症状、感染経路、ワクチンなどについて調べる。（90分）
	復習	1～8回　ノートを整理して内容を理解する。（45分） 9～15回　教科書以外の文献を見る。（45分）
	展開	保育実習中で保健に関することでの「気づき」を記録する。
成績評価	評価の基準	1.小児の成長について正しく理解し，その測定と判定が適正にできる。健康な生活を支援できる。 2.病気の予防とケアが適正に行える。 3.感染症を理解し，発症時はケアができること。また，感染予防が行えること。
	評価の方法	100%考査で評価する。（60点以上を合格とする。）

教科書

書籍名	保育保健2016
著者名	遠藤郁夫監修
出版社	日本小児医事出版
価格	2,０00円＋税
ISBN・ISSN	978-4-88924-246-1

推薦図書等	書籍名	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療
	著者名	大塚親哉　監修　金子堅一郎　編集
	出版社	南山堂
	価格	10,000円＋税
	ISBN・ISSN	9784525283537
	書籍名	子供の病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦・柳澤正義　監修
	出版社	講談社
	価格	4,000円＋税
	ISBN・ISSN	9784062066051
	書籍名	これならわかる！子どもの保健演習ノート
	著者名	榊原洋一監修　小林美由紀執筆
	出版社	診断と治療社
	価格	2000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1883-6　C3047

参考URL

備考

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT304
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	台蔵　昌子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A1018101　前期　木3, 4 A1018102　後期　木3, 4
教室	調理実習室,講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	胎児・小児期の発育と発達，栄養摂取法，健全な食生活
学生の到達目標	1.小児の発達過程と必要な栄養素の重要性を理解する。 2.健康児や病児・障害のある小児など児童福祉施設における食生活の特徴と留意点を理解する。
授業内容	第1回　小児の健康な生活と食生活の意義（目標１） 第2回　小児の発育・発達と食生活(目標1)

第3回	栄養・食品・調理と安全性に関する基本的知識(目標1)
第4回	妊娠期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
第5回	授乳期の食生活の特徴とその実践法(目標3)
第6回	乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 1)乳汁栄養(母乳栄養と人工栄養)(目標1,2)
第7回	乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 2)離乳の意義とその実践法(目標1,2)
第8回	幼児期の食生活の特徴とその実践法と食育(食事摂取基準と配分,生活リズム)(目標1,2)
第9回	幼児期の間食・弁当の意義とその実践法と食育(目標２)
第10回	幼児期の偏食・むら食い・食欲不振等栄養上の問題点と健康への対応と食育(目標2)
第11回	学童期・思春期の心身の特徴と食生活の在り方と食育(目標1)
第12回	小児期の疾病と特徴と食生活・食事療法(目標2)
第13回	障害のある小児(主として摂食・嚥下機能障害児)の食生活と食事介助法(目標2)
第14回	児童福祉施設(保育所・養護施設),幼稚園における食生活の特徴と食育,支援(目標2)
第15回	学生による発表と討論及び総まとめ(目標１・２)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　自分自身の食生活に関心を持つ事。何をどのくらい食べたかを記録して臨むこと。 第2回～第15回　各ライフステージにおける特徴を３～５項目調べ,箇条書きにして授業に臨むこと。
	復習	第1回　自分自身の食生活と食事摂取基準をてらし併せて食から健康を考える。 第2回～第14回 各ライフステージにおける調理実習実施後の各班の作品を観察し,感想と反省点などのレポートを作成し提出する。 第15回　食育に関してのテーマを選び、各班毎に発表し,その成果・感想に関してレポートを書く。
	展開	個々の学生が学習してきた内容からテーマを選び，論文形式にまとめ4年生への卒業研究論文の導入につなげる。

成績評価	評価の基準	1.座学で学んだ理論などを調理実習を通して理解し，定着していること。 2.食事内容（献立の違い）から，健常児とそれ以外の病児の違いを理解すること。 （例として，食物アレルギー，小児糖尿病などの食事の内容の違い）
	評価の方法	平常点5%，研究発表20点,レポート点25%，期末筆記試験50%,

教科書

書籍名	子どもの食と栄養演習
著者名	小川・坂本・曽根・豊原・中嶋著
出版社	建帛社
価格	￥2,730（税込み）
ISBN・ISSN	978-4-7679-3282-8C3037

	書籍名	「漢字で食育」
	著者名	砂田登志子著
	出版社	求龍堂
	価格	972円
	ISBN・ISSN	4-7630-0117-5
推薦図書等		
	書籍名	「家庭の食育」
	著者名	服部幸雄監修
	出版社	㈱オーガニックパパ
	価格	1620円
	ISBN・ISSN	雑誌　18048-12

参考URL

備考

・乳児保育演習（２年次）が身についていることが望ましい。
・自分自身の食生活に関心を持つこと。
・実験着（エプロン，三角巾）を使用することがある。使用の場合は前々週に連絡する。
・調理作品の展示と評価
・グループ学習による発表

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT305
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1020101　月1
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	全ての子育て家庭、子どもと家族、支援の方法	
学生の到達目標	1.子どもをめぐる今日的課題と家族の変容とを関連付けて理解する。 2.子どもだけでなく、家族を支援することが保育の対象であることを認識し、家族支援の基本的な方法を知る。 3.子どもの最善の利益を実現するために、地域における全ての子育て家庭を支援する意欲を培う。	

授業内容	第1回	オリエンテーション、自分と家族を考える（目標1）
	第2回	家族の定義と家族の変容（目標1）
	第3回	家族の今日的課題①子どもの抱える課題（目標1）
	第4回	家族の今日的課題②親の抱える課題（目標1）
	第5回	家族の今日的課題③家族と社会との関係性における課題（目標1）
	第6回	子育て課題と家族の課題との関係性（目標2）
	第7回	家族におこる問題と支援の検討①虐待、障がいなど（目標2）
	第8回	家族におこる問題と支援の検討②DV、疾病など（目標2）
	第9回	家族の固有性と支援の検討①若年親（目標2）
	第10回	家族の固有性と支援の検討②高齢親（目標2）
	第11回	地域における子育て家庭の実態（目標3）
	第12回	在宅親子への支援の検討（目標3）
	第13回	予防的支援、継続的支援（目標3）
	第14回	子育て支援とマネージメント（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	子どもが呈する問題を家族の課題から読み解き、レポートできるようにしておく。
	復習	返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。
	展開	子どもの最善の利益の実現のために家族を支援する筋道をたて、言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	書籍名	保育所における母親への支援－子育て支援をになう視点・方法分析－
	著者名	小川晶
	出版社	学文社
	価格	1800円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN　978-4-7620-2493-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT102
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術（身体表現）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1023301　前期　火2 A1023302　前期　火3
教室	Eスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	身体表現，保育，動き創り	
学生の到達目標	1．他者との関わりの中で身体を動かすことの楽しさを味わうこと。 2．自分や他者の身体や表現について様々な気づきを持つこと。 3．授業内だけでなく，日常生活の中での学生自身と子どもの身体表現を考えることができること。	

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1)
	第2回	リズムあそびを通したコミュニケーション(目標1)
	第3回	身体でいろいろな形をつくる（目標3）
	第4回	他者との関わりから生まれる表現（目標1）
	第5回	身体の部位を使った表現（目標2）
	第6回	模倣からの表現（目標1,3）
	第7回	子どものころに体験したいろいろなあそび（目標1,3）
	第8回	他者の身体を動かしてみよう（人間彫刻）（目標2,3）
	第9回	色々なモノを使った表現（目標1,2,3）
	第10回	色々なモノを使った表現（目標1,2,3）
	第11回	ヒントを元に動きを創ってみよう1（目標1,2,3）
	第12回	ヒントを元に動きを創ってみよう2（目標1,2,3）
	第13回	創作(1)(目標1,2)
	第14回	創作(2)(目標1,2)
	第15回	学生による発表とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　以下の参考図書など，身体表現に関連した図書を読んでおくこと。 第2回～12回　自分の身体に興味を持ち，家でストレッチなどして身体をほぐしておくこと。 第13回～15回　身体表現に日常から関心を持ち，見たことや感じたことを自分なりにまとめ，創作の際のアイディアに役立てること。
	復習	第1回～15回　毎回の配布物や授業の内容を確認し,自分の身体への気づきや理解を深めるよう努めること。
	展開	授業の内容だけにとどまらず、それを踏まえた上で、実習などの場において自分なりに考えた内容や取り組みを積極的に実践すること。
成績評価	評価の基準	１．授業に対する積極的な態度及び身体を動かすことへの関心度があるか。 ２．他者の身体や動きに関する興味や関わり方への積極性があるか。 ３．身体表現への自分なりの理解が深められているか。
	評価の方法	受講態度（50%） 創作発表（30%） レポート（20%） 授業の最後にグループでの創作発表を行う。また、授業毎に授業の内容に関するミニレポートを提出する。 定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	保育と幼児期の運動あそび
	著者名	岩崎洋子
	出版社	萌文書林
	価格	2,100円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-130-7

参考URL	
備考	動きやすい服装（ジーパン、スカートは不可）と積極的な姿勢で参加すること。筆記用具と水分補給のための飲み物を持参すること。

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021101　前期　月3 A1021102　前期　月4
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，歌唱	
学生の到達目標	1.身の回りの様々な音や音楽に親しみ、子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 2.自力で楽譜を読み、子どもの歌をやさしい伴奏で弾き歌いすることができる。 3.子どもの歌に親しみ、子どもの発達に即した活用法を考えようとする。	
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育における音楽表現活動（目標1）	

第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標2)
第3回	『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27（ト音記号の読譜）(目標2)
第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標1,2)
第5回	～ №39(ヘ音記号の読譜）（目標2）
第6回	主要三和音に慣れる(目標1,2)
第7回	～ №47（ハ長調）(目標2)
第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,2)
第9回	～ №56（イ短調・ト長調）(目標2)
第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
第11回	音楽表現を含む遊びの展開～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より生活あそびの歌(目標1,2,3)
第12回	子どもの発達に即した教材の活用法（１）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
第13回	子どもの発達に即した教材の活用法（２）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
第14回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（１）(目標1,2,3)
第15回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（２）(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	小・中学校の音楽の授業で学んだ基礎知識を振り返り、楽譜を読めるようにする。第3回授業以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して1週間継続的に毎日30分は時間をかけて練習するように努力する事。第11回授業以降の弾き歌いに関しても同様である。
	復習	第1回から15回までの各回において、授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。毎日30分の継続練習の初めに、その日に注意を受けた誤りの訂正から始める。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。そのため、毎日30分の継続練習の最後は新しい曲の練習を行う。

成績評価	評価の基準	1.身の回りの様々な音や音楽に興味を持ち、音楽表現活動を楽しむ意欲がもてること 2.自力で楽譜が読めること、子どもの歌にやさしい伴奏を付けて弾き歌いができること 3.子どもの歌に親しみ、発達に即した活用法を考えることができること
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（70%），毎時間の課題曲への取り組み（30%）

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1 ,200円＋税
ISBN・ISSN	4 -8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	２,600円＋税
ISBN・ISSN	4 -11-620050-6

推薦図書等

参考URL

備考

努力すれば必ず弾けるようになります。
課題を各自よく練習して授業に臨んで下さい。
鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用しましょう。

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021103　前期　月3 A1021104　前期　月4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，歌唱	
学生の到達目標	１．身の回りの様々な音や音楽に親しみ,子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 ２．自力で楽譜を読み,子どもの歌をやさしい伴奏で弾き歌いすることができる。 ３．子どもの歌に親しみ,子どもの発達に即した活用法を考えようとする。	
授業内容	第1回　オリエンテーション 保育における音楽表現活動(目標1)	

第2回	楽譜を読むための基礎知識 ピアノを弾くための基礎知識(目標2)
第3回	『おとなのためのバイエル教本』～No.27（ト音記号の読譜）(目標2)
第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標1,2)
第5回	『おとなのためのバイエル教本』～No.39（ヘ音記号の読譜）(目標2)
第6回	主要三和音に慣れる(目標1,2)
第7回	『おとなのためのバイエル教本』～No.47（ハ長調）(目標2)
第8回	旋律に伴奏をつける(目標1,2)
第9回	『おとなのためのバイエル教本』～No.56（イ短調・ト長調）(目標2)
第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
第11回	音楽表現を含む遊びの展開～『やさしいばんそうによるこどものうた（1）』より生活あそびの歌(目標1,2,3)
第12回	子どもの発達に即した教材の活用法（1）～『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』より選択(目標2,3)
第13回	子どもの発達に即した教材の活用法（2）～『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』より選択(目標2,3)
第14回	保育現場を想定し、生活あそび・子どもの歌を取り入れて発表を行う（1）(目標1,2,3)
第15回	保育現場を想定し、生活あそび・子どもの歌を取り入れて発表を行う（2）(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回 ・購入した教科書に目を通しておく 第２回～第15回共通 ・毎授業時に個々の学生に合わせて設定された課題に継続的に取り組み、次回の授業に備える。
	復習	第2回～第15回共通 ・毎授業時に示された課題点（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）を復習して解決する。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。
	展開	・保育現場での音楽表現活動を想像し、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やす。

成績評価	評価の基準	１．子どもとともに音楽表現を楽しむための意欲を持ち、毎回の課題に積極的に取り組めたか。 ２．実技試験において課題曲を弾きこなすことができたか。 ３．現場を想定して成果を発表できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（ 70%）毎時間の課題曲への取り組み（ 30%）

教科書

書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
著者名	坂東貴余子・本間正治
出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 4285142775

書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
著者名	東　保　編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	ISBN:4116200506

推薦図書等

参考URL

備考

保育士資格取得のための必修授業です。幼保専攻の1年生は、指定されたクラスで受講してください。
初回の授業に出席できない場合には、必ず事前に高木k-takagi@uekusa.ac.jpまで連絡してください。
個人指導を中心にグループ学習・クラス内での発表を行います。
初心者でも指導に従って練習すれば現場に出て困らないだけの演奏技術を習得することができます。毎日 30分は練習して下さい。
毎時間、教科書を忘れずに持参してください。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021105　前期　月3 A1021106　前期　月4
教室	ピアノ演習室2
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，歌唱	
学生の到達目標	1.身の回りの様々な音や音楽に親しみ、子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 2.自力で楽譜を読み、子どもの歌をやさしい伴奏で弾き歌いすることができる。 3.子どもの歌に親しみ、子どもの発達に即した活用法を考えようとする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽表現活動（目標1）
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標2)
	第3回	『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27（ト音記号の読譜）(目標2)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標1,2)
	第5回	～ №39(ヘ音記号の読譜）(目標2)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,2)
	第7回	～ №47（ハ長調）(目標2)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,2)
	第9回	～ №56（イ短調・ト長調）(目標2)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	音楽表現を含む遊びの展開～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より生活あそびの歌(目標1,2,3)
	第12回	子どもの発達に即した教材の活用法（１）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第13回	子どもの発達に即した教材の活用法（２）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第14回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	小・中学校の音楽の授業で学んだ基礎知識を振り返り、楽譜を読めるようにする。第3回授業以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して1週間継続的に毎日30分は時間をかけて練習するように努力する事。第11回授業以降の弾き歌いに関しても同様である。
	復習	第1回から15回までの各回において、授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。毎日30分の継続練習の初めに、その日に注意を受けた誤りの訂正から始める。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。そのため、毎日30分の継続練習の最後は新しい曲の練習を行う。
成績評価	評価の基準	1.身の回りの様々な音や音楽に興味を持ち、音楽表現活動を楽しむ意欲がもてること 2.自力で楽譜が読めること、子どもの歌にやさしい伴奏を付けて弾き歌いができること 3.子どもの歌に親しみ、発達に即した活用法を考えることができること
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（70%），毎時間の課題曲への取り組み（30%）

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社

価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等

参考URL

備考

努力すれば必ず弾けるようになります。
課題を各自よく練習して授業に臨んで下さい。
鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用しましょう。

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021107　前期　月3 A1021108　前期　月4
教室	ピアノ演習室3
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，歌唱	
学生の到達目標	1.身の回りの様々な音や音楽に親しみ、子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 2.自力で楽譜を読み、子どもの歌をやさしい伴奏で弾き歌いすることができる。 3.子どもの歌に親しみ、子どもの発達に即した活用法を考えようとする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽表現活動（目標1）
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標2)
	第3回	『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27（ト音記号の読譜）(目標2)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標1,2)
	第5回	～ №39(ヘ音記号の読譜）(目標2)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,2)
	第7回	～ №47（ハ長調）(目標2)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,2)
	第9回	～ №56（イ短調・ト長調）(目標2)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	音楽表現を含む遊びの展開～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より生活あそびの歌(目標1,2,3)
	第12回	子どもの発達に即した教材の活用法（１）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第13回	子どもの発達に即した教材の活用法（２）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第14回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	小・中学校の音楽の授業で学んだ基礎知識を振り返り、楽譜を読めるようにする。第3回授業以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して1週間継続的に毎日30分は時間をかけて練習するように努力する事。第11回授業以降の弾き歌いに関しても同様である。
	復習	第1回から15回までの各回において、授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。毎日30分の継続練習の初めに、その日に注意を受けた誤りの訂正から始める。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。そのため、毎日30分の継続練習の最後は新しい曲の練習を行う。
成績評価	評価の基準	1.身の回りの様々な音や音楽に興味を持ち、音楽表現活動を楽しむ意欲がもてること 2.自力で楽譜が読めること、子どもの歌にやさしい伴奏を付けて弾き歌いができること 3.子どもの歌に親しみ、発達に即した活用法を考えることができること
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（70%），毎時間の課題曲への取り組み（30%）

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社

価格	1 ,200円＋税
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,600円＋税
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力すれば必ず弾けるようになります。 課題を各自よく練習して授業に臨んで下さい。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用しましょう。

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	松尾　聖子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1021109　前期　月3 A1021110　前期　月4
教室	ピアノ演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，歌唱	
学生の到達目標	1.身の回りの様々な音や音楽に親しみ、子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 2.自力で楽譜を読み、子どもの歌をやさしい伴奏で弾き歌いすることができる。 3.子どもの歌に親しみ、子どもの発達に即した活用法を考えようとする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽表現活動（目標1）
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標2)
	第3回	『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27（ト音記号の読譜）(目標2)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標1,2)
	第5回	～ №39(ヘ音記号の読譜）(目標2)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,2)
	第7回	～ №47（ハ長調）(目標2)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,2)
	第9回	～ №56（イ短調・ト長調）(目標2)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	音楽表現を含む遊びの展開～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より生活あそびの歌(目標1,2,3)
	第12回	子どもの発達に即した教材の活用法（１）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第13回	子どもの発達に即した教材の活用法（２）～『やさしい伴奏によるこどものうた(1)』より選択(目標2,3)
	第14回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定し,生活あそび,子どもの歌を取り入れて発表を行う（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	小・中学校の音楽の授業で学んだ基礎知識を振り返り、楽譜を読めるようにする。第3回授業以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して1週間継続的に毎日30分は時間をかけて練習するように努力する事。第11回授業以降の弾き歌いに関しても同様である。
	復習	第1回から15回までの各回において、授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。毎日30分の継続練習の初めに、その日に注意を受けた誤りの訂正から始める。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。そのため、毎日30分の継続練習の最後は新しい曲の練習を行う。
成績評価	評価の基準	1.身の回りの様々な音や音楽に興味を持ち、音楽表現活動を楽しむ意欲がもてること 2.自力で楽譜が読めること、子どもの歌にやさしい伴奏を付けて弾き歌いができること 3.子どもの歌に親しみ、発達に即した活用法を考えることができること
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（70%），毎時間の課題曲への取り組み（30%）
教科書		
	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社

価格	1 ,200円＋税
ISBN・ISSN	4 -8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,600円＋税
ISBN・ISSN	4 -11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力すれば必ず弾けるようになります。 課題を各自よく練習して授業に臨んで下さい。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用しましょう。

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021201　月4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法	
学生の到達目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気づき、子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度が身につく。 ２．子どもの歌をその音楽性を味わいながら弾き歌いする力がつく。 ３．子どもの歌とピアノ曲のレパートリーを増やし、子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考える力がつく。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動　音楽表現活動と他の表現活動との関わり （目標1,3）
	第2回	子どもの歌の弾き歌い（１）『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそびの歌と身体表現活動(目標1,3)
	第3回	＃１つの調性の曲に慣れる。「おとなのためのバイエル教本」(目標1,3)
	第4回	子どもの歌の弾き歌い（２）「やさしい伴奏によるこどものうた（１）」から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第5回	＃２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第6回	子どもの歌の弾き歌い（３）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第7回	ｂ１つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第8回	子どもの歌の弾き歌い（４）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第9回	♭２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第10回	子どもの歌の弾き歌い（５）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第11回	易しい移調法と伴奏の工夫(目標1,3)
	第12回	子どもの歌の弾き歌い（６）わらべうたと遊びの展開(目標1,3)
	第13回	保育現場で必要な子どもの歌等のレパートリーを増やす(目標3)
	第14回	保育現場を想定してた生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定した生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・第1回から15回まで、各回30分程度の練習時間を確保する。 ・指定された課題曲を自力で読譜し、弾けるようにして授業に臨む。 ・翌週は歌のパートを加えて弾き歌いの練習をする。 ・さらに暗譜して自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最初に、その日の授業時に指摘された誤りや注意をその日の内に直すように心がける。 ・合格した課題曲を音楽性豊かに表現できるように、さらに練習を積み重ねる。
	展開	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最後に、保育現場の音楽表現活動を想定して、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やすように努力する。
成績評価	評価の基準	1.子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めることができること。 2.子どもの歌の音楽性を味わいながら、弾き歌いできること。 3.子どもの歌のレパートリーを増やし、子どもの音楽表現力を伸ばすための教材活用法を考えることができること。

	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，毎時間の課題曲への取り組み 30%

教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1 ,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,600円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。初回の授業に必ず出席しましょう。 「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」の履修者、あるいは同程度のピアノ演奏技能があることを前提に授業を行います。課題曲を各自よく練習して授業に臨みましょう。

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021202　月4
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法	
学生の到達目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気づき,子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 ２．子どもの歌をその音楽性を味わいながら弾き歌いしようとする。 ３．子どもの歌とピアノ曲のレパートリーを増やし,子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考えようとする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動 音楽表現活動と他の表現活動との関わり(目標1,3)
	第2回	子どもの歌の弾き歌い（1）生活あそびの歌と身体表現活動(目標1,3)
	第3回	♯1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第4回	子どもの歌の弾き歌い（2）『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第5回	♯2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第6回	子どもの歌の弾き歌い（3）『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』から各自の選曲による②(目標1,2,3)
	第7回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第8回	子どもの歌の弾き歌い（4）『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』から各自の選曲による③(目標1,2,3)
	第9回	♭2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第10回	子どもの歌の弾き歌い（5）『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』から各自の選曲による④(目標1,2,3)
	第11回	易しい移調奏と伴奏の工夫(目標1,3)
	第12回	子どもの歌の弾き歌い（6）わらべうたと遊びの展開（目標1，3）
	第13回	保育現場で必要な子どもの歌等のレパートリーを増やす(目標3)
	第14回	保育現場を想定した生活あそび・子どもの歌を教材とした各学生による発表（1）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定した生活あそび・子どもの歌を教材とした各学生による発表（2）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 ・購入した教科書に目を通しておく 第2回～第15回共通 ・毎回の授業で指定された課題曲を、1週目は自力で読譜し、弾けるようにして次回の授業に臨む。 ・2週目は歌のパートを加えて弾き歌いの練習をする。 ・3週目は、暗譜して自分のレパートリーとなるように努力する。 「今週は、課題曲Aは譜読み、課題曲Bは弾き歌い」というように同時進行で複数の課題曲に取り組む。
	復習	第2回～第15回共通 ・毎授業時に示された課題点（音の誤り、指使いの工夫、発音の明瞭さ等）を復習して解決する。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。
	展開	・保育現場での音楽表現活動を想像し、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やす。
成績評価	評価の基準	１．音楽表現活動に関する知識・技術を高めようとする意欲・態度を持ち、毎回の課題に積極的に取り組めたか。学期当初に示された課題曲を終了できたか。 ２．実技試験において課題曲を弾きこなすことができたか。 ３．現場を想定して成果を発表できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表（ 70%）毎時間の課題曲への取り組み（ 30%）

教科書	書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
	著者名	坂東貴余子・本間正治
	出版社	ドレミ楽譜出版
	価格	1,200円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 4285142775
	書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
	著者名	東　保　編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN:4116200506

推薦図書等

参考URL

備考

履修人数の上限を設定します。初回の授業に出席できない場合には、必ず事前に高木k-takagi@uekusa.ac.jpまで連絡してください。
初心者は「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修した後に受講することが望ましい。自分で読譜ができ，「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」履修者と同等程度のピアノ演奏技能があるという前提で授業を行います。
個人指導を中心に、グループ活動・クラス内での発表を行います。
指導に従って毎日練習して下さい。
毎時間、教科書を忘れずに持参してください。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021203　月4
教室	ピアノ演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法	
学生の到達目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気づき、子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 ２．子どもの歌をその音楽性を味わいながら弾き歌いしようとする。 ３．子どもの歌とピアノ曲のレパートリーを増やし、子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考える。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動　音楽表現活動と他の表現活動との関わり （目標1,3）
	第2回	子どもの歌の弾き歌い（１）『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそびの歌と身体表現活動(目標1,3)
	第3回	＃１つの調性の曲に慣れる。「おとなのためのバイエル教本」(目標1,3)
	第4回	子どもの歌の弾き歌い（２）「やさしい伴奏によるこどものうた（１）」から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第5回	＃２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第6回	子どもの歌の弾き歌い（３）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第7回	ｂ１つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第8回	子どもの歌の弾き歌い（４）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第9回	♭２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第10回	子どもの歌の弾き歌い（５）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第11回	易しい移調法と伴奏の工夫(目標1,3)
	第12回	子どもの歌の弾き歌い（６）わらべうたと遊びの展開(目標1,3)
	第13回	保育現場で必要な子どもの歌等のレパートリーを増やす(目標3)
	第14回	保育現場を想定してた生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定した生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・第1回から15回まで、各回30分程度の練習時間を確保する。 ・指定された課題曲を自力で読譜し、弾けるようにして授業に臨む。 ・翌週は歌のパートを加えて弾き歌いの練習をする。 ・さらに暗譜して自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最初に、その日の授業時に指摘された誤りや注意をその日の内に直すように心がける。 ・合格した課題曲を音楽性豊かに表現できるように、さらに練習を積み重ねる。
	展開	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最後に、保育現場の音楽表現活動を想定して、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やすように努力する。
成績評価	評価の基準	1.子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めることができること。 2.子どもの歌の音楽性を味わいながら、弾き歌いできること。 3.子どもの歌のレパートリーを増やし、子どもの音楽表現力を伸ばすための教材活用法を考えることができること。

	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，毎時間の課題曲への取り組み 30%

教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,600円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。初回の授業に必ず出席しましょう。 「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」の履修者、あるいは同程度のピアノ演奏技能があることを前提に授業を行います。課題曲を各自よく練習して授業に臨みましょう。

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021204　月4
教室	ピアノ演習室2
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法	
学生の到達目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気づき、子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 ２．子どもの歌をその音楽性を味わいながら弾き歌いしようとする。 ３．子どもの歌とピアノ曲のレパートリーを増やし、子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考える。	

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動　音楽表現活動と他の表現活動との関わり （目標1,3）
	第2回	子どもの歌の弾き歌い（１）『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそびの歌と身体表現活動(目標1,3)
	第3回	＃１つの調性の曲に慣れる。「おとなのためのバイエル教本」(目標1,3)
	第4回	子どもの歌の弾き歌い（２）「やさしい伴奏によるこどものうた（１）」から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第5回	＃２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第6回	子どもの歌の弾き歌い（３）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第7回	ｂ１つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第8回	子どもの歌の弾き歌い（４）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第9回	♭２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第10回	子どもの歌の弾き歌い（５）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第11回	易しい移調法と伴奏の工夫(目標1,3)
	第12回	子どもの歌の弾き歌い（６）わらべうたと遊びの展開(目標1,3)
	第13回	保育現場で必要な子どもの歌等のレパートリーを増やす(目標3)
	第14回	保育現場を想定してた生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定した生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・第1回から15回まで、各回30分程度の練習時間を確保する。 ・指定された課題曲を自力で読譜し、弾けるようにして授業に臨む。 ・翌週は歌のパートを加えて弾き歌いの練習をする。 ・さらに暗譜して自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最初に、その日の授業時に指摘された誤りや注意をその日の内に直すように心がける。 ・合格した課題曲を音楽性豊かに表現できるように、さらに練習を積み重ねる。
	展開	・第1回から15回までの各回の30分の練習時間の最後に、保育現場の音楽表現活動を想定して、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やすように努力する。
成績評価	評価の基準	1.子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めることができること。 2.子どもの歌の音楽性を味わいながら、弾き歌いできること。 3.子どもの歌のレパートリーを増やし、子どもの音楽表現力を伸ばすための教材活用法を考えることができること。

	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，毎時間の課題曲への取り組み 30%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東 保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,600円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	履修人数の上限を設定します。初回の授業に必ず出席しましょう。 「保育の表現技術Ｉ（音楽表現）」の履修者、あるいは同程度のピアノ演奏技能があることを前提に授業を行います。課題曲を各自よく練習して授業に臨みましょう。	

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	松尾　聖子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1021205　月4
教室	ピアノ演習室3
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
学生の到達目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気づき、子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 ２．子どもの歌をその音楽性を味わいながら弾き歌いしようとする。 ３．子どもの歌とピアノ曲のレパートリーを増やし、子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考える。

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動　音楽表現活動と他の表現活動との関わり （目標1,3）
	第2回	子どもの歌の弾き歌い（１）『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそびの歌と身体表現活動(目標1,3)
	第3回	＃１つの調性の曲に慣れる。「おとなのためのバイエル教本」(目標1,3)
	第4回	子どもの歌の弾き歌い（２）「やさしい伴奏によるこどものうた（１）」から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第5回	＃２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第6回	子どもの歌の弾き歌い（３）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第7回	ｂ１つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第8回	子どもの歌の弾き歌い（４）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第9回	♭２つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1,3)
	第10回	子どもの歌の弾き歌い（５）『やさしい伴奏によるこどものうた』から各自の選曲による(目標1,2,3)
	第11回	易しい移調法と伴奏の工夫(目標1,3)
	第12回	子どもの歌の弾き歌い（６）わらべうたと遊びの展開(目標1,3)
	第13回	保育現場で必要な子どもの歌等のレパートリーを増やす(目標3)
	第14回	保育現場を想定してた生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（１）(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定した生活あそび,子どもの歌を教材とした各学生による発表（２）(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・毎日30分程度の練習時間を確保する。 ・指定された課題曲を自力で読譜し、弾けるようにして授業に臨む。 ・翌週は歌のパートを加えて弾き歌いの練習をする。 ・さらに暗譜して自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	・毎日30分の練習時間の最初に、その日の授業時に指摘された誤りや注意をその日の内に直すように心がける。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。
	展開	・毎日30分の練習時間の最後に、保育現場での音楽表現活動を想像して、仕上がった課題曲以外にもレパートリーを増やすように努力する。
成績評価	評価の基準	・実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 ・現場を想定して成果を発表できたか。 ・学期当初に示された課題曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，毎時間の課題曲への取り組み 30%
教科書		
	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著

出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1 ,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編
出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,600円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。初回の授業に必ず出席しましょう。 「保育の表現技術Ｉ（音楽表現）」の履修者、あるいは同程度のピアノ演奏技能があることを前提に授業を行います。課題曲を各自よく練習して授業に臨みましょう。

保育の表現技術（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT106
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1022301　前期　木2 A1022302　前期　木3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	造形教育，図画工作，保育教育現場で活用できる造形的基礎・基本の習得
学生の到達目標	1．保育の教育現場を踏まえ,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2．現場での活用を踏まえ,興味。関心や発達の段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い、計画的に進める。 3．制作の中で,具体的な支援や造形表現の技術方法を考え,実践力を養うとともに、現場での児童の具体的な遊びや文化活動に結びつけられる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点・保育現場での造形について)・実技「鉛筆の基本的な技法」(目標1)
	第2回	色鉛筆の表現の基本を学ぶ・実技「色鉛筆の混色表現」等(目標1)・技法メモ ①(目標1,3)確認後返却
	第3回	パステル等の基本的な技法を学ぶ・実技「クレヨン・パステル表現の応用」・技法メモ ②(目標1,3)確認後返却
	第4回	水彩絵の具の基礎 ①・実技「透明と不透明」「三原色による混色」技法メモ ③(目標1,3)確認後返却
	第5回	水彩絵の具の基礎 ②・実技「にじみ」「ふきながし」「デカルコマニー」「フロッタージュ」等・技法メモ ④(目標1,3)確認後返却
	第6回	水彩絵の具の基礎 ③・実技「スパッタリング」・「スタンピング」等・技法メモ ⑤(目標1,3)確認後返却
	第7回	イラストレーションの基礎 ①形・実技「人物・動物」・技法メモ ⑥(目標1,3)確認後返却
	第8回	イラストレーションの基礎 ②構図・実技「はり絵」説明(目標1)
	第9回	イラストレーションの基礎 ③配色・実技「はり絵」構想を練る(目標1)
	第10回	イラストレーションの基礎 ④表現の工夫・実技「はり絵」 ①アイデアスケッチ(目標1,2)
	第11回	実技「はり絵」 ②下絵(目標1,2)確認後返却
	第12回	実技「はり絵」 ③主役と背景(目標1,2)
	第13回	実技「はり絵」 ④配色(目標1,2)
	第14回	実技「はり絵」 ⑤仕上げ・スケッチブック整理点検確認(目標1,2)
	第15回	まとめ・「はり絵」発表・鑑賞・スケッチブック確認(目標1,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第15回 制作の準備をする（調べたり、用具等準備する） 計画通りに進まなかった場合に、各自で制作を進め計画に合わせる
	復習	第1回～第15回 計画に沿って制作を進める 技法メモなど、レポートをまとめて見直す スケッチブックに添付し整理する
	展開	自分で発展題材を考え制作し子どもの視点に立って考える
成績評価	評価の基準	授業内容をもとに保育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，子どもの視点に立って的確に説明できることを合格基準とする。到達目標1.2.3
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，スケッチブック整理、授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	・実技を中心とした演習のため 40数名程度の人数とし，希望者多数の場合は必修の保育士資格希望者を優先する。余裕があれば2.3年も受け入れる。 ・制作を通して造形教育の基礎・基本を確認し育成するため，課題数は少なくない。 ・２クラスあるがどちらのクラスも授業内容は同一である。 ・苦手意識のある人も安心して楽しんで取り組めるようにカリキュラムを考えている。 ・各自必ずＦ6サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４Ｂ），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。１階売店でも購入可能。必要な持ち物については随時指示する。 ・作品と技法プリント等をスケッチブックに貼りつけ，整理してポートフォリオの替わりとする。他のプリントはＡ4ファイルに整理する。 ・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロン等も用意すること。 ・連絡等は基本的に研究室に直接来てください(火曜日以外の昼休み)

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT108
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術（言語表現）
科目責任者	園川　緑
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1023601　前期　月1 A1023602　前期　月2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	言語表現，表現技術，子ども
学生の到達目標	1．幼児期言語の特徴を理解し，遊びを豊かにするための知識や表現技術を習得できる。 2．保育者としての言語表現技術を理解し，習得できる。 3．子どもが主体的に児童文化財等に親しむ環境構成等の技術を習得し，活用できる。

授業内容	第1回	本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・評価について・授業形式と実技演習予定（目標1）
	第2回	教科書配布・教科書の説明　子どもの日常と表現（目標1,3）
	第3回	描いたもの・作ったのもので遊んでみよう　○お面作り（目標1,2,3）
	第4回	絵本・紙芝居を読んでみよう　○絵本・紙芝居の活用の仕方（目標1,2,3）
	第5回	パネルシアターを作ってみようⅠ　○パネルシアターの作り方（目標1,2,3）
	第6回	パネルシアターを作ってみようⅡ　○うた遊び（目標2,3）
	第7回	パネルシアターを演じてみよう　○パネルシアターの演じ方（目標2,3）
	第8回	保育教材：ペープサート・からくりおもちゃ（目標1,2,3）
	第9回	保育教材：エプロンシアター・指人形（目標1,2,3）
	第10回	教材研究①役決め　舞台構成等（目標1,2,3）
	第11回	教材研究②人形作り　小道具作り　背景作り（目標1,2,3）
	第12回	教材研究③人形作り　小道具作り　背景作り（目標1,2,3）
	第13回	教材研究④発表：作ったもので遊んでみよう（目標2,3）
	第14回	教材研究⑤発表：作ったもので遊んでみよう（目標2,3）
	第15回	まとめ　発表の振り返り（目標1）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 イントロダクション　本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方 第2回 子どもの言語発達について関心を持ち，関連する児童文化財（絵本等）を見たり読んだりする。次の授業内容について，事前に調べておく。子どもの日常と表現について調べておくこと 第3回 描いたもの・作ったのもので遊べるように資料等を集めておくこと 第4回 絵本・紙芝居を数冊読んで準備しておく 第5回 パネルシアター、パネルシアターについて調べておくこと 第6回 パネルシアターを作るために材料等の準備をすること 第7回 パネルシアターを演じられるように練習をしておくこと 第8回 保育教材：ペープサート・からくりおもちゃについて調べておくこと 第9回 保育教材：エプロンシアター・指人形について調べておくこと 第10回 教材研究を行うため準備をしておく 第11回 教材研究の人形作りや小道具作りや背景作り等の材料準備を行っておくこと 第12回 教材研究の人形作りや小道具作りや背景作り等完成できるように準備をしておくこと 第13回 教材研究の発表ができるよう、練習をしておくこと 第14回 教材研究の発表について、作ったもので遊べるよう準備しておくこと 第15回 第1回～14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記復習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
	復習	第1回 本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・評価について・授業形式と実技演習予定を整理しまとめておくこと 第2回 教科書をよく読んで内容を理解し整理しておくこと 第3回 描いたもの・作ったのものの作り方や遊んだ内容を整理しておくこと 第4回 絵本・紙芝居を読み直し子どもにとってより良い読み方を考

察しておくこと
第5回 パネルシアターを作った内容を整理しまとめておくこと
第6回 パネルシアターを作り、遊び方や演じ方をまとめておくこと
第7回 パネルシアターを演じた考察やより良い方法を整理しておくこと
第8回 保育教材：ペープサート・からくりおもちゃについて知り得た情報をまとめておくこと（目標1,2,3）
第9回 保育教材：エプロンシアター・指人形について知り得た情報をまとめておくこと
第10回 教材研究①役決め　舞台構成等について知り得た内容をまとめておくこと
第11回 教材研究②人形作り　小道具作り　背景作りについての経過等をまとめておくこと
第12回 教材研究③人形作り　小道具作り　背景作りについてまとめておくこと
第13回 教材研究の発表での感想や考察をまとめておくこと
第14回 教材研究の発表での感想を考察し、自分が実践できるようにまとめておくこと
第15回 第15回　第1回～14回のポイント及び考察の記述を読みまとめておく
上記の復習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
授業内容の要旨をまとめておくこと。レポート等の課題は期限までに提出すること。

展開　保育者としての言語表現活動の技術や知識を広げていく。

成績評価

評価の基準
1.子どもの遊びの大切さの理解度および言語表現に関する技術の習得度。
2.レポート…表現活動等を鑑賞し，それぞれの「表現」に対して理解が深められているか。
○作品の提出・・・子どもの遊びを豊かにするための教材を知り，作成する技術・能力が育っているか。
○発表・・・グループ協議，作業，発表をとおし，協同する意識が育っているか。また，表現構成や具体的展開のための技術を習得しているか。
○授業態度・・・真摯に授業に参加し，学ぼうとしているか。

評価の方法　レポート（30%），発表（30%），作品（30%），授業への取り組み（10%）

教科書

書籍名	保育の表現活動　ことばを育む保育の素材・教材
著者名	植草一世　他
出版社	学文社
価格	2,400円＋税
ISBN・ISSN	978-4-7620-2442-9

推薦図書等

参考URL

備考

教職原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET201
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教職原論
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1024001　月3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	教育職員免許法，教職の意義等に関する科目，教職の意義，教員の役割，職務内容	
学生の到達目標	本授業は，教育職員免許法による「教職の意義等に関する科目」であり、そのねらいは、教職の意義，教員の役割，職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む）を正しく理解し，教職に対する意識を高めることである。併せて、教職を目指す者が，自らの適性を判断し，進路を正しく選択することを目的とする。 1．教職の意義、教員の役割、職務内容についての理解を確かなものにする。 2．現代の学校教育の課題を正しく理解し、それらに対応していく力を身につける。 3．教職への姿勢と意欲を明確なものにする。	

授業内容	第1回	導入講義:授業のねらい、授業の進め方、授業以外の学修について説明する。これまで出会った教師を振り返る。(目標1)
	第2回	教職の意義:教職とは何か。(目標1)
	第3回	教職科目履修の動機と目指す教師像:教職観と教師像(目標1)
	第4回	教員養成の歴史と現状:戦前と戦後の教員養成(目標1)
	第5回	教員免許制度の改革:教員免許更新制の導入とその後(目標2)
	第6回	教員の任用と服務:(1)教員の身分と任用(目標1)
	第7回	教員の任用と服務:(2)服務と身分保障,メンタルヘルス(目標1)
	第8回	教員の役割と仕事:仕事の特質と具体的内容(目標1)
	第9回	職場としての学校(幼稚園含む):(1)教員の勤務の実態、「チームとしての学校」の在り方(目標2)
	第10回	職場としての学校(同上):(2)保護者・地域・子どもとの関係(ロール・プレーイングをとおして)(目標2)
	第11回	教員の資質の向上:ライフステージに応じた研修の制度(目標2)
	第12回	学校・家庭・地域社会との連携:開かれた学校づくり(目標2)
	第13回	教員としての適性の理解:教員免許状と進路選択(目標3)
	第14回	教職への道: 2016年度公立学校教員採用選考試験の概要と本県の採用状況(目標3)
	第15回	総括(目標3):授業のまとめとチェック問題の解答及び質問事項の整理、R.S.の提出
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	・事前配布のレジュメの上欄に置かれているチェック問題にあたっておく。併せて、授業で問われる空所を補充し授業に臨む。(第2－14回) ・教職について日常から関心を持ち、関連する新聞報道に目をとおしたり、切り抜き保存したり、授業で提示された図書資料や文献を読んだりしておくこと。(第2－14回) ・事前に配布される次回授業のレジュメを読み、内容把握につとめる。(第2－14回) ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。(第2－14回) ・課題発表(ロール・プレーイング含む)のための準備をすすめる。(第7・8・9回)
	復習	・第1回授業にて配布されるR. S. に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。(第１－15回共通) ・事前配布のレジュメの上欄に置かれているチェック問題を整理することをとおして、復習につとめる。併せ(第2－14回共通) ・事前配布の授業レジュメに目をとおして、授業で問われる空所を補充し授業に臨む。(第2－14回共通) ・指示された課題を期限までに提出すること。 ・課題発表の評価について、グループ内で共有しておく。(第10回)
	展開	・教育課題や教職に関する最新の文献や研究成果等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	目標1～3に示した事項・内容が理解できていることを合格基準とするが，課題や授業に臨む態度なども併せて総合的に評価する。 1．教職の意義、教員の役割、職務内容について理解できたか。 2．現代の学校教育の課題を正しく理解し、それらに対応していく力を身につけることができたか。 3．教職への姿勢と意欲を明確になったか。

	評価の方法　　授業姿勢＋課題発表（30%）＋定期試験（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　『教職概論』第３次改訂版 著者名　佐藤晴雄 出版社　学陽書房 価格　２,400円 ISBN・ISSN　978 -4-313-61137-5
参考URL	文部科学省ＨＰhttp://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	・本講義は教職科目であるので，将来自分が教壇に立つという自覚をもって受講することが望まれる。 ・講義形式で進めるが、アクティブ・ラーニングの視点からの双方向・参加型授業運営に配慮している。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

初等教育教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET202
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	初等教育教師論
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1025001　月4
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	教育課題，教員の職務，教員としての資質能力	
学生の到達目標	１．教育を支える教師の仕事や役割についてわかるようになる。 ２．教職に向けた具体的な自己の目標・課題を具体的に持つようになる。 ３．これからの教育に必要な情報を得て教師自身の資質を磨こうとする。	
授業内容	第1回	オリエンテーション，私がこれまでに出会った教師（目標１）
	第2回	目指す教師の姿（目標２）

	第3回	学校教育の現状と課題「生きる力」（目標２）
	第4回	学校教育の現状と課題「失敗を恐れないためには」（目標２）
	第5回	学校教育の現状と課題「自己有用感を高めるには」（目標２）
	第6回	教員の身分と服務義務（目標１）
	第7回	教員の職務の具体的な内容（目標１）
	第8回	最近の児童の傾向について（目標２）
	第9回	様々な問題行動と対応の在り方（いじめ）（目標１・２）
	第10回	教育的課題プレゼンテーション①学級崩壊など（目標２）
	第11回	教育的課題プレゼンテーション②子どもの体力など（目標２）
	第12回	教育的課題プレゼンテーション③安全管理など（目標２）
	第13回	教育的課題プレゼンテーション④読書事情など（目標２）
	第14回	今後,教員に求められる資質能力（目標３）
	第15回	レポート作成，まとめ，評価（目標３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2~15回予習 教職に関する書籍から情報収集をする。その中から関心が高い教育課題について調べ、プレゼンテーションの準備や練習をする。
	復習	第1~15回復習 教育課題について学習したことや聴き合い活動をして修得したことをもう一度整理し，振り返りカードにまとめる。コメントを入れ返却する。
	展開	プレゼンテーションから教職や教育課題に関する知識・理解を深める。またこれから教育現場での対応について考えを深める。
成績評価	評価の基準	1.教育を支える教師の仕事や役割について理解したか。 2.教職に向けた具体的な自己の目標・課題を具体的に持てたか。 3.これからの教育に必要な情報や教師自身の資質について理解したか。
	評価の方法	最終レポート５０%，プレゼンテーション３０%，平常点（ワークシート記入）２０%の成績を総合する。
教科書	書籍名	教職の意義と教員の職務
	著者名	篠田信司
	出版社	三省堂
	価格	２,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-385-36335-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	○毎日の教育関係の新聞記事をよく読み，自分なりの考えや意見を持つこと。 ○小学校の免許を取得する学生の履修が望まれる。 ○授業後半は，各自が調べた課題についてプレゼンテーションをする。 ○オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。	

保育者論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT205
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育者論
科目責任者	實川　慎子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1026101　月2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	保育者の役割と倫理、保育者の専門性、保育者の協働	
学生の到達目標	1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育者の制度的位置づけを理解する。 3. 保育者の専門性および保育者の協働と専門職的成長について理解する。	
授業内容	第1回	本授業の進め方等ガイダンス・「保育者」になるということ（目標1）
	第2回	魅力的な保育者とは（目標1、2）

第3回	保育者の仕事①保育所：午前の保育、給食（目標1、2）
第4回	保育者の仕事②保育所：午睡～おやつ、夕方の保育（目標1、2）
第5回	保育者の仕事③施設での仕事：乳児院、児童養護施設等（目標1、2）
第6回	保育者の仕事④施設での仕事：障害児（者）施設等（目標1、2）
第7回	子どもの思いや育ちを理解する（目標1、2）
第8回	エピソード記録から子どもを読み解く（目標1、2）
第9回	子どもと一緒に心と体を動かすということ（目標1、2）
第10回	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ（目標1、2）
第11回	保護者や家庭、地域と一緒に歩む（目標3）
第12回	地域における子育て支援（目標1、2）
第13回	保育者の協働と省察、自己評価（目標1、2）
第14回	組織として語り合う関係をつくる（目標3）
第15回	まとめ　授業の振り返りと重要事項の確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	第1～14回 保育に関する情報に常に関心を持ち、保育者の役割について考える。 授業内容に示す語句等はあらかじめ調べておく。 第15回 学修内容を振り返り、要点をまとめておく。
復習	第1～15回 授業内容をノートに整理するとともに、そのテーマについて再考する。 レポート課題等は、提出物として評価する。自分の意見をわかりやすく丁寧に記述し、提出方法・期日を厳守のこと。
展開	保育者としての引き出しを多くすることを念頭に、保育者として豊かな専門性を身につけるよう、身の回りのいろいろなことに好奇心をもつ。 ボランティアや実習等で、授業で学んだことを積極的に実践し、理解を深める。

成績評価

評価の基準	1. 保育者の役割と倫理について十分に理解できたか。 2. 保育者の制度的位置づけを十分に理解できたか。 3. 保育者の専門性および保育者の協働と専門職的成長について十分に理解できたか。 上記1～3を、試験、レポート等提出物、授業態度を総合して評価する。
評価の方法	試験（50%）、提出物（40%）、授業態度（10%）

教科書

書籍名	保育者論
著者名	汐見稔幸・大豆生田啓友/編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-07638-3

書籍名	最新保育資料集2017
著者名	森上史郎（監修）大豆生田啓友・三谷大紀（編）
出版社	ミネルヴァ書房

価格	2,000＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-07903-2

推薦図書等	
参考URL	
備考	授業中のミニ授業レポートは、提出物に含めて評価する。 オフィスアワーは火曜日2限。 連絡先：實川学内アドレス　n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

幼児教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT109
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	幼児教育総論
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	安藤　則夫 髙木　夏奈子 遠藤　隆志 實川　慎子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1026501　金1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	幼児教育　保育	

学生の到達目標	1　幼児教育の理念、歴史、及び思想について基礎的知識を身につける。 2　幼児の言語発達、造形能力発達、音楽能力発達、身体・運動能力発達について学修し、専門職として効果的かつ適切な指導法　を学ぶ。 3　幼児教育の社会的・制度的・経営的な事項について学修し、幼児教育の教育課程の全体を総攬する。
授業内容	第1回　講義及びガイダンス、幼児教育に関する基礎的知識（目標１）(担当：栗原) 第2回　幼児教育の本質について社会的・制度的観点から理解する（目標１、３）（担当：木下先生） 第3回　幼児教育の経営について理解する。（目標３）（担当：木下先生） 第4回　幼児教育と保育との共通性を理解する。（目標１、３）（担当：栗原） 第5回　日本の幼児教育の法的規定を理解する。（目標１、３）（担当：栗原） 第6回　幼児教育の方法について遊び論を検証し理解する。（目標１、３）（担当：栗原） 第7回　幼稚園教育要領について領域の考え方を理解する。（目標１）（担当：栗原） 第8回　乳幼児の音楽能力の発達―聴取・歌唱を中心として―」（目標１、２）（担当：高木先生） 第9回　言語発達の土台を形成する乳児期　社会の中で育つ言語（幼児期）（目標１、２）（担当：安藤先生） 第10回　身近な素材とのかかわりをとらえる。（目標１、２）（担当：實川先生） 第11回　世界の幼児教育制度の変遷を理解する。（目標１、３））（担当：栗原） 第12回　日本の幼児教育制度の変遷を理解する。（目標１、３）（担当：栗原） 第13回　乳幼児の身体の発育と基礎運動能力の発達（目標1、２）（担当：遠藤先生） 第14回　幼児教育と早期教育について理解する。（目標１、３）（担当：栗原） 第15回　改訂幼稚園教育要領について理解する。（目標１、３）（担当：栗原）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価について理解しておく。 第2回　自分の乳幼児期について家族からエピソードを収集し、当事者性を持ち、そのうえで現代の幼児教育の社会的制度的現状を理解しておく。 第3回　幼児教育の教育的側面と経営的側面について理解し、特に経営的側面で重要な要点は何かを考察しておく。 第4回　幼児教育と保育について内容的に差異があるのか自分なりの考えをまとめておく。 第5回　日本の幼児教育の法的根拠にはどのような法律があるのが調べておく。 第6回　世界的に著名な遊び論について、ホイジンガー、カイヨウを事前に学修しておく。 第7回　幼稚園教育要領を読み、領域について考えをまとめておく。

第8回　乳幼児期の音楽能力の発達について、特に聴取や歌唱について事前に調べておく。
第9回　言語発達の土台となるものは何かを調べ、関係性の中で言語発達が為されていくことを理解しておく。
第10回　身近な素材について教材研究し、その特徴が子どもの表現をどのように活かしていくのか理解しておく。
第11回　世界の幼児教育制度を予め概観しておく。
第12回　日本の幼児教育制度を変遷を理解しておく。
第13回　乳幼児の身体発育と基礎運動能力について調べておく。
第14回　早期教育について、具体的にはどのようなものがあるのかを知り、幼児教育との関連を理解しておく。早期教育のメリット・デメリットについて理解しておく。
第15回　改訂幼稚園教育要領を読み、新しく改訂された箇所とその背景を理解しておく。

復習　第1回　この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。
第2回　現代の幼児教育の社旗的制度的現状の要点をまとめておくこと。
第3回　幼児教育の教育的側面と経営的側面について理解し、特に経営的側面で重要な要点をまとめておく。
第4回　幼児教育と保育について内容的に差異がないことを自分の言葉で説明できるように考えをまとめておく。
第5回　日本の幼児教育の法的根拠法律を理解しておく。
第6回　ホイジンガー、カイヨウの遊び論の要点を押さえ、そのことが現代の幼児教育に活かされていることをまとめておく。
第7回　幼稚園教育要領の領域について、自分の考えをまとめ説明できるようにしておく。
第8回　乳幼児期の音楽能力の発達について、特に聴取や歌唱について要点をまとめておく。
第9回　言語発達の土台となるものは関係性の中で育まれることを理解し、具体的なかかわりを考察しておく。
第10回　身近な素材について教材研究し、その特徴が子どもの表現をどのように活かしていくのか実践から得たことをまとめておく。
第11回　世界の幼児教育制度を概観して得た知識を修得しておく。
第12回　日本の幼児教育制度を変遷を理解して得た知識を修得しておく。
第13回　乳幼児の身体発育と基礎運動能力について学修したことを修得しておく。
第14回　早期教育について、具体的にはどのようなものがあるのかを知り、幼児教育との関連を理解しておく。早期教育のメリット・デメリットについて説明できるようにしておく。
第15回　改訂幼稚園教育要領を読み、新旧で異なる箇所とその背景について要点をまとめておく。

展開　授業内容について得られた知識・技能を一層深めるために、幼児教育の現場へ出て体験する機会を用意する。

成績評価

評価の基準
1）幼児教育に関して、基礎的内容を理解し、自分の考えを的確に表現できること。
2）授業で扱った内容について的確に説明できること。
3）期末試験で60点以上の成績をおさめること。

評価の方法　課題レポート30%　最終レポート20%　期末試験50%
ただしこの比率は若干変更する可能性もある。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考	・保育用語を理解しておくこと。 ・幼児教育の入門科目として位置付ける。その為、学修内容については網羅的に理解すること。 ・収容人数は120人程度。 ・造形、言語、音楽、体育等専門分野教員によるオムニバス形式。 ・授業担当者への連絡　h-kurihara@uekusa.ac.jp

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET101
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1027001　月3
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	教育の基礎理論，教育理念，教育の意義と目的，教育の歴史，生涯学習の理念	
学生の到達目標	この科目は，教育職員免許法の科目区分では「教育の基礎理論」に該当する。本授業は，「人間とは何か」，「教育とは何か」という原理的な視点から，教育の基礎的理念と教育の理論、教育の制度と教育の実践等について理解を深めることをねらいとしている。 1.教育の意義と目的, 教育の思想と歴史的変遷の学びをとおして,教育の基礎的理念と理論を正しく理解する。 2．我が国と欧米の教育の歴史、教育制度および教育実践の多様な取り組みについての知識を獲得する。 3．生涯学習社会における教育の現状、加えて、21世紀の教育を展望する力をつける。	

授業内容	第1回	講義概要の説明:「教育原理」学習の目的と授業計画、授業の進め方、授業外の学修、グループの編成を実施する。(目標1)
	第2回	教育の意義と目的:人間とは何か,ヒトから人へ(目標1)
	第3回	教育への権利と「子どもの権利条約」:制度上の規定(目標1)
	第4回	教育役割と子どもの社会化:人間形成と学校・家庭・地域社会との関連性(目標1)
	第5回	教育の思想と歴史的変遷(1):欧米の教育思想史と歴史的変遷(目標2)
	第6回	教育の思想と歴史的変遷(2):欧米の教育思想史と歴史的変遷(目標2)
	第7回	教育の思想と歴史的変遷(3):我が国の教育思想史と歴史的変遷(目標2)
	第8回	教育の思想と歴史的変遷(4):児童観と教育観の変遷、「教育原理必修、「教育原理必修事項50題」前半の解答の提示(目標2)
	第9回	教育の制度:学校制度の成立と発展,教育法規・教育行政(目標2)
	第10回	教育内容と教育課程:教育内容の構成、教育課程とその編成(目標2,3)
	第11回	教育の実践:教育方法,教育評価,教育実践の多様な取り組み(目標2)
	第12回	生涯学習社会における教育:生涯学習社会への移行と社会教育,リカレント教育(目標3)
	第13回	現代社会と教育課題(1):教育領域における病理的現象、教育施策の動向と展開(特別支援教育の推進含む)（目標3）
	第14回	現代社会と教育課題(2):生きる力,確かな学力,第2期教育振興基本計画に基づく教育施策の推進(目標3)
	第15回	総括（目標3）：授業のまとめ、R.S.の提出、「教育原理必修事項50題」後半の解答の提示
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	・教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持ち，授業の中で提示された「次回への準備と課題」を調べることをとおして理解を深めておく。（第1－15回） ・事前配布の次回授業レジュメに目をとおして授業に臨む。(第2－14回) ・指示された課題「次回への準備」を期限までに提出できるように計画的に学修を進める。(第2、4、7、14回) ・2回に分けて配布される「教育原理必修事項50題」を常に意識し授業に臨む。(1回と9回に配布　第2－14回)
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に,毎回の授業の要旨をまとめる。(第1－7回) ・「教育原理必修事項50題」の正しい解を授業後に確認しておく。(第2－15回)
	展開	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち,関心のある課題に関する最新の研究動向を調べ,知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	・目標1～3に照準を合せるとともに、発表を含めた授業への取り組み態度等により総合的に評価する。 1.教育の意義と目的, 教育の思想と歴史的変遷の学びをとおして,教育の基礎的理念と理論を正しく理解できたか。 2．我が国と欧米の教育の歴史、教育制度および教育実践の多様な取り組みについて理解できたか。 3．生涯学習社会における教育の現状及び21世紀の教育を展望する力がついたか。
	評価の方法	・課題(次回への準備課題の提出）と学習姿勢（30%）＋定期試験（70%）により総合的に評価する。

教科書	書籍名	『教育の基礎と展開－豊かな教育・保育のつながりをめざして－』
	著者名	高野良子・武内清
	出版社	学文社
	価格	2000円＋税（2016年4月刊行）
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7620-2624-9　C3037
推薦図書等	書籍名	『やさしい教育原理』新版補訂版,
	著者名	田島一他
	出版社	有斐閣アルマ
	価格	1 ,900円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-641-12426-4
参考URL	文部科学省ＨＰ　http://www.mext.go.jp/	
備考	・自覚的・積極的な受講が望まれる。 ・講義形式で進めるが、アクティブ・ラーニングの視点から、授業内容に応じて、グループワークなどをとおした参加型授業運営につとめる。 ・提出課題は、内容のチェック後、フィードバックする。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp	

教育史・教育思潮概説

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET203
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育史・教育思潮概説
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1028001　火4
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	教育の基礎理論，西洋の教育の歴史，日本の教育の歴史，教育の思想家	
学生の到達目標	この科目は，教育職員免許法の「教育の基礎理論」に関する科目に該当し,日本と西洋の教育の歴史的展開とそれを支える教育の思想について理解を深めることを目的とする。 1．日本および諸外国の教育の歴史を把握するとともに,ルソーやデューイ等の代表的な教育の思想についての知識を身につける。 2．教育の思想や教育の実践をとおして,子ども観や教育観の変遷をたどることができる。 3．我が国の教育の諸課題を,広い視野のもと,歴史的なパースペクティブ(見通し)において再確認する能力を獲得する。	

授業内容	第1回	オリエンテーション:本科目の教職に関する科目としての位置づけ、教育の歴史及び教育の思想の学習の意義（目標1）
	第2回	近世の教育:我が国の近世（江戸期）を中心とした庶民教育の普及(目標1)
	第3回	近代の教育:我が国の近代（明治期）を中心に、「学制」の内容と意義,教育の整備と拡充(目標1)
	第4回	大正・昭和前期の教育:大正デモクラシー期の教育運動(目標1・2)
	第5回	戦後の教育:教育制度改革,教育基本法の改正(目標1・3)
	第6回	西洋の教育の歴史と思想(1):ソクラテスの教育論(目標1)
	第7回	西洋の教育の歴史と思想(2):コメニウスの教授学思想 (目標1)
	第8回	西洋の教育の歴史と思想(3):ペスタロッチの教育実践と思想(目標1・2)
	第9回	西洋の教育の歴史と思想(4):フレーベルとモンテッソーリの教育思想(目標2)
	第10回	西洋の教育の歴史と思想(5):ヘルベルト学派の教育思想(目標1・2)
	第11回	西洋の教育の歴史と思想(6):デューイ(その1)実験学校とその実践(目標1・2)
	第12回	西洋の教育の歴史と思想:(7)デューイ(その2)教育思想と諸外国への影響(目標2)
	第13回	西洋の子ども観と教育観の変遷(目標1・2・3)
	第14回	日本の子ども観と教育観の変遷(目標1・2・3)
	第15回	教育の歴史と思想の総括及び学修の発展（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	・事前配布のレジュメを確認しておくこと。（第1－15回） ・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち,新聞報道などについて理解をしておくこと。（同上） ・提示される代表的な教育の思想家25人の中から関心を持つ人物(複数）の思想や業績を調べ,授業内でのレジュメ作成などの発表準備と課題作成に望むこと。（第5－14回）
	復習	・発表者の発表資料のファイリングをすることを通して、毎回の授業の要旨等のまとめをすることに役立てること。(第1－15回） ・事前配布してあるチェック問題を解いておくこと。(第2－13回）
	展開	・日本と西洋の教育の歴史に関する最新の研究論文や動向を調べ,知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1. 日本および諸外国の教育の歴史を把握するとともに,ルソーやデューイ等の代表的な教育の思想についての理解が深まったか。 2. 教育の思想や教育の実践をとおして,子ども観や教育観の変遷をたどることができたか。 3. 我が国の教育の諸課題を,広い視野のもと,歴史的なパースペクティブ(見通し)において再確認する能力を獲得することができたか。
	評価の方法	課題発表と授業姿勢（意見発表含む）（ 40点）＋レポート（ 60点）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	『教育人名小事典』
	著者名	安彦忠彦編
	出版社	明治図書

価格	1,960円
ISBN・ISSN	ISBN 4-18-616006-6

参考URL	文部科学省ＨＰ http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	・「教育原理」を履修済であることが望ましい。 ・自覚的・積極的な受講が望まれる。 ・講義形式で進めるが、アクティブ・ラーニングの視点からの授業運営に配慮している。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

発達心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET204
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	発達心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1029001　水1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因,発達の阻害要因
学生の到達目標	1．人間の一生の発達の筋道を理解する。 2．発達に関する考え方や見方を理解する。 3．発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための知識を得る。
授業内容	第1回　発達心理学の方法と考え方。発達心理学とは何か,何のために学ぶのかを理解し,発達の概略を把握する。(目標1,2) 第2回　乳幼児期の重要性。臨界期といった発達の基礎概念と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性を理解する。(目標1,2)

第3回	胎児期:身体の基礎づくり。胎児期の身体や意識の発達を理解し,妊娠中に考慮すべき点について理解する。(目標1,2,3)
第4回	新生児期:覚醒水準の調整。新生児期は,泣きを慰める過程を通じて睡眠と覚醒の調節能力を築き,覚醒の質を高める時期であることを理解する。(目標1,2)
第5回	乳児期前半:人の意識の始まり。乳児期前半では,注意のコントロール能力が獲得され,人への意識が高まることを理解する。(目標1,2)
第6回	乳児期後半:愛着の形成。乳児期後半では,期待がかなって安心感が深まり,親しい人との愛着関係が深まる。この愛着関係が,精神的発達にとって重要であることを理解する。(目標1,2)
第7回	幼児期前半:自己の形成。幼児期前半に達成感を感じるようになって自己概念を形成するとともに,他児との関わりが始まり,社会性の基礎が築かれることを理解する。(目標1,2)
第8回	幼児期後半:社会性の発展。幼児期後半では,他児との関わりが深まり,役割意識やルール意識,協力意識が育つことを理解する。(目標1,2)
第9回	児童期前半:仲間関係の形成。児童期前半では,図式的な考えに基づく道徳性が発達し,より親密な仲間関係が築かれていくことを理解する。(目標1,2)
第10回	児童期後半:リアリズムの発生。児童期後半では,現実をよく見るようになり,図式的な考えからの脱却が見られ,親子関係や友人関係の見直しが起こることを理解する。(目標1,2)
第11回	思春期:心の動揺。思春期では,第二次性徴が始まり,人間関係や自己のあり方に対して多感になり,精神が不安定になりやすいことを理解する。(目標1,2)
第12回	青年期:自己同一性を求めて。青年期では,大人から独立し自己概念を築く過程を学ぶ。(目標1,2)
第13回	成人期老年期:心の危機と人生の受容。社会を支える責任のある地位についた後,諸能力の衰えを受け入れる過程を理解する。(目標1,3)
第14回	発達の阻害要因:筋緊張の異常など発達を阻害する要因を知り,健全な発達のために必要な働きかけについて理解する。(目標1,3)
第15回	乳幼児期における発達援助のあり方。発達障害について知り,対処法を理解する。(目標2,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。さらに発達心理学とは何か・発達の概略について調べておくこと。 第２回臨界期と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性について調べておくこと。 第３回胎児期の身体や意識の発達について調べておくこと。 第４回新生児期における覚醒水準の調整について調べておくこと。 第５回乳児期前半における人への意識の始まりについて調べておくこと。 第６回乳児期後半における愛着の形成とその重要性について調べておくこと。 第７回幼児期前半における自己の形成や社会性の発達について調べておくこと。 第８回幼児期後半における役割意識やルール意識,協力意識について調べておくこと。 第９回児童期前半における仲間関係の形成や道徳性の発達について調べておくこと。 第10回児童期後半におけるリアリズムの発生や親子関係・友人関係の見直しについて調べておくこと。 第11回思春期に現れる第二次性徴や精神的不安定について調べておくこと。 第12回青年期におこる自己概念を築く過程について調べておくこ

と。
第13回成人期老年期における心の危機と人生の受容について調べておくこと。
第14回筋緊張の異常など発達を阻害する要因について調べておくこと。
第15回発達障害や乳幼児期における発達援助のあり方について調べておくこと。

復習　第１回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。また発達心理学とは何か・発達の概略についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第２回臨界期と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第３回胎児期の身体や意識の発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第４回新生児期における覚醒水準の調整についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第５回乳児期前半における人への意識の始まりについてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第６回乳児期後半における愛着の形成とその重要性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第７回幼児期前半における自己の形成や社会性の発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第８回幼児期後半における役割意識やルール意識,協力意識についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第９回児童期前半における仲間関係の形成や道徳性の発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第10回児童期後半におけるリアリズムの発生や親子関係・友人関係の見直しについてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第11回思春期に現れる第二次性徴や精神的不安定についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第12回青年期におこる自己概念を築く過程についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第13回成人期老年期における心の危機と人生の受容についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第14回筋緊張の異常など発達を阻害する要因についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第15回発達障害や乳幼児期における発達援助のあり方についてポイントおよび考察をまとめておくこと。

展開　子どもと接したときに,子どもの発達の様子を把握し,課題を見つけられる。

成績評価

評価の基準
１．人間の一生の発達の筋道を理解し、自分の考えを的確に表現できること。
２．発達に関する考え方や見方を理解し、自分の考えを的確に表現できること。
３．発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための知識を持つこと。

評価の方法　授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。
質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書

書籍名	スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症
著者名	安藤則夫
出版社	学苑社
価格	２,200円＋税
ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

教育心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET301
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育心理学
科目責任者	金子　功一
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1030001　火2
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	教育、心理学、幼児・児童、生徒、教師	
学生の到達目標	1.教育心理学の基本的な知識を身につける。 2.基本的な知識を基に、学校教育における教師の実践を教育心理学的な視点から理解することができる。	
授業内容	第1回　教育心理学とは：教育場面における心理学とは(目標1)	

第2回	記憶力が良いとはどういうことなのか（目標１）
第3回	学ぶことと考えること（目標１）
第4回	ほめることの大切さ（目標１、目標２）
第5回	「やる気」を考える（目標１）
第6回	学級という社会（目標１、目標２）
第7回	どのように教えるか（目標２）
第8回	児童・生徒をどう評価するか（目標２）
第9回	人間の発達について考える（目標１、目標２）
第10回	人格発達の基礎（目標１、目標２）
第11回	教育現場において困難を抱える児童・生徒（目標２）
第12回	教育現場における適応の難しさを持つ子どもの理解と支援について（目標２）
第13回	教育におけるカウンセリング入門（目標２）
第14回	教育におけるカウンセリング基礎（目標２）
第15回	教育におけるカウンセリング応用（目標２）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	心理学の基礎的な知識について，関連する図書や資料を読み，理解しておくことが望ましい。 授業で扱うテーマについて，事前に教科書を読み，疑問点を明確にしておく。(1回から15回)
	復習	感想レポートに，授業で学習した内容は自分が保育者・教師をしていく上でどのように役立つと考えるかなどをまとめておく。 指示されたレポート課題を期日までに提出する。(1回から15回)
	展開	教育心理学に関連する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。(1回から15回)

成績評価	評価の基準	教育心理学に関して，基本的な内容が理解できていること。学校教育における教師の実践を教育心理学的な観点から理解，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	授業の感想・レポート，期末筆記試験を総合して評価する。 毎回の感想・レポート（30%），期末筆記試験(70%)

教科書	書籍名	教教職をめざすひとのための発達と教育の心理学
	著者名	富永 大介 (編集), 平田 幹夫 (編集), 竹村 明子 (編集), 金武 育子
	出版社	ナカニシヤ出版
	価格	2376円
	ISBN・ISSN	978-4779510670

推薦図書等

参考URL

備考

・第1回のガイダンス時に講義の内容やレポート、試験について説明するので、必ず出席すること。

・講義は基本的にはシラバス通りに行うが、実習の状況により多少前後することがある。

保育の心理学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT206
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学Ⅰ
科目責任者	實川　慎子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1030101　木5
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-2 教育の基礎的理解（幼保） 7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	子どもの発達理解、人との相互的かかわり、初期経験の重要性、生涯発達	
学生の到達目標	1.子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもの姿を発達の観点から理解する。 2.子どもが人との相互的かかわりを発達していくことを理解し、保育における具体的かかわりを考える。 3.生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性を理解し、保育と関連づけて考える。	

授業内容	第1回	子どもの発達を理解することの意義（目標1,2）
	第2回	発達観、子ども観、保育観（目標1,3）
	第3回	胎児期・新生児期の発達の特徴（目標1,2,3）
	第4回	乳幼児期の発達の特徴（目標1,2,3）
	第5回	乳幼児期の身体・運動の発達（目標1,2,3）
	第6回	乳幼児期の知覚と認知の発達（目標1,2,3）
	第7回	乳幼児期の言葉の発達（目標1,2,3）
	第8回	乳幼児期の感情の発達（目標1,2,3）
	第9回	乳幼児期における人との相互的かかわり（目標1,2,3）
	第10回	自己の発見と認識（目標1,2,3）
	第11回	乳幼児の遊びの発達（目標1,2,3）
	第12回	発達のつまずき（目標1,2,3）
	第13回	子どもの発達理解の方法（目標1,2,3）
	第14回	児童期の発達の特徴（目標1,2,3）
	第15回	青年期、成人期、老年期の発達の特徴（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1～15回 テキストは予め読んでおき、わからない用語は自分で調べておく。 ボランティア等で、乳幼児と直接かかわる経験を増やしておく。
	復習	第1～15回 重要な語句や考え方を整理し、ノートにまとめる。 レポート課題等では、自分の意見をわかりやすく丁寧に書くことを意識し、提出方法・期日を厳守する。
	展開	ボランティアや実習等を通して、授業で学んだことの理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもの姿を発達の観点から十分に理解できたか。 2.子どもが人との相互的かかわりを発達していくことを理解し、保育における具体的かかわりを適切に考えられたか。 3.生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性を理解し、保育と関連づけて適切に考えられたか。 上記1～3が、試験、提出物、授業への態度・発表を総合して、到達しているかを評価する。
	評価の方法	試験（50%）、提出物（30%）、授業への態度・発表（20%）

教科書

書籍名	保育の心理学Ⅰ・Ⅱ
著者名	本郷一夫（編）
出版社	建帛社
価格	2,200＋税
ISBN・ISSN	978-4-7679-5035-8

書籍名	たのしく学べる乳幼児の心理
著者名	櫻井茂男・岩立京子（編）
出版社	福村出版

価格	2,400＋税
ISBN・ISSN	978-4-571-23048-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	○2冊の教科書を併用するので、どちらも常に用意すること。 ○授業中のミニ授業レポート等は、提出物として評価する。 ○実際に子どもとかかわった経験が多いほど、子どもの姿を具体的にイメージできるため授業内容を理解しやすい。積極的にボランティア等へ参加するとよい。 ○オフィスアワー　火曜日2限 ○連絡先　實川学内アドレス　n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT306
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	久保　隼人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1030201　後期　木2 A1030202　後期　木3
教室	講義室13 講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	保育実践，子どもの心理，発達課題，アセスメント
学生の到達目標	１．子どもの心身の発達を理解する。 ２．子どもの学びのプロセスと性質を理解し,遊びと生活を通しての保育実践を身につける。。 ３．子どもの発達課題に応じた支援,および保育者の組織としての保育実践を身につける。

授業内容	第1回	発達理解とその方法（目標１）
	第2回	個人差を踏まえた発達理解（目標３）
	第3回	子どもの認識と表現から援助を考える(目標１・３)
	第4回	情緒と大人との関係性から援助を考える(目標１・３)
	第5回	自己概念の形成から援助を考える(目標１・３)
	第6回	子どもの意欲と自律から援助を考える(目標１・３)
	第7回	集団生活から援助を考える（目標２）
	第8回	環境を通した経験と遊びの発達から援助を考える（目標２）
	第9回	問題解決から生きる力を育む援助を考える（目標２）
	第10回	子ども同士の関係性から援助を考える（目標２）
	第11回	発達援助の協働について考える(目標１)
	第12回	心理検査の理解(目標１・３)
	第13回	心理検査の実践と実際(目標１・３)
	第14回	保護者支援と就学支援から保育を考える(目標１・３)
	第15回	まとめの課題（目標１・２・３）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	保育や心理に関する情報に常に関心を持ち,保育の心理学Ｉで履修した内容を確認する。 前回の講義の内容を確認する。
	復習	授業で得た視点を自分なりにまとめ,振り返る。
	展開	基本的な理論を確認し、子どもの援助を考え、検討する。
成績評価	評価の基準	各講義での疑問や理解への取り組み姿勢を評価する。 授業目標に対する実践に耐えうる理解度に応じて評価する。
	評価の方法	試験（70%）、授業態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	保育の心理学Ｉ・Ⅱ
	著者名	本郷一夫
	出版社	建帛社
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3284-2
	書籍名	保育の心理学ワークブック
	著者名	本郷一夫
	出版社	建帛社
	価格	1800円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-5017-4
参考URL		
備考		

障害児保育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT333
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	障害児保育総論
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1030901　月3
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	障害のある子　幼児期　生活　生きにくさ　社会	
学生の到達目標	１．障害のある子の幼児期の生活の現状と課題について理解する。 ２．障害のある子どもの生きにくさについて、現代社会における障害の捉え方と併せて多角的にイメージする。 ３．１および２を踏まえ、保育現場で自分なりにどのように関わるかについて考えることができる。	

授業内容	第1回	ガイダンス（目標１・２・３）
	第2回	障害の捉え方（目標１）
	第3回	障害のある子の幼児期の生活について（目標１）
	第4回	障害のある子を取り巻く現状と課題（目標１）
	第5回	特別支援学校幼稚部での生活（目標１）
	第6回	療育機関での生活（目標１）
	第7回	地域の保育所や幼稚園での生活（目標１）
	第8回	見えにくい（見えない）こと・聞こえにくい（聞こえない）こと－視覚障害・聴覚障害の理解－（目標２・３）
	第9回	身体が動かしにくいこと・体の内部が働きにくいこと－運動障害の理解－（目標２・３）
	第10回	言葉に関するむずかしさ－言語障害の理解－（目標２・３）
	第11回	「知」とは何か－知的障害の理解－（目標２・３）
	第12回	情報の取り入れや表出のしにくさ－発達障害の理解①－（目標２・３）
	第13回	情報の整理や処理の難しさ－発達障害の理解②－（目標２・３）
	第14回	地域機関との連携について（目標１・２・３）
	第15回	まとめ・総括 授業の振り返りと障害のある子の幼児期に係る重要事項の確認（目標１・２・３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第4回：授業キーワード等の下調べ ＊教員から出される授業に関するキーワード等について、事前に文献等で調べ、指定用紙にて提出する。指定用紙で提出されたものについて、教員が目を通し、用紙を返却しつつ、授業内でフィードバックを行う。 第5回～第7回：関連資料の精読 ＊各施設等での生活に関連する新聞記事等に目を通し、自分なりにその後の授業にイメージを持って臨む。 第8回～第13回：各障害に関連した生きにくさに関する情報収集 ＊教員から出されるキーワードもしくは自発的に次の授業内容を見越して、当該の障害に関連した生きにくさについて、文献等から情報収集を行う。教員からの指定があった場合は、指定用紙を返却しつつ、授業内でフィードバックを行う。 第14回：自分の住んでいる自治体について、地域機関を調べまとめる。 第15回：指定されたグループごとに、教員から提示された障害のある子に有効と考えられる「手作りおもちゃ」「保育環境上の工夫」についてまとめる。
	復習	第1回～第4回：授業内容について他者に伝える ＊授業内容をまとめ、授業履修者以外の大人に簡潔に伝え、その反応を知る 第5回～第7回：授業内容および配布物をまとめる ＊授業内容を配布物を元にまとめ、整理する。 （小テストを実施する） 第8回～第13回：関連資料の精読 ＊授業内容に関連した本等を読み、障害のある子や人の生きにくさについて各自が考える。 第14回：他の自治体について、地域機関をまとめる。 第15回：他のグループの発表についてまとめ、それぞれの生きにくさに対して、自分がどのようなことができるかについて考える。
	展開	実際に障害のある子がいる場に赴き、関わることを通して、自分なりに考えを深めたり関わりを模索したりすること

成績評価	評価の基準	１．障害のある子の幼児期の生活の現状と課題について理解する。 ＊上記内容について、自分なりにまとめ言語化できる。 ２．障害のある子どもの生きにくさについて、現代社会における障害の捉え方と併せて多角的にイメージする。 ＊障害に関する生理的・心理的背景を理解し、得た知識等に基づいて自分なりにその子や人の生きにくさについて想像することができる。 ３．１および２を踏まえ、保育現場で自分なりにどのように関わるかについて考えることができる。 ＊想定されるケースやクラス等に対して、自分が保育者としてどのような援助等が考えられるかについて言語化できる。
	評価の方法	平常点（授業内に課すレポートの内容）30% 教材研究20% 筆記試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	○文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321669.htm ○幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf	
備考		

学校教育制度概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET302
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	学校教育制度概論
科目責任者	武内　清
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1031001　木2
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	学校制度・組織，学校文化，学級，教師役割	
学生の到達目標	1．学校の成り立ちや特質を理解する。 2．制度としての学校、組織として学校の特質を理解し、教師に期待されていることは何かを考える。 3．学校や教師が、児童・生徒や社会との関係で、どのような役割を果たすべきかを考察する。	

授業内容	第1回	教育の２側面ー制度と人間（目標1）
	第2回	学校の特質１　（家庭との比較）（目標1）
	第3回	学校の特質２　（近代の学校の特質）（目標1）
	第4回	教師ー児童・生徒関係の特質（目標2,3）
	第5回	学校文化ー潜在的カリキュラムー（目標2）
	第6回	生徒の問題行動と学校（目標2,3）
	第7回	組織としての学校（目標2）
	第8回	教員組織、役職者（校長、教頭）、校務分掌（目標2）
	第9回	競争社会、学歴社会と学校（目標3）
	第10回	国際化の中での学校ー多文化教育（目標3）
	第11回	学校と地域社会、国家（目標3）
	第12回	職業としての教師（目標2）
	第13回	学校制度　－小中高大の関連（目標3）
	第14回	これからの教育改革（目標2,3）
	第15回	まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）あらかじめ、テキストやプリントの箇所に目を通して出席すること。
	復習	第１回～１５回（共通）　テキストを読み返し、ノートを整理すること。
	展開	自分で、関連する本や新聞記事、インターネット情報を調べ、知識を深め、考えること。（要点をノートに記載する）
成績評価	評価の基準	６割以上の点で、合格とする。
	評価の方法	毎時間のリアクション（コメント・発表）（４０%）と、レポート（６０%）による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 授業時に提示する。	
推薦図書等	書籍名	子どもと学校
	著者名	武内清　編
	出版社	学文社
	価格	税込　2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2019-3
参考URL		
備考		

特別支援教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST101
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育総論
科目責任者	菊地　一文
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1032101　火5
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-1 特別支援教育の基礎理論

授業のキーワード	特別支援教育，制度，理念，動向
学生の到達目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。 3.早期から学校卒業期までの相談支援と保護者との連携の重要性を理解し,特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への対応を説明できる。

授業内容	第1回	授業概要の説明
	第2回	戦前の特殊教育から養護学校の義務化(目標1,2)
	第3回	特殊教育から特別支援教育への転換（目標1,2,3）
	第4回	特別支援学校のセンター的機能(目標1,2,3)
	第5回	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築(目標1,2,3)
	第6回	学校教育における合理的配慮（目標1,2,3）
	第7回	インクルーシブ教育システムにおける就学支援（目標1,2,3）
	第8回	学習指導要領の変遷と特別支援学校の教育課程の編成（目標1,2）
	第9回	特別支援学校や特別支援学級におけるキャリア教育（目標1,2,3）
	第10回	軽度の障害のある生徒を対象とした特別支援学校高等部の教育（目標1,2,3）
	第11回	小・中学校の特別支援学級や通級による指導における特別支援教育（目標1,2,3）
	第12回	小・中学校の通常の学級における特別支援教育（目標1,2,3）
	第13回	インクルーシブ教育システムにおける学びと交流及び共同学習（目標1,2,3）
	第14回	個別の教育支援計画の作成と特別支援教育コーディネータの役割（目標1,2,3）
	第15回	個別の指導計画の作成と学習評価（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと 第2回　戦前の特殊教育から養護学校の義務化について調べておくこと 第3回　特殊教育から特別支援教育への転換について調べておくこと 第4回　特別支援学校のセンター的機能について調べておくこと 第5回　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について調べておくこと 第6回　学校教育における合理的配慮について調べておくこと 第7回　インクルーシブ教育システムにおける就学支援について調べておくこと 第8回　学習指導要領の変遷と特別支援学校の教育課程の編成について調べておくこと 第9回　特別支援学校や特別支援学級におけるキャリア教育について調べておくこと 第10回 軽度の障害のある生徒を対象とした特別支援学校高等部の教育について調べておくこと 第11回　小・中学校の特別支援学級や通級による指導における特別支援教育について調べておくこと 第12回　小・中学校の通常の学級における特別支援教育について調べておくこと 第13回　インクルーシブ教育システムにおける学びと交流及び共同学習について調べておくこと 第14回　個別の教育支援計画の作成と特別支援教育コーディネータの役割について調べておくこと 第15回　個別の指導計画の作成と学習評価について調べておくこと
	復習	第1回　シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等についてポイント及び考察をまとめておくこと 第2回　戦前の特殊教育から養護学校の義務化についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回　特殊教育から特別支援教育への転換についてポイント及び考察をまとめておくこと

第4回　特別支援学校のセンター的機能についてポイント及び考察をまとめておくこと
第5回　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築についてポイント及び考察をまとめておくこと
第6回　学校教育における合理的配慮についてポイント及び考察をまとめておくこと
第7回　インクルーシブ教育システムにおける就学支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第8回　学習指導要領の変遷と特別支援学校の教育課程の編成についてポイント及び考察をまとめておくこと
第9回　特別支援学校や特別支援学級におけるキャリア教育についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回 軽度の障害のある生徒を対象とした特別支援学校高等部の教育についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回　小・中学校の特別支援学級や通級による指導における特別支援教育についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回　小・中学校の通常の学級における特別支援教育についてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回　インクルーシブ教育システムにおける学びと交流及び共同学習についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回　個別の教育支援計画の作成と特別支援教育コーディネータの役割についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回　個別の指導計画の作成と学習評価についてポイント及び考察をまとめておくこと

展開　障害のある子どもへのボランティア体験,学校等の見学体験などとも結びつけ,授業内容を生きたものにして下さい。進路希望先での障害のある子ども等のことを自分で調べるようにするとよいでしょう。関連の授業内容とも関連づけましょう。

成績評価

評価の基準
1.特別支援教育に関する動向のポイントを的確に説明できること。
2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに的確に説明できること。
3.早期から学校卒業期までの相談支援と保護者との連携の重要性を理解し,特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への対応を的確に説明できること。

評価の方法　期末試験 60%，レポート/リアクションペーパー（小テスト等を含む）40%

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	特別支援教育の基礎・基本
著者名	国立特別支援教育総合研究所
出版社	ジアース教育新社
価格	2700円＋税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-86371-297-3

参考URL

備考　オフィスアワー　月・火２限

特別支援教育の歴史

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST102
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育の歴史
科目責任者	名古屋　恒彦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1033201 9/4, 9/5, 9/6：1～5限
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-1 特別支援教育の基礎理論

授業のキーワード	知的障害,教育課程,教育方法
学生の到達目標	目標1　我が国知的障害教育の方法の変遷を理解できる。 目標2　知的障害教育の目標を理解できる。 目標3　知的障害教育の内容・方法を理解できる。

授業内容	第1回	知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」(目標2)
	第2回	生活を大切にする教育の始まり(目標1,2)
	第3回	本物の生活づくりの徹底(目標1,2,3)
	第4回	生活を大切にする教育の変容と後退(目標1,2,3)
	第5回	生活主義教育批判・反省の総括的論点(目標2,3)
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育(目標1)
	第7回	障害の重度化・重複化と生活主義教育(目標1)
	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興(目標1,2,3)
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり(目標1,2,3)
	第10回	学校生活の集団化と個別化(目標1,3)
	第11回	生活中心教育の総括的主張点(目標2,3)
	第12回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第13回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第15回	まとめと討論(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回（共通）教科書に即して進行するので，事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	第1回～第15回（共通）実施した内容について，必要に応じてノート等を参照しながら，教科書を再読し，理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び，歴史的背景との関連への理解を深める。
成績評価	評価の基準	1　我が国知的障害教育の方法の変遷を理解できていること。 2　知的障害教育の目標を理解できていること。 3　知的障害教育の内容・方法を理解できること。
	評価の方法	試験（70%） 授業での発言等（30%）
教科書	書籍名	テーマのある学校生活　子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2,500円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-87637-712-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		事前にできるだけ，指定した教科書を読んでおいてほしい。 現在の特別支援教育の課題を意識しながら，歴史を学んでほしい。

インクルーシブ教育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST103
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	インクルーシブ教育論
科目責任者	渡邉　章
担当教員	加藤　悦子 田所　明房 菊地　一文
授業形態	講義
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A1034101　木4
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	必修	必修
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 共生社会

授業のキーワード	インクルーシブ教育，共生社会，特別な教育的ニーズ
学生の到達目標	1．インクルーシブ教育システムの概念，特別支援教育の役割，合理的配慮、基礎的環境整備について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 2．就学先決定の仕組み，一貫した支援のための仕組み，多様な学びの場の役割，教員に求められる専門性について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

3．交流及び共同学習や相談支援体制について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3） 担当教員: 渡邉　章
	第2回	インクルーシブ教育システムとはなにか（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第3回	インクルーシブ教育システム構築における特別支援教育の役割（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第4回	障害のある子どもの就学先決定の仕組み（目標2） 担当教員: 田所　明房
	第5回	相談支援体制の充実（目標3） 担当教員: 渡邉　章
	第6回	教員に求められる専門性（目標2） 担当教員: 田所　明房
	第7回	合理的配慮とはなにか（目標1） 担当教員: 菊地　一文
	第8回	合理的配慮決定の基本的考え方（目標1） 担当教員: 菊地　一文
	第9回	どのような基礎的環境整備が必要か（目標1） 担当教員: 菊地　一文
	第10回	多様な学びの場の役割（目標2） 担当教員: 加藤　悦子
	第11回	地域の教育資源の活用（目標2） 担当教員: 加藤　悦子
	第12回	関係機関の連携（目標2） 担当教員: 加藤　悦子
	第13回	交流及び共同学習の推進（目標3） 担当教員: 渡邉　章
	第14回	障害がある子どもへの一貫した支援（目標2） 担当教員: 田所　明房
	第15回	まとめ　授業の振り返りとインクルーシブ教育システムの推進に関する重要事項の確認（目標1，2，3） 担当教員: 渡邉　章
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 インクルーシブ教育システムについて調べておくこと 第3回 特別支援教育の役割について調べておくこと 第4回 就学先決定の仕組みについて調べておくこと 第5回 相談支援体制について調べておくこと 第6回 教員に求められる専門性について調べておくこと 第7回 合理的配慮について調べておくこと 第8回 合理的配慮決定の基本的考え方について調べておくこと 第9回 基礎的環境整備について調べておくこと 第10回 多様な学びの場の役割について調べておくこと 第11回 地域の教育資源の活用について調べておくこと 第12回 関係機関の連携について調べておくこと 第13回 交流及び共同学習について調べておくこと 第14回 障害がある子どもへの一貫した支援について調べておくこと 第15回 第1回～第14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める。

復習	第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回 インクルーシブ教育システムについてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回 特別支援教育の役割についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回 就学先決定の仕組みについてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回 相談支援体制についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回 教員に求められる専門性についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回 合理的配慮についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回 合理的配慮決定の基本的考え方についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回 基礎的環境整備についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回 多様な学びの場の役割についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回 地域の教育資源の活用についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回 関係機関の連携についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回 交流及び共同学習についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回 障害がある子どもへの一貫した支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回 第1回～第15回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと。
展開	講義において関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，知識・理解を深めること。

成績評価

評価の基準	１．インクルーシブ教育システムの概念，特別支援教育の役割，合理的配慮、基礎的環境整備について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 ２．就学先決定の仕組み，一貫した支援のための仕組み，多様な学びの場の役割，教員に求められる専門性について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 ３．交流及び共同学習の取組や相談支援体制について理解し，自分の考えを的確に表現できること。
評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	インクルーシブ教育って？
著者名	木舩憲幸
出版社	明治図書
価格	2000円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-18-126716-2
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	473円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-30016-0
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）

著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-303-12432-8

推薦図書等	
参考URL	1)文部科学省：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm 2)文部科学省：文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針の策定について（通知）. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2015/11/24/1364727_01.pdf
備考	・４名の教員によるオムニバス形式で授業を実施する。 ・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・担当教員のオフィスアワー及び連絡方法については，各回担当の教員マイページを参照すること。

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST201
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	菊地　一文
担当教員	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1035001　火5
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード	知的障害，発達，障害，アセスメント，支援
学生の到達目標	1.知的障害に関連する生理・病理について理解できる。 2.知的障害の定義と分類，アセスメント方法について理解できる。 3.知的障害における心理機能と発達支援について理解できる。

授業内容	第1回	知的障害の生物学概論（目標1） 担当教員: 上原　朗
	第2回	知的障害の病理（目標1） 担当教員: 上原　朗
	第3回	自閉症の病理（目標1） 担当教員: 上原　朗
	第4回	ダウン症など染色体異常の障害の病理（目標1） 担当教員: 上原　朗
	第5回	注意欠如／多動性障害の病理（目標1） 担当教員: 上原　朗
	第6回	知的障害の定義と分類，アセスメント方法-(目標2) 担当教員: 菊地　一文
	第7回	知的障害に関連する諸障害(自閉スペクトラム症①)-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第8回	知的障害に関連する諸障害(自閉スペクトラム症②)-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第9回	知的障害に関連する諸障害(ダウン症・てんかん)-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第10回	知的障害のある子どもの認知①-心理アセスメントの概要-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第11回	知的障害のある子どもの認知②-心理アセスメントの実際-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第12回	知的障害のある子どもの行動①-応用行動分析学の概要-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第13回	知的障害のある子どもの行動②-応用行動分析学の実際-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第14回	知的障害のある子どもの学習及び運動①-先行研究から-(目標3) 担当教員: 菊地　一文
	第15回	知的障害のある子どもの学習及び運動②-授業等の実際-(目標3) 担当教員: 菊地　一文

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回　シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと、知的障害の生物学概論について調べておくこと 第2回　知的障害の病理について調べておくこと 第3回　自閉症の病理について調べておくこと 第4回　ダウン症など染色体異常の障害の病理について調べておくこと 第5回　注意欠如／多動性障害の病理について調べておくこと 第6回　知的障害の定義と分類、アセスメント方法について調べておくこと 第7回　自閉スペクトラム症の特性等について調べておくこと 第8回　自閉スペクトラム症の特性等を踏まえた支援について調べておくこと 第9回　ダウン症及びてんかんの特性等を踏まえた支援について調べておくこと 第10回　心理アセスメントの概要について調べておくこと 第11回　心理アセスメントを踏まえた支援について調べておくこと 第12回　応用行動分析学の概要について調べておくこと 第13回　応用行動分析学を踏まえた支援について調べておくこと 第14回　知的障害のある子どもの学習及び運動の特性について調べておくこと 第15回　知的障害のある子どもの学習及び運動の支援について調べておくこと

	復習	第1回　この科目の受講によって理解を深めたいことをまとめておくこと、知的障害の生物学概論についてポイント及び考察をまとめておくこと 第2回　知的障害の病理についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回　自閉症の病理についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回　ダウン症など染色体異常の障害の病理についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回　注意欠如／多動性障害の病理についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回　知的障害の定義と分類、アセスメント方法についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回　自閉スペクトラム症の特性等についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回　自閉スペクトラム症の特性等を踏まえた支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回　ダウン症及びてんかんの特性等を踏まえた支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回　心理アセスメントの概要についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回　心理アセスメントを踏まえた支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回　応用行動分析学の概要についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回　応用行動分析学を踏まえた支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回　知的障害のある子どもの学習及び運動の特性についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回　知的障害のある子どもの学習及び運動の支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
	展開	授業内容に関連した小レポートを課します。それを提出すること。(1回から15回)
成績評価	評価の基準	1.知的障害に関連する生理・病理について理解し、的確に説明できること。 2.知的障害の定義と分類，アセスメント方法について理解し、的確に説明できること。 3.知的障害における心理機能と発達支援について理解し、的確に説明できること。
	評価の方法	講義・討議への参加，及び態度（40%）とレポート・定期試験の成績（60%）から評価します。

教科書

書籍名	知的障害のことがよくわかる本 (健康ライブラリーイラスト版)
著者名	有馬正高
出版社	講談社
価格	1,296円
ISBN・ISSN	978-4062594165
書籍名	イラストでわかる ABA実践マニュアル: 発達障害の子のやる気を引き出す行動療法
著者名	藤坂龍司・松井絵理子・つみきの会
出版社	合同出版
価格	2,592円

	ISBN・ISSN	978-4772612357

推薦図書等	書籍名	はじめはみんな話せない-行動分析学と障がい児の言語指導
	著者名	谷 晋二
	出版社	金剛出版
	価格	3,024円
	ISBN・ISSN	978-4772412728

参考URL

備考

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST202
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	渡邉　章
担当教員	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1036001　火5
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード　肢体不自由，特別な教育的ニーズ，心理・生理・病理

学生の到達目標

1．肢体不自由のある子どもの日常生活における困難と心理面の配慮点について理解し，自分の考えを表現できるようになる。
2．肢体不自由のある子どもの支援に関する国内動向・国際動向について理解し，自分の考えを表現できるようになる。
3．肢体不自由のある子どもの生理・病理について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション，中枢神経の解剖と神経活動（目標1，2，3） 担当教員: 上原　朗
	第2回	中枢神経系の発生と病理（目標3） 担当教員: 上原　朗
	第3回	脳性麻痺の病理（目標3） 担当教員: 上原　朗
	第4回	脳性麻痺の併存症と医療的ケア（目標3） 担当教員: 上原　朗
	第5回	運動器系疾患（筋ジストロフィ）と二分脊椎の病理（目標3） 担当教員: 上原　朗
	第6回	肢体不自由のある人のライフサイクルと心理（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第7回	肢体不自由のある子どもへの支援の国際動向と国際生活機能分類（ICF）（目標2） 担当教員: 渡邉　章
	第8回	肢体不自由のある子どもの移動介助における心理的な配慮点（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第9回	肢体不自由のある子どもの車いす介助における心理的な配慮点（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第10回	肢体不自由のある子どもにおける遊びの心理的意義と配慮点(1) 屋外活動における配慮点（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第11回	肢体不自由のある子どもにおける遊びの心理的意義と配慮点(2) 屋内活動における配慮点（目標1） 担当教員: 渡邉　章
	第12回	肢体不自由のある子どもの生活におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン（目標2） 担当教員: 渡邉　章
	第13回	肢体不自由のある子どもの障害受容と支援における配慮点（目標2） 担当教員: 渡邉　章
	第14回	肢体不自由のある子どもの支援におけるアシスティブテクノロジーの活用と配慮点（目標2） 担当教員: 渡邉　章
	第15回	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理のまとめ　授業の振り返りと重要事項の確認 （目標1，2，3） 担当教員: 渡邉　章
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくとともに，中枢神経の構造について調べておくこと 第2回 中枢神経系の発生について調べておくこと 第3回 脳性麻痺について調べておくこと 第4回 医療的ケアについて調べておくこと 第5回 筋ジストロフィと二分脊椎について調べておくこと 第6回 肢体不自由のある人のライフサイクルについて調べておくこと 第7回 障害のある人の支援に関する国際動向と国際生活機能分類（ICF）について調べておくこと 第8回 移動介助について調べておくこと 第9回 車いす介助について調べておくこと 第10回 屋外で行う遊びについて調べておくこと 第11回 屋内で行う遊びについて調べておくこと 第12回 バリアフリー及びユニバーサルデザインについて調べてお

		くこと 第13回 障害受容について調べておくこと 第14回 アシスティブテクノロジーについて調べておくこと 第15回 第1回～第14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める。
	復習	第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくとともに，中枢神経の構造についてポイント及び考察をまとめておくこと 第2回 中枢神経系の発生についてポイント及び考察をまとめておくことと 第3回 脳性麻痺についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回 医療的ケアについてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回 筋ジストロフィと二分脊椎についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回 肢体不自由のある人のライフサイクルについてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回 国際動向と国際生活機能分類（ICF）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回 移動介助における心理的配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回 車いす介助における心理的配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回 屋外で行う遊びにおける心理的配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回 屋内で行う遊びにおける心理的配慮点ついてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回 バリアフリー及びユニバーサルデザインについてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回 障害受容及び支援における心理的配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回 アシスティブテクノロジーの活用における心理的配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回 第1回～第15回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
	展開	第1回～第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと

成績評価	評価の基準	1）肢体不自由のある子どもの日常生活における困難と心理面の配慮点について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 2）肢体不自由のある子どもの支援に関する国内動向・国際動向について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 3）肢体不自由のある子どもの生理・病理について理解し，自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書	書籍名	ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援
	著者名	田中農夫男・木村進編著
	出版社	福村出版
	価格	2 ,800円
	ISBN・ISSN	978 -4-571-12103-6

推薦図書等

参考URL	
備考	・講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すために，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。 ・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・教員のオフィスアワー及び担当教員の連絡方法については，教員マイページを参照すること。

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST203
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	昆　俊雄
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1037001 木4または5
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等

授業のキーワード	小児慢性疾患，心身症，行動制限，不安，ストレス
学生の到達目標	1．病気のもたらす子どもの不安やストレス,恐怖心等の心理状態等からその心理特性の基礎を学ぶ。 2．病弱教育対象の子どもの病気や病類等の生理・病理の基礎を学ぶ。

授業内容

第1回　細胞生物学の分子基礎と病弱病理(目標2)
担当教員: 柿沼　宏明

第2回　小児慢性疾患の病理I(目標2)
担当教員: 柿沼　宏明

第3回　小児慢性疾患の病理II(目標2)
担当教員: 柿沼　宏明

第4回　情動と行動の病理(目標2)
担当教員: 柿沼　宏明

第5回　不登校の病理(目標2)
担当教員: 柿沼　宏明

第6回　病弱の教育上の定義(目標1)
担当教員: 昆　俊雄

第7回　病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向(目標1)
担当教員: 昆　俊雄

第8回　病弱による心理規制(目標1)
担当教員: 昆　俊雄

第9回　疾病進行への不安・恐怖(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

第10回　行動制限によるストレス(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

第11回　不登校の子どもの心理(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

第12回　親子関係に及ぼす影響(目標1)
担当教員: 昆　俊雄

第13回　慢性疾患のある子の臨床事例(1)(ぜん息児童生徒)(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

第14回　慢性疾患のある子の臨床事例(2)(糖尿病児童生徒)(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

第15回　慢性疾患のある子の臨床事例(3)(腎疾患児童生徒)(白血病その他含)(目標1,2)
担当教員: 昆　俊雄

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習　第１回～第１５回（共通）　教育内容に示している項目や病種，キーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。

復習　第１回～第１５回（共通）　授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開　授業内容に関連する事項などに関し、教科書や、配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。

成績評価

評価の基準　１　病気の子どものからくる心理特性や，その基礎的な理解度や定着度。
２　病気の子どもの生理、病理等の基礎的な知識が定着し指導に生かせる能力が養われたかを勘案する。

評価の方法　試験（40%），レポート（30%），リアクションペーパー及び授業態度（30%）等により総合的に評価

教科書

書籍名　特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理

著者名　小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著

	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	987-4-623-06153-2

	書籍名	「病弱教育Q&A」PARTⅠ　病弱教育の道標
	著者名	横田雅史/監　全国病弱養護学校長会
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-05-2
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PARTⅤ　病弱教育の視点からの医学事典
	著者名	西間三馨/監修　横田雅史/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5

参考URL	
備考	病弱教育の教育内容や基礎的事項を踏まえておいた方が理解しやすいので，必須の参考図書等を一読しておくと良い。なお，「病弱教育Ⅰ」の履修を併用するとさらに理解が深まると思われる。

エレメンタリーセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS100
開講年度	2017年度
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	エレメンタリーセミナー
科目責任者	渡邉　章
担当教員	安藤　則夫 髙木　夏奈子 広瀬　由紀 馬場　彩果 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1130501　水2
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
授業のキーワード	建学の精神，本学の特色，学修基盤の形成，教育・保育の場の体験的理解
学生の到達目標	1．建学の精神と本学の特色を理解する。 2．本学における学修の基本を理解し，学修の基盤を形成することができる。 3．教育・保育の場を体験的に理解し，自分のキャリア形成に生かすことができる。

授業内容	第1回	ガイダンス及び建学の精神：学園長講話（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第2回	本学における学修の基本１：専攻の特色（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第3回	本学における学修の基本２：GPA、授業の受け方（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	本学における学修の基本３：学修環境の理解とビオトープ探索 担当教員: 担当教員全員
	第5回	グループ協議及び個別面談１：自己理解（上級生とのグループワーク含む）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	グループ協議及び個別面談２：他者理解（上級生とのグループワーク含む）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	グループ協議及び個別面談３：高校への報告（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	本学の特色１：共生社会への寄与（目標1） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	本学の特色２：障害や困難性のある人への支援（目標1） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	本学の特色３：地域貢献（目標1） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	参観学習１：小学校，特別支援学校，幼稚園，保育所等見学の事前指導（目標3） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	参観学習２：小学校，特別支援学校，幼稚園，保育所等見学（専攻別）（目標3） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	参観学習３：小学校，特別支援学校，幼稚園，保育所等見学（専攻別）（体験報告・事後指導を含む）（目標3） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	レポートの書き方，試験の受け方（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	前期の振り返り及び後期の履修について（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 本学部における専攻の特色について調べておくこと 第3回 GPA及び授業の受け方について調べておくこと 第4回 本学の学修環境について調べておくこと 第5回～第6回 自分が関心をもっていることや将来どのような進路に進みたいかについてまとめておくこと 第7回 自分の出身高校に報告したいことについてまとめておくこと 第8回 共生社会について調べておくこと 第9回 障害や困難性のある人への支援においてどのようなことが大切かを調べておくこと 第10回 本学の学生としてどのような地域貢献が可能かについてまとめておくこと 第11回～第13回 小学校，特別支援学校，幼稚園，保育所等に見学に行く際に重要なことについてまとめておくこと 第14回 レポートの書き方，試験の受け方について調べておくこと 第15回 この授業を通じて学んだことをまとめておくこと 上記予習内容については，授業における質疑応答を通じて理解状況を確認し，授業を進める。

	復習	第1回 この授業の受講を通して学びたいことについてまとめておくこと 第2回 本学部における専攻の特色について重要だと思った点についてまとめておくこと 第3回 GPAや授業の受け方について重要だと思った点についてまとめておくこと 第4回 本学における学修環境の特色についてまとめておくこと 第5回～第6回 グループ協議及び個別面談を通じて学んだことについてまとめておくこと 第7回 出身高校への報告を作成して感じたことについてまとめておくこと 第8回 共生社会への寄与について重要だと思った点をまとめておくこと 第9回 障害や困難性のある人への支援について重要だと思った点をまとめておくこと 第10回 本学の学生として地域貢献を行う際に重要だと思った点をまとめておくこと 第11回～第13回 小学校，特別支援学校，幼稚園，保育所等見学において重要だと思った点をまとめておくこと 第14回 レポートの書き方，試験の受け方において重要だと思った点をまとめておくこと 第15回 後期の履修に向けて自分にとって重要だと思うことについてまとめておくこと
	展開	グループ活動，発表，協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと
成績評価	評価の基準	1．建学の精神と本学の特色を理解していること。 2．本学における学修の基本を理解し，学修の基盤を形成することができること。 3．教育・保育の場を体験的に理解し，自分のキャリアについての考えを表現できること。
	評価の方法	・グループ活動，発表，協議への参加（40%） ・提出物（30%） ・レポート（30%）
教科書	書籍名	大学新入生ハンドブック
	著者名	世界思想社編集部編
	出版社	世界思想社
	価格	520
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7907-1641-9
推薦図書等		
参考URL		植草学園キャリア支援課編．ボランティア活動ハンドブック．植草学園大学／植草学園短期大学．
備考		・授業内容に応じて，学部全体，専攻別，小集団等により実施する。 ・アクティブラーニングによる実施する。 ・上級生とのグループワークを取り入れる。 ・第１２回，１３回は，小・特専攻は小学校と特別支援学校を見学，幼・保専攻は，幼稚園と保育所あるいは施設の実地見学を行う。 ・実地見学の日程は，見学先の都合に応じて設定される。 ・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。

キャリア演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS101
開講年度	2017年度
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習Ⅰ
科目責任者	髙木　夏奈子
担当教員	渡邉　章 安藤　則夫 広瀬　由紀 馬場　彩果 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1130001　水2
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	職業人の基本的資質，礼儀・マナー，基礎学力
学生の到達目標	1．社会人として必要な基礎学力・コミュニケーション力を身に付けることができる。 2．職業人として必要な礼儀・作法及び積極的・意欲的な生活態度を身に付けることができる。 3．学生として望ましい充実した生活習慣を形成することができる。

授業内容	第1回	本授業の目標と内容のガイダンス (目標2,3) 前期成績と後期履修オリエンテーション（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第2回	個別面談とグループ活動（１）（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第3回	個別面談とグループ活動（２）（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	個別面談とグループ活動（３）（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第5回	キャリア適性検査（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	社会人に向けて：薬物乱用防止研修（目標3） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	職業人に必要な資質を考える（目標1，2） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	職業適性検査結果の返却と分析（目標1） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	専攻別　課程毎に４年間の見通しを知り考える（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	課程毎に実習の話を中心に3年次生先輩の話を聴く（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	社会人に向けて：マナー講座（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	ビデオ視聴と記録(1)保育所の子どもと生活（目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	ビデオ視聴と記録(2)小学校・特別支援学校の教育 （目標2） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	インターンシップ経験振り返り発表（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	１学年を振り返って2年生への意欲を繋ぐ（目標1，2，3） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	次時のテーマについてあらかじめ資料を集める等の準備をする。（1～15回共通）
	復習	取り扱われた内容を整理し、重要な点を確認する。（1～15回共通）
	展開	１年生として意欲的に学生生活を送るとともに、４年間の大学生活の基礎を培う。
成績評価	評価の基準	１．社会人として必要な基礎学力・コミュニケーション力を身に付けることができたか。 ２．職業人として必要な礼儀・作法及び積極的・意欲的な生活態度を身に付けることができたか。 ３．学生として望ましい充実した生活習慣を形成することができたか。 ※授業への取り組み状況　提出物の状況等によって評定する。
	評価の方法	授業への取り組み状況 70%　提出物提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		

備考	連絡方法：担任毎にオフィスアワーを確認した上で、ゼミ室に直接訪問してください。

キャリア演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS201
開講年度	2017年度
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習Ⅱ
科目責任者	加藤　悦子
担当教員	川端　眞由美 宮下　裕一 川口　由起子 遠藤　隆志 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1131001　水2
教室	講義室21・22, Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
学生の到達目標	1．社会人として必要な知識や態度を身につけ,実践できる。 2．自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し,自己の能力を高める。大学生活をキャリアデザインし,その実現に向けて努力する。 3．種々の検査や面接を通して自己理解する。

授業内容

第1回　オリエンテーション（学年担当者紹介,ねらい,年間スケジュール,
履修について）（目標１）
担当教員：全員

第2回　実習にむけて（実習にかかる履修要件の確認等）（目標２）
担当教員：全員

第3回　「学びのコンパス」による今後の計画及び目標
小・特　教育実習の依頼方法等について（目標２）
担当教員：全員

第4回　インターンシップⅡについて（目標１，２）
担当教員：全員

第5回　小・特　教採試験対策について（目標２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　幼稚園の実習園の相談について,
幼稚園への実習依頼の電話の掛け方（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第6回　個人面談１－①（目標３）
担当教員：全員

第7回　個人面談１－②（目標３）
担当教員：全員

第8回　小・特　採用試験までの見通しについて（目標２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　附属幼稚園「森の遠足」にむけて（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第9回　先輩社会人に聞く職場体験の話（目標２）
担当教員：全員

第10回　マナー講座（目標１）
担当教員：全員

第11回　小・特　参観実習事前指導（目標２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　就職についての説明（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第12回　先生になるために必要な力とは（目標２）
担当教員：全員

第13回　小・特　インターンシップⅡについて（目標１，２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　夏休みのインターンシップ活動について―実習に向けて
（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第14回　小・特　小学校参観実習事後指導（目標２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　保育士試験の問題を知る（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第15回　小・特　手話を使ったコミュニケーションの体験（目標１，２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　幼稚園実習依頼電話のかけ方（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第16回　後期キャリア演習の意義とスケジュールの解説(目標１，２）
担当教員：全員

第17回　卒論中間発表をきく（目標２）
担当教員：全員

第18回　卒論中間発表会をきく①（目標２）
担当教員：全員

第19回　研究室紹介①（目標２）
担当教員：全員

第20回

研究室紹介②（目標２）
担当教員：全員

第21回　小・特　論文の書き方（目標１，２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　インターンシップ・ボランティアセミナー（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第22回　3年次専門ゼミにむけた研究室選択（目標１,２）
担当教員：全員

第23回　小・特　千葉県教育委員会による出前講座（目標１，２）
担当教員：川端　加藤
幼・保　千葉市就職説明会（目標２）
担当教員：宮下　川口　遠藤　實川

第24回　模擬試験①（目標２,３）
担当教員：全員

第25回　模擬試験②（目標２,３）
担当教員：全員

第26回　大学構内外の美化活動・防災訓練（目標１）
担当教員：全員

第27回　個人面談２－①（目標３）
担当教員：全員

第28回　個人面談２－②（目標３）
担当教員：全員

第29回　模擬試験の返却・解説（目標２）、３年生に向けて「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め(目標3)
担当教員：全員

第30回　卒業研究発表会への参加（目標２）
担当教員：全員

予習・復習の内容（毎回90分程度）

予習
・職業選択に関係ある情報を常日頃から気に留め,読んだり集めたりして調べる。
・実習に向けて必要な準備等を、実習の手引きを読み理解しておく。
・教員、保育士などになるために必要な心構え、実際の採用試験の内容などについて調べ理解しておく。
・研究室所属にあたり専任教員についてホームページなどで調べる。
・３年生以降の進路について、自分の課題を

復習
・授業終了後に感じたこと,学んだこと指導されたことなどを必ずまとめ,記録し保存して理解する。
・授業を通じて気づいた自分の課題について理解し、修正すべきところは修正したり学んだりする。
・実習に向けて必要な準備等を、授業後確認し整える。
・教員、保育士などになるために必要な心構え、実際の採用試験の内容などについて授業後確認し、自己を振り返る深める。
・研究室所属にあたり、自分の進路・適性と照合し、考える。

展開
・自分の意見をもち,積極的に参加すること。
・他の人の考えから常に学ぶ姿勢で取り組むこと。
・自分の課題・興味・関心のあることについて、書籍・インターネットなどでさらに調べ深める。

成績評価

評価の基準
１．社会人として必要な知識や態度を身につけ,実践できること。
２．自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し,自己の能力を高めること。大学生活をキャリアデ

	ザインし,その実現に向けて努力すること。 ３．種々の検査や面接を通して自己理解すること。
	評価の方法　課題発表やレポート（３0%），課題に対する取り組み（７0%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず出席すること。

環境と社会性発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT205
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	環境と社会性発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1038001　月1
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	6-2 教育の基礎的理解（幼保）

授業のキーワード　環境と生得的な資質，相互作用，社会性の発達，家族

学生の到達目標

1．環境と生得的な資質との相互作用によって社会性が発達することを理解する。
2．社会性の発達のために望ましい環境,人との相互作用とは何かを理解する。
3．家族内の親しい人との関係や友達関係と社会性の発達の関連を理解する。

授業内容

第1回	社会性の発達に影響する環境要因。環境と生得的な資質との相互作用に関する基本的な概念や考え方,研究法について学ぶ(目標1,2,3)
第2回	乳幼児の安心感。人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境について学ぶ。(目標2,3)

第3回	母子関係の意味。母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係を学ぶ。(目標3)
第4回	家族の変化と育児。社会と家族の変化を理解し,社会性発達に対する意味を考える。(目標2,3)
第5回	親子関係の相互性。親子がお互いに影響し合っている点と,相互作用の過程を学ぶ。(目標1,2,3)
第6回	人間関係と情緒調節。人間関係の中での情緒制御能力の育ちを理解する。(目標1,2)
第7回	共感と情報交換。幼児がいかに他者と共感し合いながら,情報交換を楽しみ,周りの世界に対するイメージを築いていくかを理解する。(目標2,3)
第8回	役割意識とルールの尊重。大人や友達との関わりを通じて,幼児がいかにみんなの中で役割意識を持てるようになり,ルールを尊重するようになるのかについて理解する。(目標2)
第9回	向社会的行動の発達と人間関係。人に対する思いやりが,人との関わりの中でどのように発達していくのかについて理解する。(目標2)
第10回	価値観と道徳性の発達。他児との関わりや集団生活の過程で,いかに他者理解が進むのか,道徳性が発達していくのかについて理解する。(目標2)
第11回	児童期思春期の社会性発達。乳幼児期の社会性発達と児童期思春期の発達との関連を理解し,長期的展望に立って子どもの発達を理解する。(目標2)
第12回	子育ての困難さと子育て支援。子育ての困難さや虐待の起こる要因を理解し,心の傷を負った子どもの成長や家族への子育て支援について考える。(目標1,2)
第13回	非行や反社会的行動と子育て。育児困難な子の発達や逸脱行動を理解し,社会性発達を促す関わり方について学ぶ。(目標2,3)
第14回	発達障害と社会性発達。自閉症やADHDなどに見られる社会性の障害を理解し,社会性発達を促す働きかけについて学ぶ。(目標1,2,3)
第15回	社会的文化的環境と社会性発達。社会的文化的環境の違いによって社会性発達がどのように影響されるかを理解し,日本文化の中の育児法を考える。(目標1,2,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。さらに社会性の発達に影響する環境と生得的な資質との相互作用について調べておくこと。 第２回乳幼児期に人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境について調べておくこと。 第３回母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係について調べておくこと。 第４回社会や家族の変化が社会性発達に及ぼす影響について調べておくこと。 第５回親子関係の相互性と相互作用の過程について調べておくこと。 第６回人間関係の中での情緒制御能力の育ちについて調べておくこと。 第７回人との情報交換における共感性の重要性について調べておくこと。 第８回幼児期の役割意識とルールの尊重の形成について調べておくこと。 第９回向社会的行動の発達と人間関係について調べておくこと。 第10回子どもの他者理解の進展と道徳性が発達について調べておくこと。 第11回児童期と思春期の社会性発達の関連について調べておくこと。 第12回子育ての困難さと子育て支援について調べておくこと。 第13回育児困難な子の発達や逸脱行動について調べておくこと。

		第14回発達障害と社会性発達について調べておくこと。 第15回社会的文化的環境と社会性発達および日本文化の中の育児法について調べておくこと。
	復習	第１回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。また社会性の発達に影響する環境と生得的な資質との相互作用についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第２回乳幼児期に人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第３回母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第４回社会や家族の変化が社会性発達に及ぼす影響についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第５回親子関係の相互性と相互作用の過程についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第６回人間関係の中での情緒制御能力の育ちについてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第７回人との情報交換における共感性の重要性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第８回幼児期の役割意識とルールの尊重の形成についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第９回向社会的行動の発達と人間関係についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第10回子どもの他者理解の進展と道徳性が発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第11回児童期と思春期の社会性発達の関連についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第12回子育ての困難さと子育て支援についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第13回育児困難な子の発達や逸脱行動についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第14回発達障害と社会性発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第15回社会的文化的環境と社会性発達および日本文化の中の育児法についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
	展開	子どもと接したときに、子どもの成長を長い目で見て、どのように環境を設定していったらよいかが分かる。
成績評価	評価の基準	１．環境と生得的な資質との相互作用によって社会性が発達することを理解し、自分の考えを的確に表現できること。 ２．社会性の発達のために望ましい環境,人との相互作用とは何かを理解し、自分の考えを的確に表現できること。 ３．家族内の親しい人との関係や友達関係と社会性の発達の関連を理解し、自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	重要な事項は復習すること。	

幼児・児童の病気と医療

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT206
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の病気と医療
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1039001　月3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	乳幼児，児童，病気，医療
学生の到達目標	1.幼児・児童の病気について理解する。 2.幼児・児童が病気に罹患したとき正しく対応できる。 3.幼児・児童の病気の予防および早期発見ができる。
授業内容	第1回　ヒトの体の構造とはたらき（1）血液、生体防御系、（目標1） 第2回　ヒトの体の構造とはたらき（1）血液、生体防御系 第1章　赤ちゃん・子どもの病気と気がかり（目標1）

第3回	ヒトの体の構造とはたらき（1）血液、生体防御系 第1章　赤ちゃん・子どもの病気と気がかり（目標1）
第4回	ヒトの体の構造とはたらき（2）循環器（心臓と血管、リンパ系） 第2章　赤ちゃんの体の気がかり（目標1，2）
第5回	ヒトの体の構造とはたらき（3）消化器系 第2章　赤ちゃんの体の気がかり（目標1,2）
第6回	ヒトの体の構造とはたらき（4）栄養と代謝、体温調節 第3章　発熱とけいれんの病気（目標1,2,3）
第7回	ヒトの体の構造とはたらき（5）神経系（脳の構造） 第3章　発熱とけいれんの病気（目標1,2,3）
第8回	ヒトの体の構造とはたらき（5）神経系（自律神経、脳波） 第4章　嘔吐‥下痢の病気（目標1,2,3）
第9回	ヒトの体の構造とはたらき（6）排尿と排便 第4章　嘔吐・便秘・下痢の病気（目標1,2,3）
第10回	ヒトの体の構造とはたらき（7）呼吸器系 第5章　咳・鼻水・鼻づまりの病気（目標1,2,3）
第11回	ヒトの体の構造とはたらき（7）皮膚の構造とスキンケア 第6章　発疹の出る病気（目標1,2,3）
第12回	ヒトの体の構造とはたらき（8）日内変動と睡眠・覚醒 （目標1,2,3） 第7章　乳幼児のこころの気がかり（目標1,2,3）
第13回	ヒトの体の構造とはたらき（9）感覚器系（目、耳） 第8章　奇形やそのほかの病気（目標1）
第14回	第9・10章　予防接種と定期検診（目標3）
第15回	第11章　事故予防と簡単な応急処置（目標3）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	1～3回　血液の成分を書きだし、それぞれの働きを調べる。抗体について調べる。（60分） 4回　心臓の構造を描き、名称を入れる。（60分） 5回　消化管の構造を描き、名称を入れる）（60分） 6回　体温の日内変動について調べる。（60分） 7回　脳の構造を描き、名称を入れる。（60分） 8回　自律神経について調べる。（60分） 9回　排便排尿のメカニズムを調べる。（95分） 10回　呼吸器の構造を描き、名称を入れる。（60分） 11回　皮膚の構造を描き、名称を入れる。（60分） 12回　メラトニンとセロトニンについて調べる（95分） 13回　目と耳の構造を描き、名称を入れる。（95分） 14回　麻疹の予防接種について調べる。（60分） 15回　ノートをまとめる。演習問題を解く。（95分）
	復習	1～11回　予習で描いた構造図を訂正する。 2回　小児のチェックポイントを整理する。 4回　血圧についてまとめる。川崎病を調べる。 5回　嘔吐する病気をまとめる。 6回　下痢をする病気をまとめる。 8回　起立性血圧、てんかんについてまとめる。 9回　便秘の対応を整理する。 10回　気管支喘息についてまとめる。 11回　アトピー性皮膚炎のスキンケアをまとめる。 12回　食物アレルギーの対応を整理する。 13回　1～12回のまとめをする。 14回　演習問題を解く。
	展開	実習等で子どもの健康問題を理解でき,援助する。

成績評価	評価の基準	1．幼児・児童の病気についての理解度及び定着度 2．幼児・児童の病気に罹患時に正しく対応する能力についての理解度 3．幼児・児童の病気を予防する理解度
	評価の方法	期末の筆記試験　100%

教科書	書籍名	病気＆ホームケア
	著者名	渡辺　博　監修
	出版社	ベネッセ
	価格	1300＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8288-6579-9

推薦図書等	書籍名	こどもの病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦、柳澤正義監修
	出版社	講談社
	価格	4000+税
	ISBN・ISSN	4-06-206605-X　C3347

参考URL

備考

幼児・児童の障害と支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT207
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の障害と支援
科目責任者	渡邉　章
担当教員	藤田　俊明 加藤　悦子 広瀬　由紀 田所　明房 菊地　一文
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1040001　木5
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-1 特別支援教育の基礎理論

授業のキーワード	幼児，児童，障害，支援

学生の到達目標	1．幼児期の子どもの抱える困難を理解し，どのような対応が必要か、自分の考えを表現できるようになる。 2．各種障害のある子どもの特徴を理解し，どのような配慮が必要か、自分の考えを表現できるようになる。 3．各種障害のある子どもへの支援の仕方について理解し，どのような支援が適切であるか，自分の考えを表現できるようになる。
授業内容	第1回　イントロダクション－授業のねらい・進め方・評価の仕方－（目標1,2,3） 担当教員: 渡邉　章 第2回　幼児期における子どもの抱える困難への気づき（目標1） 担当教員: 広瀬　由紀 第3回　幼児期における子どもの抱える困難への支援（目標1） 担当教員: 広瀬　由紀 第4回　知的障害の子どもの特徴と配慮点（目標2） 担当教員: 菊地　一文 第5回　知的障害の子どもへの支援（目標3） 担当教員: 菊地　一文 第6回　肢体不自由の子どもの特徴と配慮点（目標2） 担当教員: 渡邉　章 第7回　肢体不自由の子どもへの支援（目標3） 担当教員: 渡邉　章 第8回　重複障害の子どもの特徴と配慮点（目標2） 担当教員: 田所　明房 第9回　重複障害の子どもへの支援（目標3） 担当教員: 田所　明房 第10回　発達障害の子どもの特徴と配慮点（目標2） 担当教員: 加藤　悦子 第11回　発達障害の子どもへの支援（目標3） 担当教員: 加藤　悦子 第12回　障害のある子どもの生活単元学習（目標3） 担当教員: 藤田　俊明 第13回　障害のある子どもの日常生活の指導（目標3） 担当教員: 藤田　俊明 第14回　障害のある子どもの作業学習（目標3） 担当教員: 藤田　俊明 第15回　まとめ　授業の振り返りと幼児・児童の障害と支援に関する重要事項の確認（目標1,2,3） 担当教員: 渡邉　章
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 幼児期の子どもの抱える困難について調べておくこと 第3回 幼児期の子どもへの支援について調べておくこと 第4回 肢体不自由の子どもの特徴と配慮について調べておくこと 第5回 肢体不自由の子どもへの支援について調べておくこと 第6回 知的障害の子どもの特徴と配慮点について調べておくこと 第7回 知的障害の子どもへの支援について調べておくこと 第8回 重複障害の子どもの特徴と配慮点について調べておくこと 第9回 重複障害の子どもへの支援について調べておくこと 第10回 発達障害の子どもの特徴と配慮点について調べておくこと 第11回 発達障害の子どもへの支援について調べておくこと 第12回 障害のある子どもの生活単元学習について調べておくこと

		第13回 障害のある子どもの日常生活の指導について調べておくこと 第14回 障害のある子どもの作業学習について調べておくこと 第15回 第1回～第14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める。
	復習	第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回 幼児期の子どもの抱える困難についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回 幼児期の子どもへの支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回 肢体不自由の子どもの特徴と配慮についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回 肢体不自由の子どもへの支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回 知的障害の子どもの特徴と配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回 知的障害の子どもへの支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回 重複障害の子どもの特徴と配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回 重複障害の子どもへの支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回 発達障害の子どもの特徴と配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回 発達障害の子どもへの支援についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回 生活単元学習についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回 日常生活の指導についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回 作業学習についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回 第1回～第15回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
	展開	講義の説明において関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，知識・理解を深めること
成績評価	評価の基準	1．幼児期の子どもの抱える困難を理解し，どのような対応が必要か，自分の考えを的確に表現できること。 2．各種障害のある子どもの特徴を理解し，どのような配慮が必要か，自分の考えを的確に表現できること。 3．各種障害のある子どもへの支援の仕方について理解し，どのような支援が適切であるか，自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・６名の教員によるオムニバス形式で授業を実施する。 ・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・担当教員のオフィスアワー及び連絡方法については，各回担当の教員マイページを参照すること。	

事故・災害と救命救急法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT208
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	事故・災害と救命救急法
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1041001　金3
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　1 徳育・教養
4 資質・能力

カリキュラムポリシー　1 徳育・教養
3 共生社会

授業のキーワード

小児救急医療，子どもの事故と集団災害，小児救急救命処置,専門職の役割

学生の到達目標

1．小児救急医療,子どもに多い事故や集団災害について理解できる。
2．トリアージの目的と救急救命処置について理解できる。
3．救急場面における子ども・家族の反応を理解し,小児救急場面における自分の役割を述べることができる。

授業内容

第1回　現代の子ども・家族と救急医療・看護(目標1)

第2回　救急医療を受ける子ども・家族の接近法(目標3)

	第3回	小児救急における病態とプライマリーケア①(目標1,2, 3)症状(発熱・下痢下血・嘔吐)
	第4回	小児救急における病態とプライマリーケア②(目標1,2、3)症状(呼吸困難・痙攣)
	第5回	救急と災害看護(目標1,2) 自然災害について
	第6回	小児救急における病態とクリテカルケア(目標1,2)
	第7回	子どもの事故の種類とその特徴(目標1) 不慮の事故について
	第8回	事故に伴う起こりやすい病態と看護 事故予防指導(目標1,2,3)
	第9回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(小児救急救命認定看護師による講義)(目標2)
	第10回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(シミュレーション等を通して実施)(目標2)
	第11回	子どもの虐待 初期治療および対応の原則(目標1,2,3)
	第12回	子どもに特徴的な集団災害①(目標1, 3)(養護教諭による講義) 保育所,幼稚園,学校等における災害の特徴
	第13回	子どもの特徴的な集団災害②(目標1, 3) 被災地で生活する子どもたち
	第14回	被災者と援助者の心理とその対応(目標3)
	第15回	学生の発表（提出されたレポートをもとに）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　事故・災害について，日常から関心を持ち，関　　連する報道について理解し、授業に臨むこと。 第2回～14回　次のテーマについて、図書を調べたうえで授業に臨むこと。
	復習	第1回～14回　授業の要旨をまとめておく。配布された資料はよく読み，整理すること。
	展開	事故・災害について新聞の切り抜きを整理し,要約をして理解を深めること。
成績評価	評価の基準	１.小児救急医療、事故、災害について説明できる ２．トリアージの目的と救急救命処置について説明し実施できる。 ３．救急場面における子ども・家族の反応を理解し,小児救急場面における自分の役割を述べることができる。
	評価の方法	試験60%，レポート40%（この比率は、最終的に若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	災害福祉とは何か－生活支援体制の構築に向けて
	著者名	西尾祐吾・大塚保信・古川隆司
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-623-05421-3
参考URL		
備考	小児救急看護の概要を理解し，その知識を各自の職域に活用してほしい。	

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT207
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1042901　木5
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-1 保育の本質・目的 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	保育の計画と評価、指導計画の作成、模擬保育実践	
学生の到達目標	1.保育の計画と評価にかかわる基本的な事項を理解する。 2.保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3.計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造を理解する。	
授業内容	第1回	保育の基本と計画（目標1･2）
	第2回	指導計画の種類と役割（目標1・3）

第3回	保育における計画と評価を実践的に理解する（目標1）
第4回	保育における実践・省察・評価を理解する（目標3）
第5回	保育における実践・省察・評価を協働的に理解する（目標3）
第6回	保育の計画・実践を現場との往還で理解する（目標2、3）
第7回	指導案作成（目標2、3）
第8回	模擬保育実践　指導案の修正（目標2、3）
第9回	模擬保育実践　指導案の実施（目標2、3）
第10回	模擬保育実践　指導案の実施（目標2、3）
第11回	模擬保育実践　指導案の修正（目標2、3）
第12回	模擬保育実践　指導案の実施（目標2、3）
第13回	模擬保育実践　指導案の修正（目標2、3）
第14回	理想の園づくり（目標2、3）
第15回	理想の園づくりプレゼンテーション（目標2、3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価について理解しておく。 第2回　指導計画の種類を事前に調べその役割をまとめておく。 第3回　保育における計画と評価について事前に調べておく。 第4回　保育における実践・省察・評価について自分なりの考えをまとめておく。 第5回　前回の要点を押さえ、特に、省察を評価について調べておく。 第6回　ボランティア体験等での現場で得た体験的知識と学修を重ね合わせて、理解しておく。 第7回～第13回 模擬保育実践においては、授業担当者とよく相談することを前提とする。子ども理解・発達段階・教材研究が適切に設定されているのか、指導を受けてから指導案作成をすること。 第14回　理想の園について保育理念を考察しておく。 第15回　理想の園について担当教諭としての保育方針をまとめておく。
	復習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価について理解したことをまとめておく。 第2回　指導計画の種類を事前に調べその役割をまとめ修得した知識をまとめておく。 第3回　保育における計画と評価について得た知識をまとめておく。 第4回　授業後に保育における実践・省察・評価について自分なりの考えをまとめておく。 第5回　前回の要点を押さえ、特に、省察を評価について得た知識をまとめておく。 第6回　ボランティア体験等での現場で得た体験的知識と学修を重ね合わせて、保育計画について理解を深め、要点をまとめておく。 第7回～第13回 実践した後に指導案を必ず修正し、完成度をあげること。 第14回　理想の園について他者の視点も取り入れ学修内容を広げて、要点をまとめておく。 第15回　理想の園について他者の視点を取り入れながら担当教諭としての保育方針をまとめておく。
	展開	保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができるように授業を展開する。計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造を体験的に理解することができるように各自が実践する。

成績評価	評価の基準	1.保育の計画と評価にかかわる基本的な事項についてはミニテストを授業冒頭に毎回実施する。 2.保育課程の編成と指導計画の作成についてはレポートを提出する。 3.計画、実践、省察・評価、改善の過程については指導案作成→実践→省察→指導案修正→改善のサイクルを理解し的確な指導案作成を目指して提出する。
	評価の方法	ミニテスト（10%）課題提出物（80%）、授業態度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・この科目は基礎的保育用語を理解ていることが望ましい。 ・この科目はアクティブラーニングで学修していく。 ・この科目はグループ学修、プレゼン、双方向型授業を教育方法とし　て用いる。 ・学生は模擬保育実践で使用する文房具を持参しなければならない。 その際にはUnabi にアップするので、必ず見ておくこと。 ・収容可能80人。 ・授業担当者　栗原ひとみ h-kurihara@uekusa.ac.jp	

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT208
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容総論
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1043301　火1 A1043302　前期　火2
教室	講義室16 講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-2 教育の基礎的理解（幼保） 7-1 保育の本質・目的
授業のキーワード	保育内容　子ども理解　養護と教育	
学生の到達目標	１．保育所保育指針等で示されている各章の内容を元に、保育の全体的な構造に関する基礎的な知識を身に付ける。 ２．子ども理解と保育内容の展開との関連性に関する、基礎的な考え方を身に付ける。 ３．養護と教育が一体的に展開する保育の特性に関する、基礎的な考え方を身に付ける。	

授業内容	第1回	オリエンテーション：幼稚園・保育所のイメージ（目標１）
	第2回	保育所保育指針等に基づく保育の基本および保育内容の理解（目標１・２・３）
	第3回	保育の全体構造と保育内容（目標１）
	第4回	保育内容の歴史的変遷（目標２）
	第5回	子どもの発達の特性と保育内容（目標２・３）
	第6回	個と集団の発達と保育内容（目標２・３）
	第7回	保育における観察と記録（目標２）
	第8回	保育内容と５領域（目標１・２・３）
	第9回	養護と教育が一体的に展開する保育（目標１・３）
	第10回	環境を通して行う保育（目標１）
	第11回	遊びによる総合的な指導（目標１・３）
	第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育（目標１・２・３）
	第13回	特別な配慮を要する子どもを含めた保育（目標１・２・３）
	第14回	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育（目標１）
	第15回	総括・まとめ　保育内容の考え方とその構造に関する確認（目標１・２・３）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第3回 授業のキーワードについて、自分なりに調べておく。 第4回に向けて 各グループで担当になった時代の流れやその時代の保育内容について、他の学生が理解しやすいような発表を考える。 第5回～第14回 毎回のテーマに該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ
	復習	第1回～第4回 テキストの該当部分を読み直し、得た知識を深く理解する。 返却されたレポートを再読し、テキスト等と併せて再考するとともに、授業内容について整理する。 第5回～第14回 テキストに付随している「ワーク」を用い、該当箇所について復習する。
	展開	実際の保育に触れ、保育内容に対するイメージを膨らませ、具体化する。
成績評価	評価の基準	１．保育所保育指針等で示されている各章の内容を元に、保育の全体的な構造に関する基礎的な知識を身に付ける。 ＊保育所保育指針等の基本的な構成およびその中で述べられている保育の基本的な考え方等について理解し、言語化することができる。 ２．子ども理解と保育内容の展開との関連性に関する、基礎的な考え方を身に付ける。 ＊子ども理解の考え方について理解し、そこから環境を整え保育を展開するにあたって、保育所保育指針等で述べられていることを元に自信で考えることができる。 ３．養護と教育が一体的に展開する保育の特性に関する、基礎的な考え方を身に付ける。 ＊提示される場面に対して、保育の特性を理解した上で、自分なりの考えや配慮事項について述べることができる。
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容）20% 期末試験80%

教科書	書籍名	保育内容総論
	著者名	酒井幸子・守巧
	出版社	萌文書林
	価格	2,052円
	ISBN・ISSN	9784893472052

推薦図書等	
参考URL	○幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
備考	

保育内容演習Ⅰ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT210
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1044101　前期　火2 A1044102　前期　火3
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
学生の到達目標	1．成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2．幼稚園教育要領における「健康」の内容を理解すること。 3．保育所保育指針における「健康」の内容を理解すること。
授業内容	第1回　ガイダンス(目標1～3) 第2回　健康の定義(1)(目標1)

	第3回	健康の定義(2)(目標1)
	第4回	身体の発育発達の特徴(1)(目標1)
	第5回	身体の発育発達の特徴(2)(目標1)
	第6回	身体の発育発達の特徴(3)(目標1)
	第7回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(1)(目標2)
	第8回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(2)(目標2)
	第9回	基本的生活習慣の援助(1)(目標1～3)
	第10回	基本的生活習慣の援助(2)(目標1～3)
	第11回	運動と栄養(1)(目標1)
	第12回	運動と栄養(2)(目標1)
	第13回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(1)(目標3)
	第14回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(2)(目標3)
	第15回	総括，学習内容(健康の定義，発育発達，幼稚園教育要領，基本的生活習慣，栄養，保育所保育指針)の再確認(目標1～3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の健康に関連する部分をよく読んで，覚えること。
	復習	第1～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	日頃から,健康に関する書籍・論文・新聞等に目を通して,最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	1．健康の保持・増進について、成人と子どもを区別してそれぞれ理解できていること 2．幼稚園教育要領における「健康」の理解度・定着度 3．保育所保育指針における「健康」の理解度・定着度
	評価の方法	試験 50%，レポート課題 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省/編
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

参考URL	
備考	授業の進行状況等の都合により、保育内容演習II（健康）の内容と一部入れ替える可能性がある。

保育内容演習Ⅱ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT211
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1044201　後期　火2 A1044202　後期　火3
教室	講義室16,体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，生活習慣
学生の到達目標	1．成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2．生体に関する各種データの収集方法、データ処理方法の基礎を理解できること。 3．データの分析・評価方法の基礎を理解できること。
授業内容	第1回　ガイダンス(目標1～3) 第2回　幼児期運動指針(目標1)

	第3回	測定調査の実際・幼児の運動能力調査(目標2,3)
	第4回	測定調査の実際・活動量の調査(目標2,3)
	第5回	測定調査の実際・基本的な動作の調査(目標2,3)
	第6回	生活習慣と身体活動(1)(目標1,2,3)
	第7回	生活習慣と身体活動(2)(目標1,2,3)
	第8回	自律神経の働きと体温(1)(目標1)
	第9回	自律神経の働きと体温(2)(目標1)
	第10回	自律神経の働きと体温(3)(目標2,3)
	第11回	免疫機能(1)(目標1)
	第12回	免疫機能(2)(目標1)
	第13回	運動や遊びが生体に与える刺激(1)(目標1)
	第14回	運動や遊びが生体に与える刺激(2)(目標2,3)
	第15回	総括，学習内容(生活習慣，自律神経，免疫機能)の再確認(目標1～3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。
	復習	第1～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 第3～5回　実験実習の際には，得られたデータをまとめたり集計したりする。 第14回（予定）　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から,健康に関する書籍・論文・新聞等に目を通して,最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	1．健康の保持・増進について、成人と子どもを区別してそれぞれ理解できていること 2．生体に関する各種データの収集方法、データ処理方法の習得度 3．データの分析・評価方法の習得度
	評価の方法	レポート課題50%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業の進行状況等の都合により、保育内容演習I（健康）の内容と一部入れ替える可能性がある。	

保育内容演習Ⅰ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT212
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（人間関係）
科目責任者	金子　功一
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1045101　前期　木3 A1045102　前期　木4
教室	Eスタジオ,講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	乳幼児期の人間関係の発達，乳幼児と保育者との関わり，コミュニケーション技法の習得
学生の到達目標	1．乳幼児期における人間関係の発達とその特徴を理解する。 2．各年齢の発達段階に即した人間関係の様相について学ぶ。 3．配慮や支援の必要な子どもへのかかわり方と支援のあり方を修得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標1） 第2回　領域「人間関係」を概観する（目標1）

第3回	保育者とのかかわりと子どもの発達（1）：乳児期（目標1）
第4回	保育者とのかかわりと子どもの発達（2）：幼児期（目標1）
第5回	0歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第6回	1歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第7回	2歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第8回	3歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第9回	4歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第10回	5歳児期の人間関係を理解する（目標2）
第11回	子ども同士のかかわりと特徴（目標2）
第12回	遊びの中の子ども同士のかかわり（目標2）
第13回	気になる子どものとらえ方と支援（1）：落ち着きのない子（目標3）
第14回	気になる子どものとらえ方と支援（2）：対人的トラブルの多い子（目標3）
第15回	まとめと保育内容演習Ⅰ（人間関係）における重要事項の確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回:シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業内容，成績評価等についてよく理解しておくこと 第2回:領域「人間関係」について調べておくこと 第3回:保育者とのかかわりと子どもの発達（乳児期）について調べておくこと 第4回：保育者とのかかわりと子どもの発達（幼児期）について調べておくこと 第5回：0歳児期の人間関係について調べておくこと 第6回：1歳児期の人間関係について調べておくこと 第7回：2歳児期の人間関係について調べておくこと 第8回：3歳児期の人間関係について調べておくこと 第9回：4歳児期の人間関係について調べておくこと 第10回：5歳児期の人間関係について調べておくこと 第11回：子ども同士のかかわりと特徴について調べておくこと 第12回：遊びの中の子ども同士のかかわりについて調べておくこと 第13回：気になる子どものとらえ方と支援（落ち着きのない子）について調べておくこと 第14回：気になる子どものとらえ方と支援（対人的トラブルの多い子）について調べておくこと 第15回：第1回から第14回のポイント及び考察を再度読んでおくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	復習	第1回:この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回:領域「人間関係」についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回:保育者とのかかわりと子どもの発達（乳児期）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回：保育者とのかかわりと子どもの発達（幼児期）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回：0歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回：1歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回：2歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回：3歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめて

おくこと
第9回：4歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回：5歳児期の人間関係についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回：子ども同士のかかわりと特徴についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回：遊びの中の子ども同士のかかわりについてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回：気になる子どものとらえ方と支援（落ち着きのない子）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回：気になる子どものとらえ方と支援（対人的トラブルの多い子）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回：第1回から第14回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める

展開　第1回から第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，重要と考える点をまとめておくこと

成績評価

評価の基準
1. 乳幼児期における人間関係の発達とその特徴を理解する。
2. 各年齢の発達段階に即した人間関係の様相について学ぶ。
3. 配慮や支援の必要な子どもへのかかわり方と支援のあり方を修得するについて理解し，自分の考えを的確に表現できること。

評価の方法　授業への参加態度 30%，レポート課題 70% により評価する。
平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係
著者名	無藤 隆 監修
出版社	萌文書林
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	ISBN: 978-4-89347-097-3

推薦図書等

参考URL

備考　保育内容演習Ⅱ（人間関係）の受講希望者は受講することが望ましい。

保育内容演習Ⅱ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT213
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（人間関係）
科目責任者	金子　功一
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1045201　後期　木3 A1045202　後期　木4
教室	Mスタジオ,講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	乳幼児期の人間関係の発達・子ども同士のかかわり・人間関係の援助技法の習得
学生の到達目標	1.乳幼児期における人とのかかわりの発達の特徴と違いを理解する。 2.子ども同士のかかわりについて学ぶ。 3.多様な援助技法を習得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標1） 第2回　遊びの中の人間関係（1）：乳児期　（目標1,2）

第3回	遊びの中の人間関係（2）：幼児期 （目標1,2）
第4回	人間関係の技法1（草花遊び）（目標2,3）
第5回	人間関係の技法2（伝承遊び）（目標2,3）
第6回	人間関係の技法3（鉄棒遊び）（目標2,3）
第7回	人間関係の技法4（身体遊び）（目標2,3）
第8回	人間関係の技法5（信頼体験）（目標2,3）
第9回	人間関係の技法6（集団遊び）（目標2,3）
第10回	人間関係の技法7（運動遊び）（目標2,3）
第11回	人間関係の技法8（新聞紙遊び）（目標2,3）
第12回	人間関係の技法9（着替えの援助）（目標1,3）
第13回	人間関係の技法10（食事の援助）（目標1,3）
第14回	人間関係の技法11（かたづけの援助）（目標1,3）
第15回	まとめと保育内容演習Ⅱ（人間関係）における重要事項の確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回:シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業内容，成績評価等についてよく理解しておくこと 第2回:遊びの中の人間関係（乳児期）について調べておくこと 第3回:遊びの中の人間関係（幼児期）について調べておくこと 第4回：人間関係の技法1（草花遊び）について調べておくこと 第5回：人間関係の技法2（伝承遊び）について調べておくこと 第6回：人間関係の技法3（鉄棒遊び）について調べておくこと 第7回：人間関係の技法4（身体遊び）について調べておくこと 第8回：人間関係の技法5（信頼体験）について調べておくこと 第9回：人間関係の技法6（集団遊び）について調べておくこと 第10回：人間関係の技法7（運動遊び）について調べておくこと 第11回：人間関係の技法8（新聞紙遊び）について調べておくこと 第12回：人間関係の技法9（着替えの援助）について調べておくこと 第13回：人間関係の技法10（食事の援助）について調べておくこと 第14回：人間関係の技法11（かたづけの援助）について調べておくこと 第15回：第1回から第14回のポイント及び考察を再度読んでおくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	復習	第1回:この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回:遊びの中の人間関係（乳児期）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回:遊びの中の人間関係（幼児期）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回：人間関係の技法1（草花遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回：人間関係の技法2（伝承遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回：人間関係の技法3（鉄棒遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回：人間関係の技法4（身体遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回：人間関係の技法5（信頼体験）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回：人間関係の技法6（集団遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと

		第10回：人間関係の技法7（運動遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回：人間関係の技法8（新聞紙遊び）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回：人間関係の技法9（着替えの援助）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回：人間関係の技法10（食事の援助）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回：人間関係の技法11（かたづけの援助）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回：第1回から第14回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	展開	第1回から第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，重要と考える点をまとめておくこと
成績評価	評価の基準	1.乳幼児期における人とのかかわりの発達の特徴と違いを理解する。 2.子ども同士のかかわりについて学ぶ。 3.多様な援助技法について理解し，自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	授業への参加態度 30%，レポート課題 70% により評価する。 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係
	著者名	無藤 隆 監修
	出版社	萌文書林
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN: 978-4-89347-097-3
参考URL		
備考	保育内容演習Ⅰ（人間関係）を履修していることが望ましい。	

保育内容演習Ⅰ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT307
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（環境）
科目責任者	小山　容子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1046101　前期　金3 A1046102　前期　金4
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり	
学生の到達目標	1.領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いを理解する。 2.身近な環境と幼児とのかかわりの具体的姿から、環境の教育的意義について理解する。 3.環境の整備、安全管理、指導とのかかわりを理解し、適切な指導方法が分かる。	

授業内容	第1回	ガイダンス 授業の目的,内容,進め方を理解する。映像から環境を見取る。（目標１）
	第2回	環境と幼児期の教育 幼児期の環境を通して行う教育について理解する。（目標１）
	第3回	領域「環境」のねらい 領域環境の「ねらい」について事例を通してを理解する。（目標１）
	第4回	身近な環境とは 幼児にとっての身近な環境とは何かについて理解する。(目標２)
	第5回	センス・オブ・ワンダー 教科書や映像から,センス・オブ・ワンダーについて理解する。(目標２)
	第6回	自然環境としての動植物（目標１） 教科書や映像を通して,幼児教育施設での動植物との触れ合いの実際について理解する。
	第7回	身近な植物とのかかわり① 見通しをもった植物環境長期計画の作成について理解する。(目標２,３)
	第8回	身近な植物とのかかわり② 各自が作成した資料を基にグループで話し合い,植物栽培のプランを発表する。(目標２,３)
	第9回	物的環境としての園具・遊具・素材① 保育室の役割・園具・遊具・素材の意味と役割について理解する。(目標１)
	第10回	物的環境としての園具・遊具・素材② 幼児が遊具や素材とかかわって遊ぶ姿から幼児の学びを理解する。(目標２,３)
	第11回	保育内容と幼児理解 好奇心・探求心・思考力を育む指導について理解する。(目標１)
	第12回	人的環境としての友達,保育者 好奇心・探求心・思考力を育む指導,友達や保育者の役割について理解する。(目標１)
	第13回	文字・絵本とのかかわり 園生活の中の,文字,絵本の環境について認識する。指導方法について考える。（目標１,２）
	第14回	生活の中で数量・図形・標識にかかわる 生活や遊びを通しての数量体験について理解する。(目標１,２)
	第15回	環境の領域についての指導の基本についてのまとめ 授業の振り返り。（目標１）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　教科書を読み,全体の内容を把握する。 第２回～第１５回（共通）　次回の学習箇所の教科書ト,幼稚園教育要領解説等の参考資料を読み,自分の考えをもって参加する。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業のまとめをノートに整理し復習する。
	展開	・教科書や参考資料をもとに,領域「環境」の基本理念について理解する。 ・普段から自然環境や自然事象に目を向け,自身の感性を高める。
成績評価	評価の基準	１．領域「環境」のならい,内容,内容の取扱いを理解し説明できる。 ２．様々な環境の教育的意義について理解し,説明できる。

		３．様々な環境への具体的なかかわりの姿をイメージして,指導方法について説明できる。
	評価の方法	試験７０％　日常点３０％（授業への参加状況,発表,提出物等）

教科書	書籍名	事例で学ぶ保育内容「環境」
	著者名	無藤隆監修、福元真由美編集代表
	出版社	萌文書林
	価格	本体2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-893470-98-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf

保育内容演習Ⅱ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT308
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（環境）
科目責任者	小山　容子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1046201　金3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり
学生の到達目標	1.幼児の身近な環境について、それぞれ具体的に理解し、指導の具体例を学ぶ。 2.幼児の発達、興味関心、季節とのかかわり等を踏まえた指導について理解する。 3.学生自身の環境に対する興味・関心を高める。
授業内容	第1回　ガイダンス 授業の目的,内容,進め方を理解する。映像から環境を読み取る。 (目標１)

第2回	領域「環境」の概論 領域「環境」のねらい,内容を理解する。(目標１)
第3回	幼児の遊びと環境の構成（目標２） 環境の構成と遊びについて学ぶ。 映像を通して,幼児の遊びへの興味・関心を理解する。
第4回	園生活における季節の行事① 行事にかかわる保育的意義を理解する。(目標１)
第5回	園生活における季節の行事② 行事にかかわる保育的意義を理解する。（目標１,２）
第6回	センス・オブ・ワンダー 自然を感じ,季節の変化に気付く体験（フィールドビンゴ実施）（目標２,３）
第7回	幼児と自然とのかかわり（風） 資料から,風とかかわる保育の方法を理解する。簡単な製作物を使い遊ぶ。(目標１,２,３)
第8回	幼児と自然とのかかわり（葉・木の実） 資料から,風とかかわる保育の方法を理解する。簡単な製作物を使い遊ぶ。(目標１,２,３)
第9回	自然や他の素材とのかかわり 自然環境や身近な素材を使い遊びを提案する。（企画立案）(目標１,２,３)
第10回	自然や他の素材とのかかわり グループ作業による発表準備。(目標１,２,３)
第11回	自然や他の素材とのかかわり グループ作業による発表準備・リハーサル(目標１,２,３)
第12回	自然や他の素材とのかかわり グループ発表(目標１,２,３)
第13回	地域環境の活用 資料を持ち寄り地域環境を取り入れた保育の展開を考える。(目標１)
第14回	環境とのかかわりと安全 安全な環境について学ぶ。(目標１)
第15回	領域「環境」の指導について総まとめ 授業の振り返りを行い,指導の方法について確認する。(目標１,２)

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　前期の授業内容を復習しておく。 第２回　幼稚園教育要領解説の該当部分を読み,内容を確認しておく。 第３回～第６回（共通）　次回の学習箇所の教科書ト,幼稚園教育要領解説等の参考資料を読み,自分の考えをもって参加する。 第７回～第８回（共通）　風や葉,木の実を使った遊びについて,自身の経験を思い出したり,本で調べたりして,その教育的意義について考える。 第９回～第１２回（共通）　普段から幼児の遊びに使える素材等について調べたり発見したりする。グループ協議や作業に必要なことを明確にし,資料を揃える。 第１３回～第１４回（共通）　教科書の該当箇所を読む。 第１５回　前回までの内容を振り返り,疑問点を明確にしておく。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業のまとめをノートに整理し復習する。 第９回～第１１回(共通）　グループでの協議をまとめる。
	展開	・教科書や参考資料映像から,領域「環境」に関する保育の実際について理解する。 ・普段から自然環境や自然事象,様々な素材にに目を向け、保育の展開を考える。

成績評価	評価の基準	１．幼稚園教育要領,保育所保育指針の領域「環境」の指導にあたり,それぞれの環境のもつ教材性について理解し,指導計画の作成に生かせる。 ２．幼児の発達,興味関心,季節とのかかわり等を踏まえた指導計画を作成することができる。 ３．身近な自然や素材に関心を持ち,基本的な知識を習得している。
	評価の方法	試験７０％　日常点３０％（授業への参加状況,発表,提出物等）

教科書	書籍名	事例で学ぶ保育内容「環境」
	著者名	無藤隆監修、福元真由美編集代表
	出版社	保育出版社
	価格	本体2,000円
	ISBN・ISSN	978-4-893470-98-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf

保育内容演習Ⅰ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT309
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1047101　前期　金1 A1047102　前期　金2
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-2 教育の基礎的理解（幼保） 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助	
学生の到達目標	1.言葉の発達を理解する。 2.言葉から子どもの内面を理解する。 3.保育現場における言葉の援助方法を学ぶ。	
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　非言語コミュニケーション(目標1)	

第3回	0歳児のことば(目標1,2,3)
第4回	1歳児のことば(目標1,2,3)
第5回	2歳児のことば(目標1,2,3)
第6回	0・1・2歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
第7回	3歳児のことば(目標1,2,3)
第8回	3歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
第9回	4歳児のことば(目標1,2,3)
第10回	4歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
第11回	5歳児のことば(目標1,2,3)
第12回	5歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
第13回	絵本のビブリオバトル№1(目標3)
第14回	子どもの言葉の事例研究と援助方法(目標3)
第15回	総括　授業の振り返りと保育内容演習Ⅰ（言葉）における重要事項の確認(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生到達目標、成績評価について理解しておく。 第2回　非言語コミュニケーションとは何かを調べ、そのことが言葉を育むことにどのように影響しているのかを調べておく。 第3回　0歳児の言葉の発達について予め調べノートにまとめておく。 第4回　1歳児の言葉の発達について予め調べ、ノートにまとめておく。 第5回　2歳児の言葉の発達について予め調べ、ノートにまとめておく。 第6回　0・1・2歳児期の自我の発達と言葉との関連について要点をまとめておく。 第7回　3歳児の言葉の発達について予め調べ、ノートにまとめておく。 第8回　3歳児の自我の発達と言葉との関連について予め調べ、ノートにまとめておく。 第9回4歳児の言葉の発達について予め調べ、ノートにまとめておく。 第10回　4歳児の自我の発達と言葉との関連について予め調べ、ノートにまとめておく。 第11回　5歳児の言葉の発達について予め調べ、ノートにまとめておく。 第12回　5歳児の自我の発達と言葉との関連について予め調べ、ノートにまとめておく。 第13回　自己の興味に従って絵本を選出し、プレゼンテーションの仕方を予め考えておく。 第14回　子どもの言葉の事例を実習体験から収集し、子どもの内面と言葉について省察しておく。 第15回　この科目で学んだことについて重要な点を要約しておく。
	復習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生到達目標、成績評価について理解したことをまとめておく。 第2回　非言語コミュニケーションとは何かを調べ、そのことが言葉を育むことにどのように影響しているのか得た知識をまとめておく。 第3回　0歳児の言葉の発達について得た知識をまとめておく。 第4回　1歳児の言葉の発達についてノ得た知識をまとめておく。 第5回　2歳児の言葉の発達について、得た知識をまとめておく。 第6回　0・1・2歳児期の自我の発達と言葉との関連について得た知識をまとめておく。 第7回　3歳児の言葉の発達について得た知識をまとめておく。

		第8回　3歳児の自我の発達と言葉との関連について、得た知識をまとめておく。 第9回4歳児の言葉の発達について、得た知識をまとめておく。 第10回　4歳児の自我の発達と言葉との関連について、得た知識をまとめておく。 第11回　5歳児の言葉の発達について、得た知識をまとめておく。 第12回　5歳児の自我の発達と言葉との関連について、得た知識をまとめておく。 第13回　プレゼンテーションの振り返りをし学友が選出した絵本についても興味をまとめておく。 第14回　子どもの言葉の事例研究と通して子どもの内面と言葉について理解し、まとめておく。 第15回　この科目で学んだことについて重要な点を要約してまとめておく。
	展開	予習として作成したレポートをもって授業に望み、新たに得た知識を書き足していき、知識の集積を試みる。修正されたレポートを授業担当者が評価し、課題をフィードバックする。
成績評価	評価の基準	1.乳幼児の言葉の発達を理解したか。 2.実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 3.保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。
	評価の方法	毎時のミニテスト90%（グループワークの参加・受講態度・遅刻厳禁を含む） 課題の提出 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	この科目を履修するためには子どもの言葉についての臨床的体験があることが望ましい。授業はアクティブラーニングで行う。受け身では学修知識が定着しない授業形態なので積極的に参加すること。	

保育内容演習Ⅱ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT310
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1047201　火1
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助	
学生の到達目標	１.発達段階における言葉の発達を理解する。 ２.言葉から子どもの内面を推察し、各領域を関連づけて総合的に子　どもの言葉を理解する。 ３.教材研究を行い、道具・材料等と言葉を育む関連について理解　し、現場における言葉の援助方法を学ぶ。	

授業内容	第1回	言葉と保育(目標1,2)
	第2回	素話を習得する(目標1,3)
	第3回	素話を発表する（目標1,3）
	第4回	書きことばの習得の道筋(目標2)
	第5回	読みことばの習得の道筋(目標2)
	第6回	言葉の育ちを促す教材No.1(目標2,3)
	第7回	言葉の育ちを促す教材No.2(目標2,3)
	第8回	言葉の育ちを促す教材No.3(目標2,3)
	第9回	言葉の育ちを促す教材No.4(目標2,3)
	第10回	言葉の育ちを促す教材No.5(目標2,3)
	第11回	言葉の育ちを促す教材No.6(目標2,3)
	第12回	連絡帳の書き方No.1(目標2,3)
	第13回	連絡帳の書き方No.2(目標2,3)
	第14回	言葉の育ちと保護者支援(目標1,2,3)
	第15回	総括　この科目で学んだ保育内容演習Ⅱ（言葉）の重要な事項について修得した知識を整理し確認する（目標1,2,3）

予習・復習の内容 **（毎回45分程度）**	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生到達目標、成績評価について理解しておく。 第2回　素話・昔話等、児童教育文化財としての価値を理解しておく。 第3回　素話をパフォーマンスするために、下読み、表現、声の使い方、間の取り方、抑揚のつけ方等練習しておく。 第4回　書き言葉の発達について年齢に応じた発達段階を理解しておく。 第5回　読み言葉の発達について年齢に応じた発達段階を理解しておく。 第6回　廃材を使用した教材について、子どもの生活経験から製作する意義について理解しておく。 第7回　牛乳パックの再利用についてメリットデメリットを考察し、子どもの玩具としての価値を見出せるようにする。 第8回　新聞紙シアターについて事前に調べ、実際に作れるものを作ってみる。 第9回　小麦粉粘土や片栗粉スライム等、食材を活用した玩具のメリット・デメリットについて調べ、その注意すべきポイントを理解しておく。 第10回　実習で収集したこどもの言葉の事例検討を行うためにエピソードを記録しておく。 第11回　子どもの言葉の事例研究において子どもの内面を省察する重要性を理解しておく。 第12回　連絡帳の意義や活用の仕方、役割について事前に学修しておく。 第13回　保護者からの連絡帳を受けて、どのように返信して子どもの姿を伝えるのかのスキルを考えておく。 第14回園から発信する連絡帳において配慮すべき点と、子どもの姿を伝えるスキルを考えておく。 第15回　この科目で学んだことについて重要な点を要約しておく。
	復習	第1回　シラバスからポリシーとの関連、授業キーワード、学生到達目標、成績評価について理解したことをまとめておく。 第2回　素話・昔話等、児童教育文化財としての価値を理解ししたことをまとめておく。。 第3回　素話をパフォーマンスするために、下読み、表現、声の使い方、間の取り方、抑揚のつけ方等練習したことをまとめておく。 第4回　書き言葉の発達について年齢に応じた発達段階を理解した

		ことをまとめておく。 第5回　読み言葉の発達について年齢に応じた発達段階を理解したことをまとめておく。 第6回　廃材を使用した教材について、子どもの生活経験から製作する意義について理解したことをまとめておく。 第7回　牛乳パックの再利用についてメリットデメリットを考察し、子どもの玩具としての価値を見出せるように理解したことをまとめておく。。 第8回　新聞紙シアターについて、パフォーマンスの要点をまとめておく。 第9回　小麦粉粘土や片栗粉スライム等、食材を活用した玩具のメリット・デメリットについて理解したことをまとめておく。おく。 第10回　実習で収集したこどもの言葉の事例検討から理解したことをまとめておく。ておく。 第11回　子どもの言葉の事例研究において子どもの内面を省察する重要性を理解したことをまとめておく。 第12回　連絡帳の意義や活用の仕方、役割について理解したことをまとめておく。 第13回　保護者からの連絡帳を受けて、どのように返信して子どもの姿を伝えるのかのスキルをまとめておく。 第14回園から発信する連絡帳において配慮すべき点と、子どもの姿を伝えるスキルを考えてまとめておく。 第15回　この科目で学んだことについて重要な点を要約しておく。
	展開	こどもの言葉からこどもを捉える感性を磨き,こども理解に発展的に取り組み,実習等で言葉の育ちを援助する指導計画が書け,実践できるようになる。
成績評価	評価の基準	１.発達段階における言葉の発達を理解して説明することができる。 ２.言葉から子どもの内面を推察し、各領域を関連づけて総合的に子どもの言葉を説明することができる。 ３.教材研究を行い、道具・材料等と言葉を育む関連について理解し、現場における言葉の援助方法を体験的に修得する。
	評価の方法	毎時のミニテスト90%（ディスカッションへの参加・貢献・授業態度・遅刻厳禁を含む） 課題の提出10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・子どもの言葉について臨床的体験を有していることが望ましい。 ・グループ学修、ジグソー法、ペアシンキング等、アクティブラーニングの教育方法をとる。 ・収容可能人数50人。 ・欠席した者は次週課題について授業担当者に問い合わせること。	

保育内容演習Ⅰ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT311
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（表現）
科目責任者	山本　ちよ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1048101　前期　火2 A1048102　前期　火3
教室	被服工芸室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	発想力，色彩，工夫	
学生の到達目標	1.領域「表現」の考え方を踏まえたうえで，日常の保育や行事で展開する「表現」について理解する。 2.学生自身が表現方法を思考し制作活動体験をすることで自らの表現力を広げる。 3.制作活動を共に共有し進める中で表現方法や伝達力を高める。	

授業内容	第1回	本授業の目標,概要などについてのガイダンス及び領域「表現」についての説明(目標1)
	第2回	保育における発想，素材，色彩等の組み合わせを思考する(目標1,2,3)
	第3回	画材と素材の組み合わせを思考し使用する(目標1,2,3)
	第4回	素材の活かし方と活用方法を思考する(目標1,2,3)
	第5回	制作共有者を募り画材と素材を組み合わせ作品制作をする(目標1,2,3)
	第6回	各自発達年齢にあった作品のねらい,目標,内容を考案描写する(目標1,2,3)
	第7回	作品の伝達目標内容を定め,紙の枚数と場の構成を考える(目標1,2,3)
	第8回	作品内容の分割と制作過程の教材を確認し制作する（目標1,2,3)
	第9回	伝達目標を定め制作をする(目標1,2,3)
	第10回	独自の発想力や色彩を活用し制作をする（目標1,2,3)
	第11回	内容を確認し工夫を生かし制作をする（目標1,2,3)
	第12回	伝達目標通りに作品制作が進んでいるかを確認する(目標1,2,3)
	第13回	作品を他者に解りやすく発表するための目標,内容,工夫等の確認整理をする(目標1,2,3)
	第14回	作品を他者に解りやすく自信を持って発表する(目標1,2,3)
	第15回	作品を他者に解りやすく伝達表現が出来たか反省評価する(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～１５回（共通）「表現」について関心を持ち，関連情報や書籍，雑誌に目を通しておくこと。事前に指示される課題については図書館等で調べ自分なりに理解して置く事。教科書必要ページを音読指示し内容を理解できるようにする。
	復習	第１回～１５回（共通）授業内容について記録。課題制作を進める。教科書内容の確認をする。
	展開	作品のイメージを構成し制作する。制作過程において表現方法を学ぶ。
成績評価	評価の基準	１．教科書や参考図書を通して学ぶ中で領域「表現」の理論を理解し教育実習の場で生かすことが出来たか。 ２．表現方法を思考し制作体験を積むことで自らの表現力を高めることが出来たか。 ３．制作活動を共に共有する中でオリジナルの表現方法や伝達力を高める事が出来たか。
	評価の方法	感想レポート（30%）　授業参加態度（40%）　作品＆発表態度（30%）
教科書	書籍名	事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現
	著者名	武藤　隆　監修　浜口　順子　編集代表
	出版社	萌文書林
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	ISBN　978-4-89347-100-0

推薦図書等	書籍名	保育内容　表現　新保育ライブラリ　保育内容方法を知る
	著者名	(編集委員　民秋言・小田豊・栃尾勲・武藤隆)花原幹夫編集
	出版社	北大路書房
	価格	1,836円
	ISBN・ISSN	ISBN 978-4-7628-2661-0

参考URL	
備考	画材準備持参(絵具セット，のり，ボンド，クレヨン，クレパス，セロテープ，ハサミ，画用紙)。廃材(新聞紙，広告用紙，雑誌，プリンカップ，牛乳パック)木の実，木の葉，小枝等を収集。

保育内容演習Ⅱ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT312
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（表現）
科目責任者	山本　ちよ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1048201　後期　火2 A1048202　後期　火3
教室	被服工芸室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	興味，意欲，継続	
学生の到達目標	1.領域「表現」の考え方を踏まえたうえで，日常の保育や行事で展開する「表現」について理解する。 2.学生自身が表現方法を思考し制作活動体験することで自らの表現力を広げる。 3.制作活動を共に共有し進める中で表現方法や伝達力を高める。	

授業内容	第1回	本授業の目標，概要などについてのガイダンス及び領域「表現」についての説明（目標1）
	第2回	作成目標（発達年齢）が定められるような描画技術を思考（目標1,2）
	第3回	描画技術を高められるように教具教材の利用の仕方を学ぶ（目標1,2）
	第4回	数人のグループを構成し各自持ち寄った絵本の内容を吟味選出して寸劇を楽しむ（目標1,2）
	第5回	各自発達年齢にあった作品内容を具体的に紙面に描写（目標1,2）
	第6回	具体的に紙面に描写した制作内容を再度確認（目標1,2,3）
	第7回	制作内容伝達表現方法に伴い作品ページ数を確認（目標1,2,3）
	第8回	伝達表現方法の発想に適した画材を選び描写制作の確認（目標1,2,3）
	第9回	伝達表現方法を思考確認し描画制作を進める（目標1,2,3）
	第10回	作品表現方法を思考確認しつつ描画制作を進める（目標1,2,3）
	第11回	制作目標から伝達表現方法がそれていないか確認し制作を進める（目標1,2,3）
	第12回	作品の仕上がりや枚数を確認し冊子に閉じる（目標1,2,3）
	第13回	伝達発表に向けて作品構成の目標ねらい等を発表できるように整理する（目標1,2,3）
	第14回	各自完成作品を他者に自信を持って発表する（目標1,2,3）
	第15回	各自完成作品を他者に自信を持って発表する（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～１５回（共通）「表現」について関心を持ち事前に指示される課題を自分なりに消化し制作出来るように周りの環境に目を向けておく事。
	復習	第１回～１５回（共通）毎回の授業内容を具体的に記録。課題制作発表ができるように努力すること。
	展開	作品のイメージを構成し制作する。制作過程において表現方法を学ぶ。
成績評価	評価の基準	１．教科書や参考図書を通して学ぶ中で領域「表現」の理論を理解し教育実習の場で生かすことが出来たか。 ２．表現方法を思考し制作体験を積むことで自らの表現力を高める事が出来たか。 ３．制作活動を共に共有する中でオリジナルの表現方法や伝達力を高める事が出来たか。
	評価の方法	感想レポート（30%），授業参加態度（40%），作品＆発表態度（30%）の成績を統合する。但し，この比率は最終的には若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現
	著者名	武藤　隆　監修　浜口　順子　編集代表
	出版社	萌文書林
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	ISBM　978-4-89347-100-0

推薦図書等	書籍名	保育内容表現　新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る
	著者名	(編集委員　民秋言・小田豊・栃尾勲・武藤隆)花原　幹夫編集
	出版社	北大路書房
	価格	1,836円
	ISBN・ISSN	ISBN　978-4-7628-2661-0

参考URL	
備考	画材準備持参（絵の具セット,のり,ボンド,クレヨン,クレパス,セロテープ,ハサミ,画用紙）。廃材（新聞紙,広告用紙,雑誌,プリンカップ,牛乳パック）木の実,木の葉,小枝等。

乳児保育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT214
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	乳児保育Ⅰ
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1050201　前期　木1 A1050202　前期　木2
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	乳児保育の意義と役割、乳児保育の現状と課題、乳児保育の基本的な援助やかかわり
学生の到達目標	1．乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について理解する。 2．1歳3か月未満児の心身の発達に関して基礎的知識を身につける。 3．1歳3か月未満児の保育の内容及び具体的な援助方法について理解する。
授業内容	第1回　乳児保育の理念と意義（目標1） 第2回　保育所における乳児保育の現状と課題（目標1） 第3回　乳児院における乳児保育（目標1） 第4回　家庭的保育・小規模保育等における乳児保育（目標1）

	第5回	乳児や家庭を取り巻く環境（目標1）
	第6回	子育て支援の場（目標1）
	第7回	乳児保育における基本的な援助やかかわり（目標3）
	第8回	6か月未満児の発達（目標2）
	第9回	6か月未満児の保育内容（目標3）
	第10回	食事（調乳・授乳の実技）（目標3）
	第11回	6か月から1歳3か月未満児の発達（目標2）
	第12回	6か月から1歳3か月未満児の保育内容（目標3）
	第13回	排泄（おむつ交換の実技）（目標3）
	第14回	清潔（沐浴・着替えの実技）（目標3）
	第15回	まとめ　授業の振り返りと重要事項の確認（目標1・2・3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～第14回 乳児保育に関連する情報に常に関心を持っていること。教科書の下読みをし、わからない語句等は調べておく。 第15回 学修内容を振り返り、要点をまとめておく。
	復習	第1～第15回 授業内容をノートに整理する。 実技は確実に身につくよう、繰り返し練習する。 レポート課題等は、自分の意見をわかりやすく丁寧に書き、提出方法・期日を厳守する。
	展開	ボランティアや実習等の実践を通して、授業で学んだことの理解を深める。
成績評価	評価の基準	1．乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について十分に理解している。 2．1歳3か月未満児の心身の発達に関して基礎的知識を十分に身につけている。 3．1歳3か月未満児の保育の内容及び具体的な援助方法について十分に理解している。 上記1～3は、試験、提出物、授業態度・発表状況により総合的に評価する。
	評価の方法	試験（筆記・実技）（50%）、提出物（30%）、授業態度・発表状況（20%）
教科書	書籍名	乳児保育
	著者名	寺田清美、大方美香、塩谷香（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,000+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5216-3
	書籍名	最新保育資料集2017
	著者名	森上史郎（監修）大豆生田啓友・三谷大紀（編）
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,000＋税
	ISBN・ISSN	978-4-623-07903-2

推薦図書等	
参考URL	
備考	○授業内容は状況によりシラバスに示した順番が前後することもある。 ○授業内容により、グループ学習やプレゼンテーション、ディスカッション、実技などを行う。 ○授業中のミニ授業レポートは、提出物として評価する。 ○教材制作時は、必要な材料等を各自用意する。 ○オフィスアワーは火曜日2限。 連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

乳児保育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT224
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	乳児保育Ⅱ
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1050301　後期　木1 A1050302　後期　木2
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	1歳3か月から3歳未満児の発達と保育内容、乳児保育の環境構成と保育計画、乳児保育における保護者との連携
学生の到達目標	1．1歳3か月から3歳未満児の心身の発達に関して基礎的知識を身につける。 2．乳児保育の環境構成や保育計画を作成し、具体的な援助の方法を身につける。 3．保育士の専門性を理解し、保護者や関係機関との連携について理解する。
授業内容	第1回　1歳3か月から2歳未満児の発達（目標1） 第2回　1歳3か月から2歳未満児の保育内容（目標1） 第3回　2歳児の発達（目標1） 第4回　2歳児の保育内容（目標1）

	第5回	乳児保育の計画と評価（目標2）
	第6回	乳児期の生活と遊びの環境構成①準備（目標2）
	第7回	乳児期の生活と遊びの環境構成②発表（目標2）
	第8回	乳児保育における保育者の役割（目標3）
	第9回	乳児期の遊び（手遊び・歌遊び）①準備（目標2）
	第10回	乳児期の遊び（手遊び・歌遊び）②発表（目標2）
	第11回	乳児期の遊び（保育教材作り）（目標2）
	第12回	乳児保育における保護者との連携①保護者の理解（目標3）
	第13回	乳児保育における保護者との連携②連絡帳の書き方（目標3）
	第14回	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携（目標3）
	第15回	まとめ　授業の振り返りと重要事項の確認（目標1・2・3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～14回 乳児保育に関連する情報に常に関心を持っていること。教科書の下読みをし、わからない語句等は調べておく。 第15回 学修内容を振り返り、要点をまとめておく。
	復習	第1～15回 授業内容をノートに整理する。 実技は確実に身につくよう、繰り返し練習する。 レポート課題等は、自分の意見をわかりやすく丁寧に書き、提出方法・期日を厳守する。
	展開	ボランティアや実習等の実践を通して、授業で学んだことの理解を深める。
成績評価	評価の基準	1．1歳3か月から3歳未満児の心身の発達に関して基礎的知識を身につけたか。 2．乳児保育の環境構成や保育計画を作成し、具体的な援助の方法を身につけたか。 3．保育士の専門性を理解し、保護者や関係機関との連携について理解できたか。 上記1～3は、試験、提出物、授業態度・発表状況により総合的に評価する。
	評価の方法	試験（筆記・実技）（50%）、提出物（30%）、授業態度・発表状況（20%）
教科書	書籍名	乳児保育
	著者名	寺田清美、大方美香、塩谷香（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,000+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5216-3
	書籍名	最新保育資料集2017
	著者名	森上史郎（監修）大豆生田啓友・三谷大紀（編）
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,000＋税
	ISBN・ISSN	978-4-623-07903-2

推薦図書等	
参考URL	
備考	○授業内容は状況によりシラバスに示した順番が前後することもある。 ○授業内容により、グループ学習やプレゼンテーション、ディスカッション、実技発表などを行う。 ○授業中のミニ授業レポートは、提出物として評価する。 ○教材制作時は、必要な材料等を各自用意する。 ○オフィスアワーは火曜日2限。 連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

障害児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT313
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	障害児保育
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1051101　通期　金1 A1051102　通期　金2
教室	(前期)多目的演習室1 (後期)保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	3 共生社会 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	インクルーシブ保育・教育，共生社会，個に応じたかかわり，関係機関との連携，保護者への支援	
学生の到達目標	１．障害への捉え方や社会を取り巻く課題について理解する ２．個々の持つ困難性を理解した上で,保育がどのように柔軟に対応できるかという視点から保育を見直し,必要な支援について自分なりに考えることができる ３．障害児保育の展開に不可欠な,地域における縦横のつながりを理解し,自身が担う役割について考えることができる	

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1)
	第2回	障害とは？(障害の捉え方・権利)(目標１)
	第3回	インクルーシブ保育・教育システムについて(概要)(目標１)
	第4回	インクルーシブ保育・教育システムについて(合理的配慮など)(目標１)
	第5回	子どもの「困っていること」の理解とその支援１(視覚・聴覚の困難)(目標２)
	第6回	子どもの「困っていること」の理解と支援２(ことばの困難)
	第7回	子どもの「困っていること」への理解と支援３(身体と運動の困難)(目標２)
	第8回	子どもの「困っていること」への理解と支援４(知的な発達での困難)(目標２)
	第9回	子どもの「困っていること」への理解と支援５(自閉スペクトラム症)(目標２)
	第10回	子どもの「困っていること」への理解と支援６(注意欠如・多動症)(目標２)
	第11回	子どもの「困っていること」への理解と支援７(いわゆる「気になる子」)(目標２)
	第12回	ユニバーサルデザインについて(目標２)
	第13回	教材研究(ユニバーサルデザインの視点を入れて)(目標２)
	第14回	教材研究(グループでの学びあい)(目標２)
	第15回	前期まとめ
	第16回	後期ガイダンス・グループ分け
	第17回	障害のある子を含めた遊びの展開(ゲストスピーカーによる講話)(目標３)
	第18回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)１(目標２)
	第19回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)２(目標２)
	第20回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)３(目標２)
	第21回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)４(目標２)
	第22回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)５(目標２)
	第23回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)６(目標２)
	第24回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)７(目標２)
	第25回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)８(目標２)
	第26回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)９(目標２)
	第27回	障害のある子を含めた遊びの展開(グループ演習)１０(目標２)
	第28回	保護者とともに子どもの育ちを考える(目標３)
	第29回	さまざまな応援団と一緒に子どもの育ちを考える(他機関との連携)(目標３)
	第30回	まとめ・総括　障害のある子を含めた保育の考え方や具体的支援に向けた自身の知識や技能の確認(目標1，2，3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第4回 障害のある子や人を取り巻く状況について、新聞記事や文献に触れ、知見を増やす。 第5回～第11回 事前に提示されるもしくはテキスト内の事例を読み込み、それぞれ

の「生きにくさ」について自分なりに考える。
第12回～第15回
身近にある教材やユニバーサルデザインのものについて、調べておく。
第17回～第27回
グループ演習での発表にそなえ,活動を設定し,その準備を行い,指導案を作成する。
第28回～第30回
自分の就職を希望している地域について、情報収集する。

復習　第1回～第4回
配布資料,授業内容を整理し,重要な事項をまとめる。
第5回～第11回
テキストを再度読み込み、各自の困っていることに対して実践がどのように捉えたり考えたりして、配慮したかについて深く考える。
第12回～第15回
作成した教材を受講者同士で交換しあい、学びを深める。
第17回～第27回
グループ発表後,参加者からの意見をまとめ,修正指導案を書いて提出する。
第28回～第30回
自分の就職を希望している地域の機関について、さらに調べて理解を深める。

展開　（通年）ボランティア等を通して,障害のある子や大人に接する機会を持ち,体験を通して学ぶ。

成績評価

評価の基準

１．障害への捉え方や社会を取り巻く課題について理解する
ICFへの理解、環境を整えることの重要性、人的環境の一部としての自分への自覚が、事例検討等を通してうかがえること。
２．個々の持つ困難性を理解した上で,保育がどのように柔軟に対応できるかという視点から保育を見直し,必要な支援について自分なりに考えることができる
それぞれの事例を丁寧に読み取り、子どもの困っていることを適切に理解しようとし、またそれに対して必要な手立てが講じられる。
３．障害児保育の展開に不可欠な,地域における縦横のつながりを理解し,自身が担う役割について考えることができる
自分の就職希望の地域機関に関する概要ならびに機能の概要を理解している。

評価の方法　平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，グループ演習でのレポート 20%，期末筆記試験 50%の成績を総合する。

教科書

書籍名	インクルーシブ保育50のアイデア
著者名	高倉誠一・広瀬由紀・相磯友子
出版社	合同出版
価格	978-4772612388
ISBN・ISSN	1,600円＋税

推薦図書等

参考URL

備考

本計画は，学生の理解状況・教育効果により，前後する可能性がある。

テキストは,授業内で販売します。

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT315
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1052101　前期　火1 A1052102　前期　火2
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	社会的養護，権利擁護，基本的信頼，家庭的養護、自立支援，	
学生の到達目標	1.子どもの社会的養護の実態（現代の子どもと家庭をめぐる社会状況・児童福祉施設入所児の特性と暮らし）を知る。 2.事例検討や援助技術の実習等を通して，子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3.これからの子どもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。	
授業内容	第1回　社会的養護に関わる専門的知識・技術（１） 自分のストレングスを知る（目標2、3）	

第2回	社会的養護に関わる専門的知識・技術（２）社会的養護の現状と心の発達課題（目標1,3）
第3回	社会的養護に関わる専門的知識・技術（３）虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機（目標1,3）
第4回	保育士の専門性・家庭支援・ソーシャルワークに関わる専門的技術と応用(1)わかりやすいコミュニケーション（目標2）
第5回	保育士の専門性・家庭支援・ソーシャルワークに関わる専門的技術と応用（２）良い結果悪い結果（目標2）
第6回	保育士の専門性・家庭支援・ソーシャルワークに関わる専門的技術と応用（３）効果的なほめ方（目標2）
第7回	施設養護の特性と実際（１）乳児院、．児童養護施設・母子生活支援施設の子どもたちの暮らしと支援　（目標1,3）
第8回	施設養護の特性と実際（２）児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもたちの暮らしと支援　（目標1,3）
第9回	施設養護の特性と実際（３）障害児入所施設の子どもたちの暮らしと支援（目標1,3）
第10回	施設養護の特性と実際（４）児童発達支援センター・児童家庭支援センターの支援（目標1,3）
第11回	里親制度の特性と実際（目標1,3）
第12回	施設入所児の支援の過程と自立支援計画（目標1,3）
第13回	実習で出会った気になる子どもたち１ （自立支援計画の作成とグループによる事例検討）（目標2）
第14回	実習で出会った気になる子どもたち2 (グループ討議による事例検討と発表）（目標2）
第15回	これからの保育士に求められるもの　～子どもの権利擁護、倫理、専門性、責務～（目標3）

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回　前年度の社会的養護のプリントをよく読んでおくこと・ 第2～15回　社会的養護の問題に日常的に関心を持ち，関連する報道を理解しておくこと。 事前に指示されたテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。
	復習	第1～3回及び第７～11回　毎回の授業のプリントを整理し，自分なりに説明できるようにすること。 第4～6回　ロールプレイの課題を全て自分でやること。 第12～15回　自分の実習事例について整理し支援計画を作成する。更に保育士に求められているものを考える。
	展開	１　授業で学んだことを実習やアルバイト先での子どもとの関わりの中で実践してみる。 ２　色々な子どもの事例検討を主体的に友人とともにやってみる。

成績評価	評価の基準	１　社会的養護（施設養護及び家庭的養護）の実態及び養護の方法の理解度と定着度。 ２　ロールプレイや事例研究等を通して、子どもの理解が深まり、具体的対応方法を身につけたこと。 ３　保育士として社会的養護の意義と子どもの最善の利益を考えた対応について説明できること。
	評価の方法	期末試験70%，授業中のレポート30%

教科書

書籍名	新保育ライブラリ　社会的養護内容[新版]
著者名	福永博之　編著
出版社	北大路書房
価格	1700円＋税

	ISBN・ISSN	978-4-7628-2846-1

	書籍名	むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング
	著者名	野口啓示
	出版社	明石書店
	価格	1600円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－7503－2934－5
推薦図書等	書籍名	神様からの贈り物　里親土井ホームの子ども達
	著者名	土井高徳
	出版社	福村出版
	価格	1600円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－571－42016－0

参考URL	厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/
備考	その他の「推薦図書等」は授業中に紹介する。

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT215
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1052901　後期　金2 A1052902　後期　金3
教室	講義室15,中講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 9 キャリア形成
授業のキーワード	子どもの最善の利益，保護者の養育力，共感，倫理，コミュニケーション	
学生の到達目標	1.保育相談支援の理念と目的を知る。保育士として,保育に関する専門知識・技術を背景としながら保護者の相談援助を行うことを理解し、保育相談支援を行う際の基本的な態度事項を身につけ，実践することが出来る。 2.保護者が支援を求めている子育ての問題や課題があることを理解し、保育相談支援は保護者の気持ちを受けとめつつ,安定した親子関係や養育力の向上を目指して行うことを演習を通して理解し，実施することができるようにする。 3.保育所が地域における保育の専門機関として,社会的責任を果たすための具体的な方法を知り，地域支援の実践ができるようになる。	

授業内容	第1回	授業の進め方,評価方法 保育相談支援の理念と目的(目標1)
	第2回	保育相談支援の意義と原則(目標1)
	第3回	保育所における保育の機能と役割(目標2,3)
	第4回	地域の資源の活用と関係機関などとの連携(目標3)
	第5回	保育相談支援の方法と技術(目標1，2)
	第6回	保育相談支援の枠組み(目標1)
	第7回	信頼関係を基本としたかかわり(目標1，2)
	第8回	保育相談支援の実際1(目標1，2)
	第9回	保育相談支援の実際2(目標1，2)
	第10回	保育相談支援の実際3(目標1，2)
	第11回	児童福祉施設における保育相談支援1(目標1,2,3)
	第12回	児童福祉施設における保育相談支援2(目標1,2,3)
	第13回	児童福祉施設における保育相談支援3(目標1,2,3)
	第14回	児童福祉施設における保育相談支援4(目標1,2,3)
	第15回	児童福祉施設における保育相談支援5(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	①教科書の指定箇所を読み，ワークシートを仕上げる。 ②学内の子育て支援や地域の子育て支援等に参加し，参加している親子を知る。又，支援機関を知っておく。
	復習	①授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べまとめておく。 ②保育現場の観察，参加等した時に，体験したことをレポートする。その際に，気付いたこと，疑問に感じたこと等を文献で調べる。
	展開	保育の実際の場面で,保育相談支援が展開できる。
成績評価	評価の基準	上記に掲げた１・２・３の達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業へ取り組む意欲10%で評価する。
教科書	書籍名	「保育相談支援ワークブック」
	著者名	古川繁子、田村光子、根本曜子、栗原ひとみ
	出版社	学文社
	価格	1,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2600-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成する。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要。	

保育施設参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP101
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育施設参観実習
科目責任者	金子　功一
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1053101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	観察・参加実習，保育所，施設，幼稚園
学生の到達目標	1．保育施設(幼稚園,保育所,療育機関等)の概要を理解する。 2．自分なりに立てた目的に基づき,視点を絞って見学することができる。 3．自分なりの気づきや課題を,言葉で表現できる。

授業内容	オリエンテーションを7月末ごろ,施設見学は8月中旬～9月に実施する。 実習は,幼稚園１日＋施設もしくは保育所１日とする。 実習方法 ①学内での事前オリエンテーションを受ける（目標1） ②実習に対する自分なりの目的を明確に持つ（目標2） ③実習施設ごとに指定された日時に集まり,見学・参加実習を行う（目標1,2） ④子どもと積極的にコミュニケーションを取る（目標1,2） ⑤職員の講話を聞き,メモに取る（目標2,3） ⑥質問が許されれば積極的に行う（目標2,3） ⑦参加記録を書き,期日までに必ず提出する（目標3）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習　参観先の保育・療育機関について,インターネット等で情報を得ておくこと。 保育機関・療育機関についての法令等を確認しておくこと。 復習　参観した後，所定の書式によって記録し提出すること。 展開　参観先の実態を踏まえて，保育機関・療育機関の現状について調査すること。
成績評価	評価の基準　１．保育施設(幼稚園,保育所,療育機関等)の概要を理解する。 ２．自分なりに立てた目的に基づき,視点を絞って見学することができる。 ３．自分なりの気づきや課題を,言葉で表現できることに関して，自分の考えを的確に表現できること 評価の方法　事前指導への参加態度（ 20%），参観先での態度（ 60%），まとめ（ 20%）の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	学外施設への見学のため，原則として欠席は認めない（事前・事後も含めて）。 提出物については,指定された締め切りを厳守すること（提出が間に合わなかった場合は不可となることもある）。

保育実習Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP301
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
科目責任者	實川　慎子
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 金子　功一
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1054001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	保育所における実習，参加実習，責任実習

学生の到達目標	1.観察や子どもとのかかわりを通して,保育所の役割と機能,保育内容・保育環境,子どもへの理解を深める。 2.既習の教科の内容および保育実習Ⅰ（施設）での経験を踏まえて,子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 3.保育の計画,実践、記録、評価等について実際に取り組むとともに、保育士の業務内容や職業倫理について,具体的な実践と結び付けて理解する。
授業内容	原則８月に実施。 1　実習施設内の事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導 〈実習内容〉 1．保育所の役割と機能について理解する。 2．子どもの観察とその記録を行い、発達過程を理解し援助やかかわりを行う。 3．保育内容・保育環境について具体的に理解する。 4．保育の計画、観察、記録について実践的に理解し、活用する。 5．保育士の役割と職業倫理について具体的実践と結びつけて理解する。
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　毎日、翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 翌日の実習クラスにいる子どもの発達過程について指針等で確認する。 責任実習においては,当該クラスの様子をよく観察した上で,必要な準備を行い,実習担当者とよく相談する。 復習　毎日その日の保育を振り返り,ねらいに沿って省察し,実習記録を記入する。 実習記録や指導案等,実習先から指導された事項について,赤字などで修正を行う。 展開　保育の現状と課題について,関心を持ち調べる。 自己を振り返り,保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　1.観察や子どもとのかかわりを通して,保育所の役割と機能,保育内容・保育環境,子どもへの理解ができたか。 2.子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できたか。 3.保育の計画,実践、記録、評価等について実際に取り組むとともに、保育士の業務内容や職業倫理について,具体的な実践と結び付けて理解できたか。 上記1～3についての実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	保育実習指導Ⅰ（保育所）の配付資料や幼稚園実習・保育実習の手引き書等を活用し、実習を行う。 オフィスアワー（實川：火曜2限） 連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp(實川)

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP302
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1055101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	障害関係施設等における実習，観察実習，参加実習	

学生の到達目標	1.障害関係施設等の生活に参加する。 2.障害関係施設等での子どもたちや利用者の姿について観察し,発達等に関して理解できるようになる。 3.保育士の姿を観察し,子どもや利用者への働きかけや関わり方について理解を深め,気づきや課題を記録し,日々の省察を行うことができるようになる。	
授業内容	2月下旬から3月の間の10日間で実施。 1　実習施設内での事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導	
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	翌日の実習の目標を明確に持つ。 翌日の実習クラス（場所）の取り組みについて,教科書等を用いて確認する。
	復習	その日の実習を振り返り,目標に沿って省察し,実習記録へ記入する。 実習記録等,実習先から指導された事項について,赤字などで修正を行う。
	展開	施設の現状と課題について,関心を持ち調べる。 自己を振り返り,保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準	1.障害関係施設等の生活に参加する。 自分なりに意欲を持って参加し、それが周囲にも理解される。 2.障害関係施設等での子どもたちや利用者の姿について観察し,発達等に関して理解できるようになる。 子どもたちや利用者の姿について、その人本来の持つ魅力と併せて困難性を丁寧に観察し、記録している。 3.保育士の姿を観察し,子どもや利用者への働きかけや関わり方について理解を深め,気づきや課題を記録し,日々の省察を行うことができるようになる。 保育士の意図的もしくはさりげない援助について、自分なりに考え、仮説を立て、記録にしめし、担当者とのやりとりを経て理解を深める。 実習先の評価は,内容と基準を評価表に明示して評価を実習施設に委ねる。 学内担当教員の評価は,巡回時の状況,記録簿の内容、実習への取り組み等によって行う。
	評価の方法	実習施設による評価に,学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合は,学内の実習所管委員会の合議による。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP401
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
科目責任者	小川　晶
担当教員	宮下　裕一 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1056101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次

免許・資格との関係

	4年次
小学校教諭：	自由
特別支援学校教諭：	自由
幼稚園教諭：	自由
保育士：	選択
理学療法士：	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	保育所における実習，参加実習，責任実習	

学生の到達目標	1.観察や子どもとのかかわりの視点を明確にすることを通して,保育所の役割と機能,保育内容・保育環境,子どもへの理解を深める。 2.既習の教科の内容および保育実習Ｉでの経験を踏まえて実習に取り組み,子どもの保育を総合的に学ぶとともに今後の学習課題を明確にする。 3.保育の計画,実践等について実際に取り組み,理解を深める。 保育士の業務内容や職業倫理について,具体的な実践に結び付けて理解すると同時に,保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にする。
授業内容	原則５月～６月に実施。 １　実習施設内の事前指導 ２　実習（実習中の巡回指導を含む） ３　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 翌日の実習クラスにいる子どもの発達過程について指針等で確認する。 責任実習においては，当該クラスの様子をよく観察した上で,必要な準備を行い,実習担当者とよく相談する。 復習　その日の保育を振り返り,ねらいに沿って省察し,実習記録へ記入する。 実習記録や指導案等,実習先から指導された事項について,赤字などで修正を行う。 展開　保育の現状と課題について,関心を持ち調べる。 自己を振り返り,保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP402
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1057101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	障害関係施設等における実習，参加実習，責任実習

学生の到達目標	1.障害関係施設等における生活全般に参加し,子どもや利用者の個人差について理解し,対応方法を身につけることができる。 2.必要に応じて,指導計画を立案し,実際に実践し,気づきや課題を記録し,日々の省察を行うことができるようになる。 3.保育士の業務内容や職業倫理について,具体的な実践に結び付けて理解すると同時に,保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にできるようになる。
授業内容	５月23日～６月3日に実施。 1　実習施設内での事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習　翌日の実習の目標を明確に持つ 翌日の実習クラス（場所）の取り組み内容について,教科書等を用いて確認する。 復習　その日の実習を振り返り,目標に沿って省察し,実習記録へ記入する。 実習記録等,実習先から始動された事項について,赤字などで修正を行う。 展開　施設の現状と課題について,関心を持ち調べる。 自己を振り返り,保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して,評価を実習施設に委ねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習施設による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	書籍名　施設実習パーフェクトガイド 著者名　守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 出版社　わかば社 価格　1400円+税 ISBN・ISSN　ISBN978-4-907270-09-4
推薦図書等	
参考URL	
備考	オフィスアワー：金曜日1限 e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

保育実習指導Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP303
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
科目責任者	實川　慎子
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 金子　功一
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1058101　水5
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	保育実習の意義・目的、実習の内容と課題の明確化、実習施設における子どもの人権や最善の利益、守秘義務と心構え、計画と記録

学生の到達目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2.実習意義と目的を理解し、責任のある立場で子どもと接する者としてのあり方を学び、考える。 3.実習の体験を踏まえての自己評価から今後の学習への課題を明確にする。	
授業内容	第1回	ガイダンス 実習の意義と目的（目標１）
	第2回	児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について（目標２）
	第3回	記録簿の意義と記入の仕方（目標１、２）
	第4回	指導案の作成の仕方（目標１、２）
	第5回	保育所の生活と保育士の役割（目標２）（担当　鈴木・守屋）
	第6回	3歳未満の子どもの生活と実習のポイント（目標２）（担当　鈴木・守屋） 担当教員: 鈴木　のり子・守屋　ふみ子
	第7回	実習にあたっての諸手続（目標１）
	第8回	子どもの発達過程について（目標２）
	第9回	3歳以上の子どもの生活と実習のポイント①（目標２）（担当　鈴木・守屋） 担当教員: 鈴木　のり子・守屋　ふみ子
	第10回	3歳以上の子どもの生活と実習のポイント②（目標２）（担当　鈴木・守屋） 担当教員: 鈴木　のり子・守屋　ふみ子
	第11回	子どもの生活と実習のポイント（目標２）（子育て支援センター参加）
	第12回	実習報告会で経験談を聴く（目標１）
	第13回	実習における自己課題の設定（目標１）
	第14回	実習におけるマナーや態度等（直前指導）（目標２）（實川・金子・鈴木・守屋） 担当教員: 實川　慎子・鈴木　のり子・守屋　ふみ子・金子　功一
	第15回	自己目標に対する自己評価（目標３）（實川・金子・鈴木・守屋） 担当教員: 實川　慎子・鈴木　のり子・守屋　ふみ子・金子　功一
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回 保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 第7・13回 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	第1～14回 授業で学んだ事柄についてノートに整理し、実習に必要な準備や練習等を行う。 第15回 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて自己課題を整理し、目標を明確にする。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	1.記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 2.保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解できたか。 3.実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。

評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	本授業は、幼稚園実習事前事後指導と関連させて行う。 本学の「幼稚園教育実習・保育実習手引き書」を使用する。 担当教員の表記がない授業回は、基本的に實川・金子が担当する。 實川のオフィスアワーは火曜日2限。 實川連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP304
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1058201　火5
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	児童福祉施設、実習、保育士	

学生の到達目標		1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整えることができる。 2.生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考えることができるようになる。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができるようになる。
授業内容	第1回	ガイダンス
	第2回	実習の意義と目的（目標1）
	第3回	児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について（目標1）
	第4回	実習の内容と課題の明確化　（目標2）
	第5回	施設実習の意義・目的、必要書類準備・確認事項　（目標2）
	第6回	児童家庭福祉の現状と児童福祉施設の概要　（目標2）
	第7回	施設と施設利用者（児）の理解①　（目標2）
	第8回	施設と施設利用者（児）の理解②　（目標2）
	第9回	児童福祉施設職員による講話　（目標2）
	第10回	実習における計画・実践　（目標2）
	第11回	実習における観察、記録、評価　（目標2）
	第12回	実習に際しての留意事項　（目標2）
	第13回	実習の振り返りと自己評価①　（目標3）
	第14回	実習の振り返りと自己評価②　（目標3）
	第15回	評価をもとにした自己理解と課題の明確化　（目標3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第12回 保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	第1回～第12回 授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 第13回～第15回 実習について自分なりに振り返り、自己を見つめ、得たこととこれからの課題について自分なりに整理し言語化する。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整えることができる。 記録簿及び実習生紹介を記載するまでにある程度の実習のイメージを持ち、自分なりに目標を持ちそれを言語化する。 また、立てた目標を日々の実習に落とし込み、なりたい自分に近付けるように研鑽する。 2.生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考えることができるようになる。 提示されるケースや場面について、自分なりにどのように対応したいのか述べることができる。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができるようになる。 実習体験を通して、保育士としての自分に対するイメージと意欲が増し、今後より研鑽していきたいという気持ちを持つ。 ＊保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，

	記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 ＊実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み（70%）に、授業に取り組む意欲（30%）を加味して評価する。

教科書

書籍名	保育実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	－
価格	－
ISBN・ISSN	－

書籍名	施設実習パーフェクトガイド
著者名	守巧他著
出版社	わかば社
価格	1400円+税
ISBN・ISSN	978-4-907270-09-4

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP403
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
科目責任者	小川　晶
担当教員	宮下　裕一 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1058301　水5
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	保育所、実習、子ども、保育士
学生の到達目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2.保育の場に入るにあたって、責任のある立場で子どもと接する者としてのあり方を学び、考える。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

授業内容	第1回	ガイダンス 実習の意義と目的（目標１）
	第2回	保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察）
	第3回	保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察）
	第4回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：概説）
	第5回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習）
	第6回	保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習）
	第7回	記録の書き方（復習）
	第8回	保育実践力の育成
	第9回	実習における自己目標の明確化
	第10回	実習にあたっての諸手続
	第11回	実習にあたっての諸手続
	第12回	実習にあたっての態度等（直前指導）
	第13回	実習の総括（実習報告会）
	第14回	実習の総括（実習報告会）
	第15回	自己評価および課題の明確化
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。
	復習	授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 課された課題を指定された期日までに確実に行う。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準	保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加内容（ 30%）

教科書

書籍名	保育実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	－
価格	－
ISBN・ISSN	－

書籍名	保育実習
著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円

ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

書籍名	保育所保育指針
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社等
価格	120円
ISBN・ISSN	－

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	190円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP404
開講年度	2017年度
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1058401　水5
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　7-5 保育実習、総合演習等
授業のキーワード	施設、実習、保育士

学生の到達目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整えることができる。 2.生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考えることができるようになる。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができるようになる。	
授業内容	第1回	保育実習Ⅲの意義と目的（目標1）
	第2回	子どもと保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと子ども・利用者の最善の利益を考慮した保育実践の理解（目標1,2）
	第3回	子ども・利用者及び保護者支援について（目標1．2）
	第4回	福祉施設についての理解と実習施設に関する調べ学習①（目標2）
	第5回	福祉施設における支援の実際と実習施設に関する調べ学習②（目標2）
	第6回	児童福祉施設職員による講話（目標2）
	第7回	講話の振り返りと保育士とソーシャルワークについて（目標2）
	第8回	2，3年生による保育実習に関する情報交換会（目標2）
	第9回	実習に当たっての諸手続きの準備（目標2）
	第10回	実習課題と記録簿の書き方について（目標2）
	第11回	支援計画と事例検討について（目標2）
	第12回	実習にあたっての態度等（直前指導）（目標2）
	第13回	実習の総括（学びの振り返り）①（目標3）
	第14回	実習の総括（実習体験報告）②（目標3）
	第15回	自己評価及び課題の明確化（目標3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	毎回予習：保育実習の手引きやテキストに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 第1回予習：次の実習に向け、保育実習Ⅲの意義と目的を明確にする。 第2回～5回予習：各実習予定施設に関し、その種別ごとの一般的特徴について調べまとめる。 第6回～7回予習：現場職員の講話に向けて、各自実習予定施設の置かれた現状、課題等について調べる。 第8回予習：情報交換会に向け、保育実習Ⅰ（施設）での体験を他者に伝えられるよう整理する。 第9回～12回予習：実習に向け必要な書類作成と、実習課題、記録簿作成、支援計画について予習する。 第13回～15回：実習終了後、実習の総括に向けて、実習の成果と課題の整理をする。
	復習	毎回復習：授業の要旨を作成する。授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。課された課題を指定された期日までに確実に行う。 第1回復習：保育実習Ⅲの意義と目的を再確認する。 第2回～5回復習：実習予定施設について、他の学生と収集した情報で共有できたことを改めて整理する。 第6回～7回復習：講話で得られた学びについて、次の実習にどう生かせるか、整理をする。 第8回復習：情報交換会で得られた経験を整理する。 第9回～12回復習：実習課題、記録簿作成、支援計画について、授

		業で触れた内容も含めて整理をする。 第13回～15回復習：実習の総括で得られた経験の整理と、次回の実習に向けての課題を改めて考える。
	展開	保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価	評価の基準	保育実習の目的、概要等、授業で取り上げた内容を理解し、記録簿や関係書類を適正に整え、心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に、実習を振り返り、今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。
	評価の方法	レポートの内容や課題への取り組み（70%）に、授業に取り組む意欲（30%）を加味して評価する。

教科書	書籍名	保育実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	－
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	施設実習パーフェクトガイド
	著者名	守巧他著
	出版社	わかば社
	価格	1400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-907270-09-4

推薦図書等	
参考URL	
備考	オフィスアワー：金曜日1限 e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

初等国語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET102
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等国語教育通論
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1061001　月1
教室	大講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード　国語科教育，学習指導要領，教科書，授業法

学生の到達目標

1．国語教育の歴史と変遷を知り,現在の国語教育の流れが理解できる。
2．小学校学習指導要領解説国語編と国語科教科書の概要について理解できる。
3．学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解できる。

授業内容

第1回	受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価について(目標３)
第2回	小学校学習指導要領と国語科目標の変遷の概要・今求められている国語力について（目標２）

第3回	全国学力学習状況調査（国語）の問題から，求められている国語力について考える。（目標１）
第4回	全国学力学習状況調査（国語）の問題から，小学校教育現場での授業について考える。（目標１）
第5回	小学校学習指導要領解説国語編の概要をつかむ。（目標２）
第6回	「言語活動の充実」と実践事例について知る。文学的文章と詩の授業を通して（目標１）
第7回	「言語活動の充実」と実践事例について知る。話説明的文章の授業を通して（目標１）
第8回	「言語活動の充実」と実践事例について知る。書くことの授業を通して（目標１）
第9回	小学校国語科教科書を読み，内容の概要をつかむ。（目標２）
第10回	小学校国語科授業の指導計画と系統性について知る。（目標２）
第11回	実践記録から，授業構成の概要を知る（物語文）Ⅰ（目標２）
第12回	実践記録から，授業構成の概要を知る（説明的文章）Ⅱ（目標２）
第13回	国語科における学習法について考える。（目標３）
第14回	ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
第15回	授業全体のリフレクション・相互評価（目標１，２，３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2回：小学校学習指導要領国語解説編の目標について読んでくる。 第3回：全国学力学習状況調査について調べてくる。 第4回：全国学力学習状況調査B問題について調べてくる。 第5回：小学校学習指導要領「内容と取り扱い」について読んでくる。 第6回：小学校時代に心に残っている文学的文章教材を図書館で見つけ出す。 第7回：小学校時代に心に残っている説明的文章教材を図書館で見つけ出す。 第8回：小学校時代に心に残っている作文教材を図書館で見つけ出す。 第9回：小学校国語科教科書の概要を知るために教科書をできるだけ読む。 第10回：小学校国語科授業の指導計画についてネット等で調べる。 第11回：実践記録を読んでみる。 第12回：前時に学んだ視点を元に、実践記録を読んでみる。 第13回：国語科における授業方法について考える。 第14回：これまで学んだことをポートフォリオの形でまとめる。 第15回：国語科授業について自分なりの考えをまとめる。
	復習	第2回：小学校学習指導要領国語の解説資料についてわかったことをまとめる。 第3回：全国学力学習状況調査のA問題について、その特徴をまとめる。 第4回：全国学力学習状況調査B問題について、その特徴をまとめる。 第5回：低中高学年別の「内容と取り扱い」について、まとめておく。 第6回：文学的文章教材について調べる。 第7回：説明的文章教材について調べる。 第8回：作文教材について調べる。 第9回：小学校国語科教科書についてわかったことをまとめる 第10回：小学校国語科授業の概念をまとめる。 第11回：学んだ視点を通して実践記録を読んでみる。 第12回：実践記録を読み、まとめてみる。 第13回：国語科における授業方法についてまとめる。 第14回：授業全体を振り返り、感想を書く。 第15回：全体のまとめ

	展開	第2回：学習指導要領の変遷並びに現在求められている力について理解を深める。 第3回：全国学力学習状況調査A問題を解いてみて、どんな力が求められているか考える。 第4回：全国学力学習状況調査B問題を解いてみて、どんな力が求められているか考える。 第5回：指導要領の特徴について学略を知る。 第6回：文学的教材の読解指導について学ぶ。 第7回：説明的文章の読解指導について学ぶ。 第8回：作文教材の記述指導について学ぶ。 第9回：小学校国語科教科書を読み、その特徴等について学ぶ。 第10回：小学校国語科の指導計画の立て方を学ぶ。 第11回：小学校国語科の授業実践記録を読み、具体的な授業イメージを考える。 第12回：小学校国語科の実践記録を読み、具体的な授業イメージを考える。 第13回：国語科における授業方法の概要を理解する。 第14回：学んだことに対して振り返りながらコメントを付けてまとめていく。 第15回：グループごとにポートフォリオを読みながら互いに評価し合う。
成績評価	評価の基準	１，現在の国語教育の流れが理解できたか。 ２，小学校学習指導要領国語科解説編と国語か教科書の概要について理解できたか。 ３，実践記録を元に、実践をする上での留意点等について、自分なりの視点を持つことができたか。
	評価の方法	グループ活動への参加態度２０％、レポート２０％，ポートフォリオ３０％，期末筆記試験３０％
教科書	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	125円（本体価格116円）
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		○この科目を履修するためには、国語教育（言語教育）の基礎を学ぶ姿勢が必要である。 ○グループ学習やディスカッションを多用し、幅広い知識を獲得できるようにする。 ○連絡が必要な場合は、研究室6まで来室すること。

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET103
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1062001　金1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法
授業のキーワード	小学校国語，書写，指導	
学生の到達目標	１．小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 ２．小学校における書写の指導法及び評価法について理解し，小学校において指導できる能力を身につける。	

授業内容	第1回	小学校で学習する文字と書写指導の内容(目標1) 書写の用具と用材及びその準備と扱い方(目標2)
	第2回	平仮名と片仮名の書き方－小学校第1学年－鉛筆による書き方　姿勢と筆記具の持ち方(目標2)
	第3回	第1学年配当漢字の書き方－点画の名前,始筆,送筆,終筆－鉛筆(目標2)
	第4回	第2学年配当漢字の書き方－鉛筆(目標2)
	第5回	点画の書き方－接し方,方向－(第1・2学年)　毛筆の用具用材。 板書の書き方１(目標1・2)
	第6回	点画の書き方－左右の払い－毛筆。（第2・3学年）板書の書き方２(目標2)
	第7回	点画の書き方－点,跳ね－毛筆。（第2・３学年）板書の書き方３(目標2)
	第8回	点画の書き方－曲がり,そり－毛筆。（第2・３学年）板書の書き方４(目標2)
	第9回	日常の書式と文字の配置－硬筆・毛筆。（第4・5学年）板書の書き方５(目標2)
	第10回	手書きの形と活字の形－漢字の字体－毛筆。板書の書き方６(第4・5学年)(目標2)
	第11回	文字の配置-漢字と仮名の調和－毛筆。板書の書き方７(第5・6学年)(目標2)
	第12回	文字の配列と文字の大きさ・中心・外形－鉛筆。（第5・6学年）板書の書き方８(目標2)
	第13回	文字の配列－縦書きと横書き－鉛筆。（第5・6学年）板書の書き方９(目標2)
	第14回	文字の配列と筆順－鉛筆。（第4～6学年）板書の書き方１０(目標2)
	第15回	書写の指導計画と評価及び指導法の工夫と教材開発(目標1)
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回　“国語科における「書写」”の語意について調べて授業に臨むこと。 第２回～第１４回（共通）　毎回のテーマと主な内容の予告に従って，準備した上で授業に臨むこと。 第２回　鉛筆の正しい持ち方について調べる。 平仮名と片仮名の五十音表を確認しておく。 第３回　第１学年配当漢字について調べる。 第４回　第２学年配当漢字について調べる。 第５回　チョークの持ち方と板書の方法について調べる。 毛筆で書く場合の用具・用材を確認する。 漢字の基本的な点画の書き方について調べる。 第６回　第３学年配当漢字について調べる。 第６～８回　払い、点、跳ね、曲がりの書き方について調べる。 第９回　書式に調和させた文字の書き方についてしらべる。 第４・５学年配当漢字について調べる。 第１０回　活字と手書きの形と違いを探しておく。 第１１回　漢字と仮名を調和よく書くことについて考える。 第６学年配当漢字について調べる。 第１２回　文字の配置を整えて書くことについて考えをまとめておく。 漢字の筆順の原則について調べておく。 第１３回　縦書きと横書きの違いについて考えておく。

第１４回　文字の配列を整えて書くことについて考えておく。
第１５回　書写の指導計画と指導法について調べる。

復習　第1回～第15回（共通）　毎回の授業において，配付資料の内容を確認し，保管すること。また，個別に指摘された事項について，知識や技能を身につけるように努めること。

展開　１．小学生の文字を書く能力とその発達について関心を持ち，実情を把握する機会を持つように努めること。
２．自身の書く文字を正しく，整えて書く習慣を身に付けること。

成績評価

評価の基準　１．書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解度・定着度
２．基礎的な「書写」の指導ができる能力が養われていること。

評価の方法　内容の理解と定着度（ 50%）
書写の指導能力（ 30%）
課題への取り組み意欲・態度（ 20%）。
毎回，提出課題を課す。提出された課題等によって評価する。
定期試験は行わない。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	小学校学習指導要領解説・国語編（平成20年）
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社（H27/3付録追加版）
価格	￥２２０.-
ISBN・ISSN	ISBN-9784491031590

書籍名	板書　きれいで読みやすい字を書くコツ
著者名	樋口咲子
出版社	ナツメ社
価格	￥1836.-
ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-8163-5381-9

参考URL

備考

１．毎回、教材（題材）及び説明資料を配布する。配付資料を集めると小学校書写指導に関する教材とその指導法の基本資料集となる。
２．実技の際に使用する用具・用材（鉛筆２Ｂ、毛筆，液体墨，半紙等）は，授業時の予告に従って，各自で準備すること。
３．収容可能人数　50人
４．オフィスアワー　金曜日２時限　研究室１０

初等社会科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET104
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等社会科教育通論
科目責任者	大久保　良孝
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1063001　月2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	社会科誕生の背景，戦後の指導要領の改訂，今後の社会科教育
学生の到達目標	１．戦前の修身・地歴・公民等と戦後社会科教育誕生の歴史等が理解できるようになる。 ２．戦後の小学校社会科指導要領の改訂の主旨が理解できるようになる。 ３．社会科学習への関心と小学校社会科教育の在り方等について理解できるようになる。

授業内容	第1回	小学校教育課程における社会科教育の位置づけ(目標1)
	第2回	社会科の誕生の背景と内容について(修身・地理・歴史・公民)(目標1)
	第3回	社会科の誕生の背景と内容についてⅠ(昭和22年試案)(目標2,3)
	第4回	社会科の誕生の背景と内容についてⅡ(昭和26年試案)(目標2,3)
	第5回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅠ(昭和33年・43年)(目標2,3)
	第6回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅡ(昭和52年・平成元年)(目標2,3)
	第7回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅢ(平成10年・20年)(目標2,3)
	第8回	社会科学習と系統的学習の関連について(目標3)
	第9回	社会科学習と問題解決的学習の関連について(目標3)
	第10回	社会科教育における社会科用語について(目標3,4)
	第11回	社会科学習と生活科と総合的な学習の時間の関連について(目標3)
	第12回	「生きる力」と社会科学習について(目標3)
	第13回	指導要領の骨子と小学校社会科の関連について(目標3)
	第14回	社会科教育の課題とこれからの社会科学習の在り方について(目標3)
	第15回	小学校社会科教育のまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回 ・小学校学習指導要領解説社会編を，学年毎に何度も読んでおくこと。 社会科の教科書の内容に，関心をもつこと。（本校の図書室にある） ・小学校学習指導要領解説社会編を、学年ごとに何度も読んでおくこと。 ・社会科の教科書の内容に、関心を持つこと。（本校の図書室にある。） ・社会事象（テレビや新聞等）の出来事に関心を持ち、社会科学習に必要なことはスクラップやメモにして、保存しておくこと。（情報収集） ・シラバスを基に、次の講話の内容を調べておくこと。
	復習	第1回～15回・毎回の講話を要旨でまとめたり、感想文にしたりしてまとめておくこと。 ・講話中に支持された課題（レポート等）について、期限までに提出すること。
	展開	・新聞やテレビのニュースを毎回発表させて、社会事象に関心を持たせる。 ・社会科検定（自作）を実施する。
成績評価	評価の基準	1.戦前の修身・地理・歴史・公民の内容について理解する。 2.戦後の社会科誕生の歴史等について理解する。戦後の学習指導要領改訂の主旨を理解する。 3.社会科学習に対し関心を持ち，社会科教育の在り方等について理解する。
	評価の方法	レポート７０％、課題提出２０％、授業中の発表内容と態度１０％
教科書		

推薦図書等	
参考URL	
備考	・戦後の学習指導要領改訂の主旨について、関心・意欲を持って授業に望んでほしい。 ・小学校学習指導要領解説社会編を各自用意する。 ・授業の進め方 ①社会科検定の実施（全員） ②新聞記事からの発表（２人） ③講義後、知り得た知識を個人で付箋紙に記入し、それをグループで持ち寄り、疑問点や問題点等についてグループ討議を行った後に発表させる。 【推薦ＤＶＤ】＊本学の図書室に所蔵１　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフト；小学校社会　住みよいくらしをつくる」　制作：東京書籍政策著作　東京都水道局（ほか）制作協力 出版社：東京書籍 ２　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフト；小学校社会　わたしたちの生活と食糧生産」制作：東京書籍政策著作　五日町観光協会（ほか）制作協力　出版社：東京書籍

初等算数教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET105
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等算数教育通論
科目責任者	京極　邦明
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1064001　火3
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード

算数教育の目標，算数科の内容，算数科の領域

学生の到達目標

1　算数教育の目的，目標がわかる。
2　数と計算，数量関係の内容の仕組みがわかる。
3　量と測定，図形の内容の仕組みがわかる。

授業内容

第1回	講義のガイダンス　算数教育の動向（目標１）
第2回	算数の教育的価値と算数科の目標　算数科における道徳教育の指導についてふれる（目標１）

第3回	算数的活動から算数科の目標に迫る（目標１）
第4回	算数教育の変遷を知る（目標１）
第5回	数の概念についての理解を深める（目標２）
第6回	加法・減法の意味と性質を知る（目標２）
第7回	国の乗法・除法の筆算の仕方について知り、筆算についての理解を深める－諸外国を例に－（目標２）
第8回	図的表現を生かして、小数・分数の乗法，除法の計算の意味と仕方を考える（目標２）
第9回	長さ、重さを例にして、外延量について考える（目標３）
第10回	速さを例にして内包量について考える（目標３）
第11回	平面図形の見方・考え方を一筆がきを例にして、理解する（目標３）
第12回	立方体の展開図を例にして、立体図形と平面図形を関連付ける（目標３）
第13回	立体の分類を通して、立体図形の理解を深める （目標３）
第14回	比と比例・反比例から小中のつながりを考える（目標２）
第15回	表・グラフを通して資料の活用の仕方を知る（目標２）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	基礎的な算数・数学の知識・技能を身に付けておく。授業の最後に次回の授業内容の予告をするので、キーワードにあたることについて、「指導要領解説算数編」及び調べておこう。さらに第５回から第15回については算数科教科書で、どのように記述されているかを見ておこう。
	復習	第1回～15回（共通）その授業で扱った内容や問題について復習し、習得できるようにしておこう。特に、その授業で扱った内容や問題と関係する算数科教科書の記述を分析しておこう。また、振り返りシートで指摘された内容について、授業で配付された資料を使って見直しておこう。
	展開	算数・数学科で取り上げる教科の内容の本質は何かということに問題意識をもち、新しい学習指導要領の中心的テーマである主体的・対話的で深い学びがどのように実現されようとしているのか調べておこう。

成績評価	評価の基準	1.算数の目標および史的変遷の要展について理解していること。 2.数と計算，量，図形などについての基本的な原理について知り、これを適用できること。 3.進んで問題に取り組み話し合いにも参加していること等を合格基準とする。
	評価の方法	振り返りシートへの記述の状況(２０%) レポート（２０%) 期末の筆記試験（６０%）

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　算数編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	238円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-491-02373-1

推薦図書等	書籍名	算数の力を育てる④
	著者名	長崎栄三・滝井章
	出版社	東洋館出版社
	価格	2592円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02362-5

参考URL

備考

初等理科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET106
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等理科教育通論
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1065001　月1
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	小学校理科, 身の回りの自然, 生活, 自然科学概念
学生の到達目標	1.小学校理科で学習する事象についての基礎的な知識を習得する。 2.身の回りの事物・現象に対して,理科的・科学的に説明することができるようになる。 3.児童に自然の素晴らしさや巧妙さを気付かせることのできる幅広い知識を獲得する。

授業内容	第1回	理科教育の目的・理科とサイエンスの違い・小学校学習指導要領理科の解説（小学校理科が目指す学力・学習内容）・評価の分類・カリキュラム概念モデル（目標1,2,3)
	第2回	水の３態変化・動植物の季節変化<４年の学習>(目標1,2,3)
	第3回	骨と筋肉・関節の動き<４年の学習>（目標1,2,3)
	第4回	振り子<５年の学習>（目標1,2,3)
	第5回	電磁石<５年の学習>（目標1,2,3)
	第6回	物の溶け方<５年の学習>（目標1,2,3)
	第7回	植物の成長・動物の発生<５年の学習>（目標1,2,3)
	第8回	天気の変化<５年の学習>（目標1,2,3)
	第9回	昆虫・植物の成長と体のつくり<３年の学習>・確認テスト(目標1,2,3)
	第10回	てこ<６年の学習>(目標1,2,3)
	第11回	燃焼の仕組み<６年の学習>(目標1,2,3)
	第12回	水溶液の性質<６年の学習>(目標1,2,3)
	第13回	人の体のつくり<６年の学習>(目標1,2,3)
	第14回	月と太陽<６年の学習>(目標1,2,3)
	第15回	太陽と地面の様子<３年の学習>・確認テスト(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと 第2回　「水の３態変化・動植物の季節変化」について調べておくこと 第3回　「骨と筋肉・関節の動き」について調べておくこと 第4回　「振り子」について調べておくこと 第5回　「電磁石」について調べておくこと 第6回　「物の溶け方」について調べておくこと 第7回　「植物の成長・動物の発生」について調べておくこと 第8回　「天気の変化」について調べておくこと 第9回　「昆虫・植物の成長と体のつくり」について調べておくこと 第10回　「てこ」について調べておくこと 第11回　「燃焼の仕組み」について調べておくこと 第12回　「水溶液の性質」について調べておくこと 第13回　「人の体のつくり」について調べておくこと 第14回　「月と太陽」について調べておくこと 第15回　「太陽と地面の様子」について調べておくこと
	復習	第1回　小学校学習指導要領解説・理科編の重要項目についてまとめておくこと 第2回　「水の３態変化・動植物の季節変化」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第3回　「骨と筋肉・関節の動き」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第4回　「振り子」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第5回　「電磁石」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第6回　「物の溶け方」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第7回　「植物の成長・動物の発生」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること 第8回　「天気の変化」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること

第9回　「昆虫・植物の成長と体のつくり」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第10回　「てこ」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第11回　「燃焼の仕組み」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第12回　「水溶液の性質」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第13回　「人の体のつくり」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第14回　「月と太陽」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること
第15回 「太陽と地面の様子」についての練習問題を行い，学習内容の定着に努めること

展開　小学校課程で学習する理科の内容の概要について理解を深める。授業ではすべてを扱うことができないが，問題集を使って各学習内容について学修を進めておく。

成績評価

評価の基準
1.小学校理科で学習する事象についての基礎的な知識を習得すること。
2.身の回りの事物・現象に対して,理科的・科学的に説明することができること。
3.児童に自然の素晴らしさや巧妙さを気付かせることのできる幅広い知識を獲得すること。

評価の方法　試験90%（30%×３回、２回は問題集より、１回はプリントより出題），レポート等の授業への取り組む姿勢10%を総合的に判断する。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
著者名	文部科学省
出版社	大日本図書
価格	65
ISBN・ISSN	ISBN 978-4-477-01949-9

書籍名	特進クラスの理科　有名人気校対策問題集
著者名	西村賢治
出版社	文英堂
価格	1250
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

小学校理科の学習内容の定着のため、授業時間以外に各自で問題集の問題を解いてもらいます。
授業は基本的に講義が中心ですが、履修人数が少なければ実習なども行います。
連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

初等生活科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET107
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等生活科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1066001　木2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード

生活科の教科論，生活科の内容論，生活科の基礎的・基本的な知識・技術，生活科の課題研究

学生の到達目標

1.生活科の本質論、内容構造,具体的な内容,留意点について理解を深める。
2.生活科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。
3.生活科に関わる課題を追究し,成果を的確に説明・表現できる。

授業内容

第1回	講義内容のガイダンス
第2回	生活科の教科論-生活科という教科はなぜ必要か(目標1)
第3回	現代の社会の生活課題と生活科の役割(目標1,2)

第4回	諸外国における生活科に関する授業(目標1,2)
第5回	生活科の目標及び内容構成(目標2)
第6回	子どもと人とのかかわり(目標2)
第7回	子どもと自然とのかかわり(目標2)
第8回	子どもと家庭・地域・社会生活とのかかわり(目標2)
第9回	郷土の食文化に触れてみよう(実習)(目標2)
第10回	子どもの遊びと学びについて(目標2)
第11回	子ども自身について(目標2)
第12回	生活科の教材開発(目標2,3)
第13回	課題研究の成果発表 ①(目標3)
第14回	課題研究の成果発表 ②(目標3)
第15回	生活科総論(目標1～3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通） ・講義内容に関する書物や資料を読み，理解しておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて，事前に調べておくこと。 ・上記を踏まえて，自己の課題を明確にしておくこと。
	復習	第１回～１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめ，ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか，解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・予習，復習の記録は適時提出する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関連する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.生活科の本質論、内容構造、具体的な内容、留意点の理解度 2.生活科における基礎的・基本的知識・技術の理解度・定着度。 3.生活科に関わる課題追究力、成果発表力が養われていること。
	評価の方法	毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 20%），試験（ 35%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	小学校学習指導要領　生活編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	101円
	ISBN・ISSN	978-4-536-59002-0

推薦図書等

参考URL

備考

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1067001　木3
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，和声
学生の到達目標	1.音楽の基礎知識が身につく(楽典) 2.聴く力(聴音)がつく 3.正しい音程で歌う（ソルフェージュ）ことができる

授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(目標1)

第3回	音部記号,拍子記号,音符,休符等を学ぶ(目標1)
第4回	発想記号,調性について(目標1)
第5回	和声について(1)和音と和声進行(目標1)
第6回	和声について(2)和声進行に基づく伴奏形態(目標1)
第7回	楽典の復習と小試験、試験の解説（目標1）
第8回	教科書『小学校の音楽』を用いて歌い方を学ぶ (目標3)
第9回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(1)(目標1,3)
第10回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(2)(目標1,3)
第11回	ソルフェージュ(1)(目標2,3)
第12回	ソルフェージュ(2)2～3重唱で歌の発表(目標2,3)
第13回	聴音(1)(目標2)
第14回	聴音(2)(目標2)
第15回	聴音の小試験とその解答 授業の総括（1，2，3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	授業の第1回~第7回までの楽典に関する教科書は、「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」で使用しているものと同一であるため、先ず本授業の予習をして知識で身に付けて、表現技術の授業では実践で再確認できる。そのためシラバスを常にチェックして、事前に授業で行う部分の準備をしておくこと。 第8回~第15回は小学校の音楽の教科書を使用するため、低学年の教科書で取り上げられている楽曲を、正しく読譜できるようにしておくこと。
復習	楽譜を正しく演奏するためには、リズムや音程だけではなく発想記号等に関する注意も必要となる。第1回~第7回の楽典の授業で学んだ内容を、その都度自らのものとして蓄積出来ているかを確認していく事が大切である。第8回~第15回の復讐は、各授業内容を教科書を再度各自が演奏して、正しく演奏できているかを確認しておくこと。
展開	小学校の音楽科を指導するためには、たとえ低学年であろうとも、小学校の音楽の授業で使用する程度の読譜力では足りない。従って子供が楽しんで歌えるような曲を探して、自力で演奏できるように挑戦して欲しい。

成績評価

評価の基準	1.基本的な音楽用語を理解できたか。 2.リズム・音程を正しく楽譜に聴き取る事ができたか。 3.易しい旋律をリズム・音程正しく歌う事ができたか。
評価の方法	楽典 40%，ソルフェージュ 25%，聴音 25%，勉学意欲 10%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1、200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
書籍名	小学生の音楽　1、2、3、4、5、6
著者名	小原光一　他

出版社	教育芸術社
価格	官報による
ISBN・ISSN	978-4-87788-411-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	ト音記号、ヘ音記号の読譜を復習して授業に臨んで下さい。 授業の復習を必ずしましょう。 遅刻・欠席のないように注意して下さい。

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1067002　木3
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　楽典，ソルフェージュ，聴音

学生の到達目標

１．小学校の音楽の授業で使用する程度の楽譜が読め、音程に気をつけて歌うことができる。
２．易しい旋律を聴き取り,楽譜で表すことができる。
３．音楽の基礎的な用語を理解し,適切に使用することができる。

授業内容

第1回	この科目の意義・授業の進め方
第2回	音部記号,拍子記号,音符,休符を学ぶ(目標1)

	第3回	発想記号,固定ド唱法と移動ド唱法について(目標1)
	第4回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ① 連続した音程・4分音符等(目標1,2)
	第5回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ② 連続した音程・付点音符等(目標1,2)
	第6回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ③ 跳躍した音程・シンコペーション等(目標1,2)
	第7回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ④ 跳躍した音程・3連符等(目標1,2)
	第8回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ⑤ ソルフェージュの小テスト(目標1,2) ソルフェージュの小テストでは、口頭でよかった点・課題点をその場で個々人にフィードバックする。
	第9回	音程と音階について ① 長音階(目標3)
	第10回	音程と音階について ② 短音階(目標3)
	第11回	調性と移調について(目標3)
	第12回	和音について ①3和音(目標3)
	第13回	和音について ②7の和音(目標3)
	第14回	和音を用いた易しい伴奏(目標3)
	第15回	まとめ・例題の演習と解説(目標3)
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　小学校で学習した楽譜の読み方を復習しておく。 第4回～第7回　ソルフェージュの小テストに向けて、教科書掲載曲の歌唱練習に取り組む。
	復習	・毎授業時に扱った教材曲のリズム奏・階名唱・歌詞唱を行う。 ・毎授業時に提出したプリントに記入されたコメントに従って学習に取り組む。
	展開	・楽譜に親しみ、様々な曲を自力で読譜し演奏する経験を積む。
成績評価	評価の基準	１．教材曲のリズム・音程に留意し、正しく歌うことができたか。 ２．リズム・音程を正しく聴き取り楽譜に表すことができたか。 ３．音楽の基礎的な用語を理解し適切に使用できたか。
	評価の方法	ソルフェージュ（ 25%）聴音（ 25%）楽典（ 40%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６
	著者名	小原光一　他
	出版社	教育芸術社
	価格	官報による
	ISBN・ISSN	ISBN 978-4-87788-409-3 他
推薦図書等	書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
	著者名	坂東貴余子・本間正治

出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	4116200506

参考URL	
備考	音楽学習の基礎となる楽譜の勉強をし直します。 なるべく１年次での履修を希望します。 音楽に限らず，知識・技能を身につけるためには反復練習が必須です。 繰り返し練習すれば誰でも必ず楽譜は読めます。 授業の復習を確実に行って下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

初等図画工作教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET109
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等図画工作教育通論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1068001　木2
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 4-4 小学校教育実践等

授業のキーワード	造形表現と図画工作科，発達の段階と子どもの表現，小学校図画工作科の授業
学生の到達目標	1.小学校における図画工作科の教育について,全般にわたり理解する。 2.図画工作科の成立過程,目標と構造,内容構成,学習形態などを学び,図画工作科の特質を把握する。 3.図画工作の教育課程・教材・授業に関する子どもの視点に沿った指導のあり方を理解する。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点等)・図画工作科の目指すもの・学校教育以前の造形(目標1)
	第2回	「図画工作」の変遷①・5人の先生の教育観の違い・リードの考え方・全員発表「図工の授業で得たこと」(目標3)発表原稿提出;確認後返却
	第3回	「図画工作」の変遷②・アイスナー・寺子屋から学校へ・明治の教育①(目標1,2)
	第4回	「図画工作」の変遷③・明治の教育②・保育園や幼稚園現場・自由画運動(目標1,2)
	第5回	「図画工作」の変遷④・戦時の教育・発達の段階による表現の違い①(目標1,2)発表振り返り提出;確認後返却
	第6回	「図画工作」の変遷⑤・戦後の教育①チゼック・発達の段階による表現の違い②(目標1,2)
	第7回	「図画工作」の変遷⑥・戦後の教育②発達の段階による表現の違い③(目標1,2)
	第8回	発達段階による表現の違い④・「図画工作」の授業①小学校1年～3年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第9回	「図画工作」の授業②小学校3年～6年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第10回	造形遊び・共同制作について(目標1,3)
	第11回	鑑賞について・評価のとらえ方・授業の実際;DVD視聴①支援の必要な子どもと表現(目標1,3)
	第12回	教材について・授業の実際;DVD視聴②・レポート提出;確認後返却①(目標3)
	第13回	題材観について・授業の実際;DVD視聴③図画工作の授業・レポート提出②(目標3)
	第14回	指導案の基本について・授業の実際;DVD視聴④・レポート提出;確認後返却③(目標3)
	第15回	まとめ・指導案の書き方について・図画工作の今後の課題と展望・最終レポート提出④(目標1,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回 テキストを読み進める。 発表の準備をする。
	復習	第1回～第15回 配付資料を読み直す。 発表のまとめをする。 テキストを読み直す。
	展開	テキストをもとに図画工作科の授業を調べる。 具体的に指導案を作成する。
成績評価	評価の基準	1.小学校における図画工作科の教育について,全般にわたり理解できたか。 2.図画工作科の成立過程,目標と構造,内容構成,学習形態などを学び,図画工作科の特質を把握できたか。 3.図画工作の教育課程・教材・授業に関する子どもの視点に沿った指導のあり方を理解できたか。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めた小レポート20%，課題レポート50%）70%，発表を含めた授業の取り組み等の平常得点30%の成績を総合する。

ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	小学校 図画工作科の指導
著者名	新井 哲夫 (著), 山口 喜雄 (著), 天形 健 (著)
出版社	建帛社
価格	2484
ISBN・ISSN	ISBN-10: 4767920965

書籍名	小学校学習指導要領解説 図画工作編
著者名	文部科学省
出版社	日本文教出版社
価格	87
ISBN・ISSN	ISBN-10: 4536590013

推薦図書等

参考URL

備考

・自身の小学校時代の図画工作の経験を全員の前で発表する課題がある。
・課題レポートの提出が複数回ある。
・最終日までにテキストを自主的に読み進めていくことが求められる。
・DVD視聴により子どもの具体的な表現や指導の手立てが確認出来る。
・幼・保や特別支援の教育現場にも関連する内容も含めている。
・連絡等は基本的に研究室に直接来てください(火曜日以外の昼休み)

初等家庭科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET110
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等家庭科教育通論
科目責任者	馬場　彩果
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1069001　木2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　小学校家庭科，家庭科教育の歴史，家庭科の基礎的・基本的な知識・技術

学生の到達目標

1．小学校家庭科の歴史的変遷が理解できるようになる。
2．小学校家庭科の目標・内容について理解できるようになる。
3．小学校家庭科の基礎的・基本的な知識・技術を習得する。

授業内容

第1回	オリエンテーション，運針（目標３）
第2回	家庭科の概要，運針（目標２，３）

第3回	家庭科教育の歴史的変遷１，運針（目標１，３）
第4回	家庭科教育の歴史的変遷２，運針（目標１，３）
第5回	小学校家庭科の目標と内容，運針（目標２，３）
第6回	家族・家庭分野について，運針（目標２，３）
第7回	食生活分野について１，運針（目標２，３）
第8回	食生活分野について２，運針（目標２，３）
第9回	衣生活分野について１，運針（目標２，３）
第10回	衣生活分野について２，運針（目標２，３）
第11回	住生活分野について，運針（目標２，３）
第12回	消費生活・環境分野について，運針（目標２，３）
第13回	指導計画・学習指導案・評価について，運針（目標２，３）
第14回	学習指導案の作成，運針（目標２，３）
第15回	総括，運針（目標１，２，３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　自身の小学校家庭科の経験を振り返ったうえで授業に臨むこと。 第２回～第14回（共通）　次回の講義内容について，関連書籍や資料を読むなど準備したうえで授業に臨むこと。
	復習	第１回～第15回（共通）　毎回の授業の要点をノートに整理すること。指示された課題については期限内に提出すること。
	展開	特に関心をもった授業内容について，関連書籍や研究論文を読み，知識理解と自身の考えを深めること。

成績評価	評価の基準	１．小学校家庭科の歴史的変遷が理解できたか。 ２．小学校家庭科の目標・内容について理解できたか。 ３．小学校家庭科の基礎的・基本的な知識・技術を習得したか。
	評価の方法	課題レポート（50%），毎回の小レポート（30%），平常点（20%）

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　家庭編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	95円（本体90円）
	ISBN・ISSN	978-4-491-02374-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	メールアドレス：a-baba@uekusa.ac.jp オフィスアワーは教員マイページで確認してください。

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET111
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1070001　火5
教室	講義室12,Eスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　1 徳育・教養
4 資質・能力

カリキュラムポリシー　4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード

体育科教育，学習指導要領，体育授業，学習指導案　模擬授業

学生の到達目標

1.学習指導要領における体育の位置づけ,目的,在り方を理解する。
2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解し、体育の授業を実践する。
3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解し、学年に応じた指導案を作成する。

授業内容

第1回　オリエンテーション(目標1,2,3)

第2回　体育科の目標・教科論(目標1,2,3)

第3回	体育科の授業方法論/体つくり運動(目標1,2,3)
第4回	体育科の領域構成と6年間の流れ/器械運動１(目標1,2,3)
第5回	体育科の学習内容論/器械運動2 (目標1,2,3)
第6回	体育科の指導計画/陸上運動(目標2,3)
第7回	体育科の学習方法・学習形態論/水泳(目標2,3)
第8回	体育科の教材論/ゲーム・走・跳の運動遊び・表現・リズム遊び(目標2,3)
第9回	体育科の教具論/ボール運動１・体つくり運動・器械・器具を使った運動遊び(目標2,3)
第10回	体育科の授業評価/保健領域・ボール運動２・表現運動(目標2,3)
第11回	学習指導案の作成(模擬授業準備)・学習指導計画(目標2,3)
第12回	模擬授業①(目標2,3)　ボール運動・器械運動
第13回	模擬授業②(目標2,3)体つくり運動・ゲーム
第14回	模擬授業③(目標2,3)表現・走・跳の運動
第15回	模擬授業の振り返り・学習のまとめ・より良い体育授業を生み出すには・総括(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	予め学習指導要領や学習内容に関する運動事例、展開例についての図書を読むことによって，毎時間予告される次週の授業で取り上げる内容についての知識を得るとともに、学習展開についての考えをまとめておく。 第１回　学習指導要領体育の目標を読んでおくこと。 第8-11回　その日の講義で取り扱われる運動領域について、まるわかりハンドブック、もしくは文部科学省指導資料集体育編から該当する運動領域の指導例を読んでおくこと。 第12-14回　模擬授業の指導案作成 第15回　今まで学習した内容について復習をしておく。
	復習	授業内容をノートにまとめるとともに、学習指導要領の例示や授業展開の資料を見直し，授業で取り上げた運動種目の指導方法についての理解を深め，知識の定着を図る。 第1-7回　授業の内容をまとめる。各回毎に出される課題をノート１ページ程度にまとめて翌週に提出する。 第8-11回　その日の講義で取り扱われた運動領域についての指導方法、指導上の留意点を１ページ程度にまとる。 第12-14回　模擬授業の考省察を１ページ程度にまとめる。 第15回　初等体育通論の振り返り。
	展開	体育科の目標や内容について、理論やビデオ視聴を基に、ディスカッションなどを取り入れて授業を進める。また、班ごとに指導案を作成し、模擬授業を行い、模擬授業について学生が相互に感想を述べ合うなど、アクティブラーニングを取り入れて授業を行う。

成績評価	評価の基準	1.学習指導要領における体育の位置づけ,目的,在り方の理解 2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解し、体育の授業を実践することができる。 3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解し、学年に応じた指導案を作成することができる。
	評価の方法	毎授業後の課題レポートや考察の内容40%，授業への積極的参加・授業態度（模擬授業での生徒役としての参加態度を含む）20%、授業内試験20%，模擬授業への取り組み20%

教科書

書籍名	文部科学省「小学校学習指導要領解説　体育編」
著者名	文部科学省編

	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	4491023751

推薦図書等	書籍名	小学校体育まるわかりハンドブック　低学年，中学年，高学年
	著者名	文部科学省
	出版社	株式会社アイフィス
	価格	各700円
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	文部科学省体育実技指導資料1-10
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版　他
	価格	1巻から10巻までまちまちです。
	ISBN・ISSN	－

参考URL	
備考	※推薦図書の「小学校体育まるわかりハンドブック」は文部科学省ホームページでも見られます。 ・模擬授業を行う際は，体育実技のできる用意をしてください。 その際，ピアスやイヤリング等は外す等，小学校の体育教師として，ふさわしい服装で臨んでください。 ・講義だけでなく授業の実践能力の向上を目指しているため，模擬授業等の演習も含まれています。

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET111
開講年度	2016年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	上條　眞紀夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1070002　後期　火5
教室	講義室14,体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード

体育科教育，学習指導要領，体育授業，学習指導案

授業のねらい・概要

小学校体育の原理および指導方法論を概説し，体育科教育に関する基礎・基本を理解・習得することを目的とする。小学校における体育の目的，学習環境，学習過程の考え方や学習計画，学習評価の方法についても解説する。

学生の達成目標

1.小学校における体育の位置づけ,目的,在り方を理解すること。
2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解すること。
3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解すること。

授業内容

第1回	オリエンテーション(目標1,2,3)
第2回	体育科の目標・教科論(目標1,2,3)
第3回	体育科の授業方法論/体つくり運動(目標1,2,3)

第4回	体育科の領域構成と6年間の流れ/器械運動１(目標1,2,3)
第5回	体育科の学習内容論/器械運動２ (目標1,2,3)
第6回	体育科の指導計画/陸上運動(目標2,3)
第7回	体育科の学習方法・学習形態論/水泳(目標2,3)
第8回	体育科の教材論/ゲーム・走・跳の運動遊び・表現・リズム遊び(目標2,3)
第9回	体育科の教具論/ボール運動１・体つくり運動・器械・器具を使った運動遊び(目標2,3)
第10回	体育科の授業評価/保健領域・ボール運動２・表現運動(目標2,3)
第11回	学習指導案の作成(模擬授業準備)・学習指導計画(目標2,3)
第12回	模擬授業①(目標2,3)　ボール運動・器械運動
第13回	模擬授業②(目標2,3)　体つくり運動・ゲーム
第14回	模擬授業③(目標2,3)　表現・走・跳の運動
第15回	模擬授業の振り返り・学習のまとめ・授業内試験・より良い体育授業を生み出すには・総括(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	予め学習指導要領や学習内容に関する運動事例、展開例についての図書を読むことによって，毎時間予告される次週の授業で取り上げる内容についての知識を得るとともに、学習展開についての考えをまとめておく。 第１回　学習指導要領体育の目標を読んでおくこと。 第8-11回　その日の講義で取り扱われる運動領域について、まるわかりハンドブック、もしくは文部科学省指導資料集体育編から該当する運動領域の指導例を読んでおくこと。 第12-14回　模擬授業の指導案作成 第15回　今まで学習した内容について復習をしておく。
復習	授業内容をノートにまとめるとともに、学習指導要領の例示や授業展開の資料を見直し，授業で取り上げた運動種目の指導方法についての理解を深め，知識の定着を図る。 第1-7回　授業の内容をまとめる。各回毎に出される課題をノート１ページ程度にまとめて翌週に提出する。 第8-11回　その日の講義で取り扱われた運動領域についての指導方法、指導上の留意点を１ページ程度にまとる。 第12-14回　模擬授業の考省察を１ページ程度にまとめる。 第15回　初等体育通論の振り返り
展開	体育科の目標や内容について、理論やビデオ視聴を基に、ディスカッションなどを取り入れて授業を進める。また、班ごとに指導案を作成し、模擬授業を行い、模擬授業について学生が相互に感想を述べ合うなど、アクティブラーニングを取り入れて授業を行う。

成績評価

評価の基準	1.学習指導要領における体育の位置づけ,目的,在り方の理解 2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解し、体育の授業を実践することができる。 3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解し、学年に応じた指導案を作成することができる。
評価の方法	毎授業後の課題レポートや考察の内容40%，授業への積極的参加・授業態度（模擬授業での生徒役としての参加態度を含む）20%、授業内試験20%，模擬授業への取り組み20%

教科書

書籍名	文部科学省「小学校学習指導要領解説　体育編」
著者名	文部科学省編
出版社	東洋館出版社
価格	127円
ISBN・ISSN	4491023751

書籍名	文部科学省体育実技指導資料1－10
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社　他
価格	1巻から10巻までまちまちです。
ISBN・ISSN	－

参考URL

※推薦図書の「小学校体育まるわかりハンドブック」は文部科学省ホームページでも見られます。

備考

・模擬授業を行う際は，体育実技のできる用意をしてください。
その際，ピアスやイヤリング等は外す等，小学校の体育教師として，ふさわしい服装で臨んでください。
・講義だけでなく授業の実践能力の向上を目指しているため，模擬授業等の演習も含まれています。

初等英語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET112
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等英語教育通論
科目責任者	勝山　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1071001　木1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード

児童英語，英語教育，子供英語指導法，英語活動，小学校英語

学生の到達目標

1.児童英語の基本的指導力の習得
2.児童英語のためのレッスンプランの作成の基礎習得
3.児童英語指導に必要な基本英語表現の習得

授業内容

第1回	授業の進め方,外国語活動の目標と内容, 英語活動の例(name plate 作成等)(目標1)
第2回	言語習得時の脳の働き, 英語で自己紹介活動, Classroom English 1,(目標1,3)

第3回	耳の能力と児童の語学習得の関係, Classroom Management 1, Hi,friends 1(目標1,3)
第4回	Classroom Management 2, Hi,friends 2(目標2)
第5回	Classroom Management 3, Hi,friends 3, 課題1提出(目標1,3)
第6回	モデル授業考察, Classroom English 2, (目標1,3)
第7回	実践学習計画、Classroom Management 4 (目標1,3)
第8回	実践学習計画、Classroom English 3, Hi, friends 4(目標1,2,3)
第9回	Classroom Management 5, Classroom English 4, 課題2提出(目標1,3)
第10回	世界の英語教育(マレーシア・中国・韓国・台湾・シンガポール・フィリピン), Classroom Management 6, (目標1,3)
第11回	世界の英語教育(アメリカ・インドネシア・タイ・インド・チェコ・クロアチア),Classroom Management 7, (目標1,3)
第12回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
第13回	実践学習(英語のみでの模擬指導), 課題3提出(目標1,2)
第14回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
第15回	Test, レッスンプラン提出(目標1,2)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）Classroom Management How toのP.26まで意味が理解できるように予習をしてくる。 第２回～１４回（共通）Classroom Management English Expressionを読んでくる。 第６回～１２回（共通）模擬指導のレッスンプランを考える。
	復習	第１回～１５回（共通）Classroom Management How toの音読をし，理解を深める。Classroom English Expressionの練習をし，自分で使用できるようにする。 第１２回～１４回（共通）模擬指導のレッスンプラン内容を再考し，レッスンプランを改善する。
	展開	実践したレッスンプランを発達させたレッスンプランを作成し、実施する。

成績評価	評価の基準	１．児童英語指導の基礎的な内容が理解できていること。 ２．英語を指導する上で必要なカリキュラム開発，レッスンプラン作成，教材選択及び作成の基礎知識を習得していること。 ３．指導に必要な英語力の向上に努めていること。基本的なレッスンを行えること。
	評価の方法	１．授業への態度30% ２．レッスンプラン5%，レッスンプレゼンテーション20% ３．課題25%，テスト20%

教科書

書籍名	Classroom Management How to:
著者名	Jim Burke
出版社	Scholastic
価格	U.S. $12.99
ISBN・ISSN	ISBN-13:978-0-439-93446-6
書籍名	Hi, friends! 1
著者名	

	出版社	文部科学省
	価格	95円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-487-25883-3 C3037
推薦図書等	書籍名	英語で遊ぶ２５のゲームと１５のダイアローグ集
	著者名	太田 雅一/ペレティ，クローディア・O
	出版社	桐原書店
	価格	2,160円（税込）
	ISBN・ISSN	9784342545085
参考URL	http://azaleaenglish.com/	
備考	連絡先　sakura(@)azaleaenglish.com, (@) は@の置き換えて送信。英語力を高める努力を日頃から実践していることが望ましい。	

初等英語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET112
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等英語教育通論
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1071002　月5
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　外国語活動，小学校英語，第二言語習得，初等外国語教育，英語教育

学生の到達目標

1.外国語活動の目標や意義等について理解する
2.第二言語習得と基本的な教授法について理解する
3.授業計画を立てて実際に展開できる技能を養成する

授業内容

第1回	外国語教育の意義　（目標1）
第2回	外国語活動導入の経緯等　（目標1）
第3回	小学校外国語活動の目標　（目標1）

	第4回	小学校外国語活動の役割　（目標1）
	第5回	海外の初等外国語教育　（目標1）
	第6回	母語の習得と第二言語習得　（目標2）
	第7回	関連領域からの示唆　（目標2）
	第8回	外国語教授法　（目標2）
	第9回	国際理解教育と英語教育　（目標2）
	第10回	評価　（目標2）
	第11回	特別支援教育における外国語活動　（目標3）
	第12回	クラスルームイングリッシュの活用　（目標3）
	第13回	ICTの活用　（目標3）
	第14回	授業計画の立案　（目標3）
	第15回	模擬授業の実践　（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回の各々で，テキストの該当部分をよく読んで理解し，疑問点を明らかにする。
	復習	第1回～第15回の各々で，授業で学んだことを活用するためには，どのようにしたらよいかを考える。
	展開	効果的な授業計画の立案と実践に向けて，望ましい技能を養う。
成績評価	評価の基準	1.外国語活動の目標や意義等について理解できたか，2.第二言語習得と基本的な教授法について理解できたか，3.授業計画を立てて実際に展開できる技能を身につけられたかについて，それぞれ到達度を見て，総合的に評価する。
	評価の方法	第1回～第15回の各々について，授業に参加する態度（10%），質疑応答（10%），課題の提出（20%），授業計画の立案（20%），模擬授業（20%），テスト（20%）
教科書	書籍名	小学校外国語活動の進め方
	著者名	岡秀夫・金森強
	出版社	成美堂
	価格	2,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7919-7154-1
	書籍名	Hi, Friends! 1
	著者名	文部科学省
	出版社	東京書籍株式会社
	価格	95円
	ISBN・ISSN	978-4-487-25883-3 C3037
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET205
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育課程論
科目責任者	村瀬　光生
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1072001　火1
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 6-2 教育の基礎的理解（幼保）
授業のキーワード	学習指導要領，教育課程の歩み，教育課程の編成	
学生の到達目標	１．教育課程の意味や歴史的な変遷が理解できる。 ２．学習指導要領の意義及び内容が理解できる。 ３．教育課程の編成の手続き及び今日的教育課題と教育改革について理解できる。	
授業内容	第1回	教育課程の意義と講義ガイダンス　（目標1）
	第2回	教育課程と学習指導要領（目標1） （文部科学省による教育課程の基準策定）

第3回	学習指導要領の法的性格と変遷（目標2） （学習指導要領改訂の変遷）
第4回	我が国の教育改革と教育課程（目標3） （中央教育審議会等の審議の動向）
第5回	我が国の教育課程の歩み　①（目標1） （近代・現代の教育課程の変遷）
第6回	我が国の教育課程の歩み　②（目標1） （近代・現代の教育課程の変遷）
第7回	国の教育研究開発と教育課程（目標3） （研究開発学校の研究実践と課題）
第8回	教育課程と教科書制度（目標3） （教科書の使用義務と教科書採択制度）
第9回	教育課程編成と教育行政（目標3） （教育委員会の指導助言）
第10回	教育課程の経営と評価（目標1） （学校経営とカリキュラムマネージメント）
第11回	幼児教育課程の編成の実際と課題（目標3） （健やかな成長を促す教育課程ー幼小の連携・一貫性）
第12回	小学校教育課程の編成の実際と課題（目標3） （アクティブラーニングを推進する教育課程）
第13回	中学校教育課程編成の実際と課題　（目標3） （人間としての在り方生き方教育を推進する教育課程）
第14回	今日の教育課程の課題（目標3） （次期学習指導要領の告示を踏まえて）
第15回	教育課程の展望（目標3） （講義のまとめ）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　テキストp2～ｐ9を読むなど，教育課程の意義について調べておくこと。 第2回、3回　テキストp10～p20を読むなど，学習指導要領の概要について調べておくこと。 第4回～6回　テキストp41～p67を読むなど，歴史的変遷について調べておくこと。 第7回　文部科学省のサイト等を参照し，研究開発学校制度について調べておくこと。 第8回　テキストp78～p85を読むなど，教科書制度について調べておくこと。 第9回　テキストp21～p30を読むなど，教育課程行政のあらましについて調べておくこと。 第10回　テキストp151～p161を読むなど，教育評価について調べておくこと。 第11回　幼稚園教育要領の今次改訂について，調べておくこと。 第12回　今次の小学校学習指導要領の改訂について調べておくこと。 第13回　今次の中学校学習指導要領の改訂について調べておくこと。 第14回、15回　次期学習指導要領について，中央教育審議会教育課程部会の答申を読み，主な改訂点について調べておくこと。 毎回の講義前の予習については，講義内容に即して，テキストを読み要旨をメモするなど予習をして授業に臨むこと。また，教育に関する諸問題について，特に教育課程に関することがらに日頃から関心を寄せ，最新の情報を整理しておくこと。
	復習	毎回の講義の際，配付した資料及び講義内容を整理する。また，講義内容から気づいた疑問等について，詳細に調べておく。 第1回　教育課程の意義について把握し，その他の文献についても調べてみること。 第2回～7回　講義内容を整理するとともに，特に，学習指導要領の内容について，理解を深める。 第8回　教科書制度に関する法制度を調べ，教科書使用義務や無償

		給与制度等について理解する。 第9回　教育委員会の指導助言の実際について調べておく。（千葉県学校教育指導の指針参照） 第10回　カリキュラムマネージメントの在り方について理解を深める。 第11回～15回　婚儀内容や授業内での討議内容等を踏まえ，次期学習指導要領の告示内容を更に詳細に調べ，今次改訂の改善点について理解を深める。
	展開	教育課程に関する理解を深めるとともに，自ら学校教育の課題について関心を寄せ，グループで協働し発表することをとおして，全体の理解を深める。今年度は，次期学習指導要領が告示されたところであり，改訂の趣旨の理解に努めるとともに，教育課程の改善点について，相互に議論し，教員採用選考や就職し学校教育で活かされるようにする。
成績評価	評価の基準	１．教育課程の意味や歴史的な変遷が理解できたか。 ２．学習指導要領の意義及び内容が理解できたか。 ３．教育課程の編成の手続き及び今日的教育課題について理解できたか。
	評価の方法	教育課程の意味とその果たす役割が理解できているか。また，学習指導要領の目標・内容が理解できているか。さらに，次期学習指導要領の改訂について理解できているか。＜評価方法＞講座授業への取り組み（２０%）レポート（２０%）筆記試験（６０%）
教科書	書籍名	教育内容・方法
	著者名	根津　朋実 編著／吉江　森男 編著
	出版社	培風館
	価格	税込2,052円
	ISBN・ISSN	978-4-563-05853-1
推薦図書等	書籍名	教育の基礎と展開
	著者名	高野　良子 編著／武内　清 編著
	出版社	学文社
	価格	税込2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2624-9
参考URL		
備考		

国語科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET206
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	国語科指導法
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1073001　後期　月1 A1073002　後期　月2
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法
授業のキーワード	授業方法論，指導法，言語活動の充実，学ぶ意欲	
学生の到達目標	１．初等国語教育の目標や意義を正しく理解し,指導に必要な知識と技術を身につけることができる。（目標１） ２．国語科の教科書教材について,その分野や,内容の大体を理解できる。（目標２） ３．学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解できる。（目標３）	

授業内容	第1回	受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価について(目標３)
	第2回	小学校学習指導要領解説国語編の概要,学習指導案作成の基本（目標１）
	第3回	国語科授業の基礎基本，国語科教材研究について、模擬授業実施上の留意点（目標１，２）
	第4回	「文章読解」指導の模擬授業計画Ⅰ・教材の見方（目標３）
	第5回	「文章読解」指導の模擬授業計画Ⅱ・指導計画の立案の仕方（目標３）
	第6回	「文章読解」指導模擬授業（目標３）
	第7回	「作文」指導の実際（目標２）
	第8回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の実際（目標２）
	第9回	「言語活動の充実」を意識した授業の概要を知る。（目標１，２）
	第10回	「言語活動の充実」を意識した授業の指導計画作りと構想（目標１，２）
	第11回	「言語活動の充実」を意識した授業の模擬授業の実施（目標３）
	第12回	児童の学ぶ意欲を大切にした国語科授業の実際（目標２，３）
	第13回	国語科ワークショップ授業の実際（目標１，２）
	第14回	漢字・ノート指導，板書の構成、ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
	第15回	授業全体のリフレクション。相互評価（目標１，２，３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2回：小学校学習指導要領解説国語編を読んでくる。 第3回：国語科の学習指導案をネット等で検索し入手し読んでくる。 第4回：物語文の読解に関する授業計画（本時の指導）を考える。 第5回：説明的文章の読解に関する授業計画（本時の指導）を考える。 第6回：読解指導の模擬授業の準備をする。 第7回：作文指導についての授業計画（本時の指導）を考える。 第8回：伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項についての授業計画（本時の指導）を考える。 第9回：言語活動の充実を意識した授業の概要について調べてくる。 第10回：言語活動の充実を意識した授業計画（本時の指導）を考える。 第11回：言語活動の充実を意識した模擬授業の計画を準備する。 第12回：児童の学ぶ意欲を大切にした授業について調べてくる。 第13回：ワークショップ型の授業について調べてくる。 第14回：ノート指導や板書計画等について調べてくる。 第15回：授業全体を振り返る。
	復習	第2回：小学校学習指導要領解説国語編についてまとめる。 第3回：学習指導案の書き方についてまとめる。 第4回：物語文読解指導学習指導案の形態についてまとめる。 第5回：説明的文章読解指導学習指導案の形態についてまとめる。 第6回：模擬授業の振り返りをする。 第7回：作文指導についてまとめる。 第8回：伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項についてまとめる。 第9回：言語活動の充実に関しての授業についてまとめる。 第10回：言語活動の充実に関する実践記録をまとめる。 第11回：模擬授業の振り返りをする。 第12回：学ぶ意欲を大切にした授業とは何かをまとめる。

第13回：ワークショップ型の授業についてまとめる。
第14回：ノート指導や板書指導についてまとめる。
第15回：授業全体から、現場に出た際に役立つことについてまとめる。

展開

第2回：小学校学習指導要領解説国語編について理解を深める。
第3回：国語科の学習指導案について必要な項目について理解する。
第4回：物語文の読解に関する授業構成構成について理解を深める。
第5回：説明的文章の読解に関する授業構成について理解を深める。
第6回：読解指導の模擬授業を行い、授業のポイントを学ぶ。
第7回：作文指導についての授業構成について理解を深める。
第8回：伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項についての授業構成の理解を深める。
第9回：言語活動の充実を図るために授業構成について理解を深める。
第10回：言語活動の充実を意識した授業の概要について理解を深める。
第11回：言語活動の充実を意識した授業を行い、授業のポイントを学ぶ。
第12回：児童の学ぶ意欲を大切にした授業についてのポイントを学ぶ。
第13回：ワークショップ型の授業について、概要を知る。
第14回：ノート指導や板書計画等について、概要を知る。
第15回：授業全体を振り返り、国語科授業作りのポイントを考える。

成績評価

評価の基準

１，国語科教育の目標や意義について理解し、指導に必要な知識と技術を身につけることができたか。
２，国語科の教科書の内容と構成等について、内容のだいたいを把握することができたか。
３，学ぶ意欲を向上させるための、理論や方法について理解することができたか。

評価の方法

グループ活動への参加態度２０％，指導案等の作成２０％，ポートフォリオ３０％，レポート３０％

教科書

書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社
価格	定価125円 （本体価格116円）
ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7

推薦図書等

参考URL

備考

○この科目を履修するためには、国語教育（言語教育）の基礎を学ぶ姿勢が必要である。
○グループ学習やディスカッションを多用し、幅広い知識を獲得できるようにする。
○連絡が必要な場合は、研究室6まで来室すること。

社会科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET207
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	社会科指導法
科目責任者	大久保　良孝
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1074001　後期　金2 A1074002　後期　金3
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	小学校社会科教育目標，小学校社会科指導案の書き方，小学校社会科授業
学生の到達目標	１．小学校社会科教育の目標や内容が理解できるようになる。 ２．小学校社会科教育教材研究について関心と意欲を持つことができるようになる。 ３．小学校社会科教育学習指導案の書き方について理解と指導案を書くことができるようになる。

授業内容	第1回	小学校社会科教育のねらい(問題解決的能力の育成)について(目標1)
	第2回	小学校学習指導要領と小学校社会科教育の目標について(目標1)
	第3回	各学年の社会科の目標と内容について(3・4学年)(目標1,2)
	第4回	各学年の社会科の目標と内容について(5・6学年)(目標1,2)
	第5回	小学校社会科学習指導案の構成(例-問題解決的学習)について(目標1,2)
	第6回	小学校社会科学習の教材研究について(内容・活動・学習過程等と評価規準)(目標2)
	第7回	小学校社会科学習指導案について(目標・内容・実態調査等の検討)(目標2,3)
	第8回	小学校社会科学習指導案について(学習方法と評価等の検討)(目標2,3)
	第9回	各自又はグループで学習指導案構想について(教材・単元・学年等の設定)(目標2,3)
	第10回	各自又はグループで素材や資料の収集(単元項目確認・目標の設定等)(目標1,2)
	第11回	各自で学習指導案づくり(実態調査項目検討・指導計画設定等)(目標3)
	第12回	グループ内で学習指導案の報告と補説(班で各自の指導案の発表会)(目標2,3)
	第13回	各自の小学校社会科学習指導案の修正(修正した指導案の提出)(目標3)
	第14回	小学校社会科学習指導案の書き方について(指導案作りの苦労と解説等)(目標3)
	第15回	小学校社会科学習指導についてまとめる(社会科学習のねらい)(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第１５回：小学校学習指導要領解説社会編を読み、その内容に関心を持つこと。 第１回～第１５回：新聞・テレビ等で社会事象の情報に、積極的に関心を持ち、必要と思った内容は、切り抜いたり、メモを取ったりするようにしたい。（情報収集） ・日頃から教科書に関心を持ち、特に指導案作成時には、小学校学習指導要領解説社会編とともに、作成単元について熟読すること。 ・シラバスを基に、次の講話の内容を調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回：毎回の授業の要旨をまとめたり、感想を書いたりしておくこと。 第１回～第１５回のうち数回：指定されたレポートの課題を期限までに提出すること
	展開	新聞やテレビの情報を毎回発表させて、社会事象に関心を持たせる。社会科検定(自作）を実施する。
成績評価	評価の基準	１．小学校社会科学習の目標や内容、教材研究の必要性が理解できること。 ２．社会科学習指導案づくりに意欲・関心を持つことができること。 ３．主体的・対話的な社会科学習指導案づくりを行い、意欲的に発表できること。
	評価の方法	レポート70%，指導案づくり20%，授業中の発表内容と態度10%

教科書

推薦図書等	書籍名	必備！社会科の定番授業　小学校3年
	著者名	都留　覚 編著
	出版社	学事出版
	価格	税込1,944円
	ISBN・ISSN	978-4-7619-1723-4
	書籍名	必備！社会科の定番授業　小学校4年
	著者名	梅澤　真一 編著
	出版社	学事出版
	価格	税込1,944円
	ISBN・ISSN	978-4-7619-1724-1
	書籍名	必備！社会科の定番授業　小学校5年
	著者名	長谷川　康男 編著
	出版社	学事出版
	価格	税込1,944円
	ISBN・ISSN	978-4-7619-1725-8
	書籍名	必備！社会科の定番授業　小学校6年
	著者名	臼井　忠雄 編著
	出版社	学事出版
	価格	税込1,944円
	ISBN・ISSN	978-4-7619-1726-5
	書籍名	学習シートで創る社会科の授業と評価　3・4年
	著者名	松田　博康 編著
	出版社	日本標準
	価格	税込　2,057円
	ISBN・ISSN	978-4-8208-0059-0

参考URL

備考

・必要な資料等を授業中に配付する。
・小学校学習指導要領解説社会編を各自用意する。
・現行の小学校の社会科教科書の内容及び地図帳を、講義前に目を通しておくと、講義もスムーズになる。（本学の大学図書室に備えてある。）
・授業の進め方
①社会科検定の実施（全員）
②新聞記事からの発表（２人）
③指導案づくりはグループ学習で行うのが基本でその後個人
④作成した指導案で発表会を行う
【推薦ＤＶＤ】＊本学の図書室に所蔵
１　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフト；小学校社会　国土の地形の特色と人々のくらし」制作：東京書籍政策著作　岡本文博（ほか）制作協力　出版社：東京書籍　２　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフ

ト；小学校社会　わたしたちの生活と食糧生産」制作：東京書籍政策著作　五日町観光協会（ほか）制作協力　出版社：東京書籍
３　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフト；小学校社会　武士の世の中へ」制作：東京書籍政策著作　厳島神社（ほか）制作協力　出版社：東京書籍
４　「ＮＥＷ　ＶＳ　東書ニュービデオソフト；小学校社会　長く続いた戦争と人々のくらし/新しい日本、平和な日本」制作：東京書籍政策著作　イメージユニオン（ほか）制作協力　出版社：東京書籍

算数科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET208
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	算数科指導法
科目責任者	京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1075001　前期　金3 A1075002　前期　金4
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　算数科の特質　教材研究　指導方法

学生の到達目標

1　算数科指導の目的、目標がわかる。
2　数と計算，量と測定等の内容に応じた指導方法が身に付く。
3　算数科教材研究の進め方が分かる。

授業内容

第1回	講義のガイダンス　算数の授業で目指すこと（目標１）
第2回	算数教育の目的、目標と算数の授業（目標１）

	第3回	算数の内容の捉え方と算数教材研究の進め方・指導案立案までの手順（目標３）
	第4回	算数科教材研究の進め方～整数の意味とその指導を例に～（目標３）
	第5回	導入段階の指導（１）整数の加法・減法の計算の意味と計算の仕方に関して（目標２）
	第6回	導入段階の指導（２）整数の乗法・除法の計算の意味と計算の仕方に関して（目標２）
	第7回	比較段階の指導　小数・分数の加法・減法の計算の意味と計算の仕方に関して（目標２）
	第8回	自力解決の段階の指導：小数・分数の乗法・除法の計算の仕方に関して（目標２）
	第9回	まとめの段階の指導：量と測定の意味に関して（目標２）
	第10回	個人差に応じた指導：量と測定の意味に関して（目標２）
	第11回	知識・理解の力を高める指導：図形平面の概念形成に関して（目標２）
	第12回	技能・表現力を高める指導：立体図形の構成、表現に関して（目標２）
	第13回	数学的な考え方を養う指導：関数・統計・式表示に関して（目標２）
	第14回	評価の方法と生かし方：関数・統計・式表示に関して（目標２）
	第15回	算数の授業の構成の仕方・指導案の立案（目標３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～１５回（共通）各授業の最後に、次回の内容を予告するので、「学習指導要領解説算数編」の関連個所を精読し、準備してから授業に臨むようにしよう。 特に、第５回から第14回については、教科書の関連内容を確認しておきましょう。
	復習	第１回～１５回（共通）返却された提出物について、授業で配布された資料、自分で書いたメモ等を参考にして、丁寧に見直しておこう。授業の内容のキーワードにあたることを、「学習指導要領解説算数編」の関連する内容で確認しておこう。
	展開	自分が授業を実践するために必要な知識・技能を身に付けるため、算数教育に関する基本的な指導方法に関する情報を収集しておこう。国立教育政策研究所から出されている学力調査問題を教材にした授業例に関する資料を熟読しておこう。
成績評価	評価の基準	１．算数の目標および史的変遷の要点について理解していること。 ２．数と計算、量と測定、図形、数量関係についての基本的な仕組みについて知り、これを適用できること。 ３．進んで問題に取り組み、話し合いにも参加していることなどを合格基準とする。
	評価の方法	振り返りシートへの記述の状況（２０%）レポート（２０%）期末の筆記試験（６０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説　算数編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版

価格	238円＋税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-491-02373-1

参考URL

備考

理科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET209
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科指導法
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1076001　前期　木3 A1076002　前期　木4
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-4 小学校教育実践等

授業のキーワード	実験・観察，科学的リテラシー，理科好き，４QS
学生の到達目標	1.実験観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的実験・観察技術を習得する。 2.子供が主体的・能動的に参加するための理科授業実践上の工夫を行うことができるようになる。 3.理科授業を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を獲得する。

授業内容	第1回	安全な実験観察の方法（目標1,2,3）
	第2回	身の回りの自然環境について(1) 植物（目標1,2,3）
	第3回	身の回りの自然環境について(2) 動物（目標1,2,3）
	第4回	物理領域の学習内容（振り子）における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第5回	４ＱＳの説明(目標1,2,3)
	第6回	４ＱＳを使っての実験計画の立て方・考え方の理解(目標1,2,3)
	第7回	理科における学習指導案の書き方（目標1,2,3）
	第8回	生物領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第9回	化学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第10回	地学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第11回	模擬授業(1) 物理分野・てこ等(目標1,2,3)
	第12回	模擬授業(2) 化学分野・ものの溶け方等(目標1,2,3)
	第13回	模擬授業(3) 生物分野・筋肉のつき方等(目標1,2,3)
	第14回	模擬授業(4) 地学分野・太陽の動き等(目標1,2,3)
	第15回	模擬授業のまとめ (目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について調べておくこと 第2回　「身の回りの自然環境について・植物」について調べておくこと 第3回　「身の回りの自然環境について・動物」について調べておくこと 第4回　「物理領域の学習内容（振り子）における実験観察の基本的な技術」について調べておくこと 第5回　４Qsについて調べておくこと 第6回　４ＱＳを使っての実験計画の立て方・考え方について調べておくこと 第7回　理科における学習指導案の書き方調べておくこと 第8回　生物領域の学習内容における実験観察について調べておくこと 第9回　化学領域の学習内容における実験観察について調べておくこと 第10回　地学領域の学習内容における実験観察について調べておくこと 第11回　「てこ」の学習内容について調べておくこと 第12回　「ものの溶け方」の学習内容について調べておくこと 第13回　「筋肉」の学習内容について調べておくこと 第14回　「月と太陽の動き」の学習内容調べておくこと 第15回 第1回～第14回のポイントについて確認しておくこと
	復習	第1回　安全な実験観察の方法についてまとめておくこと 第2回　「身の回りの自然環境について・植物」についてについてまとめておくこと 第3回　「身の回りの自然環境について・動物」についてについてまとめておくこと 第4回　「物理領域の学習内容（振り子）における実験観察の基本的な技術」についてについてまとめておくこと 第5回　４Qsについてについてまとめておくこと 第6回　４ＱＳを使っての実験計画の立て方・考え方についてについてまとめておくこと 第7回　理科における学習指導案の書き方についてについてまとめ

ておくこと
第8回　生物領域の学習内容における実験観察についてについてまとめておくこと
第9回　化学領域の学習内容における実験観察についてについてまとめておくこと
第10回　地学領域の学習内容における実験観察についてについてまとめておくこと
第11回　「てこ」の学習内容についてについてまとめておくこと
第12回　「ものの溶け方」の学習内容についてについてまとめておくこと
第13回　「筋肉」の学習内容についてについてまとめておくこと
第14回　「月と太陽の動き」の学習内容についてについてまとめておくこと
第15回 第1回～第14回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと

展開　実験観察の基本的な技術や指導法、及び教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着けることで、現場に出たときに実験観察行う際の精神的なハードルを下げる。

成績評価

評価の基準　1.実験観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的実験・観察技術を習得すること。
2.子供が主体的・能動的に参加するための理科授業実践上の工夫を行うことができること。
3.理科授業を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を獲得すること。

評価の方法　模擬授業及び学生からの授業の評価・４QS・実験に関するレポート等の内容及び提出状況90%，授業への取り組む姿勢10%を総合的に判断する。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
著者名	文部科学省
出版社	大日本図書
価格	６５円
ISBN・ISSN	ISDN978-4-477-01949-9

推薦図書等

書籍名	たのしい理科３年～6年
著者名	有馬朗人　他
出版社	大日本図書
価格	
ISBN・ISSN	978-4-477-02067-9　他

参考URL

備考

子供たちは実験・観察が好きである。身体を動かしながら学習を進めることで，学習内容の定着や深い理解に効果的であるだけでなく，教員にとっては子供の人間性や特性の理解に役立つと考えられる。しかし，経験が少なく，自信が持てない教員は，実験・観察の実施に二の足を踏んでしまっている。そこで，様々な実験・観察を教員としての視点から経験し，イメージ作りに役立てる。
授業は講義・グループ学習・実習参加型など様々な形態をとる。
収容可能人数40人
連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

生活科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET210
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	生活科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1077001　前期　火2 A1077002　前期　火4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	生活に関する課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
学生の到達目標	1.生活科教育が目指すものを理解し、課題を主体的に追究することができる。 2.生活科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 3.1～2をふまえて、授業を設計・提案し評価することができる。

授業内容

第1回	授業内容についてのオリエンテーション
第2回	現代の生活認識と課題の概要(目標1)
第3回	新しい教育課程における生活科教育の目標・内容(目標1)

第4回	「自分や人や社会との関わり」に関する内容(目標1,2)
第5回	「自分と自然とのかかわり」に関する内容(目標1,2)
第6回	「自分自身」に関する内容(目標1,2)
第7回	人間関係及び公共マナーのスキル(目標1,2)
第8回	資源・環境に関わるリサイクル・リメイクのスキル(目標1,2)
第9回	地域の伝統的食文化の実習(目標1,2)
第10回	生活科授業の設計(目標2,3)
第11回	マイクロティーチング ①(目標3)
第12回	マイクロティーチング ②(目標3)
第13回	マイクロティーチング ③(目標3)
第14回	マイクロティーチング ④(目標3)
第15回	生活科指導における全体のまとめ(目標1～3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～１５回（共通） ・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。 ・事前に出された課題について調べ、当日発表できるようにしておくこと。
	復習	第１回～１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・予習，復習の記録は適時提出する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関する先端的研究や発展的資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.生活科の本質論・内容論の理解度。課題追究力の定着度。 2.生活科の授業のための基礎的・基本的な知識・技術の理解度・定着度。 3.「生活科」の指導ができる能力が養われていること。
	評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。小レポート（ 20%），実習作品（ 15%），研究成果発表（ 20%），学期末試験（ 35%），平常点（ 10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	小学校学習指導要領　生活編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	101円
	ISBN・ISSN	978-4-536-59002-0

推薦図書等

参考URL

備考

音楽科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET211
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	音楽科指導法
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1078001　後期　金4 A1078002　後期　金5
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法
授業のキーワード	小学校，音楽科，指導法	
学生の到達目標	１．学習指導要領に示される音楽科の目標・内容を学び、授業を構成するための教材に対する理解を深める。 ２．児童の前で自信をもって音楽表現できる。 ３．自分なりの構想をもち学習指導案を作成できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	学習指導要領に示される音楽科の目標と指導内容について(目標1)

第3回	歌唱指導(1) 読譜,階名唱,発声等について(目標１)
第4回	歌唱指導(2) 低・中学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ①(目標１)
第5回	歌唱指導(3) 高学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ②(目標１)
第6回	歌唱共通教材による弾き歌いの発表(目標２) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入して返却する。
第7回	器楽指導(1) 打楽器の奏法,リズム遊びとその指導法(目標１)
第8回	器楽指導(2) 鍵盤楽器、リコーダーの奏法とその指導法(目標１)
第9回	器楽アンサンブルの発表（目標２） 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入して返却する。
第10回	音楽づくり、鑑賞の教材研究とその指導法(目標１)
第11回	年間指導計画、学習指導案、評価について（目標１，３）
第12回	模擬授業（1）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。(目標２，３) 学生による相互評価の結果と教員によるコメントカードによりフィードバックを行う。
第13回	模擬授業（2）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。（目標２，３） 学生による相互評価の結果と教員によるコメントカードによりフィードバックを行う。
第14回	模擬授業（3）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。（目標２，３） 学生による相互評価の結果と教員によるコメントカードによりフィードバックを行う。
第15回	模擬授業と作成した学習指導案の検討(目標1,3) 提出された指導案にコメントを加筆して返却する。

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第3回～第5回　共通教材の弾き歌いの発表に向けて練習に取り組む。 第7回・第8回　器楽アンサンブルの発表に向けて練習に取り組む。 第10回・第11回　模擬授業に向けて、教材研究と指導案の作成に取り組み、グループで協力して予行等を行う。 第12回～第15回　指導案作成のための基礎知識を確実にするため、教科書に掲載された指導案の書写に取り組む。（チェック後、授業時に返却）
	復習	・毎授業時に扱った教材曲を自信を持って演奏できるように練習する。 第12回～第14回　自分及び他者の行った模擬授業を振り返り、課題を把握し、自分なりの考察を加え、課題解決に向けてまとめをする。
	展開	・音楽科の授業に関わる雑誌・書籍等に親しみ学習成果を深める。

成績評価	評価の基準	１．指導内容・教材に対する理解を深め、発表・模擬授業等で成果を活用できるか。 ２．発表曲を人前で自信をもって音楽表現できるか。 ３．自分なりの授業の構想をもち，学習指導案を作成できるか。
	評価の方法	共通教材の弾き歌い（20%）器楽アンサンブル発表（ 20%）模擬授業（25%）作成した学習指導案（ 25%）授業への取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	『教員養成課程　小学校音楽科教育法』
著者名	有本真紀・阪井恵・山下薫子編著
出版社	教育芸術社
価格	1 ,600円＋税
ISBN・ISSN	4877884918

書籍名	『小学生の音楽』1，2，3，4，5，6
著者名	小原光一　他
出版社	教育芸術社
価格	官報による
ISBN・ISSN	978-4-87788-409-3 他

書籍名	『歌はともだち』（歌集）
著者名	教芸音楽研究グループ
出版社	教育芸術社
価格	380円
ISBN・ISSN	－

書籍名	『子どものためのリコーダー曲集　笛星人』
著者名	北村俊彦
出版社	トヤマ（アウロス）出版
価格	368円
ISBN・ISSN	4887801042

推薦図書等

参考URL

備考

小学校免許取得のための必修授業です。
小学校等で使用したソプラノ・リコーダーを用意して下さい。
持っていない人は，次のものを楽器店等で購入して下さい。
ヤマハ YRS-28BⅢ（1200円＋税）または YRS-38BⅢ（1600円＋税）
課題は早めに提示しますので，余裕をもって準備し，期限を守って提出して下さい。
グループでの発表が複数回予定されています。他のメンバーと協力して準備に取り組む経験は現場で役に立つはずです。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

図画工作科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET212
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	図画工作科指導法
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A1079001　前期　金2 A1079002　後期　木4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-4 小学校教育実践等

授業のキーワード	小学校図画工作科，教科指導法，教材研究，授業実践力
学生の到達目標	1.小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材研究や題材開発,学習展開のあり方、材料・用具の扱い方などを具体的に理解する。 2．学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学ぶ。 3．図画工作科に関する専門的な知識修得を図り,児童一人ひとりの表現を活かす図画工作活動の指導が出来るよう,授業者として基礎的な指導力を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業に関する留意事項,準備等、小学校図画工作科の授業で学ぶこと)(目標1)
	第2回	体験!図画工作①木工・体験！図画工作②「造形遊び」(目標1)
	第3回	授業の組み立て方について・体験!図画工作③教材研究(目標1)
	第4回	安全指導Ａ(課題提示)・体験!図画工作④発表(目標1．2)
	第5回	安全指導Ｂ(手立ての研究)・体験!図画工作①木工・実技下絵(目標1．2)
	第6回	体験!図画工作①木工・実技切断・学習指導の方法と教師の役割・模擬授業準備(目標2)
	第7回	学習指導の方法と教師の役割の実際・模擬授業、「粘土の制作」(目標2)
	第8回	模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ課題レポート作成① ;確認後返却(目標1)
	第9回	演習①粘土遊び～導入の大切さを学ぶ、模擬授業指導案の作成(課題提示)・レポート作成②;確認後返却(目標1)
	第10回	体験!図画工作①木工・実技やすりがけ・模擬授業・絵画指導準備（目標2.3）
	第11回	体験!図画工作⑤絵画、アドバイスの実際(目標2.3)課題レポート③作成;確認後返却
	第12回	小学校現場における図画工作科の役割(児童指導・他教科との関係も含めて)・課題レポート作成;確認後返却④(目標1．2.3)
	第13回	模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・デザイン・課題レポート作成⑤;確認後返却(目標2.3)
	第14回	演習②模擬授業、デザインに基づいた発表・課題レポート作成⑥(目標2.3)
	第15回	まとめ～図画工作科における今日的課題について(道徳・言語表現との関わりも含めて)(目標1.2.3)最終レポート提出
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回（共通） テキストを読み進める 模擬授業・発表の準備をする 実技課題の準備、制作を自主的に進める
	復習	第1回～第15回（共通） 配布資料を読み直す テキストを読み進める 実技課題の制作を自主的に進める 模擬授業のまとめ、レポート課題を行う
	展開	様々な題材の指導案（精案）を実際に書く
成績評価	評価の基準	1.小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材研究や題材開発,学習展開のあり方、材料・用具の扱い方などを具体的に理解できたか。 2．学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学べたかぶ。 3．図画工作科に関する専門的な知識修得を図り,児童一人ひとりの表現を活かす図画工作活動の指導が出来るよう,授業者として基礎的な指導力を身につけることができたか。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや模擬授業などの発表等で総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計 30%，課題制作30%） 60%，演習や発表，作品などをもとに授業の取り組みを踏まえた平常得点 40%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	表現教育にはそんなこともできるのか―教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ
	著者名	鈴木幹雄・他編著、森高光広・他(著)
	出版社	あいり出版
	価格	2376
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4865550135
	書籍名	小学校学習指導要領解説 図画工作編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	87
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4536590013
推薦図書等	書籍名	子どもの心に語りかける表現教育―多様なアプローチと発想を探る
	著者名	鈴木幹雄・他編著、森高光広・他(著)
	出版社	あいり出版
	価格	2376 7
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4901903586

参考URL

備考

・履修人数は，40名前後を原則とし、実技を交えた演習の内容を主とする。
・前期，後期の授業は同一内容を予定する。（演習課題等の一部変更はある）
・初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。
・小・特に限らず幼・保の学生も履修可能であり、内容に配慮する。
・実習の少ない学年に受講することが望ましい。
・受講人数や受講生の実習などの状況によって，また特別講師の都合により、演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。
・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表がある。
・絵の具など準備に必要なものは授業で指示する。
・連絡等は基本的に研究室に直接来てください(火曜日以外の昼休み)

家庭科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET213
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	家庭科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1080002　火2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	現代の生活課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
学生の到達目標	1.家庭科教育が目指すものを理解し,生活課題を主体的に追究することができる。 2.家庭科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。 3.1～2をふまえて,授業を設計・提案し,評価することができる。

授業内容

第1回	授業内容についてのオリエンテーション
第2回	現代の生活課題の概要(目標1)

第3回	新しい教育課程における家庭科教育の目標・内容(目標1)
第4回	家族・家庭に関する内容の検討(目標1,2)
第5回	食生活に関する内容の検討(目標1,2)
第6回	衣生活・住生活に関する内容の検討(目標1,2)
第7回	身近な消費・環境に関する内容の検討(目標1,2)
第8回	食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ①(目標2)
第9回	食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ②(目標2,3)
第10回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ①(目標2)
第11回	衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ②(目標2,3)
第12回	マイクロティーチング ①(目標3)
第13回	マイクロティーチング ②(目標3)
第14回	マイクロティーチング ③(目標3)
第15回	家庭科指導における全体のまとめ(目標1～3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）

予習	第１回～１５回（共通） ・講義内容に関する書物や資料を読み，理解しておくこと。 ・上記を踏まえて，自己の課題を明確にしておくこと。 ・事前に出された課題について調べたり企画したりして，当日発表できるようにしておくこと。
復習	第１回～１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめ，ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか，解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・予習，復習の記録は適時提出する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
展開	・授業内容に関する先端的研究や発展的な資料を読み，知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準	1.家庭科の本質論・内容論の理解度。課題追究力の定着度 2.家庭科の授業のための基礎的・基本的な知識・技術の理解度・定着度。 3.「家庭科」の指導ができる能力が養われていること。
評価の方法	毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。 小レポート（20%），実習作品（15%），研究成果発表（25%），学期末テスト（30%），平常点（10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	家庭科教育法
著者名	佐藤文子・川上雅子
出版社	高陵社書店
価格	2000円
ISBN・ISSN	978-4-7711-0982-7

書籍名	小学校学習指導要領解説　家庭編
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社

価格	95円
ISBN・ISSN	978-4-491-02374-8

推薦図書等

参考URL

備考

体育科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET214
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	体育科指導法
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1081001　前期　木2 A1081002　前期　金1 A1081003　前期　金2 A1081004　前期　木1
教室	体育館,グラウンド
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-2 教育の基礎的理解（小）

授業のキーワード	基礎運動技能、指導法、運動遊び、体力・健康、表現
学生の到達目標	1.各領域の内容と実践方法を修得し、学校現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営できるようになる。 2.体育指導に必要とされる基礎運動技能を体得し、安全かつ効果的に実践・指導できるようになる。 3.運動実践と子どもの体力および健康の変化との関係性を理解し、説明できるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション・体力テスト・なわとび(目標1,2,3)
	第2回	体つくり運動の展開と指導法（模擬授業を含む）(1);体ほぐしの運動(目標1,2,3)
	第3回	体つくり運動の展開と指導法（模擬授業を含む）(2);体力を高める運動(目標1,2,3)
	第4回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(1);走・跳の運動遊び(目標1,2,3)
	第5回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(2);短距離走・リレー(目標1,2,3)
	第6回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(3);走り高跳び・走り幅跳び(目標1,2,3)
	第7回	ボール運動の展開と指導法(1);ゴール型ゲーム(目標1,2,3)
	第8回	ボール運動の展開と指導法(2);ネット型ゲーム(目標1,2,3)
	第9回	ボール運動の展開と指導法(3);ベースボール型ゲーム(目標1,2,3)
	第10回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(1);リズム遊び・リズムダンス（発表会）(目標1,2,3)
	第11回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(2);創作ダンス・フォークダンス（発表会）(目標1,2,3)
	第12回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(1);マット運動(目標1,2,3)
	第13回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(2);鉄棒運動(目標1,2,3)
	第14回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(3);跳び箱運動(目標1,2,3)
	第15回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(4);総合実技(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	毎回の授業で扱う各運動領域の目標と内容について、学習指導要領を読んで理解して授業に臨むこと。 以下に運動領域の予習について記す。 体つくり運動（第1-2回）：模擬授業の指導案を作成および準備を行う 陸上運動（第3-5回）：短距離、ハードル走、走り幅跳びの記録向上のポイントを調べる ボール運動（第7-9回）：授業で扱うボールゲームのルールと基礎技能を調べる 表現運動（第10-11回）：指定された曲の創作ダンスをグループで作成し、発表会の準備を行う 器械運動（第12-15回）：マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動で扱う技のポイントを調べる
	復習	授業ノートを作成し、毎回の授業後にその日の授業内容（行った内容および指導法、ポイント、コツなど）およびそれぞれの運動領域で出された課題について、まとめて記載すること。授業ノートは最終的に提出し、評価の対象となる。 以下に復習の課題を記す。 体つくり運動（第1-2回）：実践した模擬授業を振り返り、体育の指導方法を学ぶ 陸上運動（第3-5回）：授業で撮影した短距離、ハードル走、走り幅跳びの自分のフォームについて映像解析を行い、指導方法を調べてまとめる ボール運動（第7-9回）：授業で扱うボールゲームの簡易的なゲームの行い方をまとめる。授業で撮影した投球動作の自分のフォームについて映像解析を行い、指導方法を調べてまとめる 表現運動（第10-11回）：授業で行ったリズムダンスをマスターする。指定された曲の創作ダンスを個人で作成する 器械運動（第12-15回）：授業で撮影したマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動で扱う技の自分のフォームについて映像解析を行い、指導方法を調べてまとめる

	展開	各運動領域の内容について、実技と理論を織り交ぜながら授業を進める。小学校で行う体育実技を中心に行いながら、体育の指導法を学ぶ。
成績評価	評価の基準	1.各領域の内容と実践方法を修得し、学校現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営することができる。 2.体育指導に必要とされる基礎運動技能を体得し、安全かつ効果的に実践・指導することができる。 3.運動実践と子どもの体力および健康の変化との関係性を理解し、説明することができる。
	評価の方法	実技試験 20%、授業ノートの内容 30%、発表課題（模擬授業および学習指導案を含む）の準備と内容 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%。ただし、この比率は、若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　体育編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	184円
	ISBN・ISSN	4491023751
推薦図書等		
参考URL		文部科学省・小学校体育デジタル教材； https://www.youtube.com/user/mextchannel 文部科学省・小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック； http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm
備考		授業内容については天候などで順番の変更はある。 ジャージ、Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動が可能で、かつ体育の教員と望ましい服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であること、また教員免許取得関係の科目という観点から着用を禁止する。 円滑な授業運営をするため、１時限あたりの履修者数を 32名以内に制限することがある。また、体育科指導法A・Bは１時限あたりの履修者数が10名未満の場合は授業運営が難しいため開講しない。 第1回目に体力・なわとびテストを行うので、なわとびを持参し、運動のできる服装に更衣して体育館に集合すること。 体育科指導法Dは前年度以前に体育科指導法AもしくはBを履修し、評価が履修中となった者のみを対象とする。 連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。

道徳教育指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET215
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	道徳教育指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A1082001　前期　木2 A1082002　後期　木1
教室	講義室21・22 講義室9
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-3 道徳、教育相談等（小）

授業のキーワード	道徳教育　特別の教科　指導方法　模擬授業
学生の到達目標	1.道徳教育と道徳の関連が理解できるようになる。 2.道徳資料を選び，簡単な指導案が作成する力をつける。 3.模擬授業行ったり観たりすることで課題を見つける力をつける。

授業内容

第1回	道徳教育の歴史的な変遷、理論と今日的な課題（目標１）
第2回	道徳教育と道徳の関係（目標１）

	第3回	道徳学習過程、道徳の教科化について（目標１）
	第4回	示範授業から学ぶ（葛藤のある資料）（目標１）
	第5回	示範授業から学ぶ（価値のシート）（目標１）
	第6回	示範授業から学ぶ（聴き合い・折り合い）（目標１）
	第7回	指導案の書き方（目標２）
	第8回	模擬授業打ち合わせ、リハーサル（目標３）
	第9回	模擬授業（誠実など）実践と協議（目標３）
	第10回	模擬授業（礼儀など）実践と協議（目標３）
	第11回	模擬授業（思いやりなど）実践と協議（目標３）
	第12回	模擬授業（感謝など）実践と協議（目標３）
	第13回	模擬授業（生命尊重など）実践と協議（目標３）
	第14回	模擬授業等を通して，指導上の配慮事項（目標１・２・３）
	第15回	道徳のさまざまな手法の紹介、まとめ（目標１）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2~15回予習 学修の振り返りをする。示範授業を受け指導案を作成する。グループ内で模擬授業を展開する内容を決定し，模擬授業の準備や練習をする。
	復習	1~15回復習 学修したことや示範授業・模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し，プリントにまとめる。プリントにコメントを入れ返却する。次時の模擬授業に活かすために授業の練り直しをする。
	展開	模擬授業を実践し、児童主体の授業だったか検証する。さまざまな授業の展開例を理解し，技能を深める。
成績評価	評価の基準	１．道徳教育と道徳の関連が理解できたか。 ２．道徳資料を選び，簡単な指導案が作成する力がついたか。 ３．模擬授業行ったり観たりすることで課題を見つける力がついたか。
	評価の方法	期末テスト（ 50%）資料選択・指導案作成(30%)模擬授業への参加（ 20%）
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　「道徳編」
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02376-2
推薦図書等	書籍名	道徳教育で大切なこと
	著者名	赤堀博行
	出版社	東洋館出版社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-491-02577-3
参考URL		

備考	課題の提出期限を守ること。 教育実習前に履修しておくことが望ましい。 オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。

特別活動指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET303
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	特別活動指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1083001　後期　木3 A1083002　後期　金4
教室	講義室16,Eスラジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法 4-3 道徳、教育相談等（小）

授業のキーワード	特別活動，指導方法（学級活動），学級経営との関連（人間関係づくり）
学生の到達目標	1.目標や内容を理解し,教師の役割を知ることができるようになる。 2.人間関係づくりの学級活動の指導案を作成する力をつける。 3.模擬授業を行い，課題を見つける力をつける。

授業内容

第1回	特別活動の内容と目標について(目標1)
第2回	特別活動の具体的な内容と「望ましい集団」について(目標1)

	第3回	学級活動と学級経営との関連について(目標1)
	第4回	人間関係づくりの学級活動指導案を作成について（目標２）
	第5回	指導計画の作成にあたっての配慮事項 特別活動と道徳との関連（目標１）
	第6回	児童期における発達課題について（目標1）
	第7回	子どもの発達段階に応じた指導のあり方（目標1）
	第8回	発達段階に即した指導のめやす（学級活動と道徳との関連） グループごとに指導案検討（目標２）
	第9回	児童会活動について（目標１）模擬授業打ち合わせ（目標３）
	第10回	人間関係づくり模擬授業「理解し合う」（目標３）
	第11回	人間関係づくり模擬授業「協力し合う」（目標３）
	第12回	人間関係づくり模擬授業「支え合う」（目標３）
	第13回	人間関係づくり模擬授業「信頼し合う」（目標３）
	第14回	学級活動や学校行事（卒業式）での教師の役割（目標１）
	第15回	特別活動の配慮と評価について（目標１）
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第2~15回 次回の予告した学修について調べる。学級活動の「人間関係づくり模擬授業」の指導案を作成し、模擬授業の準備や練習をする。
	復習	第1~15回 望ましい集団づくりのために教師はどのような支援をすればよいのかシートにまとめる。シートにコメントを入れ返却する。 模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し，次回の授業に生かすよう練習をする。
	展開	模擬授業を実践したり受けたりして，「協力する」「望ましい集団づくり」を意識した授業か検証する。
成績評価	評価の基準	１．目標や内容を理解し,教師の役割が理解できたか。 ２．人間関係づくりの学級活動の指導案を作成できたか。 ３．模擬授業を行い，課題を見つける力がついたか。
	評価の方法	期末テスト（50%）指導案・ワークシート（30%）模擬授業の関心や態度（20%）
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説「特別活動編」
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	128円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-491-02379-3
推薦図書等		
参考URL		
備考	グループ協議では積極的に参加することで，課題意識を高めることを望む。 提出物は，期限を厳守すること。 模擬授業は活動しやすい服装で臨むこと。（スカート不可） オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。	

教育方法・技術論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET216
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育方法・技術論
科目責任者	京極　邦明
担当教員	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1084001　後期　火4 A1084002　後期　火5
教室	講義室15 講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　4-2 教育の基礎的理解（小）
授業のキーワード	教育方法　指導技術　模擬授業
学生の到達目標	1.教育方法の基本原理が分かる。 2.教材研究の仕方および、よい授業の構成の仕方が分かる。 3.指導技術を身に付け、教材・教具や情報機器等の活用の仕方　がわかる。

授業内容	第1回	教育方法の基本原理・・・講義のガイダンス（目標１） 担当教員: 京極　邦明
	第2回	教育方法の史的変遷・・・日本と諸外国（目標１） 担当教員: 京極　邦明
	第3回	授業と教育方法の基本原理・・・系統学習と問題解決学習（目標１） 担当教員: 京極　邦明
	第4回	授業とは何か・・・子どもの意識解釈と臨床的判断（目標２） 担当教員: 京極　邦明
	第5回	教材研究と授業・・・教材研究の意味と教材研究の仕方（目標２） 担当教員: 京極　邦明
	第6回	教材研究と授業・・・授業の設計と学習指導案（目標２） 担当教員: 京極　邦明
	第7回	教材研究と授業・・教材研究、指導方法の工夫と「主体的・　対話的で深い学び」（目標２） 担当教員: 京極　邦明
	第8回	授業と技術・・・・指導技術（発問・机間指導）（目標３） 担当教員: 京極　邦明
	第9回	授業と技術・・・指導技術（板書の仕方・ノート指導）（目標３） 担当教員: 京極　邦明
	第10回	授業と技術・・・メデイアの種類と情報伝達の違い（目標３） 担当教員: 川口　由起子
	第11回	授業と技術・・・ＩＣＴ機器の活用（目標３） 担当教員: 川口　由起子
	第12回	授業と技術・・・ネットワークの利用（目標３） 担当教員: 川口　由起子
	第13回	授業と評価・・・評価の活かし方（目標３） 担当教員: 京極　邦明
	第14回	模擬授業の試み（１）・・・教材研究と授業実践　（目標３） 担当教員: 京極　邦明
	第15回	模擬授業の試み（２）・・・授業に生きる指導技術（目標３） 担当教員: 京極　邦明
予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	新しい学習指導要領、幼稚園教育要領がどのような経緯でつくられたのかということに関心をもち、教育の今日的テーマについて理解できるようにしておこう。 第１回から第３回では、教育方法・技術にはどのようなものがあるか、系統学習と問題解決学習とはどのような学習であるか調べておこう。 第４回から第９回では、学習指導、教材研究、学習指導案など基礎的・基本的な教育方法と、発問や板書などの技術について調べておこう。 第10回から第12回では、メディア、ＩＣＴ、ネットワークについて調べておこう。 第13回から第15回では、評価と模擬授業について調べておこう。
	復習	第1回～15回（共通）事前に課題を与える場合があるので、予め調べて課題に対する意識を高めておこう。添削された提出物に関しては、授業で配布された資料及び自分がとったメモなどを使ってきちんと振り返っておこう。
	展開	教育現場で授業がどのように行われているかの情報を集めると同時に、できるだけ教育実践にもふれ、指導方法および指導技術についての基礎的・基本的な知識をできるだけ広げるようにしておこう。

成績評価	評価の基準	1.教育方法の基本的な事項が理解ができている。 2.授業の仕組みを捉えることができる。 3.授業の構成の仕方及び指導技術の方法を把握できる。これらのことを合格基準とする。
	評価の方法	レポート等提出物（４０%）期末の筆記試験（６０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	教育の方法と技術
	著者名	平沢茂編著
	出版社	図書文化
	価格	2，000円
	ISBN・ISSN	4-8100-6464-6
	書籍名	教育方法の理論と実践
	著者名	小川哲生他著
	出版社	明星大学出版部
	価格	1，500円
	ISBN・ISSN	978-4-89549-154-9
参考URL		
備考		

理科実験技術

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET217
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科実験技術
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1084101　火1
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　実験・観察，カリキュラム，学習指導案

学生の到達目標

1．実験・観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的な実験・観察技術を習得する。
2．実験・観察を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を修得する。
3．安全に配慮して実験・観察が行えるようになる。

授業内容

第1回	理科教育の価値・目的及び評価の観点 (目標1,2)
第2回	小学校理科のカリキュラム構成について (目標1,2)

	第3回	「植草共生の森」を活用した教育実践 (目標1,2,3)
	第4回	小学３年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・昆虫の持ち方等 (目標1,2,3)
	第5回	小学４年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・レンズ、鏡等 (目標1,2,3)
	第6回	小学５年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・磁石等 (目標1,2,3)
	第7回	小学５年生・６年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・ガスバーナー等 (目標1,2,3)
	第8回	小学６年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・酸、アルカリ水溶液等 (目標1,2,3)
	第9回	３年の学習内容（植物のつくり等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第10回	４年の学習内容（水の３態変化等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第11回	５年物理分野の学習内容（振り子・電磁石等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第12回	５年生物分野の学習内容（植物の成長・動物の発生等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第13回	６年物理分野の学習内容（てこ等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第14回	６年化学分野の学習内容（水溶液の性質等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第15回	模擬授業のまとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第８回までに模擬授業用の学習指導案を立案し，提出する。
	復習	毎回の内容を各自ノートに記録する。後日提出する。
	展開	小学校理科に関して基本的な実験観察を多く体験することで、実験観察に対してのセンスを身につける。また、実験観察を含んだ学習指導案を作成できるようになる。
成績評価	評価の基準	１．実験・観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的な実験・観察技術を習得すること。 ２．実験・観察を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を修得すること。 ３．安全に配慮して実験・観察が行えるようになること。
	評価の方法	学習指導案及び模擬授業（学生からの授業評価を含む）70%, 授業への取り組む姿勢10%, ノート20%, を総合的に判断する。
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
	著者名	文部科学省
	出版社	大日本図書
	価格	65円
	ISBN・ISSN	978-4-477-01949-9
推薦図書等	書籍名	たのしい理科3年～6年

著者名	有馬朗人　他
出版社	大日本図書
価格	
ISBN・ISSN	978-4-477-02067-9　他

参考URL

備考

学習内容及び，実感・観察方法についての深く理解した上で，学習指導の細案を作成してもらいます。自信を持って教えられる範囲を１つでも作ることで，理科の他の範囲であっても，実験・観察の授業を実施しようとする際の垣根が低くなると思います。
授業は講義・実習・模擬授業への参加など様々な形態で行われます。
収容可能人数40人
連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

児童生徒指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET218
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	児童生徒指導論
科目責任者	金子　功一
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1085001　月4
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	選択
特別支援学校教諭：	必修	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-3 道徳、教育相談等（小）

授業のキーワード

生徒指導の歴史と役割，問題行動への対応，生きる力

学生の到達目標

1.生徒指導の歴史と意義，集団指導における理論と技法について学ぶ。
2.児童生徒における問題行動を理解し，いじめや不登校，非行などの教育課題を具体的事例から学ぶ。
3.教師としての問題行動への対応を学び，個々の児童にあった生徒指導を行うことの重要性を理解する。

授業内容

第1回	「生徒指導とは何か」を明確にし，生徒指導の本質を理解する（目標1）
第2回	生徒指導の歴史について理解する （目標1）

第3回	生徒指導体制（1）：理論を学ぶ （目標1）
第4回	生徒指導体制（2）：実際の小学校における生徒指導体制のあり方について理解する （目標1）
第5回	集団指導の理論と技法（1）：「集団とは何か」を理解し，その形態別の特徴を理解する （目標1）
第6回	集団指導の理論と技法（2）：教師の行うリーダーシップの特徴を学ぶ （目標1）
第7回	集団指導の理論と技法（3）：具体的な事例から教師のリーダーシップの重要性を理解する （目標1）
第8回	問題行動について（1）：問題行動発生のメカニズム及び教師の対応，協力体制の作り方を学ぶ （目標2）
第9回	問題行動について（2）：反社会的問題行動（いじめや暴力行為など）の事例検討 （目標2）
第10回	問題行動について（3）：非社会的問題行動（不登校や緘黙，チックなど）の事例検討 （目標2）
第11回	教師としての問題行動への対応（1）：構成的グループエンカウンターなどを用いた指導法の習得 （目標3）
第12回	教師としての問題行動への対応（2）:他機関との連携について（目標3）
第13回	個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（1）：性格・知能・適性などの検査資料の活用方法を学ぶ （目標3）
第14回	個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（2）：個々の児童にあった的確な指導のあり方を学ぶ （目標3）
第15回	まとめ　授業の振り返りと児童生徒指導論における重要事項の確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回：シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業内容，成績評価等についてよく理解しておくこと 第2回：生徒指導の歴史について調べておくこと 第3回：生徒指導体制（理論）について調べておくこと 第4回：生徒指導体制（実際の小学校における生徒指導体制のあり方）について調べておくこと 第5回：集団指導の理論と技法（「集団とは何か」を理解し，その形態別の特徴）について調べておくこと 第6回：集団指導の理論と技法（教師の行うリーダーシップの特徴）について調べておくこと 第7回：集団指導の理論と技法（具体的な事例から教師のリーダーシップの重要性）について調べておくこと 第8回：問題行動（問題行動発生のメカニズム及び教師の対応，協力体制の作り方）について調べておくこと 第9回：問題行動（反社会的問題行動（いじめや暴力行為など））について調べておくこと 第10回：問題行動（非社会的問題行動（不登校や緘黙，チックなど））について調べておくこと 第11回：教師としての問題行動への対応（構成的グループエンカウンターなどを用いた指導法の習得）について調べておくこと 第12回：教師としての問題行動への対応（他機関との連携）について調べておくこと 第13回：個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（性格・知能・適性などの検査資料の活用方法）について調べておくこと 第14回：個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（個々の児童にあった的確な指導のあり方）について調べておくこと 第15回：第1回から第14回のポイント及び考察を再度読んでおくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	復習	第1回:この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと

第2回:生徒指導の歴史についてポイント及び考察をまとめておくこと
第3回:生徒指導体制（理論）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第4回：生徒指導体制（実際の小学校における生徒指導体制のあり方）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第5回：集団指導の理論と技法（「集団とは何か」を理解し，その形態別の特徴）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第6回：集団指導の理論と技法（教師の行うリーダーシップの特徴）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第7回：集団指導の理論と技法（具体的な事例から教師のリーダーシップの重要性）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第8回：問題行動（問題行動発生のメカニズム及び教師の対応，協力体制の作り方）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第9回：問題行動（反社会的問題行動（いじめや暴力行為など））についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回：問題行動（非社会的問題行動（不登校や緘黙，チックなど））についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回：教師としての問題行動への対応（構成的グループエンカウンターなどを用いた指導法の習得）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回：教師としての問題行動への対応（他機関との連携）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回：個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（性格・知能・適性などの検査資料の活用方法）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回：個性伸長や自己実現を目指した生徒指導（個々の児童にあった的確な指導のあり方）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回：第1回から第14回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める

展開　第1回から第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，重要と考える点をまとめておくこと

成績評価

評価の基準
1.生徒指導の歴史と意義，集団指導における理論と技法について学ぶ。
2.児童生徒における問題行動を理解し，いじめや不登校，非行などの教育課題を具体的事例から学ぶ。
3.教師としての問題行動への対応を学び，個々の児童にあった生徒指導を行うことの重要性を理解することについて理解し，自分の考えを的確に表現できること。

評価の方法
授業態度 20%，レポート課題 30%，試験 50%により総合的に評価する。
平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	生徒指導提要
著者名	文部科学省
出版社	教育図書
価格	276円＋税
ISBN・ISSN	978 -4-87730-274-0

書籍名	生きる力を育む生徒指導
著者名	宮下一博・河野荘子 編著
出版社	北樹出版
価格	2,400円＋税

ISBN・ISSN　4-89384-991-3

参考URL	文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp
備考	教員免許の取得を目指そうとする者の履修が望ましい。 授業では，積極的な参加の姿勢を求める。

小学校の学級経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET219
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校の学級経営
科目責任者	村上　悦子
担当教員	加藤　悦子 戸丸　俊文
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1085501　金5
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	必修
特別支援学校教諭：	選択	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 4-4 小学校教育実践等

授業のキーワード	生徒指導，教育相談，キャリア教育，配慮を要する児童，連携
学生の到達目標	1.目的・意義についてや安心する環境つくりについて理解できるようになる。 2.教育相談，生徒指導，キャリア教育について理解できるようになる。 3.配慮する児童への対応，保護者との連携の取り方が理解できるようになる。

授業内容	第1回	「学級経営」の目的と意義（目標１） 担当教員: 村上　悦子
	第2回	学級目標の作り方とそのねらい（目標１） 担当教員: 村上　悦子
	第3回	学級のきまりについて（目標１） 担当教員: 村上　悦子
	第4回	学級組織の作り方について（目標１） 担当教員: 村上　悦子
	第5回	給食指導と清掃指導（目標１） 担当教員: 戸丸　俊文
	第6回	学級レクの構成（目標１） 担当教員: 戸丸　俊文
	第7回	学級集団を理解する検査法（Q-Uテスト）（目標２） 担当教員: 加藤　悦子
	第8回	教育相談と心理教育の必要性（目標２） 担当教員: 加藤　悦子
	第9回	配慮を要する児童と学級経営Ⅰその児童への気づき（目標３） 担当教員: 加藤　悦子
	第10回	配慮を要する児童と学級経営Ⅱ保護者との連携（目標３） 担当教員: 加藤　悦子
	第11回	学級経営と生徒指導（目標２） 担当教員: 戸丸　俊文
	第12回	小学校におけるキャリア教育（目標２） 担当教員: 戸丸　俊文
	第13回	学級通信と学級経営（目標３） 担当教員: 村上　悦子
	第14回	教室環境づくりと配慮（目標１） 担当教員: 戸丸　俊文
	第15回	自分の目指す学級経営レポート，発表（目標１・２・３） 担当教員: 村上　悦子
予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第2~15回 学修の振り返りをする。ボランティア等でお世話になっている小学校を訪問し、先生方の動きや教室の掲示物を観て観察やスケッチをする。その後工夫していることを探す。
	復習	第1~15回 学修したことから教室環境と学級経営の関連を明確にして、レポートにまとめる。リポートにコメントを入れ、返却する。
	展開	予習したことと教室環境の配慮を関連付け、自分が担任だったらどうするかを考えて授業に臨む。
成績評価	評価の基準	１．目的や意義について理解と児童が安心できる環境つくりについて理解したか。 ２．学級集団向上への教育相談，生徒指導，キャリア教育について理解したか。 ３．配慮する児童への対応，保護者や他機関との連携の取り方を理解したか。
	評価の方法	レポート50%，学習態度30%，発表20%の成績を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	そのクラス、うまい教師はこう動かす
	著者名	中嶋郁雄
	出版社	学陽書房
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	978-4-313-65223-1
	書籍名	学級生活問題の議題化
	著者名	宇田川敬一編
	出版社	明治図書
	価格	１７００円
	ISBN・ISSN	4-18-840204-0

参考URL	
備考	○オフィス・アワーは，教員マイページで確認をすること。

児童教育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET220
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	児童教育相談の基礎
科目責任者	金子　功一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1086001　月4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	選択
特別支援学校教諭：	必修	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-3 道徳､教育相談等（小）

授業のキーワード　教育相談，子ども理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題行動

学生の到達目標

1　幼稚園・小学校における教育相談の体制を理解し，子どもの発達的特徴や問題行動，及びその対応について学ぶ。
2　教育相談の意義や諸理論について理解する。カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法を学ぶ。
3　今日的な問題行動（不登校・いじめ・発達障碍など）と相談的な対応について学び，関連機関との連携のあり方を理解する。

授業内容

第1回	幼稚園・小学校における教育相談の体制について（目標1）
第2回	不適応行動の諸相とその原因について（1）：幼児期の発達的特徴と問題行動（目標1）

第3回	不適応行動の諸相とその原因について（2）：児童期の発達的特徴と問題行動（目標1）
第4回	カウンセリングマインドと実際の相談（目標2）
第5回	教育相談の基本的な態度と技法（1）：言語的技法（目標2）
第6回	教育相談の基本的な態度と技法（2）：非言語的技法（目標2）
第7回	構成的グループエンカウンターの理論と体験（目標2）
第8回	カウンセリング・ロールプレイ（目標2）
第9回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応（1）：不登校（不登園）（目標3）
第10回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応（2）：いじめ（目標3）
第11回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応（3）：神経症・心身症（目標3）
第12回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応（4）：無気力・非行（目標3）
第13回	発達障碍への理解と対応（LD・ADHDなど）（目標3）
第14回	校内体制のあり方と専門機関との連携（目標3）
第15回	まとめ　授業の振り返りと児童教育相談の基礎における重要事項の確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回：シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業内容，成績評価等についてよく理解しておくこと 第2回：不適応行動の諸相とその原因（幼児期の発達的特徴と問題行動生徒指導の歴史）について調べておくこと 第3回：不適応行動の諸相とその原因（児童期の発達的特徴と問題行動）について調べておくこと 第4回：カウンセリングマインドについて調べておくこと 第5回：教育相談の基本的な態度と技法（言語的技法）について調べておくこと 第6回：教育相談の基本的な態度と技法（非言語的技法）について調べておくこと 第7回：構成的グループエンカウンターの理論について調べておくこと 第8回：カウンセリング・ロールプレイについて調べておくこと 第9回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（不登校（不登園））について調べておくこと 第10回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（いじめ）について調べておくこと 第11回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（神経症・心身症）について調べておくこと 第12回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（無気力・非行）について調べておくこと 第13回：発達障碍への理解と対応（LD・ADHDなど）について調べておくこと 第14回：校内体制のあり方と専門機関との連携について調べておくこと 第15回：第1回から第14回のポイント及び考察を再度読んでおくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	復習	第1回:この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回:不適応行動の諸相とその原因（幼児期の発達的特徴と問題行動生徒指導の歴史）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回:不適応行動の諸相とその原因（児童期の発達的特徴と問題行動）についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回：カウンセリングマインドについてポイント及び考察をまと

めておくこと
第5回：カウンセリング・ロールプレイについてポイント及び考察をまとめておくこと
第6回：教育相談の基本的な態度と技法（非言語的技法）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第7回：構成的グループエンカウンターの理論と体験についてポイント及び考察をまとめておくこと
第8回：カウンセリング・ロールプレイについてポイント及び考察をまとめておくこと
第9回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（不登校（不登園））についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（いじめ）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（神経症・心身症）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回：学校場面で生じやすい問題行動とその対応（無気力・非行）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回：発達障碍への理解と対応（LD・ADHDなど）についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回：校内体制のあり方と専門機関との連携についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回：第1回から第14回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める

展開　第1回から第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，重要と考える点をまとめておくこと

成績評価

評価の基準
1　幼稚園・小学校における教育相談の体制を理解し，子どもの発達的特徴や問題行動，及びその対応について学ぶ。
2　教育相談の意義や諸理論について理解する。カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法を学ぶ。
3　今日的な問題行動（不登校・いじめ・発達障碍など）と相談的な対応について学び，関連機関との連携のあり方について理解し，自分の考えを的確に表現できること。

評価の方法　授業態度 20%，レポート課題 30%，試験 50%により総合的に評価する。
平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	子どもの発達理解とカウンセリング
著者名	金子智栄子編
出版社	樹村房
価格	1,800円＋税
ISBN・ISSN	ISBN: 978-4-88367-121-2

推薦図書等

書籍名	エンカウンターで学級が変わる　小学校編１
著者名	監修　國分康孝
出版社	図書文化
価格	2,233円＋税
ISBN・ISSN	4-8100-6271-7

書籍名	エンカウンターで学級が変わる　小学校編　2
著者名	監修　國分康孝

出版社	図書文化
価格	2,500円＋税
ISBN・ISSN	4-8100-7281-5

書籍名	ピアヘルパーハンドブック
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化
価格	1,500円＋税
ISBN・ISSN	ISBN: 978-4-8100-1343-6

参考URL

備考

キャリア教育指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET221
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	キャリア教育指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1087101　月2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	選択
特別支援学校教諭：	必修	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	4-1 小学校教育の教科/指導法

授業のキーワード　生きる力，基礎的・汎用的能力，キャリア発達，体験学習

学生の到達目標

1. キャリア教育の目的,意義,社会的背景,理論についてわかる。
2. 課題学習の中で多様な価値観を学び,自分の職業観,生き方を醸成する。また,興味，能力，適性などの自己理解の方法論を体得する。
3. 小学校や特別支援学校で行われているキャリア教育についての優れた実践例を学び、多様な迫り方を理解できる。

授業内容

第1回　キャリア教育とは（目標１）
　意義と必要性，その社会的背景（目標１）

第2回　ニート・フリータと社会で必要とされる力（目標１）

第3回	キャリア教育の変遷（目標１）
第4回	キャリア教育で育成すべき力（目標１） 基礎的・汎用的能力，キャリア発達
第5回	キャリアの基礎的理論と情報ツールの活用（目標１）
第6回	自分の適性を知るⅠ（目標２） 職業適性検査，パーソナリティ検査の体験と分析
第7回	自分を知るⅡ（目標２） 価値観・指導観・子どもへの対応
第8回	先人の生き方から学ぶ（目標２） 偉人伝や尊敬する人物の生き様についてまとめ発表する
第9回	自分を変えた出来事についてまとめ発表する(目標２)
第10回	小学校におけるキャリア教育Ⅰ（目標３） ねらいと内容，キャリア教育と教科指導
第11回	小学校におけるキャリア教育Ⅱ（目標３） キャリア教育と領域指導
第12回	小学校におけるキャリア教育Ⅲ（目標３） 体験学習の方法論と実施上の配慮
第13回	小学校におけるキャリア教育Ⅳ（目標３） 地域との連携，学校間連携，保護者との連携
第14回	特別支援教育におけるキャリア教育（目標３）
第15回	キャリア教育の体制作りと年間計画及び評価の必要性（目標３）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　ニート、フリーター、正規職員などの言葉の意味を調べることと「社会で必要とされる力」について４００字以上でまとめ発表できるようにしてくる。 第2～5回　キャリア教育の変遷、基礎的・汎用的能力などについて教科書を読んでくる。 第6~9回　自分を変えた出来事、本、人物について８００字以上でまとめてくる。 第10回　小学校時代に受けたと思うキャリ教育の内容を思い出し、４００字以上でまとめてくる。 第11～12回　小学校におけるキャリア教育について、教科指導との関係、領域指導との関係など教科書を読んでくる。 第13回　地域の教材化と地域との連携についてグループで考え、発表の準備をする。 第14回　特別支援教育におけるキャリア教育について調べ、発表できるように準備する。 第15回　キャリア教育の評価はどのように行ったらよいかについて調べ、まとめてくる。
	復習	第1回　キャリア教育の必要性について整理する。 第2回　社会で必要とされる力について自分の意見として整理する。 第3～4回　基礎的・汎用的能力などについてまとめレポート提出する。 第5回　キャリア理論の中で自分の受け入れやすい理論を選び、その理由をレポートする。 第6~7回　自分の性格や適性など自己分析した結果をまとめる。 第8~9回　「生き方」についての友人の発表を聞いて、気づいたことをまとめる。 第10～13回　小学校におけるキャリア教育について授業を振り返りながら自分なりにノートに整理する。 第14回　特別支援教育におけるキャリア教育と通常学級におけるキャリア教育の相違点と共通点についてレポートにまとめる。 第15回　キャリア教育の評価の観点と必要性について授業を振り返りまとめる。
	展開	

・予習してきた内容をもとにグループでの集団思考を行ない、積極的に発表する。
・体験活動の意義や、指導する際の留意点を体験的に学ぶ。
・キャリア教育を指導するためには自分の「生き方」に対する価値観が明確になっていることが大事なことに気づく。
・キャリア教育に関する「ことば」の定義や意味を確実にする。
・キャリア教育は教育活動全体を通して実践されていることを講義中、繰り返して学ぶ。

成績評価	評価の基準	1．キャリア教育の目的、意義など講義でとりあげた基本的事項を理解していること。 2．多様な価値観を知ったり、自己理解することで自分の「生き方」についての考えを述べることができる。 3．小学校で行われているキャリア教育の内容を理解し、子どもの指導、支援についての計画、実践できる基礎力がついていること。
	評価の方法	予習・復習の課題・レポートの提出　60% 授業への参加態度 20%，発表 20%などで総合評価する。

教科書	書籍名	小学校　キャリア教育の手引き<改定版>
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版株式会社
	価格	780円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-30025-2

推薦図書等	書籍名	キャリア教育概説
	著者名	日本キャリア教育学会
	出版社	東洋館出版社
	価格	2700円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-491-02383-0

参考URL	
備考	新聞をよく読んで，社会の動向に敏感であること。

保育内容演習Ⅰ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT201
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1088101　前期　金1 A1088102　前期　金3
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	保育，音楽活動、子どもの歌	
学生の到達目標	１．幼児期における音楽体験の重要性を理解する。 ２．子どもの歌のレパートリーを広げ、子どもと楽しもうとする意欲を持つ。 ３．生活の中で子どもが音楽活動を楽しむための援助・手立てについて考えることができる。	

授業内容	第1回	子どもの生活と音楽について 4月の教材曲と指導の方法(目標1,2)
	第2回	発声の基礎 5月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
	第3回	6月・7月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
	第4回	9月・10月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
	第5回	11月・12月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
	第6回	1月・2月の教材曲と指導の方法(目標2,3)
	第7回	3月の教材曲と指導の方法（目標2,3）
	第8回	弾き歌いによる模擬指導（1）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う(目標2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
	第9回	弾き歌いによる模擬指導（2）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。(目標2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
	第10回	弾き歌いによる模擬指導（3）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。(目標2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
	第11回	弾き歌いによる模擬指導（4）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。(目標2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
	第12回	手作り楽器の製作（目標3）
	第13回	手作り楽器を用いたアンサンブル（目標3）
	第14回	いろいろな楽器の指導法（目標3）
	第15回	易しい器楽合奏（目標2,3）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回～第7回　弾き歌いの発表に向けて選曲・練習し、発表に用いる教具等を制作し、発表の準備をする。 第12回　手作り楽器の材料を準備し制作の計画をたてる。
	復習	第1回～第7回　授業で扱った曲に親しみ、楽しく演奏する。 第8回～第11回　自己および他の受講者の発表から学ぶ点を整理し、活用の方法を考える。 第12回　制作した手作り楽器の保育での活用方法を考察する。 第13回　他者の制作した手作り楽器から学ぶ点を整理し、改善作品の制作に取り組む。
	展開	・実習・就職に向けてこどもの歌のレパートリーを広げる。 ・保育現場を想定し、さまざまな曲の活用法を考える。
成績評価	評価の基準	1．幼児期における音楽の重要性を理解し、積極的に課題に取り組めたか。 2．子どもの歌のレパートリーを広げることができたか。 3．生活の中で子どもと音楽を楽しむための援助・手立てについて考えることができたか。
	評価の方法	弾き歌いの模擬指導（ 40%）手づくり楽器の製作（ 20%）器楽合奏の発表（ 20%）授業に対する取り組み（ 20%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
	著者名	東　保
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 41162005
	書籍名	『幼児のための音楽教育』
	著者名	神原雅之・鈴木恵津子　監修・編著
	出版社	教育芸術社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-87788-443-7

推薦図書等

参考URL

備考

弾き歌いによる模擬指導を行うため ,1年次で「保育の表現技術 Ｉ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
幼稚園・保育所等の現場を想定して授業を行います。
子どもの歌をたくさん覚えて，自分自身も楽しみながら人前で音楽表現できるようになりましょう。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習Ⅱ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT202
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1088201　金3
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容 7-3 保育の内容・方法
授業のキーワード	保育，音楽活動，音楽遊び、指導法
学生の到達目標	１．手遊び・歌遊びのレパートリーを広げ,子どもと楽しもうとする意欲をもつ。 ２．生活の中で子どもが充実した音楽活動を楽しむために援助する手だてを身につける。 ３．子どもの前で自信をもって音楽表現できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標1） 第2回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ①(目標2)

第3回	既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ②(目標2)
第4回	既習曲に合わせたリズム伴奏のグループ発表(目標3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
第5回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ①(目標2)
第6回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ②(目標2)
第7回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ③(目標2)
第8回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 中間発表
第9回	既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ④(目標2)
第10回	音楽劇の発表(目標3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
第11回	リズム遊び・手遊び・歌遊び等の実習と指導の方法(目標1,2)
第12回	子どもの発達段階を考慮した指導の工夫(目標2)
第13回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ①(目標1,2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
第14回	保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ②(目標1,2,3) 各自が記入した振り返りシートに、良かった点・課題点についてコメントを記入し返却する。
第15回	歌遊びレパートリー集の作成(目標1,2) 冊子を制作し実習等で活用する。

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第5回～第9回　音楽劇の発表のための準備に取り組む。 第11回・第12回　歌遊び等の模擬指導のための準備に取り組む。 第15回　レパートリー集のための原稿を作成する。
復習	第2回・第3回　授業で扱った曲を楽しんで演奏する。 第10回　他のグループの発表を見て、自己の課題点を整理し、活用の方法を考える。 第13回・第14回　他の受講者の発表を見て、自己の課題点を整理し、活用の方法を考える。 第15回　他の受講者の楽譜・説明の良い点を整理し、実際に歌遊びを楽しみ、レパートリーを広げる。
展開	・保育現場を想定し、レパートリー曲をどう活用するかを考え、仲間と情報を共有する。 ・インターンシップなどの場で学習の成果を生かそうとする。

成績評価

評価の基準	１．手遊び・歌遊びのレパートリーを広げることができたか。 ２．子どもの音楽活動を援助するための知識・技能を身につけることができたか。 ３．人前で自信を持って音楽表現できたか。
評価の方法	音楽劇の発表（ 30%）リズム伴奏の発表（ 30%）歌遊び等の模擬指導（ 30%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』
著者名	東　保
出版社	全音楽譜出版社
価格	２,600円＋税

ISBN・ISSN	ISBN： 4116200506
書籍名	『幼児のための音楽教育』
著者名	神原雅之・鈴木恵津子　監修・編著
出版社	教育芸術社
価格	2000円＋税
ISBN・ISSN	ISBN:978-4-87788-443-7

推薦図書等

参考URL

備考

１年次で「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。
発表の学習成果を高めるために、授業外での準備が必要です。
グループ活動が多くなります。職場では１人で仕事をするのではありません。他のメンバーと協力して作業する経験は現場で役立つはずです。
遅刻・欠席のないよう留意し，積極的に取り組んで下さい。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

保育内容演習Ⅰ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT203
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1089101　金4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	造形教育，造形表現や活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
学生の到達目標	1.教育現場での造形表現活動についての支援のあり方について、具体的な制作を通して学ぶ。 2.子どもたちに適切な支援ができるように、造形教育に関わる基本と展開についての理解する。 3.様々な材料に親しみ、用具の使い方・安全指導について習得するとともに、子どもたちの造形表現の広がりが支えられるように具体的な手立てを身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点など)・絵本や人形のデザイン(目標1.2)
	第2回	ウレタンシートによるパペットのアイデアスケッチ(目標1.2.3)レポート提出;確認後返却
	第3回	ウレタンシートによるパペットの制作①頭部(目標1.2.3)
	第4回	ウレタンシートによるパペットの制作②身体(目標1.2.3)アイデアスケッチ提出;確認後返却
	第5回	ウレタンシートによるパペットの制作③手足(目標1.2.3)
	第6回	ウレタンシートによるパペットの制作④衣服など(目標1.2.3)
	第7回	ウレタンシートによるパペットの制作⑤衣服・接合(目標1.2.3)
	第8回	ウレタンシートによるパペットの制作⑥小物・小道具(目標1.2.3)
	第9回	子ども向け人形劇の実際(目標1.2)レポート提出;確認後返却
	第10回	子どもと人形（造形的な要素とその効果）(目標2.3)レポート提出;確認後返却
	第11回	パペットを活用した人形劇の構想①登場者(目標2.3)
	第12回	パペットを活用した人形劇の構想②テーマ (目標2.3) レポート提出;確認後返却
	第13回	パペットを活用した人形劇の構想③発表会に向けて (目標2.3)
	第14回	人形劇の留意点について;ゲストティーチャーによる演習・劇の発表会 (目標2.3)
	第15回	まとめ～制作と発表を通して学んだことを伝える(目標1.2.3)最終レポート提出
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1回～第10回 制作の準備をする 人形や人形劇等児童文化について調べる 第10回～12回 グループで発表準備をして練習する
	復習	第1回～第10回 制作を自主的に進める 児童文化についてさらに調べる 第10回から14回 レポートをまとめる
	展開	自分の制作について教育現場での展開や活用等を発展的に考える
成績評価	評価の基準	1.教育現場での造形表現活動についての支援のあり方について、具体的な制作を通して学べたか。 2.子どもたちに適切な支援ができるように、造形教育に関わる基本と展開についての理解できたか。 3.様々な材料に親しみ、用具の使い方・安全指導について習得するとともに、子どもたちの造形表現の広がりが支えられるように具体的な手立てを身につけることができたか。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	
参考URL	
備考	※第一回の授業出席者で履修者を確定する。上学年を優先とする。 ※実技演習なので定員40名程度で実施予定。実習のある学生は自分で制作を進めることが多いので、特に留意すること。 ※基本的に裁縫の内容が多い。あらかじめ留意すること。 ※テキストは前年度受講生のレポートを編集したものを使用する ※保育内容演習図画工作ⅠとⅡには順番による優先性はなく、どちらを選択してもよい。希望資格に留意して、確認の上選択すること ※人形制作だけでなく、小グループによる実演発表を行う ・小学校や特別支援学校課程の学生にも対応できるよう配慮する。 ・作品制作だけではなく、発表やレポート内容を重視する。 ・色鉛筆や絵の具セット、紙袋、布素材など材料を必要に応じて各自用意すること。 ・準備や後片付けも含めて、計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。 ・持ち物については随時指示する。 ・人形の操作や人形を使った子どもとの関わりについて、ゲストティーチャーによる演習を予定しているが、講師の都合によりシラバスの日程は変更もあり得る。 ・連絡等は基本的に研究室に直接来てください(火曜日以外の昼休み)

保育内容演習Ⅱ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT204
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1089201　木3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　7-3 保育の内容・方法 7-4 保育の表現技術
授業のキーワード	造形教育、造形表現・活動の支援、教育現場で活用できる知識と技能の獲得
学生の到達目標	1.教育現場等での造形表現活動において、具体的な支援のあり方について制作を通して学ぶ。 2.適切な支援をするために、造形表現に関わる基本と展開についての理解をする。 3.様々な材料に親しみ、用具の使い方や安全指導を習得するとともに、子どもの造形表現を支援出来るよう技能や手立てを身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点,造形表現の基本と展開)・粘土(陶土)を使った立体表現①(目標1.2)
	第2回	粘土(陶土)を使った立体表現②成形の仕方(目標1.2), アイデアスケッチ提出;確認後返却
	第3回	粘土(陶土)を使った立体表現③構想・試作(目標2.3)
	第4回	粘土(陶土)を使った立体表現④本制作(目標2.3)
	第5回	粘土(陶土)を使った立体表現④本制作・仕上げ(目標2.3)まとめレポート提出;確認後返却
	第6回	基本技法を学ぶ ①基本的な技法の活用(目標2,3) (目標2.3)課題レポート提出;確認後返却
	第7回	基本技法を学ぶ ②色の活用(目標2,3)・課題レポート提出;確認後返却 (目標2.3)
	第8回	お話・物語の絵～絵画表現 ①読書感想画制作(アイデアスケッチ)(目標1.2)
	第9回	お話・物語の絵～絵画表現②読書感想画制作・(下絵)(目標1.2)下絵提出;確認後返却
	第10回	お話・物語の絵～絵画表現③読書感想画制作(配色、画材選択)(目標1.2)
	第11回	お話・物語の絵～絵画表現④ 読書感想画制作(本制作・中心部)(目標1.2)
	第12回	お話・物語の絵～絵画表現⑤読書感想画制作(本制作・背景)(目標1.2)
	第13回	お話・物語の絵～絵画表現⑥読書感想画制作(本制作・着色完成)(目標1,2,3)
	第14回	お話・物語の絵～絵画表現⑦読書感想画制作(本制作・仕上げ)・課題レポート提出;確認後返却(目標1.2.3)
	第15回	まとめ～鑑賞・発表会・最終レポート提出(目標1.2.3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 課題制作の準備をする。 陶芸について調べる（陶芸）。 読書をし対象図書を選択する（読書感想画）。
	復習	第1回～第15回 課題制作を自主的に進める。 対象図書を読み、資料を探す（読書感想画）。 課題レポートをまとめる。
	展開	自分の計画に沿って画材、材料を集め、吟味、選択、活用して、よりよい制作ができるようにする。 教育現場で子どもに制作させるための手立て考える。

成績評価	評価の基準	1.教育現場等での造形表現活動において、具体的な支援のあり方について制作を通して学ぶことができたか。 2.適切な支援をするために、造形表現に関わる基本と展開についての理解できたか。 3.様々な材料に親しみ、用具の使い方や安全指導を習得するとともに、子どもの造形表現を支援出来るよう技能や手立てを身につけることができたか。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み(振り返り)等の平常得点 20%の成績を総合する。

ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	はじめよう読書感想画の実践
	著者名	森高光広
	出版社	全国学校図書館協議会
	価格	864
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4793322646

推薦図書等

参考URL

備考

※第1回の授業出席者で履修者を最終確定する。上学年優先とする。
※実技演習なので定員40名程度で実施する予定。実習のある学生は自分で制作を進めることが多いので、特に留意すること。
※基本的に絵画の内容が多いのであらかじめ留意すること。
※保育内容演習図画工作ⅠとⅡには順番による優先性はなく、各自が希望取得資格を考えて確認の上選択すること。
・小学校や特別支援学校課程の学生にも対応するよう配慮する。
・作品制作だけではなく、レポート内容を重視する。
・スケッチブック、色鉛筆や絵の具セット、紙袋、陶芸に関わる材料などを各自用意すること。
・準備や後片付けも含めて、計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。
・持ち物については随時指示する。
・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。
・絵画も陶芸も初心者を配慮しつつ、本格的な制作を行う。
・陶芸実習費として、粘土代金と焼成代金を履修者に個人負担1350円程度）となるので、このことを承知の上で履修すること。
・連絡等は基本的に研究室に直接来てください(火曜日以外の昼休み)

保育内容演習Ⅰ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT205
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1090101　火1
教室	Eスタジオ,体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，表現
学生の到達目標	1．子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性を理解すること。 2．運動及び運動遊びの具体的な内容を修得し、発展的にアレンジする能力を身につけること。 3．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1～3)
	第2回	リズム運動(1)(目標2)
	第3回	リズム運動(2)(目標2)
	第4回	リズム運動(3)(目標2)
	第5回	リズム運動(4)(目標3)
	第6回	リズム運動(5)(目標3)
	第7回	リズム運動(6：グループ発表)(目標3)
	第8回	器械運動遊び(1)(目標2)
	第9回	器械運動遊び(2)(目標2)
	第10回	器械運動遊び(3)(目標3)
	第11回	器械運動遊び(4)(目標3)
	第12回	活動の立案と運営(1)(目標1～3)
	第13回	活動の立案と運営(2)(目標1～3)
	第14回	活動の立案と運営(3)(目標1～3)
	第15回	活動の立案と運営(4)(目標1～3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 第2～7回　グループ発表の際には、グループごとに発表内容を立案、練習すること。
	復習	第1～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 第7、15回　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から、体育・運動・スポーツに関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	1．子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性の理解度 2．運動及び運動遊びを実践する修得度・応用度 3．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力
	評価の方法	提出物の内容 30%，発表課題の準備と内容 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第1回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。 授業の進行状況等の都合により、保育内容演習II（体育）の内容と一部入れ替える可能性がある。	

保育内容演習Ⅰ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT205
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（体育）
科目責任者	安藤　啓
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1090102　水1
教室	Eスタジオ,体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	基礎運動技能、遊び、体力、表現
学生の到達目標	１．子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性を理解すること。 ２．運動及び運動遊びの具体的な内容を習得し、発展的にアレンジする能力を身につけること。 ３．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	授業ガイダンス（目標1～3）
	第2回	リズム運動（1）（目標2）
	第3回	リズム運動（2）（目標2）
	第4回	リズム運動（3）（目標3）
	第5回	リズム運動（4）（目標3）
	第6回	リズム運動（5：グループ発表）（目標3）
	第7回	器械運動遊び（1）（目標2）
	第8回	器械運動遊び（2）（目標2）
	第9回	器械運動遊び（3）（目標3）
	第10回	器械運動遊び（4）（目標3）
	第11回	器械運動遊び（5）（目標3）
	第12回	活動の立案と運営（1）（目標1～3）
	第13回	活動の立案と運営（2）（目標1～3）
	第14回	活動の立案と運営（3）（目標1～3）
	第15回	活動の立案と運営（4）（目標1～3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 第2～7回　グループ発表の際には、グループごとに発表内容を立案、練習すること。
	復習	第1～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 第7、15回　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から、体育・運動・スポーツに関する書籍・論文・新聞記事等に目を通し、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	1．子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性の理解度 2．運動及び運動遊びを実践する修得度・応用度 3．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力
	評価の方法	提出物の内容30%、発表課題の準備と内容40%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の状況20%、準備や片づけの手伝いなどの協力・協調性の姿勢10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第1回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。 授業の進行状況等の都合により、保育内容演習II（体育）の内容と一部入れ替える可能性がある。	

保育内容演習Ⅱ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT206
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1090201　火1
教室	Eスタジオ,フットサルコート
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，伝承遊び
学生の到達目標	1．運動及び運動遊びの技術を修得すること。 2．運動及び運動遊びの指導内容・指導技術を修得し、発展的にアレンジする能力を身につけること。 3．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1～3)
	第2回	ボール遊び(1)(目標1)
	第3回	ボール遊び(2)(目標1)
	第4回	ボール遊び(3)(目標1)
	第5回	ボール遊び(4)(目標1～3)
	第6回	ボール遊び(5)(目標1～3)
	第7回	ボール遊び(6)(目標1～3)
	第8回	道具を使った伝承遊び(1)(目標1)
	第9回	道具を使った伝承遊び(2)(目標1)
	第10回	道具を使った伝承遊び(3)(目標1,2)
	第11回	道具を使った伝承遊び(4)(目標1,2)
	第12回	道具を使った伝承遊び(5)(目標1,2)
	第13回	運動の分類(目標3)
	第14回	幼児における運動の意義(目標3)
	第15回	総括，学習内容(ボール遊び，伝承遊び)の再確認(目標1～3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 第5～7回　グループ発表の際には、グループごとに発表内容を立案、練習すること。 第8～12回　運動課題ができるように練習をすること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から、体育・運動・スポーツに関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	1．運動及び運動遊びの技術修得度 2．運動及び運動遊びの指導内容・指導技術の修得度・応用度 3．学校あるいは保育所等の現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営する能力
	評価の方法	提出物の内容30%，発表課題の準備と内容40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，Ｔシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。 授業の進行状況等の都合により、保育内容演習I（体育）の内容と一部入れ替える可能性がある。	

幼児理解の理論と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT207
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1091001　月4
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-3 道徳、教育相談等（幼保）
授業のキーワード	子ども発達、アセスメント、保護者との関係性、カウンセリングマインド
学生の到達目標	１．乳幼児理解の姿勢の検討。子どもや親の立場に立つ「人間理解」　ができるようになる。 ２．乳幼児の発達を理解し、適切なかかわりができるようになる。 ３．事例を通してより深い理解と適切な支援ができるようになる。
授業内容	第1回　保育という臨床の場(目標１) 乳幼児の立場にたつとは 第2回　子どもが出会う幼児期の危機（目標２、３）と支援

第3回	乳幼児の発達についてⅠ（目標２、３） 言葉の発達と支援
第4回	乳幼児の発達についてⅡ（目標２、３） 社会性の発達と支援
第5回	乳幼児の発達についてⅢ（目標１、２） 生活習慣と体づくり
第6回	乳幼児を関係性から理解する（目標１、２、３） 母親・保育士・子供同士
第7回	発達をアセスメントする（目標１、２） 発達検査を用いて
第8回	感覚統合Ⅰ（目標２，３） 前庭器官、固有覚の働き
第9回	感覚統合Ⅱ（目標２，３） 支援法
第10回	描画療法。コラージュ（目標１、２）
第11回	事例検討Ⅰ（目標３） 目的、意義、体験
第12回	事例検討Ⅱ（目標３） 関係性のゆがみと回復
第13回	事例検討Ⅲ 障害児の理解と対応・保護者支援（目標１、２） 自閉症スペクトラム，ADHDなど
第14回	子どもの行動とかかりやすい病気について（目標２）
第15回	乳幼児の発達を支えるために（目標３） 連携について

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1～5回　乳幼児の発達に関連して起こる様々な問題について調べてくる。(指定された教科書の範囲を読む。) 第6～9回　幼児や幼児を取り巻く状況を理解するための発達のポイントやアセスメント方法について調べてる。 第10回　子どもにとっての「お絵かき」のもつ意味を調べてくる。 第11~13回　事例研究で取り上げる「登園拒否」「暴力的な子」「発達障害児」「虐待」などについての問題行動について調べてくる。また、保護者の思いについても調べ、発表できるようにする。 第14回　幼児期にかかりやすい病気について調べる。 第15回　保健センター、療育センターなどの役割について調べる。
	復習	第1回　「子どもを尊重する」とはどういうことなのか400字以内でまとめる。 第2回　幼児期の危機について問題と対応を授業の振り返りと教科書で整理しておく。 第3回　言葉の発達に必要なかかわりについて整理する。 第4回　各年齢の社会性の発達についてまとめる。また、社会性の発達を知るポイントとなる行動について整理する。 第5回　生活習慣を身につけるための工夫について整理する。 第7回　発達検査の持つ有効性と危険性について授業を思い出して整理する。 第9~10回　子どもの動きの過敏性や鈍感さなどを育てるための方法について整理する。 第11~12回　「事例」を通して子どもを多角的に見る必要性や視点を整理しておく。 第13回　障害のある子どもをもつ保護者に対してどのような支援をしようと思うか授業を思い出し、具体的に自分の意見を800字程度で述べる。 第14回　子どもの心と体の相関関係について整理する。 第15回　各機関の特徴、連携のありかたについて整理する。

	展開	・話し合い活動などには積極的に取り組む。 ・予習してきた内容については、積極的に発表する。 ・子どもを育てる方法について、短時間でできる集団活動を紹介する。

成績評価	評価の基準	1．乳幼児を理解しようとする姿勢や、子どもや親の立場にたった「人間理解」ができるようになっていること。 2．乳幼児の発達の基本を理解し、対応の基本的技術,態度が育っていること。 3．事例研究の大切さを理解し、子どもに対する幅広い見方が育っていること。
	評価の方法	受講態度20%, レポート・課題40% テスト40% で総合的に評価する。

教科書	書籍名	幼児保育トカウンセリングマインド
	著者名	氏原　寛・東山紘久
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2，600円
	ISBN・ISSN	ISBM：4-623-02493-8

推薦図書等

参考URL

備考

幼児理解と教育相談

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT207
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児理解と教育相談
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1091101　月4
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	必修	必修
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力
カリキュラムポリシー	6-3 道徳、教育相談等（幼保）

授業のキーワード

幼児の成長と発達，保育士の役割，保護者のニーズと支援の在り方，発達障害への対応，関係機関との連携

学生の到達目標

1.幼児の成長や発達を理解し、適切な支援ができるようにする。
2.幼児の行動を理解するためのアセスメントの仕方を身に付ける。
3.問題を抱えた幼児・保護者への心理的・教育的援助の技法を習得する。

授業内容

第1回	保育という臨床の場について概観する　（目標１）
第2回	各年齢の行動・発達の特徴について概観する　（目標１）

第3回	地域・家庭環境に関連して乳幼児期に起る様々な問題を概観する（目標１，２）
第4回	幼児理解の方法Ⅰ　幼児の行動観察の仕方と記録の仕方を学ぶ(目標２，３)
第5回	幼児理解の方法Ⅱ 大人との関係性から子供を理解する(目標２，３)
第6回	幼児理解の方法Ⅲ 発達検査や性格検査など様々なアセスメントの仕方を学ぶ(目標１，２)
第7回	幼児の発達を促す支援とは(目標３)
第8回	幼児期の子をもつ保護者の悩みとその支援(目標３)
第9回	相談の基本的な態度・技法（目標３）
第10回	カウンセリングマインドによる保護者支援と幼児の援助の仕方について(目標２，３)
第11回	自閉的な幼児への対応。自閉的な幼児の接し方，援助の仕方を学ぶ(目標１，２かんま３)
第12回	ADHDなど発達障害のある幼児への対応。援助の仕方を学ぶ(目標１，２，３)
第13回	ダウン症の子をもつ保護者から学ぶ（目標目標１，３）
第14回	虐待の発見と対応　どのように虐待を発見し，どう対処したら良いかを学ぶ(目標２，３)
第15回	幼児相談における他機関との協力・連携。(目標３) 保健センター・児童相談所など

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１―３回　乳幼児の発達に関連して起こる様々な問題について調べる。 第４―７回　幼児や幼児を取り巻く状況を理解するためのアセスメント方法を調べておく。 第８―13回　発達障害など様々な困難を抱えた幼児への働きかけについて，本を読んで理解しておく。 第14―15回　虐待する保護者の感じ方や児童相談所など他機関との連携の取り方を，本を読んで学んでおく。
	復習	第１―３回　乳幼児の発達に関連して起こる様々な問題を授業を振り返りながら自分なりにノートに整理する。 第４―７回　幼児や幼児を取り巻く状況を理解するためのアセスメント方法を授業を振り返りながら自分なりにノートに整理する。 第９―13回　発達障害など様々な困難を抱えた幼児への働きかけについて，授業を振り返りながら自分なりにノートに整理する。 第14―15回　保護者の感じ方や児童相談所など他機関との連携の取り方について，授業を振り返り，自分なりにノートに整理する。
	展開	・幼児の理解の仕方や保護者相談への対応、働きかけ 方など授業を振り返り，問題への対応により結果が異　なってくることを意識して，学ぶ。常に自分の直面す　る問題として考え，学ぶ。 ・自分に合った指導法をさがす。 ・積極的に授業に参加し，意見を発表する。

成績評価	評価の基準	・幼児理解の方法，今日的な問題行動についてその基本　的対応が身に付いていること ・相談の意味と相談に対する基本的態度，技能が身につ　いていること ・幼児の発達や困難性の理解の仕方が分かり，問題に応　じて適切な対応ができ，子どもの成長を援助できる力　をもつ。
	評価の方法	・授業への参加態度とレポート提出，期末試験の結果な　どから総合的に評価する。 ・受講態度20%　レポート提出 30%，期末試験 50%

教科書	書籍名	子どもの理解と保育・教育相談
	著者名	小田　豊・秋田　喜代美　編
	出版社	（株）みらい
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86015-143-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	幼児や保護者の気持ちを察知し，共感できる感性を持ってもらいたい。

幼児保育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT301
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児保育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1092001　月2
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-3 道徳、教育相談等（幼保）
授業のキーワード	幼児保育相談，保護者支援，カウンセリングマインド，今日的な問題，子育て支援のための連携
学生の到達目標	1.カウンセリングの意義や諸理論，面接の態度・技法について体得する。 2.幼児理解の方法、今日的な問題行動とその対応について理解できる。 3.関係機関が行っている子育て支援についてわかる。また，より良い支援を行うための保護者，関係機関との連携について理解できるようになる。

授業内容	第1回	幼児保育相談とは 保護者の子育て不安とその社会的背景(目標１)
	第2回	相談の形態と配慮（目標１） 現場における相談活動の重要性
	第3回	傾聴の技法Ⅰ（目標１） 非言語的技法とロールプレイ体験
	第4回	傾聴の技法Ⅱ（目標１） 言語的技法とロールプレイ体験
	第5回	相談の実際 ロールプレイ体験をする
	第6回	支援の実際Ⅰ 行動療法の理論を支援に生かす
	第7回	支援の実際Ⅱ（目標２） 認知療法の理論を支援に生かす
	第8回	幼児に対する相談的なかかわりとは ことばかけと対応の基本
	第9回	幼児期に抱く保護者の悩みと対応 言葉の発達・暴力的な子どもなど
	第10回	発達障害のある子をもつ保護者支援（目標２・３） 保護者理解と対応，連絡帳の活用
	第11回	幼児の行動から対応を考える。 ABA理論
	第12回	幼児理解の方法 発達検査を使って
	第13回	保育現場で保育士が抱く悩み（目標１） 保護者との関係・自己理解
	第14回	子育て支援の仕組みについて知る（目標３） 保健センター・福祉センターにおける乳幼児相談と保護者支援
	第15回	地域との連携のありかた(目標３) 保護者・養護施設・保健センター・福祉センターとの連携・体制づくり
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　保育士にカウンセリングマインドが必要な理由について考えてくる。 第2~5回　気持ちのよい「聞き方」や「態度」について教科書を読んでくる。 第6~7回　カウンセリングの理論について調べて、レポートする。 第8回　子どもとのコミュニケーションの取り方について400字程度にまとめてくる。 第6~7回　幼児期の子どもとの関係性を作っていく時に指導者として心がけることを400字以上にまとめてくる。 第9~10回　幼児期の保護者の悩みについて考え、調べてくる。 第11~12回　子ども理解の方法について考えてくる。 第13回　保育士に必要と思う力を2点あげ、レポート作成する。（800字以上） 第14回~15回　子どもの発達を支える連携のしくみについて調べ、発表できるように準備する。
	復習	第1回　カウンセリングの効果について整理する。 第2~5回　傾聴の技術についてまとめる。 第6~7回　相談の理論の中で、自分に合う理論とその理由につい

てレポートに800字程度でまとめる
第8回　言語環境としての「ことばかけ」の重要性をレポートにまとめる。
第9~10回　幼児理解の方法について授業を振り返り，まとめる。ABA理論，発達検査（S－M）
第10回　障害のある子どもをもつ保護者の気持ちの変化とアセスメントについて整理する。
第11~12回　問題行動をする子どもの母親や障害のある子どもをもつ保護者理解と支援のありかたについてまとめる。
第13回　保育の現場で保育士が抱く悩みと解決法について整理する。
第14~15回　各機関の特徴，相談の特徴，連携のありかたについて整理する。

展開

・照れないでロールプレイングしたり，自己開示する。自分の感性を大切にする。
・予習を生かしての話し合い活動，発表活動に積極的に参加する。
・身近な事例を取り上げることで，気づく力や、感じる力を高める。
・同じことを言っても人によって感じ方や受け止め方が異なるので，相手を理解して対応することの重要性を体感する。
・相談は知識や技術も必要である。しかし，一番大事なのは子どものために工夫する心や思いやる心であることを，授業を通じて理解する。
・グループ活動については，学生同士がいつも同じグループにならないように編成することを心がける。

成績評価

評価の基準

1.保育相談に関する基礎知識と基本的技術，態度が身についていること
2.幼児理解の方法，今日的な問題行動とその対応について基本的内容を理解していること
3.関係機関が行っている子育て支援についての基本的事項を知っていること，また，連携の大切さについて理解していること。
・植草学園大学子育て支援・実践センターにボランティアに1回以上行くこと。
・課題を提出すること。を基準とする。

評価の方法

受講態度 20%，レポート・課題 50%，テスト 30%で総合的に評価する。

教科書

書籍名	ピアヘルパーハンドブック
著者名	日本教育カウンセラー協会
出版社	図書文化
価格	1,500円
ISBN・ISSN	ISBN：978- 4 -8100-1343-6

推薦図書等

参考URL

備考

できるだけ、ピアヘルパー資格取得を目指すこと

幼稚園教育実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP301
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	髙木　夏奈子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1094001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
学生の到達目標	1.幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。

授業内容	実習時期 （1）前期実習・・・６月に１週間（目標1） （2）後期実習・・・１０月～１１月に３週間（目標2） 前後期とも同一園で実習する。 実習の内容 （1）見学と観察（目標1） （2）保育への参加と指導補助（目標1） （3）部分実習（目標2） （4）責任実習（目標２） 前期実習においては（1）（2）を主とする。 後期実習においては（１）～（4）をすべて行い指導案を作成して精錬実習を行う。 勤務・指導 （1）実習は園長及び園長の指定する担当指導教諭の指導によって行う。（目標1.2） （2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2） 報告・記録 （1）実習出勤簿に押印し、勤務状況を記録する。(目標3) （2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。(目標3) （3）実習評価表により、園長及び指導担当教諭の評価を受ける。(目標3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　翌日の保育について計画し、準備する。 部分実習や精錬授業の指導案を作成し、指導を受け、準備する。 復習　その日の保育を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。 展開　幼稚園教育の現状と課題について、関心をもち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　１）前期実習と後期実習をあわせて評価する。 ２）実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 ３）学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	同時に「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。

幼稚園教育実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP401
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
科目責任者	金子　功一
担当教員	髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1094101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
学生の到達目標	1.幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。

授業内容	1．実習期間１０月に２週間の実習を行う（目標1.2.3） 2．実習の内容 （1）見学と観察（目標1） （2）保育への参加と指導補助（目標1） （3）部分実習（目標1.2） （4）責任実習（目標1.2） 指導案を作成して精錬実習を行う。 3　勤務・指導 （1）実習は園長及び園長の指定する指導担当教諭の指導によって行う。（目標1.2） （2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2） 4　報告・記録 （1）実習出勤簿に押印し、勤務状況を記録する。(目標3) （2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。(目標3) （3）実習評価表により、園長及び指導教諭の評価を受ける。(目標3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　翌日の保育の予定を確かめ、教材等の準備をする。 部分実習・精錬実習について、指導案を立案する。 復習　その日の保育活動を振り返り所定の日誌に記録する。 展開　幼稚園教育の現状と課題に関心をもち，調べる。 自己を振り返り幼稚園教師としての適正や資質について吟味し研鑽する。
成績評価	評価の基準　1.幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶することについて理解し，自分の考えを表現できること。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　遊びの指導 著者名　幼少年教育研究所 出版社　同文書院 価格　3200円+税 ISBN・ISSN　9784810300376
参考URL	
備考	大学が定める実習履修要件を満たしていること。

幼稚園教育実習Ⅰ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP201
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ事前事後指導
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	髙木　夏奈子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1095001 水4（第4週を除く）
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	自由	自由
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
学生の到達目標	幼稚園教育の実際の場に入るにあたって,責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 1　実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。 2　実習の学習課題を明確にする。 3　実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

授業内容	第１回　実習の目的と概要（目標1・2） 第２回　幼稚園の実際・幼稚園の1日（目標1・2） 第３回　事前訪問の仕方と注意（目標1・2） 第４回　記録簿の書き方について・実習中の諸注意（目標1・2） 第５回　観察実習で学んだこと（目標2・3） 第６回　模擬部分実習―指導案の展開（目標1・2・3） 第７回　教材研究・直前指導（目標2・3） 第８回　総括　この科目において重要な点を理解し今後の実習につなげていけるように自己省察と切磋琢磨して学修の定着を図る。（目標1・2・3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　実習の手引きに目を通し,あらかじめ内容を理解する。また疑問点などをまとめておく。 実習先幼稚園について,インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について,必要な準備や練習等をする。 展開　幼稚園教諭としての心得や,保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　１）幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 ２）実習中は一貫して実習生らしい態度で健康的に学修を進めることができたか。 ３）実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 ４）記録簿を提出し、実習で学んだ内容の定着を図ることができたか。 評価の方法　以下の内容が認められれば実習の意欲がないとみなす。 １　授業欠席数が2回以上 ２　提出物の提出遅れが2回以上 ＊但し1・2とも正当な理由によって事前に連絡のあった場合はこの限りではない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　最新保育資料集2016 著者名　子どもと保育総合研究所　代表森上史朗 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2000円 ISBN・ISSN　978－4－623－06950－7
参考URL	
備考	・この科目を履修するにあたっては、保育現場体験があることが望ましい。 ・この科目の受講の心構えとして、幼稚園教育実習Ｉについての学修意欲を必要とする。

幼稚園教育実習Ⅱ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP201
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ事前事後指導
科目責任者	金子　功一
担当教員	髙木　夏奈子 栗原　ひとみ
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1095002 水4（第4週を除く）
教室	(前期)講義室10・11 (後期)講義室9
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	自由	自由
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭	
学生の到達目標	1.実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。 2.実習の学習課題を明確にする。 3.実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。	

授業内容	【事前指導】 第１回　授業の目的と概要 (目標1) 第２回　幼稚園の実際・幼稚園の1日(目標1,2) 第３回　事前訪問の仕方と注意(目標1,2) 第４回　実習記録簿の書き方について(目標1,2)実習中の諸注意(目標1,2) 第５回　指導案の書き方－なぜ指導案を立てるのか－(目標1,2) 第６回　模擬部分実習－指導案は実際にどのように展開されるのか－(目標1,2) 第７回　教材研究－実習直前指導(目標1,2) 【事後指導】 第8回　実習の報告(個別指導)(目標3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　幼稚園教育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また疑問点などをまとめておく。実習先幼稚園について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 展開　幼稚園教諭としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　1.幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 2.実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたかについて理解し，自分の考えをきちんと発表できること。 評価の方法　以下の内容が認められれば実習意欲がないとみなす。 1 授業欠席数が3回以上 2 提出物の提出遅れが3回以上 ＊但し1,2とも正当な理由によって事前に連絡のあった場合はこの限りではない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　最新保育資料集(幼稚園教育要領含む) 著者名　森上史郎監修 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2000円＋税 ISBN・ISSN
参考URL	
備考	

小学校教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP201
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育参観実習
科目責任者	川端　眞由美
担当教員	森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1096001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	4-2 教育の基礎的理解（小） 4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	学校の教育活動，授業の見方，子どもの姿	

学生の到達目標	1．実習に対する心構え,マナーを身に付けることができる。 2．学校の教育活動や児童の発達等の概要を理解できる。 3．教師の授業への取り組み方,子どもの活動の様子が理解できる。	
授業内容	7月上旬に近隣小学校３校にて実施。 参観実習事前指導で，心構えやマナーについて確認する。授業の見方,記録のとり方等を知る。(目標１) 学校参観を行い，授業参観や生活の様子を通して，教育諸活動のあらましや，取り組みの大体を知る。（目標２，３） 参観実習事後指導で，参観での学びをシェアするために，グループ討論・まとめを行い、グループ代表者による発表。事後指導の内容も含む参観実習記録簿の提出。(目標２，３)	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	参観実習の事前指導には必ず出席し，参観実習の意義を理解しておくこと。また，参観にふさわしい態度，服装，注意事項を確認すること。
	復習	記録を整理し，事後指導に備えること。事後指導の後には，参観での体験をもとに大学の授業に臨むようにすること。
	展開	立ち振る舞いや言葉遣い等に十分気を付けること。3年次の教育実習に向けて、大学での授業や学外のインターンシップに臨むようにすること。
成績評価	評価の基準	1.実習に対する心構え、マナーを身に付けることができること。 2.学校の教育活動や、児童の発達等の概要を理解できること。 3.教師の授業への取り組み方、子どもの活動の様子が理解できること。
	評価の方法	参観の態度（ 50%）、参観記録（ 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	小学校の免許取得希望者は参加すること。	

小学校教育実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP301
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習Ⅰ
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 馬場　彩果 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1097001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	教職，規範，自覚，適性	

学生の到達目標	1．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつ。 2．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けて努力できる。 3．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもつ。
授業内容	5月～7月に実施。 第1週目　学校経営や服務について知る。教員や児童の様子をよく観察し，記録をとる。（目標1） 第2週目　各教科領域の指導法等について学び，児童への対応等について，指導教官から具体的に学ぶ。（目標2） 第3週　各教科領域で授業を実践し，さまざまな状況に応じての対応力を身につける。（目標2，3） 第4週　精錬授業等，実際の指導場面を通して，指導の在り方について学んでいく。適性を考える。（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　実習の手引きをよく読み，事前の準備をする。 実習の事前指導を思い起こし，心の備えもしておくこと。 復習　記録簿は早めに整理し，反省を加える。 手引きを見て事後の手続等をきちんとする。 展開　実際に子どもたちと関わり，実務に触れたことをまとめていく。
成績評価	評価の基準　1．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつことができたか。 2．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けて努力することができたか。 3．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもてたか。 評価の方法　達成目標の1，2，3について、実習校での評価を参考とする(100%)。
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	○小学校教員として必要とされる生活指導と教科指導の基礎的な知識を身につけていること。 ○現場に出ると実習生であっても「先生」という立場になるという自覚を持つこと。 ○現場では、担当教員や管理職の指示等に従うこと。 ○服装等は、学校現場にふさわしいものであること。 ○報告・連絡・相談を常に心がけること。

小学校教育実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP302
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習Ⅱ
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 馬場　彩果 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1097101
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	自由	自由
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	教職，規範，自覚，適正	

学生の到達目標	１．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつ。 ２．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。 ３．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもつ。
授業内容	９月～11月に実施。 第１週目　学校経営や服務について知る。教員や児童の様子を観察し，各教科の指導法について学ぶ。（目標１，２） 第２週目　各教科等で授業を実践し，実際の場面を通して，指導の在り方について学んでいく。（目標２，３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習　実習の手引きをよく読み，実習校に合わせて対処できるように準備をしておく。 事前指導の内容を復習し，心の備えもしておく。 復習　早めに記録簿を整理し反省を加えておく。 事後指導に向けて実習にあった事柄を感想もまじえて整理しておく。 展開　実際に子どもたちと関わり，実務に触れたことをまとめていく。
成績評価	評価の基準　１．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつことができたか。 ２．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができたか。 ３．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもつことができたか。 評価の方法　達成目標の１，２，３について、実習校での評価を参考とする(100%)。
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	○小学校教員として必要とされる生活指導と教科指導の基礎的な知識を身につけていること。 ○現場に出ると実習生であっても「先生」という立場になるという自覚を持つこと。 ○現場では、担当教員や管理職の指示等に従うこと。 ○服装等は、学校現場にふさわしいものであること。 ○報告・連絡・相談を常に心がけること。

小学校教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP202
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習事前事後指導
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 早川　雅晴
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1098001　（前期）月5,　（後期）月5,　水5
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	小学校教育活動，実習，児童，小学校教諭
学生の到達目標	１．実習の意義，心構えについて理解する。 ２．学校現場の概要を理解し，実習を行うにあたっての基礎的能力や態度をについて知る。 ３．実習で学んだことを理解し，今後の大学生活に生かす。

授業内容

※この科目は通期です。

第１回：ガイダンス・実習の目的と概要等について知る。実習校への提出書類の概要を知る。（目標１,２）
第２回：実習にあたっての留意事項と心構えや諸準備について知る。実習校への提出書類を完成させる。（目標１,２）
第３回：授業観察の視点・教材研究の方法・指導案の書き方の概要を知る。（目標１，２）
第４回： 発問計画，板書計画，教具や資料の準備等について知る。（目標２）
第５回：教科等の実践上の指導(指導案の書き方等）を具体的に知る。（目標２）
第６回：服務等について確認する。事前訪問の注意 記録簿の書き方，挨拶,打ち合わせでの話し方等について確認する。（目標２）

＜事後指導＞
第７回：実習での学びを共有する。実習中の体験をグループで話し合う。（目標３）
第８回：将来の進路に対して、具体的にどのような手順で学んだり努力していけば良いのかを確認し合う。（目標３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習

第1回：事前に渡されている「実習の手引き」に目を通してくる。
第2回：「実習の手引き」の実習にあたっての留意事項と心構えについて目を通してくる。
第3回：「実習の手引き」の授業観察の視点・教材研究の方法等について目を通してくる。
第4回：発問計画、板書計画、教具や資料の諸準備ついて調べてくる。
第5回：教科等の実践上の指導について、これまで指導法等で学んだことを確認してくる。
第6回：事前訪問や記録簿等の書き方のチェックをしてくる。
第7回：事後指導で体験を話し合うために、実践をまとめてくる。
第8回：教員採用試験対策等について、自分の考えをまとめてくる。

復習

第1回：実習に関しての提出書類等の確認をする。
第2回：実習にあたっての心構えを整理する。
第3回：指導案の書き方等を整理する。
第4回：発問計画、板書計画、教具や資料の諸準備等について整理する。
第5回：教科等の実践上の指導について、これまで指導法等で学んだことを整理する。
第6回：事前訪問や記録簿等の書き方を整理する。
第7回：事後指導で体験を話し合った経験をまとめておく。
第8回：教員採用試験対策等について、自分の考えをまとめる。

展開

第1回：実習に関しての提出書類等を確認する。
第2回：実習にあたっての心構え等を理解する。
第3回：指導案の書き方等を理解する。
第4回：発問計画、板書計画、教具や資料の諸準備等について理解する。
第5回：教科等の実践上の指導について、これまで指導法等で学んだことを確認する。
第6回：事前訪問や記録簿等の書き方を理解する。
第7回：事後指導で体験を話し合う。
第8回：教員採用試験対策等について、今後の学習について理解する。

成績評価

評価の基準

１，実習の意義、心構えについて理解することができたか。
２，実習を行うにあたっての基礎的能力や態度を身につけることができたか。
３，実習で学んだことを理解し、今後の大学生活に活かそうという心構えができたか。

評価の方法

記録簿，レポート等の内容
学習への取り組み方

教科書

推薦図書等	
参考URL	
備考	○小学校教育実習を実施するために必要とされる要件（成績・修得単位）を満たしていること。 ○欠席については、必ず補講を行う。

介護等体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP203
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	介護等体験実習
科目責任者	早川　雅晴
担当教員	宮下　裕一 菊地　一文
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1099001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 共生社会 カリキュラムポリシー　3 共生社会
授業のキーワード	障害者、高齢者、特別支援学校、社会福祉施設、介護・介助
学生の到達目標	１．障害者・高齢者等に対する介護・介助及び交流等の体験により支援の必要な方たちへの理解を深められるようになる。 ２．社会福祉施設職員や特別支援学校職員の仕事の内容や支援の方法について理解するようになる。

授業内容	原則６月～２月に実施 事前指導： ①教員免許特例法と今後の手続き及び申込書類等の書き方について(目標２) ②申込書類等の作成及び特別支援学校のガイダンス(目標２) ③「介護等体験学生プロフィール」の作成及び社会福祉施設のガイダンス（目標２） 社会福祉施設： 実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける（目標１．２） １日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ２日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ３日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ４日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ５日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） 特別支援学校： 実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける（目標１．２） １日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ２日目：作成された回ごとの体験記録について指導を受ける（目標１．２） 事後指導： ①学生による体験発表（目標２） ②学生による体験発表と総まとめの講義（目標２）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習　実習の手引きをよく読み、早めに事前の準備をする。 復習　記録簿は早めに整理し、反省を加える。 手引きを見て事後の手続等をきちんとする。 展開　障害者・高齢者等への支援内容についてまとめておく。
成績評価	評価の基準　１．障害者・高齢者等に対する介護・介助及び交流等の体験により支援の必要な方たちへの理解を深めること。 ２．社会福祉施設職員や特別支援学校職員の仕事の内容や支援の方法について理解すること。 評価の方法　事前・事後及び体験実習の出席状況・参加の姿勢を考慮し、体験実習先指導者の評価及び実習記録等で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　介護等体験ガイドブック　フィリア 著者名　全国特別支援学校長編書 出版社　ジアース教育新社 価格　1008円 ISBN・ISSN　ISBN978-4-921124-73-1
参考URL	
備考	注意事項：小学校教諭免許状の取得には、介護等体験（特別支援学校において2日間、社会福祉施設等で5日間）が義務付けられていますが、特別支援学校教諭免許状を取得する場合は不要。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

教職実践演習（幼児保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET402
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼児保育）
科目責任者	安藤　則夫
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 広瀬　由紀 栗原　ひとみ 實川　慎子 金子　功一
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102201　月2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	子どもの状況理解、多面的な見方、総合的な実践力 自己理解と省察、保育に関する現代的課題

学生の到達目標	１．今まで積み重ねた知識や体験を有機的に統合し、不足を補い保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 ２．保育現場への理解を深め、想定される諸問題への解決に向けた対応や判断方法等について理解を深めることができる。 ３．保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め、今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察できるようになる。
授業内容	第1回　ガイダンス・他機関への見学について（グループ分け含）（目標１，２，３） 担当教員: 安藤　則夫・広瀬　由紀・栗原　ひとみ・實川　慎子 第2回　事例について考える①自閉症など発達障害に関する事例への働きかけについて、討論・ロールプレイングを通じて考え、学ぶ。（目標１、２） 担当教員: 安藤　則夫 第3回　事例について考える②乱暴など逸脱行為に関する事例への働きかけについて、討論・ロールプレイングを通じて考え、学ぶ。（目標１、２） 担当教員: 安藤　則夫 第4回　改訂幼稚園教育要領①（目標１） 担当教員: 栗原　ひとみ 第5回　改訂幼稚園教育要領②（目標１） 担当教員: 栗原　ひとみ 第6回　子ども同士の関わりを理解する①（目標１，２） 担当教員: 金子　功一 第7回　子ども同士の関わりを理解する②（目標１，２） 担当教員: 金子　功一 第8回　若葉区保健福祉センター見学（30名）（目標２・３） 担当教員: 広瀬　由紀 第9回　若葉区保健福祉センター見学（30名）（目標２・３） 担当教員: 広瀬　由紀 第10回　他機関との連携に関するまとめ（グループワーク）（目標２・３） 担当教員: 広瀬　由紀 第11回　保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標１，２，３） 担当教員: 植草　一世 第12回　保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標１，２，３） 担当教員: 植草　一世 第13回　子育て中の保護者について考える（こいっく事前指導含）（目標１，２，３） 担当教員: 實川　慎子 第14回　こいっく参加（目標１，２，３） 担当教員: 實川　慎子 第15回　こいっく参加（目標１，２，３） 担当教員: 實川　慎子
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　第1回、４～７回、11～13回 参考URLを参考にしながら改訂のポイントについて事前に調べておくこと。〈改訂のポイント〉 第２～３回、８～10回 発達障害に関する事例および逸脱行為に関する事例を読み、どのように働きかけたら良いか理解しておく〈事例について考える〉

		第8～9・14～15回 マナーや参加態度に失礼の無いように身だしなみ等を整える〈他機関・こいっく参加〉
	復習	第1回、４～７回、11～13回 授業後は、改訂のポイントについてフィードバック学修をし、学校教育制度全体の改革の方向性を俯瞰し、知識の定着を試みること。〈改訂のポイント〉 第8～9・14～15回 ノートに発達障害児および逸脱行為を示す幼児への働きかけで話し合ったこと、学んだことをまとめる。〈事例について考える〉 第8～9・14～15回 見学・参加終了後は、その日のうちに記録をまとめる。〈他機関・こいっく参加〉
	展開	保育を行ったり、本を読んで学ぶときに、実践的に物事をとらえ、解決策が見いだせるようになる。
成績評価	評価の基準	１．保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認できる。 ２．保育現場における諸問題への解決に向けた対応や判断方法等について深く理解している。 ３．保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め、保育の専門性と保育者の役割を再考察できるようになる。
	評価の方法	目標への達成度　40%、レポート　30%、授業内での発表等態度　30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm 保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000146738.html	
備考	本授業は、グループ学習のほか、学部講師によるロールプレイング、学園内子育て支援施設への参加、学外への見学を含む。 グループ分けは、希望参観施設により自動的に振り分ける。	

教職実践演習（幼児保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET402
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼児保育）
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	安藤　則夫 植草　一世 髙木　夏奈子 広瀬　由紀 實川　慎子 金子　功一
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102202　月2
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-1 幼児教育の領域・内容 6-4 幼稚園教育実践等

授業のキーワード	子どもの状況理解　多面的な見方　総合的な実践力 自己理解と省察保育の現代的課題
学生の到達目標	1　今まで積み重ねた知識や体験を有機的に統合し、不足を補い保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 2　保育現場への理解を深め、想定される諸問題への解決や判断方法等について理解を深めることができる。 3　保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め、今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察できるようになる。
授業内容	第1回　ガイダンス　他機関への見学について（グループ分け含む）（目標１、２、３） 担当教員: 栗原　ひとみ・安藤　則夫・広瀬　由紀・實川　慎子・金子　功一 第2回　改訂幼稚園教育要領①（目標１） 担当教員: 栗原　ひとみ 第3回　改訂幼稚園教育要領②（目標１） 担当教員: 栗原　ひとみ 第4回　子ども同士の関わりを理解する①（目標１、２） 担当教員: 金子　功一 第5回　子ども同士の関わりを理解する②（目標１、２） 担当教員: 金子　功一 第6回　保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標１、２、３） 担当教員: 植草　一世 第7回　保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標１、２、３） 担当教員: 植草　一世 第8回　千城台北小学校見学（目標２、３） 担当教員: 広瀬　由紀 第9回　千城台北小学校見学（目標２、３） 担当教員: 広瀬　由紀 第10回　他機関との連携に関するまとめ（グループワーク）（目標２、３） 担当教員: 広瀬　由紀 第11回　子育て中の保護者について考える（こいっく事前指導含）（目標１、２、３） 担当教員: 實川　慎子 第12回　事例について考える②自閉症など発達障害を学ぶ（目標１、２） 担当教員: 安藤　則夫 第13回　事例について考える③自閉症など発達障害を学ぶ（目標１、２） 担当教員: 安藤　則夫 第14回　こいっく参加（目標１、２、３） 担当教員: 實川　慎子 第15回　こいっく参加（目標１、２、３） 担当教員: 實川　慎子
予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習　予習・復習の内容 （毎回45分程度） 予習 第1～6・12～13回 参考URLを参考にしながら改訂のポイントについて事前に調べてお

		くこと。〈改訂のポイント〉 第7～11回 発達障害に関する事例および逸脱行為に関する事例を読み、どのように働きかけたら良いか理解しておく〈事例について考える〉 第8～9・14～15回 マナーや参加態度に失礼の無いように身だしなみ等を整える〈他機関・こいっく参加〉
	復習	復習 第1～6・12～13回 授業後は、改訂のポイントについてフィードバック学修をし、学校教育制度全体の改革の方向性を俯瞰し、知識の定着を試みること。〈改訂のポイント〉 第7～11回 ノートに発達障害児および逸脱行為を示す幼児への働きかけで話し合ったこと、学んだことをまとめる。〈事例について考える〉 第8～9・14～15回 見学・参加終了後は、その日のうちに記録をまとめる。〈他機関・こいっく参加〉 展開 保育を行ったり、本を読んで学ぶときに、実践的に物事をとらえ、解決策が見いだせるようになる。
	展開	・授業後は、改訂のポイントについてフィードバック学　修し、学校教育制度全体の改革の方向性を俯瞰し、知　識の定着を試みること。〈改訂のポイント〉 ・ノートに発達障害児及び逸脱行為を示す幼児への働きかけで話し合ったこと、学んだことをまとめる。〈事例について考える〉 ・見学・参加終了後は、その日のうちに記録をまとめる。〈他機関・こいっく参加〉
成績評価	評価の基準	１．保育者としての必要な知識・技能を十分に修得している。 ２．保育現場における諸問題への解決に向けた対応や判断方法等について十分に理解している。 ３．保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め保育の専門性と保育者の役割を再考察できる。
	評価の方法	授業内の課題等40%　レポート30%　授業内での発表態度30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）	
備考	本授業は、グループ学習のほか、学部講師によるロールプレイング、学園内子育て支援施設への参加、学外への見学を含む。 クラス分けは各クラス20名程度になるように自動的に振り分ける。 希望参観施設は、所属クラスにかかわらず、施設の受け入れ可能な人数に応じて調整する。 参観施設の日程は、施設の都合等により、シラバスに示す順番と異なり、前後することがある。	

教職実践演習（幼児保育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET402
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼児保育）
科目責任者	實川　慎子
担当教員	安藤　則夫 植草　一世 髙木　夏奈子 広瀬　由紀 栗原　ひとみ 金子　功一
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102203　月2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　6-4 幼稚園教育実践等
授業のキーワード	子どもの状況理解、多面的な見方、総合的な実践力、自己理解と省察、保育に関する現代的課題
学生の到達目標	1．今まで積み重ねた知識や体験を有機的に統合し、不足を補い保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 2．保育現場への理解を深め、想定される諸問題への解決に向けた対応や判断方法等について理解を深めることができる。 3．保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め、今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察できるようになる。

授業内容	第1回	ガイダンス・他機関への見学について（グループ分け含）（目標1，2，3） 担当教員: 實川　慎子・安藤　則夫・広瀬　由紀・栗原　ひとみ
	第2回	子ども同士の関わりを理解する①（目標1，2） 担当教員: 金子　功一
	第3回	子ども同士の関わりを理解する②（目標1，2） 担当教員: 金子　功一
	第4回	保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標1，2，3）★ 担当教員: 植草　一世
	第5回	保育者を目指すにあたって（ロールプレイング）（目標1，2，3）★ 担当教員: 植草　一世
	第6回	子育て中の保護者について考える（こいっく事前指導含）（目標1，2，3） 担当教員: 實川　慎子
	第7回	事例について考える①自閉症など発達障害に関する事例への働きかけについて、討論・ロールプレイングを通じて考え、学ぶ。（目標1，2） 担当教員: 安藤　則夫
	第8回	療育センターor特別支援学校見学(15名)（目標2，3） 担当教員: 広瀬　由紀
	第9回	療育センターor特別支援学校見学(15名)（目標2，3） 担当教員: 広瀬　由紀
	第10回	他機関との連携に関するまとめ（グループワーク）（目標2，3）★ 担当教員: 広瀬　由紀
	第11回	事例について考える②乱暴など逸脱行為に関する事例への働きかけについて、討論・ロールプレイングを通じて考え、学ぶ。（目標1，2） 担当教員: 安藤　則夫
	第12回	改訂幼稚園教育要領①（目標2） 担当教員: 栗原　ひとみ
	第13回	改訂幼稚園教育要領②（目標2） 担当教員: 栗原　ひとみ
	第14回	こいっく参加（目標1，2，3）★ 担当教員: 實川　慎子
	第15回	こいっく参加（目標1，2，3）★ 担当教員: 實川　慎子
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1～6・12～13回 参考URLを参考にしながら改訂のポイントについて事前に調べておくこと。〈改訂のポイント〉 第7～11回 発達障害に関する事例および逸脱行為に関する事例を読み、どのように働きかけたら良いか理解しておく〈事例について考える〉 第8～9・14～15回 マナーや参加態度に失礼の無いように身だしなみ等を整える〈他機関・こいっく参加〉
	復習	第1～6・12～13回 授業後は、改訂のポイントについてフィードバック学修をし、学校教育制度全体の改革の方向性を俯瞰し、知識の定着を試みること。〈改訂のポイント〉 第7～11回 ノートに発達障害児および逸脱行為を示す幼児への働きかけで話し合ったこと、学んだことをまとめる。〈事例について考える〉 第8～9・14～15回 見学・参加終了後は、その日のうちに記録をまとめる。〈他機関・こいっく参加〉

	展開	保育を行ったり、本を読んで学ぶときに、実践的に物事をとらえ、解決策が見いだせるようになる。
成績評価	評価の基準	１．保育者として必要な知識・技能を十分に修得している。 ２．保育現場における諸問題への解決に向けた対応や判断方法等について十分に理解している。 ３．保育・幼児教育に関する現代的課題について理解を深め、保育の専門性と保育者の役割を再考察できる。
	評価の方法	授業内の課題等40%　レポート30%　授業内での発表態度30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm	
備考	・★マークは、レポート提出を求める。 ・本授業は、グループ学習のほか、学部講師によるロールプレイング、学園内子育て支援施設への参加、学外への見学を含む。 ・クラス分けは、各クラス20名程度になるように自動的に振り分ける。 ・希望参観施設は、所属クラスにかかわらず、施設の受け入れ可能な人数に応じて調整する。 ・参観施設の日程は、施設の都合等により、シラバスに示す順番と異なり、前後することがある。 ・幼稚園教諭と園児の出会い（もりのえんそく補助）（目標1，2，3）（高木）を補講として実施する。 オフィスアワー・連絡先は以下の通りとする。 實川（火曜2限　n-jitsukawa@uekusa.ac.jp） 高木（月曜3限　k-takagi@uekusa.ac.jp）	

教職実践演習（初等教育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（初等教育）
科目責任者	高野　良子
担当教員	戸丸　俊文 早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102101
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	省察、課題探求力、ロール・プレーイング技法、実践演習、自己点検

学生の到達目標	本授業は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものであり、自己にとっての課題を自覚し、教育者としての意欲と自信を持って出発できることをねらいとする。 1.教職に関する基本的な理解を確かなものとする。 2.教員としての自覚を持つとともに、他の教職員と協力・連携して職務を遂行し、児童の抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる資質・能力を身につける。 3.学習指導の基本・指導技術を身につけるとともに、個々の児童に応じた適切な実践的指導力の充実を図る。
授業内容	第1回　オリエンテーション：学び・体験の振り返る(学びのカルテを利用し自己の課題を自覚する）。　(目標1) 担当教員: 高野　良子 第2回　望ましい教師像（使命感・責任感、教育的愛情）を考える。：グループ討議と発表　(目標1) 担当教員: 戸丸　俊文 第3回　学級の1年間と学級作りの実際を検討する。：グループ討議　(目標2) 担当教員: 戸丸　俊文 第4回　学習指導案の意義と作成上の留意点を検討する。　(目標3) 担当教員: 早川　雅晴 第5回　子ども主体の授業を実践する。：提案授業　(目標3) 担当教員: 戸丸　俊文 第6回　模擬授業と授業研究①導入編：模擬授業、全体質疑と検討　(目標3) 担当教員: 戸丸　俊文 第7回　模擬授業と授業研究②展開編：模擬授業、レポート提出　(目標3) 担当教員: 戸丸　俊文 第8回　児童・生徒の問題行動への対応を学ぶ。：グループ討議　(目標2) 担当教員: 早川　雅晴 第9回　保護者・地域との連携を学ぶ。：グループ討議　(目標2) 担当教員: 早川　雅晴 第10回　よりよい教員となるための課題探究力の追及①：実践演習、グループ討議　(目標1・2・3) 担当教員: 高野　良子 第11回　特別な支援を必要とする子の支援を学ぶ。：演習、グループ討議(目標3) 担当教員: 早川　雅晴 第12回　課題探究力の追及②：グループ・ワークと討議　(目標1・2・3) 担当教員: 高野　良子 第13回　課題探究力の追及③：全員による発表　(目標1・2・3) 担当教員: 高野　良子 第14回　まとめ～自己課題解決に向けて①：個別活動　(目標1・2・3) 担当教員: 早川　雅晴 第15回　まとめ～自己課題解決に向けて②：レポート作成　(目標1・2・3) 担当教員: 高野　良子
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　・シラバス及び事前配布レジュメの内容を確認する。(第1ー15回)

		・現代の教育が直面している問題や教員の職務等に常に関心を持ち、関連図書や新聞報道などで情報収集をする。(第1ー15回)
	復習	・業の要旨をまとめておくこと。(第1ー15回) ・事前に指示された課題を期限までに提出すること。。(第1ー15回)
	展開	・自らの課題を点検し、それに関する最新の図書や研究成果等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	・学習の達成目標に対する到達の度合いを評価することを基本とする。 1.教職に関する基本的な理解を確かなものとなったか。 2.教員としての自覚を持つとともに、他の教職員と協力・連携して職務を遂行し、児童の抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる資質・能力を身につけることができたか。 3.学習指導の基本・指導技術を身につけるとともに、個々の児童に応じた適切な実践的指導力の充実を図ることができるようになったか。
	評価の方法	授業への参加姿勢・意見発表（30%）＋提出したレポート（30%）＋課題発表（40%）等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	『「考える教師」－省察、創造、実践する教師－』
	著者名	山崎準二他
	出版社	学文社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978－4－7620－2245－6
参考URL	文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm	
備考	・自覚的・積極的な受講が望まれる。 ・基本、演習形式で進め、双方向・参加型・協働型のアクティブ・ラーニングの視点から授業を展開していく。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp	

教職実践演習（初等教育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（初等教育）
科目責任者	村上　悦子
担当教員	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102302　金3
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　4-4 小学校教育実践等
授業のキーワード	自らの課題　教師の資質向上　学校組織と学級経営　対人関係能力
学生の到達目標	1.教育課題の中で自らの課題について焦点を絞ることができるようになる。 2.テーマを設定し，自ら追求し学修を深めることができるようになる。 3.教育現場で生かすための最終報告をまとめることができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業のねらい，自己診断）
	第2回	「望ましい教員像」についての課題から課題を絞り込む(目標1)
	第3回	講演「小学校現場における地域との関わり」（目標２）
	第4回	児童主体の授業を実践する。提案授業（目標２）
	第5回	教科授業の諸問題・模擬授業①（図工等）（目標２）
	第6回	教科授業の諸問題・模擬授業②（道徳等）（目標２）
	第7回	教科授業の諸問題・模擬授業③（音楽等）（目標２）
	第8回	「保護者との対応」「クレーム対応」（目標２）
	第9回	特別な支援を要する児童の支援を学ぶ（目標２）
	第10回	講演「子どもと親のサポートセンターについて」（目標２）
	第11回	対人関係理解と教師の対応（目標２）
	第12回	場面指導，言葉遣いや電話の対応（目標２）
	第13回	講演「より良い教員になるための心構え」（目標２）
	第14回	児童との出会い（学級開き）（目標２）
	第15回	まとめ～自己課題解決に向けて　レポート作成(目標３)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2~15回 毎回のテーマについて調べたり、模擬授業の準備をしたりする。４月に小学校に着任後、児童との出会いを想定して「学級開き」を考え準備や練習をする。
	復習	第1~15回 演習で学んだことを振り返りる。各学年の「学級開き」を見合ったことをもとにシートにまとめる。シートにコメントを入れ返却する。
	展開	各学年の「学級開き」を見合い，良い点や改善点等について話し合う。
成績評価	評価の基準	1.教育課題の中で自らの課題について焦点を絞ることができたか。 2.テーマを設定し，自ら追求し学修を深めることができたか。 3.教育現場で生かすための最終報告をまとめることができたか。
	評価の方法	発表レポート（６０%）　授業参加態度・課題追求の姿勢（４０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	履修のカルテと教育実習ノートを持参する。 オフィス・アワーは，教員マイページで確認をすること。	

教職実践演習（初等教育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET401
開講年度	2017年度
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（初等教育）
科目責任者	田所　明房
担当教員	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1102103
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等
授業のキーワード	自己評価　実践的習得　教師の職務　教師としての技量	
学生の到達目標	１．特別支援教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って自己の職務を果たすことができる。また、教員としての自覚を持ち、障害のある子どもに寄り添い、子どもの自立と社会参加のために必要な状況を同僚と協力して作ることができる。 ２．個々の障害の状況を理解し、本人・保護者との信頼関係を高め、子どもの抱える課題に適切に対応できる。 ３．特別支援学校学習指導要領及び解説書に即し、特別支援教育の基本を踏まえた指導のあり方、指導技術を実際の教師としての生活を想定しながら、身につける。	

授業内容	第1回	オリエンテーション(演習の趣旨を理解し、４年間の学習を振り返り、自己の課題を確認する)(目標１)
	第2回	個別の指導計画と学習評価について①　(目標２．３)
	第3回	個別の指導計画と学習評価について②　(目標２．３)
	第4回	子どもの理解と対応(各種障害の理解・教育課程の理解)　(目標１．２)
	第5回	学級経営の理解と対応①(一日の流れを想定した環境設定・子どもの動線の整理・発達障害への対応)(目標３)
	第6回	学級経営の理解と対応②(発達段階の異なる小集団の指導・ティームティーチングのあり方・学級経営案とのつながり)(目標３)
	第7回	学級経営の理解・授業作り①(特別支援学級・通級学級の授業を作る)模擬授業(個々の実態に即した授業・教科学習)　(目標３)
	第8回	学級経営の理解・授業作り②(肢体不自由障害の授業を作る・自立活動・医療的ケア)模擬授業(個々の実態に即した授業・評価・教師の役割)　(目標３)
	第9回	学級経営の理解・授業作り③(知的障害の授業を作る・各教科等を合わせた指導)模擬授業(個々の実態に即した授業・アクティブラーニングの授業)　(目標３)
	第10回	学級経営の理解・授業作り④(特別支援学級授業参観・授業研究会参加)(目標３)
	第11回	校内・校外の連携①（他学部・チーム学校・進路指導・他機関との移行時連携:自立に向けての視点）（目標１．２）
	第12回	校内・校外の連携②（特別支援教育コーディネーター・他機関との連携:教育相談的視点））（目標１．２）
	第13回	保護者との連携（面談・学級だより・連絡帳・個別の指導計画の作成）（目標２）
	第14回	子どもたちの安全と学校の危機対応（自然災害・事故・人権・個人情報保護）（目標１．３）
	第15回	子どもに出会う準備（教員に求められる資質・能力と専門性・自己評価と今後の課題の認識・目標申告）（目標１）

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	☆教育実習・たまごプロジェクト等の経験を毎回のテーマに沿って振り返り、まとめる。課題については、図書、ＨＰ等で調べる。 第1回 ４年間の学習を振り返り、卒業後の生活を見通し、自己の課題についてまとめておく。 第２回～第３回 特別支援教育の現場で活用されている「個別の指導計画・学習評価」について、その役割や書式等について調べておく。 第４回 特別支援学級、通級学級、特別支援学校の対象となる子どもたちの障害の様子と教育課程について調べておく。 第５回～第６回 特別支援学級、通級学級、特別支援学校の学級経営において、配慮すべき事項について調べておく。 第７回～第１０回 特別支援学級、通級学級、特別支援学校での授業はどのように計画され展開しているか調べておく。教科書等で指導案作成の実際を学ぶとともに、模擬授業に向けて、指導案作成、教材作成の準備をしておく。 第１１回～第１３回 学校と保護者、関係諸機関との連携にはどのようなものがあり、どんな役割を果たしているか調べておく。コーディネーターの仕事の内容や果たすべき役割について調べておく。 第１４回～第１５回 子どもたちが安全・安心な学校生活を送るために、学校・教師がどのように意識して、危機対応に関する準備・計画・体制をとるべきか調べておく。 ４月から教職に携わるにあたり、望ましい教師像、教育愛、使命

感、必要される資質能力などを再確認しておく。また、服務に関する事項について調べておく。

復習　☆各回ごとに、自己の課題と照合して、振り返りシートを作成し、新たに修得できた点をまとめて提出する。必要に応じて、次回の授業でアドバイスする。
第１回～第６回
配付された資料・レジメ、各自が作成するノート等で、特別支援教育の理解を深める。現場での「個別の指導計画・学習評価」特別支援学級・学校での「教育課程」「学級経営」の留意点などについて振り返る。
第７回～第１０回
特別支援学級、通級学級、特別支援学校での授業づくり、授業の展開、学習指導案作成の要点を振り返る。模擬授業で展開された、また、自分で展開する授業に関する指導案・教材を作成する。
第１１回～第１３回
学校と保護者、関係諸機関との連携の成果と課題についてまとめる。特別支援教育コーディネーターの学校内での位置づけ、役割りなどについて確認する。
第１４回～第１５回
特別支援教育に携わる教師として、望ましい教師像、服務のあり方、学校の危機対応について振り返る。４月から、障害のある子どもに寄り添い、子どもの自立と社会参加を支える仕事をすることへの思いを新たにする。

展開　☆関連図書などにより、各回のテーマを掘り下げてまとめる。必要に応じて、現職の教員を講師とした授業を行うとともに、模擬授業や学校現場の参観を行う。

成績評価

評価の基準
１．特別支援教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って自己の職務を果たすことができる。また、教員としての自覚を持ち、障害のある子どもに寄り添い、子どもの自立と社会参加のために必要な状況を同僚と協力して作ることができる。
２．個々の障害の状況を理解し、本人・保護者との信頼関係を高め、子どもの抱える課題に適切に対応できる。
３．特別支援学校学習指導要領及び解説書に即し、特別支援教育の基本を踏まえた指導のあり方、指導技術を実際の教師としての生活を想定しながら、身につける。

評価の方法
授業内での発表・模擬授業・討議への参加:５０％
レポート等:５０％

教科書

書籍名	特別支援教育学習指導案の書き方
著者名	山本邦晴・田所明房　監修
出版社	K&H
価格	２５００円＋税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-9905553-3-7

推薦図書等

書籍名	特別支援教育学級経営１２か月（特別支援学校）
著者名	全日本特別支援教育研究連盟
出版社	東洋館出版社
価格	２６００円＋税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-491-02906-1

書籍名	特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させる基本スキル
著者名	甲本卓司・大恵信昭
出版社	明治図書
価格	２２６０円＋税

ISBN・ISSN	ISBN978-4-18-059710-9
書籍名	（特別支援教育）個別の指導計画を生かした学習指導案づくり
著者名	宮崎英憲　監修
出版社	明治図書
価格	２６６０円＋税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-18-039825

参考URL

備考

知的障害教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST204
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅰ
科目責任者	菊地　一文
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1104001　火3
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード	知的障害，特別支援学校，教育課程，指導法
学生の到達目標	1.知的障害特別支援学校や特別支援学級の取り組み,教育課程の特徴,指導法の実際について理解し説明できる。 2.知的障害の子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに説明できる。

授業内容	第1回	授業概要の説明　知的障害の子どもの理解 (目標1)
	第2回	知的障害のある児童生徒への基本的対応(目標1,2)
	第3回	知的障害教育の歴史と特別支援学校の実践の特徴 (目標1,2)
	第4回	特別支援学校の教育課程と指導法(目標1,2)
	第5回	特別支援学校の指導法の実際　教科別の指導(目標1,2)
	第6回	特別支援学校の指導法の実際　日常生活の指導(目標1,2)
	第7回	特別支援学校の指導法の実際 生活単元学習 (目標1,2)
	第8回	特別支援学校の指導法の実際 作業学習 (目標1,2)
	第9回	特別支援学校の指導法の実際 遊びの指導(目標1,2)
	第10回	特別支援学校の指導法の実際 領域別の指導(目標1,2)
	第11回	知的障害教育におけるキャリア教育の実際(目標1,2)
	第12回	知的障害教育における学習評価の実際(目標1,2)
	第13回	個別の指導計画 とその実際 (目標1,2)
	第14回	特別支援学級の教育(目標1,2)
	第15回	知的障害の子どもへの教育とは？　補足とまとめ (目標1,2)
予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回 シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと、知的障害の定義について調べておくこと 第2回　知的障害のある児童生徒への基本的対応について調べておくこと 第3回　知的障害教育の歴史と特別支援学校の実践の特徴について調べておくこと 第4回　特別支援学校の教育課程と指導法について調べておくこと 第5回　教科別の指導の概要について調べておくこと 第6回　日常生活の指導の概要について調べておくこと 第7回　生活単元学習の概要について調べておくこと 第8回　作業学習の概要について調べておくこと 第9回　遊びの指導の概要について調べておくこと 第10回　領域別の指導の概要について自立活動を中心に調べておくこと 第11回　知的障害教育におけるキャリア教育について調べておくこと 第12回　知的障害教育における学習評価について調べておくこと 第13回　個別の指導計画の概要について調べておくこと 第14回　特別支援学級の教育の概要について調べておくこと 第15回　知的障害の子どもへの教育に関してこれまでの授業内容を踏まえ、課題となる事項を調べておくこと
	復習	第1回 シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと、知的障害の定義についてポイント及び考察をまとめておくこと 第2回　知的障害のある児童生徒への基本的対応についてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回　知的障害教育の歴史と特別支援学校の実践の特徴についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回　特別支援学校の教育課程と指導法についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回　教科別の指導についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回　日常生活の指導についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回　生活単元学習についてポイント及び考察をまとめておくこと

		第8回　作業学習についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回　遊びの指導についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回　領域別の指導について自立活動を中心にポイント及び考察をまとめておくこと 第11回　知的障害教育におけるキャリア教育についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回　知的障害教育における学習評価についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回　個別の指導計画の概要についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回　特別支援学級の教育についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回　知的障害の子どもへの教育に関してこれまでの授業内容のポイント及び考察を総括してまとめておくこと
	展開	教育実習で生かすこと。他の障害の授業と比べ,知的障害教育の特徴を確認すること。
成績評価	評価の基準	1.知的障害特別支援学校や特別支援学級の取り組み,教育課程の特徴,指導法の実際について理解し的確に説明できること。 2.知的障害の子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに的確に説明できること。
	評価の方法	期末試験　70%　小テスト／レポート　20%　リアクションペーパー 10%
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識Q＆A
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校
	出版社	(有）ケーアンド　エイチ
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	ISBN4-9901197-6-2 C3037
推薦図書等	書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
参考URL		
備考	知的障害特別支援学校の数は多く,特別支援教育実習において実習先となることも多いので、高い意識をもって受講して下さい。 オフィスアワー月・火曜日２時限	

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST205
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅱ
科目責任者	菊地　一文
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1105001　火4
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード	知的障害，障害理解，障害と社会，家族支援，人権
学生の到達目標	1.知的障害の困難性，子ども，家族の置かれた社会状況を理解し，発表や説明ができる。 2.知的障害のある子ども・人々の地域生活や人権擁護の現況を理解し,自分の考えとともに説明できる。

授業内容

第1回	オリエンテーション 知的障害のある人の「思い」を捉える(目標1)
第2回	知的障害のある人の「自立」と「支援」について考える①-知的障害のある人の就労-(目標1)

第3回	知的障害のある人の「自立」と「支援」について考える②-知的障害のある人の生活-(目標1)
第4回	知的障害のある人の「自立」と「支援」について考える③-知的障害と自閉症のある人が有する課題-(目標1)
第5回	知的障害のある人の「自立」と「支援」について考える④-知的障害と自閉症のある人の就労と生活-(目標1)
第6回	知的障害のある人が抱える「課題」について考える① グループ討議　その１（目標1,2)
第7回	知的障害のある人が抱える「課題」について考える② グループ討議　その２(目標1,2)
第8回	知的障害のある人が抱える「課題」について考える③ グループ討議　その３ (目標1,2)
第9回	知的障害のある人が抱える「課題」について考える④ グループ討議　その４(目標1,2)
第10回	知的障害のある人が抱える「課題」について考える⑤ 発表　(目標1,2)
第11回	知的障害のある人の「願い」を支える①－知的障害のある人の「願い」とその把握- (目標1)
第12回	知的障害のある人の「願い」を支える②-願いを支える方策としてのPATH- グループ演習 (目標1,2)
第13回	知的障害のある人の「教育」の在り方について考える①グループ討議　その１(目標1,2)
第14回	知的障害のある人の「教育」の在り方について考える②グループ討議　その２(目標1,2)
第15回	知的障害のある人の「教育」の在り方について考える③発表とまとめ(目標1,2)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスに目を通し、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと 第2回　知的障害のある人の「自立」と「支援」に関する課題を調べておくこと 第3回　知的障害のある人の「自立」と「支援」に関する課題を調べておくこと 第4回　知的障害と自閉症のある人の「自立」と「支援」に関する課題を調べておくこと 第5回　知的障害と自閉症のある人の「自立」と「支援」に関する課題を調べておくこと 第6回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べておくこと 第7回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べておくこと 第8回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べておくこと 第9回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べておくこと 第10回　知的障害のある人が抱える「課題」についてこれまで調べたことをまとめておくこと 第11回　知的障害のある人の「願い」と把握の仕方について調べておくこと 第12回　知的障害のある人の「願い」を支える支援の方策について調べておくこと 第13回　知的障害のある人の「教育」の在り方について新聞やインターネット等で調べておくこと 第14回　知的障害のある人の「教育」の在り方について新聞やインターネット等で調べておくこと 第15回　知的障害のある人の「教育」の在り方についてについてこれまで調べたことをまとめておくこと

	復習	第1回　この科目の受講によって理解を深めたいことをまとめておくこと 第2回　知的障害のある人の「自立」と「支援」に関する課題のポイント及び考察をまとめておくこと 第3回　知的障害のある人の「自立」と「支援」に関する課題のポイント及び考察をまとめておくこと 第4回　知的障害と自閉症のある人の「自立」と「支援」に関する課題のポイント及び考察をまとめておくこと 第5回　知的障害と自閉症のある人の「自立」と「支援」に関する課題のポイント及び考察をまとめておくこと 第6回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回　知的障害のある人が抱える「課題」について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回　知的障害のある人が抱える「課題」に関する発表についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回　知的障害のある人の「願い」と把握の仕方についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回　知的障害のある人の「願い」を支える支援の方策についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回　知的障害のある人の「教育」の在り方について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回　知的障害のある人の「教育」の在り方について新聞やインターネット等で調べたことについてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回　知的障害のある人の「教育」の在り方に関する発表についてポイント及び考察をまとめておくこと
	展開	進路希望先での子どもや家族のことを思い，授業での知識や意識を生かすようにする。互いの意見交換を深める。
成績評価	評価の基準	1.知的障害の困難性，子ども，家族の置かれた社会状況を理解し，的確に発表や説明ができること。 2.知的障害のある子ども・人々の地域生活や人権擁護の現況を理解し,自分の考えとともに的確に説明できること。
	評価の方法	講義・討議への取り組む姿勢と発表　50%　レポート 50%として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	手をつなぐ（機関紙・月刊）
	著者名	全国手をつなぐ育成会連合会
	出版社	全国手をつなぐ育成会連合会
	価格	400円
	ISBN・ISSN	ISSN 1344-5510
参考URL		
備考	オフィスアワー月曜日５時限、火・木曜日1時限	

肢体不自由教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST207
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1109001　火3
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード

肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ

学生の到達目標

1．肢体不自由教育の歴史を理解し，自分の考えを表現できるようになる。
2．肢体不自由のある子どもが示す困難と対応について理解し，自分の考えを表現できるようになる。
3．特別支援学校（肢体不自由）の教育課程や教材・教具の配慮点について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容

第1回　イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）

第2回	肢体不自由教育の歴史(1)　昭和初期から昭和 50年代までの肢体不自由教育のあゆみ　（目標1）
第3回	肢体不自由教育の歴史(2)　昭和 60年代から現代までの肢体不自由教育のあゆみ　（目標1）
第4回	肢体不自由のある子どもは学習や生活にどのような困難があるか（目標2）
第5回	肢体不自由のある子どもにおける運動・動作の困難と対応の仕方（目標2）
第6回	肢体不自由のある子どもにおけるコミュニケーションの困難と対応の仕方（目標2）
第7回	肢体不自由のある子どもにおける認知の困難と対応の仕方（目標2）
第8回	肢体不自由のある子どもにおける健康面の困難と対応の仕方（目標2）
第9回	肢体不自由のある子どもにおける食べることの困難と対応の仕方（目標2）
第10回	肢体不自由のある子どもにおける教科学習の困難と対応の仕方（目標3）
第11回	肢体不自由のある子どものための教材・教具と補助具の配慮点（目標3）
第12回	特別支援学校（肢体不自由）の教育課程と自立活動の取組（目標3）
第13回	特別支援学校（肢体不自由）の個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成（目標3）
第14回	肢体不自由のある子どもの移行支援と卒業後の生活のための支援（目標2，3）
第15回	まとめ　授業の振り返りと肢体不自由教育における重要事項の確認（目標1，2，3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 昭和初期から昭和 50年代までの肢体不自由教育の歴史について調べておくこと 第3回 昭和60年代から現代までの肢体不自由教育の歴史について調べておくこと 第4回 肢体不自由のある子どもの学習上・生活上の困難について調べておくこと 第5回 肢体不自由のある子どもの運動・動作の困難について調べておくこと 第6回 肢体不自由のある子どものコミュニケーションの困難について調べておくこと 第7回 肢体不自由のある子どもの認知の困難について調べておくこと 第8回 肢体不自由のある子どもの健康面の困難について調べておくこと 第9回 肢体不自由のある子どもの食べることの困難について調べておくこと 第10回 肢体不自由のある子どもの教科学習の困難について調べておくこと 第11回 肢体不自由のある子どものための教材・教具と補助具について調べておくこと 第12回 特別支援学校（肢体不自由）の教育課程と自立活動について調べておくこと 第13回 特別支援学校（肢体不自由）の個別の教育支援計画と個別の指導計画について調べておくこと 第14回 肢体不自由のある子どもの移行支援について調べておくこと

第15回 第1回～第14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと
上記予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める。

復習　第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと
第2回 昭和初期から昭和 50年代までの肢体不自由教育の歴史についてポイント及び考察をまとめておくこと
第3回 昭和60年代から現代までの肢体不自由教育の歴史についてポイント及び考察をまとめておくこと
第4回 肢体不自由のある子どもの学習上・生活上の困難についてポイント及び考察をまとめておくこと
第5回 肢体不自由のある子どもの運動・動作の困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第6回 肢体不自由のある子どものコミュニケーションの困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第7回 肢体不自由のある子どもの認知の困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第8回 肢体不自由のある子どもの健康面の困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第9回 肢体不自由のある子どもの食べることの困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回 肢体不自由のある子どもの教科学習の困難と支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回 肢体不自由のある子どものための教材・教具と補助具の活用についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回 特別支援学校（肢体不自由）の教育課程及び自立活動についてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回 特別支援学校（肢体不自由）における個別の教育支援計画及び個別の指導計画についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回 肢体不自由のある子どもの移行支援及び卒業後の支援についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回 第1回～第15回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと

展開　第1回～第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと

成績評価

評価の基準　1）肢体不自由教育の歴史を理解し，自分の考えを的確に表現できること。
2）肢体不自由のある子どもが示す困難と対応について理解し，自分の考えを的確に表現できること。
3）特別支援学校（肢体不自由）の教育課程や教材・教具の配慮点について理解し，自分の考えを的確に表現できること。

評価の方法　平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%）
平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	肢体不自由教育の基本とその展開
著者名	日本肢体不自由教育研究会監修
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	2 ,376円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-7664-1409-7

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版

価格	473円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-30016-0
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-303-12432-8

推薦図書等

参考URL

備考

・講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すため，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。
・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。
・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。

肢体不自由教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST208
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1110001　月2
教室	トライアルコート
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
学生の到達目標	1．肢体不自由のある子どもの教育的ニーズの把握の仕方について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 2．肢体不自由のある子どもの個別の指導計画を作成するために必要となる知識について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 3．肢体不自由のある子どもの指導及び支援における基本的な対応と教材・教具の活用について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）
	第2回	肢体不自由のある子どもの教育的ニーズとは（目標1）
	第3回	肢体不自由のある子どもの実態把握の仕方（目標1）
	第4回	肢体不自由のある子どもの指導における個別の指導計画の意義と活用（目標2）
	第5回	肢体不自由のある子どもの指導における個別の指導計画作成(1)　指導課題の整理の仕方（目標2）
	第6回	肢体不自由のある子どもの指導における個別の指導計画作成(2)　指導目標の設定の仕方（目標2）
	第7回	個別の指導計画の保護者への説明の仕方（目標2）
	第8回	肢体不自由のある子どもの指導における支援機器の活用(1)　コミュニケーション支援機器の活用（目標3）
	第9回	肢体不自由のある子どもの指導における支援機器の活用(2)　タブレット端末の活用（目標3）
	第10回	肢体不自由のある子どものための玩具や遊びの工夫（目標3）
	第11回	肢体不自由のある子どもの指導における車いすの活用（目標3）
	第12回	肢体不自由のある子どもの指導における電動車いすの活用（目標3）
	第13回	肢体不自由のある子どもの学習活動の工夫と模擬授業(1)　自立活動と配慮点（目標3）
	第14回	肢体不自由のある子どもの学習活動の工夫と模擬授業(2)　教科指導と配慮点（目標3）
	第15回	まとめ　授業の振り返りと肢体不自由のある子どもの教育的ニーズへの対応における重要事項の確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 肢体不自由のある子どもの教育的ニーズについて調べておくこと 第3回 肢体不自由のある子どもの実態把握について調べておくこと 第4回 肢体不自由のある子どもの個別の教育支援計画・個別の指導計画について調べておくこと 第5回 肢体不自由のある子どもの指導課題について調べておくこと 第6回 肢体不自由のある子どもの指導目標について調べておくこと 第7回 個別の指導計画の保護者への説明について調べておくこと 第8回 肢体不自由のある子どもの支援機器の活用について調べておくこと 第9回 肢体不自由のある子どものタブレット端末の活用について調べておくこと 第10回 肢体不自由のある子どものための玩具や遊びの工夫について調べておくこと 第11回 肢体不自由のある子どもの車いすの活用について調べておくこと 第12回 肢体不自由のある子どもの電動車いすの活用について調べておくこと 第13回 肢体不自由のある子どもの自立活動について調べておくこと 第14回 肢体不自由のある子どもの教科指導について調べておくこと 第15回 第1回～第14回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと 上記予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める。

復習	第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと 第2回 肢体不自由のある子どもの教育的ニーズについてポイント及び考察をまとめておくこと 第3回 肢体不自由のある子どもの実態把握についてポイント及び考察をまとめておくこと 第4回 肢体不自由のある子どもの個別の教育支援計画・個別の指導計画についてポイント及び考察をまとめておくこと 第5回 肢体不自由のある子どもの指導課題についてポイント及び考察をまとめておくこと 第6回 肢体不自由のある子どもの指導目標についてポイント及び考察をまとめておくこと 第7回 個別の指導計画の保護者への説明についてポイント及び考察をまとめておくこと 第8回 肢体不自由のある子どもの支援機器の活用についてポイント及び考察をまとめておくこと 第9回 肢体不自由のある子どものタブレット端末の活用についてポイント及び考察をまとめておくこと 第10回 肢体不自由のある子どものための玩具や遊びの工夫についてポイント及び考察をまとめておくこと 第11回 肢体不自由のある子どもの車いすの活用についてポイント及び考察をまとめておくこと 第12回 肢体不自由のある子どもの電動車いすの活用についてポイント及び考察をまとめておくこと 第13回 肢体不自由のある子どもの自立活動における配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第14回 肢体不自由のある子どもの教科指導における配慮点についてポイント及び考察をまとめておくこと 第15回 第1回～第15回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと
展開	第1回～第15回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと

成績評価

評価の基準	1）肢体不自由のある子どもの教育的ニーズの把握の仕方について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 2）肢体不自由のある子どもの個別の指導計画を作成するために必要となる知識について理解し，自分の考えを的確に表現できること。 3）肢体不自由のある子どもの指導及び支援における基本的な対応と教材・教具の活用について理解し，自分の考えを的確に表現できること。
評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	肢体不自由教育の基本とその展開
著者名	日本肢体不自由教育研究会監修
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	2 ,376円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-7664-1409-7
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版

価格	473円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-30016-0
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-303-12432-8

推薦図書等

参考URL

備考

・講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すため，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。
・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。
・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。

病弱教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST209
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅰ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1111001　水4
教室	講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等

授業のキーワード

病弱教育の意義，学習空白，教育と医療との連携

学生の到達目標

1.病弱教育の基礎的理解を深める。
2.病弱教育の歴史,意義等について学ぶ。
3.病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴を学ぶ。

授業内容

第1回	病弱教育の歴史的変遷(目標1)
第2回	病弱教育の意義(目標1)
第3回	病弱教育対象の子どもの病気の種類と特性(目標2,3)
第4回	病弱教育対象の子どもの心理特性(目標2,3)

第5回	医療機関と教育との関係と,学校と医療機関,医療と教育の連携について(目標2)
第6回	病弱教育の現代的課題(医療機関の課題)(目標2)
第7回	病弱教育の現代的な課題(医療の進歩・進展と新たな教育課題)(目標2)
第8回	喘息児の教育(目標3)
第9回	小児がんと教育(目標3)
第10回	慢性疾患と教育(目標3)
第11回	重症心身障害児と教育(目標3)
第12回	筋ジストロフィーと教育(目標3)
第13回	心身症と教育(目標3)
第14回	不登校と教育(目標3)
第15回	身体虚弱教育について(目標3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第１５回（共通）　教育内容に示している項目やキーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。

成績評価	評価の基準	１．病弱教育の基礎的な事項等の理解度、定着度。 ２．病弱教育の歴史や意義を学び現代的な課題等の理解度。 ３．病弱教育における病類による教育の特徴の理解度。
	評価の方法	試験40%，レポート30%，リアクションペーパー及び授業態度30%等により総合的に評価

教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037

推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」　PART Ⅰ
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円＋税
	ISBN・ISSN	4-921124-05-1 C3037
	書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅢ（教科指導編）
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円＋税
	ISBN・ISSN	4-921124-24-8　C3037

書籍名	特別支援教育に生かす病弱児の心理・病理・心理
著者名	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,400円＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-06153-2　C3037

参考URL

備考

病弱教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST210
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅱ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1112001　木4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等

授業のキーワード	病弱教育の教育課程，教育内容の精選，院内学級
学生の到達目標	1.病弱児の教育の場を知る。 2.病弱教育の教育課程の特徴を学ぶ。 3.病弱教育の指導法の基礎・基本を学ぶ。

授業内容	第1回	病弱特別支援学校,特別支援教室,病院内教室の概要(目標1)
	第2回	病弱教育の「個別の教育支援計画」の実際(目標1,2)
	第3回	病弱教育の教育課程1(各教科)(目標2)
	第4回	病弱教育の教育課程2(総合的な学習)(目標3)
	第5回	病弱教育の教育課程3(自立活動)(目標２,３)
	第6回	病弱教育の教育課程4(特別活動,訪問教育,共同学習,交流教育等)(目標2)
	第7回	病弱特別支援教室・学級,病院内教室・学級の教育課程の実際(目標2)
	第8回	病弱教育における「個別の指導計画」の実際(目標2)
	第9回	病弱特別支援学校における指導の実際(学校参観もしくはVTR)(目標3)
	第10回	病弱特別支援学校における指導の実際(指導方法と配慮事項)(目標3)
	第11回	病弱特別支援学級・教室における指導の実際(指導方法と配慮事項(目標3)
	第12回	病弱教育における指導の実施(指導案の作成・演習)(目標3)
	第13回	病弱教育の先進的な取り組みの紹介(目標2,3)
	第14回	諸外国の病弱教育の現状(目標1,2)
	第15回	病弱教育現場における教師の役割とその重要性,子どもと保護者,関係機関との連携と教師の果たすべき役割等について(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第１５回（共通）　教育内容に示している項目やキーワード，それらに関しての学習指導要領上の記述事項等に加え，事前に指示するテーマについても調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	１．病弱教育の場や教育課程の実際についての理解度。 ２．病弱教育の指導法についての理解度。 ３．基礎的な病弱教育の指導の能力が養われていること。
	評価の方法	試験40%やレポート30%，リアクションペーパー及び授業態度30%等により総合的に評価
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037

推薦図書等

書籍名	「病弱教育Q&A」　PART Ⅰ
著者名	全国病弱養護学校長会編著
出版社	ジアース教育新社
価格	1,810円＋税
ISBN・ISSN	4-921124-05-1　C3037

書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅣ　（院内学級編）
著者名	全国病弱養護学校長会編著
出版社	ジアース教育新社
価格	1,810円＋税
ISBN・ISSN	4-921124-25-6　C3037

参考URL

備考

特別支援教育実践法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST217
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実践法
科目責任者	田所　明房
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1112101　火1
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー
2 障害支援
4 資質・能力

カリキュラムポリシー
5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育
5-3 視覚、聴覚、LD、自閉症等

授業のキーワード

特別支援教育　できる状況づくり　各教科等を合わせた指導　授業づくりと教材研究
子ども理解と教師のあり方

学生の到達目標

１．特別支援教育実践の場において必要となる実践的な知識・技能を修得する。
２．実践に取り組む際の「できる状況づくり」の実際や指導案・教材作りを学び、説明できる。
３．特別支援教育に携わる教師のあり方を学び、説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション～特別支援教育の基礎知識～ (目標１)
	第2回	特別支援教育での子ども理解と「できる状況づくり」 (目標１．２．３)
	第3回	特別支援学校の子ども理解～授業づくりとその要点（１）日常生活の指導(目標１．２．３)
	第4回	特別支援学校の子ども理解～授業づくりとその要点 （２）自立活動の指導・訪問学級での指導 (目標１．２．３)
	第5回	特別支援学校の子ども理解～授業づくりとその要点 （３）遊びの指導・教科別の指導(目標１．２．３)
	第6回	特別支援学校の子ども理解～授業づくりとその要点 （４）生活単元学習・作業学習(目標１．２．３)
	第7回	特別支援学校の子ども理解～授業づくりとその要点 （５）肢体不自由・病弱教育の実際(目標１．２．３)
	第8回	実際の指導案・教材検討・教材作成（１）日常生活の指導・自立活動をベースに(目標１．２．３)
	第9回	実際の指導案・教材検討・教材作成（２）遊びの指導・教科別の指導をベースに(目標１．２・３)
	第10回	実際の指導案・教材検討・教材作成（３）生活単元学習をベースに(目標１．２．３)
	第11回	実際の指導案・教材検討・教材作成（４）作業学習をベースに(目標１．２．３)
	第12回	授業づくりと教師のあり方（１）子どもとともに取り組む・学校のリスクマネジメント(目標１．２・３)
	第13回	授業づくりと教師のあり方（２）学級経営・チームワークと保護者連携(目標１．２．３)
	第14回	授業づくりと教師のあり方（３）授業の醍醐味と研究(目標１．２．３)
	第15回	特別支援教育の実践に求められること(目標１．２．３)
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	☆特別支援教育の場において、必要となる実践的な知識・技能について修得することをねらいとした科目である。特別支援学校で学ぶ児童生徒の障害に応じた活動の組み立て方、学習形態の工夫、支援の工夫、学習指導案の作成、学級経営の仕方について学ぶ。教科書や文献で事前に予習をしておく。 第１回～第７回 特別支援学校に在籍する児童生徒の障害に応じた子ども理解、授業づくりについて、関心を持ち、教科書や文献等で調べる。 第８回～第１１回 特別支援学校において、展開されている各教科等を合わせた指導、領域別、教科別指導の指導案や授業づくりの要点を調べておく。 第１２回～第１５回 特別支援学校での実践で求められる教師としてのあり方、学級経営、関係者との連携などについて調べておく。
	復習	☆それぞれの課題について取り組み、要点を振り返ること。 第１回～第７回 毎時間配付されるレジメや資料、作成したノートで要点を振り返る。 第８回～第１１回 毎時間配付されるレジメや資料、作成したノートで要点を振り返る。レポート課題である単元計画や指導案を作成し、発表の練習をしておく。発表で出された成果や課題について振り返る。 第１２回～第１５回

		特別支援教育に関わる指導者・支援者として、求められる実践的な指導法について振り返る。
	展開	☆教育実習やボランティアなどの実践の場でのことを思い描き、本科目での学習を今後の実践に活用できるようにする。 第１回～第１５回 課題に応じて、グループ協議を行ったり、各自が単元計画、教材の作成を行ったりする。各種道具・遊具を使用しながら実際の体験をする機会を多くする。

成績評価	評価の基準	１．特別支援教育実践の場において必要となる実践的な知識・技能を修得する。 ２．実践に取り組む際の「できる状況づくり」の実際や指導案・教材作りを学び、説明できる。 ３．特別支援教育に携わる教師のあり方を学び、説明できる。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点５０%、レポート５０%）平常点は課題作成と発表、討論、グループ活動が含まれる。

教科書	書籍名	各教科等を合わせた指導
	著者名	名古屋恒彦
	出版社	教育出版
	価格	２０００円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-804385-5

推薦図書等	書籍名	特別支援の「子ども理解」よさが生きる教育サポート
	著者名	日本生活中心教育研究会
	出版社	K&H
	価格	１９００円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-9905553-2-0
	書籍名	特別支援学校特別支援学級担任ガイドブック
	著者名	佐藤慎二
	出版社	東洋館出版
	価格	１８００円+税
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST212
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	松本　末男 荒井　勝夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1113101　水3
教室	さくらホール,講義室21・22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 共生社会

授業のキーワード	視覚障害, 聴覚障害, 教育制度・課程, コミュニケーション, 言葉の指導の実際
学生の到達目標	1. 視覚障害と聴覚障害の生理, 病理及び心理について理解する。 2. 視覚障害教育と聴覚障害教育の歴史的変遷、現在の制度及び教育課程、また具体的な指導内容について理解する。 3. 視覚障害と聴覚障害の程度や発達段階、知的・発達障害, 重複障害の有無に応じたきめ細かい関わりについて理解する。

授業内容

第1回　「視覚障害とは何か」―眼の構造, 視覚障害の生理・病理・心理, 視覚機能の基礎―(目標１)
担当教員: 荒井　勝夫

第2回　「視覚障害教育の歴史, 制度, 教育課程」―歴史的処遇, 視覚障害教育の創始, 現在の制度・教育課程―(目標２)
担当教員: 荒井　勝夫

第3回　「視覚障害教育の目標とその指導形態」―視覚障害の理解・配慮と教科教育の専門性, 視覚支援学校の教育組織―(目標１, ２)
担当教員: 荒井　勝夫

第4回　「全盲教育の内容と方法」―全盲指導の内容, 触覚的認知の指導, 点字・言葉の指導, 歩行指導―(目標２, ３)
担当教員: 荒井　勝夫

第5回　「弱視教育の内容と方法」―弱視指導の内容, 視覚的認知の指導, 読み書き能力の指導, 残存視力の活用・管理―(目標２,　３)
担当教員: 荒井　勝夫

第6回　「盲聾児（者）への教育内容と方法」―盲聾者の特性, 基本的生活技術・習慣の指導、コミュニケーションの方法とその能力向上―(目標２, ３)
担当教員: 荒井　勝夫

第7回　「視覚障害児（者）への生活指導、教育相談、就職指導」―社会的リハビリテーション, 心理的安定, 職業的スキル, インクルーシブな時代における視覚障害児(者)(目標２, ３)
担当教員: 荒井　勝夫

第8回　「聴覚障害とは何か」－聴覚障害の原因と分類, 障害体験、聴力レベル, オージオグラム, 補聴システム、二次障害と三次障害－（目標１）
担当教員: 松本　末男

第9回　「聴覚障害児・者の言語とコミュニケーションの方法」－手話の種類, 指文字, 聴覚口話法, トータルコミュニケーション, バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ－（目標２）
担当教員: 松本　末男

第10回　第10回　「障害の早期発見・両親援助の教育」－新生児聴覚スクリーニング, 乳幼児教育相談, 家族支援、乳幼児の指導－（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

第11回　「聴覚障害幼児を対象とする特別支援学校幼稚部の教育（１）」－幼稚部の教育、言語指導、聴覚活用（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

第12回　「聴覚障害幼児を対象とする特別支援学校の教育（２）」－両親支援、3歳児の指導、4歳児の指導、5歳児の指導－（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

第13回　「他の障害を併せ有する聴覚障害児童・生徒の教育」－聾知的障害児, 盲聾児, 聾発達障害児, 言葉が果たす役割－（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

第14回　「通常の小・中・高等学校における聴覚障害児童・生徒の教育と支援」－難聴学級・通級指導教室・通常の学級における支援, 人的環境の調整, 物的環境の整備, 情報保障－（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

第15回　「特別支援教育の国際的動向と今後の方向性」－分離教育, 統合教育, インクルーシブ教育, 障害者権利条約・障害者基本法と障害教育, 残された課題－（目標２, ３）
担当教員: 松本　末男

予習・復習の内容
（毎回180分程度）

予習　（松本末男）
第8回　図書館等で耳のしくみと働きについてまとめておく。疑問点を次回質問する。

第9回～15回　授業で配布されたプリントを読んで疑問点を把握して授業に臨むこと。

復習　（松本末男）
毎回授業で出されるプリントに基づいて振り返りの学習をすること！

展開　授業で学んだ視覚・聴覚障害教育・支援内容を他の身体障害への教育・支援内容と知的・発達障害への教育・支援内容と関連付けて比較・考察できるようにする。様々な授業で障害のある子についての視点を持ち、学ぶことを心がける。

成績評価

評価の基準　（松本末男）
視覚・聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒の教育と支援について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること，及び，自らの考えに基づいてそれを的確に説明できることを合格基準とする。

評価の方法　（荒井勝夫）
平常点，提出レポート及び期末レポートによって評価する(平常点50%、期末レポート50%)。平常点には、授業での発表・討論・期間中レポートが含まれる。ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。
（松本末男）
テスト(50%)、グループ討議の参加や、リーダーシップ、授業での発表や学びの積極的な参加度(30%)、自ら思考し、疑問点を整理する力(10%)、予習への取り組み(10%)。ただしこの比率は変更の可能性もある。

教科書

書籍名	視覚障害教育入門[改訂版]
著者名	青柳　まゆみ 編著　鳥山　由子 編著
出版社	ジアース教育新社
価格	1,800円＋税
ISBN・ISSN	9784863713000

推薦図書等

書籍名	聴覚障害教育　これまでとこれから
著者名	脇中　起余子 著
出版社	北大路書房
価格	税込2,484円
ISBN・ISSN	978-4-7628-2690-0

書籍名	特別支援教育ハンドブック
著者名	飯野順子、岡田加奈子、玉川進編
出版社	東山書房
価格	2200
ISBN・ISSN	978-4-8278-1527-6

参考URL

備考　教科書購入については，授業初回時に指示します。

重複障害・言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST213
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	重複障害・言語障害教育総論
科目責任者	堀　彰人 田所　明房
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1115101　月1
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-3 視覚、聴覚、LD、自閉症等

授業のキーワード

（田所明房）
重複障害，教育課程の取り扱い，自立活動，個別の指導計画
（堀　彰人）
言語障害・コミュニケーション・状況の把握・指導法

学生の到達目標

1.障害について教育実践の現況と支援のあり方について説明できる。
2.重複障害の教育課程・指導法について説明できる。
3.言語・コミュニケーションの本質および言語障害の分類と，それぞれの特徴的な状態と，指導法について説明できる。

授業内容

第1回　重複障害について～オリエンテーションと現場の実情（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第2回　重複障害の教育課程と指導法～その１・肢体不自由への配慮（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第3回　重複障害の教育課程と指導法～その２・知的障害への配慮（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第4回　重複障害の教育課程と指導法～その３・感覚障害，病弱への配慮及び医療的ケア（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第5回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～教師・保育者として（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第6回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～心理・生理面の理解と対応（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第7回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～まとめ（目標１・２）
担当教員: 田所　明房

第8回　言語やコミュニケーションの発達とその障害(目標３)
担当教員: 堀　彰人

第9回　言語発達に課題のある子どもの理解と支援（目標３)
担当教員: 堀　彰人

第10回　構音の発達と構音障害（目標３)
担当教員: 堀　彰人

第11回　構音障害のある子どもの理解と支援(目標３)
担当教員: 堀　彰人

第12回　吃音と吃音をめぐる問題(目標３)
担当教員: 堀　彰人

第13回　気つののある子どもの理解と支援(目標３)
担当教員: 堀　彰人

第14回　発達障害（読み書き障害を含む）のある子どもの学習や生活における困難さと支援(目標３)
担当教員: 堀　彰人

第15回　言語障害教育の歴史、現状と課題(目標３)
担当教員: 堀　彰人

予習・復習の内容
（毎回180分程度）

予習　第１回予習
重複障害について関心を持ち、基礎知識を得るなどしておく。
第2回～第４回予習
特別支援学校で学ぶ重複障害の子ども(肢体・知的・病弱・感覚障害等)の教育課程と指導法について、文献や各特別支援学校のホームページ等で調べておく。
第５回～7回予習
重複障害の子どもへの支援について特に配慮を要することについて調べておく。
第８回予習
言語の発達、言語障害の種類等について基礎的な知識を得ておく。
第９～第１５回予習
各回のテーマに即した障害や、そこから生じる困難さへの支援について文献や関連のホームページ等に目を通しておく。

復習　第１回～第７回復習
毎回の授業のレジメ・ノートを見直すとともに、興味のある事項やキーワードに関しては、文献等で考えを深める。

第４回復習
レポート課題の重複障害の子どもの指導に関する計画案を作成する。各自のレポートは添削・評価するとともに、次回の授業で振り返るようにする。
第５回復習
健康管理に関するレポート課題についてまとめる。各自のレポートは添削・評価するとともに、次回の授業で振り返るようにする。
第８～第１５回復習
毎回の授業で印象に残ったことについて、各自で関係の資料やホームページに触れ、考えを深める。また、各回のワークシートを振り返り、基礎的事項について確認を行う。

展開　第１回～第７回
重複障害、言語障害の支援方法等、最新の調査・研究の動向に興味を持ち、自ら知識・理解を深め、教育実習や現場体験などの折に活用する。毎時間ごとに、振り返りのリアクションペーパーを記入するようにする。

成績評価

評価の基準
1.障害について教育実践の現況と支援のあり方について説明できる。
2.重複障害の教育課程・指導法について説明できる。
3.言語・コミュニケーションの本質および言語障害の分類と，それぞれの特徴的な状態と，指導法について説明できる。

評価の方法
授業内での発表等30%、レポート等20%、筆記試験50%を目安に総合的に評価するが、比率については変動することがある。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	障害の重い子どもの指導Q&A
著者名	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
出版社	ジアース教育新書
価格	２５００円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-86371-173-0

参考URL

言語障害教育関係
http://nangen.jp
http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/
http://zengenren.org/
http://kituonkenkyu.org/
http://www.kitsuon-portal.jp/

備考

LD・ADHD等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST214
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	LD・ADHD等教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1116001　前期　金2 A1116002　前期　金3
教室	講義室10・11 多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	必修	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	必修	必修	必修
保育士：	必修	必修	必修
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 5-3 視覚、聴覚、LD、自閉症等

授業のキーワード	発達障害，LD，ADHD，理解と支援
学生の到達目標	１．ＬＤ児、ＡＤＨＤ児 など発達障害のある子どもの心理・生理について理解する。 ２．発達障害児の支援方法について考え,工夫することができる。 ３．学習指導要領に則して、教育的支援について整理することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション,発達障害概論
	第2回	ＬＤの心理・生理の理解と支援のあり方(目標１)
	第3回	ＬＤの理解と支援：ＬＤの見え方(目標１・２・３)
	第4回	ＬＤの理解と支援：ＬＤの見え方に合わせた支援(目標１・２・３)
	第5回	ＬＤの理解と支援：ＬＤの聞こえ方（目標１・２・３）
	第6回	ＬＤの理解と支援：ＬＤの聞こえ方に合わせた支援（目標１・２・３）
	第7回	発達障害児を支える校内支援体制：学級集団の中で(目標１・２・３)
	第8回	発達障害児を支える校内支援体制：学校行事の中で(目標１・２・３)
	第9回	ADHDの心理・生理の理解と支援のあり方(目標1)
	第10回	ADHDの理解と支援のあり方：ADHDの注意について(目標１・２・３)
	第11回	ADHDの理解と支援のあり方：注意の特性に応じた支援(目標１・２・３)
	第12回	ADHDの理解と支援のあり方：ADHDの衝動性について(目標１・２・３)
	第13回	ADHDの理解と支援のあり方：衝動性に応じた支援(目標１・２・３)
	第14回	認知特性に配慮した教育課程と指導方法・ＩＣＴ活用による合理的配慮(目標１・２・３)
	第15回	まとめ(目標１・２・３)　授業の振り返りとLD.ADHD等への理解と支援に関する重要事項の確認

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	事前に指定されたテーマについて、資料を収集し、自等分の考えをまとめ、グループ討議で発表できるようにする。 第１回： シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと。 第２回：前回配布した新聞記事に掲載されている事例について障害の状態に応じた支援の工夫をまとめる。 第３回：自分の名前について、漢字をどのようにわかりやすく説明したり、記憶しやすくするかついて、まとめておく。 第４回：算数の文章題を三問作成する。１桁の加減で、場面を設定し、書き込み、絵や図も加える。 第５回：音と文字の関連が難しい音にはどのようなものがあるか、具体例をあげてまとめてくる。 第６回：子どもと読める好きな詩を見つけ、１枚に書き写し、絵や写真なども加える。 第７回：体育の授業で、サッカーのゲーム場面で、視覚や記憶に困難のあるこどもがいたら、行動面では、どのようなところにつまずくか、つまずきへ、どのように支援すればよいか、まとめてくる。 第８回：林間学校に参加する際のつまずきと支援についてまとめる。 第９回：前回配布した資料の事例について、困難さの整理と支援を組み立てまとめる。 第１０回：子どもを認める・褒める時の配慮についてまとめる。 第１１回：プールに入る時の着替えの手順をわかりすく視覚的に提示する、支援の表を作成する。 第１２回：子どもが感じるストレスについて考えまとめる。 第１３回：特別支援教育を受けるにあたっての、保護者・本人・級友への配慮について、考えをまとめる。 第１４回：通級指導について調べ、まとめる。
	復習	第１回 ：この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと

第２回～第６回：ＬＤについて、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておくこと。
第７回～第８回：発達障害児を支える校内支援体制について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておくこと。
第９回～第１３回：ＡＤＨＤについて、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておくこと。
第１４回～第１５回：発達障害児の教育課程、合理的配慮について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておくこと。

展開　当事者による署書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、発達障害の支援について知識・理解を深めること。

成績評価

評価の基準
１．ＬＤ児、ＡＤＨＤ児 など発達障害のある子どもの心理・生理について理解して表現できる。
２．発達障害児の支援方法について考え,工夫することができる。
３．学習指導要領に則して、教育的支援について整理し、ポイントを表現できる。

評価の方法　講義・討議への参加及び態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。

教科書

書籍名	文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	２１０円
ISBN・ISSN	９７８－４－３０３－１２４３２－８

書籍名	文部科学省　小学校学習指導要領解説　総則編
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社
価格	１０８円
ISBN・ISSN	９７８－４－４９１－０２３７０－０

書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	１７００円
ISBN・ISSN	４－０５－４０３１５２－８

推薦図書等

参考URL

備考

子どもの行動の背景を理解しようとする姿勢・柔軟性が必要です。
毎回、テーマに対して自分の考えをまとめ、グループで協議し、報告し合い、視点を整理します。

自閉症スペクトラム教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST215
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	自閉症スペクトラム教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A1117001　金2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　2 障害支援
4 資質・能力

カリキュラムポリシー　2 障害支援
5-3 視覚、聴覚、LD、自閉症等

授業のキーワード　自閉症スペクトラム障害，認知特性，早期発見と早期支援

学生の到達目標

１、自閉症スペクトラムの幼児,児童の心理,生理について理解する。
２、自閉症スペクトラムの認知特性に応じた教育的支援について学び、支援の方法について考え工夫することができる。
３、学習指導要領に則して、自閉症スペクトラムのある子どもへの教育的支援について整理することができる。

授業内容

第1回　オリエンテーション

第2回　自閉症とは（目標１）

第3回	自閉症の心理:認知特性 と支援①：ことばについて(目標1・２・３)
第4回	自閉症の心理:認知特性 と支援②：ことばを補う伝え方とＩＣＴを活用した支援について(目標1・２・３)
第5回	認知特性 に応じた学校での支援：特性を理解した支援とＩＣＴの活用(目標２)
第6回	認知特性 に応じた学校での支援：自立活動的な支援(目標２・３)
第7回	自閉症の心理:認知特性 と支援③：パニックとは(目標1・２・３)
第8回	自閉症の心理:認知特性 と支援④：パニックを防ぐための支援(目標1・２・３)
第9回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑤：集団のルールの理解の仕方(目標1・２・３)
第10回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑥：集団のルールを理解のための支援(目標1・２・３)
第11回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑦：身体の感覚について(目標1・２・３)
第12回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)：肯定的な支援(目標２・３)
第13回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)：事例検討(目標２・３)
第14回	まとめ：事例から個別の支援指導計画作成に向けて (目標１・２・３)
第15回	まとめ (目標１・２・３)　授業の振り返りと、自閉症スペクトラムの理解と支援に関する重要事項の確認

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	事前に指定されたテーマについて、資料を収集し、自分の考えをまとめ、グループ討議で発表できるようにする。 第１回：シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第２回：自閉症について、自分が理解していることについてまとめる。 第３回～第４回：自閉症のことばの特性と、支援や補う方法について調べる。 第５回～第６回：自閉症児への学校での支援について調べる。 第７回～第８回：自閉症児のパニックの理解と支援について調べる。 第９回～第１０回：自閉症児の集団のルールの理解と支援について調べる。 第１１回：自閉症児の身体感覚の理解と支援について調べる。 第１２回：肯定的な支援の意味と方法について調べる。 第１３回：事前に配布された事例について、困難さの分析と支援について考えまとめる。 第１４回：個別の指導計画の重要性、書式と内容について調べる。 第１５回：２回～１５回を通して、自閉症についての理解が深まり、支援の方法を習得できたか考えまとめる。
	復習	講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておくこと。 第１回：シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第２回：自閉症について、全般的な特性についてまとめ理解しておく。 第３回～第４回：自閉症のことばの特性と、支援や補う方法について、調講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。 第５回～第６回：自閉症児への学校での支援について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。

第７回～第８回：自閉症児のパニックの理解と支援について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第９回～第１０回：自閉症児の集団のルールの理解と支援について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第１１回：自閉症児の身体感覚の理解と支援について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第１２回：肯定的な支援の意味と方法について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第１３回：事前に配布された事例について、困難さの分析と支援について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第１４回：個別の指導計画の重要性、書式と内容について、講義内容・協議・発表のポイントを整理し、授業で行った指導要領によるまとめとの関連を、理解しておく。
第１５回：２回～１５回を振り返り、自閉症についての習得できた特性や支援の方法について、指導要領との関連でまとめ、理解しておく。

展開　当事者による著書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、自閉症の認知特性と支援について理解を深めること。

成績評価

評価の基準　授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。

評価の方法　講義・討議への参加及び態度（20%），提出物（20%），試験（60%）を総合的に評価する。

教科書

書籍名	文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	２１０円
ISBN・ISSN	９７８－４－３０３－１２４３２－８

書籍名	発達に課題のある子の保育の手立て
著者名	佐藤　暁
出版社	岩崎学術出版社
価格	１８００円
ISBN・ISSN	９７８－４－７５３３－１００３－６

書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	１７００円
ISBN・ISSN	４－０５－４０３１５２－８

推薦図書等

参考URL

備考

障害のある子どものＩＣＴ活用

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST216
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	障害のある子どものＩＣＴ活用
科目責任者	加藤　悦子
担当教員	遠藤　隆志 庭野　公恵 内田　義人 平林　ルミ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1118901
教室	スタディコート
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-3 視覚、聴覚、LD、自閉症等

授業のキーワード	ICT活用　支援ツール　障害のある子ども

学生の到達目標	１．障害のある子ども・支援を要する子どもの生活上・学習上の困難性について理解できる。 ２．障害のある子ども・支援を要する子どもへのICT活用の意義と合理的配慮について理解できる。 ３．障害のある子ども・支援を要する子どもへのICT活用の基礎的な技術を理解し、初歩的な実践ができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 担当教員: 加藤　悦子・遠藤　隆志 第2回　障害のある子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 担当教員: 平林　ルミ 第3回　障害のある子どもへのICT活用の意義と合理的配慮（目標２） 担当教員: 平林　ルミ 第4回　障害のある子どもへのICT活用の基本と配慮点（目標３） 担当教員: 平林　ルミ 第5回　知的特別支援学校に在籍する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 担当教員: 内田　義人 第6回　肢体不自由特別支援学校に在籍する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 担当教員: 内田　義人 第7回　知的特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援・合理的配慮の実際と家庭との連携（目標２） 担当教員: 内田　義人 第8回　肢体不自由特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援・合理的配慮の実際と家庭との連携（目標２） 担当教員: 内田　義人 第9回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 担当教員: 内田　義人 第10回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 担当教員: 内田　義人 第11回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 担当教員: 内田　義人 第12回　特別支援学級に在籍する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 担当教員: 庭野　公恵 第13回　特別支援学級に在籍する子どもへのICT活用支援・合理的配慮の実際（目標２） 担当教員: 庭野　公恵 第14回　特別支援学級に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 担当教員: 庭野　公恵 第15回　まとめ（目標１，２，３）　授業の振り返りと、障害のある子どもへのICT活用に関する重要事項の確認 担当教員: 加藤　悦子・遠藤　隆志・庭野　公恵
予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習　講義前に教科書を読み、実際の支援について調べた上で、支援のイメージをしっかりと持って参加すること。 集中講義のため、連続して授業が実施される。

一日単位での予習が必要である。
第１回～第４回
これまでの他の講義で学んだ、障害のある子どもの困難さと支援について、調べまとめておく。
第５回～第１１回
特別支援学校に在籍する児童・生徒の困難さと支援、ICT活用のについて調べ、まとめておく。
第１２回～第１５回
特別支援学級に在籍する児童の困難さと支援について調べ、まとめておく。

復習　集中講義のため、連続して授業が実施される。
一日単位での復習が必要である。講義で配布された資料を、再度読み、修得した知識を整理し、理解を深める。
第１回～第４回
障害のある子どもの困難さと支援、ICT活用の意義、基本、配慮について理解しておく。
第５回～第１１回
特別支援学校に在籍する児童・生徒の困難さと支援、ICT活用の意義、基本、配慮について理解しておく。
第１２回～第１５回
特別支援学級に在籍する児童の困難さと支、ICT活用の意義、基本、配慮について理解しておく。

展開　実際に、ボランティア活動、教育実習などで子どもとかかわる時に、既習の知識技術から、何を活用できるか、想定して、自分なりの支援を組み立ててみて、ＩＣＴ活用の汎用について深める。

成績評価

評価の基準
１．障害のある子どもの生活上・学習上の困難さを理解できる。
２．ICT活用の意義と合理的配慮を理解できる。
３．基本的な技術を修得し、初歩的な支援の実践を行うことができる。

評価の方法
基本的な理解と実践（５０％）
レポート（３０％）
学習態度（２０％）

教科書

書籍名	タブレットPC・ｽﾏﾎ時代の子どもの教育
著者名	中邑賢龍・近藤武夫
出版社	明治図書
価格	１６００円
ISBN・ISSN	９７８－４－１８－００７１２５－８

推薦図書等

参考URL

備考

＊この科目は履修人数に制限があります。年度初めガイダンスのアナウンスによって、履修の手続きをしてください。集中講義ですから、詳細な日程・教室などは、Ｕナビでお知らせしますので、気をつけて見るようにしてください。
＊実際にタブレット端末に触れ体験しながら、支援の組み立てまでできることを目指します。

特別支援学校教育課程・授業論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST211
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援学校教育課程・授業論
科目責任者	田所　明房
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A1112501　火2
教室	講義室21,22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー
2 障害支援
4 資質・能力

カリキュラムポリシー
5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育
5-4 特別支援学校教育実践等

授業のキーワード

特別支援学校　学習指導案　個別の指導計画　教育課程　授業づくり

学生の到達目標

1.特別支援学校の教育課程と授業づくりについて理解し説明できる。
2.実践に取り組む際の「できる状況づくり」の実際を学び説明できる。

授業内容

第1回　オリエンテーション（目標１・２）

第2回　特別支援学校について学ぶ～その１・歴史と幼児・児童生徒の特徴（目標１・２）

第3回	特別支援学校について学ぶ～その２・学校，学部の特徴（目標１・２）
第4回	特別支援学校の実践と教育課程～その１・知的障害の場合（目標１・２）
第5回	特別支援学校の実践と教育課程～その２・肢体不自由，病弱の場合（目標１・２）
第6回	特別支援学校の実践と教育課程～その３・個別の指導計画（目標１・２）
第7回	特別支援学校の授業と学習指導案～その１・指導案の見方（目標１・２）
第8回	特別支援学校の授業と学習指導案～その２・書き方を試す（目標１・２）
第9回	学習指導案づくりとその検討～その１・子どもの特徴・模擬授業①（目標１・２）
第10回	学習指導案づくりとその検討～その２・指導の目標・模擬授業②（目標１・２）
第11回	学習指導案づくりとその検討～その３・指導の手立て・模擬授業③（目標１・２）
第12回	授業研究と学習指導案・模擬授業④（目標１・２）
第13回	子ども主体の授業と授業づくり・模擬授業⑤（目標１・２）
第14回	特別支援学校の教育課程と授業づくり～模擬授業⑥(ワークショップによる研究協議)（目標１・２）
第15回	授業の展開と研究～模擬授業⑦（ワークショップによる研究協議・全体のまとめ）（目標１・２）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第６回 特別支援学校の歴史や在籍する児童生徒の障害、教育課程の特徴、授業の様子等について関心を持ち、文献や各学校のホームページ等で調べる。 第７回～第８回 特別支援学校の学習指導案について、その書式、書くべき内容について調べる。 第９回～１５回 自分が行う模擬授業の内容に応じて、指導案の略案や教材について、教科書や指導案集を参考に調べる。必要な教材を作成する。 各特別支援学校ではどのように授業研究会が行われているか調べる。
	復習	第１回～第１５回 毎時間の学びについて振り返りシートを作成し、提出する。必要に応じて、次回の授業でコメントを帰すようにする。 第１回～第５回 毎回配付する資料・レジメ、各自が作成するノート等で 特別支援学校の教育課程や授業づくり、学習指導案の要点を振り返り、次回の授業・指導案検討に生かすようにする。 第６回～第１３回 各自が想定した障害種に応じて、朝の会や帰りの会、体育等の指導略案と使用する教材を作成する。模擬授業で指摘された内容について振り返り、改善し次回に生かす。 模擬授業ごとに、成果と課題についてコメントする。 レポート課題として、関心のある授業について略案を作成する。課題は添削し、コメントを添える。 第１４回～第１５回 代表による模擬授業を参観し、指導案の検討を行う。各自の意見をまとめるとともに研究協議をする。協議で出された意見や改善点について振り返る。
	展開	授業で学んだこと、指導案の作成、模擬授業の計画と展開、教材作成の構想と作成の実際の経験を教育実習での授業づくりや精錬授業

		に活かす。総合的な学習指導案・授業づくり、教材作成の力量を高める。
成績評価	評価の基準	１．特別支援学校の教育課程と授業づくりの要点を説明できる。 ２．特別支援学校ならではの学習指導案を自分で作成できる。
	評価の方法	学習指導案の作成レポート及び模擬授業６０％　授業時の小テスト及び小レポート４０％
教科書	書籍名	支援案の書き方個別の指導計画
	著者名	太田俊己 監修
	出版社	K & H.
	価格	２０００円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-9901197-3-7
推薦図書等	書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚園・小学部・中学部）
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
	書籍名	特別支援教育学習指導案の書き方
	著者名	山本邦晴・田所明房　監修
	出版社	K&H
	価格	２５００円＋税
	ISBN・ISSN	078-4-9905553-3-7
参考URL		
備考		実習での精錬授業を行う際に必要な学習指導案作成、およびその他実習で必要な備え等について取り上げるので、特別支援学校で教育実習を行う前に必ず受講すること。 ２年時の受講が必須となる。

特別支援教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP101
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育参観実習
科目責任者	田所　明房
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1126001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等
授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級	
学生の到達目標	1.特別支援学校教育の実際について実地の参観を通して初歩の理解ができる。 2.障害のある子どもの実際の様子，教師の支援や対応を受け止め,実習等と関連づけて理解することができる。 3.特別支援学校教諭等の進路を意識し，実践や実際について考えを深めることができる。	

授業内容	＊９月上旬に実施 ７月　事前ガイダンス（目標１，２，３） １０月　事後ガイダンス・振り返りとまとめ（目標１，２，３）	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	特別支援学校について学校要覧やホームページ等で調べたり，ボランティア等の経験を振り返ったりしておく。集合場所，参観該当校への交通経路や時間も確認しておく。
	復習	参観で見聞きした事柄を自分なりに咀嚼し，資料で確認し深める。記録簿と参観レポートを作成する。参観レポートの記載をふまえて，事後指導で意見交換・協議をする。
	展開	特別支援学校教育実習を意識して，各自の実習校希望校選定に役立てる。特別支援学校に関する授業内容，障害に関する授業内容に反映させて発展を図る。
成績評価	評価の基準	1.特別支援学校教育の実際について実地の参観を通して初歩の理解ができる。 2.障害のある子どもの実際の様子，教師の支援や対応を受け止め,実習等と関連づけて理解することができる。 3.特別支援学校教諭等の進路を意識し，実践や実際について考えを深めることができる。
	評価の方法	レポート(50%)，事前・事後ガイダンスおける授業内での発表，及び態度(50%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	事前ガイダンスを行います。出席は必須です。 参観学校の概要説明や見学の際の留意事項等を説明します。 ３年次に特別支援教育実習を希望する者は、必ず履修すること。 当日の参観は，教育実習に準じます。 参観校によっては、参観時にマスク着用が求められます。 身なりや言動をわきまえての参加が必須です。 見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。 事後ガイダンスへの出席も必須です。参観後、レポートの提出が必要です。 インターンシップ等で特別支援学校についての理解を深めておくこと。	

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP301
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	田所　明房
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1120001
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	3
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等
授業のキーワード	一日・一週間の流れ，共に活動，ひとり一人の理解と支援，連携，服務	
学生の到達目標	1.障害への正しい理解と心豊かな人間性を養う。 2.児童生徒への支援的対応等，教育実践上の課題解決に向けた努力をする。 3.特別支援学校における指導・支援の実践的体験をとおして専門的な知識・技能を身につけ，教育者としての意識を深め，責任ある行動がとれる。	

授業内容	＊原則９月～11月に実施 第1回 1　実習の内容（目標１，２，３） （１）オリエンテーション （２）共に活動し児童生徒を理解する （３）支援の補助とチームティーチング 第2回 （４）教材研究及び略案指導 （５）精錬指導 ２　勤務(目標１，２，３) （１）勤務は実習校教職員の勤務に準じ，監督者の指示によって勤務する （２）実習は学校長及び学校長の指定する指導担当教諭の指導によって行う 第3回　報告・記録 （１）実習記録簿に押印し勤務状況を記録する（目標３） （２）実習日誌に記録し，指導担当教諭の指導を受ける（目標１，２，３） （３）実習評価表により学校長及び指導担当教諭の評価を受ける
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習　参観実習の様子を思い返したり，インターンシップ，ボランティア等での経験を振り返り，また事前指導での留意点を確認し，実習に備える。 復習　事後指導に備え，記録簿の内容点検，精錬授業の振り返り，実習での自己課題が達成できたか確認する。 展開　教員としてあるべき姿を改めて確認し，学校現場で実習での成果と課題をどのように生かすか考えてみる。
成績評価	評価の基準　1.障害への正しい理解と心豊かな人間性を養うことができたか。 2.児童生徒への支援的対応等，教育実践上の課題解決に向けた努力をすることができたか。 3.特別支援学校における指導・支援の実践的体験をとおして専門的な知識・技能を身につけ，教育者としての意識を深め，責任ある行動がとれる。 評価の方法　実習先の実習評価・出勤簿等を中心に，記録簿の内容，巡回指導訪問報告書の内容を加味して評価する。 実習評価・出勤簿（ 70%）実習記録簿・巡回指導訪問報告書（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・同時に「特別支援教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 ・実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。 ・実習受け入れ決定後の個人的な理由による辞退はしないようにしてください。 ・児童生徒のプライバシー保護やマナーに十分配慮すること。

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP202
開講年度	2017年度
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	田所　明房
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1121001　月5，水5
教室	(前期)月曜日:講義室21・22 水曜日:講義室15 (後期)講義室15
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等

授業のキーワード	障害者，特別支援学校，指導（支援）案，チームティーチング
学生の到達目標	1．実習の意義と必要性をより一層深め，特別支援学校実習に対してしっかりとした心構えを持つ。 2．特別支援学校の概要及び指導の内容を理解し説明できる。 3．将来に見通しを持ち，教育現場で意欲的に取り組もうとする意識を持つ。

授業内容

＊この科目は通年です。

１事前指導

第1回　ガイダンス，事前指導の意義，実習の目的等(目標1)

第2回　教師のあり方・心構え，実習にあたっての留意事項,手続き(目標2)

第3回　学校の教育活動について(目標2)

第4回　特別支援学校の概要と服務(目標2)

第5回　指導案の書き方及び児童生徒への支援的対応(目標2)

第6回　実習記録簿の意義と記入の仕方，事前訪問の注意(目標1)挨拶・打合せ〈実習先でのオリエンテーション〉

２事後指導

第7回　実習記録簿の整理，提出(目標3)
実習報告会(意見交換と反省・まとめ)(目標3)

第8回　実習記録簿の整理,提出(目標3)
実習報告会(意見交換と反省・まとめ)(目標3)

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習

第１回～第３回
実習について日常から関心を持ち，先輩の話を聞くなどして現場の様子を知る努力をする。
実習の手引きをもとに毎回の該当箇所をよく読み下調べをしておく。特別支援学校でのボランティア等での実施体験をしておくことが望ましい。
第４回～第６回
実習予定校の学校要覧やホームページで児童生徒の障害の様子や教育課程，指導案の書き方、教材研究について調べておく。
第７回～第８回
実習の体験，実習記録簿や精錬授業の成果と課題等にまとめておく。

復習

第１回～第６回
毎回の授業のまとめを実習の手引きに照らし合わせてメモしておく。実習生としての服務や指導案の書き方について振り返る。
実習の事後指導の後にも、実習体験を生かして講義等に臨むこと。
第７回～第８回
実習の成果と課題について発表を行う。成果と課題を受け止め，教職への意識を高める。発表に対して、今後の目指したい方向などをアドバイスをする。

展開

実習の事前指導をしっかりと準備しておくことが本実習の成果を左右する。
実習の事後指導で自己を見つめなおし，今後の進路のあり方を定め、自己改善につなげていく。

成績評価

評価の基準

１．実習の意義と必要性をより一層深め，特別支援学校実習に対してしっかりとした心構えを持つ。
２．特別支援学校の概要及び指導の内容を理解し説明できる。
３．将来に見通しを持ち，教育現場で意欲的に取り組もうとする意識を持つ。

評価の方法

記録簿，レポート等の内容で評価する。
事前・事後学習への参加姿勢も考慮する。
記録・レポート（ 70%），授業内での発表内容及び態度（ 30%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	440円＋税
ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚園・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	450円＋税
ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部，小学部，中学部，高等部）
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL

備考

・特別支援教育実習の希望者は全員が対象。
・特別支援教育実習を行う年度に必ず受講する。

なお，事前指導第１回～第３回については，小学校教育実習事前指導と合同で行う。

幼児保育インターンシップⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR101
開講年度	2017年度
科目区分	インターンシップ・ボランティア活動科目
授業科目名	幼児保育インターンシップⅠ
科目責任者	金子　功一
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 宮下　裕一 小川　晶 広瀬　由紀 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1060401
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 9 キャリア形成
授業のキーワード	インターンシップ，キャリア教育．汎用性能力	

学生の到達目標	1.社会人・職業人としての基本的な心構え、知識、礼儀、マナーなどを現場での実地経験を通して、身につけることができる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用性能力を高める。
授業内容	授業は通期で行います。 ・オリエンテーション①（目標1） インターンシップとは何か。記録用紙の配布など ・オリエンテーション②（目標1） インターンシップ先を探し方、記録の書き方など ・インターンシップ活動の実践と記録（目標2,3） 幼稚園、保育所等において、40時間以上を実施 ・インターンシップ活動をまとめる①（目標3） 学んだことを記録用紙に文章化し、考察を行う。 ・インターンシップ活動をまとめる②（目標3） それぞれの学んだことを他者と共有することを通して、自身の次の課題を整理する。
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習 ・インターンシップに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録すること。また、インターンシップ先が決まったら必ずキャリア支援課に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・社会人としてふさわしい、清潔感のある服装や相手に伝わる言動について考え、実践できる準備をしておくこと。 ・日頃から子どもに関する書物等を読むこと。 ・子どもへの接し方、見方、記録の取り方などを勉強しておくこと。 復習 ・インターンシップ終了後、インターンシップ先から活動証明印を活動記録用紙にもらうこと。 ・子どもの行動、自分の行動、そこから気が付いたことについて端的にまとめる。 ・疑問に思ったことは、インターンシップ先に聞く、友人と情報を共有し合う、自分で調べるなどして解決を図るようにする。 展開 ・できる限り、同一施設で長期間インターンシップを行うことが望ましい。 ・わからないことは、勝手に判断しないで、必ずインターンシップ先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは、一人で抱え込まず必ず教員やキャリア支援課職員に相談する。
成績評価	評価の基準 この科目は、合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。GPAの適用除外科目である。 単位として認められるインターンシップの条件は，以下の通りとする。 ①原則として無償のインターンシップであること。 ②授業時間の他でインターンシップをすること。 ③1年間に延べ40時間以上の活動証明がされていること。 上記を基準として，各インターンシップを通した学びを記述することができることを評価とする。 ＊また，上記「学生の到達目標」である 1.社会人・職業人としての基本的な心構え、知識、礼儀、マナーなどを現場での実地経験を通して、身につけることができる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用性能力を高める，について理解し，自分の考えを的確に表現できることも評価に基準に含める。 評価の方法 「活動実施報告書」を元に、認定委員会などを通して単位を認定する。 提出は、1月末日とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	「幼児教育・保育インターンシップⅠ」は、乳幼児期の教育・保育などにかかわるインターンシップをある期間行うような場合を対象とする。活動場所としては、保育所、幼稚園、認定こども園、障害児施設などが挙げられる。

幼児保育インターンシップⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR201
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	幼児保育インターンシップⅡ
科目責任者	金子　功一
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 宮下　裕一 小川　晶 広瀬　由紀 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1060501
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 9 キャリア形成
授業のキーワード	インターンシップ，キャリア教育．汎用性能力	

学生の到達目標	1.社会人・職業人としての基本的な心構え、知識、礼儀、マナーなどを現場での実地経験を通して、身につけることができる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用性能力を高める。
授業内容	授業は通期で行います。 ・オリエンテーション①（目標1） インターンシップとは何か。記録用紙の配布など ・オリエンテーション②（目標1） インターンシップ先を探し方、記録の書き方など ・インターンシップ活動の実践と記録（目標2,3） 幼稚園、保育所等において、40時間以上を実施 ・インターンシップ活動をまとめる①（目標3） 学んだことを記録用紙に文章化し、考察を行う。 ・インターンシップ活動をまとめる②（目標3） それぞれの学んだことを他者と共有することを通して、自身の次の課題を整理する。
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習 ・インターンシップに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録すること。また、インターンシップ先が決まったら必ずキャリア支援課に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・社会人としてふさわしい、清潔感のある服装や相手に伝わる言動について考え、実践できる準備をしておくこと。 ・日頃から子どもに関する書物等を読むこと。 ・子どもへの接し方、見方、記録の取り方などを勉強しておくこと。 復習 ・インターンシップ終了後、インターンシップ先から活動証明印を活動記録用紙にもらうこと。 ・子どもの行動、自分の行動、そこから気が付いたことについて端的にまとめる。 ・疑問に思ったことは、インターンシップ先に聞く、友人と情報を共有し合う、自分で調べるなどして解決を図るようにする。 展開 ・できる限り、同一施設で長期間インターンシップを行うことが望ましい。 ・わからないことは、勝手に判断しないで、必ずインターンシップ先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは、一人で抱え込まず必ず教員やキャリア支援課職員に相談する。
成績評価	評価の基準 この科目は、合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。GPAの適用除外科目である。 単位として認められるインターンシップの条件は，以下の通りとする。 ①原則として無償のインターンシップであること。 ②授業時間の他でインターンシップをすること。 ③1年間に延べ40時間以上の活動証明がされていること。 上記を基準として，各インターンシップを通した学びを記述することができることを評価とする。 ＊また，上記「学生の到達目標」である 1.社会人・職業人としての基本的な心構え、知識、礼儀、マナーなどを現場での実地経験を通して、身につけることができる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用性能力を高める，について理解し，自分の考えを的確に表現できることも評価に基準に含める。 評価の方法 「活動実施報告書」を元に、認定委員会などを通して単位を認定する。 提出は、1月末日とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	「幼児教育・保育インターンシップⅡ」は、乳幼児期の教育・保育などにかかわるインターンシップをある期間行うような場合を対象とする。活動場所としては、保育所、幼稚園、認定こども園、障害児施設などが挙げられる。

保育活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR301
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	保育活動実地演習Ⅲ
科目責任者	金子　功一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1060301
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	7-2 保育の対象理解 9 キャリア形成

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
学生の到達目標	1.自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2.自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3.自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する

授業内容	＊通期で行います。 ・オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等)（目標１） ・オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等)(目標１) 以下，施設において，年間40時間以上実施 ・ボランティア活動のまとめ (活動報告会) (目標２・３) ・ボランティア活動のまとめ (記録の提出) (目標２・３)	
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する
	復習	実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出（2月中旬までに）
	展開	本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。 主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。
成績評価	評価の基準	この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 GPAは適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい） ＊また，上記「学生の到達目標」である 1.自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2.自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3.自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事するへの達成度で評価するについて理解し，自分の考えを的確に表現できることも評価に基準に含める。
	評価の方法	実施報告書を提出することで合格とする。 提出は，１月末日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

小学校教育インターンシップⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER101
開講年度	2017年度
科目区分	インターンシップ・ボランティア活動科目
授業科目名	小学校教育インターンシップⅠ
科目責任者	馬場　彩果 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1103401
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	インターンシップ，キャリア教育，汎用的能力
学生の到達目標	1.自分の計画や見通しを持ってインターンシップの活動に参加できる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用的能力を高める。
授業内容	＊通期で行います。 ・オリエンテーション ①（目標１） インターンシップ活動とは何か，活動実施報告書の配布など

・オリエンテーション ②（目標１）
　インターンシップ先の見つけ方，記録の書き方など
・インターンシップ活動の実践と記録（目標２・３）
　学校等において，年間40時間以上を実施
・インターンシップ活動のまとめ①（目標３）
　学んだことを記録にまとめる
・インターンシップ活動のまとめ②（目標３）
　次年度に向けて課題を整理する

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・インターンシップにいく気持ちのある学生は，年度初めに必ず履修登録をすること。また，インターンシップ先が決定したら必ずキャリア支援課に届けること。（事故遭遇時の補償に関係します） ・子どもへの接し方，見方，記録のとり方など勉強しておくこと。 ・服装，言動について学んでおくこと。 ・日ごろから，児童に関する書籍を読むこと。
	復習	・インターンシップ終了後，インターンシップ先から活動証明印を活動記録用紙に押印していただくこと。 ・子どもの行動，自分のとった行動,子どもの変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは，指導者に聞いたり調べるなどして,解決をはかる。
	展開	・できる限り，同一のところで，長期間インターンシップを行うことが望ましい。 ・分からないことは,自分で判断しないで,必ずインターンシップ先の責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときには，一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	1.自分の計画や見通しを持ってインターンシップの活動に参加することができたか。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができたか。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用的能力を高めることができたか。
	評価の方法	実践報告書をもとに認定委員会などを通して単位を認定する。 実践報告書の提出は１月末日までとする。 この科目は，合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。 単位として認められるインターンシップの条件は，以下の通りとする。 ①原則として無償のインターンシップであること。 ②授業時間の他でインターンシップをすること。 ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・「小学校教育インターンシップＩ」は小学生の教育活動などにかかわるインターンシップをある期間行うような場合を対象とする。小学校での教育ボランティア，不登校の子供の支援，レクリエーション活動，部活への支援などがある。	

小学校教育インターンシップⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER201
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	小学校教育インターンシップⅡ
科目責任者	馬場　彩果 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1103501
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	キャリア形成、汎用的能力
学生の到達目標	1.自分の計画や見通しを持ってインターンシップの活動に参加できる。 2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用的能力を高める。
授業内容	＊通期で行います。 ・オリエンテーション ①（目標１） インターンシップ活動とは何か，活動実施報告書の配布など

・オリエンテーション ②（目標１）
　インターンシップ先の見つけ方，記録の書き方など
・インターンシップ活動の実践と記録（目標２・３）
　学校等において年間40時間以上を実施する。
・インターンシップ活動のまとめ①（目標３）
　学んだことを記録にまとめる
・インターンシップ活動のまとめ②（目標３）
　次年度に向けて課題を整理する

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習
・インターンシップにいく気持ちのある学生は，年度初めに必ず履修登録をすること。また，インターンシップ先が決定したら必ずキャリア支援課に届けること。（事故遭遇時の補償に関係します）
・子どもへの接し方，見方，記録のとり方など勉強しておくこと。
・服装，言動について学んでおくこと。
・日ごろから，児童に関する書籍を読むこと。

復習
・インターンシップ終了後，インターンシップ先から活動証明印を活動記録用紙に押印していただくこと。
・子どもの行動，自分のとった行動,子供の変化についてまとめる。
・疑問に思ったことは，指導者に聞いたり調べるなどして,解決をはかる。

展開
・できる限り，同一のところで，長期間インターンシップを行うことが望ましい。
・分からないことは,自分で判断しないで,必ずインターンシップ先の責任者の方に聞く。
・困ったことや悩みを抱えたときには，一人で抱え込まず必ず教員に相談する。

成績評価

評価の基準
1.自分の計画や見通しを持ってインターンシップの活動に参加することができたか。
2.自己の適性や課題を見出し、主体的な職業選択ができたか。
3.現場の今日的課題や状況を知り、専門性、汎用的能力を高めることができたか。

評価の方法
実践報告書をもとに認定委員会などを通して単位を認定する。
実践報告書の提出は１月末日までとする。
この科目は，合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。
単位として認められるインターンシップの条件は，以下の通りとする。
①原則として無償のインターンシップであること。
②授業時間の他でインターンシップをすること。
③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

・「小学校教育インターンシップⅡ」は小学生の教育活動などにかかわるインターンシップをある期間行うような場合を対象とする。小学校での教育ボランティア，不登校の子供の支援，レクリエーション活動，部活への支援などがある。

教育活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER301
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	教育活動実地演習Ⅲ
科目責任者	馬場　彩果 戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1103301
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	ボランティア活動、教育、児童
学生の到達目標	1.自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2.人との触れ合いを通じて、実践的な力や社会性を身につける。 3.子どもに対する見方、かかわり方を深める。
授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション①（目標１） ボランティア活動とは何か、記録用紙の配布など

・オリエンテーション②（目標１）
　ボランティア先の見つけ方、記録の書き方など
・ボランティア活動に参加して体験談を聞く（目標３）
・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３）
　施設や学校等において40時間以上実施
・ボランティア活動のまとめ①（目標３）
　記録から学んだことをまとめる
・ボランティア活動のまとめ②（目標３）
　次年度に向けて課題を整理する

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	・ボランティアに行く気持ちのある学生は年度初めに　必ず履修すること。また、ボランティア先が決定したら必ずキャリア支援課に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・子どもへの接し方、見方、記録のとり方など勉強しておくこと。 ・服装・言動について学んでおくこと。 ・日ごろから児童に関する書籍を読むこと。
	復習	・ボランティア終了後、ボランティア先から活動証明印を活動記録用紙にもらう。 ・子どもの行動、自分のとった行動、子どもの変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは、指導者に聞いたり調べたりして、解決をはかる。
	展開	・できる限り、同一学校で長時間ボランティアを行うことが望ましい。 ・分からないことは、勝手に判断しないで、必ずボランティア先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準	１.自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加することができたか。 ２.人との触れ合いを通じて、実践的な力や社会性を身につけることができたか。 ３.子どもに対する見方、かかわり方を深めることができたか。
	評価の方法	実践報告書をもとにボランティア認定委員会などを通して単位を認定する。実践報告書の提出は２月末日までとする。 この科目は、合格か不合格の身を決める「単位認定科目」である。GPAの適用除外科目である。単位として認められる条件は以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延べ４０時間以上の活動証明がなされていること。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・「教育活動実地演習Ⅲ」は小学生、中学生の教育活動などにかかわるボランティアを、ある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア、不登校の子どもの支援、学童保育、レクレーション活動、部活への支援などがある。	

特別支援教育インターンシップⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR101
開講年度	2017年度
科目区分	インターンシップ・ボランティア活動科目
授業科目名	特別支援教育インターンシップⅠ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1122401
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 9 キャリア形成
授業のキーワード	インターンシップ，キャリア教育，汎用的能力	
学生の到達目標	1.社会人・職業人として基本的な心構え，知識，礼儀，マナーなどを現場での実地経験を通して，身につけることができるようにする。 2.自己の適性や課題を見出し，主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り，専門性，汎用的能力を高める。	

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） インターンシップ活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） インターンシップ先の見つけ方,記録の書き方等 ・インターンシップ活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・インターンシップ活動のまとめ①（目標３） 記録から学んだことをまとめる ・インターンシップ活動のまとめ②（目標３） 次年度に向けて課題を整理する
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習 ・年度初めに必ず履修登録すること。また、インターンシップ先が決定したらキャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを調　べ、学んでおく。 ・服装・言動についても学んでおく。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおく。 復習 ・インターンシップ終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとった言動、障害のある人の変化などについてまとめ、障害のある人とのかかわりについて理解を深める。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして、解決をはかる。 展開 ・できるだけ、同一のところで、長期間インターンシップをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、インターンシップ先の責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。 ・実際に経験したことを、書籍や論文などで確認しまとめ、理解を深める。
成績評価	評価の基準 この科目は、合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。 単位として認められるインターンシップの条件は以下の通りである。 ①原則として無償のインターンシップであること。 ②授業時間の他でインターンシップをすること。 ③１年間に延べ４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法 活動実施報告書を提出することで合格とする。 提出は１月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育インターンシップⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR201
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	特別支援教育インターンシップⅡ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1122201
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 9 キャリア形成
授業のキーワード	インターンシップ，キャリア教育，汎用的能力	
学生の到達目標	1.社会人・職業人として基本的な心構え，知識，礼儀，マナーなどを現場での実地経験を通して，身につけることができるようにする。 2.自己の適性や課題を見出し，主体的な職業選択ができるようにする。 3.現場の今日的課題や状況を知り，専門性，汎用的能力を高める。	

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） インターンシップ活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） インターンシップ先の見つけ方,記録の書き方等 ・インターンシップ活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・インターンシップ活動のまとめ①（目標３） 記録から学んだことをまとめる ・インターンシップ活動のまとめ②（目標３） 次年度に向けて課題を整理する
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習 ・年度初めに必ず履修登録すること。また、インターンシップ先が決定したらキャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを調　べ、学んでいく。 ・服装・言動についても学んでおく。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおく。 復習 ・インターンシップ終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとった言動、障害のある人の変化などについてまとめ、障害のある人とのかかわりについて理解を深める。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして、解決をはかる。 展開 ・できるだけ、同一のところで、長期間インターンシップをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、インターンシップ先の責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。 ・実際に経験したことを、書籍や論文などで確認しまとめ、理解を深める。
成績評価	評価の基準 この科目は、合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。 単位として認められるインターンシップの条件は以下の通りである。 ①原則として無償のインターンシップであること。 ②授業時間の他でインターンシップをすること。 ③１年間に延べ４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法 活動実施報告書を提出することで合格とする。 提出は１月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

障害者支援活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR301
開講年度	2017年度
科目区分	地域活動科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習Ⅲ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1122301
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 5 キャリア形成
カリキュラムポリシー	2 障害支援 9 キャリア形成

授業のキーワード	ボランティア活動、障害者支援
学生の到達目標	1.自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2.障害のある子どもや大人の、一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3.約束ごとや個人のプライバシー等を守り、信頼関係の大切さを知る。

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） 　ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） 　ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等 ・ボランティア活動に参加して、体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３） 　施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 　記録から、学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 　活動の報告会
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習 ・年度初めに必ず履修登録すること。また、ボランティア先が決定したらキャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを調　べ、学んでおく。 ・服装・言動についても学んでおく。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおく。 復習 ・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとった言動、障害のある人の変化などについてまとめ、障害のある人とのかかわりについて理解を深める。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして、解決をはかる。 展開 ・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。 ・実際に経験したことを、書籍や論文などで確認しまとめ、理解を深める。
成績評価	評価の基準 この科目は合格か、不合格かのみを決める。「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延べ４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法 実施報告書を提出することで合格とする。 提出は1月末日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123002　月3
教室	ゼミ室10・11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ，インクルーシブ教育
学生の到達目標	1．文献資料の収集方法を理解し，自分の関心のあるテーマについて必要な資料を収集できるようになる。 2．収集した文献資料の内容を理解し，自分の考えを適切に表現できるようになる。 3．自分の研究したいテーマを明確に表現できるようになる。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3） 第2回　関心のある領域の文献資料の収集方法（目標1）

第3回	関心のある領域の文献資料を収集するための図書館の利用方法（目標1）
第4回	関心のある領域の文献資料を収集するためのデータベースの利用方法（目標1）
第5回	関心のある領域の文献資料を収集するためのインターネットの利用方法（目標1）
第6回	関心のある領域の文献資料を収集するための文献複写の方法（目標1）
第7回	関心のある領域の国内文献資料の収集（目標2）
第8回	収集した国内文献資料の整理（目標2）
第9回	収集した国内文献資料の分析（目標2）
第10回	収集した国内文献資料についてのまとめ（目標2）
第11回	関心のある領域の海外文献資料の収集（目標2）
第12回	収集した海外文献資料の整理（目標2）
第13回	収集した海外文献資料の分析（目標2）
第14回	収集した海外文献資料についてのまとめ（目標2）
第15回	前期のまとめ　収集した文献資料を通じて学んだことの確認（目標1，2）
第16回	後期のイントロダクション　後期の授業の進め方（目標1，2，3）
第17回	研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の整理（目標2） ・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。
第18回	研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の分類（目標2）
第19回	研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の分析（目標2）
第20回	研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料のまとめ（目標2）
第21回	研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の整理（目標2）
第22回	研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の分類（目標2）
第23回	研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の分析（目標2）
第24回	研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料のまとめ（目標2）
第25回	研究目的の検討（目標3）
第26回	研究対象の検討（目標3）
第27回	研究方法の検討（目標3）
第28回	研究要旨の検討（目標3）
第29回	研究テーマと研究要旨の確認（目標3）
第30回	後期のまとめ　後期の授業の振り返りと各自の研究テーマの確認（目標1，2，3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 どのような領域に関心があるかについてまとめておくこと

第3回 図書館の利用方法について調べておくこと
第4回 データベースの利用方法について調べておくこと
第5回 インターネットの利用方法について調べておくこと
第6回 文献複写の方法について調べておくこと
第7回 関心のある領域の国内文献資料を収集しておくこと
第8回 収集した国内文献資料を整理しておくこと
第9回 収集した国内文献資料について分析しておくこと
第10回 収集した国内文献資料についてまとめておくこと
第11回 関心のある領域の海外文献資料を収集しておくこと
第12回 収集した海外文献資料を整理しておくこと
第13回 収集した海外文献資料について分析しておくこと
第14回 収集した海外文献資料についてまとめておくこと
第15回 前期に行った文献資料収集を通じて学んだことをまとめておくこと
第16回 どのような領域を研究テーマにしたいかについてまとめておくこと
第17回 研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料を整理しておくこと
第18回 研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料を分類しておくこと
第19回 研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料を分析しておくこと
第20回 研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料についてまとめておくこと
第21回 研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料を整理しておくこと
第22回 研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料を分類しておくこと
第23回 研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料を分析しておくこと
第24回 研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料についてまとめておくこと
第25回 研究目的を検討しておくこと
第26回 研究対象を検討しておくこと
第27回 研究方法を検討しておくこと
第28回 研究要旨を検討しておくこと
第29回 研究テーマと研究要旨をまとめておくこと
第30回 後期の授業を通じて学んだことをまとめておくこと
上記予習内容については，授業において発表し，それに基づいて協議する。

復習　第1回 この授業の受講を通じて理解を深めたい事項についてまとめておくこと
第2回 関心のある領域について発表・協議したことをまとめておくこと
第3回 図書館の利用方法についてまとめておくこと
第4回 データベースの利用方法についてまとめておくこと
第5回 インターネットの利用方法についてまとめておくこと
第6回 文献複写の方法についてまとめておくこと
第7回 国内文献資料の収集について発表・協議したことをまとめておくこと
第8回 収集した国内文献資料の整理について発表・協議したことをまとめておくこと
第9回 収集した国内文献資料の分析について発表・協議したことをまとめておくこと
第10回 収集した国内文献資料について発表・協議したことをまとめておくこと
第11回 海外文献資料の収集について発表・協議したことをまとめておくこと
第12回 海外文献資料の整理について発表・協議したことをまとめておくこと
第13回 海外文献資料の分析について発表・協議したことをまとめておくこと
第14回 海外文献資料について発表・協議したことをまとめておくこと
第15回 前期の授業を通じて学んだことをまとめておくこと
第16回 研究テーマにしたい領域について発表・協議したことをまとめておくこと

		第17回 研究テーマにしたい領域の国内文献資料の整理について発表・協議したことをまとめておくこと 第18回 研究テーマにしたい領域の国内文献資料の分類について発表・協議したことをまとめておくこと 第19回 研究テーマにしたい領域の国内文献資料の分析について発表・協議したことをまとめておくこと 第20回 研究テーマにしたい領域の国内文献資料に関する発表・協議を通じて学んだことをまとめておくこと 第21回 研究テーマにしたい領域の海外文献資料の整理について発表・協議したことをまとめておくこと 第22回 研究テーマにしたい領域の収集した海外文献資料の分類について発表・協議したことをまとめておくこと 第23回 研究テーマにしたい領域の海外文献資料の分析について発表・協議したことをまとめておくこと 第24回 研究テーマにしたい領域の海外文献資料に関する発表・協議を通じて学んだことをまとめておくこと 第25回 研究目的について発表・協議したことをまとめておくこと 第26回 研究対象について発表・協議したことをまとめておくこと 第27回 研究方法について発表・協議したことをまとめておくこと 第28回 研究要旨について発表・協議したことをまとめておくこと 第29回 研究テーマと研究要旨について発表・協議したことをまとめておくこと 第30回 後期の授業における発表・協議を通じて学んだことをまとめておくこと
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと
成績評価	評価の基準	1）文献資料の収集方法を理解し，自分の関心のあるテーマについて必要な資料を収集できること。 2）収集した文献資料の内容を理解し，自分の考えを適切に表現できること。 3）自分の研究したいテーマを明確に表現できること。
	評価の方法	平常点，提出レポートにより評価する。 （平常点 50%，提出レポート 50%） 平常点には，発表・協議・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123003　火3
教室	ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	教育の社会学，実証研究，定量的研究，定性的研究，教育問題
学生の到達目標	1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2．文献講読と調査研究をとおして,卒業研究に生かす力を獲得する。 3．現代の教育の諸相をわかりやすく構成し,発表することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション:学習の目的と年間授業計画（目標1・2）
	第2回	担当教員の専門領域の概略(目標1,2)
	第3回	担当教員の研究の紹介(目標1,2)
	第4回	文献を読む: ①教育社会学的アプローチ「学校教育」(目標1)
	第5回	文献を読む: ②教育社会学的アプローチ「家庭教育」(目標1)
	第6回	文献を読む: ③教育社会学的なアプローチ[教育とジェンダー」(目標1)
	第7回	文献を読む: ④教育社会学的アプローチ「教育の病理」(目標1)
	第8回	文献を読む: ⑤教育社会学的アプローチ「高等教育」(目標1)
	第9回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,3)
	第10回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,3)
	第11回	研究の方法: ①定量的研究「テーマの選定」(目標2,3)
	第12回	研究の方法: ②定量的研究「調査項目の選定」(目標2,3)
	第13回	研究の方法: ③定性的研究「面接調査」(目標2,3)
	第14回	研究の方法: ④定性的研究「調査対象と手続き」(目標2,3)
	第15回	論文の書き方:課題設定(目標2,3)
	第16回	論文の書き方:引用参考文献の示し方・註のつけ(目標2)
	第17回	研究テーマに関する中間発表 ②:学校教育分野（目標2）
	第18回	研究テーマに関する中間発表 ②：幼児保育分野（目標2）
	第19回	ゼミ調査研究の実践 ①：テーマの選定（目標1,2）
	第20回	ゼミ調査研究の実践 ②(目標1,2)：テーマの確定
	第21回	ゼミ調査研究の実践 ③：研究目的と方法及び役割の確定（目標2）
	第22回	ゼミ調査研究の実践 ④：先行研究の分析（目標2）
	第23回	ゼミ調査研究の実践 ⑤：全体構成の確定（目標1,2,3）
	第24回	ゼミ調査研究の実践 ⑥：調査研究報告書の作成（目標1,2,3）:
	第25回	ゼミ調査研究の実践 ⑦調査研究報告書の作成：目標（2：
	第26回	ゼミ調査研究の実践 ⑧：調査研究報告書の作成（目標1,2,3）:
	第27回	ゼミ調査研究の実践 ⑨：報告書の印刷・簡易製本（目標1,2,3）
	第28回	ゼミ調査研究に関する最終発表 ①(目標1,2,3)
	第29回	ゼミ調査研究に関する最終発表 ②(目標1,2,3)
	第30回	総括：調査方法とその実践のまとめ（調査研究の講評を含む）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	・事前配布の資料を読んでゼミナールに出席することを前提とする。（第1－10回、第16回－18回） ・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。 ・ゼミ生全員で取り組む調査実践の準備を計画的に進める。（10－30回）
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	

・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	目標に照らして、前期と後期２回の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。 1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身についたか。 2．文献講読と調査研究をとおして,卒業研究に生かす力を獲得できたか。 3．現代の教育の諸相をわかりやすく構成し,発表する力がついたか。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%

教科書	書籍名	『少子社会の子育て力』
	著者名	髙野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-7620-2376-7

推薦図書等	書籍名	『教育社会学』
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	ISBN:9784491027289

参考URL	文部科学省ＨＰ　http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm

備考	・自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。 ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業運営に配慮し、前期に学んだ研究方法を用い、協働で進める調査研究を仕上げる(毎年度実施してきている）。 ・・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123004　月3
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，自分の関心，テーマの明確化
学生の到達目標	1.乳幼児の行動に関する記述や観察,関連研究を結びつけて,行動の意味や要因を考えられる。 2.乳幼児期の発達に関して,自分の視点と他者のそれとを比較し,自分の視点を深められる。 3.乳幼児期の発達に関する先行研究などを調べて検討し,自分の研究テーマを定める。
授業内容	第1回　乳幼児期の情緒の現れ方と性格との関連を理解する(目標1,2) 第2回　乳幼児期の情緒発達の筋道を理解しながら,認知や人間関係との関連を学ぶ(目標1,2)

第3回	乳幼児期の社会性の発達に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
第4回	乳幼児期の人の心の理解に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)
第5回	乳幼児の情緒をテーマとする記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
第6回	乳幼児の社会性に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
第7回	乳幼児の遊びに関する記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標2,3)
第8回	乳幼児の人の心の理解に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)
第9回	研究テーマの決め方や研究の方法について学ぶ(目標2,3)
第10回	乳幼児期の発達に関する研究論文を読み合わせて,意見を述べ合う(目標1,2)
第11回	乳幼児期の発達に関する研究論文を批判的に読み,改善すべき点について考える(目標2,3)
第12回	学生自身が興味あるテーマについて,なぜ興味があるのかも含めて発表する(目標3)
第13回	学生自身が情緒に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
第14回	学生自身が社会性発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
第15回	学生自身が個性の発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
第16回	学生自身が遊びに関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)
第17回	社会性発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
第18回	個性の発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)
第19回	研究論文における論理的思考について理解する(目標2,3)
第20回	学生自身が情緒に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)
第21回	学生自身が社会性発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)
第22回	学生自身が個性の発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)
第23回	学生自身が遊びに関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)
第24回	研究のための方法について理解する(目標2,3)
第25回	研究のための方法の問題点について理解する(目標2,3)
第26回	学生が関心を持っているテーマと目的について発表し,討論する(目標2,3)
第27回	学生が関心を持っているテーマの研究の仕方を発表し,討論する(目標2,3)
第28回	学生が関心を持っているテーマの予想される結果を発表し,討論する(目標2,3)
第29回	社会性発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標2,3)

	第30回	個性の発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	子どもの発達に関する本・論文を読み、自分なりの考えを持つ。 １－４回　乳幼児期の情緒や社会性の発達に関する研究論文を読み、疑問点を見つけ出す。 ５－８回　乳幼児の社会性に関する日誌や行動記録を読み、解釈の仕方などを検討する。 ９回、12回　仮に自分の研究したいテーマを設定して、その研究を進めるために何をしたらよいか考える。 10－11回、13－18回　自分の研究に関連する論文を読んで、論文の仕組みを理解する。 19回　論理の進め方に注目して、論文を読む。 20－23回　論文を読んで主張を読み取り、そのための裏付けが明確にできているか検討する。 24－25回　研究の方法の妥当性について意識しながら、論文を読む。 26－28回　自分の興味のある領域について調べ、どのような研究ができるか考えてみる。 29－30回　自分の興味のある領域に関する複数の論文を比較しながら読み、どのような研究ができるか検討する。
	復習	授業で出た資料を読み返し、自分のテーマとの関係を考える。 １－４回　乳幼児期の情緒や社会性の発達に関して、授業を振り返って、さらに追及すべき点をノートに整理する。 ５－８回　乳幼児の社会性に関する日誌や行動記録に基づいた様々な見方を整理し、自分に合った考えを見つける。 ９回、12回　テーマと研究の仕方の関連について振り返り、改めてやりたい研究を考える。 10－11回、13－18回　論文の仕組みについて出された意見を整理してノートにまとめる。 19回　論理の進め方について、出された意見を整理してノートにまとめる。 20－23回　論文の主張を支える裏付けの仕方を振り返り整理する。 24－25回　研究方法についての様々な意見を振り返って整理しまとめる。 26－28回　自分の興味のある領域について、どのような研究ができるか整理しまとめる。 29－30回　どのような研究ができるかについての意見を整理してまとめる。
	展開	自分なりに調べたい点を明らかにしていく。
成績評価	評価の基準	1.乳幼児の行動に関する記述や観察,関連研究を結びつけて,行動の意味や要因を考え、的確に表現できること。 2.乳幼児期の発達に関して,自分の視点と他者のそれとを比較し,自分の視点を深め、的確に表現できること。 3.乳幼児期の発達に関する先行研究などを調べて検討し,自分の研究テーマを定め、それに沿って考えをまとめること。
	評価の方法	レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123005　火3
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	音楽活動，音楽用語，楽曲分析，音楽文献学	
学生の到達目標	1.問題意識が高まる 2.疑問点を積極的に調べる力が付く 3.音楽に関する得意分野ができる	
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション	
	第2回　担当教員の専門分野とその研究 (目標1)	

第3回	保育・教育現場における音楽 (目標1,3)
第4回	保育・教育現場における音楽活動 (目標1,3)
第5回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査（１）(目標1,2,3)
第6回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査（２）、（１）とは別の施設又は同一施設、他学年等 (目標1,2,3)
第7回	各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査（３）(目標1,2,3)
第8回	見学・調査の発表及びそれに関する討論 (目標1,2)
第9回	収集したデータの見方・まとめ方・利用法について (目標1,2)
第10回	調査報告書・レポート・論文の書き方 (目標1,2)
第11回	調査報告書の作成(正しく理解される文章であるか等) (目標1)
第12回	調査報告書の発表及び討論 (目標1,2)
第13回	討論の結果を踏まえて,さらに報告書の書き方の向上を目指す (目標1,2)
第14回	まとめ,授業の振り返り、さらに研究を深めるために（目標1、2、3）
第15回	音楽文献学 (目標1,2)
第16回	後期のオリエンテーション
第17回	楽曲分析法(幼児・児童の歌、小学校の共通教材)(目標1,2)
第18回	楽曲分析実践（1）(目標1,2)
第19回	楽曲分析実践(2)、分析データから何をどのように読み取り、まとめる事ができるか(目標1,2)
第20回	具体例に基づき,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決法等の検討（目標1,2）
第21回	各自の関心のある事柄についての文献調査 (目標1,2,3)
第22回	テーマの設定、文献調査 (目標1,2,3)
第23回	内容の分析・検討 (目標1,2,3)
第24回	問題解決に向けて更なる検討 (目標1,2,3)
第25回	レポートの作成 (目標1,2)
第26回	レポートの作成 (目標1,2)
第27回	作成したレポートの発表、討論(正しく理解される書き方であるか等)(目標1,2,3)
第28回	作成したレポートの発表、討論 (目標1,2,3)
第29回	討論の結果を踏まえて,さらにレポートの書き方の向上を目指す (目標1,2,3)
第30回	まとめ,授業の振り返りとゼミナールⅡに向けて

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	保育・教育現場の音楽活動に関して,実習時の記録簿等を見直して,気付いた点や問題点を挙げておく。 後期には楽曲分析を行うため、各自の専攻における音楽活動で使用する楽曲の中から、2~3曲を選択して楽曲構造、調性、歌詞と旋律の関係等を調べておく。
	復習	保育・教育現場の音楽活動に関する調査報告発表の討論に際して,指摘された問題点や不明な箇所を再度調べなおす。 楽曲分析の発表に際して指摘された箇所を再度検討し、他の曲の分析も試みる事で、分析能力の向上を図る。

	展開	各自の興味のある音楽分野に関して,本授業で学んだ音楽文献学を駆使して参考文献を検索し,卒業研究に向けた準備をする。
成績評価	評価の基準	1.問題意識を持って、物事に対応できること 2.疑問点を積極的に調べることができること 3.音楽に関する得意分野ができること
	評価の方法	提出報告書（30%），提出レポート（30%），勉学意欲（40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	音楽理論の基礎
	著者名	笠原　潔・徳丸吉彦
	出版社	日本放送出版協会
	価格	2600円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4595307164
参考URL		
備考	音楽を論理的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とします。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	田所　明房
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123008　月3
教室	ゼミ14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	5-2 知的障害、肢体不自由、病弱教育 5-4 特別支援学校教育実践等
授業のキーワード	特別支援学校　知的障害　重複障害　実践研究　授業づくり	
学生の到達目標	1.現場での実践について関心を深める。 2.教材作成の実技、資料や文献、体験を検討し、考えを深める。 3.プレゼンや協議、教材作成を通して、自分なりの考えや理念を深め、実践力をつける。	

授業内容	第1回	オリエンテーション ゼミの内容と進め方(目標１)
	第2回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その１(目標１)
	第3回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その２(目標１)
	第4回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その３(目標１)
	第5回	各自の関心を発表する～その１(目標１、２、３)
	第6回	各自の関心を発表する～その２(目標１、２、３)
	第7回	実際体験・参観の検討～その１(目標１、２、３)
	第8回	実際体験・参観の検討～その２(目標１、２、３)
	第9回	体験・参観の計画～その１　目的を絞る(目標２、３)
	第10回	体験・参観の計画～その２　記録を考える(目標２、３)
	第11回	調査や体験の実施～その１(目標２、３)
	第12回	調査や体験の実施～その２(目標２、３)
	第13回	調査や体験の発表～その１(目標２、３)
	第14回	調査や体験の発表～その２(目標２、３)
	第15回	まとめと後期に向けての検討(目標３)
	第16回	夏季休業中の体験・調査の発表～その１(目標２、３)
	第17回	夏季休業中の体験・調査の発表～その２(目標２、３)
	第18回	後期の課題検討～その１(目標２、３)
	第19回	後期の課題検討～その２(目標２、３)
	第20回	教材・指導法検討～その１(目標２、３)
	第21回	教材・指導法検討～その２(目標２、３)
	第22回	教材・指導法検討～その３(目標２、３)
	第23回	教材・指導法検討～その４(目標２、３)
	第24回	調査・体験・結果の発表～その１(目標２、３)
	第25回	調査・体験・結果の発表～その２(目標２、３)
	第26回	調査・体験・結果の発表～その３(目標２、３)
	第27回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その１(目標２、３)
	第28回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その２(目標２、３)
	第29回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その３(目標２、３)
	第30回	今年度の成果と次年度に向けての計画(目標３)

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第１回～第４回 各自の課題を明確にして、発表準備などを行う。関連の資料やサイトを調べる。 第５回～第１０回 各自の興味関心、課題に基づき、体験や調査、参観に向けて計画を立てる。 第１１回～第１７回 体験や調査の内容をまとめる。発表資料を作成する。 第１８回～第２３回 関連するテーマに基づき、指導法、教材研究を行うとともに教材の作成や参考資料をつくる。 第２４回～第３０回 調査・体験・発表に基づき、卒業研究に向けて準備をする。

	復習	第１回～第３０回 ゼミメンバーの体験や発表内容をふまえ、自分の課題やテーマと関連付けたりする。 教材研究、体験の発表や調査報告、協議、指導法の検討等に対して、そのつどアドバイスを行うとともに、内容に応じた課題を提示する。課題の取り組みに対して、授業ごとにコメントを帰すようにする。
	展開	第１回～第３０回 自分なりのテーマを深め、教育実践に対するコアな部分を形成するよう努める。各種材料・素材・道具・工具等を活用した教材の研究・作成に取り組む。学校の公開研究会、学校祭、ボランティア等に積極的に参加することを通して、現場から学ぶ機会を多くとるようにする。
成績評価	評価の基準	1.現場での実践について関心を深める。 2.教材作成の実技、資料や文献、体験を検討し、考えを深める。 3.プレゼンや協議、教材作成を通して、自分なりの考えや理念を深め、実践力をつける。
	評価の方法	授業内での発表（50%）、レポート内容（50%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	教育実習も含め、実践の場への体験参加や見学等を交えたい。このため土曜日などを含めて、授業スケジュールに空き曜日を設けることが望ましい。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123009　木4
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	小学校における英語教育，言語習得，子どもの発達と教育
学生の到達目標	1.外国語教育の理論と背景を理解する。 2.小学校現場で何をどう進めるかを理解する。 3.実際の指導と教材を具体的に考える。
授業内容	第1回　外国語教育の意義 (以下目標1) 第2回　小学校英語導入の背景と現状・課題

第3回	海外の初等外国語教育
第4回	言語習得論-母語と第二言語の習得
第5回	子どもの脳の発達と早期教育
第6回	脳科学から小学校英語教育への応用
第7回	発達心理学と小学校英語教育
第8回	言語のしくみとコミュニケーション能力
第9回	国際理解教育と英語教育
第10回	求められる教員の資質
第11回	英語力の向上と鍛え方
第12回	英語教育全体における小学校英語教育の役割
第13回	小学校英語教育の目標の立て方 (以下目標2)
第14回	校内の環境作り,共通理解と校内研修
第15回	カリキュラム・年間指導計画作りのポイント
第16回	指導者と指導形態
第17回	基本的な外国語教授法
第18回	クラスルーム・イングリッシュの活用
第19回	マルチメディア教材等の活用法
第20回	1時間の指導の組み立て方
第21回	教材の使い方・選び方と開発方法
第22回	評価の意義と評価方法
第23回	指導の基本と留意ポイント (以下目標3)
第24回	あいさつ,ウォーミングアップ,復習
第25回	導入-新しい言語材料の導入とテクニック
第26回	基本-ドリル活動のバリエーション
第27回	発展-さまざまな展開活動
第28回	1時間の振り返り,自己評価表の実際
第29回	実際の単元展開例
第30回	まとめ　学習事項の確認と重要事項の復習 (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回～第29回の各々で，該当ページを熟読し，要点をA4の用紙１枚にまとめる。
	復習	第1回～第29回の各々で，作成した要旨に修正を加え，改訂版を作成する。
	展開	独自の研究テーマに関する事項を発見し，応用する方策を考える。

成績評価	評価の基準	1.外国語教育の理論と背景を理解するできたか，2.小学校現場で何をどう進めるかを理解できたか，3.実際の指導と教材を具体的に考えることができたかについて，それぞれ到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（50%），課題等の提出物（50%）を対象として総合的に評価する。

教科書

書籍名	小学校外国語活動の進め方
著者名	岡　秀夫・金森　強（編著）
出版社	成美堂
価格	2,800円（税別）
ISBN・ISSN	978-4-7919-7154-1

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123010　月3
教室	ゼミ室5,6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	課題解決能力の育成・企画立案・運営
学生の到達目標	１，自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成する。 ２，企画を立て運営をしていくことで、次の企画への見通しを持てるようにする。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画(目標１，２) 第2回　各自の興味関心に即していて、調査研究できそうな課題を考え合う。（目標１）

第3回	各自の課題について、研究が可能か否かを検討し合う。（目標１）
第4回	各自が設定した課題について、仮説を立て検討する。（目標１）
第5回	仮説に対して文献等を調べ、必要とされる情報について収集する。（目標１）
第6回	収集した情報についてまとめ、発表する。（目標１）
第7回	情報についてまとめたものを検討し合う。（目標１）
第8回	具体的にどのように課題を解決していくか、具体的な案を検討し合う。（目標１）
第9回	課題解決のためのフィールド・ワーク等の計画を立てる。（目標１、２）
第10回	課題解決のためのフィールド・ワーク等を行う。（目標１）
第11回	課題解決のためのフィールド・ワーク等の経過を報告し合い、方向性を検証する。（目標１）
第12回	設定した課題について、研究の方向性について改めて検討し合う。（目標１、２）
第13回	ここまでの経過から、新たに発見できた課題を報告し合い、内容を検討する。（目標１）
第14回	前回検討された課題設定について、各自が修正してきた内容を検討し合う。（目標１）
第15回	新たな課題を話し合い，より良い企画立案のための方法をまとめる。フィールド・ワーク等の計画を立てる。（目標１）
第16回	フィールド・ワーク等の成果について報告し合う。（目標１）
第17回	報告書のまとめ方を学ぶ。（目標１）
第18回	各自が作成してきた報告書の途中経過について、検討し合う。（目標１）
第19回	報告書を作成するために、まとめ方を検討し合う。（目標１）
第20回	報告書をまとめる。（目標１）
第21回	各自の課題について、発表会を行う。（目標１）
第22回	各自の課題発表会について、振り返りを行う。（目標１）
第23回	企画の設定等について学ぶ。（目標２）
第24回	企画実施のための計画を立てる。（目標２）
第25回	地域に目を向け、課題を発見する。（目標２）
第26回	地域の課題解決ために，活動した内容について検討会を開く。（目標２）
第27回	地域の課題解決ために，地域の人たちと話し合う。（目標２）
第28回	新たな地域の課題解決ために，地域の人たちに提案する内容を考える。（目標２）
第29回	次年度の計画について、話し合う。（目標１，２）
第30回	計画書をまとめ，内容の振り返りをする。（目標１，２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。 第2回調査研究できそうな内容について考えておくこと。 第3回調査研究に関して話し合った内容から研究可能かどうか文献等を調べること。 第4回研究仮説を考えてくること。

第5回仮説に対しての文献等を読んでまとめてくること。
第6回研究に必要とされる情報について，調べてくること。
第7回情報を整理し，レポートにまとめること。
第8回話し合いを進めらるようわかりやすいレポートにまとめること。
第9回フィールドワークの計画を立てること。
第10回フィールドワークの場所等，詳しい情報を収集すること。
第11回フィールドワークの経過についてまとめること。。
第12回研究の方向性について，詳細を考えてくること。
第13回新たな課題の設定について，考えてくること。
第14回課題について，わかりやすくまとめること。
第15回新たな課題について，フィールドワークの計画を立てること。
第16回フィールドワークの成果等について，まとめること。
第17回報告書の途中経過をまとめること。
第18回報告書途中経過について，プレゼンテーションできるようにすること。
第19回報告書のプレゼンテーションについて，レポートをまとめること。
第20回発表した報告書について，修正を加えること。
第21回他のゼミ員のプレゼンテーションについて，感想等をまとめること。
第22回感想を述べ合えるよう，レポートを書くこと。
第23回地域連携に関する企画の立て方について，ネット等で情報を収集すること。
第24回地域連携に関する企画を考えること。
第25回地域に出かけ，課題を発見してくること。
第26回地域で見つけた課題について，レポートにまとめること。
第27回地域に出かけ，地域の人と話し合ってくる内容を考えること。
第28回地域の課題を解決するための提案内容を考えること。
第29回次年度に向けて，課題解決のための計画書を作成すること。
第30回計画書をまとめ，整理してくること。

復習　第1回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。 第2回調査研究する内容についてまとめておくこと。
第3回研究可能かどうか文献等を元にレポートを作成すること。
第4回研究仮説を立てること。
第5回仮説に対してまとめること。
第6回研究に必要とされる情報について，レポートを作成すること。 第7回情報を整理し，レポートを作成すること。
第8回レポートを整理し，推敲すること。
第9回フィールドワークの計画をまとめておくこと。
第10回フィールドワークの場所等，詳しい情報を収集したレポートを作成すること。
第11回フィールドワークの経過について，読み手がわかるようにまとめること。。
第12回研究の方向性について，整理しレポートにまとめること。
第13回新たな課題の設定について，整理しておくこと。
第14回課題について，レポートにまとめること。
第15回フィールドワークの計画をまとめること。
第16回フィールドワークの成果等について，レポートとしてまとめること。
第17回報告書の途中経過を整理すること。
第18回報告書途中経過についての，プレゼンテーションを整理しておくこと。
第19回まとめたレポートを推敲しておくこと。
第20回発表した報告書について，整理しておくこと。
第21回感想等をまとめ，相手に伝えられるよう整理しておくこと。
第22回感想を整理しておくこと。
第23回ネット等で収集した情報を整理すること。
第24回地域連携に関する企画について再考すること。
第25回地域に出かけ，発見した課題を整理しておくこと。
第26回地域で見つけた課題について，まとめたレポートを見直してみること。

		第27回地域の人と話し合ったり地域を見てきての印象等をまとめておくこと。 第28回地域の課題を解決するための提案内容を整理すること。 第29回次年度に向けた課題解決のための計画書をまとめておくこと。 第30回計画書を整理しておくこと。
	展開	体験を元に，学んでいくことを基本とする。課題解決ための基本的な知識については，自学自習を積極的に行うことを求めていく。
成績評価	評価の基準	１，自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成することができたか。 ２，企画を立て運営をしていくことで、次の企画への見通しを持てるようになったか。
	評価の方法	レポート５０％、発言３０％。他者の考えを認め、学び合う２０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	○課題解決学習の体験を具体的な場面で行っていく。 ○地域連携も学習していくので、積極的な参加を求める。 ○ディスカッションを多用する。 ○社会全般の知識を新聞やニュース等で獲得していって欲しい。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123011　月3
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	1 徳育・教養 6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	幼児教育，保育，観察調査，教材研究，教材開発	
学生の到達目標	1.卒論のねらいを理解し、自分の興味関心を明確にし,個々のテーマを見つける事が出来る。 2.教材研究や授業研究等を現場で実践し、その結果をもとに研究内容を深められるようになる。 3.幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや資料収集を行いながら研究テーマをより明確にする事が出来るようになる。	

授業内容	第1回	第1回シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解しておくこと(目標1)
	第2回	大学の授業の振り返り。学生自身の興味関心等の確認(目標1)
	第3回	課題設定と方法等の相談(目標1)
	第4回	学生自身の興味関心等の意見交換(目標1)
	第5回	課題設定と方法等の発表(目標1)
	第6回	保育現場の教材研究について(目標2)
	第7回	保育現場の教材研究の実際(目標2)
	第8回	保育現場の教材研究の作成(目標2)
	第9回	保育現場の教材研究の考察(目標2)
	第10回	保育現場の教材研究の考察,再検討(目標2)
	第11回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
	第12回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
	第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
	第14回	各自の研究課題の発表・協議(目標2，3)
	第15回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3)
	第16回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3)
	第17回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3)
	第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3)
	第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データ等集計(目標3)
	第20回	調査結果から 教材開発について意見交換(目標3)
	第21回	個々の研究テーマの設定(目標3)
	第22回	研究テーマの準備(目標3)
	第23回	研究テーマに沿っての計画(目標3)
	第24回	研究の資料調査(目標3)
	第25回	研究とその考察(目標3)
	第26回	テーマの決定(目標3)
	第27回	教材研究の現場での実践(目標３)
	第28回	教材研究の現場での実践と考察(目標2．3)
	第29回	調査結果と研究課題の修正（目標３）
	第30回	調査結果の発表と研究課題の修正（目標３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解しておくこと 第2回　大学の授業の振り返り。学生自身の興味関心等の確認をしておくこと 第3回　卒業研究の課題設定と方法を考えておくこと 第4回　自分の興味関心等をまとめ発表できるよう準備をしておくこと 第5回　卒業研究の課題設定と方法等の発表準備をしておくこと 第6回　フィールドワークとなる保育現場を考えておくこと 第7回　フィールドワークとなる保育現場の特徴を調べておくこと

第8回　フィールドワークとなる保育現場の特徴を調べておくこと
第9回　保育現場で行う教材研究の準備をすること
第10回　保育現場の教材研究の完成に向けて準備をしておくこと
第11回　関連研究会に参加するための準備を行うこと
第12回　関連研究会に参加して関係資料の収集・文献研究の準備をすること
第13回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換できるように準備をすること
第14回　各自の研究課題の発表・協議の準備をすること3)
第15回　幼稚園等,子どものいる施設等の下調べをすること
第16回　フィールドワークとなる幼稚園等,子どものいる施設での観察の準備をすること
第17回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめの準備をすること
第18回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ発表できるように準備をすること
第19回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめデータ等集計の準備をすること
第20回　調査結果から 教材開発について意見交換の準備をすること
第21回　個々の研究テーマの設定を考えておくこと
第22回　研究テーマについて考えておくこと
第23回　研究テーマに沿っての計画を考えておくこと
第24回　研究の資料調査を考えておくこと
第25回　研究とその考察を考えておくこと
第26回　テーマの決定できるようにしておくこと
第27回　教材研究の現場での実践の準備をしておくこと
第28回　教材研究の現場での実践と考察しておくこと
第29回　調査結果と研究課題の修正を考えておくこと
第30回　第1回～29回のポイント及び考察の記述を再度読んでおくこと

毎回、興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。上記予習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める

復習

第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解たことをまとめておくこと
第2回　大学の授業の振り返り。学生自身の興味関心をまとめ考察しておくこと
第3回　課題設定と方法をまとめておくこと
第4回　学生自身の興味関心等の意見交換下内容を考察しまとめておくこと
第5回　卒業研究の課題設定と方法等の発表したことを考察しまとめておくこと
第6回　フィールドワークとなる保育現場について調べたことをまとめておくこと
第7回　フィールドワークとなる保育現場の特徴を調べたことをまとめておくこと
第8回　フィールドワークとなる保育現場の特徴を調べてたことをまとめておくこと
第9回　保育現場で行う教材研究を行った手順等をまとめておくこと
第10回　保育現場の教材研究の完成に向けてまとめておくこと
第11回　関連研究会に参加した成果をまとめておここと
第12回　関連研究会に参加して関係資料の収集・文献研究をよく読みまとめておくこと
第13回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換したことを考察しまとめておくこと
第14回　各自の研究課題の発表・協議した内容を考察しまとめておくこと
第15回　幼稚園等、子どものいる施設等を調べたことをまとめておくこと
第16回　フィールドワークとなる幼稚園等、子どものいる施設で

		の観察したことをまとめておくこと 第17回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査したことを考察しまとめておくこと 第18回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ発表したことをまとめておくこと 第19回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめデータ等集計をまとめておくこと 第20回　調査結果から 教材開発について意見交換を考察しまとめておくこと 第21回　個々の研究テーマの設定を考察しておくこと 第22回　研究テーマについて決め、さらに関連事項をまとめておくこと 第23回　研究テーマに沿っての計画を考察しまとめておくこと 第24回　研究の資料調査を考察しまとめておくこと 第25回　研究とその考察をまとめておくこと 第26回　テーマの決定し、更に文献をまとめておくことと 第27回　教材研究の現場での実践を考察しておくこと 第28回　教材研究の現場での実践と考察しまとめておくこと 第29回　調査結果と研究課題の修正を考察しまとめておくこと 第30回　第1回～29回のポイント及び考察の記述を再度読んでまとめておくこと 毎回、学習したことを整理し、更に資料や文献で調べ自分なりの考察を加える。上記復習内容については、授業における質疑応答により理解状況を確認、授業を進める
	展開	1）卒業研究のテーマが決定でき、研究を開始できるようになる 2）展開 文献や幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら卒業論文を行う。
成績評価	評価の基準	1）卒論研究についての理解と取り組みの姿勢 2）課題設定やその取り組みについて調査結果と研究課題の成果と内容 3）研究報告・発表等の内容と発表の成果
	評価の方法	レポート・発表（ 70%）　研究課題への取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。 ・オフィス・アワー：月曜日，5限 ・連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123012　月3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子どもの表現活動のあり方と支援、造形表現、図画工作科教育	
学生の到達目標	1.造形表現や図画工作科に関わる課題に関心を持ち、実作や情報収集を通して自分の考えを持つ。 2.討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて他に伝える手立てを学ぶ。 3.必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究に対する基本的な方向性を確立する。	

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点,計画作成) (目標1.2)
	第2回	演習①感性①・音楽を色で表現する(目標1.2)・実作
	第3回	演習②感性②・音楽を形で表現する(目標1.2)・実作
	第4回	演習③技法から学ぶ①・視点を見直す (目標1.2)・実作
	第5回	演習④技法から学ぶ②・共同による学び(目標1.2)・実作
	第6回	演習⑤材料から学ぶ①手触りの違い(目標1.2)　・実作・レポート提出;確認後返却
	第7回	演習⑥材料から学ぶ②表現の多様性(目標1.2)　・実作・レポート提出;確認後返却
	第8回	演習⑦絵本の基本について(目標1.2.3)
	第9回	演習⑧発達の段階に即した試作(目標1.2)・先輩講話①・実習の活かし方(目標2.3)
	第10回	演習⑨指導計画・子どもの視点から具体的な手立てを考える (目標1.2)　・実作・レポート提出;確認後返却
	第11回	文による表現練習 「美・発見」,「読書」ノートに基づく発表 (目標1.2)
	第12回	論文例を読む①絵本研究・発想訓練・画像 (目標1.2)
	第13回	論文例を読む②先輩の論文・発想訓練・連想 (目標1.2)
	第14回	演習⑨絵本制作または工作・アイデアと計画,画材(目標1.2)先輩講話①(目標2.3)
	第15回	演習⑨絵本制作または工作・下絵(目標1.2)
	第16回	演習⑩絵本または工作発表・後期の活動について(目標1.2)　・レポート提出;確認後返却
	第17回	教育現場で活用できる造形表現活動(目標1.2.3)　・実作
	第18回	演習⑪鑑賞①多様な表現について学ぶ(目標2.3)・実作
	第19回	演習⑫鑑賞②美術館や博物館の活用について(目標2.3)　学外活動
	第20回	演習⑬子どもの視点を大切にした造形表現①(目標1.2)　・試作
	第21回	演習⑭子どもの視点を大切にした造形表現②(目標1.2)　・計画
	第22回	演習⑮子どもの視点を大切にした造形表現③(目標1.2)　・発表・レポート提出;確認後返却
	第23回	調査について・調べ方、論文の考え方、読み方(目標2.3)
	第24回	各自のテーマを絞る・先輩の研究テーマから,教育現場の研究①(目標2.3)
	第25回	先輩講話②・卒業研究の進め方,教育現場の研究②(目標2.3)
	第26回	演習⑯現場に活かす造形表現・行事への活用(目標1.2)
	第27回	演習⑰子どもの視点を大切にした造形表現④作(目標1.2)・実作・レポート提出;確認後返却
	第28回	各自の卒業研究テーマの中間発表(目標2.3)先輩講話③・4年として(目標2.3)
	第29回	各自の卒業研究計画の作成 (目標2.3)レポート提出;確認後返却
	第30回	まとめ～研究テーマと計画の発表・総括・ゼミナールⅡにむけて(目標1.2.3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 課題を確実に行う

		「読書」ノート,「美・発見」ノート等のレポートの記入 必要文献の読み込み
	復習	第1回～第15回 まとめをしっかりとする 関連文献の探索と読み込み 調査データの整理
	展開	自身の研究について,テーマを絞り,調査する
成績評価	評価の基準	1.造形表現や図画工作科に関わる課題に関心を持ち、実作や情報収集を通して自分の考えを持てたか。 2.討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて他に伝える手立てを学べたか。 3.必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究に対する基本的な方向性を確立できたか。 全体を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等の基礎を学び，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや制作，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，制作・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・実技演習を通して子どもの視点で造形表現や図画工作科教科教育に関する基礎・基本,視点の持ち方を学ぶ。 ・文章表現や発表,実技や演習を踏まえて造形表現･教育に対する理解を深め，それを基盤として卒業研究に向けて基礎を学ぶ。 ・実習日程等によってはシラバスの多少の内容変更もあり得る。 ・夏休みや春休み期間など,大学外に出て調査･研究する活動を設ける。ボランテイアや現場での授業補助も含める。 ・子ども向けの工作や絵本制作などの実技課題もある。 ・連絡はゼミ生に伝えているメールで随時連絡を行う	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123013　月3
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子ども・子育て支援, 実践, 研究方法
学生の到達目標	1.子どもを取り巻く現状について説明できるようになる。 2.子ども支援の現場に参加し,その現状について説明することができるようになる。 3.各自の研究テーマを明確化することができる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について 第2回　子ども家庭福祉とは (目標1)

第3回	子ども家庭福祉の理念について (目標1)
第4回	子ども・子育て支援の実践について1（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
第5回	子ども・子育て支援の実践について2（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
第6回	子ども・子育て支援の実践について3（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
第7回	子ども・子育て支援の実践について4（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
第8回	施設見学事前学習（目標1)
第9回	施設見学（児童養護施設）（目標1)
第10回	施設見学振り返り（目標1)
第11回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換1 (目標2)
第12回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換2 (目標2)
第13回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換3 (目標2)
第14回	子ども・子育て支援事業参加のまとめ（目標2)
第15回	前期のまとめ（目標1,2)
第16回	後期の進め方について
第17回	施設見学事前学習（目標1)
第18回	施設見学（児童養護施設）（目標1)
第19回	施設見学振り返り（目標1)
第20回	統計データの読み取り方1（ひとり親家庭の調査結果の理解）（目標1，3)
第21回	統計データの読み取り方2（ひとり親家庭の調査結果を用いたデータ加工）（目標1，3)
第22回	研究テーマの検討1（情報収集の方法）（目標3)
第23回	研究テーマの検討2（情報収集及び研究テーマの設定）（目標3)
第24回	研究目的及び方法の検討1（目標3)
第25回	論文について1（論文の構成要素）（目標3)
第26回	論文について2（問いと論証）（目標3)
第27回	研究計画についての検討（目標3)
第28回	研究計画書の作成（目標3)
第29回	研究計画書の報告（目標3)
第30回	１年のまとめ（子ども・子育て支援の現状を踏まえた各自の研究計画について）　（目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	毎回：自分自身の視野を広げるための学習を進める。事前学習が必要なものについては、関連文献等を用いて予習を行う。 第1回～7回：子ども家庭福祉の理念と実践について 子ども家庭福祉の考え方と体系について再度確認し、具体的な実践を学ぶ。 第8回～10回：施設見学の準備① 施設見学に向けて、対象施設の概要と取り巻く現状について調べる。 第11回～14回：子ども・子育て支援事業参加報告の準備 子ども・子育て支援事業参加報告会に向けて、体験した内容の整理をする。

第15回：前期の振り返り
前期の活動を振り返り、報告できるよう準備する。

第16回～19回：施設見学の準備②
施設見学に向けて、対象施設の概要と取り巻く現状について調べる。
第20～21回：統計データの読み取り
配布資料の統計データから読み取れることを報告できるよう整理する。
第22回～26回：卒業研究の進め方について
卒業研究をまとめるにあたって必要な知識と技術を学ぶ。
第27回～29回：研究計画書について
来年度の研究計画を立て、報告するための準備をする
第30回：1年間のまとめ
1年間を通して、ゼミ活動を改めて振り返る。

復習　毎回：授業の内容やノートや意見交換で得られた発言、配布資料等を用いて、理解を確実にする。
第1回～7回：子ども家庭福祉の理念と実践についての振り返り
事前学習した内容とゼミでの報告、意見交換等で得られた内容を整理する。
第8回～10回：施設見学の事前学習の整理及び見学後の振り返りを行う。
第11回～14回：子ども・子育て支援事業参加報告会を通して得られた内容の整理をする。
第15回：前期の振り返り
ゼミでの報告からの学びについて整理する。
第16～19回：施設見学の事前学習の整理及び見学後の振り返りを行う。
第20回～21回：ゼミでの報告を通して統計データを読み取ることで見えてくるひとり親家庭像についてまとめる
第22回～26回：卒業研究のまとめるための知識、技術を、ゼミでの報告を通して自分なりに整理をする。
第27回～29回：ゼミでの報告、意見交換を通して自らの研究計画書を見直す。
第30回：来年度に向けて、1年間の振り返りをする。

展開　各自の関心領域について、文献等を用いてさらに深め、卒業研究につなげていく。

成績評価

評価の基準　子ども・子育て支援の現状についての基本的理解ができていること。
各自が研究テーマを設定し、その方法及び内容が一程度明確化されていること。

評価の方法　授業への取り組む意欲および報告（40%），レポート（60%）で評価を行う。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	新版　論文の教室
著者名	戸田山和久
出版社	NHK出版
価格	1,200円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-14-091194-5

参考URL

備考　オフィスアワー：金曜日1限
e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123014　（前期）金4,　（後期）金3
教室	ゼミ室10・11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	障害、支援、教育、発達障害、実践研究	
学生の到達目標	１．発達障害を中心とした子どもにかかわるさまざまな問題について問題意識を持ち調べ,協議し,理解を深める。 ２．様々な情報を整理し,事実をもとにした客観的な考えを持ち,まとめ、発表することができる。 ３．子どもとのかかわりや観察で得た経験を研究的な視点でとらえ,専門的に学ぶための方法を身につけ,自分のテーマを定める。	

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	各自の問題意識についての発表する①（目標１）
	第3回	各自の関心テーマについての発表する②（目標１）
	第4回	文献収集について（インターネットでの検索について）学ぶ①（目標１）
	第5回	文献収集について（図書館の利用について）学ぶ②（目標１）
	第6回	文献を読む（発達障害について：生活上の困難さ）①（目標１）
	第7回	文献を読む（発達障害について：学習上の困難さ）②（目標１）
	第8回	文献を読む（発達障害について：対人関係上の困難さ）③（目標１）
	第9回	文献を読む（発達障害について：社会自立に向けての困難さ）④（目標１）
	第10回	中間報告（文献収集の結果報告：生活上の困難さについて）①（目標１、２）
	第11回	中間報告（文献収集の結果報告：学習上の困難さについて）②（目標１、２）
	第12回	中間報告（文献収集の結果報告対人関係上の困難さについて）③（目標１、２）
	第13回	中間報告（文献収集の結果報告：社会自立に向けての困難さについて）④（目標１、２）
	第14回	中間報告（文献収集の結果報告：身体・感覚上の困難さについて）⑤（目標１、２）
	第15回	前期のまとめ
	第16回	後期オリエンテーション
	第17回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ①：生活上の困難さについて（目標１、２、３）
	第18回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ②：学習上の困難さについて（目標１、２、３）
	第19回	子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ③：対人関係上の困難さについて（目標１、２、３）
	第20回	発表の方法（報告書）について学ぶ①（目標１、２、３）
	第21回	発表の方法（プレゼンテーション）について学ぶ②（目標１、２、３）
	第22回	実際の子どもとのかかわりについて発表する①：生活上の困難さについて（目標１、２、３）
	第23回	実際の子どもとのかかわりについて発表する②：学習上の困難さについて（目標１、２、３）
	第24回	実際の子どもとのかかわりについて発表する③：対人関係上の困難さについて（目標１、２、３）
	第25回	実際の子どもとのかかわりについて発表する④：社会自立に向けての困難さについて（目標１、２、３）
	第26回	実際の子どもとのかかわりについて発表する⑤：身体・感覚上の困難さについて（目標１、２、３）
	第27回	研究テーマについて計画の構想を練る・検討①（目標３）
	第28回	研究テーマについて計画を作成する・検討②（目標３４）
	第29回	研究計画の発表・討議（目標３）

	第30回	年間のまとめ

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	毎回のテーマについて,文献・書籍で自分の考えをまとめること。 発表する際,わかりやすく伝えることを目標に,十分に リハーサルをすること。 第１回～第３回 各自の課題を明確にして、発表準備などを行う。 第４回～第９回 各自の興味関心、課題に基づき、書籍、文献、インターネットなどで、色々の角度から調べる。 第１０回～第１５回 文献などの調査の内容をまとめる。発表資料を作成する。 第１６回～第１９回 子どもとのかかわりの分析に視点を絞り、書籍、文献、ＶＴＲなどで調べる。 第２０回～第２１回 　調査した内容の発表の方法について調べる。 第２２回～第２６回 　自分の経験を調査の内容と照合して考察する。 第２７回～第３０回 調査・体験・発表に基づき、卒業研究に向けて準備をする。
	復習	毎回,討論した内容について新たに修得した点をまとめ,自分の考えを整理すること。 第１回～第３０回 ゼミメンバーの体験や発表内容をふまえ、自分の課題やテーマと関連付けたりする。 文献研究、体験の発表や報告、協議等に対して、アドバイスを行い、内容に応じた課題を提示する。課題の取り組みに対して、コメントを返す。
	展開	討論したテーマについて,さらに,文献・書籍などで掘り下げ深めること。

成績評価	評価の基準	1.発達障害のある子どもにかかわる様々な問題について理解できたか 2.様々な情報を整理し、自己の経験を専門的な視点で捉え、事実をもとにした客観的な考えを持てるようになったか 3.わかりやすく発表することができたかを評価の基準とする。
	評価の方法	授業内の討議への参加及び態度（ 60%），発表とレポート（ 40%）

教科書

書籍名	特別支援教育　基本用語１００
著者名	上野　一彦　他
出版社	明治図書
価格	２１００円
ISBN・ISSN	９７８－４－１８－１０８５１０－０

書籍名	大学生のためのレポート・論文の書き方
著者名	石井　一成
出版社	ナツメ社
価格	１１００円
ISBN・ISSN	９７８－４－８１６３－５０５７－３

書籍名	文章力の基本１００題
著者名	阿部　紘久
出版社	光文社
価格	１０００円
ISBN・ISSN	９７８－４－３３４－９７６１７－０

推薦図書等

参考URL

備考

予定した回で発表を行う。
互いの研究にも関心を持ち，考えを深め合うことを大事に，ゼミナールⅡの研究につなげていく。

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123015　木2,　金5
教室	(前期)ゼミ4,(後期)講義室15
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	6-4 幼稚園教育実践等 7-2 保育の対象理解
授業のキーワード	保育実践，保育現場，教材研究，専門性	
学生の到達目標	1.パフォーマンスを通した専門性の育成 2.保育実践で使える教材研究 3.保育現場で行なわれる行事の体験的理解	
授業内容	第1回　オリエンテーション　(目標1) 第2回　ゼミ活動を通して専門性を考える（目標1）	

第3回	表現活動の立案・計画No.1(目標1)
第4回	表現活動の立案・計画No.2(目標1)
第5回	表現活動の立案・計画No.3（目標1）
第6回	表現活動の実践No.1(目標1)
第7回	表現活動の実践No.2(目標1)
第8回	表現活動の実践No.3(目標1)
第9回	表現活動の振り返り(目標1)
第10回	表現活動の実践No.4(目標2)
第11回	表現活動の実践No.5(目標2)
第12回	表現活動の振り返り(目標2)
第13回	教材研究(劇遊びアイテム)(目標2)
第14回	教材研究(劇遊びアイテム)(目標2)
第15回	教材研究(リズムダンス作成)(目標2)
第16回	表現活動の立案・計画No.4(目標2,3)
第17回	表現活動の立案・計画No.5(目標2,3)
第18回	表現活動の実践No.6(目標2,3)
第19回	表現活動の実践No.7(目標2,3)
第20回	教材研究パネルシアターの作成(目標2,3)
第21回	教材研究パネルシアターの実践(目標2,3)
第22回	絵カードの製作(目標2,3)
第23回	絵カード実践とパフォーマンス(目標2,3)
第24回	行事(クリスマス会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
第25回	卒業研究に向けて文献調査１(目標2,3)
第26回	卒業研究に向けて文献調査２(目標2,3)
第27回	卒業研究に向けて文献調査３(目標2,3)
第28回	卒業研究に向けて文献調査４(目標2,3)
第29回	卒業研究テーマの絞り込み(目標2,3)
第30回	卒業研究テーマについての先行研究(目標2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業キーワード、学生到達目標、成績評価について理解しておく。 第2回　本科目で学びたい自己関心を見い出し、専門性について学ぶ為にはどうすればいいのか自分の到達目標を考察しておく。 第3回　表現活動の立案に必要な環境構成についての学習を事前に行う。 第4回　表現活動の立案に必要な教材研究についての学習を事前に行う。 第5回　表現活動の立案に必要な保育者の援助についての学習を事前に行う。 第6回　実践するにあたり必要な備品の製作と確認を行っておく。 第7回　劇やダンス等パフォーマンス研究を行っておく。 第8回　劇なダンス等パフォーマンスについてリハーサルをし、互いに技術スキルの向上を図れるようにする。 第9回　表現活動の実践を振り返り、パフォーマンスを修正したり体験から得たスキルをまとめておく。 第10回　前回の修正点を踏まえて、よりスキルが向上するように練習をしてから参加する。

第11回　パフォーマンスを見たこどもたちの反応を確認し、何が育っているのかを洞察できるようにする。
第12回　表現活動を振り返り、スキルの向上を図る。
第13回～ 第15回　教材研究で見出す素材の特質を理解して、子どもの表現活動に関連するためにはどうした
らよいか考えておく。
第16回～17回　園により文化・風土が異なることを理解し、違う園のパフォーマンスを作成する為に練習する。
第18回～第19回　園での実践に向けてパフォーマンスに必要な作品を創り出す。
第20回～第21回　パネルシアター教材の製作に必要な知識と備品を用意しておく。
第22回～第23回　絵カード教材の製作に必要な知識と備品を用意しておく。
第24回　園で行われる行事（クリスマス会）の展開について事前にその意義ややり方を学修しておく。
第25回～第30回　卒業論文作成に向けて先行研究を調査し、要約する。

復習
第1回　シラバスをよく読み、この科目の意義や学修内容を理解してまとめておく。
第2回　本科目で学びたい専門性について考察してまとめておく。
第3回　表現活動の立案に必要な環境構成についての学習したことをまとめておく。
第4回　表現活動の立案に必要な教材研究についての学習したことをまとめておく。
第5回　表現活動の立案に必要な保育者の援助についての学習したことをまとめておく。
第6回　実践するにあたり必要な備品の製作と確認を行い重要な点をまとめておく。
第7回　劇やダンス等パフォーマンス研究を行い重要な点をまとめておく。
第8回　劇なダンス等パフォーマンスについてリハーサルをし、互いに技術スキルの向上を図り重要な点をまとめておく。
第9回　表現活動の実践を振り返り、パフォーマンスを修正したり体験から得たスキルをまとめておく。
第10回　前回の修正点を踏まえて、よりスキルが向上するように参加した結果から学んだことをまとめる。
第11回　パフォーマンスを見たこどもたちの反応を確認し何が育っているのかを考察する。
第12回　表現活動を振り返り、子どもの育ちにどのように影響するのかまとめておく。
第13回～ 第15回　教材研究で見出す素材の特質を理解して、子どもの表現活動に関連するためにはどうしたらよいか理解したことをまとめておく。
第16回～17回　園により文化・風土が異なることを理解し違う園のパフォーマンスを作成する。
第18回～第19回　園での実践を振り返り要点をまとめておく。
第20回～第21回　パネルシアター教材の製作に必要な知識と備品について今後に活かせるようにまとめる。
第22回～第23回　絵カード教材の製作に必要な知識と備品をまとめておく。
第24回　園で行われる行事（クリスマス会）の展開に理論と実践の両面から理解したことをまとめておく。
第25回～第30回　卒業論文作成に学びの集大成になるように章立てて完成させる。

復習　　製作過程の詳細記述を記録に残しておくこと。その記録から,こどもの発達段階と作業手順がどのように適応しているのか,どのように成長を援助しているのかを考察すること。

展開　　保育に関する実践的学びの構えを構築し,身近なところから体系的に視野を広げて省察的実践家の基礎を築く。

成績評価	評価の基準	学生の達成目標への達成度。こども理解と製作課程の援助理解が学習できたか。模擬授業の実演を通して評価する。 1.乳幼児の言葉の発達を理解したか。 実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。 言葉を育てる援助技法が体得できたか。 体得した技法を用いて実習生として保育が展開できるか。 2.製作に必要な教材の準備や素材の特徴を理解しておくこと。 3.こどもの発達段階を踏まえて,作業手順や指導内容を理解しておくこと。
	評価の方法	プレゼンテーション能力評価50%，課題提出50%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・この科目では保育実践力を養成する。その為に保育についての学修　知識と臨床的体験が蓄えられていることが望ましい。 ・授業形態はグループ学修とする。 ・保育現場に出向く為、社会人基礎力と共に保育専門科目での学力を　求める。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123016　火3,　木4
教室	(前期)ゼミ室5,6　(後期)ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験，観察
学生の到達目標	１．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 ２．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができる。 ３．主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるための努力ができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(1) 授業内容・スケジュール等 (目標1,2)

第2回	オリエンテーション(2) 研究の方法 (目標1,2)
第3回	フィールドワークの方法 (目標1,2)
第4回	教材研究(1) 春のビオトープ (目標1,2,3)
第5回	教材研究(2) 里地・里山 (目標1,2,3)
第6回	文献講読(1) 論文の分類 (目標1,2,3)
第7回	先行研究の分析(1) 問題意識の所在 (目標1,2,3)
第8回	教材研究(3) 春のビオトープの管理 (目標1,2,3)
第9回	教材研究(4) 昆虫 (目標1,2,3)
第10回	文献講読(2) 論文構成の概要 (目標1,2,3)
第11回	先行研究の分析(2) 研究目的の立て方 (目標1,2,3)
第12回	各自の研究デザインの発表 (目標1,2,3)
第13回	統計的手法の獲得 (目標1,2,3)
第14回	教材研究(5) 夏のビオトープ (目標1,2,3)
第15回	文献講読(3) 各自で既存論文のアブストラクトを作る (目標1,2,3)
第16回	教材研究(6) クジラ (目標1,2,3)
第17回	教材研究(7) 動物公園 (目標1,2,3)
第18回	文献講読(4) (3)で作成したアブストラクトのアウトプット (目標1,2,3)
第19回	教材研究(8) 秋のビオトープ (目標1,2,3)
第20回	各自の研究デザインの発表 (目標1,2,3)
第21回	各自の研究デザインについての討論 (目標1,2,3)
第22回	先行研究の分析(3) 調査法について (目標1,2,3)
第23回	教材研究(9) 秋のビオトープの管理 (目標1,2,3)
第24回	教材研究(10) サケ (目標1,2,3)
第25回	文献講読(5) 論文構成の確認 (目標1,2,3)
第26回	教材研究(11) 野鳥 (目標1,2,3)
第27回	教材研究(12) 冬のビオトープ (目標1,2,3)
第28回	研究の中間発表 (目標1,2,3)
第29回	中間発表を聞いての相互討論 (目標1,2,3)
第30回	ゼミナールⅠの振り返りと、研究テーマと研究方針についての確認 (目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について十分理解しておくこと 第2回 各自の研究の方向性について考えてくること 第3回 フィールドワークの方法について調べておくこと 第4回 春のビオトープに生息する生物について予め調べておくこと 第5回 里地・里山の特長について調べておくこと 第6回 図書館の利用方法について司書の指導を受けておくこと 第7回 先行研究について問題意識の所在を調べておくこと 第8回 春のビオトープの管理方法について調べておくこと 第9回 教材として利用が可能な昆虫について調べておくこと 第10回 論文に目を通し，構成の概要を考えておくこと 第11回 先行研究について研究目的の立て方を調べておくこと

第12回 各自の研究デザインの発表できるように準備しておくこと
第13回 どのような統計手法があるか調べておくこと
第14回 夏のビオトープに生息する生物について予め調べておくこと
第15回 既存論文のアブストラクトを作っておくこと
第16回 クジラの教材化について調べておくこと
第17回 動物公園の具体的な利用方法と教育的効果について考えておくこと
第18回 既存論文のアブストラクトのアウトプットする準備をしておくこと
第19回 秋のビオトープに生息する生物について予め調べておくこと
第20回 各自の研究デザインの発表準備をしておくこと
第21回 各自の研究デザインについての討論できる準備をしておくこと
第22回 先行研究の調査法について調べておくこと
第23回 秋のビオトープの管理方法について調べておくこと
第24回 サケの教材化について調べておくこと
第25回 論文に目を通し，構成の概要を確認しておくこと
第26回 野鳥の教材化について調べておくこと
第27回 冬のビオトープに生息する生物について予め調べておくこと
第28回 研究の中間発表の準備をしておくこと１
第29回 研究の中間発表の準備をしておくこと２
第30回 修正した研究方針について発表できるように準備しておくこと

復習

第1回 この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと
第2回 各自の研究の方向性についてをまとめておくこと
第3回 フィールドワークの方法についてをまとめておくこと
第4回 春のビオトープに生息する生物についてをまとめておくこと
第5回 里地・里山の特長についてをまとめておくこと
第6回 図書館での文献検索方法についてをまとめておくこと
第7回 先行研究について問題意識の所在ををまとめておくこと
第8回 春のビオトープの管理方法についてをまとめておくこと
第9回 教材として利用が可能な昆虫についてをまとめておくこと
第10回 論文に目を通し，構成の概要ををまとめておくこと
第11回 先行研究について研究目的の立て方ををまとめておくこと
第12回 各自の研究デザインの修正点ををまとめておくこと
第13回 統計手法についてをまとめておくこと
第14回 夏のビオトープに生息する生物についてをまとめておくこと
第15回 既存論文の修正したアブストラクトををまとめておくこと
第16回 クジラの教材化についてをまとめておくこと
第17回 動物公園の具体的な利用方法と教育的効果についてをまとめておくこと
第18回 既存論文のアブストラクトをまとめておくこと
第19回 秋のビオトープに生息する生物についてをまとめておくこと
第20回 各自の研究デザインの指摘を受けた点についてまとめておくこと
第21回 研究デザインについて討論で指摘を受けた点についてまとめておくこと
第22回 先行研究の調査法についてまとめておくこと
第23回 秋のビオトープの管理方法についてまとめておくこと
第24回 サケの教材化についてまとめておくこと
第25回 論文の構成の概要をまとめておくこと
第26回 野鳥の教材化についてまとめておくこと
第27回 冬のビオトープに生息する生物についてまとめておくこと
第28回 研究の中間発表で指摘された点をまとめておくこと１
第29回 研究の中間発表で指摘された点をまとめておくこと２
第30回 修正した研究方針に関する課題及び問題

展開

主体的に取り組み、資料を整理し、課題を追究していける研究に対する態度をもつ。

成績評価	評価の基準	１．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができること。 ２．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができること。 ３．主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるための努力ができること。
	評価の方法	学習ポートフォリオ(50%），パフォーマンステスト（20%），レポート（20%），学習への取り組み方（10%）について総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。観察や実験及びいろいろな工作に興味・関心を持っている学生は大いに歓迎する。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123017　木2，4
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	音楽，教育，思考，言葉
学生の到達目標	1．新聞を毎日読む習慣を身につける。 2．音楽と教育に関わる事実や意見を広く知ろうとする態度をもち,自分なりの問題意識を持つことができる。 3．読み手を意識した文を書くことができる。
授業内容	第1回　ガイダンス（目標2） 第2回　「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの書写 ①(目標1)書写課題を学生相互でチェックし、トピックを選んで討論する。

第3回	「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの書写 ②(目標1)書写課題を学生相互でチェックし、トピックを選んで討論する。
第4回	「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの書写 ③(目標1)書写課題を学生相互でチェックし、トピックを選んで討論する。
第5回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ①(目標2,3)各自の意見文を全員で検討する。
第6回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ②(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第7回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ③(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第8回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ④(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第9回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑤(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第10回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑥(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第11回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑦(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第12回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑧(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第13回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑨(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第14回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑩(目標2,3)各自の書いた意見文を全員で検討する。
第15回	前期学習のまとめ
第16回	文献探索の方法について(目標2)
第17回	文献探索の実習(目標3)
第18回	音楽教育に関わる文献の講読①（目標2）
第19回	講読文献についてのディスカッション①（目標2）
第20回	音楽教育に関わる文献の講読②（目標2）
第21回	講読文献についてのディスカッション②（目標2）
第22回	音楽教育に関わる文献の講読③（目標2）
第23回	講読文献についてのディスカッション③（目標2）
第24回	音楽教育に関わる文献の講読④（目標2）
第25回	講読文献についてのディスカッション④（目標2）
第26回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて文献の探索（目標2）
第27回	各自が選択した文献のレジュメの作成（目標2、3）
第28回	作成したレジュメに基づいた発表と討論 ①(目標２，３)
第29回	作成したレジュメに基づいた発表と討論 ②(目標２，３)
第30回	まとめ 次年度に向けて学習・研究のめあてを確認する

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2回～第4回　「天声人語」等のエッセイの書写に取り組む。 第5回～第14回　指定された記事等に対する意見文を書く。 第18回・20回・22回・24回　指定された文献を読み疑問点を整理する。 第27回～第29回　各自が選択した文献のレジュメを作成する。

	復習	第5回～第14回　自分の書いた文章を学習した内容を踏まえて書き直し,学習の定着を図る。 第19回・21回・23回・25回　ディスカッションを振り返り、学習の定着を図る。 第28回・第29回　討論を振り返り、学習の定着を図る。
	展開	・文献探索を積極的に行う。 ・新聞を毎日読む。 ・指示された課題図書に加え,自発的・継続的に読書に親しむ。
成績評価	評価の基準	１．誤字脱字のない整った文が書けたか。 ２．音楽と教育について自分なりの問題意識をもつことができたか。 ３．意見を明確に示し説得力のある根拠を挙げられたか。論理の筋道が通った文を書けたか。
	評価の方法	毎週提出された課題により評価する。 課題を期限内に提出するのは当然である。 いかに授業内容を咀嚼した文を書けたか（書こうとしたか）で評価する。
教科書	書籍名	『よくわかる卒論の書き方』
	著者名	白井利明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 700円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4623051110
推薦図書等	書籍名	『新版論理的思考』
	著者名	宇佐美寛
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,052円（本体1,900円＋税8%）
	ISBN・ISSN	ISBN:483921539
参考URL		
備考		国語辞典を持参すること。 オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	菊地　一文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123018　月3
教室	ゼミ室12, 講義室16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
学生の到達目標	1.文献資料の収集方法を理解し，自分の関心のあるテーマについて必要な資料を収集できる。 2.文献資料等の内容を理解し，自分の考えを表現できる。 3.自分の関心のある研究のテーマを明確にし、具体的な解決方法を計画できる。
授業内容	第1回　前期オリエンテーション、授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1,2,3）

第2回	文献資料等の収集方法（目標1）
第3回	文献資料等の整理方法（目標1）
第4回	障害やその支援を考える①（目標2,3） －資料・ビデオ等から研究及び実践内容を知る－
第5回	障害やその支援を考える②（目標2,3） －資料・ビデオ等から研究及び実践内容を知る－
第6回	関心のあるテーマの検討（目標1,2）
第7回	発表と討議－資料をもとにした発表－①（目標2,3）
第8回	発表と討議－資料をもとにした発表－②（目標2,3）
第9回	発表と討議－資料をもとにした発表－③（目標2,3）
第10回	体験等の発表と話し合い①（目標2,3）
第11回	体験等の発表と話し合い②（目標2,3）
第12回	研究内容・方法の検討①（目標1,2,3）
第13回	研究内容・方法の検討②（目標1,2,3）
第14回	研究内容・方法の検討③（目標1,2,3）
第15回	前期のまとめ　前期の授業の振り返りとフィールドワークの計画（目標1,2,3）
第16回	後期オリエンテーション フィールドワークのまとめ（目標1,2）
第17回	フィールドワークを踏まえた発表と討議（目標1,2,3）
第18回	研究計画の検討①（目標3）
第19回	研究計画の検討②（目標3）
第20回	研究計画の検討③（目標3）
第21回	体験等の発表と話し合い①（目標2,3）
第22回	体験等の発表と話し合い②（目標2,3）
第23回	研究計画の発表と討議①（目標3）
第24回	研究計画の発表と討議②（目標3）
第25回	研究計画の発表と討議③（目標3）
第26回	経過及び成果の発表①（目標2,3）
第27回	経過及び成果の発表②（目標2,3）
第28回	卒業研究の検討①（目標2,3）
第29回	卒業研究の検討②（目標2,3）
第30回	後期のまとめ　後期の授業の振り返りと各自の研究テーマの確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと 第2回 どのような領域に関心があるかについてまとめておくこと 第3回 文献等を収集しておくこと 第4~5回　障害や支援に関する情報を調べておくこと 第6回　自分の関心のあるテーマについて資料を収集しておくこと 第7~9回　収集した資料の概要についてまとめておくこと 第10~11回　自身の障害のある人への支援に関する経験についてまとめておくこと 第12~14回　研究内容・方法の種類について調べておくこと 第15回　前期をとおして学んだこと、成果や課題についてまとめておくこと

第16回　フィールドワークの振り返りをまとめておくこと
第17回　フィールドワークの振り返りを踏まえた課題について資料を収集すること
第18~20回　各自の研究テーマに基づく研究計画を検討し、関連する資料を準備しておくこと
第21~22回　自身の障害のある人への支援に関する経験についてまとめておくこと
第23~25回　各自の研究計画を発表するための資料を準備しておくこと
第26~27回　各自のテーマに基づくこれまでの取組の経過をまとめておくこと
第28~29回　卒業研究に向け、課題を整理しておくこと
第30回　後期をとおして学んだこと、成果や課題についてまとめておくこと

復習　第1回 受講を通じて理解を深めたい事項についてまとめておくこと
第2回 テーマに関する発表・協議をまとめておくこと
第3回 収集した文献等を整理しておくこと
第4~5回　障害や支援に関する情報をとおして発表・協議したことをまとめておくこと
第6回　収集した資料を整理し、まとめておくこと
第7~9回　収集した資料に関する発表・協議をまとめておくこと
第10~11回　自身の障害のある人への支援に関する経験について発表・協議したことをまとめておくこと
第12~14回　研究内容・方法の種類についてまとめておくこと
第15回　前期の授業における発表・協議を通して学んだことをまとめておくこと
第16回　フィールドワークの振り返りをとおして発表・協議したことをまとめておくこと
第17回　フィールドワークの振り返りを踏まえた課題についてまとめておくこと
第18~20回　各自の研究テーマに基づく研究計画を検討をとおして発表・協議したことをまとめておくこと
第21~22回　自身の障害のある人への支援に関する経験について発表・協議したことをまとめておくこと
第23~25回　各自の研究計画について発表・協議したことをまとめておくこと
第26~27回　各自のテーマに基づくこれまでの取組の経過について発表・協議したことをまとめておくこと
第28~29回　卒業研究に向けた課題の整理をとおして発表・協議したことをまとめておくこと
第30回　後期の授業における発表・協議を通して学んだことをまとめておくこと

展開　自己のテーマを掘り下げる力や多面的に捉える力を高め、卒業研究や自己探求的な活動に結びつける。

成績評価

評価の基準　1.文献資料の収集方法を理解し、自分の関心のあるテーマについて必要な資料を適切に収集できること。
2.文献資料等の内容を理解し、自分の考えを適切に表現できること。
3.自分の関心のある研究のテーマを明確にし、具体的な解決方法を計画できること。

評価の方法　毎回の発表討議60%，レポート40%

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考	初めの数回は検討資料を用意する。 その後は、各自が関心やテーマに基づいて関係資料や文献等を調べ、発表に用いる。 授業や保育に関する資料、映像、観察記録、実践紹介等を取り上げてかまわない。各自が実習体験やボランティア体験を語る機会を設定する。

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123019　月3
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子育て支援，親子支援，親と子どもと保育者の関係性，保育実践過程分析，質的研究
学生の到達目標	1.これまでの学習から,問題意識や関心の高い事柄を持ち,継続して検討する。 2.研究における基礎的な知識や手法と報告書作成や報告発表における必要なスキルを習得する。 3. 上記のことをゼミ生間で共有し,実践に有効な経験値として蓄積する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　各自の発表1(1)問題意識,関心の高い事柄について発表 ① (目標1・3) 第3回　各自の発表1(2)問題意識,関心の高い事柄について発表 ② (目標1・3)

第4回	文献抄読(1)子どもの権利に関する文献 ① (目標2・3)
第5回	文献抄読(2)子どもの権利に関する文献 ② (目標2・3)
第6回	文献抄読(3)親子の関係性に関する文献 ① (目標2・3)
第7回	文献抄読(4)親子の関係性に関する文献 ② (目標2・3)
第8回	文献抄読(5)興味関心に合わせた文献 ① (目標2・3)
第9回	文献抄読(6)興味関心に合わせた文献 ② (目標2・3)
第10回	各自の発表2(1)テーマ設定 ① (目標1・3)
第11回	各自の発表2(2)テーマ設定 ② (目標1・3)
第12回	研究の基礎的な知識と手法(1)先行研究の方法 (目標2)
第13回	研究の基礎的な知識と手法(2)研究のデザイン (目標2)
第14回	研究の基礎的な知識と手法(3)演習 (目標2)
第15回	前期のまとめ,後期の確認
第16回	各自の発表3(1)先行研究と考察 ① (目標1・3)
第17回	各自の発表3(2)先行研究と考察 ② (目標1・3)
第18回	各自の発表3(3)先行研究と考察 ③ (目標1・3)
第19回	各自の発表3(4)先行研究と考察 ④ (目標1・3)
第20回	報告のスキル(1) pptスキル (目標3)
第21回	報告のスキル(2)プレゼンテーションスキル (目標3)
第22回	報告のスキル(3)報告書作成スキル (目標3)
第23回	各自の発表4(1)報告発表の進捗状況報告 ① (目標1・3)
第24回	各自の発表4(2)報告発表の進捗状況報告 ② (目標1・3)
第25回	各自の発表4(3)報告発表の進捗状況報告 ③ (目標1・3)
第26回	各自の発表4(4)報告発表の進捗状況報告 ④ (目標1・3)
第27回	各自の発表5(1)報告会リハーサル ① (目標1・2・3)
第28回	各自の発表5(2)報告会リハーサル ② (目標1・2・3)
第29回	各自の発表6(1)報告会 ① (目標1・2・3)
第30回	各自の発表6(2)報告会 ② (目標1・2・3) 全期のまとめ

予習・復習の内容 (毎回90分程度)	予習	研究したいテーマや内容に近い文献を探して読み,ゼミ生同士で報告できるように準備してくる。
	復習	ゼミ生の報告や指導も踏まえて自分の課題を整理し,再検討する。
	展開	他の領域の先行研究にもあたってみる。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%, 研究成果・報告内容 50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123020　金2
教室	（前期）ゼミ室9　（後期）ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	哲学，倫理学，情報科学，言語理解，合理性
学生の到達目標	１．自身の関心のある領域を特定し,文献調査を行うスキルを獲得する。 ２．哲学・倫理学の中心的手法である概念分析の意義を理解し，論理的思考のスキルを使いこなせるようになる。 ３．自身で選択したトピックの背景と問題点とを論理的に説明できるようにする。
授業内容	第1回　イントロダクション:専門ゼミナール1の概要説明 第2回　哲学・倫理学における文献調査の意義(目標2)

第3回	文献収集(1):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
第4回	文献収集(2):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
第5回	文献収集(3):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
第6回	中間報告(1):参考文献収集結果の報告
第7回	参考文献の調査(1):文献の収集と分類(目標1)
第8回	参考文献の調査(2):文献の要約(目標1)
第9回	参考文献の調査(3):概念の整理と分析(目標1)
第10回	中間報告(2-1):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)
第11回	中間報告(2-2):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)
第12回	論理的思考(1):論理的思考の一般的な考え方(目標3)
第13回	論理的思考(2):哲学・倫理学との関連(目標3)
第14回	論理的思考(3):情報科学との関連(目標3,5)
第15回	中間報告(3):レポート課題の発表
第16回	トピックの選択と選択理由の明示:概要説明
第17回	選択したテーマの理論的背景の分析(1)(目標4)
第18回	選択したテーマの理論的背景の分析(2)(目標4)
第19回	選択したテーマと関連する概念の整理(目標4)
第20回	中間報告(4):概念分析に関するプレゼンテーション発表
第21回	哲学・倫理学における思考実験:概要説明(目標2)
第22回	概念分析(1)(目標2)
第23回	概念分析(2)(目標2)
第24回	概念分析(3)(目標2)
第25回	中間報告(5):レポート課題の発表
第26回	選択したトピックと情報化社会との関連の考察(1)(目標5)
第27回	選択したトピックと情報化社会との関連の考察(2)(目標5)
第28回	択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(1)
第29回	選択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(2)
第30回	まとめ　ここまでの振り返りと、文献研究と概念分析における重要ポイントの確認

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回：ゼミナールの意義と、本研究室におけるゼミナールの概要をU.navi教員マイページ等で確認してくること。 第2回：哲学・倫理学領域において文献調査が果たす役割について、調べておく 第3回：文献検索に利用するネットワーク上のツールの使用法を調べておく（とくに、大学Opacの利用法）。 第4回：文献検索に利用するネットワーク上のツールの使用法を調べておく（とくに、CiNii，J-STAGEの利用法）。 第5回：文献検索に利用するネットワーク上のツール（大学Opac，CiNii，J-STAGEのいずれか）を使って、5つ以上の文献を収集しておく。 第6回：自分で選択した領域における基礎文献を10以上収集し、出

典情報を明記したリストを作成する。
第7回：自分で選択した領域における基礎文献を30以上収集し、出典情報を明記したリストをもとに、分類しておく。
第8回：自分で選択した領域で収集した文献から5～10文献を選択し、それぞれについて要約メモを作成しておく。
第9回：自分で選択した領域で選択した5～10文献の要約メモをもとに、鍵となる概念と分析方法を抜き出しておく。
第10回：自分で選択した領域で選択した5～10文献の要約をレポートとして作成しておく。
第11回：自分で選択した領域で選択した5～10文献の要約をプレゼンテーションとして作成しておく。
第12回：論理的思考の基本的な考え方を調べておく。
第13回：哲学・倫理学領域における論理的思考の基本を確認しておく。記号論理学の基礎を調べておく。
第14回：情報科学における論理的思考の基本を確認しておく。統計学の基礎を調べておく。
第15回：第1～14回の議論のポイントと考察のまとめを見直し、レポートを作成する。
第16回：要約した文献を参考に、自分の関心領域から課題となるトピックを選択しておく。
第17回：選択したトピックについて、先行研究の有無と理論的背景を調べておく。
第18回：選択したトピックについて、先行研究で解決された部分と未解決の部分を調べておく。
第19回：選択したトピックについて、関連する概念とそれが扱われる学問領域を調べておく。
第20回：選択したトピックについて、先行研究の成果を含め、問題提起のプレゼンテーションとして作成しておく。
第21回：選択したトピックについて、思考実験を1つ以上考えておく。
第22回：選択したトピックについて、鍵となる概念を分析しておく。
第23回：選択したトピックについて、関連する概念を整理しておく。
第24回：選択したトピックについて、鍵概念とその他の概念との関連を整理しておく。
第25回：選択したトピックについて、先行研究の成果、問題提起、諸概念の分析を含むプレゼンテーションを作成しておく。
第26回：選択したトピックについて、情報化社会との関連の有無を調べておく。
第27回：選択したトピックについて、情報化社会に与える影響の有無を調べておく。
第28回：選択したトピックについて、ディスカッションでポイントとなることを調べておく。
第29回：選択したトピックについて、ディスカッションで予想される反論を調べておく。
第30回：第1～29回で扱ったポイントについて再度よく確認しておく。論理的思考の基本については、関連する練習問題をもう一度解いておく。

復習　第1回：ゼミナールの年間計画と教科書、参考文献を確認し、自分の関心領域をまとめておく。
第2回：哲学・倫理学領域において文献調査が果たす役割について、まとめておく。
第3回：文献検索に利用するネットワーク上のツールを問題なく使用できるか確認する（とくに、大学Opac）。
第4回：文献検索に利用するネットワーク上のツールを問題なく使用できるか確認する（とくに、CiNii，J-STAGE）。
第5回：文献検索に利用するネットワーク上のツール（大学Opac，CiNii，J-STAGEのいずれか）を使って収集した5つ以上の文献について、関連する文献を検索・収集しておく。
第6回：自分で選択した領域で収集した基礎文献と出典情報を明記したリストを、先行研究と整合する形式に修正しておく。
第7回：自分で選択した領域で収集した基礎文献と出典情報を明記したリストと、それぞれの分類を、先行研究と整合する形式に修正しておく。
第8回：収集した文献それぞれについての要約メモを、先行研究と

整合する形式に修正しておく。
第9回：収集した文献から抜き出した鍵となる概念と分析方法を、先行研究と整合する形式に修正しておく。
第10回：選択した5～10文献の要約レポートを、先行研究と照らし合わせて修正しておく。
第11回：選択した5～10文献の要約のプレゼンテーションを、ディスカッションの意見を反映して修正しておく。
第12回：論理的思考の基本的な考え方を確認し、授業中に間違えた練習問題をもう一度解いておく。
第13回：哲学・倫理学領域における論理的思考の基本をまとめ、記号論理学の練習問題を解いておく。
第14回：情報科学における論理的思考の基本をまとめ、統計学の練習問題を解いておく。
第15回：第1～14回の議論のポイントと考察のまとめを見直し、ディスカッションの意見を反映してレポートを修正する。
第16回：選択したトピックと要約した文献との関連をまとめておく。
第17回：選択したトピックの先行研究の有無と理論的背景をまとめておく。
第18回：選択したトピックの先行研究で解決された部分と未解決の部分をまとめておく。
第19回：選択したトピックに関連する概念とそれが扱われる学問領域をまとめておく。
第20回：選択したトピックの先行研究の成果と自分の問題提起の関連についてまとめておく。
第21回：選択したトピックの思考実験を書いてまとめておく。
第22回：選択したトピックの鍵となる概念を書いてまとめておく。
第23回：選択したトピックに関連する概念を整理して箇条書きにまとめておく。
第24回：選択したトピックの鍵概念とその他の概念との関連を箇条書きにまとめておく。
第25回：選択したトピックの先行研究の成果と、自分の問題提起、および、諸概念の分析を含むプレゼンテーションを修正しておく。
第26回：選択したトピックと情報化社会との関連の有無をまとめておく。
第27回：選択したトピックが情報化社会に与える影響の有無をまとめておく。
第28回：選択したトピックのディスカッションでポイントとなったことをまとめておく。
第29回：選択したトピックのディスカッションで得た反論をまとめておく。
第30回：第1～29回で扱ったポイントについて再度よく確認し、書いてまとめておく。論理的思考の練習問題で間違いがあればもう一度解いておく。

展開　第1～30回で扱った内容について,関連するウェブサイトや文献を調べ,先行研究の議論と照らし合わせながら自分の主張を構築し、まとめておくこと。

成績評価

評価の基準　自身の関心のある領域を特定し,少なくともひとつのテーマ（トピック）について,
１．文献調査を行うスキルを獲得する。
２．哲学・倫理学の中心的手法である概念分析の意義を理解し，論理的思考のスキルを使いこなせるようになる。
３．自身で選択したトピックの背景と問題点とを論理的に説明できるようにする。

評価の方法　毎授業時の課題 60%，期末課題の達成度 40%の合計で評価します。

教科書

書籍名　13歳からの作文・小論文ノート

著者名　小野田 博一

出版社	PHP研究所
価格	1,296
ISBN・ISSN	4569779913

書籍名	13歳からの論理ノート
著者名	小野田 博一
出版社	PHP研究所
価格	1188
ISBN・ISSN	4569655602

推薦図書等

参考URL

備考

本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。
選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。
電子メールで連絡がとれることが望ましいです。質問等は，オフィスアワーに研究室で受け付けます。オフィスアワーに来訪できない場合は，個別に電子メールで相談してください。電子メールアドレスは個別にお知らせします。

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123021　金4,　5
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	運動生理学、神経生理学、運動制御、実験実習、文献抄読
学生の到達目標	1.講義・文献調査等を通して、自らの興味のある分野の知識を修得できるようになる。 2.実験方法・手順の基礎を理解し、再現性の高い実験手技を修得できるようになる。 3.実験データの取り扱い方(データ処理と統計分析)を修得し、得られた結果から客観的な考察をするなど、研究を行う基礎的な力を修得できるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1,2,3)
	第2回	機能解剖学(1);関節と運動(目標1)
	第3回	機能解剖学(2);骨・筋(目標1)
	第4回	機能解剖学(3);神経・脳(目標1)
	第5回	運動生理学(1);神経の興奮と伝導(目標1)
	第6回	運動生理学(2);運動単位と筋線維組成(目標1)
	第7回	運動生理学(3);運動単位の動員と調節(目標1)
	第8回	運動生理学(4);受容器と感覚情報(目標1)
	第9回	運動生理学(5);脊髄反射(目標1)
	第10回	運動生理学(6);神経回路の興奮と抑制(目標1)
	第11回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(1)(目標1)
	第12回	トレーニング・運動学習と神経系の適応(2)(目標1)
	第13回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標3,4)
	第14回	データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標3,4)
	第15回	実験実習;力発揮と筋電図(1)(目標2,3)
	第16回	実験実習;力発揮と筋電図(2)(目標2,3)
	第17回	実験実習;反射と運動(1)(目標2,3)
	第18回	実験実習;反射と運動(2)(目標2,3)
	第19回	実験実習;筋疲労(1)(目標2,3)
	第20回	実験実習;筋疲労(2)(目標2,3)
	第21回	実験実習;脳波(1)(目標2,3)
	第22回	実験実習;脳波(2)(目標2,3)
	第23回	文献抄読(1)(目標1,2,3,4)
	第24回	文献抄読(2)(目標1,2,3)
	第25回	文献抄読(3)(目標1,2,3)
	第26回	文献抄読(4)(目標1,2,3)
	第27回	文献抄読(5)(目標1,2,3)
	第28回	文献抄読(6)(目標1,2,3)
	第29回	文献抄読(7)(目標1,2,3)
	第30回	まとめ：授業の振り返りと研究計画のプレゼンテーション(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	前半部（第2-14回）では授業で扱う内容について、教科書を読んで、発表用のレジメをを作成する。 実験実習（第15-22回）では、授業で扱う内容について、教科書を読んで臨む。 文献抄読（第23-29回）では、論文を主体的に探して、読んだ後、発表レジメを作成する。 第30回では研究計画のプレゼンテーションの資料を作成する。
	復習	前半部（第2-14回）では毎回授業で扱った内容について、ノートのまとめる。 実験実習（第15-22回）では、実験レポートを作成する。 文献抄読（第23-29回）では、講義で用いた論文の内容についてまとめる。

		第30回では発表した研究計画のプレゼンテーションについて、指摘されたことを修正し、再度研究計画を作成する。
	展開	運動・神経生理学に関する図書や文献を主体的に調べ、知識・理解を深め、卒業研究のテーマを主体的に決定できるようにする。
成績評価	評価の基準	1.講義・文献調査等を通して、自らの興味のある分野の知識を修得することができる。 2.実験方法・手順の基礎を理解し、再現性の高い実験手技を修得することができる。 3.実験データの取り扱い方(データ処理と統計分析)を修得し、得られた結果から客観的な考察をするなど、研究を行う基礎的な力を修得することができる。
	評価の方法	レポート課題および小テスト 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	書籍名	入門運動生理学
	著者名	勝田茂
	出版社	杏林書院
	価格	2484円
	ISBN・ISSN	ISBN：4764411598
推薦図書等	書籍名	運動生理学20講
	著者名	勝田茂
	出版社	朝倉書店
	価格	3456円
	ISBN・ISSN	ISBN：4254690460
参考URL		
備考		連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123022　（前期）月4,　（後期）月3
教室	ラーニングコモンズ1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会
	カリキュラムポリシー	3 共生社会 8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	保育内容，インクルージョン，文献調査・抄読，表現力	
学生の到達目標	1.自分の関心ある領域について、文献を収集し、どのような知見が得られているかを理解する。 2.自分の理解した内容や考え等を、他者にわかりやすく伝えることができる。 3.各自の研究テーマを明確にする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１・２）
	第2回	学生の興味関心のある分野に関する意見交換（目標１・２）
	第3回	文献抄読（１）課題論文１（目標１・２）
	第4回	文献抄読（２）課題論文１に関する意見交換（目標１・２）
	第5回	文献抄読（３）課題論文２（目標１・２）
	第6回	文献抄読（４）課題論文２に関する意見交換（目標１・２）
	第7回	文献検索・収集の方法について（目標１・２）
	第8回	文献抄読（５）自身の興味・関心のある論文（目標１・２）
	第9回	文献抄読（６）自身の興味・関心のある論文に関する意見交換（目標１・２）
	第10回	プレゼンテーションスキルの向上に向けて（１）修得技術の確認（目標２）
	第11回	プレゼンテーションスキルの向上に向けて（２）ppt演習（目標２）
	第12回	研究の方法について（１）観察法（目標１・２）
	第13回	研究の方法について（２）面接法（目標１・２）
	第14回	研究の方法について（３）質問紙法（目標１・２）
	第15回	前期まとめ（目標１・２）
	第16回	現場観察（１）A幼保園（目標１・２）
	第17回	現場観察（２）A幼保園（目標１・２）
	第18回	A幼保園での観察内容に関する意見交換（目標１・２）
	第19回	現場観察（３）B幼稚園（目標１・２）
	第20回	現場観察（４）B幼稚園（目標１・２）
	第21回	B幼稚園での観察内容に関する意見交換（目標１・２）
	第22回	現場観察（５）C施設（目標１・２）
	第23回	現場観察（６）C施設（目標１・２）
	第24回	C施設での観察内容に関する意見交換（目標１・２）
	第25回	文献抄読および探究したいテーマの設定（１）（目標１・２・３）
	第26回	文献抄読および探究したいテーマの設定（２）（目標１・２・３）
	第27回	報告会に向けたプレゼンテーション準備（目標２・３）
	第28回	研究テーマに関する報告・意見交換会（１）（目標１・２・３）
	第29回	研究テーマに関する報告・意見交換会（２）（目標１・２・３）
	第30回	まとめ　研究方法および自身の探究テーマに関する確認（目標１・２・３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 自分の関心あるもしくは教員から提示される文献に触れ、その内容を対話しながら、批判的に読みつつ、内容を理解する。 第16回～第24回 うかがう園に関する情報を調べ、見学の際にどのようなテーマで臨むかを考える。 第25回～第30回 自分の研究テーマを考え、それに必要な文献を複数読み込む。

	復習	第1回～第15回 発表内容について、意見交換に基づき、修正を行い、理解を深める。 第16回～第24回 見学した内容を、自分で考えたテーマに沿って整理し、記録する。 第25回～30回 自分なりに設定したテーマに関連する文献等を整理しまとめていく。
	展開	現場観察では、自分からより多く質問し、より充実した観察内容となるよう努める。 意見交換では、積極的に発言し、自分の関心を広げられるようにする。
成績評価	評価の基準	1.自分の関心ある領域について、文献を収集し、どのような知見が得られているかを理解する。 文献選びの基本を理解し、自分なりに関心のある文献にあたり精読し、まとめることができる。 2.自分の理解した内容や考え等を、他者にわかりやすく伝えることができる。 選んだ文献等について、発表方法を工夫し、他者に伝えることができる。 3.各自の研究テーマを明確にする。 調べた文献から今後の研究につながるテーマを見出すことができる。
	評価の方法	授業における態度とその内容：５０％ レポート等課題への取り組みと内容：５０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123023　月3
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	道徳教育　人間関係づくり　技を磨く　課題の追求	
学生の到達目標	1. 道徳教育について調べ，自分の考えを持つできるようになる。 2. よりよい人間関係をつくる。技を磨く力をつける。 3.相手に伝わるプレゼンテーションを考え，実践する力をつける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　各自の紹介・ゼミの内容紹介
	第2回	～3回　意見発表　道徳教育の今日的課題①(目標1)

第3回	意見発表　道徳教育の今日的課題②(目標1)
第4回	心の変容の捉え方（心情円の活用）（目標１，２）
第5回	心の変容の捉え方（スケーリングの活用）（目標１，２）
第6回	道徳資料「視点A」について(資料活用法と工夫）（目標１）
第7回	道徳資料「視点B」について(資料活用法と工夫）（目標１）
第8回	道徳資料「視点C」について(資料活用法と工夫）（目標１）
第9回	道徳資料「視点D」について(資料活用法と工夫）（目標１）
第10回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
第11回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
第12回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
第13回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
第14回	プレゼンテーションについて①(目標1)
第15回	効果的なプレゼンテーションについて②(目標1)
第16回	プレゼンテーション準備(目標1)
第17回	課題発表①(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第18回	課題発表②(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第19回	課題発表③(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第20回	課題発表④(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第21回	課題発表⑤(プレゼンテーション) 討議（目標２）
第22回	望ましい人間関係づくりについて（計画）（目標２）
第23回	望ましい人間関係づくりについて（作成）（目標２）
第24回	望ましい人間関係づくりについて（実践）（目標２）
第25回	磨いてきた技を発表し合う（目標２）
第26回	磨いてきた技を発表し合う（目標２）
第27回	研究成果の発表準備（目標３）
第28回	研究成果の発表（プレゼンテーション）①（目標３）
第29回	研究成果の発表（プレゼンテーション）②（目標３）
第30回	研究のまとめと評価（次年度に向けて）（目標１・２・３）

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第2~30回 ゼミで討論いた中から関心の高い課題について調べ、プレゼンテーションの準備と練習をする。
	復習	第1~30回 ゼミで討論し合ったことを踏まえて，自分の思いや考えをまとめること。 プレゼンテーションを見合ったことをノートにまとめ，疑問に感じたことはさらに調べる。ノートにコメントを入れて返却する。

	展開	プレゼンテーションを見合い，討論する。自分が調べた課題との比較検討をする。
成績評価	評価の基準	1. 道徳教育について調べ，自分の考えを持つできたか。 2. よりよい人間関係をつくれたか。技を磨く力をつけられたか。 3.相手に伝わるプレゼンテーションを考え，実践する力をつけられたか。
	評価の方法	研究の経過ノート（ 50%） レポート（ 30%） 意欲・態度・プレゼンテーション（ 20%）
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　道徳編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	１２７円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02376-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	道徳教育指導法については，２年次で履修しておくこと。 小学校の教員免許取得者が望ましい。 オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。	

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123024　月3
教室	ゼミ室3
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子育て支援、保護者との関係作り、質的研究
学生の到達目標	1．研究における基礎的な知識や手法を習得するとともに、他の学生へ自分の理解したことをわかりやすく伝えることができる。 2．子育て支援の場等で利用者とかかわりながら、現場で求められる実践スキルを身につける。 3．自分の研究テーマを明確にし、研究方法を具体的に考える。
授業内容	第1回　前期ガイダンス（授業の進め方） 第2回　論文収集の方法（目標1）

第3回	論文抄読の方法（目標1）
第4回	子育て支援に関する文献抄読（目標1）
第5回	興味関心に合わせた論文抄読①（目標1）
第6回	興味関心に合わせた論文抄読②（目標1）
第7回	研究の方法について：アンケート①（目標1）
第8回	研究の方法について：アンケート②（目標1）
第9回	研究の方法について：インタビュー①（目標1）
第10回	研究の方法について：インタビュー②（目標1）
第11回	子育て支援実習:フィールドワーク①（目標2）
第12回	子育て支援実習：フィールドワーク②（目標2）
第13回	プレゼンテーションの方法（目標1）
第14回	子育て支援実習報告：プレゼンテーション①（目標1）
第15回	子育て支援実習報告：プレゼンテーション②（目標1）
第16回	後期ガイダンス（授業の進め方）
第17回	先行研究のまとめ方および研究テーマの発表方法について
第18回	子育て支援実習:フィールドワーク③（目標2）
第19回	子育て支援実習:フィールドワーク④（目標2）
第20回	子育て支援実習:フィールドワーク⑤（目標2）
第21回	子育て支援実習:フィールドワーク⑥（目標2）
第22回	企画・運営・報告等のグループワーク（目標1・2）
第23回	先行研究に基づく自分の研究テーマについての発表①（目標3）
第24回	先行研究に基づく自分の研究テーマについての発表②（目標3）
第25回	先行研究に基づく自分の研究テーマについての発表③（目標3）
第26回	先行研究に基づく自分の研究テーマについての発表④（目標3）
第27回	研究倫理・予備調査の仕方（目標1・3）
第28回	子育て支援実習報告：プレゼンテーション③（目標2）
第29回	子育て支援実習報告：プレゼンテーション④（目標2）
第30回	まとめ（目標1・3）授業の振り返りと次年度の目標の確認

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～29回 子育てに関する雑誌や本、論文等を読む。自分が知りたいことを明確にし、自分で積極的に調べる。 期日までに子育て支援実習の計画を立て、実習施設へ自分で依頼し、日程調整を行い、予定表を教員へ提出する。 第30回 1年間の学修を振り返り自己課題を明確にし、次年度の目標を明確にしておく。
	復習	第1～30回 他の学生の報告やゼミの指導を踏まえて、自分の研究テーマについて検討を重ねる。 子育て支援実習報告書を提出方法・期日を厳守し提出する。
	展開	自分の研究テーマに沿った論文等を読み進める。 子育て支援実習で学んだことを踏まえて、子育てやその支援について理解を深める。

成績評価	評価の基準	１．研究における基礎的な知識や手法を習得するとともに、他の学生へ自分の理解したことをわかりやすく伝えることができたか。 ２．子育て支援の場等で利用者とかかわりながら、現場で求められる実践スキルを十分に身につけられたか。 ３．自分の研究テーマが明確になっていて、具体的に研究方法を考えられたか。 上記1～3を総合して評価する。
	評価の方法	発表（70%）、課題への取り組み（30%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	よくわかる卒論の書き方
著者名	白井利明・高橋一郎
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,500＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-06572-1

書籍名	伝わるデザインの基本
著者名	高橋佑磨・片山なつ
出版社	技術評論社
価格	2,180＋税
ISBN・ISSN	978-4-7741-6613-1

参考URL

備考

○授業内容は状況によりシラバスに示した順番が前後することもある。
○社会人として自分の体調管理はとくに重要である。自分の発表や実習を欠席しないようにする。
○オフィスアワーは火曜日2限。
連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ
科目責任者	金子　功一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1123025　月3
教室	(前期)保育技術演習室,(後期)ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	乳幼児期の関係性，仲間関係，調査研究
学生の到達目標	専門ゼミナールⅡ（4年次）及び卒業研究につなげるため，基本的な研究技法と論文の抄読方法を修得し，自分の関心のある研究テーマを設定することをねらいとする。 1.研究に関する文献を読み進めるとともに，他の学生との議論を通して自分の関心や問題意識を定め，他の学生にわかりやすく伝えることができる。 2.教育・保育現場等とのかかわりを通して，実践力を身につける。 3.卒業研究におけるテーマを設定する。

授業内容	第1回	オリエンテーション（ゼミの内容紹介）
	第2回	学生の興味関心のあるテーマに関する意見交換（目標1）
	第3回	乳児期の関係性に関する課題文献①抄読（目標1）
	第4回	課題文献①における意見交換（目標1）
	第5回	幼児期の関係性に関する課題文献②抄読（目標1）
	第6回	課題文献②における意見交換（目標1）
	第7回	文献検索や収集方法（目標1）
	第8回	興味関心に合わせた論文抄読①（目標1）
	第9回	興味関心に合わせた論文抄読②（目標1）
	第10回	研究方法（１）観察法（目標1）
	第11回	研究方法（２）面接法（目標1）
	第12回	研究方法（３）調査法（目標1）
	第13回	プレゼンテーションの方法①（目標1）
	第14回	プレゼンテーションの方法②（目標1）
	第15回	前期まとめ（目標1）
	第16回	幼稚園の現場の観察①（目標2）
	第17回	幼稚園の現場の観察②（目標2）
	第18回	幼稚園の現場観察の意見交換（目標1・2）
	第19回	幼稚園の現場への参加①（目標2）
	第20回	幼稚園の現場への参加①（目標2）
	第21回	幼稚園の現場参加の意見交換（目標1・2）
	第22回	調査データ解析の基礎①（目標1・3）
	第23回	調査データ解析の基礎②（目標1・3）
	第24回	研究テーマに合わせた文献抄読①（目標1・3）
	第25回	研究テーマに合わせた文献抄読②（目標1・3）
	第26回	研究テーマ報告会への準備①（目標1・3）
	第27回	研究テーマ報告会への準備②（目標1・3）
	第28回	研究テーマの報告会・意見交換①（目標1・3）
	第29回	研究テーマの報告会・意見交換②（目標1・3）
	第30回	まとめと専門ゼミナールＩにおける重要事項の確認（目標1・2・3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回:シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業内容，成績評価等についてよく理解しておくこと 第2回:学生の興味関心のあるテーマについて調べておくこと 第3回:乳児期の関係性に関する課題文献①について調べておくこと 第4回：課題文献①における意見交換に向けて調べておくこと 第5回：幼児期の関係性に関する課題文献②について調べておくこと 第6回：課題文献②における意見交換に向けて調べておくこと 第7回：文献検索や収集方法について調べておくこと 第8回：興味関心に合わせた論文抄読①について調べておくこと 第9回：興味関心に合わせた論文抄読②について調べておくこと

第10回：研究方法（１）観察法について調べておくこと
第11回：研究方法（２）面接法について調べておくこと
第12回：研究方法（３）調査法について調べておくこと
第13回：プレゼンテーションの方法①について調べておくこと
第14回：プレゼンテーションの方法②について調べておくこと
第15回：前期まとめをしておくこと
第16回：幼稚園の現場の観察方法①について調べておくこと
第17回：幼稚園の現場の観察方法②について調べておくこと
第18回：幼稚園の現場観察の意見交換の方法について考えておくこと
第19回：幼稚園の現場への参加①に向けて調べておくこと
第20回：幼稚園の現場への参加②に向けて調べておくこと
第21回：幼稚園の現場参加の意見交換について調べておくこと
第22回：調査データ解析の基礎①について調べておくこと
第23回：調査データ解析の基礎②について調べておくこと
第24回：研究テーマに合わせた文献抄読①について調べておくこと
第25回：研究テーマに合わせた文献抄読②について調べておくこと
第26回：研究テーマ報告会への準備①について調べておくこと
第27回：研究テーマ報告会への準備②について調べておくこと
第28回：研究テーマの報告会・意見交換①について調べておくこと
第29回：研究テーマの報告会・意見交換②について調べておくこと
第30回：第1回から第29回のポイント及び考察を再度読んでおくこと
上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める

復習　第1回:この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと
第2回:学生の興味関心のあるテーマについてポイント及び考察をまとめておくこと
第3回:乳児期の関係性に関する課題文献①についてポイント及び考察をまとめておくこと
第4回：課題文献①における意見交換についてポイント及び考察をまとめておくこと
第5回：幼児期の関係性に関する課題文献②についてポイント及び考察をまとめておくこと
第6回：課題文献②における意見交換についてポイント及び考察をまとめておくこと
第7回：文献検索や収集方法についてポイント及び考察をまとめておくこと
第8回：興味関心に合わせた論文抄読①についてポイント及び考察をまとめておくこと
第9回：興味関心に合わせた論文抄読②についてポイント及び考察をまとめておくこと
第10回：研究方法（１）観察法についてポイント及び考察をまとめておくこと
第11回：研究方法（２）面接法についてポイント及び考察をまとめておくこと
第12回：研究方法（３）調査法についてポイント及び考察をまとめておくこと
第13回：プレゼンテーションの方法①についてポイント及び考察をまとめておくこと
第14回：プレゼンテーションの方法②についてポイント及び考察をまとめておくこと
第15回：前期まとめについて考察すること
第16回：幼稚園の現場の観察方法①についてポイント及び考察をまとめておくこと
第17回：幼稚園の現場の観察方法②についてポイント及び考察をまとめておくこと
第18回：幼稚園の現場観察の意見交換の方法についてポイント及び考察をまとめておくこと
第19回：幼稚園の現場への参加①についてポイント及び考察をま

		とめておくこと 第20回：幼稚園の現場への参加②についてポイント及び考察をまとめておくこと 第21回：幼稚園の現場参加の意見交換についてポイント及び考察をまとめておくこと 第22回：調査データ解析の基礎①についてポイント及び考察をまとめておくこと 第23回：調査データ解析の基礎②についてポイント及び考察をまとめておくこと 第24回：研究テーマに合わせた文献抄読①についてポイント及び考察をまとめておくこと 第25回：研究テーマに合わせた文献抄読②についてポイント及び考察をまとめておくこと 第26回：研究テーマ報告会への準備①についてポイント及び考察をまとめておくこと 第27回：研究テーマ報告会への準備②についてポイント及び考察をまとめておくこと 第28回：研究テーマの報告会・意見交換①についてポイント及び考察をまとめておくこと 第29回：研究テーマの報告会・意見交換②についてポイント及び考察をまとめておくこと 第30回：第1回から第29回に扱った内容で，重要と考える点をまとめておくこと 上記の予習内容については，授業における質疑応答により理解状況を確認し，授業を進める
	展開	第1回から第30回で扱った内容に関して，テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，重要と考える点をまとめておくこと
成績評価	評価の基準	1.研究に関する文献を読み進めるとともに，他の学生との議論を通して自分の関心や問題意識を定め，他の学生にわかりやすく伝えることができる。 2.教育・保育現場等とのかかわりを通して，実践力を身につける。 3.卒業研究におけるテーマを設定することについて自分で自ら進められること，及び自分の考えを的確に表現できることを評価する。
	評価の方法	発表40%，討論20%，レポート課題40%に基づいて，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124002　月4
教室	ゼミ室10・11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ，インクルーシブ教育
学生の到達目標	1．研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解し，必要な研究資料を収集することができるようになる。 2．収集した研究資料を分析・検討して，研究の成果を適切にまとめることができるようになる。 3．自分が取り組んだ研究の成果を適切に発表することができるようになる。
授業内容	第1回　前期のイントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）

第2回	研究目的の検討(1)　何をどこまで明らかにしようとするか（目標1）
第3回	研究目的の検討(2)　仮説の検討（目標1）
第4回	研究方法の検討(1)　研究対象の検討（目標1）
第5回	研究方法の検討(2)　データの収集方法（目標1）
第6回	研究方法の検討(3)　データの分析方法（目標1）
第7回	研究方法の検討(4)　結果の表示方法（目標1）
第8回	研究方法の検討(5)　研究方法のまとめ（目標1）
第9回	研究資料の収集(1)　収集手順の検討（目標1）
第10回	研究資料の収集(2)　国内文献資料の収集状況（目標1）
第11回	研究資料の収集(3)　海外文献資料の収集状況（目標1）
第12回	研究資料の収集(4)　データの収集計画（目標1）
第13回	研究資料の収集(5)　データの収集手順（目標1）
第14回	研究資料の収集(6)　研究の進捗状況の確認（目標1）
第15回	前期のまとめ　前期の振り返りとこれまでの取組で学んだことについての確認（目標1）
第16回	後期のイントロダクション　後期の授業の進め方（目標1，2，3）
第17回	収集した研究資料の分析(1)　収集したデータの確認（目標2）
第18回	収集した研究資料の分析(2)　収集したデータの分類（目標2）
第19回	収集した研究資料の分析(3)　収集したデータの集計（目標2）
第20回	収集した研究資料の分析(4)　集計結果についてのグラフ作成（目標2）
第21回	収集した研究資料の分析(5)　収集したデータについての統計分析（目標2）
第22回	収集した研究資料の分析(6)　分析結果のまとめ（目標2）
第23回	研究のまとめ(1)　「目的」の記述の検討（目標2）
第24回	研究のまとめ(2)　「方法」の記述の検討（目標2）
第25回	研究のまとめ(3)　「結果」の記述の検討（目標2）
第26回	研究のまとめ(4)　「考察」の記述の検討（目標2）
第27回	研究のまとめ(5)　「参考文献・引用文献」の検討（目標2）
第28回	研究成果の発表(1)　発表方法の検討（目標3）
第29回	研究成果の発表(2)　発表資料の検討（目標3）
第30回	後期のまとめ　後期の振り返りと研究テーマの追究を通じて学んだことの確認（目標1，2，3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回 シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，授業の内容，成績評価等について理解しておくこと 第2回 自分のテーマで何をどこまで明らかにしようとするかをまとめておくこと 第3回 自分のテーマに関する仮説をまとめておくこと 第4回 自分のテーマの研究対象についてまとめておくこと 第5回 自分のテーマに関するデータの収集方法についてまとめておくこと 第6回 自分のテーマに関するデータの分析方法についてまとめておくこと

第7回 自分のテーマに関する結果の表示方法についてまとめておくこと
第8回 自分のテーマに関する研究方法についてまとめておくこと
第9回 自分のテーマに関する研究資料の収集手順についてまとめておくこと
第10回 自分のテーマに関する国内文献資料の収集状況についてまとめておくこと
第11回 自分のテーマに関する海外文献資料の収集状況についてまとめておくこと
第12回 自分のテーマに関するデータの収集計画についてまとめておくこと
第13回 自分のテーマに関するデータの収集手順についてまとめておくこと
第14回 自分のテーマに関する研究の進捗状況についてまとめておくこと
第15回 前期における自分のテーマに関する研究を通じて学んだことについてまとめておくこと
第16回 後期における自分のテーマの研究の進め方についてまとめておくこと
第17回 自分のテーマに関して収集したデータを確認しておくこと
第18回 自分のテーマに関して収集したデータを分類しておくこと
第19回 自分のテーマに関して収集したデータを集計しておくこと
第20回 自分のテーマに関する集計結果についてのグラフ作成を行っておくこと
第21回 自分のテーマに関する収集したデータについての統計分析を行っておくこと
第22回 自分のテーマに関するデータの分析結果をまとめておくこと
第23回 研究の「目的」の記述を作成しておくこと
第24回 研究の「方法」の記述を作成しておくこと
第25回 研究の「結果」の記述を作成しておくこと
第26回 研究の「考察」の記述を作成しておくこと
第27回「参考文献・引用文献」の記述を作成しておくこと
第28回 研究成果の発表方法について検討しておくこと
第29回 研究成果の発表資料を作成しておくこと
第30回 後期の授業を通じて学んだことをまとめておくこと
上記予習内容については，授業において発表し，それに基づいて協議する。

復習　第1回 この授業の受講を通じて理解を深めたい事項についてまとめておくこと
第2回 何をどこまで明らかにしようとするかについて発表・協議したことについてまとめておくこと
第3回 研究仮説について発表・協議したことをまとめておくこと
第4回 研究対象について発表・協議したことをまとめておくこと
第5回 データの収集方法について発表・協議したことをまとめておくこと
第6回 データの分析方法について発表・協議したことをまとめておくこと
第7回 研究結果の表示方法について発表・協議したことをまとめておくこと
第8回 研究方法について発表・協議したことをまとめておくこと
第9回 研究資料の収集手順について発表・協議したことをまとめておくこと
第10回 国内文献資料の収集状況について発表・協議したことをまとめておくこと
第11回 海外文献資料の収集状況について発表・協議したことをまとめておくこと
第12回 データの収集計画について発表・協議したことをまとめておくこと
第13回 データの収集手順について発表・協議したことをまとめておくこと
第14回 研究の進捗状況について発表・協議したことをまとめておくこと
第15回 前期の授業を通じて学んだことについてまとめておくこと
第16回 後期における自分の研究の進め方についてまとめておくこ

		と 第17回 収集したデータの確認について発表・協議したことをまとめておくこと 第18回 収集したデータの分類について発表・協議したことをまとめておくこと 第19回 収集したデータの集計について発表・協議したことをまとめておくこと 第20回 収集したデータの集計結果に関するグラフ作成について発表・協議したことをまとめておくこと 第21回 収集したデータについての統計分析について発表・協議したことをまとめておくこと 第22回 収集した研究資料の分析結果について発表・協議したことをまとめておくこと 第23回 研究の「目的」の記述について発表・協議したことをまとめておくこと 第24回 研究の「方法」の記述について発表・協議したことをまとめておくこと 第25回 研究の「結果」の記述について発表・協議したことをまとめておくこと 第26回 研究の「考察」の記述について発表・協議したことをまとめておくこと 第27回「参考文献・引用文献」について発表・協議したことをまとめておくこと 第28回 研究成果の発表方法について協議したことをまとめておくこと 第29回 研究成果の発表資料について協議したことをまとめておくこと 第30回 後期の授業における発表・協議を通じて学んだことをまとめておくこと
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと
成績評価	評価の基準	１）研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解し，必要な研究資料を収集することができること。 ２）収集した研究資料を分析・検討して，研究の成果を適切にまとめることができること。 ３）自分が取り組んだ研究の成果を適切に発表することができること。
	評価の方法	平常点，提出レポートにより評価する。 （平常点 50%，提出レポート 50%） 平常点には，発表・協議・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124003　月4
教室	(前期)ゼミ室7,(後期)ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	教育の社会学，実証的な研究，定量・定性的調査，教育とジェンダー，現代の教育問題
学生の到達目標	1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。 2．学びの集大成としての卒業論文へつなげることができる。 3．最終回の卒業研究発表の場で,自らの卒業論文をわかりやすく構成し,プレゼンする力を獲得する。

授業内容	第1回	オリエンテーション:専門ゼミナール Ⅱの目的と年間授業計画(目標1)
	第2回	担当教員の研究 ①:教師のキャリア形成,教育分野の男女共同参画(目標1)
	第3回	担当教員の研究 ②:少子社会における子育て環境(目標1)
	第4回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチA(目標1)
	第5回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチB(目標1)
	第6回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ C(目標1)
	第7回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ D(目標2)
	第8回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ E(目標2)
	第9回	研究テーマに関する構想発表 ①(目標3)
	第10回	研究テーマに関する構想発表 ②(目標3)
	第11回	研究の方法:定性的研究(面接調査)(目標3)
	第12回	研究の方法:定性的研究(参与観察)(目標3)
	第13回	研究の方法:文献・統計資料 ①(目標3)
	第14回	研究の方法:文献・統計資料 ②(目標3)
	第15回	論文の書き方:課題設定等(目標3)
	第16回	論文の書き方:引用参考文献・註の示し方(目標3)
	第17回	研究テーマに関する中間発表 ①(目標3)
	第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
	第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
	第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
	第21回	調査研究の分析 ①(目標3)
	第22回	調査研究の分析 ②(目標3)
	第23回	調査研究の分析 ③(目標3)
	第24回	調査研究の分析 ④(目標3)
	第25回	研究テーマに関するまとめ ①(目標3)
	第26回	研究テーマに関するまとめ ②(目標3)
	第27回	研究テーマに関するまとめ ③(目標3)
	第28回	研究テーマに関するまとめ ④(目標3)
	第29回	研究テーマに関する報告書の作成 ②(目標1,2,3)
	第30回	総括：多様な研究方法及び調査の実践・分析のまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち,新聞報道などについて理解をしておくこと。(第1－30回共通) ・事前配布の資料は、必ず読んでおくこと。(第1－30回共通) ・指示されたテキストの対応する章及び文献の要旨をまとめておく。（2－8回、11－16回、19－24回） ・各自の研究テーマについて、ゼミ内でわかりやすくプレゼンするための準備をして担当回に臨む。（9－10、17－18、25－28回） ・研究方法、研究手続き、調査の実践、分析等についてのまとめをしておく。不明点を最終回にむけて明確にｈしておく。（第29－30回）

	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に,研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめておくこと。（第1－30回共通） ・授業内に配布された資料や文献を整理する。（第1－30回共通）
	展開	・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ,知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	目1－3に照らし、課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。 1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身についたか。 2．学びの集大成としての卒業論文へつなげることができたか。 3．最終回の卒業研究発表の場で,自らの卒業論文をわかりやすく構成し,プレゼンする力を獲得できたか。
	評価の方法	平常点（発言、わかりやすい発表内容・構成力等）50%＋課題点 50%

教科書	書籍名	『少子社会の子育て力』
	著者名	髙野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7620-2376-7

推薦図書等	書籍名	『教育社会学』2011年
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784491027289

参考URL	http://www.mext.go.jp/
備考	・自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。 ・演習形式で進め、アクティブ・ラーニングの視点からの授業運営に配慮している。 ・オフィス・アワー：金曜日1・2限 ・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124004　金3
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，考えの筋道，研究方法の組み立て
学生の到達目標	1.乳幼児の行動の意味や要因を抽出し,その関連性・因果関係を明確にするための手続きを考えられる。 2.乳幼児の行動に対する自分なりの考えを立証する方法を実践することで洗練化する。 3.自分の研究をその領域の他の研究と関連づけ,意義を考えられる。
授業内容	第1回　学生の興味を持つ情緒的行動に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3) 第2回　学生の興味を持つ社会性発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)

第3回	学生の興味を持つ遊びの発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
第4回	学生のテーマを解明するための手続きについて先行研究を紹介し,検討する(目標1,2)
第5回	学生の研究手続きについて問題点を指摘しながら,できることを考える(目標1,2)
第6回	保育現場などを見学し,研究できそうなテーマと方法を考える(目標1,2)
第7回	実際に見学したことに基づいて,具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第8回	学生自身が予備的な研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第9回	学生自身が変更した研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
第10回	研究のために必要な用具や手続きマニュアルを準備する(目標1,2)
第11回	情緒的行動に関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第12回	社会性発達・遊びに関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
第13回	情緒的行動に関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しながらまとめる(目標2,3)
第14回	社会性発達・遊びに関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しまとめる(目標2,3)
第15回	各自の研究に関する中間報告を行い,討論しながら補足する点を明確にする(目標2,3)
第16回	情緒的行動に関する研究の中間報告を行い,討論しまとめ方について検討する(目標2,3)
第17回	社会性発達・遊びに関する研究の中間報告を行い討論しまとめ方について検討する(目標2,3)
第18回	情緒的行動に関連する先行研究を読みながら,考えの進め方について検討する(目標2,3)
第19回	社会性発達・遊びに関連する先行研究を読み,考えの進め方について検討する(目標2,3)
第20回	学生が情緒的行動に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)
第21回	学生が社会性発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)
第22回	学生が遊びの発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)
第23回	情緒的行動に関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標2,3)
第24回	社会性発達・遊びに関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標2,3)
第25回	情緒的行動に関する補足的な材料や資料を追加して,討論しながらまとめを行う(目標2,3)
第26回	社会性発達・遊びに関する補足的な材料や資料を追加し,討論してまとめを行う(目標2,3)
第27回	改めて情緒発達や情緒的行動の研究を概観し,自分の研究の位置づけをする(目標2,3)
第28回	改めて社会性・遊び発達の研究を概観しながら,自分の研究の位置づけをする(目標2,3)

	第29回	情緒発達研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標2,3)
	第30回	社会性発達・遊び研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	自分の興味を持つ本を読む。 １－４回　社会性の発達に関する論文・本を読み、どのような研究があるか概観する。 ５－９回　保育実習での経験を重い出しながら、どのような研究方法ができるか、考えてみる。 10回　研究に必要な用具を考える。 11－14回　研究の進み具合をまとめる。わからない点についてまとめておく。 15－17回　中間発表できるように、集まった資料を整理する。 18－22回　社会性の発達に関する先行研究を読み、自分の研究との関連性をまとめる。 23－26回　自分の研究で足りない点を検討する。 27－30回　自分の研究をまとめながら、先行研究との関連性を考え、将来的にどのような研究が必要か考える。
	復習	自分なりの考えを整理する。 １－４回　社会性の発達に関する研究のおおよその流れを整理しまとめる。 ５－９回　授業で出された研究方法に関する意見を整理しまとめる。 10回　研究に必要な用具について出された意見を整理してまとめる。 11－14回　研究について出された意見を整理して、次にすべきことをまとめる。 15－17回　他の学生や自分の中間発表を振り返り、改善点を整理する。 18－22回　先行研究との関連性について、出された意見を整理し、論文の中に反映させる。 23－26回　自分の研究で足りない点をどう補うのかについて検討する。 27－30回　自分の研究についての意見をまとめ、考察をつけ加える。
	展開	自分なりに考えを整理しながら、必要なデータを集めて、趣旨にそったまとめができ、他の学生と討論できる。
成績評価	評価の基準	テーマにそった研究を論理的にまとめられる，情緒発達研究の中での位置づけができる。 1.乳幼児の行動の意味や要因を抽出し,その関連性・因果関係を明確にするための手続きを考え明確に表現できること。 2.乳幼児の行動に対する自分なりの考えを立証する方法を実践することで洗練化し的確に表現できること。 3.自分の研究をその領域の他の研究と関連づけ,意義を考え的確に表現できること。
	評価の方法	レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124005　火4
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	楽曲分析，音楽用語，音楽文献学
学生の到達目標	1.疑問点を積極的に調べる力が付く 2.作品分析法を理解できる 3.研究成果をまとめる力が付く
授業内容	第1回　前期のオリエンテーション 第2回　ゼミナール Ｉの最終レポートでの問題点及び今後の課題 (目標1)

第3回	今後の課題と卒業研究との関連 (目標1)
第4回	論文と作品制作及び作品発表について (目標1・2)
第5回	卒業研究のテーマを絞る (目標1)
第6回	各自のテーマに関する文献検索法 (目標1)
第7回	英語の文献にも触れる。外国語の文献検索法 (目標1・2)
第8回	各自のテーマに関する英語の文献講読 (目標1・3)
第9回	各自のテーマに関する英語の文献の内容発表 (目標1・3)
第10回	楽曲分析法(幼児・児童の歌) (目標 2)
第11回	楽曲分析法(簡単なピアノ曲) (目標 2)
第12回	楽曲分析法(小学校の共通教材) (目標 2)
第13回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 2・3)
第14回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 2・3)
第15回	研究テーマに関する作品分析 (目標1・ 2・3)
第16回	分析データの活用法 (目標1・ 2 ・ 3)
第17回	論文作成法 (目標1・3)
第18回	研究作品作成法(目標1・3)
第19回	研究課題の中間報告 (目標1・2・3)
第20回	歴史的考察法 （1）文献からの考察 (目標1・2)
第21回	歴史的考察法 （2）史料からの考察 (目標1・2)
第22回	研究テーマに関する歴史的考察 (目標1・2・ 3)
第23回	研究テーマに関する歴史的考察の発表 (目標1・2・ 3)
第24回	研究課題の成果発表及びディスカッション (目標1・ 3)
第25回	研究課題の作成と推敲 (目標1・ 3)
第26回	研究課題の完成に向けて (目標1・ 3)
第27回	論文発表 (目標1・ 3)
第28回	作品発表 (目標1・ 3)
第29回	研究の完成に向けて (目標1・2・4)
第30回	研究課題の完成と本授業の振り返り

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	・第1回から3回までは各自が興味のある保育・教育現場の音楽活動状況を調べておく。 ・第4回から9回までは各自の研究テーマに関する文献を検索しておく。 ・第10回から16回は、各自の研究テーマの楽曲を分析し、その結果のデータを発表できるようにまとめる。 ・第17回から19回は中間発表に向けて準備をする。 ・第20回から30回は、各自の研究テーマに関する音楽用語、歴史的考察等を文献から検索して、研究成果を発表できるように準備する。
	復習	・第1回から3回の各自の音楽活動状況の発表に関する問題点を再度検討する。 ・第10回から16回の授業で行った楽曲分析法に沿って、再度自ら復習をして確認しておく。その際、歌詞と音楽の関係については特に留意する事。 ・第20回から30回は、各自の研究テーマに関する文献調査、資料調査の問題点を挙げておく。

	展開	音楽に関する研究のためには、作品分析法や音楽文献学等の知識が必要不可欠である。従って、本授業で学んだ事を卒業研究に大いに生かして欲しい。
成績評価	評価の基準	1.疑問点を積極的に調べることができること 2.作品分析法を理解できること 3.研究成果をまとめることができること
	評価の方法	提出課題（ 50%），発表内容（ 30%），勉学意欲（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	自ら選択した研究課題に対して，問題意識と積極的に学び調べることが求められます。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	田所　明房
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124008　月4
教室	ゼミ室14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	知的障害　実践研究　教材教具の研究と作成
学生の到達目標	1.知的障害を主とした実践に関する探究をする。 2.卒業後の進路とも関連させてよりよい支援についても深める。 3.研究の方法や探究の意義について理解を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション　ゼミの内容と進め方（目標１） 第2回　文献調査（１）テーマに沿って収集①　（目標１）

第3回	文献調査（２）テーマに沿って収集②	（目標１）
第4回	文献調査（３）研究計画の確認①	（目標１）
第5回	文献調査（４）研究計画の確認②	（目標１）
第6回	文献調査発表	（目標３）
第7回	実地調査（１）テーマの確認①	（目標１，３）
第8回	実地調査（２）テーマの確認②	（目標１，３）
第9回	実地調査（３）課題の検討①	（目標１，３）
第10回	実地調査（４）課題の検討②	（目標１，３）
第11回	実地調査（５）研究計画の作成①	（目標１，３）
第12回	実地調査（６）研究計画の作成②	（目標１，３）
第13回	実地調査発表	（目標３）
第14回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理①（目標２）	
第15回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理②（目標２）	
第16回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理③（目標２）	
第17回	実践研究発表	（目標３）
第18回	実地調査（１）	（目標２，３）
第19回	実地調査（２）	（目標２，３）
第20回	実地調査（３）	（目標２，３）
第21回	実地調査（４）	（目標２，３）
第22回	実地調査のまとめ（１）	（目標２，３）
第23回	実地調査のまとめ（２）	（目標２，３）
第24回	実地調査の分析（１）	（目標２，３）
第25回	実地調査の分析（２）	（目標２，３）
第26回	レポート作成（１）；課題・目的	（目標３）
第27回	レポート作成（２）；方法・対象	（目標３）
第28回	レポート作成（３）；実践・経過	（目標３）
第29回	レポート作成（４）；考察	（目標３）
第30回	大学生活の成果と今後の職場生活の準備（目標２）	

予習・復習の内容
（毎回180分程度）

予習

☆各回の授業の内容に示している事柄について、自らのテーマに沿って取り組めるように事前に調べておくとともに、関連する教材、資料等の作成準備をする。
第１回～第６回
自分の感心のあるテーマに沿って文献調査を行い、研究計画を立てる。
第７回～第１３回
自らのテーマに基づき、実地調査の課題や研究計画を立てる。発表資料を作成する。
第１４回～第１７回
各自のテーマに沿って教材教具の作成をしたり、収集した資料のまとめ、発表資料の準備をしたりする。
第１８回～第３０回

		テーマに沿って取り組めるように、事前調査を行うとともに、レポートを作成する。
	復習	☆取り組んだ内容や今後の方向など、指摘された事柄、意見をもとに考えをまとめ次回の授業につなげる。レポート課題は、そのつど振り返りができるようにする。
	展開	☆文献や実践をもとに自分の考えや意見をきちんと伝えるとともに、疑問や意見から、テーマに関する内容をさらに掘り下げる。現場の公開研究会や学校祭、ボランティア活動に積極的に参加し、現場から学ぶ機会をとる。ゼミ生の発表や実践に対して、意見交換や協議をする場を計画的に行う。場面ごとにアドバイスをする。

成績評価	評価の基準	1.知的障害を主とした実践に関する探究をする。 2.卒業後の進路とも関連させてよりよい支援についても深める。 3.研究の方法や探究の意義について理解を深める。
	評価の方法	発表とレポート課題　６０%，討議への参加度 ４０%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124009　木3
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	小学校英語，教授法，理論，実践，論文
学生の到達目標	1.外国語教育の理論と実践を理解する。 2.研究対象とすべきテーマを決定する。 3.調査や実験を行い，分析結果を論文にする。
授業内容	第1回　日本の小学校英語教育 第2回　ことばの学び 第3回　日本の英語教育と教授法

第4回	子どものための効果的な英語教授法
第5回	シラバス
第6回	授業活動
第7回	教室運営
第8回	言語選択
第9回	第一言語習得における音声言語の発達
第10回	第二言語習得における音声言語の発達
第11回	リスニング指導
第12回	スピーキング指導
第13回	リスニングの活動
第14回	スピーキングの活動
第15回	まとめ(1)　学習事項の確認と重要事項の復習
第16回	リタラシー能力の発達
第17回	リタラシー活動の実践
第18回	単語を知るとは
第19回	語彙獲得の過程
第20回	語彙指導
第21回	文法獲得の過程
第22回	文法指導
第23回	音声中心の語彙学習活動案
第24回	文字中心の語彙学習活動案
第25回	文法学習活動案
第26回	小学生を対象とした英語学習の目標
第27回	小学生を対象とした英語能力の測定
第28回	これからの小学校英語教育
第29回	卒業研究の内容発表
第30回	まとめ(2)　学習事項の確認と重要事項の復習 (授業の計画・内容は,上記目標1,2,3を総合的に扱い,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	該第1回～第29回の各々で，当ページを熟読し，要旨とともに卒論のテーマとの関連性をA4の用紙１枚にまとめる。
	復習	第1回～第29回の各々で，ゼミでの議論に基づき，新たに発見したことを上記用紙に書き加える。
	展開	卒論の完成に向けて，新たに関連文献等を入手し，議論を深めることができるようにする。

成績評価	評価の基準	1.外国語教育の理論と実践を理解できたか，2.研究対象とすべきテーマを決定できたか，3.調査や実験を行い，分析結果を論文にできたかについて，それぞれ到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（50%），課題・論文等の提出物（50%）を対象として総合的に評価する。

教科書

書籍名	小学校英語の教育法－理論と実践－
著者名	アレン玉井光江
出版社	大修館書店
価格	2,500円（税別）
ISBN・ISSN	978-4-469-24548-6

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124010　月4
教室	ゼミ室5,6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	マネジメント・企画立案・運営
学生の到達目標	1，教育現場等での環境構成について考えあう活動を通して、企画・運営の力をつける。 2，マネジメントの視点で組織を動かす経験を積み，将来に向けてのビジョンを構築することができる。 3，企画立案にとって必要な要件について，体験をもとにまとめることができる。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画（目標1，2，3）

第2回	教室等の環境構成について情報収集を行う。（目標１）
第3回	教室等の環境構成について収集した情報を交換し検討する。（目標１）
第4回	教室等の環境構成をよりよくしていくための企画を考える。（目標１）
第5回	教室等の環境構成について製作計画を立案する。（目標１）
第6回	教室等の環境構成を製作をする。（目標１）
第7回	製作した環境について検討しあう。（目標１）
第8回	教室等の環境について評価修正を加える。（目標１）
第9回	地域の課題解決のために，地域の人たちへのアンケート調査を考える。（目標１，２）
第10回	アンケート調査から得た情報を元に課題の解決方法を話し合う。（目標１，２）
第11回	マネジメントの理論を元に，地域の人たち等への提案の仕方を考える。（目標１，２）
第12回	地域についての情報を収集する。（目標１，２）
第13回	地政学的な視点や歴史的な視点から，地域の状況をまとめていく。（目標１，２）
第14回	地域の状況を地図等に書き表し，見やすくする。（目標１，２）
第15回	前期の活動を振り返り，体験談を発表し合い，今後に活かす。（目標３）
第16回	地域の課題解決のために，何ができるのか話し合う。（目標１，２）
第17回	考えを提案するため，文章としてまとめていく。（目標１，２）
第18回	まとめた文章を，提案し合いう。（目標１，２）
第19回	地域の人たちと課題解決のため話し合う。（目標１，２）
第20回	実際にどのように行動するか，具体的に役割を考え合い，その計画を立案する。（目標１，２）
第21回	それぞれが分担した役割について，立案した計画について発表し合い，共通ビジョンを持つ。（目標１，２）
第22回	これまで行ってきた活動に対して，成果を明確にする。（目標３）
第23回	これまで行ってきた活動に対して，課題を明確にする。（目標３）
第24回	成果と課題を各自まとめる。（目標３）
第25回	成果と課題を明確にするため，ディスカッションを行う。（目標３）
第26回	今後の生活に活かしていくための方法を考える。（目標３）
第27回	今後の生活に活かしていくためのプランを作り上げる。（目標３）
第28回	各自の今後の生活に活くため，プランを発表し合う。（目標３）
第29回	授業全体の振り返りを行う。学生間で，プレゼンテーションを行う。（目標１，２，３）
第30回	授業全体の振り返りを行う。地域の人を招いて，プレゼンテーションを行う。（目標１，２，３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。

第2回小学校の教室環境について，どのような環境構成があるのか調べること。
第3回調べた環境構成について，情報を交換できるようまとめておくこと。
第4回教室環境をよりよくしていくための企画を考えてくること。
第5回教室環境の具体的な掲示物等の作成について考えてくること。
第6回教室環境の掲示物等の作成に必要なものを考え，準備しておくこと。
第7回教室環境等について，理解したことをレポートにまとめること。
第8回環境について話し合えるよう，考えをまとめてくること。
第9回地域の課題について調べるためのアンケート調査項目を考えてくること。
第10回アンケートから得た情報を元に課題解決の方法を考えてくること。
第11回マネジメントの考え方を元に地域の課題とは何か文献を読んでくること。
第12回地域に出かけ，課題を見つけてくること。
第13回地域の状況に関して，レポートをまとめること。
第14回地域の地図を元に，状況を考えること。
第15回体験談をレポートにまとめること。
第16回地域の課題に関して，自分なりの課題解決の方法を考えること。
第17回課題解決の方法についてレポートをまとめること。
第18回提案をプレゼンテーションとしてまとめること。
第19回地域の人たちと話し合うための提案書を作成すること。
第20回地域の課題解決のための具体的な対応について考えること。
第21回発表のあった内容についてレポートをまとめること。
第22回各レポート内容について考えをまとめること。
第23回各レポート内容に関して，改善点を考えてくること。
第24回成果と課題についてレポートをまとめること。
第25回ディスカッションをするため自分の意見を考えてくること。
第26回今後の生活スタイルを変えていくために取り組むことを考えてくること。
第27回今後の生活についてレポートをまとめること。
第28回プレゼンテーションができるよう資料を整理してくること。
第29回プレゼンテーションの準備をすること。
第30回授業全体の振り返りをするため，レポートとしてまとめてくること。

復習　第1回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。
第2回小学校の教室環境等についての，環境構成についてまとめること。
第3回調べた環境構成について，情報を整理しておくこと。
第4回教室環境をよりよくしていくための企画についてまとめること。
第5回教室環境の具体的な掲示物等の作成についてまとめること。
第6回教室環境の掲示物等を作成し，写真等を使いまとめておくこと。
第7回教室環境等について，検討したレポートをまとめること。
第8回環境について話し合ったことを，レポートとしてまとめること。
第9回地域の課題について調べるためのアンケート調査について修正すること。
第10回課題解決の方法についてまとめること。
第11回マネジメントの考え方を元に地域の課題とは何かレポートをまとめること。
第12回地域に出かけ，発見した課題についてレポートをまとめること。
第13回地域の状況に関してのレポートを修正すること。
第14回地域の地図を元に考えたことを，レポートしてまとめるこ

		と。 第15回話し合った体験談をレポートにまとめること。 第16回地域の課題に関して，課題解決の方法をレポートしてまとめること。 第17回各自がまとめたレポートについて，感想等を入れてくること。 第18回提案されたプレゼンテーションについて，レポートを書くこと。 第19回各自作成の提案書について，検討すること。 第20回地域の課題解決のための具体的な対応についてレポートをまとめること。 第21回発表のあった内容についてまとめたレポートに感想等を書き加えること。 第22回発表のあったレポート内容について感想等を書き加えること。 第23回発表のあった，改善案について感想等を書き加えること。 第24回発表のあった成果と課題についてのレポートに感想等を書き加えること。 第25回ディスカッションをしての感想等を書いてくること。 第26回今後の生活スタイルを変えていくために取り組むことをまとめること。 第27回まとめたレポートについて感想等を書き加えること。 第28回整理した資料を元にプレゼンテーションを作成すること。 第29回プレゼンテーションの反省等をレポートにまとめること。 第30回まとめたレポートを整理してファイルしておくこと。
	展開	地域を調べる過程で，人との関わりを学び，組織を動かすためのマネジメントの基本を学んでいく。
成績評価	評価の基準	１，教育現場等での環境構成について考えあう活動を通して、企画・運営の力をつけられたか。 ２，マネジメントの視点で組織を動かす経験を積み，将来に向けてのビジョンを構築することができたか。 ３，企画立案にとって必要な要件について，体験をもとにまとめることができたか。
	評価の方法	企画立案運営に関するレポート５０％ 企画への積極的な参加態度５０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	○マネジメントの視点を育成していくので、参考資料等を読んでいく。 ○将来のビジョンを話し合うので、自分なりの課題を持って参加する。 ○企画・立案についてまとめていくので、必要な資料を集めていく。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124011　月4
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	3 共生社会 6-1 幼児教育の領域・内容
授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材開発，研究	
学生の到達目標	1.資料,データを収集し,研究課題を明確にし,研究に沿った教材研究や授業研究を行う。 2.幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら研究テーマをより深めることができる。 3.教材開発や授業研究を実践し,その結果をもとに研究内容を深め卒業研究にする。	

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の進め方)
	第2回	課題設定と方法等の相談（目標１）
	第3回	課題設定と方法等の決定（目標１）
	第4回	論文の書き方（目標１）
	第5回	研究テーマや課題設定と方法等の相談(目標1)
	第6回	先行研究 関係資料の収集(目標1)
	第7回	先行研究 関係資料の収集 文献研究(目標1)
	第8回	研究内容の教材開発について(目標2)
	第9回	保育現場の教材開発の実際(目標2)
	第10回	保育現場の教材開発の作成(目標2)
	第11回	保育現場の教材開発の考察(目標2)
	第12回	保育現場の教材開発の考察,再検討(目標2)
	第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
	第14回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
	第15回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
	第16回	各自の研究課題の発表・協議(目標1)
	第17回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3)
	第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3)
	第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3)
	第20回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3)
	第21回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データー等集計,分析(目標3)
	第22回	調査の中間報告(目標３)
	第23回	相互評価 修正(目標３)
	第24回	資料調査をまとめる（目標３）
	第25回	グループ発表の準備をする（目標３）
	第26回	グループ発表をする（目標３）
	第27回	グループ発表をもとに討論をし、修正をする（目標３）
	第28回	研究論文のまとめ（目標３）
	第29回	最終修正等（目標３）
	第30回	発表　まとめ（目標３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解たことをまとめておくこと 第2回　課題設定と方法等の相談の準備をしておくこと） 第3回　課題設定と方法をまとめておくこと 第4回　論文の書き方を調べておくこと 第5回　研究テーマや課題設定と方法等の相談できるようにしておくこと 第6回　先行研究 関係資料の収集の準備をしておくこと 第7回　先行研究 関係資料の収集 文献研究の準備をしておくこと 第8回　研究内容の教材開発についての準備をしておくこと 第9回　保育現場の教材開発の実際を調べておくこと 第10回　保育現場の教材開発の作成の準備をしておくこと

第11回　保育現場の教材開発の手順の準備をしておくこと
第12回　保育現場の教材開発の考察等,まとめられるようにしておくこと
第13回　関連研究会について調べ準備をしておくこと
第14回　関連研究会に関係資料、文献研究を準備しておくこと
第15回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究の意見交換ができるよう準備しておくこと
第16回　各自の研究課題の発表・協議の準備をしておくこと
第17回　幼稚園等,子どものいる施設等の訪問の準備をしておくこと
第18回　幼稚園等,子どものいる施設での観察の方法を調べておくこと
第19回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加の準備をしておくこと
第20回　幼稚園等,子どものいる施設での調査の準備をしておくこと
第21回　幼稚園等,子どものいる施設でのデーター等集計,分析の準備をしておくこと
第22回　調査の中間報告の準備をしておくこと
第23回　相互評価 修正の準備をしておくこと
第24回　資料調査を調べておくこと
第25回　グループ発表の準備をしておくこと
第26回　グループ発表をするの準備をしておくこと
第27回　グループ発表をもとに討論をし、修正の準備をしておくこと
第28回　研究論文のまとめを行う準備をしておくこと
第29回　最終修正等の準備をしておくこと
第30回　第1回～29回のポイント及び考察の記述を再度読んでまとめておくこと

1回から30回まで、興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。

復習　第1回　シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，本科目の目標・授業の概要・受講上の心得・授業の進め方と・評価の仕方について理解たことをまとめておくこと
第2回　課題設定と方法等を考察しまとめておく
第3回　課題設定と方法等を調べたことを考察しまとめておく
第4回　論文の書き方の理解した内容等調べたことをまとめておく
第5回　研究テーマや課題設定と方法等の相談下内容を整理しまとめておく
第6回　先行研究 関係資料の収集を整理しまとめておく
第7回　先行研究 関係資料の収集 文献研究を整理しまとめておく
第8回　研究内容の教材開発について整理しまとめておく
第9回　保育現場の教材開発の実際を調べたことをまとめておく
第10回　保育現場の教材開発の作成について調べたことをまとめておく
第11回　保育現場の教材開発の考察したことをまとめておく
第12回　保育現場の教材開発の考察,再検討したことをまとめておく
第13回　関連研究会に参加 関係資料の収集を整理しまとめておく
第14回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究を整理しまとめておく
第15回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換を整理しまとめておく
第16回　各自の研究課題の発表・協議を整理しまとめておく
第17回　幼稚園等,子どものいる施設等の訪問について知り得た情報をまとめておく
第18回　幼稚園等,子どものいる施設での観察した内容をまとめておく
第19回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査下内容を整理しまとめておく
第20回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査を考察しのまとめておく
第21回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめデーター等集計,分析を整理しまとめておく

		第22回　調査の中間報告の内容を整理しまとめておく 第23回　相互評価 修正を考察しまとめておく 第24回　資料調査をまとめる整理する 第25回　グループ発表の内容を整理しまとめておく 第26回　グループ発表の内容を考察しまとめておく 第27回　グループ発表をもとに討論をし、修正を下内容をまとめておく 第28回　研究論文のまとめを考察しておく 第29回　調査結果と研究課題の修正を考察しまとめておくこと 第30回　第1回～29回のポイント及び考察の記述を再度読んでまとめておくこと
	展開	文献や幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら卒業論文を完成させる。
成績評価	評価の基準	1）卒論研究についての理解と取り組みの姿勢 2）課題設定やその取り組みについて調査結果と研究課題の成果と内容 3）研究報告・発表等の内容と発表の成果
	評価の方法	論文　発表（ 70%）研究課題への取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察。 ・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。 ・オフィス・アワー：月曜日，5限 ・連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124012　金3,　4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子どもの視点からの造形表現、図画工作科教育、造形表現教育
学生の到達目標	1.各自のテーマに基づき、文献や事例等の情報の収集・実践や調査をしていく中で問題意識を明確に持つ。 2.自分の意見や考えについて明確に文章等で表現できる。 3.各教育現場で造形表現や図画工作科教育に関して具体的に調査・実践をし、計画的に研究をする。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点,計画作成)、文章力について(目標1.2)
	第2回	参考資料等文献収集、演習①「自分」を語る(目標1,2)
	第3回	参考資料文献の分析、演習②他者から見た「自分」について(目標1.2)
	第4回	参考資料文献の分析、演習③「自分」を伝える(目標1.2)レポート提出；確認後返却
	第5回	各自の研究テーマの確認・発表(目標1.2.3)
	第6回	研究の方向性・論考性の決定・発表(目標1.2)レポート提出；確認後返却
	第7回	文献・資料収集・制作・教育現場見学等①(目標1.2.3)レポート提出；確認後返却
	第8回	自己課題の検討・研究計画を見直す(目標1.2)
	第9回	研究計画の決定と実施、プレゼンについて(目標1.2)演習④子どもの実態を踏まえた造形表現（目標1.3）
	第10回	文献・資料収集,制作,調査活動・教育現場見学等②(目標2.3)
	第11回	文献・資料収集,制作,調査活動・教育現場見学等③・経過報告(目標2,3)
	第12回	研究テーマに即した調査（目標1.2）演習⑤子どもの実態を踏まえた造形表現①試行（目標1.3）
	第13回	演習⑥子どもの実態を踏まえた造形表現②試行（目標1.3）
	第14回	演習⑦子どもの実態を踏まえた造形表現③計画（目標1.3）レポート提出；確認後返却
	第15回	中間報告会に向けて(目標1.2)演習④子どもの実態を踏まえた造形表現④計画（目標1.3）レポート提出；確認後返却レポート提出；確認後返却
	第16回	中間発表に向けて・発表の確認(目標1,2)
	第17回	中間発表の振り返り・研究課題・内容の再確認(目標1.2)レポート提出；確認後返却
	第18回	調査・資料収集,制作等の再実施と整理・分析、論考性検討①(目標1.2)
	第19回	調査・資料収集,制作等の再実施と整理・分析、論考性検討②相互検討(目標1.2)
	第20回	演習⑧子どもの実態を踏まえた造形表現⑤試作（目標1.3）レポート提出；確認後返却
	第21回	演習⑨子どもの実態を踏まえた造形表現⑥指導計画（目標1.3）レポート提出；確認後返却
	第22回	各自の研究テーマの調査結果を吟味する(目標2.3)
	第23回	経過報告会・各自再検討(目標2.3)
	第24回	研究論文の検討・相互確認(目標2.3)
	第25回	演習⑪役割演技、研究論文・引用の確認、相互点検(目標2.3)
	第26回	研究論文・考察について(目標2.3)
	第27回	論文相互検討①(目標2.3)
	第28回	論文相互検討②、発表準備②(目標2.3)
	第29回	研究の発表に向けて・プレゼンテーションを学ぶ(目標2.3)
	第30回	まとめ～総括・全体講話(目標2,3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 文献・資料等の調査 「読書」ノート、「美・発見」ノートの記入、レポート作成
	復習	第1回～第15回 演習ごとのまとめ 関連文献の探索と読み込み レポート作成
	展開	卒業研究を進めるための学びを積み重ねる 造形表現、図画工作科教育の実践力を身につけるために自主的に学ぶ。到達目標1.2.3
成績評価	評価の基準	1.各自のテーマに基づき、文献や事例等の情報の収集・実践や調査をしていく中で問題意識を明確に持てたか。 2.自分の意見や考えについて明確に文章等で表現できることができたか。 3.各教育現場で造形表現や図画工作科教育に関して具体的に調査・実践をし、計画的に研究ができたか。 授業を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等を通して，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・演習等も踏まえて図画工作科教育,造形表現教育に対する理解をより深め，それを基盤として卒業研究を進める基本的な力や応用力を培う。 ・文章表現力の向上、プレゼンテーションを踏まえた発表力の伸長を測る。 ・学外の現場見学や調査などの実施日程などは予定である。そのため，多少のシラバスの内容変更も考えられる。 ・実技や夏休み等で大学外で調査･研究する課題もある。ボランテイアや教育現場での授業補助も含める ・連絡はゼミ生に伝えているメールで随時行う	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124013　月4
教室	(前期)ゼミ室12,(後期)講義室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子どもの権利，子ども支援，親支援，実践研究
学生の到達目標	1.子どもや親をとりまく現状について説明できるようになる。 2.子ども支援，親支援の多様な形態を理解し，説明できるようになる。 3.今日の子ども，親をめぐる支援のあり方と課題（地域生活支援を含む）についての研究をまとめ，発表することができるようになる。
授業内容	第1回　ゼミナールの進め方について 第2回　子どもの権利について1（現代の子ども観）（目標1）

第3回	子どもの権利について2（親権をめぐって）（目標1）
第4回	子どもの権利について3（子どもの権利条約）（目標1）
第5回	研究テーマおよび概要の報告（目標1）
第6回	各種研究方法について（目標1,2）
第7回	研究計画についての検討（目標1,2）
第8回	施設見学事前学習（子育てサークルの歴史的背景）（目標1,2）
第9回	施設見学事前学習（子育てサークルの現状）（目標1,2）
第10回	施設見学（目標1,2）
第11回	施設見学後の振り返り（目標1,2）
第12回	施設見学事前学習1（母子生活支援施設の歴史的経緯）（目標1,2）
第13回	施設見学事前学習2（母子生活支援施設の機能と役割）（目標1,2）
第14回	施設見学（目標1,2）
第15回	施設見学振り返りと前期のまとめ（目標1,2）
第16回	後期の進め方について
第17回	各種データの収集（目標1,2）
第18回	各種データの整理（目標1,2）
第19回	各種データの分析（目標1,2）
第20回	研究内容についての検討1（目的について）（目標1,2,3）
第21回	研究内容についての検討2（研究方法について）（目標1,2,3）
第22回	研究内容についての検討3（考察について）（目標1,2,3）
第23回	研究内容についての検討4（結果について）（目標1,2,3）
第24回	研究内容についての検討5 （文献の引用について）（目標1,2,3）
第25回	研究内容の報告及び意見交換（目標1,2,3）
第26回	研究内容についての再検討1 （結果について）（目標1,2,3）
第27回	研究内容についての再検討2 （研究要旨の確認）（目標1,2,3）
第28回	研究成果報告の準備（目標1,2,3）
第29回	研究成果報告（目標1,2,3）
第30回	まとめ（子ども・親支援の現状及び課題と地域生活支援のあり方について）（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～4回予習：子どもの権利をめぐる状況について再度確認する。 第5回～7回予習：卒業研究のテーマ、研究方法を含む研究計画を立てる。 第8回～9回予習：子育て支援サークル見学に向けての情報収集をする。 第10回～11回予習：見学内容の整理 第12回～13回予習：児童福祉施設見学に向けての情報収集をする。 第14回～15回予習：見学内容の整理と、前期の活動の振り返りをする。 第16回予習：卒業研究の進め方についての研究計画を再度確認する。 第17回～25回予習：各自の研究の進捗状況についての報告に向けての整理を行う。

		第26回～27回予習：研究の進捗状況の報告及び意見交換をもとに研究内容について再検討を行う。 第28回～第29回予習：研究成果報告の準備を行う。 第30回予習：1年間の振り返りを行う。
	復習	第1回～4回復習：子どもの権利をめぐる状況についての授業の要旨を作成する。 第5回～7回復習：卒業研究の構想に関する報告及び意見交換に関する授業の要旨を作成する。 第8回～9回復習：施設見学に向けての授業内報告をもとに、授業の要旨を作成する。 第10回～11回復習：施設見学の内容及び意見交換についてまとめる。 第12回～13回予習：施設見学に向けての授業内報告をもとに、授業の要旨を作成する。 第14回～15回復習：見学後の意見交換及び前期の活動に関する授業内容の要旨を作成する。 第16回復習:卒業研究の研究計画の再検討を行う。 第17回～25回復習：研究の進捗状況に報告後の意見交換から得られた内容についてまとめる。 第26回～27回復習：意見交換を通して得られたことをもとに、研究内容の再検討を行う。 第28回～29回復習：研究成果報告のためのパワーポイントを完成させる。 第30回復習：1年間の振り返りをまとめる。
	展開	子どもの権利についての理解を、他の文献等の検討を行い、さらに深める。 授業での意見交換等を通して、各自卒業研究をさらに進める。
成績評価	評価の基準	子ども家庭福祉にかかわる多様な実践支援形態理解できていることと，子ども・子育て支援の現場での取り組み状況を、その支援の現状と課題を含めて整理し報告できることを合格基準とする。
	評価の方法	ゼミへの取り組む意欲（ 40%），報告及びレポート（ 60%）で評価を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	オフィスアワー：金曜日1限 e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124014　（前期）金5,　（後期）金4
教室	講義室10・11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 3 共生社会 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子ども，教育，認知心理学，発達障害，自立支援
学生の到達目標	1．発達障害を中心とした子どもにかかわる実践や対応について研究を深める。 2．実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3．発達障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深め、卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究テーマの確認

第3回	研究目的・研究方法,研究計画について検討①(目標1,2,3)。
第4回	研究目的・研究方法,研究計画について検討②(目標1,2,3)
第5回	研究目的・研究方法,研究計画について検討③(目標1,2,3)
第6回	研究目的・研究方法,研究計画について検討④(目標1,2,3)
第7回	先行研究の収集・発表・討議①(目標1,2,3)
第8回	先行研究の収集・発表・討議②(目標1,2,3)
第9回	先行研究の収集・発表・討議③(目標1,2,3)
第10回	先行研究の収集・発表・討議④(目標1,2,3)
第11回	先行研究の収集・発表・討議⑤(目標1,2,3)
第12回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する①(目標1,2,3)
第13回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する②(目標1,2,3)
第14回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する③(目標1,2,3)
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション
第17回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する④(目標1,2,3)
第18回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑤(目標1,2,3)
第19回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑥(目標1,2,3)
第20回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する①(目標1,2,3)
第21回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する②(目標1,2,3)
第22回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する③(②目標1,2,3)
第23回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する④(②目標1,2,3)
第24回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う①(目標１,2,3)
第25回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う②(目標１,2,3)
第26回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う③(目標１,2,3)
第27回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う①(目標3)
第28回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う②(目標3)
第29回	研究成果の発表
第30回	年間のまとめ　ゼミナールⅡの振り返りと研究を通して得た成果・成長を確認する

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	自分の研究テーマに関する文献・書籍を読み,調べ、まとめる。 実際のこどもとのかかわりにおいて,テーマとの関連について考えをまとめる。 第１回～第６回 自分の関心のあるテーマに沿って、研究目的を考え、研究方法を調べ、研究計画を立てる。 第７回～第１１回 自らのテーマに基づき、文献・書籍を調べ、発表資料を作成する。 第１２回～第１９回 自らのテーマに沿って、観察、実践、試行などを行った経過をまとめ、文献日研究と照合小して考える。

第２０回～第３０回
テーマに沿って、課題を検討整理し、まとめ、論文を作成する。

復習　調べたり、観察、実践したりした内容について討論し、その中で得た視点について再度まとめ,新たに資料を収集し,掘り下げ深める。

第１回～第３０回
ゼミメンバーの体験や発表内容をふまえ、自分の課題やテーマと関連付けたりする。
文献研究、体験の発表や報告、協議等に対して、アドバイスを行い、内容に応じた課題を提示する。課題の取り組みに対して、コメントを返す。

展開　互いの研究について,それぞれのテーマとの関連について調べ,討議することで,研究を深める。また、実際の学校の授業研究などに参加し、自分の研究を、実践に還元する視点で捉え直し深める。

成績評価

評価の基準
１．発達障害を中心とした子どもにかかわる実践や対応について研究を深めること。
２．実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げること。
３．発達障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深め、卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行うことができる。

評価の方法　授業での討議への参加及び態度 60%，発表とレポート 40%

教科書

書籍名	よくわかる卒論の書き方
著者名	白井　利明　他
出版社	ミネルヴァ書房
価格	２５００円
ISBN・ISSN	９７８－４－６２３－０５１１１－３

書籍名	大学生のためのレポート・論文の書き方
著者名	石井　一成
出版社	ナツメ社
価格	１１００円
ISBN・ISSN	９７８－４－８１６３－５０５７－３

推薦図書等

参考URL

備考

予定した回までに調査し，検討結果をまとめ発表等をする。
他の人の発表にも関心を持ち，積極的に討議し，自分の研究をふり返り，深めることを大切にする。

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124015　火2，4
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究 9 キャリア形成
授業のキーワード	保育者の専門性，援助技法，課題研究	
学生の到達目標	1.課題研究に取り組むことで、保育についての思考を深め、研究的に保育と向き合っていく姿勢を養う。 2.自らの探求心で洞察を深め、研究テーマ周辺の事象をも射程に入れて、総合的に保育を捉えることができる思考力を養う。 3.現場実践において保育目標を実現していくための専門性を養う。	

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	自己課題の探究1(目標1)
	第3回	自己課題の探究と省察(目標1・2)
	第4回	研究テーマの設定(目標1・2)
	第5回	研究テーマを多角的に捉える(目標1・2・3)
	第6回	研究テーマを重層的に捉える(目標1・2・3)
	第7回	研究テーマの短期的展望と長期的展望(目標1・2)
	第8回	現代的保育課題と研究テーマの関連性(目標1・2)
	第9回	現代的保育課題と研究テーマの関心相関性(目標1・2)
	第10回	現代的保育課題と研究テーマの汎用性3(目標1・2)
	第11回	研究テーマを指導計画案に起案する(目標1・2)
	第12回	保育者の専門性～子どもの捉え方(目標3)
	第13回	保育者の専門性～子どもへの対応(目標3)
	第14回	保育者の専門性～関係性援助(目標3)
	第15回	保育者としての専門性～保育目標を実現していく力(目標3)
	第16回	保育現場実施調査1研究テーマの視点(目標2・3)
	第17回	保育現場実施調査2研究テーマの射程(目標2・3)
	第18回	保育現場実施調査3研究テーマの方法(目標2・3)
	第19回	保育現場実地調査4研究テーマの実践(目標2・3)
	第20回	調査結果検討会1グループ発表(目標1・2)
	第21回	調査結果検討会2グループ討議(目標1・2)
	第22回	調査結果検討会3グループシェアリング(目標1・2)
	第23回	保育者の専門性と自己の研究活動の関連性（目標1・2・3)
	第24回	保育者の専門性と研究成果(目標1・2・3)
	第25回	研究活動の共有化(目標1・2・3)
	第26回	研究活動の成果検証(目標1・2・3)
	第27回	研究活動の総合考察(目標1・2・3)
	第28回	研究活動の総括(目標1・2・3)
	第29回	ゼミナール内（4年生）卒業研究発表(目標1・2・3)
	第30回	ゼミナール内（3年4年合同）卒業研究発表(目標1・2・3)

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第1回　この科目のシラバスをよく読み、ポリシーとの関連等を理解し、学びの集大成となるような自分なりの到達目標を考察する。 第2回　自己課題を的確に捉え、学修の見通りが持てるようにまとめておく。 第3回　文献調査を行い関心領域を概観しておく。 第4回～第7回　研究テーマを設定し文献調査を行い先行研究をまとめていく。 第8回～第11回　研究テーマについて多角的検討を行い資料を収集する。 第12回～第15回　保育者としての専門性から研究テーマを捉える考察を進める。 第16回～22回　実際に園に出向いてパフォーマンスを行い子どもたちの反応から研究テーマを掘り下げ調査結果をグループで検討しておく。

		第23回～第30回　卒論を完成させ、ゼミ内発表を行う。その際に互いの卒論について読み込んで質問ができるようにしておく。
	復習	第1回　この科目のシラバスをよく読み、ポリシーとの関連等を理解し、学びの集大成となるような自分なりの到達目標を考察し、まとめておく。 第2回　自己課題を的確に捉え、学修の見通りが持てるようにノートにまとめておく。 第3回　文献調査を行い関心領域を概観した結果をまとめておく。 第4回～第7回　研究テーマを設定し文献調査を行い先行研究をノートにまとめておく。 第8回～第11回　研究テーマについて多角的検討を行い資料を収集しまとめておく。 第12回～第15回　保育者としての専門性から研究テーマを捉える考察を論文にまとめる準備を進める。 第16回～22回　実際に園に出向いてパフォーマンスを行い子どもたちの反応から研究テーマを掘り下げ、調査結果をグループで検討し改善しておく。 第23回～第30回　卒論を完成させ、ゼミ内発表を行う。その際に互いの卒論について質問し合い、自分の研究活動全体を説明できるようにしておく。
	展開	自己の取り組むテーマを明確に位置づけて、多方面から総合的に考察し、研究的に探究し、卒業論文としてまとめる。 卒業後の現場での活用を射程に入れた論述をする。 研究成果を発表し、プレゼンテーションすることができる。

成績評価	評価の基準	1）卒論テーマの先行研究をまとめることがでいる。 2）収集した資料の要点を的確にまとめることができる。 3）指導を受けて修正を繰り返し、卒論を完成させる。 4）卒論を期限までに提出することができる。
	評価の方法	プレゼンテーション能力評価50%，課題提出50%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・この科目では保育者としての役割・職務内容に関する知識を修得し、将来、保育現場に勤務することについて多角的に考察する。 ・学生の意欲、適性に鑑み、最終的な進路選択について助言する。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124016　火2,　金1
教室	ゼミ室5,6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験・観察
学生の到達目標	1．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 2．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができる。 3．研究テーマを決定し,先行研究の収集,研究方法の決定と推進に努め、卒業論文作成と論文発表を行うことができる。

授業内容	第1回	研究テーマの確認 (目標2,3)
	第2回	研究テーマの検討 (目標1,2,3)
	第3回	文献調査(1) 日本生物教育学会誌　(目標1,2,3)
	第4回	文献調査(2) 日本理科教育学会誌　(目標1,2,3)
	第5回	文献調査(3) 日本科学教育学会誌　(目標1,2,3)
	第6回	調査対象の検討及び調整 (目標2,3)
	第7回	データの収集方法の検討 (目標2,3)
	第8回	データの分析方法の検討 (目標2,3)
	第9回	フィールド調査(1) 草本類 (目標1,2)
	第10回	フィールド調査(2) 木本類　(目標1,2)
	第11回	フィールド調査(3) 節足動物　(目標1,2)
	第12回	屋内実習 棘皮動物　(目標1,2)
	第13回	研究の進捗状況の確認 (目標2,3)
	第14回	ゼミ内中間発表内容の確認 (目標2,3)
	第15回	ゼミ内中間発表及び意見交換 (目標2,3)
	第16回	中間発表からの修正点の確認 (目標2,3)
	第17回	研究上の課題検討(1) (目標3)
	第18回	研究資料の分析(1) 統計処理 (目標3)
	第19回	研究資料の分析(2) 検定 (目標3)
	第20回	研究資料の分析(2) グラフ化 (目標3)
	第21回	研究のまとめ(1) 目的の検討 (目標3)
	第22回	研究のまとめ(2) 方法の検討 (目標3)
	第23回	研究のまとめ(3) 図表の検討 (目標3)
	第24回	研究のまとめ(4) 結果の検討 (目標3)
	第25回	研究のまとめ(5) 考察の検討 (目標3)
	第26回	研究のまとめ(6) 考察の検討 (目標3)
	第27回	研究のまとめ(7) 見直しと修正 (目標3)
	第28回	研究のまとめ(8) 文献の検討 (目標3)
	第29回	研究発表方法の検討 (目標3)
	第30回	研究成果の発表練習 (目標3)

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	第1回 研究テーマの確認準備をしておくこと 第2回 研究テーマの検討をしておくこと 第3回 日本生物教育学会誌から参考文献を選んでおくこと 第4回 日本理科教育学会誌から参考文献を選んでおくこと 第5回 日本科学教育学会誌から参考文献を選んでおくこと 第6回 調査対象の検討及び調整をしておくこと 第7回 データの収集方法の検討をしておくこと 第8回 データの分析方法の検討をしておくこと 第9回 草本類について調べておくこと 第10回 木本類について調べておくこと 第11回 節足動物について調べておくこと 第12回 棘皮動物について調べておくこと 第13回 研究の進捗状況を報告できるよう似準備しておくこと 第14回 ゼミ内中間発表の内容を準備しておくこと１

第15回 ゼミ内中間発表の内容を準備しておくこと２
第16回 中間発表からの修正点の確認をしておくこと
第17回 第14回・第15回で明らかになった研究上の課題検討しておくこと
第18回 統計処理を調べておくこと
第19回 検定方法をを調べておくこと
第20回 グラフ化をしておくこと
第21回 研究目的について書いてくること
第22回 研究方法について書いてくること
第23回 図表を完成させてくること
第24回 結果について書いてくること
第25回 考察について書いてくること
第26回 考察の修正原稿について書いてくること
第27回 卒論全体についての見直しと修正を行ってくること
第28回 文献について書いてくること
第29回 研究発表方法の検討をしておくこと
第30回 研究成果の発表練習をしておくこと

復習　第1回 研究テーマに関する進捗状況をまとめておくこと
第2回 研究テーマの検討項目についてまとめておくこと
第3回 日本生物教育学会誌から参考文献をまとめておくこと
第4回 日本理科教育学会誌から参考文献をまとめておくこと
第5回 日本科学教育学会誌から参考文献をまとめておくこと
第6回 調査対象の検討事項についてまとめておくこと
第7回 データの収集方法についてまとめておくこと
第8回 データの分析方法についてまとめておくこと
第9回 草本類についてまとめておくこと
第10回 木本類についてまとめておくこと
第11回 節足動物についてまとめておくこと
第12回 棘皮動物についてまとめておくこと
第13回 研究の進捗状況を報告結果をまとめておくこと
第14回 ゼミ内中間発表の内容をまとめておくこと１
第15回 ゼミ内中間発表の内容をまとめておくこと２
第16回 中間発表からの修正点をまとめておくこと
第17回 第14回・第15回で明らかになった研究上の課題をまとめておくこと
第18回 統計処理について復習しておくこと
第19回 検定方法について復習しておくこと
第20回 グラフを修正しておくこと
第21回 研究目的を修正しておくこと
第22回 研究方法を修正しておくこと
第23回 図表をを修正しておくこと
第24回 結果を修正しておくこと
第25回 考察を修正しておくこと
第26回 考察の修正原稿を書いてくること
第27回 卒論全体についての見直しと修正を行ってくること
第28回 文献を修正しておくこと
第29回 研究発表方法を修正しておくこと
第30回 研究成果の発表練習をしておくこと

展開　主体的に取り組み、資料を整理し、課題を追究していける研究に対する態度をもつ。

成績評価

評価の基準
１．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができること。
２．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができること。
３．研究テーマを決定し,先行研究の収集,研究方法の決定と推進に努め、卒業論文作成と論文発表を行うことができること。

評価の方法　学習ポートフォリオ（40%），研究論文（40%），研究への取組み状況（20%）を総合的に判断する。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	
参考URL	
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であること。特に小学校で行われる実験は経験していることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。授業を実際に観察したり，子供の行動を観察することもある。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124017　金2
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	音楽，教育，研究
学生の到達目標	1．自分の研究テーマを深め,自分なりに問題を考察しようとする意欲をもつ。 2．考察の結果をわかりやすく他者に伝えようとする意欲・態度をもつ。 3．考察の結果を論文としての体裁を整えまとめることができる。
授業内容	第1回　ガイダンス（目標1，2） 第2回　各自の研究テーマのプレゼンテーションの準備 ①(目標1、2)

第3回	各自の研究テーマのプレゼンテーションの準備 ②(目標1、2)
第4回	各自の研究テーマのプレゼンテーションの準備③(目標1、2)
第5回	ゼミ内での研究テーマ発表会(目標2)
第6回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積①(目標1)
第7回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積②(目標1)
第8回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積③(目標1)
第9回	卒論テーマ計画書の作成(目標3)
第10回	文献を読み込み考察し文章化する ①(目標1,2)
第11回	文献を読み込み考察し文章化する ②(目標1,2)
第12回	文献を読み込み考察し文章化する ③(目標1,2)
第13回	文献を読み込み考察し文章化する ④(目標1,2)
第14回	文献を読み込み考察し文章化する ⑤(目標1,2)
第15回	卒業研究中間発表の準備 ①(目標2,3)
第16回	卒業研究中間発表の準備 ②(目標2.3)
第17回	卒業研究の章立ての再検討(目標3)
第18回	参考文献目録作成の準備(目標3)
第19回	参考文献目録の作成(目標3)
第20回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ①(目標2,3)
第21回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ②(目標2,3)
第22回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ①(目標2,3)
第23回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ②(目標2,3)
第24回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ①(目標2,3)
第25回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ②(目標2,3)
第26回	検討をもとにしての改善点の確認 ①(目標2,3)
第27回	検討をもとにしての改善点の確認 ②(目標2,3)
第28回	卒業研究発表会に向けての準備①(目標2)
第29回	卒業研究発表会に向けての準備②(目標2)
第30回	総括　授業の振り返りと重要事項の確認（目標1・2・3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2回～第4回　ゼミ内の研究テーマ発表会に向けて準備を行う。 第10回～第14回　先行研究を吟味し、それに対する考察を文章化する。 第15回・第16回　中間発表会に向けての準備を進める。 第28回・第29回　卒研発表会に向けての準備を進める。
	復習	第20回～第27回　各時に明らかになった問題点を整理し、解決にむけて努める。
	展開	研究の作法を身につけ、卒業後も自分なりのテーマを持ち、問題解決に努力する姿勢を持つ。
成績評価	評価の基準	1．毎週自分なりに課題を設定しその達成に努力したか。 2．考察を論理の筋道が通った文で表すことができたか。 3．研究作法を身に着つけ、論文としての体裁を整えることができたか。

	評価の方法	毎週の自己の課題に対する取り組み（ 50%）と，問題意識を明確に持って筋道の通った文章を書けたかどうか（ 50%）で評価する。

教科書	書籍名	『よくわかる卒論の書き方』
	著者名	白井利明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2700円
	ISBN・ISSN	ISBN:4623051110

推薦図書等	書籍名	『新版論理的思考』
	著者名	宇佐美寛
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2052円（本体1900円＋税8%）
	ISBN・ISSN	ISBN:483921539

参考URL	
備考	国語辞典を持参すること。 オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	菊地　一文
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124018　月4
教室	(前期)ゼミ室4,(後期)講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
学生の到達目標	1. 研究テーマに基づいた研究方法を理解し、必要な研究資料を収集することができる。 2. 収集した研究資料を分析・検討し、まとめることができる。 3. 研究の経過及び成果をまとめ、発表することができる。
授業内容	第1回　前期オリエンテーション、授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1,2,3） 第2回　研究テーマ及び目的の検討①（目標1） 第3回　研究テーマ及び目的の検討②（目標1） 第4回　論文講読と討議①（目標1,2,3）

第5回	論文講読と討議②（目標1,2,3）
第6回	論文講読と討議③（目標1,2,3）
第7回	研究方法、研究計画の検討①（目標1）
第8回	研究方法、研究計画の検討②（目標1）
第9回	研究計画の発表と討議①（目標1,2,3）
第10回	研究計画の発表と討議②（目標1,2,3）
第11回	体験等の発表と話し合い①（目標2,3）
第12回	体験等の発表と話し合い②（目標2,3）
第13回	先行研究のレビュー①（目標1,2）
第14回	先行研究のレビュー②（目標1,2）
第15回	前期のまとめ　前期の授業の振り返りとフィールドワークの計画（目標1,2,3）
第16回	後期オリエンテーション フィールドワークのまとめ （目標1,2）
第17回	データ等の収集及び整理①（目標1,2）
第18回	データ等の収集及び整理②（目標1,2）
第19回	データ等の分析①（目標2）
第20回	データ等の分析②（目標2）
第21回	研究のまとめ①－「研究の背景」「目的」の記述の検討－（目標2）
第22回	研究のまとめ②－「方法」の記述の検討－（目標2）
第23回	研究のまとめ③－「結果」の記述の検討－（目標2）
第24回	研究のまとめ④－「考察」の記述の検討－（目標2）
第25回	研究のまとめ⑤－「文献」の記述の検討－（目標2）
第26回	研究成果の発表①（目標3）
第27回	研究成果の発表②（目標3）
第28回	残された課題及び今後の展望の検討①（目標1,2,3）
第29回	残された課題及び今後の展望の検討②（目標1,2,3）
第30回	後期のまとめ　後期の授業の振り返りと各自の研究を通して学んだことの確認（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード等について理解しておくこと 第2~3回　各自の研究テーマにおいて何をどこまで明らかにしようとするかをまとめておくこと 第4~6回　各自の研究テーマに関連する論文を収集し、概要を整理しておくこと 第7~8回　各自の研究テーマに基づく研究方法、研究計画についてまとめておくこと 第9~10回　各自の研究計画を発表するための資料を準備しておくこと 第11~12回　自身の障害のある人への支援に関する経験についてまとめておくこと 第13~14回　各自の研究テーマに関する先行研究について調べ、まとめておくこと 第15回　前期をとおして学んだこと、成果や課題についてまとめておくこと 第16回　フィールドワークの振り返りをまとめておくこと 第17~18回　各自の研究テーマに関するデータの収集計画についてまとめておくこと 第19~20回　各自の研究テーマに関するデータを整理しまとめておくこと

		第21回　「研究の背景」「目的」の記述を作成しておくこと 第22回　「方法」の記述を作成しておくこと 第23回　「結果」の記述を作成しておくこと 第24回　「考察」の記述を作成しておくこと 第25回　「文献」の記述を作成しておくこと 第26~27回　研究成果の発表方法を検討し、発表資料を作成しておくこと 第28~29回　残された課題及び今後の展望についてまとめておくこと 第30回　後期の授業を通じて学んだことをまとめておくこと
	復習	第1回　受講を通じて理解を深めたい事項についてまとめておくこと 第2~3回　研究テーマについて発表・協議したことをまとめておくこと 第4~6回　収集した論文の概要とポイントを整理しておくこと 第7~8回　研究方法、研究計画について発表・協議したことをまとめておくこと 第9~10回　研究計画について発表・協議したことをまとめておくこと 第11~12回　自身の障害のある人への支援に関する経験について発表・協議したことをまとめておくこと 第13~14回　先行研究について発表・協議したことをまとめておくこと 第15回　前期の授業における発表・協議を通して学んだことをまとめておくこと 第16回　フィールドワークの振り返りをとおして発表・協議したことをまとめておくこと 第17~18回　データの収集計画について発表・協議したことをまとめておくこと 第19~20回　データの整理・分析について発表・協議したことをまとめておくこと 第21回　「研究の背景」「目的」について発表・協議したことをまとめておくこと 第22回　「方法」について発表・協議したことをまとめておくこと 第23回　「結果」について発表・協議したことをまとめておくこと 第24回　「考察」について発表・協議したことをまとめておくこと 第25回　「文献」について発表・協議したことをまとめておくこと 第26~27回　研究成果について発表・協議したことをまとめておくこと 第28~29回　残された課題及び今後の展望について発表・協議したことをまとめておくこと 第30回　後期の授業における発表・協議を通して学んだことをまとめておくこと
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について、図書館等で資料を調べ、まとめておくこと
成績評価	評価の基準	1. 研究テーマに基づいた研究方法を理解し、必要な研究資料を適切に収集することができること。 2. 収集した研究資料を分析・検討し、適切にまとめることができること。 3. 研究の経過及び成果をまとめ、適切に発表できること。
	評価の方法	毎回の発表討議 60%　レポート 40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	就職活動や採用試験のスケジュールも自己管理し、調整して研究と履修を進めるようにすること。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124019　月4
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業論文、研究の方法、執筆方法
学生の到達目標	1.関心のあることを研究として深め、報告して共有することでさらに焦点化していく。 2.研究の基本的な方法と論文の執筆方法を習得し、卒業論文として書き上げる。 3.プレゼンテーションスキルを習得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション、関心テーマの確認（目標1） 第2回　各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告①焦点化1（目標1）

第3回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告②焦点化2（目標1）
第4回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告③テーマ設定1（目標1）
第5回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告④テーマ設定2（目標1）
第6回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑤研究のデザイン1（目標1）
第7回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑥研究のデザイン2（目標1）
第8回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑦研究方法1（目標1）
第9回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑧研究方法2（目標1）
第10回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑨調査計画1（目標1）
第11回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑩調査計画2（目標1）
第12回	調査と分析①調査の実施1（目標2）
第13回	調査と分析②調査の実施2（目標2）
第14回	調査と分析③調査の実施3（目標2）
第15回	調査と分析④調査の実施4（目標2）
第16回	調査と分析⑤データ化1（目標2）
第17回	調査と分析⑥データ化2（目標2）
第18回	調査と分析⑦分析1（目標2）
第19回	調査と分析⑧分析2（目標2）
第20回	調査と分析⑨構造化1（目標2）
第21回	調査と分析⑩構造化2（目標2）
第22回	調査と分析⑪考察1（目標2）
第23回	調査と分析⑫考察2（目標2）
第24回	中間報告準備（目標2）
第25回	総合考察1（目標2）
第26回	総合考察2（目標2）
第27回	報告と検討1（目標2）
第28回	報告と検討1（目標2）
第29回	報告会準備（目標3）
第30回	全期のまとめ

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	関心テーマに近い論文を読み、論文のイメージを作っておく。
	復習	ゼミ生同士の報告やそれに対する指導から、自分の課題を整理して研究に活かす。
	展開	関心テーマに近い領域の文献をあたり、ゼミ生同士で共有したり、討議したりする。

成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。

評価の方法	参加内容 50%、研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124020　金2,　4
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	哲学，倫理学，情報科学，言語理解，合理性
学生の到達目標	1．特定のトピックについて,問題の背景を説明し先行研究の理論的妥当性を評価できるようになる。 2．特定のトピックについて,哲学的/倫理学的アプローチの意義を説明できるようになる。 3．特定のトピックについての複数の主張を概念的に分析し,比較検討したうえで，妥当な解決策を提示できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション:専門ゼミナールⅡの概要説明
	第2回	哲学・倫理学における文献調査の手法 (目標1)
	第3回	参考文献の調査(1):文献の選択 (目標3)
	第4回	参考文献の調査(2):文献の要約 (目標3)
	第5回	参考文献の調査(3):文献で扱われる概念の整理 (目標3)
	第6回	中間報告とディスカッション(1)
	第7回	トピック研究(1):トピックの収集と分類 (目標1)
	第8回	トピック研究(2):問題の所在を明確にする (目標1)
	第9回	トピック研究(3):背景知識と関連する議論の整理 (目標1)
	第10回	中間報告とディスカッション(2)
	第11回	哲学的/倫理学的アプローチとは(目標2)
	第12回	哲学的/倫理学的アプローチの特徴 (目標2)
	第13回	哲学的/倫理学的アプローチの意義と役割 (目標2)
	第14回	中間報告とディスカッション(3)
	第15回	トピック特定の手法:概要説明
	第16回	先行研究の調査と整理(1) (目標3)
	第17回	先行研究の調査と整理(2) (目標3)
	第18回	先行研究の調査と整理(3) (目標3)
	第19回	先行研究における主張の比較検討(1)(目標3)
	第20回	先行研究における主張の比較検討(2) (目標3)
	第21回	先行研究における主張の比較検討(3) (目標3)
	第22回	中間報告とディスカッション(4):対立する主張の論理的整理
	第23回	哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで(1):議論の整理 (目標4)
	第24回	哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで (2):反論の構築(目標4)
	第25回	中間報告とディスカッション(5)
	第26回	解決策の論理的整理(1) (目標4)
	第27回	解決策の論理的整理(2) (目標4)
	第28回	プレゼンテーション発表とディスカッション(1):意見交換
	第29回	プレゼンテーション発表とディスカッション(2):解決策の比較検討
	第30回	まとめ
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回：ゼミナールの年間計画と教科書、参考文献を確認し、ゼミナールⅠで設定した自分の関心領域の報告準備をする。 第2回：哲学・倫理学領域において文献調査が果たす役割について調べておく 第3回：文献検索に利用するネットワーク上のツール（大学Opac，CiNii，J-STAGEのいずれか）を使って自分で選択した領域における基礎文献を50以上収集し、出典情報を明記したリストを作成する。 第4回：選択した領域で収集した文献から5～10文献を選択し、それぞれについて要約メモを作成しておく。 第5回：選択した領域で選択した5～10文献の要約メモをもとに、鍵となる概念と分析方法を抜き出しておく。

第6回：選択した5～10文献の要約をレポートとして作成し、合わせて同内容のプレゼンテーションを作成しておく。
第7回：要約した文献を参考に、自分の関心領域を選択しておく。
第8回：要約した文献を参考に、選択した領域の理論的背景を調べておく。
第9回：選択した領域について、先行研究で解決された部分と未解決の部分を調べておく。
第10回：選択した領域について、先行研究の成果を含め、問題提起のプレゼンテーションとして作成しておく。
第11回：選択した領域について、哲学・倫理学領域で議論する意義を調べておく。
第12回：選択した領域の議論において有用な論理的思考の手法を調べておく。
第13回：選択した領域が哲学・倫理学領域に与える影響を調べておく。
第14回：選択した領域について、ディスカッションでポイントとなることと、予想される反論を調べておく。
第15回： 選択した領域において問題を細分化し、ひとつの課題トピックを選択するための下調べをしておく。
第16回：選択したトピックについて、先行研究の有無を調べておく。
第17回：選択したトピックについて、先行研究の議論を調べておく。
第18回：選択したトピックについて、先行研究の成果とその領域に与えた影響を調べておく。
第19回：選選択したトピックについて、主要な先行研究の議論を調べておく。
第20回：選択したトピックについて、主要な先行研究の歴史的経緯を調べておく。
第21回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論の理論的関係を調べておく。
第22回：選択したトピックについて、対立または矛盾する議論がないか調べておく。
第23回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論の構造を調べておく。
第24回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論に対する反論を調べておく。
第25回：選択したトピックについて、ディスカッションでポイントとなることと、予想される反論を調べておく。
第26回：選択したトピックについて、その問題が解決可能と考えられてきたか、調べておく。
第27回：選択したトピックについて、その問題の解決に必要と考えられてきた条件は何か、調べておく。
第28回：選択したトピックの解決策の有無について、意見をまとめてくる。
第29回：選択したトピックのディスカッションで予想される反論と、有効な解決策の案について、意見をまとめてくる。
第30回：第1～29回で扱ったポイントについて再度よく確認しておく。論理的思考の基本については、関連する練習問題をもう一度解いておく。

復習　第1回：ゼミナールの年間計画と教科書、参考文献を確認し、自分の関心領域をまとめておく。
第2回：哲学・倫理学領域において文献調査が果たす役割について、まとめておく。
第3回：文献検索に利用するネットワーク上のツールを問題なく使用できるか確認する（大学Opac、CiNii，J-STAGE）。
第4回：選択した領域で収集した文献から5～10文献を選択し、それぞれについて要約メモを修正しておく。
第5回：選択した領域で選択した5～10文献の要約メモをもとに抜き出した鍵概念と分析方法を修正しておく。
第6回：選択した5～10文献の要約レポートと、同内容のプレゼンテーションを修正しておく。
第7回：選択した関心領域と要約した文献との関連性をまとめておく。
第8回：選択した領域の理論的背景と、要約した文献との整合性を

まとめておく。
第9回：選択した領域の先行研究で解決された部分と未解決の部分をまとめておく。
第10回：選択した領域の先行研究の成果と問題提起のポイントをまとめておく。
第11回：哲学・倫理学領域で議論する意義とポイントとなる点をまとめておく。
第12回：哲学・倫理学領域における論理的思考の基本をまとめ、記号論理学の練習問題を解いておく。
第13回：選択した領域が哲学・倫理学領域に与える影響について、ポイントをまとめておく。
第14回：選択した領域のディスカッションでポイントとなることと、予想される反論をまとめておく。
第15回： 選択した領域においてどのように問題が細分化できたか、ポイントをまとめておく。
第16回：選択したトピックについて、先行研究の出典情報をまとめておく。
第17回：選択したトピックについて、先行研究の議論のポイントをまとめておく。
第18回：選択したトピックについて、先行研究の成果とその領域に与えた影響をまとめておく。
第19回：選選択したトピックについて、主要な先行研究の議論のポイントをまとめておく。
第20回：選択したトピックについて、主要な先行研究の歴史的経緯のポイントをまとめておく。
第21回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論の理論的関係のポイントをまとめておく。
第22回：選択したトピックについて、対立または矛盾する議論のポイントをまとめておく。
第23回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論の構造のポイントをまとめておく。
第24回：選択したトピックについて、主要な先行研究の議論に対する反論のポイントをまとめておく。
第25回：選択したトピックについて、ディスカッションでポイントとなることと、予想される反論を書いてまとめておく。
第26回：選択したトピックについて、その問題の解決策のポイントをまとめておく。
第27回：選択したトピックについて、その問題の解決に必要と考えられてきた条件のポイントをまとめておく。
第28回：選択したトピックの解決策の有無について、自分の意見と他の人の意見のポイントをまとめておく。
第29回：選択したトピックのディスカッションで得た反論と、有効な解決策について、書いてまとめておく。
第30回：第1～29回で扱ったポイントについて再度よく確認し、書いてまとめておく。論理的思考の練習問題で間違いがあればもう一度解いておく。

展開　第1～30回で扱った内容について,関連するウェブサイトや文献を調べ,先行研究の議論と照らし合わせながら自分の主張を構築し、まとめておくこと。

成績評価

評価の基準　少なくともひとつのテーマ（トピック）について,
１．問題の背景を説明し先行研究の理論的妥当性を評価できるようになる。
２．哲学的/倫理学的アプローチの意義を説明できるようになる。
３．複数の主張を概念的に分析し,比較検討したうえで，妥当な解決策を提示できるようになる。

評価の方法　毎授業時の課題 60%，期末課題の達成度 40%の合計で評価します。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL	
備考	本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。 選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。 電子メールで連絡がとれることが望ましいです。質問等は，オフィスアワーに研究室で受け付けます。オフィスアワーに来訪できない場合は，個別に電子メールで相談してください。電子メールアドレスは個別にお知らせします。

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124021　金4，5
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	運動生理学，神経生理学，運動制御，実験実習，文献抄読
学生の到達目標	1.文献調査等を通して自らの興味のある分野の知識および理解を深め、研究課題を明らかにできるようになる。 2.研究仮説を検証する研究方法を立案し、研究を遂行できること。また、研究成果について効果的なプレゼンテーションができるようになる。 3.得られた実験データを正しく処理し、得られた結果から客観的な考察ができるようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1,2,3)
	第2回	文献抄読(1)(目標1,2,3)
	第3回	文献抄読(2)(目標1,2,3)
	第4回	文献抄読(3)(目標1,2,3)
	第5回	文献抄読(4)(目標1,2,3)
	第6回	文献抄読(5)(目標1,2,3)
	第7回	文献抄読(6)(目標1,2,3)
	第8回	文献抄読(7)(目標1,2,3)
	第9回	文献抄読(8)(目標1,2,3)
	第10回	論文構成の理解・作成法(1)(目標2,3)
	第11回	論文構成の理解・作成法(2)(目標2,3)
	第12回	研究課題の決定と予備実験(1)(目標1,2,3)
	第13回	研究課題の決定と予備実験(2)(目標1,2,3)
	第14回	研究課題の決定と予備実験(3)(目標1,2,3)
	第15回	実験(1)(目標1,2,3)
	第16回	実験(2)(目標1,2,3)
	第17回	実験(3)(目標1,2,3)
	第18回	実験(4)(目標1,2,3)
	第19回	実験(5)(目標1,2,3)
	第20回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標2,3)
	第21回	データ解析(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標2,3)
	第22回	レポート作成(1)(目標3)
	第23回	レポート作成(2)(目標3)
	第24回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(1)(目標2,3)
	第25回	データの見せ方,プレゼンテーションの方法(2)(目標2,3)
	第26回	プレゼンテーション資料の作成(1)(目標2,3)
	第27回	プレゼンテーション資料の作成(2)(目標2,3)
	第28回	レポート発表会および討論(1)(目標1,2,3)
	第29回	レポート発表会および討論(2)(目標1,2,3)
	第30回	まとめ：1年間の授業の振り返りと研究成果のプレゼンテーション(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1-12回：文献抄読における発表用のレジメを作成する 第13-23回：実験機器の使い方を学び、実験の準備をする。実験結果をまとめる。レポートを作成する 第24-30回：発表用の資料を作成する 実験においては、結果をまとめ、発表の準備をすること
	復習	第1-12回：修正されたレジメより自然科学のレポートの書き方を学ぶ 第13-23回：実験で得られたデータを分析し、実験結果をまとめる。レポートを作成する 第24-30回：修正された発表用の資料よりプレゼンテーションの方法を学ぶ

	展開	運動・神経生理学に関する図書や文献を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.文献調査等を通して自らの興味のある分野の知識および理解を深め、研究課題を明らかにすることができる。 2.研究仮説を検証する研究方法を立案し、研究を遂行できること。また、研究成果について効果的なプレゼンテーションをすることができる。 3.得られた実験データを正しく処理し、得られた結果から客観的な考察することができる。
	評価の方法	レポート課題 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	書籍名	運動神経生理学講義
	著者名	マーク L ラタッシュ
	出版社	大修館書店
	価格	3456円
	ISBN・ISSN	ISBN：4469264849
推薦図書等	書籍名	入門運動神経生理学
	著者名	矢部京之助　他
	出版社	市村出版
	価格	5832円
	ISBN・ISSN	490210900X
参考URL		
備考	連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124022　火3
教室	ゼミ室14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 共生社会 カリキュラムポリシー　3 共生社会 8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	保育，実践研究
学生の到達目標	1.自分の研究テーマについて,適当な方法を用いてデータ収集を行う。 2.自分の興味関心のある分野の先行文献をさらに読み,知見を深める。 3.収集したデータおよび先行研究から,自分の研究テーマについて考察を加えまとめる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標１,２,３） 第2回　研究目的および方法の確認（目標１） 第3回　先行文献の収集（目標２）

第4回	先行文献の整理・検討（目標２）
第5回	データ収集・分析(１)（目標１,３）
第6回	データ収集・分析(２)（目標１,３）
第7回	得られたデータ関する考察・討議(１)（目標１,３）
第8回	データ収集・分析(３)（目標１,３）
第9回	データ収集・分析(４)（目標１,３）
第10回	得られたデータに関する考察・討議(２)（目標１,３）
第11回	研究の進捗状況の確認および意見交換（１）（目標１,２,３）
第12回	研究の進捗状況の確認および意見交換（２）（目標１,２,３）
第13回	先行文献の収集（２）（目標２）
第14回	先行文献の収集（３）（目標２）
第15回	前期まとめ（目標１,２,３）
第16回	後期オリエンテーション（目標１,２,３）
第17回	研究の進捗状況の確認および意見交換（３）（目標１,２,３）
第18回	研究の進捗状況の確認および意見交換（４）（目標１,２,３）
第19回	データ収集・分析（５）（目標１,３）
第20回	データ収集・分析（６）（目標１,３）
第21回	得られたデータに関する考察・討議（３）（目標１,３）
第22回	データ収集・分析(７)（目標１,３）
第23回	データ収集・分析(８)（目標１,３）
第24回	得られたデータに関する考察・討議(４)（目標１,３）
第25回	研究のまとめ（１）目的（目標１,２,３）
第26回	研究のまとめ（２）方法（目標１,２,３）
第27回	研究のまとめ（３）結果と分析（目標１,２,３）
第28回	研究のまとめ（４）考察（目標１,２,３）
第29回	研究のまとめ（５）研究成果に関するプレゼンテーション（目標１,２,３）
第30回	まとめ　自身の研究内容と次の探究テーマの確認（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～4および11～18回 各自の研究テーマを明確にし,何を明らかにしたいのか,の視点を持ちながら先行文献を適切に収集し、批判的に読みながら理解する。 第5～10および19～30回 得られたデータを概観し、そこから各自の研究テーマに関して、どのようなことが明らかとなっているのか、導き出せるのかについて考え、他者に伝えられるように準備する。
	復習	第1～4および11～18回 発表した内容に対する、他者の意見を総合し、より文献を読み込み、理解を深める。 第5～10および19～30回 発表し、意見交換した内容から、さらに考察を深めていく。
	展開	データ収集にあたっては,実情に応じて柔軟に対応する。

成績評価	評価の基準	1.自分の研究テーマについて,適当な方法を用いてデータ収集を行う。 研究テーマを明確に持ち、それに必要なデータを計画的に収集する。

2.自分の興味関心のある分野の先行文献をさらに読み,知見を深める。
適切な先行文献を探し、鵜呑みにするのではなく批判的に読みながら自分の考えを構築する。
3.収集したデータおよび先行研究から,自分の研究テーマについて考察を加えまとめる。
得られたデータについて、先行研究と併せて自分なりに解釈し、理論だてて考察する。

評価の方法　授業における態度・内容：50%
提出レポート：50%

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124023　（前期）木3,　（後期）月5
教室	(前期)ゼミ室12,(後期)ゼミ10,11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	道徳教育　自己有用感　人とのかかわり　伝える力
学生の到達目標	1.道徳教育等の研究について視野を広げられるようになる。 2.自らの研究テーマを設定し，研究課題を追求する力をつける。 3.研究をまとめ，効果的な発表をすることができるようになる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（今後の見通しについて）（目標１） 第2回　プレゼンテーションについて（目標３）

第3回	学校教育における道徳教育の現状と課題(目標１)
第4回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
第5回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
第6回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
第7回	研究課題についての協議(目標２)
第8回	研究課題についての協議(目標２)
第9回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第10回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第11回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第12回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第13回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
第14回	研究レポートの作成（目標３）
第15回	研究レポートの作成　中間発表の準備①（目標３）
第16回	研究レポートの作成　中間発表の準備②（目標３）
第17回	研究レポートの作成　中間発表会（目標３）
第18回	研究レポートの作成①（目標３）
第19回	研究レポートの作成②（目標３）
第20回	研究レポートの作成③（目標３）進捗状況について①（目標２）
第21回	研究レポートの作成④（目標３）進捗状況について②(目標２)
第22回	研究レポートのまとめ①（目標３）
第23回	研究レポートのまとめ②（目標３）
第24回	研究レポートのまとめ③（目標３）
第25回	研究成果発表準備①(プレゼンテーション作成)（目標３）
第26回	研究成果発表準備②(プレゼンテーション作成）（目標３）
第27回	研究成果発表準備③(プレゼンテーション作成）（目標３）
第28回	発表準備④(リハーサル、練り直し)（目標３）
第29回	発表準備⑤(プレゼンテーションリハーサル)（目標３）
第30回	発表準備・発表(プレゼンテーション)まとめと評価（目標３）

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1~30回 研究に関する書籍や研究論文を読み，情報収集した内容の分析や考察をする。 教育現場における道徳教育や学級経営の研究について視野を広げる。
	復習	第1~30回 研究に関わる言葉の吟味をする。 討論し合ったことをもとに，レポートやプレゼンテーションを練り直す。
	展開	研究テーマや仮説について吟味する。 互いの研究について討論し合い，自分では気付かなかった見方や観点を取り入れて，研究を深める。 効果的なプレゼンテーションについてディスカッションし，聴き手に伝わるプレゼンテーションについて考え，取り入れる。

成績評価	評価の基準	1.道徳教育等の研究について視野を広げられたか。 2.自らの研究テーマを設定し，研究課題を追求する力をつけられたか。 3.研究をまとめ，効果的な発表をすることができるようになれたか。
	評価の方法	研究報告書（60%）発表原稿・プレゼンテーション（40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。	

専門ゼミナールⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1124024　月1
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	子育て支援、卒業論文、論文執筆方法、研究の方法
学生の到達目標	1．自分の研究テーマに沿って資料、データを収集し、分析を通して研究方法を習得する。 2．論文の執筆方法を習得し、卒業論文を仕上げる。 3．自分の研究を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第2回　課題設定と方法等の決定（目標1） 第3回　先行研究の収集と調査計画①（目標1） 第4回　先行研究の収集と調査計画②（目標1）

第5回	調査の実施①（目標1）
第6回	調査の実施②（目標1）
第7回	子育て支援実習：フィールドワーク①
第8回	子育て支援実習：フィールドワーク②
第9回	中間報告の方法について
第10回	調査と分析：データ化①（目標1）
第11回	調査と分析：データ化②（目標1）
第12回	調査と分析：構造化①（目標1）
第13回	子育て支援実習報告：プレゼンテーション①
第14回	中間報告①（目標3）
第15回	中間報告②（目標3）
第16回	調査と分析：構造化②（目標1）
第17回	調査と分析：構造化③（目標1）
第18回	考察①（目標1）
第19回	考察②（目標1）
第20回	考察③（目標1）
第21回	ここまでの意見交換・修正（目標3）
第22回	研究まとめ①目的（目標2）
第23回	研究まとめ②方法（目標2）
第24回	研究まとめ③結果と考察（目標2）
第25回	研究まとめ④総合考察（目標2）
第26回	最終的意見交換・最終的修正
第27回	報告会準備①（目標3）
第28回	報告会準備②（目標3）
第29回	発表・まとめ①（目標3）
第30回	発表・まとめ②（目標3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～25回 研究テーマに沿った論文、資料等を読む。 第26～30回 報告会・発表に向けて準備を進める。
	復習	第1～28回 データを収集し、整理を行う。意見交換で修正が必要な場合は、すぐに行う。 第29～30回 他の学生の発表・まとめを見て、自分の研究に反映できる点を修正したり、他の学生から意見があった点を修正する。
	展開	卒業論文に仕上げていく。

成績評価	評価の基準	１．自分の研究テーマに沿って資料、データを収集し、分析を通して研究方法を習得できたか。 ２．論文の執筆方法を習得し、卒業論文を仕上げたか。 ３．自分の研究を他者にわかりやすくプレゼンテーションできたか。 上記１～３の達成度で評価する。
	評価の方法	論文発表（70%）、授業態度（30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	よくわかる卒論の書き方
	著者名	白井利明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,500＋税
	ISBN・ISSN	978-4-623-06572-1
推薦図書等	書籍名	伝わるデザインの基本
	著者名	高橋佑磨・片山なつ
	出版社	技術評論社
	価格	2,180＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7741-6613-1
参考URL		
備考	oオフィスアワーは火曜日2限。 連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp	

キャリア演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS302
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	キャリア演習Ⅲ
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1132001 水2（2,4週に開講）
教室	講義室10・11,講義室14,講義室15,講義室16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	キャリア形成、就職に向けた実践力、社会人力、情報活用力
学生の到達目標	1．社会人としての知識を身につけ、キャリアに関しての情報を集め、情報を選択できる 2．自ら選択した職業（専攻分野）についての知識や技能を一層確かなものにする。 3．それぞれの目標が達成できるように試験対策をする。また、実践的能力を高める。

授業内容	第1回	年間計画・履修登録・学内マナー 就職関係説明（目標１）
	第2回	情報を得る（目標１） 小・特：教員採用説明会（県教育庁）4年生と合同 幼・保：保育・幼稚園その他就職進路説明会 発達：就職進路説明会
	第3回	小、特：実践演習①教育実習に向けて（目標２） 幼・保：幼稚園・保育所の職場：職場のイメージ（目標２） 発達：就職までの歩みと進め方（目標１．２）
	第4回	小・特：実践演習②授業の見方（目標２） 幼・保：幼稚園・保育所の職場：履歴書を書く意味と演習（目標２） 発達：応募書類の書き方と試験対策（目標３）
	第5回	小・特：実践演習③自己ＰＲ文の書き方（目標３） 幼・保：合同就職説明会に向けて：面接の受け方（目標３） 発達：キャリア支援室の利用の仕方：専門家の助言（目標１・３）
	第6回	労働法講座（目標１）
	第7回	小・特：採用試験の実際：採用試験までのデザイン（目標３） 幼・保：就職活動のマナー　（目標３） 発達：就職活動のマナー（目標３）
	第8回	後期計画確認 作文模擬試験（目標３）
	第9回	卒業論文中間発表を聞く（目標２）
	第10回	卒業論文中間発表を聞く（目標２）
	第11回	先輩の話を聞く（就職活動体験談）（目標１）
	第12回	小・特：試験対策：千葉県教育委員会説明（目標３） 幼・保：試験対策：千葉市保育課説明（目標３） 発達：履歴書記入、面接対策（目標３）
	第13回	小・特：試験対策・教職教養（目標３） 幼・保：面接練習の実際・自己PRの発表（目標３） 発達：履歴書記入、面接対策（目標３）
	第14回	小・特：模擬試験返却・４年生に向けて（目標３） 幼・保：模擬試験返却・４年生に向けて（目標３） 発達：模擬試験返却・４年生に向けて（目標３）
	第15回	卒業論文本発表を聞く（目標２）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第5回　職業選択に関係する情報を常日ごろから資料を収集しまとめておく。 第6回　労働法について事前に記載事項を理解し質問したいことをまとめる。 第7回～第11回　自ら選択した職業（専攻分野）についての知識や技能を一層確かなものにする為に文献調査を行い具体的な目標を立てておく。 第12回～第15回　4年への進級を意識した実践的なキャリアパスを考察し実行していく。
	復習	第1回～第5回　職業選択に関係する情報を常日ごろから資料を収集しまとめたことを授業内容に照らして加筆修正しておく。 第6回　労働法について学んだ学修内容をまとめる。 第7回～第11回　職業（専攻分野）についての知識や技能を一層確かなものにする為に先輩の話を聞いたり、体験者にお会いしたりなどして具体的な計画を行動に移すようにする。 第12回～第15回　進路についての実践的なキャリアパスやインターンシップを行い、試験対策、就職試験に向けて学修を重ねていく。

	展開	・積極的に参加する。 ・話を聞くときは要点を記録する。 ・疑問点を明確にする。
成績評価	評価の基準	1）主体的に参加し、キャリア決定に向けて真剣に取り組む姿勢があること。 2）レポートの提出を期限厳守できること 3）インターンシップ、ボランティア活動への参加が複　数回あること。 4）作文講座等講座への出席があること。
	評価の方法	・課題発表やレポート（30%） ・課題に対する取り組み（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリア演習Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS402
開講年度	2017年度
科目区分	専門演習科目
授業科目名	キャリア演習Ⅳ
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A1133001 水2（1,3週に開講）
教室	講義室10・11,講義室14,講義室15,講義室16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　9 キャリア形成
授業のキーワード	社会人，職業人，教育職，保育職，自立
学生の到達目標	1.自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものにする。 2.社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　イントロダクション　年間計画と学習の進め方・卒業研究について 第2回　専攻別採用説明・就職説明会（目標１） 第3回　専攻別キャリア支援講座１　自己アピールポイント確認　保育士模擬試験　進路ガイドブック活用（目標１）

第4回	専攻別キャリア支援講座２　集団面接の技術　保育士模擬試験　エントリーシート記入（目標１）
第5回	専攻別キャリア支援講座３　集団面談の技術　合同就職説明会について　会社説明会について（目標１）
第6回	専攻別キャリア支援講座４　集団面談の技術　合同就職説明会に向けて　会社訪問について（目標１）
第7回	専攻別キャリア支援講座５　個別面接の技術　合同就職説明会に向けて　就職試験について（目標１）
第8回	卒業研究中間発表会１（目標１）
第9回	卒業研究中間発表会２（目標１）
第10回	専攻別キャリア支援講座６（目標２）免許資格について提出物の確認（キャリア支援課）
第11回	現場での課題：虐待について（目標１）
第12回	現場での課題：職場での人間関係について（目標２）卒業研究について（目標１）
第13回	現場での課題：幼保小連携について（目標１）
第14回	卒業研究提出・発表会について（目標１．２）
第15回	学修のまとめと振り返り（目標１，２）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回 最高学年として卒業までに自分は何が不足しているのかを考えてくること 第2回 就職活動について調べてくること 第3回 自己アピールのポイントについて考えてくること 第4回 集団面接で尋ねられる質問の回答を考えてくること１ 第5回 集団面接で尋ねられる質問の回答を考えてくること２ 第6回 集団面談の練習を行ってくること 第7回 個別面接で尋ねられる質問の回答を考え練習してくること 第8回 卒業研究中間発表会の準備をすること 第9回 卒業研究中間発表会の準備をすること 第10回 免許資格について提出物の準備をすること 第11回 虐待について自らの考えをまとめておくこと 第12回 職場での人間関係について自らの考えをまとめておくこと 第13回 幼保小連携について自らの考えをまとめておくこと 第14回 卒業研究提出・発表会についての準備を行うこと 第15回 1年間を振り返り，自分なりに成長した部分を確認してくること
	復習	第1回 年間計画と学習の進め方・卒業研究について自らの学修計画の中に位置づけること 第2回 就職活動について自らの年間計画の中に位置づけること 第3回 自己アピールのポイントについてグレードアップすること 第4回 集団面接での反省を踏まえて，面接の練習をすること 第5回 集団面接での反省を踏まえて，面接の練習をすること 第6回 集団面談の練習を行うこと 第7回 個別面接での反省を踏まえて，面接の練習をすること 第8回 卒業研究中間発表会の反省から今後の方針を確認すること 第9回 卒業研究中間発表会の反省から今後の方針を確認すること 第10回 免許資格書類等を提出すること 第11回 虐待についてまとめておくこと 第12回 職場での人間関係についてまとめておくこと 第13回 幼保小連携についてまとめておくこと 第14回 卒業研究提出・発表会についての準備を行うこと 第15回 1年間を振り返り，成長した部分と課題をまとめること
	展開	関心をもった事項について，種々の資料を調べ，発表を意識してまとめる。

成績評価	評価の基準	1.自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものにすること。

		2.社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができること。
	評価の方法	課題発表（50%）やレポート（50%）の内容により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必要な能力を養うための科目であるが，学年や専攻毎の連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容が含まれるので，必ず履修すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125002
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ，インクルーシブ教育
学生の到達目標	1．自分の研究テーマについて，主体的に目標を設定し，必要な研究資料を収集することができるようになる。 2．収集した研究資料を分析して，研究の成果を論文としてまとめることができるようになる。 3．研究の成果を適切に発表することができるようになる。
授業内容	1．イントロダクション　卒業研究のねらい・卒業研究の進め方・評価の仕方（目標1，2，3） 2．研究目的の検討(1)　テーマ設定の背景（目標1） 3．研究目的の検討(2)　目的の妥当性（目標1）

4．研究方法の検討(1)　方法の妥当性（目標1）
5．研究方法の検討(2)　研究資料の収集方法（目標1）
6．研究資料の分析(1)　分析の仕方（目標2）
7．研究資料の分析(2)　分析結果の妥当性（目標2）
8．研究資料の分析(3)　分析結果の表示の仕方（目標2）
9．研究資料の分析(4)　分析結果のまとめ（目標2）
10．研究考察の検討(1)　考察の仕方（目標2）
11・研究考察の検討(2)　考察の妥当性（目標2）
12．研究考察の検討(3)　今後の課題（目標2）
13．発表の仕方(1)　プレゼンテーション方法の検討（目標3）
14．発表の仕方(2)　プレゼンテーション資料の検討（目標3）
15．卒業研究のまとめ（目標1，2，3）

予習・復習の内容
（毎回180分程度）

予習

1．シラバスをよく読み，ポリシーとの関連，授業のキーワード，学生の到達目標，卒業研究の進め方，成績評価等について理解しておくこと
2．研究テーマ設定の背景についてまとめておくこと
3．研究目的の妥当性について検討しておくこと
4．研究方法の妥当性について検討しておくこと
5．研究資料の収集方法についてまとめておくこと
6．研究資料の分析方法についてまとめておくこと
7．研究資料の分析結果の妥当性について検討しておくこと
8．研究資料の分析結果の表示の仕方について検討しておくこと
9．研究資料の分析結果についてまとめておくこと
10．研究考察の仕方についてまとめておくこと
11・研究考察の妥当性について検討しておくこと
12．研究考察における今後の課題についてまとめておくこと
13．発表のプレゼンテーション方法について検討しておくこと
14．発表のプレゼンテーション資料についてまとめておくこと
15．卒業研究を振り返って取り組んだ内容についてまとめておくこと
上記予習内容については，質疑応答により改善点に関するアドバイスを行う。

復習

1．卒業研究を通じてどのようなことを追究したいかをまとめておくこと
2．テーマ設定の背景についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
3．研究目的の妥当性についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
4．研究方法の妥当性についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
5．研究資料の収集方法についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
6．研究資料の分析方法についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
7．研究資料の分析結果の妥当性についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
8．研究資料の分析結果の表示の仕方についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
9．研究資料の分析結果についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
10．研究考察についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
11・研究考察の妥当性についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
12．研究考察における今後の課題についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
13．発表のプレゼンテーション方法についてのアドバイスに基づき記述をまとめておくこと
14．発表のプレゼンテーション資料についてのアドバイスに基づき発表資料をまとめておくこと
15．卒業研究を通じて学んだことについてまとめておくこと

展開

助言を受けた内容を踏まえて，自分の研究テーマに関連する事項を図書館等で調べて、自分の研究に反映させること

成績評価	評価の基準	1．自分の研究テーマについて，主体的に目標を設定し，必要な研究資料を収集できること。 2．収集した研究資料を分析して，研究の成果を論文としてまとめることができること。 3．研究の成果を適切に発表することができること。
	評価の方法	提出論文により評価する。（100%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・授業における提出物については，評価・コメント等によりフィードバックする。 ・オフィスアワー及び連絡方法については，教員マイページを参照すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125003
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究、研究論文、研究計画
学生の到達目標	1．自らが設定したテーマに関する専門的な研究成果に、充足感を持つことができること。 2．専門分野において、より深く研究した経験を持つこと。
授業内容	ガイダンス：卒業研究とは　（目標1・2） 研究テーマの設定①　（目標1） 研究の目的と研究方法　（目標1）

研究テーマに関する先行研究調査①　（目標1）
研究テーマに関する先行研究調査②　（目標1）
研究計画①　（目標1）
研究計画②　（目標1）
卒業研究中間発表　（目標2）
データ収集①　（目標1）
データ収集②　（目標1）
研究結果と考察①（目標1・2）
研究結果と考察②（目標1・2）
研究のまとめ①（目標1・2）
研究のまとめ②（目標1・2）
総括並びに研究発表の準備（PPTの作成）　（目標1・2）

予習・復習の内容（毎回90分程度）

予習	研究テーマの設定に当たっては、自身が関心を持っている領域について、事前に予備的な調査・検討をした上で、指導教員と相談して決定すること。
復習	研究の進捗状況について指導教員に随時報告し、指導を受けること。
展開	研究の中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行うこと。

成績評価

評価の基準	目標に示された課題を適切に整理し、それらの提出を怠らることなくやり遂げたかどうかを評価基準とする。 1．自らが設定したテーマに関する専門的な研究成果に、充足感を持つことができたか。 2．専門分野において、より深く研究した経験が得られたか。
評価の方法	各課題の実施・提出（50%）＋研究論文の完成度（分析力含む）（50%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名	『教育社会学』
著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳
出版社	東洋館出版社
価格	6825円
ISBN・ISSN	ISBN：9784491027289

参考URL

備考

・自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。
・オフィス・アワー：金曜日1・2限
・メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125004
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	興味の深化、研究方法の習得、論理的考察
学生の到達目標	1.子どもの発達に関する興味を深められる。 2.疑問に対する探求方法を身につける。 3.論理的に情報を整理できる。
授業内容	第1回　子ども発達に関する様々な領域の問題点を示し、理解できるようにする。（目標１） 第2回　学生自身の問題意識と照らし合わせて、追究したい領域を決められるようにする。（目標１） 第3回　問題意識に合った領域の情報を集めて、広い視点から検討できるようにする。（目標１、２）

第4回　問題意識に合った領域で分かっていることを確認し、分からないこと、情報不足を確認する。（目標１、３）
第5回子どもの発達に関してどのような研究方法があるかを紹介する。（目標２）
第6回　研究するための方法を考え、その実施方法についてのプランを練る。（目標２、３）
第7回　研究を実施するにあたっての倫理的制約を理解し、研究実施に必要な演習を行う。（目標２、３）
第8回　実際に研究する時に生じる問題点を検討し、解決方法を見つける。（目標１、２）
第9回　収集した情報の整理の仕方や、それに関連する情報との比較・関連づけを行う。（目標１、２）
第10回　収集した情報に基づき、何が言えるかを明らかにし、結論の有用性や妥当性を検討する。。（目標１、３）
第11回　学生の推理や判断とは異なる意見や証拠を検討して、考えを深められるようにする。（目標１、３）
第12回　論文にする時の論旨の進め方を箇条書きし、自分の推理や判断のよりよい提示方法を検討する。（目標３）
第13回　参考文献も使いながら、論文を書けるところから書き、論述の進め方を検討する。（目標３）
第14回　研究結果を検討し、どのような考察が可能かを再検討し、全体的に論文をまとめる。（目標１、２、３）
第15回　論文の文章、文章の流れが最適かを検討し、細部の修正しながら、論文を完成させる。（目標１、３）

予習・復習の内容（毎回30分程度）

予習　興味のある領域に関する本を読み、自分なりの意見や疑問点が言えるようにする。
１－４回、自分の疑問に思うことに関連する本を読み、何を明らかにすべきか考え、ノートにまとめる。
５－７回　研究するために適切な方法を本を通じて探しておく。
８－11回 情報の整理の仕方について、先行文献を参考にして学んでおく。
12-15回　自分の情報の整理や推論を予め行い、問題点を見つけておく。

復習　ゼミで学んだことを考え直した上で整理し、自分自身の考えをまとめる。
１－４回、自分の疑問に思うことに照らし合わせて、授業を振り返り、さらに解明すべき点をまとめる。
５－７回　研究方法の利点や欠点を考慮して、具体的な研究方法を見つけだす。
８－11回　データの整理について、自分のデータに合ったやり方を検討する。
12-15回　授業を振り返りながら、情報の整理の仕方を再検討する。

展開　自分なりの考えや疑問点を明らかにして、さらに情報を集め、研究方法を検討して、実際の研究や考察が進むようにする。

成績評価

評価の基準　領域に関する知識や考えの深さ。
選んだ研究方法の適切さ。
情報の整理や論理的思考の統一性。

評価の方法　自分なりの意見の発表の積極性。４０％
研究現場での実際の進め方。３０％
思考の論理性。３０％

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考　学生の個性に合わせた指導を心掛けている。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125005
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 共生社会 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究　卒業論文	
学生の到達目標	1．関心のあることがらを文献検索する力が身に付く 2．説得力ある文章表現ができる 3．プレゼンテーション力が付く	
授業内容	4月：オリエンテーション　（目標1） 5月：研究テーマに関する先行研究調査（目標1） 6月：研究テーマに関する文献学的調査、作品分析（目標1）	

7月：研究テーマに関する資料作り（分析、アンケート調査、現場調査等）（目標1,2）
8月：研究テーマに関する資料作り（目標1,2）
9月：研究成果のまとめ（目標1,2）
　　10月の中間発表に向けた資料作り（目標1,2）
10月：卒業研究中間発表会（目標3）
11月：不明な点、疑問点を再度解決に向けて調査する。まとめの段階に入る（目標1,2）
12月：卒業論文としてまとめる（目標2）
1月：卒業研究のまとめ（目標1,2）
　　卒業研究提出（目標2）
　　卒業研究発表会に向けた資料作り（目標2）
2月：卒業研究発表会（目標2,3）

予習・復習の内容（毎回分程度）	予習	研究テーマに関する先行研究調査、文献調査、作品分析を積極的に試みる。
	復習	不明な点、疑問点を何度を文献等にあたって調べる。
	展開	解決できたことがらを基礎として、次の調査に向けて努力する。
成績評価	評価の基準	研究テーマに対する取り組み方や態度、研究における分析力・統合力、研究成果等を総合的に判断する。
	評価の方法	研究に対する取り組み方や態度（20%）、中間発表（20%）、 卒業論文（40%）、卒業研究発表（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	卒論指導日には出席し、研究方法、内容、進捗状況等を報告できるようにしましょう。提出日時を厳守し、中間発表と本発表も最良のプレゼンテーションができるように努力しましょう。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	田所　明房
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125008
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	卒業研究、卒業論文
学生の到達目標	１、自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 ２、研究の方法や探求の意義について理解を深める。
授業内容	各自の研究テーマに沿って、文献調査、調査の発表、研究計画の確認、実地調査、実地調査のまとめ、実地調査の発表、実践の研究、教材教具の制作、研究報告書作成、研究論文発表等に取り組む。（目標１,２）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	研究テーマの設定に当たっては、自身の関心を持っている領域について、事前に予備的な調査・検討をした上で、相談して決定すること。
	復習	研究の進捗状況について指導教官に毎回報告し、指導を受けること。
	展開	研究の中間発表及び完成時の提出・発表を指定された期日に行うこと。
成績評価	評価の基準	１、自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 ２、研究の方法や探求の意義について理解を深める。
	評価の方法	平常点及び提出論文により評価する(平常点30%、論文70%) 平常点には、発表・討論・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125009
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	文献研究，論文作成，口頭発表
学生の到達目標	1.研究に必要な文献を収集し，読解・分類・整理ができる。 2.研究結果を適切な言語で論文にまとめることができる。 3.研究成果を視聴覚機器の活用で効果的に口頭発表できる。

授業内容	まず，研究とはどのようなものかを知るために，身近なことをテーマとした論文を読み，その内容を観察するとともに論理構成や記述方法を学ぶ。次に，自分の関心分野の論文などを収集し，所定の形式でまとめ，適切な言葉でレポートをする。そのレポートを基に，ゼミ関係者との議論を行い，思考を深める。さらに，自分の研究テーマを絞り込み，その問題に取り組む手法を考えて，実際に調査・実験などを行う。その結果をまとめて，多角的な考察を加えた論文にする。その過程にあたる中間報告と論文提出後の最終報告において，パワーポイントを使用し，所定の時間内に必要な事項を，口頭で的確に伝えられるようにする。（目標１,２,３）	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回の各々で，研究に関連する文献を収集し，読解・分類・整理をする。
	復習	第1回～第15回の各々で，文献を基に議論などを通じて得た結果を，研究に応用する。
	展開	研究を論文としてまとめ，口頭で効果的な発表をする。
成績評価	評価の基準	卒業研究への取り組み，中間発表会，卒業研究論文，卒業研究発表会における内容を基準として，総合的に評価する。
	評価の方法	第1回～第15回の各々について，卒業研究への取り組み（20%），中間発表会（20%），卒業研究論文（40%），卒業研究発表会（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125010
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	課題設定，主体的学修態度，文章の整合性
学生の到達目標	1，課題に対する参考文献や調査方法等を見つけ出すことができる。 2，収集した情報から，論文の趣旨に合うような表現方法に直し，表現することができる。 3，論点をはずさず，全体と部分の関係を常に意識することができる。
授業内容	4月　論文の書き方について理解する。（目標1） 5月　テーマをもとに，参考文献，先行研究を読む。（目標1） 6月　章立てを行う。データ収集等の計画を立てる。（目標1）

	７，８，９月　調査研究，中間発表の準備をする。（目標１） １０，１１月　章立てをもとにまとめる。（目標２） １２月　書き上げた論文を，テーマに沿って見直し，修正する。（目標２，３） １月　論文全体を推敲し，完成させる。全体のリフレクションを行う。発表のためのプレゼンテーションを完成させる。（目標３）
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習　論文の書き方について，文献等で書き進め方を学ぶ。 データの収集と分析方法について学ぶ。 復習　常に全体と部分の関わりを意識して，論文を読み返す。 展開　課題を明確にしながら，書き進める。
成績評価	評価の基準　課題に対して，整合性のある文章が書けたか。 情報の収集と分析は，適切か。 何らかの課題を提示できる論文となっているか。 評価の方法　課題設定３０％，文章構成と内容４０％，３０ページ以上の文章量３０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	○各自の設定した課題について、歴史的な背景や現状についてできるだけ情報収集を行う。 ○章立てについて、早い時期から取り組むことが望ましい。 ○受講人数が多い場合には、同時期に指導は難しいので、時期をずらしての提出を求める。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125011
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 4 資質・能力
	カリキュラムポリシー	3 共生社会 7-1 保育の本質・目的
授業のキーワード	卒業研究、卒業論文	
学生の到達目標	1．自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果をもつことができること。 2．専門分野において、時に深く研究した経験をもつこと。	
授業内容	1．テーマに沿った文献収集①～③（目標１） 2．実地調査及び文献研究①～②（目標１） 3．実地での事例・アンケート調査①～②（目標１,２）	

	４．中間発表（目標２） ５．事例・アンケートのまとめ①～②（目標１,２） ６．論文執筆①～③（目標１,２） ７．本発表 （目標２） ８．総括（目標２）	
予習・復習の内容	予習	テーマについてあらかじめ資料を収集し、考えをまとめておく。
	復習	研究調査等の内容を整理し、振り返り、テーマについて研究をすすめ考えをまとめる。
	展開	研究調査等の内容を整理し、さらにテーマについて研究をすすめるなかで、研究における分析力・総合力が身につく。
成績評価	評価の基準	研究における分析力・総合力、研究の成果等を基準とする
	評価の方法	調査報告レポート（30%） 研究論文（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	オフィスアワー：月曜5限 連絡先：kazuyo@uekusa.ac.jp	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125012
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1.選択したテーマについて自ら研究を進めるとができる。 2.自ら探求し研究したことを文章で的確にまとめ、他者に明確に伝えることが出来る。 3.研究内容を踏まえ,将来の研究の継続や現場での活用などの見通しが持てる。	
授業内容	・4～8月　テーマに即した調査や実作の試行を積み重ねる （目標１） ・9～10月　中間発表会を行う （目標２,３）	

・10月～11月　調査、実作等の試行をまとめる（目標１）
・11月～12月　調査、実作等の試行を踏まえて考察する （目標１）
・12月～1月　論文を仕上げる （目標１，２）
・１月　論文を提出する （目標２）
・2月　卒業研究発表会を行う （目標２，３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 先行研究調査 文献調査 実地調査等 実作の試行
	復習	第1回～第15回 論文制作,推敲
	展開	現場等での研究の継続や活用の可能性を探る
成績評価	評価の基準	1.選択したテーマについて自ら研究を進めるとができたか。 2.自ら探求し研究したことを文章で的確にまとめ、他者に明確に伝えることが出来たか。 3.研究内容を踏まえ,将来の研究の継続や現場での活用などの見通しが持てる。独自の視点を持って各自の研究がなされたか。 を踏まえて 先行研究,文献研究,実作の試行、事前調査などの調査研究が入念になされたか。 論文に調査結果や研究による独自の見解が明確に書かれたか。 発表で他者に自分の考えが明瞭に伝えられたか。 について総合的に評価する
	評価の方法	論文提出、中間発表会、発表会を全て満たすことが基本となる。上記に関わる態度，分析力・統合力,考察及び研究成果を中間発表会,論文,発表会のそれぞれで確認し,総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・指導は随時個別指導を基本とする。 ・造形表現、美術に関すること、造形教育に関すること,図画工作科本研究室では、造形や図画工作科教育に関すること、児童文化（人形、絵本、民話、マンガ等)に関すること、様々な対象の色彩や形等を踏まえ美術的、造形的な観点から追求することを主たる研究対象とする。 ・連絡はゼミ生に伝えているメールで随時行う。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125013
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　5 キャリア形成 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究,卒業論文
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持ち、かつ研究成果を適切に発表できるようになること。
授業内容	ガイダンス：卒業研究の進め方について　(目標1) 関心のあるテーマに関する先行研究を行う（目標1） 研究テーマを設定する　(目標1)

	研究の目的と研究方法を設定する （目標1） 研究計画を立てる （目標1） 卒業研究に関する中間発表を行う。(目標1) 研究計画に基づき、データを収集する（目標1） 得られたデータからの結果検討、考察を行う（目標1，2） 卒業研究をまとめ、研究発表を行う（目標1，2）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習　研究テーマの設定に当たっては，自身の関心を持っている領域について，事前に予備的な調査・検討をした上で、指導教員と相談して決定すること。 復習　研究の進展状況について指導教員に毎週報告し，指導を受けること。 展開　研究の中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行うこと。
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み態度，研究における分析力・統合力，研究の成果等を含め評価を行う。 評価の方法　上記の態度，分析力・統合力及び成果を総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	＊（卒業要件）卒業研究の成果を提出し，審査に合格することが，卒業の必須要件となっている。 ＊研究は，指導教員によく相談して進めること。指導を受ける時間は，指導教員と相談の上で決めること。 ＊研究で使用する文献やデータの扱い方，著作権への配慮，対人調査における人権への配慮等について，指導教員の指導に従うこと。 ＊指定された提出日時までに提出すること。 オフィスアワー：金曜1限 e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125014
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 共生社会
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1.自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができる。 2.専門分野において深く研究した経験を持ち,今後の職業人としての視点の深さを得る。	

授業内容	テーマに沿った文献収集①（目標２） テーマに沿った文献文献収集②（目標２） テーマに沿った文献収集③（目標２） 文献研究①（目標２） 文献研究②（目標２） 文献研究③（目標２） 中間報告会資料制作（目標１，２） 実地での事例・アンケート調査①（目標２） 実地での事例・アンケート調査②（目標２） 事例・アンケートのまとめ①（目標２） 事例・アンケートのまとめ②（目標２） 論文執筆①（目標１，２） 論文執筆②（目標１，２） 論文執筆③（目標１，２） 最終報告会資料制作（目標１，２）
予習・復習の内容（毎回分程度）	予習　研究テーマの設定に当たっては,自身の関心を持っている領域について,事前に予備的な調査・検討した上で,担当者と相談して決定する。テーマについての内容を、文献やフィールドワークなどを通して調べる。 復習　研究の進展状況について担当者に毎週報告し,指導を受け、その時点での課題を理解する。 展開　研究の中間発表及び完成時の発表に向けて、論文をまとめ、指定された期日に報告する。
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み態度,研究における分析力･統合力,研究の成果等 評価の方法　上記の態度（４０％），分析力･統合力（４０％），研究の成果（２０％）
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	・卒業研究の成果を提出し,審査に合格することが,卒業の必須要件です。 ・研究で使用する文献やデータの扱い方,著作権への配慮,対人調査における人権への配慮等について,担当者の指導に従うこと。 ・指定された提出日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125015
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	保育　幼児教育　園児	
学生の到達目標	1　自己のテーマに真摯に向き合う、思考を深める。 2　自己のテーマの周辺領域を概観する。 3　保育者として研究を実践に活かす。	
授業内容	・先行研究調査１　（目標１,２） ・先行研究調査２　（目標１,２） ・先行研究調査３　（目標１,２）	

・先行研究調査４　（目標１,２）
・先行研究調査５　（目標１,２）
・章立て・論文デッサン１　（目標１,２）
・章立て・論文デッサン２　（目標１,２）
・中間発表　（目標１,２）
・各種調査実施１　（目標１,３）
・各種調査実施２　（目標１,３）
・各種調査実施３　（目標３）
・各種調査実施４　（目標３）
・各種調査実施５　（目標３）
・本発表　（目標１,２,３）
・総括　（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	自己テーマについて深く探求する。
	復習	ゼミで知り得た知識を咀嚼し、自己論文に活用できるか考える。
	展開	協働学修による意見交換も行う。
成績評価	評価の基準	期限内に提出すること
	評価の方法	担当教員の指導を自分なりに咀嚼し、考察を深められたかを評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・学修の「学びの記念碑」となるような学修面の総力をかけて取り組むこと。 ・授業担当者との助言を受けて、自ら積極的に先行研究等文献を行うこと。 ・中間発表までには論文全体の5割が終わり、実地調査などについて見通しがもてていること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125016
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	理科教育・生物教育・実験観察・生態調査
学生の到達目標	1.卒業研究を通じて各種の問題解決のための手法を身につける。 2.自主的に学習を継続することができる能力を身につける。 3.日本語による記述力・発表力・コミュニケーション能力を獲得する。
授業内容	1．研究テーマの確認（目標1） 2．研究テーマの検討（目標1･2） 3．文献調査①日本生物教育学会誌（目標1･2･3） 4．文献調査②日本理科教育学会誌（目標1･2･3）

5．文献調査③日本科学教育学会誌（目標1･2･3）
6．調査対象の検討及び調整（目標1･2･3）
7．データの収集方法の検討（目標1）
8．データの分析方法の検討（目標1）
9．予備調査（目標1･2）
10．調査方法等の再検討①（目標1･2）
11．調査方法等の再検討②（目標1･2）
12．本調査①（目標1･2･3）
13．本調査②（目標1･2･3）
14．本調査③（目標1･2･3）
15．本調査④（目標1･2･3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習

1．研究テーマについての整理をしておくこと
2．研究テーマについての整理をしておくこと
3．日本生物教育学会誌より関係する論文を探しておくこと
4．日本理科教育学会誌より関係する論文を探しておくこと
5．日本科学教育学会誌より関係する論文を探しておくこと
6．調査対象の検討をしておくこと
7．データの収集方法の検討をしておくこと
8．データの分析方法の検討をしておくこと
9．予備調査の準備をしておくこと
10．調査方法等の再検討しておくこと
11．本調査を進めておくこと
12．本調査を進めておくこと
13．本調査を進めておくこと
14．本調査を進めておくこと
15．本調査を進めておくこと

復習

1．修正された研究テーマについてまとめておくこと
2．修正された研究テーマについてまとめておくこと
3．日本生物教育学会誌より関係する論文を精読しておくこと
4．日本理科教育学会誌より関係する論文を精読しておくこと
5．日本科学教育学会誌より関係する論文を精読しておくこと
6．調査対象の調査日程等を調整しておくこと
7．データの収集方法を調整しておくこと
8．データの分析方法を修得しておくこと
9．予備調査の準備を進めておくこと
10．調査方法等を調整しておくこと
11．本調査を進めておくこと
12．本調査を進めておくこと
13．本調査を進めておくこと
14．本調査を進めておくこと
15．本調査を進めておくこと

展開

主体的に取り組み、資料を整理し、課題を追究していける研究に対する態度をもつ。

成績評価

評価の基準

1.卒業研究を通じて各種の問題解決のための手法を身につけること。
2.自主的に学習を継続することができる能力を身につけること。
3.日本語による記述力・発表力・コミュニケーション能力を獲得すること。

評価の方法

卒業論文の枚数と内容、およびポートフォリオで評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125017
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究、卒業論文、論理的思考
学生の到達目標	1．専門分野において、特に深く研究した経験を持つ。 2．研究における作法を実践的に身につける。 3．自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感を持つことができる。
授業内容	第1回 ガイダンス　論文等完成までの作業を概観する（目標2） 第2回 研究範囲・研究方法の確認と草立ての原案（目標1，2） 第3回 参考文献の探索状況の確認（目標1，2）

第4回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（1）（目標1，2）
第5回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（2）（目標1，2）
第6回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（3）（目標1，2）
第7回 中間発表会に向けたプレゼンテーションの準備（目標2，3）
第8回 進捗状況を踏まえての研究範囲・章立ての調整（目標1，2）
第9回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（4）（目標1，2）
第10回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（5）（目標1，2）
第11回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（6）（目標1，2）
第12回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（7）（目標1，2）
第13回 個々の学生の状況に合わせた課題の実施と進行状況の確認（8）（目標1，2）
第14回 研究成果の提出に向けての最終確認（目標2，3）
第15回 卒業研究発表会にむけたプレゼンテーションの準備（目標2，3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）

予習　毎時間の準備として、各自に指示された課題に取り組みむ。

復習　毎時間に指摘された問題点を整理し、改善のための方法を考え実行する。

展開　自ら設定した課題に意欲的に取り組む。
中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行う。

成績評価

評価の基準
1．自らの研究テーマを深めることができたか。
2．研究の作法を守り、論理的に考えることができたか。
3．自らの研究の成果に充足感を持つことができたか。

評価の方法　上記の態度、論理的思考力及び研究成果を総合的に判定する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

卒業研究の意義を深く理解し、学生生活の総まとめとして全力を尽くして取り組んでください。
オフィスアワー：前期・月曜2限、後期・月曜3限
メールアドレスk-takagi@uekusa.ac.jp

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	菊地　一文
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125018
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，実践研究
学生の到達目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について理解を深める。 2. 実践の実際,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 卒業研究として研究的にまとめを行う。
授業内容	研究テーマについて検討する。（目標1,2,3） 研究目的・研究方法,研究計画について検討し,具体化を図る。(目標1,2,3) 研究テーマ,表題,研究目的,研究方法について確認し,中間報告会で発表する。(目標1,2,3)

試行や体験を実施しその報告について意見交換する。(目標1,2)
テーマ設定上の課題,方法上の課題を確認する。(目標1,2,3)
先行研究について発表し関連する討議を行う。(目標1,2)
研究成果を検討し,残された課題についても確認しまとめを行う。(目標1,2,3)
研究結果,ならびに考察部分の検討を行う。(目標1,2,3)
卒業研究としてまとめ,発表会で発表する。(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	早めに自身の課題を確認し,テーマ等の設定を行う
	復習	試行や調査の結果を整理する。
	展開	先行研究の成果に位置づけを試みる。
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	毎回の発表討議 ５０％　卒業研究論文　５０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	就職活動や採用試験のスケジュールも自己管理し,調整して卒業研究を進めるようにすること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125019
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	研究、論文執筆
学生の到達目標	1. 課題設定 2. 先行研究 3. 調査・分析 4. 考察 5. 論文にまとめる
授業内容	課題設定を先行研究しながら焦点化していく（目標1、2）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	研究テーマが焦点化できるよう先行研究する。
	復習	議論した内容を再考し、先行研究の内容に反映させる。
	展開	研究テーマと目的を明確にする。常に考察する。
成績評価	評価の基準	参加内容で判断する。
	評価の方法	参加内容100%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125020
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	哲学，倫理学，情報科学
学生の到達目標	1.自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができる。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持つ。

授業内容	1．卒業研究の意義の理解（目標１） 2．テーマ設定の確認と先行研究の整理（目標２） 3．先行研究の整理（目標２） 4．ディスカッションと論理的な議論の構成（目標１・２） 5．卒業論文のまとめ（目標１・２）
予習・復習の内容	予習　提出レポートを見直し，ディスカッションのポイントとなりそうな箇所について，キーワードと予想される反論をまとめておくこと。 復習　前回までの研究の進展を確認し，毎回３つ程度のポイントにまとめて書いておくこと。 展開　関連のある先行研究の内容だけでなく，その先行研究の発展的研究（その後の展開など）についても積極的に調査をすすめておくこと。
成績評価	評価の基準　卒業研究の成果を提出（発表）し，審査に合格すること 評価の方法　卒業研究におけるディスカッション（２０％），提出レポート（２０％），卒業論文（６０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	参考図書，参考文献，関連資料等は，自発的に探すとともに，指導教員の指導を受けること。 卒業論文は指定された提出日時までに提出すること。 質問等は、オフィスアワーに研究室で受け付けます。オフィスアワーに来訪できない場合は、個別に電子メールで相談してください。電子メールアドレスは個別にお知らせします。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125021
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　1 徳育・教養 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	運動制御、実験、データ分析、論文執筆
学生の到達目標	1.ヒトの運動制御に関する文献研究を行い、研究仮説をたてることができるようになる。 2.研究仮説を検証する実験を考え、実践し、得られたデータを解析・分析することができるようになる。 3.実験の結果を元に客観的に考察し、論文としてまとめることができ、それを発表することができるようになる。

授業内容	最初に文献研究を多数行い、研究仮説をたて、その仮説を証明する実験計画を作成する。必要に応じて、実験機材を作成する。その後、予備実験（調査）を数回行い、研究の妥当性を検討し、最終的な実験（調査）プロトコールを完成させ、本実験（調査）に入る。統計結果の得られる十分な数の本実験（調査）を実施する。実験の遂行と同時にデータ解析および統計解析を行う。全てのデータが得られた後、データの検証を行い、データに関する客観的な考察を含めた研究論文を執筆する。論文執筆後には、論旨を効果的に伝えることのできるプレゼンテーションの準備を行い、卒業研究発表会に備える（目標1,2,3）。	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	主体的に文献研究を行い、情報収集を行う。実験の際には準備を行う。また、適宜データ分析および解析を行う。
	復習	実験で得られたデータについて解析および分析を行うとともに論文を執筆する。
	展開	課題設定から、実験、論文執筆を行い、最終的にプレゼンテーションへと展開する。
成績評価	評価の基準	1.ヒトの運動制御に関する文献研究を行い、研究仮説をたてることができる。 2.研究仮説を検証する実験を考え、実践し、得られたデータを解析・分析することができる。 3.実験の結果を元に客観的に考察し、論文としてまとめることができ、それを発表することができる。
	評価の方法	論文の完成度70%、卒業研究への取り組み10%、発表20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	連絡方法：教員からの連絡は、基本的にはUnavi.の教員マイページ＞遠藤隆志＞掲示板で行う。教員への連絡は授業で通知するEメールアドレスを利用して行うか、オフィスアワーに研究室に訪問すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125022
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 共生社会 カリキュラムポリシー　3 共生社会 8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文，探究心
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができる。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持つ。
授業内容	１．ガイダンス（目標１・２） ２．興味あるテーマに関する先行研究調査①（目標１・２） ３．興味あるテーマに関する先行研究調査②（目標１・２）

４．研究テーマの設定（目標１・２）
５．研究目的と方法の設定（目標１・２）
６．研究計画の立案（目標１・２）
７．研究計画に関する意見交換（目標１・２）
８．卒業研究中間発表（目標１・２）
９．データ収集①（目標１・２）
１０．データ収集②（目標１・２）
１１．データ収集③（目標１・２）
１２．調査結果からの検討・考察①（目標１・２）
１３．調査結果からの検討・考察②（目標１・２）
１４．研究のまとめ（目標１・２）
１５．卒業研究発表会（目標１・２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回 研究テーマの設定に当たっては，自身の関心を持っている領域について，事前に予備的な調査・検討をした上で、教員と相談して決定すること。
	復習	第1回～第15回 研究の進展状況について教員に逐次報告し，指導を受けること。
	展開	研究の中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行うこと。
成績評価	評価の基準	1. 自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができる。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持つ。 ＊研究テーマへの取り組み態度，研究における分析力・統合力，研究の成果等
	評価の方法	上記の態度，分析力・統合力及び成果を総合的に判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	＊卒業研究の成果を提出し，審査に合格することが，卒業の必須要件です。 ＊研究は，教員によく相談して進めること。指導を受ける時間は，教員と相談の上で決めること。 ＊研究で使用する文献やデータの扱い方，著作権への配慮，対人調査における人権への配慮等について，指導教員の指導に従うこと。 ＊指定された提出日時までに提出すること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125023
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	4 資質・能力 5 キャリア形成
	カリキュラムポリシー	8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	１．関心の高いテーマを選び，先行文献等を活用し，研究をする力をつける。 ２．統一性のある論文を書く力をつける。 ３．研究したことを社会や自分に活かそうする意欲をもつようになる。	
授業内容	第１回～第１３回　研究テーマに基づく基礎研究（目標１） 第１４回～第１６回　中間発表に向けて（目標２，３） 第１７回～第２７回　卒業論文作成、修正（目標１，２）	

第２８回　卒業論文まとめ（目標２，３）
第２９回～第３０回　卒業研究発表会に向けて（目標３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1~30回 研究に関する書籍や研究論文を読み，情報収集をする。 教育現場における道徳，特別活動の研究について視野を広げる。 （観察，分析）
	復習	第1~30回 研究に関わる言葉の吟味をする。 討論し合ったことをもとに，レポートやプレゼンテーションを練り直す。
	展開	研究テーマや仮説について吟味する。 互いの研究について討論し合い，自分では気付かなかった見方や観点を取り入れて，研究を深める。 効果的なプレゼンテーションについてディスカッションし，聴き手に伝わるプレゼンテーションについて考え，取り入れる。
成績評価	評価の基準	自ら関心の高いテーマを選び，先行文献等を活用し，研究ができたか。 統一性のある論文を書く力がついたか。 研究したことをこれからの社会や自分に活かそうする意欲がもてたか。
	評価の方法	研究報告書（60%）発表原稿・プレゼンテーション（40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	オフィス・アワーは，村上の教員マイページで確認をすること。	

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A1125024
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 資質・能力 カリキュラムポリシー　8 専門ゼミナール　卒業研究
授業のキーワード	卒業研究、中間発表会、卒業研究発表会、卒業論文
学生の到達目標	１．自らの専攻分野に関する関心の高いテーマについて計画的に研究し、卒業論文にまとめる。 ２．中間発表会や卒業研究発表会を通じて、研究成果を他者にわかりやすく発表する。 ３．研究倫理を遵守し、意欲的に研究に取り組む。
授業内容	研究は計画的に進め、進捗状況について毎週指導教員へ報告し、指導を受けること。 研究の進め方 １．自分の関心のあるテーマについて、事前に先行研究を十分に調査する。（目標１）

2．研究テーマを設定する。（目標１）
3．調査協力者、調査方法、分析方法などを考え、研究計画を立てる。（目標１）
4．研究計画に基づき、研究倫理を遵守し、調査する。（目標１、３）
5．得られたデータの分析を行い、結果を考察する。（目標１）
6．卒業論文を執筆し、研究発表を行う。。（目標１、２、３）
なお、研究発表は中間発表と完成時の発表の計2回実施する

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	自分の関心の高いテーマについて、事前に予備的な調査・検討をしたうえで、指導教員と相談して決定すること。 指導教員から指導を受けるときは、毎回事前に資料等をしっかりと用意して臨むこと。.
復習	指導教員から指導を受けた内容は、毎回研究ノート等に整理し、自らの研究に着実に反映させていくこと。
展開	研究の中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行うこと。

成績評価

評価の基準	１．自らの専攻分野に関する関心の高いテーマについて研究し、卒業論文にまとめたか。 ２．中間発表会や卒業研究発表会を通じて、研究成果を他者にわかりやすく発表したか。 ３．研究倫理を遵守し、意欲的に研究に取り組めたか。
評価の方法	上記１～３の態度、分析力・統合力及び成果を総合的に評価する。

教科書

推薦図書等

書籍名	よくわかる卒論の書き方
著者名	白井利明・高橋一郎
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,500＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-06572-1

書籍名	伝わるデザインの基本
著者名	高橋佑磨・片山なつ
出版社	技術評論社
価格	2,180＋税
ISBN・ISSN	978-4-7741-6613-1

参考URL

備考

（卒業要件）卒業研究の成果を提出し、審査に合格することが卒業の必須要件となる。
○研究は、指導教員によく相談して進めること。指導を受ける時間は、指導教員と相談の上で決めること。
○研究で使用する文献やデータの扱い、研究協力者に関する個人情報の守秘義務等、研究倫理に関する事項は、指導教員の指導に従うこと。
○提出物は、指定された期日を厳守すること。
○オフィスアワーは火曜日2限。
連絡先：n-jitsukawa@uekusa.ac.jp

解剖学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学
科目責任者	山本　雅哉
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2001001　火4，5
教室	PC室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	解剖学、組織学
学生の到達目標	1．人体の構造を表面、内部ともに主要構造の部位名称を把握し、それぞれを説明できる。 2．人体の構造・機能について、系統的に理解し、適切な用語を用いて説明できる。 3．人体の構造・機能について、神経と筋・骨格系の関連を理解し、適切な用語を用いて動作機作を説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 総論：解剖学という生命現象の理解の方法について（方針と学習方法について） 解剖学を学ぶための基礎知識（目標１・２・３：人体の階層性、構成器官，細胞の構造など）
	第2回	骨格：総論（目標１・２・３：骨の特性など、構造・機能的重要性を学ぶ） 各論（目標１・２・３：人体に分布する骨の名称と運動との関連）
	第3回	関節と靭帯：総論（目標１・２・３：関節の構造，靭帯の特性と機能について構造・機能的重要性を学ぶ）
	第4回	筋系１：総論（目標１・２・３：筋の種類、機能、特性について構造・機能的重要性を学ぶ） 各論１（目標１・２・３：体幹に分布する筋について）
	第5回	筋系２：各論２（目標１・２・３：上肢に分布する筋について）
	第6回	筋系３：各論３（目標１・２・３：下肢に分布する筋について）
	第7回	神経１：総論（目標１・２・３：神経系の区分・構成，脳室系，神経発生の構造・機能的重要性を学ぶ）
	第8回	神経２：各論１（目標１・２・３：中枢神経系について）
	第9回	神経３：各論２（目標１・２・３：末梢神経系について）
	第10回	循環器系（目標１・２・３：体内の物流システムの重要性と構造的特性を学ぶ）
	第11回	消化器系（目標１・２・３：食物摂取から排出まで、その構造・機能的重要性を学ぶ）
	第12回	呼吸器系（目標１・２・３：ガス交換する構造上・機能的重要性を学ぶ）
	第13回	泌尿器系・生殖器系（目標１・２・３：体液の恒常性維持機構、生殖に関わる構造・機能的重要性を学ぶ）
	第14回	内分泌系（目標１・２・３：・ホルモンを中心とした恒常性維持システムの構造・機能的重要性を学ぶ）
	第15回	感覚器系，人体の発生（目標１・２・３：外的環境を察知する特殊感覚、また、発生過程における構造・機能的重要性を学ぶ）
予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第１回～第１５回：教科書の対応領域で使用される専門用語の意味を調べておく。特に太字で示される用語については、図示される構造と必ず対応させ、教科書に記載されている範囲でかまわないので、重要性と機能を確かめておくこと。
	復習	第１回～第１５回：講義で説明した専門用語、主要項目についてノートを整理し、内容を理解しておくこと。 各回とも、次回の授業前に復習を兼ねた小テストを行う。
	展開	本科目で学ぶことは生命現象の一部に過ぎず、他科目との関連を考察することは大切である。成書、また、教官を通じて学んだことを深化・実践を試みる。
成績評価	評価の基準	1. 人体の構造、例えば体腔の部位を適切な解剖学的用語を用いて説明できること。 2. 人体の構造・機能、例えば消化器官がいかに連続し、腹腔に収められ、機能を発揮してているか説明できること。 3. 神経と筋・骨格系の関連を理解し、適切な用語を用いて動作機作を説明できること。
	評価の方法	筆記試験(70%)、小テスト(30%)を目安に勘案し、授業態度を含めて総合的に判定する。

教科書	書籍名	解剖学：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　第４版
	著者名	野村　嵯（編集）
	出版社	医学書院
	価格	6480円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02008-4

推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ　解剖学ノート　第２版
	著者名	中島　雅美
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	4104円
	ISBN・ISSN	978-4-263-211700-0

参考URL

備考

解剖学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM202
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学実習
科目責任者	山本　雅哉
担当教員	千葉　諭
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2002001　月4，5
教室	基礎医学実習室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	解剖学実習、空間的理解、生活動作への反映
学生の到達目標	1．標本・模型を用いた学習を通じ、人体の構造を３次元的に把握して説明できる。 2．標本・模型を用いた学習を通じ、人体の構造・機能について、表皮下の構造を想起・適切な用語で説明できる。 3．生活中の動作の説明、また、恒常性維持の仕組みを解剖学的用語を用いて説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 実習入門（実習を通じた学習目標と心構え）（目標１・２・３） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第2回	骨・関節・靭帯について１（目標１：各部それぞれの名称を整理する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第3回	骨・関節・靭帯について２（目標１・２・３：適切な名称・関連を把握する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第4回	骨・関節・靭帯について３（目標１・２・３：第３回を踏まえ、機作・機能を説明できる） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第5回	上肢に分布する骨・筋・神経について１（目標１：各部それぞれの名称を整理する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第6回	上肢に分布する骨・筋・神経について２（目標１・２・３：適切な名称・関連を把握する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第7回	上肢に分布する骨・筋・神経について３（目標１・２・３：第３回を踏まえ、機作・機能を説明できる） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第8回	上肢に分布する骨・筋・神経について４（目標１・２・３：第４回を踏まえ、担当部位以外の上肢の筋の機作・機能を説明できる） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第9回	下肢に分布する骨・筋・神経について１（目標１：各部それぞれの名称を整理する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第10回	下肢に分布する骨・筋・神経について２（目標１・２・３：適切な名称・関連を把握する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第11回	下肢に分布する骨・筋・神経について３（目標１・２・３：第３回を踏まえ、機作・機能を説明できる） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第12回	下肢に分布する骨・筋・神経について４（目標１・２・３：第４回を踏まえ、担当部位以外の上肢の筋の機作・機能を説明できる） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第13回	運動器全般についてのまとめと総括 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第14回	神経系（目標１・２・３：機能分類と特殊感覚それぞれの名称と関連について理解する） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭
	第15回	循環器・腹腔臓器（目標１・２・３：循環器・腹腔臓器について理解を深める） 担当教員：山本雅哉・千葉　諭

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	第１回～第１３回：予め資料を配布するので、実習内容を理解しておくこと。第１回～第４回は骨・関節・靭帯、第５回～第８回は上肢の骨・筋・神経、第９回～第１２回は下肢の骨・筋・神経を中心に模型作成を行い、それぞれ最終回に発表会を行う。担当した筋で理解すべきことを整理し、班ごとに理解を共有する。最後の発表会で、理解したことが相手に伝わるように説明を工夫し、準備する。 第１４・１５回：内蔵臓器主体に演習する。該当分野で学んだことの重要性を、それぞれの臓器について説明できるように準備する。
	復習	第１回～第１３回：それぞれの回の担当部位の小テストを行う。前期とも対応するので、対応箇所の教科書、ノートによる確認を徹底し、できなかったところを放置しない。

		また、分かりやすい説明ができるように、似たような部位を担当する班内での情報の共有、発表会での相互評価を通じたスキルアップを図る。
	展開	他科目と関連・統合的に理解し、日頃のさりげない挙措・動作が綿密に組み立てられたシステムによることを想起する。また、自らがそうした機能が損なわれ、疾病・障害となった経験があると思う。今一度、その原因を考察し、自らが療法士としていかに対処できるのか、学んだことを深化・実践を試みる。
成績評価	評価の基準	1. 人体構造の３次元的把握、例えば、重層する筋群の位置関係を説明できる。 2. 表皮下の構造を触知できるランドマークなどを介し、適切に同定・説明できる。 3. 学んでいることがどのように生活動作、恒常性維持に関わっているか説明できる。
	評価の方法	筆記試験(50%)、小テスト(30%)、発表を含めた授業態度(20%)を目安に総合的に勘案し判定する。
教科書	書籍名	新しい人体解剖学アトラス
	著者名	佐藤　達夫（訳）
	出版社	メディカルサイエンスインターナショナル
	価格	7000円
	ISBN・ISSN	978-4-89592-595-2
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ　解剖学ノート　第２版
	著者名	中島　雅美
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	4104円
	ISBN・ISSN	978-4-263-211700-0
参考URL		
備考		

生理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM203
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学
科目責任者	桑名　俊一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2003001　月3，4
教室	講義室21, 22
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	生体機能，恒常性，調節機構
学生の到達目標	1. 生体の恒常性維持の調節機構について説明できる。 2. 各器官の働きを説明できる。 3. 各器官機能の調節機構ついて説明できる。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 「生理学の概要」-細胞と内部環境,生体の恒常性-(目標1) 「細胞膜の生理」-受動輸送,能動輸送，チャネル，ポンプ- 第2回　「血液 Ⅰ」 -血液の役割,血液の組成,赤血球の生成と崩壊-(目標2) 「血液 Ⅱ」 -白血球,血液凝固,血液型-(目標2)

第3回	「生体防御」 -免疫機能,リンパ球,抗原抗体反応-(目標2)
第4回	「骨格筋」 -筋収縮の機序,筋収縮のエネルギー-(目標2)
第5回	「心臓 Ⅰ」 -心臓の機能,特殊心筋,心臓の電気現象,心電図-(目標2,3) 「心臓 Ⅱ」 -心臓のポンプ作用,心音-(目標2)
第6回	「循環 Ⅰ」 -動脈系,毛細血管,物質交換,浮腫-(目標2) 「循環 Ⅱ」 -静脈系,特殊循環系-(目標2)
第7回	「循環 Ⅲ」 -心臓・血管の調節機構-(目標3) 「自律神経」 -交感神経,副交感神経,自律反射中枢-(目標1,2)
第8回	「まとめ」 「呼吸 Ⅰ」 -呼吸器の機能的構造,呼吸運動,換気量,肺気量とその区分-(目標2)
第9回	「呼吸 Ⅱ」 -ガス交換,血液によるガスの運搬,換気量の調節機構-(目標2,3) 「消化・吸収 Ⅰ」 -消化・吸収の概要,口腔での消化,胃・小腸での消化-(目標2)
第10回	「消化・吸収 Ⅱ」 -消化の調節,栄養素の吸収,大腸,排便反射-(目標2,3)
第11回	「腎機能」 -機能的構築,糸球体濾過,再吸収と分泌-(目標2) 「体液 Ⅰ」 -浸透圧の調節,血漿量,血漿 Na量の調節-(目標1,3)
第12回	「体液 Ⅱ」 -体液 H+濃度の調節, pH,アシドーシスとアルカローシス (目標1,3)
第13回	「内分泌 Ⅰ」 -内分泌器官,ホルモンの一般的性質,視床下部,下垂体-(目標1,2)
第14回	「内分泌 Ⅱ」 -甲状腺,副甲状腺,副腎,性ホルモン-(目標1,2)
第15回	「代謝」 -エネルギー代謝,基礎代謝-(目標1,2) 「体温の恒常性」 -産熱と放熱,体温の調節,発熱,発汗-(目標1,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回～第15回：各回とも授業内容に記載している専門用語・キーワードの意味を調べておく。教科書を用い授業内容に記載している範囲を読み理解しておく。
	復習	第1回～第15回：教科書を用い授業ノートを整理し、内容を理解しておくこと。各回とも次回の授業前に復習テストを行う。
	展開	ヒトの体の働きに興味・疑問を持ち、それを解明する力を身に付ける。

成績評価	評価の基準	1. 生体の恒常性維持の調節機構、例えば血圧・呼吸・体液の調節機構について説明できること。 2. 血液、心臓・循環、呼吸器、消化管、腎臓、内分泌器官の働きを説明できること。 3. 血液、心臓・循環、呼吸器、消化管、腎臓、内分泌器官の働きがどのように調節されているかを説明できること。 到達度を測る指標として国家試験レベルの問題で 60%以上の正答率を取ることを基準とする。
	評価の方法	２回の筆記試験を 80%，復習テスト（毎回授業開始時５分程度）を 20%とし，総合評価する。

教科書

書籍名	コメディカル専門基礎科目シリーズ　生理学
著者名	桑名俊一・荒田晶子
出版社	理工図書

	価格	5,000円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784844608486

推薦図書等	書籍名	シンプル生理学　改訂第６版
	著者名	貴邑冨久子、根来英雄
	出版社	南江堂
	価格	3,000円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784524247332

参考URL	
備考	オフィスアワー：木曜日3、4限目

生理学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM204
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学実習
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 千葉　諭
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2004001　木4，5
教室	基礎医学実習室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	生体機能の計測，生体電気現象の記録，生理学実験法，生命現象の観察
学生の到達目標	1. 生体機能を計測しその意義を説明できる。 2. 生体の電気現象や恒常性の維持について説明できる。 3. 科学的なレポートを作成し,その内容を発表することができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 「実習ガイダンス」-生理学実験法,レポートの作成要領 実習機器の作動原理と使用法- (目標1,3) 「血圧」-血圧測定の原理,コロトコフ音-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第2回	「神経の興奮伝導」-カエルの坐骨神経標本,電気刺激,活動電位,伝導速度,不応期,強さ・時間曲線-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第3回	「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3) 「最大酸素摂取量」-運動強度, 心拍数（目標1,2,3） 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第4回	「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3) 「最大酸素摂取量」-運動強度, 心拍数（目標1,2,3） 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第5回	「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3) 「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第6回	「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3) 「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第7回	「まとめ」(目標3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第8回	「実習結果発表と討論」(目標3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第9回	「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3) 「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第10回	「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3) 「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第11回	「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 -(目標1,2,3) 「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第12回	「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 (目標1,2,3) 「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第13回	「まとめ」(目標3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第14回	「実習結果発表と討論」(目標3) 担当教員: 桑名　俊一・千葉　諭
	第15回	「DNAの抽出と観察」-生命体の連続性,細胞,分画-(目標1,3) 担当教員: 小池　和子・千葉　諭

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第6回：あらかじめ実習書を配布するので、実習内容を理解しておくこと。課題に関して小テストを実習開始前に行う。 第7、8回：第1回～第6回に行った実習項目を整理し、パワーポイントによる発表の準備をする。 第9回～第12回、第15回：あらかじめ実習書を配布するので、実習内容を理解しておくこと。課題に関して小テストを実習開始前に行う。 第13、14回：第9回～第12回に行った実習項目を整理し、パワーポイントによる発表の準備をする。
	復習	第1回～第6回：実習結果に関して、教科書等を用いレポートを作成し期限までに提出すること。 第7、8回：第1回～第6回の実習内容を整理し、理解しておく。 第9回～第12回、第15回：実習結果に関して、教科書等を用いレポートを作成し期限までに提出すること。 13、14回：第9回～第12回の実習内容を整理し、理解しておく。
	展開	生理学の知識が実験の上に成り立っていることを理解し、生理現象に対して常に疑問をもち、疑問点を解明する姿勢を身に着ける。
成績評価	評価の基準	1. 血圧、心電図、呼吸機能等の生体機能を計測しその意義を説明できる。 2. 活動電位や心電図・筋電図等の生体の電気現象や体液量調節等の恒常性の維持について説明できる。 3. 科学的なレポートを作成し,その内容を発表することができる。 出席時間４／５以上が単位認定の条件であり，実習内容が理解できていること。
	評価の方法	レポート 10%，発表10%，事前テスト 80%で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生理学講義の単位を取得後の履修が望ましい。 生理学講義の教科書， USBメモリ等の記録媒体を持ってくること。 オフィスアワー：木曜日1,2限	

人体機能構造学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM205
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人体機能構造学演習
科目責任者	角　友起
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2075001　木1
教室	講義室14
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	動物機能、神経、感覚、運動、高次脳機能
学生の到達目標	1.　神経系の構造の概要、神経の基本的な機能と特性について説明できる。 2.　各感覚器が感覚情報を受容する仕組み、感覚情報の伝導路を説明できる。 3.　運動を司る神経系の特性、運動を制御する仕組みを説明できる。高次脳機能の基本的な性質を説明できる。
授業内容	第1回　人体機能構造学総論　：　人間の行動と動物機能，脳神経系・感覚系・運動系の概要 神経の機能（1）　：　脳と脊髄の概観、ニューロンの構造、静止膜電位、イオンチャネル（目標1）

第2回	神経の機能（２）　：　活動電位、不応期、全か無かの法則、興奮伝導、神経伝導速度と神経線維の分類（目標1）
第3回	神経の機能（３）　：　シナプス、神経伝達物質、受容体、シナプス後電位、興奮と抑制、軸索輸送、シナプス・神経回路の様式、シナプス効果の加重（目標1）
第4回	視覚（１）　：　眼球の構造、網膜の細胞、錐体と杆体、視力と遠近調節（目標2）
第5回	視覚（２）　：　光受容の仕組み、視覚情報の伝達と中枢伝導路、脳における視覚情報処理（目標2）
第6回	聴覚と平衡感覚（１）　：　外耳・中耳・内耳、蝸牛、コルチ器、音情報の受容機構（目標2）
第7回	聴覚と平衡感覚（２）　：　聴覚情報の中枢伝導路、脳における聴覚情報処理、前庭迷路における平衡感覚受容、迷路反射（目標2）
第8回	味覚と嗅覚　：　味蕾、味覚神経、味覚情報の中枢伝導路、嗅覚器の構造、嗅覚受容の仕組み（目標2）
第9回	体性感覚　：　皮膚感覚受容器、感覚点と2点弁別閾、デルマトーム、体性感覚伝導路、大脳での体部位再現、筋紡錘と固有感覚（目標2）
第10回	運動機能（１）　：　運動単位、脊髄反射、歩行運動（目標3）
第11回	運動機能（２）　：　大脳による運動制御、下行性伝導路、大脳基底核による運動制御（目標3）
第12回	運動機能（３）　：　小脳による運動制御、姿勢調節（目標3）
第13回	高次脳機能（１）　：　脳波、睡眠と覚醒（目標3）
第14回	高次脳機能（２）　：　大脳皮質連合野の機能、ブロードマンの地図（目標3）
第15回	高次脳機能（３）　：　言語と記憶（目標3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	授業計画に書かれている単元、キーワードについて成書で調べる。
	復習	授業で配布したプリントおよび板書の内容について確認、復習、暗記する。
	展開	参考図書で発展的学習を行う。

成績評価	評価の基準	上記の達成目標に掲げた知識をおおむね習得していること。
	評価の方法	毎回の少テスト（２０％）、授業内で行う中間テスト（４０％）、期末試験（４０％）により評価する。

教科書	書籍名	コメディカル専門基礎科目シリーズ　生理学
	著者名	桑名俊一　荒田晶子　編著
	出版社	理工図書出版
	価格	5400円
	ISBN・ISSN	978-4-8446-0848-6

推薦図書等	書籍名	カラー版　神経科学－脳の探求－
	著者名	ベアー、コノーズ、パラディーゾ
	出版社	西村書店

価格	7600
ISBN・ISSN	978-4-89013-356-7

書籍名	人体機能生理学
著者名	杉晴夫　編著
出版社	南江堂
価格	10000
ISBN・ISSN	978-4-524-25364-7

参考URL	
備考	教科書を指定せず、毎回プリントを配布し、板書をプリントに書きこむ授業形式をとる。 本科目は生理学と解剖学を横断する内容のため、両科目の教科書を用いて自己学習を行うと良い。参考図書は授業の内容を概ねカバーしているため、発展的な学習には参考図書を用いるとよい。

運動学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM206
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学Ⅰ
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2005101　月1
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	運動学，運動力学，運動器の構造と機能
学生の到達目標	1．身体運動に関する基礎的な知識を説明できる。 2．運動学に必要な力学について説明できる。 3．上肢帯と上肢および脊柱・体幹の運動器の構造と機能および運動、その運動に関わる筋について説明できる。
授業内容	第1回　運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称(目標1)

第2回	運動学に必要な力学の基礎(1):変位,速度・加速度,ベクトル,運動の法則・他(目標２)
第3回	運動学に必要な力学の基礎(2):仕事,仕事率,力のモーメント,てこ・他(目標２)
第4回	運動学に必要な骨格筋の基礎:筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長・他(目標３)
第5回	上肢帯と上肢の構造(目標３)
第6回	上肢帯,肩関節とその運動(1):上肢帯を構成する「関節」,肩甲骨の位置と運動範囲・他(目標３)
第7回	上肢帯,肩関節とその運動(2):上肢帯と肩関節の運動と筋(目標３)
第8回	肘関節とその運動:肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋(目標３)
第9回	手の関節とその運動(1):手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋(目標３)
第10回	手の関節とその運動(2):手の各関節の構造,各関節の運動と筋(目標３)
第11回	腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作(目標３)
第12回	顔面および頭部の筋とその運動，脊柱総論（各部椎骨の特徴，脊椎の連結）(目標３)
第13回	体幹とその運動(1)：腰椎の運動と筋（目標３）
第14回	体幹とその運動(2)：胸椎と胸郭の運動と筋（目標３）
第15回	体幹とその運動(3)：頸椎の運動と筋（目標３）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。 また、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 第1回　運動の面と軸、運動方向の名称、方向と位置を表す用語、変位・速度・加速度、角速度・角加速度 第2回　力の単位（Ｎ：ニュートン）、スカラーとベクトル、力の合成と分解、運動の3法則（慣性、運動、作用反作用）、重心 第3回　力のモーメント、てこの種類、滑車、輪軸 第4回　筋収縮の様態（求心性、遠心性、静止性）、リバースアクション、動筋と拮抗筋、固定筋と安定筋、2関節筋、長さ張力曲線 第5回　関節の構造、関節の分類（球関節、臼状関節、楕円関節、顆状関節、蝶番関節、ラセン関節、鞍関節、車軸関節、平面関節、半関節）、凹凸の法則 第6回　肩関節複合体、肩甲胸郭関節、胸鎖関節、肩鎖関節、上肢帯の動きと筋の関係（表4-2） 第7回　上腕骨頭の頸体角と後捻角、肩甲上腕関節、回旋筋筋板、烏口肩峰アーチ、肩峰下関節、肩インピンジメント、肩関節の動きの分析（表4-4） 第8回　肘関節（腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節）、肘角、ヒューター線、下橈尺関節、肘関節と前腕の動きと筋の関係（表4-6） 第9回　手根骨と手根管、橈骨手根関節、手根中央関節、手根間関節、豆状骨関節、手関節の動きと筋の関係（表4-9） 第10回　手根中手関節、中手間関節、中手指節関節、指節間関節（近位、遠位）、母指のＣＭ関節の運動、手の動きと筋の関係（表4-9） 第11回　腱鞘、指背腱膜、手のアーチ、腱固定効果（テノデーシス作用）、把持動作パターン、手内在筋（優位、劣位） 第12回　顎関節、咀嚼筋、表情筋、脊椎の連結、脊柱運動を制限する靱帯、椎間板の機能、椎間関節の関節面 第13回　腰椎の構造、仙腸関節、腰椎の椎間関節、腰椎骨盤リズム、腰部の動きと筋の関係（表4-25）

第14回　胸椎の構造、胸肋関節、肋椎関節、呼吸運動においける胸郭の動き、呼吸筋、呼吸運動と筋の関係（表4-23）
第15回　頸椎の構造、環椎後頭関節、環軸関節（正中・外側）、ルシュカ関節、頭部と頸部の動きと筋の関係（表4-21）

復習　改めて教科書を読んで、配布プリントに補足事項を書き込むことにより、授業内容を十分に理解し記憶すること。重要用語、項目は予習項目に記載したものである。特に、動きと筋の関係については確実に覚えること。。
第1回　運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称について整理する。
第2回　力の単位（N：ニュートン）、スカラーとベクトル、力の合成と分解、運動の3法則（慣性、運動、作用反作用）、重心について整理する。
第3回　力のモーメント、てこの種類、滑車、輪軸について理解し、整理する。
第4回　筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長について理解し、整理する。
第5回　上肢帯と上肢の構造、および関節の分類について整理する。
第6回　上肢帯を構成する「関節」,肩甲骨の位置と運動範囲について理解し、整理する。
第7回　上肢帯と肩関節の運動と筋について整理し記憶する。
第8回　肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋について整理し記憶する。
第9回　手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋について整理し記憶する。
第10回　手の各関節の構造,各関節の運動と筋について整理し記憶する。
第11回　腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作について整理し記憶する。
第12回　顔面および頭部の筋とその運動，脊柱の各部椎骨の特徴，脊椎の連結について整理し、記憶する。
第13回　腰椎の運動と筋について整理し記憶する。
第14回　胸椎と胸郭の運動と筋について整理し記憶する。
第15回　頸椎の運動と筋について整理し記憶する。

展開　身の回りの現象や身体運動を力学で説明してみる。また運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動に関する基本的な知識をもとに、運動器の障害のメカニズムについて整理する。

成績評価

評価の基準　目標１：授業で取り上げた、身体運動に関する基礎的な知識を説明できることを合格基準とする。
目標２：授業で取り上げた、運動学に必要な力学について説明できることを合格基準とする。
目標３：上肢帯と上肢および脊柱・体幹の運動器の構造と機能および運動、その運動に関わる筋について説明できることを合格基準とする。

評価の方法　期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（80%），小テストおよびレポート（20%）とする。ただし,この比率は,最終的に若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	基礎運動学　第6版補訂
著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
出版社	医歯薬出版
価格	本体 6,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3

推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー　原著第2版
	著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・有馬慶美　監訳
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 12,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21395-7

参考URL

備考

解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。
（オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）

運動学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM207
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学Ⅱ
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2005201　月1
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	運動器の構造と機能，姿勢，歩行，運動学習
学生の到達目標	1．下肢帯と下肢の構造と運動、およびその運動に関わる筋について説明できる。 2．姿勢，歩行について理解し，基本事項を説明できる。 3．運動学習の基本的事項を説明できる。
授業内容	第1回　下肢帯と自由下肢の骨，骨盤・仙腸関節と股関節の構造（目標１） 第2回　股関節とその運動（１）：股関節の運動と筋（目標１）

第3回	股関節とその運動（２）：各動作での股関節の運動と筋，ﾄﾚﾝﾃﾞﾚﾝﾌﾞﾙｸﾞ徴候・他（目標１）
第4回	膝関節の構造：膝関節の構造，半月板，側副靭帯，十字靭帯（目標１）
第5回	膝関節とその運動（１）：膝関節の運動と半月板，側副靭帯，十字靭帯の役割（目標１）
第6回	膝関節とその運動（２）：膝関節の運動と筋，下腿の回旋，膝蓋骨の運動・他（目標１）
第7回	足の骨と関節：足関節，足根中足関節，中足指節関節，指節間関節の構造と運動（目標１）
第8回	足関節・足部の関節の運動と筋：背屈と底屈，内がえしと外がえし，足のアーチ（目標１）
第9回	姿勢（１）：重心，立位姿勢（目標２））
第10回	姿勢（２）：重心動揺、姿勢制御（目標２）
第11回	正常歩行（１）：歩行周期，一歩，重複歩，歩行率，足角，歩隔，歩幅（目標２）
第12回	正常歩行（２）：歩行時の重心移動，股・膝・足関節，体幹の運動（目標２）
第13回	正常歩行（３）：歩行と筋活動，歩行と走行，歩行とエネルギー消費（目標２）
第14回	正常歩行（４）：歩行周期（新定義）での下肢関節角度、足のロッカー機能（目標２）
第15回	運動学習：学習と記憶，運動技能とパフォーマンス，結果の知識（KR）（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。また、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 第1回　腰椎・股関節・大転子の位置、骨盤の連結、仙腸関節、股関節、関節包と靱帯、大腿骨の頸体角と前捻角 第2回　股関節の運動、股関節の可動域（屈曲と伸展）への膝関節の影響、股関節の動きの分析（表4-12） 第3回　骨盤の側方安定性、片脚立位時の股関節への負荷、トレンデレンブルグ徴候、骨盤を前傾・後傾させる筋 第4回　膝関節（脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節）、大腿脛骨角（FTA）、滑膜ひだと脂肪体、膝関節の靱帯（MCL, LCL, ACL, PCL）、膝関節の動きと靱帯の緊張（表4-13）、半月の役割、膝関節の運動に伴う半月の動き 第5回　膝関節屈曲伸展に伴うころがり運動とすべり運動、終末強制回旋運動（screw-home movement）、膝蓋大腿関節への圧迫力、Q角と膝蓋骨の安定性、膝関節伸展機構、膝関節の筋の収縮と脛骨の運動（表4-15） 第6回　足関節と足部の役割、距腿関節、距骨下関節、横足根関節（距踵舟関節、踵立方関節）、足根中足関節、中足間関節、中足趾節関節、指節間関節（近位、遠位） 第7回　下腿筋と足筋（足の内在筋）、足関節と足部および趾の筋の収縮と運動（表4-18） 第8回　足部の内在筋、足のアーチ（内側縦、外側縦、横）、足の巻き上げ機現象（windlass mechanism）、足の変形（尖足、外反足、扁平足、凹足、踵足、外反拇趾） 第9回　姿勢と重心、重心の測定方法、安静立位姿勢における重心線と理想的なアライメント、支持基底面、立位姿勢の安定性、構えと体位、安静立位姿勢と筋活動（表7-3） 第10回　重心動揺、バランスと姿勢制御、３つの姿勢応答（ankle, hip, stepping）、姿勢制御とシステム理論、予測的姿勢制御

第11回　歩幅、重複歩、歩隔、足角、歩行率、歩行比、歩行周期（立脚相、遊脚相）、歩行周期の８つの用語（伝統的な定義、ランチョ・ロス・アミゴスの定義）
第12回　歩行時の重心移動（垂直、側方）、体節の回旋、下肢関節の角度変化（股関節、膝関節、足関節）、重心移動を少なくする５つの要素
第13回　歩行の運動力学的分析（床反力、足底圧、加速度、筋電図）、歩行時の床反力の推移（側方・前後・垂直分力）、歩行時の筋活動、生理的コスト指数（PCI）
第14回　歩行周期での下肢関節角度（屈曲伸展の最大値とタイミング）、足部のロッカー機能と筋活動
第15回　運動技能の４要素、パフォーマンス曲線、学習曲線、結果の知識（KR）、部分練習と全体練習、集中練習と分散練習、逆Ｕ字曲線、学習の転移、スキーマ理論、一般化運動プログラム（GMP）とスキーマ

復習　改めて教科書を読んで、配布プリントに補足事項を書き込むことにより、授業内容を十分に理解し記憶すること。重要用語、項目は予習項目に記載したものである。特に、動きと筋の関係については確実に覚えること。
第1回　下肢帯と自由下肢の骨，骨盤・仙腸関節と股関節の構造について整理し記憶する。
第2回　股関節の運動と筋について整理し記憶する。
第3回　バイオメカニクスからみた股関節の特徴について整理し理解する。
第4回　膝関節の構造，半月板，側副靭帯，十字靭帯について整理し記憶する。
第5回　膝関節の運動と側副靭帯，十字靭帯の役割について整理し記憶する。
第6回　膝関節の運動と筋，下腿の回旋，膝蓋骨の運動について整理し記憶する。
第7回　足関節，足根中足関節，中足指節関節，指節間関節の構造と運動について整理し記憶する。
第8回　足関節・足部の関節の運動と筋，足のアーチについて整理し記憶する。
第9回　姿勢と重心、重心の測定方法、安静立位姿勢における重心線と理想的なアライメント、支持基底面、立位姿勢の安定性、構えと体位、安静立位姿勢と筋活動について整理し理解する。
第10回　重心動揺、バランスと姿勢制御、３つの姿勢応答（ankle, hip, stepping）、姿勢制御とシステム理論、予測的姿勢制御について整理し理解する。
第11回　正常歩行における歩行周期について整理し記憶する。また、一歩，重複歩，歩行率，足角，歩隔，歩幅の定義を記憶する。
第12回　歩行時の重心移動，股・膝・足関節，体幹の運動について整理し、その特徴を理解し記憶する。
第13回　歩行と筋活動について整理し記憶する。
第14回　歩行周期（新定義）での下肢関節角度、足のロッカー機能について整理し記憶する。
第15回　学習と記憶，運動技能とパフォーマンス，結果の知識（KR）について整理し理解する。

展開　下肢帯と下肢の運動学の理解を基礎として、姿勢保持や正常歩行メカニズムの理解を深める。また、運動学習についての基礎的事項を整理したうえでスキーマ理論について深く学習する。

成績評価

評価の基準　目標１：下肢帯と下肢の構造と運動、およびその運動に関わる筋について説明できることを合格基準とする。
目標２：姿勢，歩行について理解し，授業で取り上げた基本事項を説明できることを合格基準とする。
目標３：授業で取り上げた、運動学習の基本的事項を説明できることを合格基準とする。

評価の方法　期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（80%），小テストおよびレポート（20%）とする。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	書籍名	基礎運動学　第6版補訂
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 6,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3
推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー　原著第2版
	著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・有馬慶美　監訳
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 12,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21395-7
参考URL		
備考	解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。 （オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）	

運動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM208
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学実習
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2006001　火1，2
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	姿勢，運動，動作，分析，運動学習
学生の到達目標	1．身体運動の表現,体表からの筋の観察を行い,関節に対する筋の作用を説明できる。 2．動作，歩行分析，姿勢に関する実習を通して運動・動作分析の基礎を説明できる。 3．運動学習課題に関する実習を通して，運動学習の基礎を説明できる。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 下肢帯および下肢の機能解剖(目標１)

第2回	下肢帯および下肢の関節運動(目標１)
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖(目標１)
第4回	上肢帯および上肢の関節運動１(目標１)
第5回	上肢帯および上肢の関節運動２(目標１)
第6回	頭頸部・体幹の機能解剖(目標１)
第7回	脊柱・体幹の関節運動(目標１)
第8回	骨・筋の触察のまとめ(目標１)
第9回	筋力と筋活動の計測(目標２)
第10回	姿勢分析：①足圧中心の測定　②立位アライメントの観察(目標２)
第11回	第11回　歩行分析：①歩行周期と関節運動，②１０m歩行（歩行速度，歩行率，歩行比）(目標２)
第12回	運動学習：結果の知識（KR）付与とパフォーマンス(目標３)

予習・復習の内容 （毎回60分程度）	予習	授業内容に応じて，運動学Ⅰ・Ⅱで学習した内容を確認すること。また、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 第1回　下肢帯および下肢についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③靭帯の付着部 第2回　下肢帯および下肢についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖 第3回　上肢帯および上肢についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③神経・血管の走行 第4回　上肢帯および上肢についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖 第5回　肘関節、前腕、手関節、手指についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖 第6回　頭頸部、体幹についての、①骨と関節の構造、②筋の起始停止および作用、③体表解剖 第7回　脊柱・体幹についての、①解剖学的構造、②筋の起始停止および作用 第8回　上下肢・体幹についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③体表解剖 第9回　筋の収縮様式、筋収縮の生理的メカニズム、肘関節・膝関節の運動に関わる筋の作用 第10回　重心の計測、立位姿勢の理想的なアライメント、身体重心の視覚的評価 第11回　歩行周期、歩行の距離因子と時間因子、歩行中の下肢関節角度 第12回　結果の知識（KR）の付与頻度、トランスファーデザイン、平均絶対誤差、変動誤差
	復習	実習で確認した内容を理解し記憶すること。また、骨のランドマーク、筋の体表解剖については、確実に触察できるよう練習すること。 第1回　下肢帯および下肢についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③靭帯の付着部　について整理し記憶する。 第2回　下肢帯および下肢についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖　について整理し記憶する。筋の体表解剖については確実に触察できるようにする。 第3回　上肢帯および上肢についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③神経・血管の走行　について整理し記憶する。 第4回　上肢帯および上肢についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖　について整理し記憶する。筋の体表解剖については確実に触察できるようにする。 第5回　肘関節、前腕、手関節、手指についての、①関節の構造、②運動にかかわる筋の作用、③体表解剖　について整理し記憶する。筋の体表解剖については確実に触察できるようにする。 第6回　頭頸部、体幹についての、①骨と関節の構造、②筋の起始

停止および作用、③体表解剖　について整理し記憶する。筋の体表解剖については確実に触察できるようにする。
第7回　脊柱・体幹についての、①解剖学的構造、②筋の起始停止および作用　について整理し記憶する。
第8回　上下肢・体幹についての、①骨のランドマーク、②筋の起始停止、③体表解剖　について整理する。骨のランドマーク、筋の体表解剖については、確実に触察できるようにする。
第9回　筋の収縮様式、筋収縮の生理的メカニズム、肘関節・膝関節の運動に関わる筋の作用　について整理し理解する。
第10回　重心の計測、立位姿勢の理想的なアライメント、身体重心の視覚的評価　について整理し理解する。
第11回　歩行周期、歩行の距離因子と時間因子、歩行中の下肢関節角度について整理し理解する。
第12回　運動学習における、結果の知識（KR）の付与頻度、トランスファーデザイン、平均絶対誤差、変動誤差　について整理し理解する。

展開　１．骨のランドマークおよび筋の触察については、数多くの被験者で練習し、個体差があっても短時間で精核に触察できるようにする。
２．筋の起始停止については、骨標本で当該部位を確認して隣接筋を説明できるようにする。
３．筋、姿勢、歩行、運動学習について、トピックスを選び基本的事項を整理し、臨床応用について考察する。

成績評価

評価の基準　目標１：身体運動を表現でき,体表からの筋の観察を行って正確に触察でき,関節に対する筋の作用を説明できることを合格基準とする。
目標２：姿勢・動作（歩行）分析の基礎を説明できることを合格基準とする。
目標３：運動学習における「結果の知識」の基本的事項を説明できることを合格基準とする。

評価の方法　出席４／５以上が単位認定の条件である。毎回のテーマについて小テストの実施，または課題レポートの提出を課する。小テストおよび課題レポート（35%），触察の実技試験（15%），期末テスト（50%）で成績評価を行う．ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	運動学実習
著者名	責任編集：小島　悟
出版社	中山書店
価格	本体2,400 円+税
ISBN・ISSN	978-4-521-73666-2

推薦図書等

書籍名	基礎運動学　第6版補訂
著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
出版社	医歯薬出版
価格	本体 6,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3

書籍名	運動学実習（第3版）
著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩（編集）
出版社	医歯薬出版

価格	本体 3,400円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21154-0

書籍名	骨格筋の形と触察法　改訂第2版
著者名	河上敬介・磯貝香・他
出版社	大峰閣
価格	本体 12,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-9980686-2-4

参考URL	
備考	運動学を履修していること。また，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。 （オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）

臨床運動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床運動学
科目責任者	前田　哲男
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2007001　金1
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	物理　神経・筋　骨・関節　疾患　動作
学生の到達目標	１．教科書にある体が不自由な人の写真を見て，健常人との違いを述べることができる。 ２．教科書にある体が不自由な人の写真を見て，健常人と異なる原因を述べることができる。
授業内容	第1回　臨床における筋力（目標1,2） 第2回　臨床における骨・関節（目標1,2） 第3回　臨床における神経（目標1,2）

	第4回	臨床におけるテコの原理とモーメント（目標1,2）
	第5回	臨床における支持基底面（目標1,2）
	第6回	臨床における質量と加速度（目標1,2）
	第7回	臨床における重心位置の変化（目標1,2）
	第8回	臨床における圧中心位置の変化（目標1,2）
	第9回	臨床における姿勢の維持と動作の開始（目標1,2）
	第10回	臨床における基本動作の分析（目標1,2）
	第11回	臨床における末梢神経麻痺患者の分析（目標1,2）
	第12回	臨床における筋疾患患者の分析（目標1,2）
	第13回	臨床における片麻痺患者の分析（目標1,2）
	第14回	臨床におけるパーキンソン症候群患者の分析（目標1,2）
	第15回	臨床における車いす動作の分析（目標1,2）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	次回の授業範囲をグループで議論し，質問をメールで送ること。質問に対する回答のプリントを作成し，配布する（第1～15回共通）。
	復習	次回の授業範囲をグループで議論し，質問をメールで送ること。質問に対する回答のプリントを作成し，配布する（第1～15回共通）。
	展開	人の動作の原因について考察する（第1～15回共通）。
成績評価	評価の基準	1）体が不自由な人の写真を見て，健常人との違いを述べることができるか 2）体が不自由な人の動作の原因が理解できているか
	評価の方法	筆記試験60%，レポート40%
教科書	書籍名	臨床動作分析
	著者名	奈良　勲 監／高橋　正明 編
	出版社	医学書院
	価格	税込5,076円
	ISBN・ISSN	978-4-260-26666-6
	書籍名	解いてなっとく　使えるバイオメカニクス
	著者名	前田　哲男 著
	出版社	医学書院
	価格	税込3,780円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02161-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	1．１コマの授業の中でグループ学習，学生間の討論，白板へのプレゼンテーション，学生からの質問への解説をほぼ毎回行う。 2．教員の研究室の電話番号とメールアドレスは授業時間内で教える。 3．オフィスアワーも授業時間内に知らせる。	

臨床心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM202
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床心理学
科目責任者	森田　麻登
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2008001　月4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	心理アセスメント，心理検査，心理療法，カウンセリング，臨床心理学の歴史
学生の到達目標	1. 臨床心理学の歴史や基礎となる理論的な背景について理解する。 2.臨床心理学的見立て（アセスメント），介入（関わり方）・カウンセリングの技法の基礎を習得する。 3.目の前にいる何らかの困難を抱えた人に対して，臨床心理学的に適切な接し方ができるようになる。
授業内容	第1回　臨床心理学を学ぶにあたって，どのような学問か，どのように学ぶのか（目標1,2,3）

第2回	臨床心理学とは何か(1)臨床心理学の構造と歴史（目標1,2,3）
第3回	臨床心理学とは何か(2)臨床心理学の基本的な理論について学ぶ（目標1,2,3）
第4回	臨床心理学とは何か(3)臨床心理学の応用的な理論について学ぶ（目標1,2,3）
第5回	心理アセスメント(1)目的と方法（目標1,2,3）
第6回	心理アセスメント(2)データの収集技法（目標1,2,3）
第7回	心理アセスメント(3)データの分析技法（目標1,2,3）
第8回	心理アセスメント(4)異常心理学（目標1,2,3）
第9回	心理アセスメント(5)ライフサイクルと心理的問題（目標1,2,3）
第10回	心理アセスメント(6)発達過程で生じる障害や問題（目標1,2,3）
第11回	心理療法(1)理論モデル（目標1,2,3）
第12回	心理療法(2)個人に対する介入技法（目標1,2,3）
第13回	心理療法(3)集団や社会への介入技法（目標1,2,3）
第14回	心理療法(4)コミュニティにおける相談活動（目標1,2,3）
第15回	臨床心理学分野の研究手法の紹介，社会的専門性，資格制度など（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	臨床心理学に関する書籍を1冊以上読み、臨床心理学の全体像をつかんでおく。 第1回～第9回：臨床心理学について概要を把握しておく。 第10回～第14回：精神分析学，人間性心理学，行動療法，認知行動療法がどのようなものか調べておく。 第15回：理学療法と臨床心理学のつながりを考える。
	復習	授業で学んだ概念や支援方法についてノートにまとめたり、教科書の重要事項をチェックしておく。 第1回～第9回：臨床心理学について概要をまとめる。 第10回～第14回：精神分析学，人間性心理学，行動療法，認知行動療法の共通点や相違について整理する。 第15回：理学療法と臨床心理学のつながりを考察する。
	展開	普段の生活において、臨床心理学の知識や技能を活用し、自分自身や他者理解に役立てる。 第1回～第9回：基礎心理学と臨床心理学のつながりについて把握しておく。 第10回～第14回：主流の4大パラダイム以外のさまざまなパラダイムについても調べて理解する。 第15回：理学療法との関わりについて検討する。

成績評価	評価の基準	臨床心理学の基礎的知見を整理して覚えており、多様なニーズを持つクライアントに対してどのように臨床心理学的支援を行ったら良いか計画や見通しを立てることができること。 第1回～第9回：臨床心理学の歴史，制度，基礎理論について十分理解して説明できるかどうか。 第5回～第10回：心理アセスメントの流れや理学療法においても重要視されている心理検査について理解しているかどうか。また，実際に簡単な検査を行うことができるかどうか。 第11回～14回：精神分析学，人間性心理学，行動療法，認知行動療法についてそれぞれの特徴や他の理論との違いについて説明できるようになっているかどうか。 第15回：臨床心理学を理学療法でどのように生かしていくのか説明できるかどうか。
	評価の方法	試験成績（80%）、課題提出状況および内容の質（10%）、授業への参加意欲や態度（10%）

教科書	書籍名	臨床心理学 (New Liberal Arts Selection)
	著者名	丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子
	出版社	有斐閣
	価格	4212円
	ISBN・ISSN	978-4641053793

推薦図書等	書籍名	臨床家のためのDSM-5 虎の巻
	著者名	森則夫・杉山登志郎・岩田泰秀
	出版社	日本評論社
	価格	1,728円
	ISBN・ISSN	978-4535984028
	書籍名	DSM-5診断面接ポケットマニュアル
	著者名	髙橋三郎
	出版社	医学書院
	価格	4,320円
	ISBN・ISSN	978-4260020497

参考URL

備考

人間発達学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM203
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人間発達学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2009001　月5
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	発達理論，発達のメカニズム，発達段階，発達障害
学生の到達目標	1.発達に関する諸理論を理解する。 2.発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。 3.発達の途上で現れる困難を理解し,対処法について考えられる。
授業内容	第1回　発達の理論と発達段階の見方。主な発達理論を紹介し,比較検討する。(目標1,2) 第2回　発達の進化論的見方。進化心理学の立場から,人間の成長を把握する。(目標1)

第3回	脳の発達と行動の発達。脳の発達から行動の発達を理解し,発達の生理学的要因を理解する。(目標1)
第4回	意識の発達。意識が様態・変化を理解し,行動発達との関連を考察する。(目標2,3)
第5回	姿勢と運動の発達。乳幼児期の運動発達を理解し,重要な発達指標を把握する。(目標2)
第6回	情緒発達と人間関係の発達。乳幼児期の情緒がどのような筋道で発達するかを理解し,人間関係の発達との関連性を学ぶ。(目標2,3)
第7回	知覚・認知の発達。乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムを学ぶ。(目標1,2,3)
第8回	愛着の発達。人格形成における愛着の重要性を理解し,愛着が育つための様々な要因について学ぶ。(目標1,2,3)
第9回	言語の発達。乳幼児期における言語の発達について理解し,言語発達のメカニズムを学ぶ。(目標2,3)
第10回	児童期の発達。児童期を取り巻く状況を理解しながら,認知,情緒,人間関係の発達を理解する。(目標1,2,3)
第11回	思春期の発達。第二次性徴が現れ内面的な世界が発達する思春期の不安定さを学ぶ。(目標2,3)
第12回	青年期の発達。社会に出ようとし,自己の在り方を探求する青年期の複雑さを学ぶ。(目標1,2,3)
第13回	中年期の発達。人生の曲がり角に立つ中年期の悩みや,責任を背負う充実感を学ぶ。(目標2,3)
第14回	老年期の心理。心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理を学ぶ。(目標2,3)
第15回	発達障害を考える。乳幼児期を中心に,様々な発達障害とそれに対する対策を考える。(目標3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回シラバスをよく読み、ポリシーとの関連、授業のキーワード、学生の到達目標、授業の内容、成績評価等について理解しておくこと。さらに発達の理論と発達段階の見方について調べておくこと。 第２回発達の進化論的見方について調べておくこと。 第３回脳の発達と行動の発達の関連性について調べておくこと。 第４回意識の発達と行動発達との関連について調べておくこと。 第５回乳幼児期の運動発達について調べておくこと。 第６回情緒発達と人間関係の発達の関連性について調べておくこと。 第７回乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムについて調べておくこと。 第８回人格形成における愛着の重要性とその発達に関わる要因について調べておくこと。 第９回乳幼児期における言語の発達について調べておくこと。 第10回児童期の認知,情緒,人間関係の発達について調べておくこと。 第11回思春期の第二次性徴の発現や精神の不安定さについて調べておくこと。 第12回自己の在り方を探求する青年期の複雑さについて調べておくこと。 第13回人生の曲がり角に立つ中年期について調べておくこと。 第14回心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理について調べておくこと。 第15回乳幼児期に現れる様々な発達障害とそれに対する対策について調べておくこと。
	復習	第１回この科目の受講によって理解を深めたい事項をまとめておくこと。また発達の理論と発達段階の見方についてポイントおよび考察をまとめておくこと。 第２回発達の進化論的見方についてポイントおよび考察をまとめて

おくこと。
第３回脳の発達と行動の発達の関連性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第４回意識の発達と行動発達との関連についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第５回乳幼児期の運動発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第６回情緒発達と人間関係の発達の関連性についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第７回乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムについてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第８回人格形成における愛着の重要性とその発達に関わる要因についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第９回乳幼児期における言語の発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第10回児童期の認知,情緒,人間関係の発達についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第11回思春期の第二次性徴の発現や精神の不安定さについてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第12回自己の在り方を探求する青年期の複雑さについてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第13回人生の曲がり角に立つ中年期についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第14回心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理についてポイントおよび考察をまとめておくこと。
第15回乳幼児期に現れる様々な発達障害とそれに対する対策についてポイントおよび考察をまとめておくこと。

展開　自分なりに、問題意識をもって本を読む。

成績評価

評価の基準
1.発達に関する諸理論を理解理解し、自分の考えを的確に表現できること。
2.発達段階の特徴と発達の道筋を理解理解し、自分の考えを的確に表現できること。
3.発達の途上で現れる困難やそれに対する対処法を理解し、自分の考えを的確に表現できること。

評価の方法　授業中の質問への回答と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。質問への回答 30%，期末試験 70%

教科書

書籍名	スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症
著者名	安藤則夫
出版社	学苑社
価格	2 ,200円＋税
ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8

推薦図書等

参考URL

備考

重要な事項について，復習すること。
時には、様々な年代の人を発達の立場から見ること。、

病理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM209
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病理学
科目責任者	山口　直人 馬場 健
授業形態	講義
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A2010001 水4,5（4/19, 5/17, 5/31, 6/14） 金4,5（6/16, 6/23, 7/7, 7/14）
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	病理形態学，病態生理学，炎症と免疫，循環障害，腫瘍
学生の到達目標	１．理学療法学と関連の深い疾病の病因,病態に関して,臓器別,制御系別に形態・機能異常を理解する。 ２．医療現場で高頻度に遭遇しうる多臓器障害や,生命予後に関連する周辺領域の病理病態への理解を深める。 ３．患者の病態を全身的制御系との関連から理解する為に,臓器横断的な理解を深め,治療的介入法との関係を理解する。

授業内容	第1回	病理学の概要，病因論，退行性病変，変性，萎縮，壊死（目標１）
	第2回	代謝異常，蛋白質・アミノ酸代謝異常，脂質代謝異常，糖質代謝異常（目標１）
	第3回	進行性病変，再生，化生，肥大，過形成，創傷治癒，一次治癒と二次治癒（目標１）
	第4回	免疫，自然免疫，獲得免疫，抗体，アレルギー，自己免疫性疾患，膠原病（目標１）
	第5回	循環障害，血液循環，リンパ循環，高血圧，充血，うっ血，浮腫，虚血，出血，血栓症塞栓症，梗塞（目標１，２）
	第6回	移植，炎症，（目標１）
	第7回	腫瘍，良性腫瘍，悪性腫瘍，異型性，転移，進行度（目標１，２）
	第8回	放射線障害，発癌と放射線，放射線治療，老化，先天異常・奇形，遺伝因子（目標１）
	第9回	循環器：虚血性疾患，炎症性疾患，特発性心筋症，代謝障害，動脈疾患（目標１，２）
	第10回	呼吸器：上気道疾患，炎症，慢性閉塞性肺疾患（COPD，慢性気管支炎，肺気腫），塵肺，間質性肺炎，肺線維症，肺腫瘍，胸膜腫瘍（目標１，２）
	第11回	消化器，歯，口腔，咽頭：食道炎，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，食道癌，胃癌，炎症性腸疾患，大腸癌，腹膜炎，肝炎，肝硬変，食道静脈瘤，肝臓癌，胆石，膵炎（目標１，２）
	第12回	神経系と運動器：脳血管障害，神経系感染症，脱髄性疾患，変性疾患，脳外傷，脳腫瘍，骨粗しょう症，骨の炎症，骨折，腫瘍性病変，関節変疾患，炎症疾患，筋疾患（目標１，２）
	第13回	泌尿・生殖器：腎炎，尿毒症，膀胱炎，尿路結石，腫瘍，前立腺肥大，卵巣疾患，子宮筋腫，子宮癌，妊娠と疾患，乳腺症，乳癌（目標１，２）
	第14回	内分泌臓器，視床下部・下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎：糖尿病（目標１，３）
	第15回	血液・造血器，骨髄，リンパ節：貧血，白血病，悪性リンパ腫，免疫不全症（目標１，３）
	第16回	皮膚・感覚器：湿疹，蕁麻疹，ウイルス性皮膚疾患，上皮性腫瘍，中耳炎，白内障，緑内障，網膜はく離（目標１，２）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	教科書の図とその説明は目を通しておく。
	復習	配布プリントの内容を教科書で確認する。
	展開	理学療法が関わる健康障害について理解を深める。
成績評価	評価の基準	病理学の総論と各論について，理学療法士として必要な基本的知識と病態を理解している事。
	評価の方法	筆記試験（多肢選択問題および論述式問題）から判断する。但し，授業の進捗状況によっては，レポートをし，評価材料とする場合もある。
教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学 第3版」2009
	著者名	奈良勲他
	出版社	医学書院
	価格	4,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-260-00735-1

推薦図書等	書籍名	クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士　国家試験問題解説 2012 共通問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-398-6

参考URL	
備考	馬場　　健：総論担当／第1回～第8回（合計８回） 山口　直人：各論担当／第9回～第16回（合計８回）

一般臨床医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM204
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	一般臨床医学
科目責任者	前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2011001　月2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	救急医療　科学総論　外科的疾患　プライマリー・ケア
学生の到達目標	1．救急医療の基礎を理解する。 2．外科的疾患の基礎を理解する。 3．プライマリー・ケアを理解する。
授業内容	第1回　医学の成り立ち、医学ではどんなことを学ぶのか 第2回　救命蘇生のABC、呼吸管理の仕方、中心静脈栄養法（目標１）

第3回	ショックとは、DICについて、救急処置の仕方 （目標１）
第4回	外科学総論 1（外的要因による障害）（目標2）
第5回	外科学総論 2（内的要因による障害）（目標2）
第6回	脳神経外科学概論 （目標2）
第7回	皮膚疾患 （目標2）
第8回	泌尿器・生殖器疾患 （目標2）
第9回	婦人科・産科疾患 （目標2）
第10回	眼疾患 （目標2）
第11回	耳鼻咽喉科疾患 （目標2）
第12回	老年医学 （目標3）
第13回	プライマリー・ケア１ （病態と症状）（目標3）
第14回	プライマリー・ケア２ （基礎医学と再生医療）（目標3）
第15回	演習問題

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回： 特になし 第２回～第１５回： 教科書を読んで不明な言葉をメモしておく
	復習	第１回： 医学の心構えを理解する 第２回～第１４回： 講義内容の中で不明点を明らかにしておく
	展開	救急患者を発見したときに救命措置ができる人になる

成績評価	評価の基準	１．救急医療の基礎を習得したか ２．外科学及び外科系科目の基礎を理解したか ３．プライマリー・ケアを理解したか
	評価の方法	小テスト（30%）と期末試験（70%）

教科書	書籍名	PT・OT・STのための一般臨床医学[第3版]
	著者名	椿原　彰夫 編著／平岡　崇 編著
	出版社	医歯薬出版
	価格	税込2,808円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21932-4

推薦図書等	書籍名	一目でわかる病態生理
	著者名	松野　一彦 著
	出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
	価格	税込3,132円
	ISBN・ISSN	978-4-89592-272-2

参考URL

備考

内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM205
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	内科学
科目責任者	金井　正仁
担当教員	齋藤　和美
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2012001　木1，2，5
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	内科疾患，病態，診断と治療
学生の到達目標	1．内科疾患の病態と症候学の理解 2．内科疾患の診断と治療に対する一般的知識の獲得 3．理学療法の対象となる内科疾患およびリスクとなりうる疾患の理解
授業内容	第1回　内科診断学－1（内科とは、病歴、POMR）（目標1,2,3） 第2回　内科診断学－2（主訴，一般症状と診察などについて理解する）(目標1,2,3)

第3回	内科症候学－３（呼吸・循環器症状一般症状の診かた・とらえ方）(目標1,2)
第4回	内科症候学－４（腹部症状などの診かた・とらえ方）(目標1,2,3)
第5回	臨床検査－１（臨床検査のとらえ方、末梢血液検査意味するものを理解する）(目標1,2,3)
第6回	臨床検査－２（出血凝固、生化学的検査など）(目標1,2,3)
第7回	臨床検査－３（血清、免疫学的検査）(目標1,2,3)
第8回	薬物療法－１（総論：内科と外科、クスリとは）(目標1,2,3)
第9回	薬物療法－２（抗炎症・鎮痛薬、抗菌剤・抗血栓剤など）(目標1,2,3)
第10回	薬物治療－３（高血圧・不整脈・狭心症など循環器系薬剤）(目標1,2,3)
第11回	薬物治療－４（消化器系薬剤、抗癌剤・高脂血症など代謝系の薬剤、抗テンカン剤）(目標1,2,3)
第12回	循環器疾患－１（心血管系の解剖生理，循環器症状，高血圧，心不全などについて）(目標1,2,3)
第13回	循環器疾患－２（心筋硬塞，先天性心疾患，不整脈などについて）(目標1,2,3)
第14回	呼吸器疾患-1(呼吸器の解剖生理,呼吸器症状,肺炎などの各種呼吸器感染症)(目標1,2,3)
第15回	呼吸器疾患-2(気管支喘息,閉塞性肺疾患,間質性肺炎,肺癌,気胸などについて)(目標1,2,3)
第16回	血液・造血器疾患(貧血,白血球減少,白血病など)(目標1,2,3)
第17回	血液・造血器疾患(貧血,白血球減少,白血病など)(目標1,2,3)
第18回	消化管疾患(消化管の解剖生理,口腔,食道,胃・十二指腸,腸疾患などについて)(目標1,2,3)
第19回	肝・胆道・膵疾患(肝胆道系の解剖生理,検査,肝炎,肝硬変,胆石,膵癌など)(目標1,2,3)
第20回	内分泌・代謝性疾患-1(糖代謝障害,高脂血症,無機質・ビタミン欠乏など)(目標1,2,3)
第21回	内分泌・代謝性疾患-2(下垂体,甲状腺,副甲状腺,副腎機能 性機能)(目標1,2,3)
第22回	腎・泌尿器疾患-1(腎臓の解剖生理,病態生理,腎不全,腎炎など)(目標1,2,3)
第23回	腎・泌尿器疾患-2(妊娠中毒など,腎性高血圧,水と電解質異常など)(目標1,2,3)
第24回	膠原病,アレルギー疾患,免疫不全など(目標1,2,3)
第25回	感染症(細菌感染症,好酸菌,ウイルスその他各種感染症を理解する)(目標1,2,3)
第26回	中毒および環境要因による疾患(有機溶剤,農薬,薬剤,食中毒など)(目標1,2,3)
第27回	内科疾患と神経症状(各種内科疾患で見られる神経症状について)(目標1,2,3)
第28回	内科疾患と皮膚内科疾患(皮膚赤疾患の概観と内科疾患で遭遇する皮膚症状の知識をえる) (目標1,2,3)
第29回	内科疾患と心身症その他(心身症とは?内科疾患には心身相関と関連するものが多いことを理解する)(目標1,2,3)
第30回	後期のまとめ(目標1,2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～３０回（共通）　毎回事前配布資料に目を通し，必要な箇所は教科書にて確認すること。
	復習	第４回，第７回，第１１回終了ごとに資料及び授業ノートを確認し，問題点・不明点を明らかにし都度授業終了後に担当教員に質問
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。

成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験（ 100%）による

教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学」
	著者名	前田眞治・上月正博・飯山準一　監修
	出版社	医学書院
	価格	6,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-260-01707-7

推薦図書等

参考URL

備考

整形外科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM206
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	整形外科学
科目責任者	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2013001　木4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	運動器疾患，整形外科的診断，整形外科的治療，リハビリテーション	
学生の到達目標	１．整形外科的な診断および治療法について基礎的,総論的な知識を身につける。 ２．基礎的知識をもとに整形外科的な疾患の総論及び各論について学び,豊富で臨床的な知識を獲得する。 ３．外傷学(上下肢の脱臼・骨折,スポーツ障害・外傷など),リハについても十分な知識を身につける。	

授業内容	第1回	基礎科学(1)骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など(目標1)
	第2回	基礎科学(2)骨格筋の構造や病態生理,神経組織の構造と機能など(目標1)
	第3回	診断総論(1)運動器の基本的な評価法および診断について(目標1)
	第4回	診断総論(2)神経学的な評価法および整形外科的検査について(目標1)
	第5回	治療総論(1)保存療法について(目標1)
	第6回	治療総論(2)手術療法について(目標1)
	第7回	疾患総論(1)軟部組織・骨・関節の感染症について(目標2)
	第8回	疾患総論(2)関節リウマチとその類縁疾患について(目標2)
	第9回	疾患総論(3)慢性関節疾患・四肢循環障害疾患,特に骨端症について(目標2)
	第10回	疾患総論(4)先天性骨系統疾患・先天異常症候群について(目標2)
	第11回	疾患総論(5)代謝性骨疾患,特に骨粗しょう症などについて(目標2)
	第12回	疾患総論(6)骨腫瘍,軟部腫瘍について(目標2)
	第13回	疾患総論(7)神経疾患・筋疾患について(目標2)
	第14回	疾患各論(1)肩関節・肘関節について(目標2)
	第15回	疾患各論(2)手関節および手指について(目標2)
	第16回	疾患各論(3)頚椎について(目標2)
	第17回	疾患各論(4)胸椎・腰椎について(目標2)
	第18回	疾患各論(5)股関節について(目標2)
	第19回	疾患各論(6)膝関節について(目標2)
	第20回	疾患各論(7)膝関節について「老化は脚から-特に膝関節を中心に-」(目標2)
	第21回	疾患各論(8)足関節と足について(目標2)
	第22回	外傷総論 軟部組織損傷,骨折・脱臼の総論について(目標3)
	第23回	外傷各論(1)上肢の骨折・脱臼について(目標3)
	第24回	外傷各論(2)骨盤・下肢の骨折・脱臼について(目標3)
	第25回	外傷各論(3)脊椎・脊髄損傷について(目標3)
	第26回	外傷各論(4)末梢神経損傷について(目標3)
	第27回	外傷各論(5)スポーツ障害について(目標3)
	第28回	リハビリ(1)運動器疾患のリハビリテーションについて(目標3)
	第29回	リハビリ(2)四肢切断および補装具について(目標3)
	第30回	リハビリ(3)福祉用具の知識「セラピストに必要な福祉用具の知識について」(目標3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） 「シラバス」は教科書の順序に即して作製してあるので，授業前に教科書を読んでくることが望ましい。
	復習	第１回～第１５回（共通） 「授業」で配布する「資料」は，教科書及び多くの「資料」より作成してあるので，復習をしてほしい。

	展開	「授業の各項目」については，更に「国家試験」の参考書などで，「知識の確認、整理」をしてもらいたい。
成績評価	評価の基準	学生の到達目標1.2.3を身につけていること。 前・後期末に各50題ずつの「筆記試験」を行い，満点は100点として60点以上を合格とする。
	評価の方法	最高得点者の点数を100点として全員に加算し、「合否採点」を行い，加算後も60点以下を「不合格者」として，「課題」による「レポート」を提出させ，改めて「合否」の「判定」を行う。
教科書	書籍名	整形外科学テキスト[改訂第4版]
	著者名	高橋　邦泰 編／芳賀　信彦 編
	出版社	南江堂
	価格	税込5,724円
	ISBN・ISSN	978-4-524-25939-7
推薦図書等	書籍名	クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士国家試験問題解説　2017　共通問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-634-5
	書籍名	クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説 ２０１７専門問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-635-2
参考URL		
備考	上記「教科書」の価格は高価であるが，「整形外科」の参考本としても，一生に一冊あれば良い本である。	

神経内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM207
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	神経内科学
科目責任者	前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2014001
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	神経疾患の診察法、神経疾患各論、神経診断学
学生の到達目標	1.神経疾患の診察の仕方を覚える 2.神経疾患にはどんな病気があるか理解する 3.神経系の異常から診断出来るようにする
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 神経診断学　神経系の解剖と生理の復習 第2回　神経診断学　①意識の診察　②知能と高次機能の診察（目標１） 第3回　神経診断学　①顔面と脳神経系の診察　②運動系の診察　③反射の診察（目標１）

第4回	神経診断学　①感覚系の診察　②小脳系の診察　③立位・歩行の診察（目標1）
第5回	神経診断学　①自律神経系の診察　②髄膜刺激症候の診察（目標1）
第6回	疾患各論　神経系の感染症（目標2）
第7回	疾患各論　脳血管障害（目標2）
第8回	疾患各論　神経系の変性疾患（目標2）
第9回	疾患各論　神経免疫疾患（目標2）
第10回	疾患各論　①脊髄脊椎疾患　②末梢神経疾患（目標2）
第11回	疾患各論　①神経筋疾患　②筋疾患（目標2）
第12回	疾患各論　自律神経疾患（目標2）
第13回	疾患各論　①発作性神経疾患　②中毒性神経疾患（目標2）
第14回	疾患各論　①代謝性神経疾患　②内科疾患に伴う神経疾患（目標2）
第15回	演習問題　（目標3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　特になし 第２回～第１５回　神経系の解剖・生理学を見直しておく
	復習	第１回　神経疾患の診察の仕方を覚える 第２回～第１４回　講義内容をその日のうちに理解しておく
	展開	講義内容で不明な点について次回までに質問事項を用意する

成績評価	評価の基準	１．神経疾患の診察法が出来るか ２．神経の各疾患を理解し、覚えたか ３．神経系の異常から診断出来るようになったか
	評価の方法	小テストと期末試験（計100%）

教科書	書籍名	神経内科学テキスト[改訂第3版]
	著者名	江藤　文夫 他編
	出版社	南江堂
	価格	税込5,184円
	ISBN・ISSN	978-4-524-26215-1

推薦図書等	書籍名	病気がみえる　7
	著者名	医療情報科学研究所 編
	出版社	メディックメディア
	価格	税込4,104円
	ISBN・ISSN	978-4-89632-358-0

参考URL

備考

精神医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM208
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	精神医学
科目責任者	荒木　均
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2015001 4/14,4/21,5/19,6/2,6/30：3～5限
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	精神医学，精神科リハビリテーション，地域精神保健福祉
学生の到達目標	1. 精神疾患の病態,治療と社会復帰の方法について理解し,簡単に説明できる。 2. リハビリテーションにおける精神問題とその対応について理解する。
授業内容	第1回　気分障害：単極性うつ病（目標１） 第2回　気分障害：双極性障害（目標１）

	第3回	気分障害：治療、自殺（目標2） 情緒と脳（目標２）
	第4回	統合失調症（目標１）
	第5回	精神医療の歴史と変遷（目標１）
	第6回	地域精神医療の現状と社会復帰の方法(目標2) 無意識と創造性（目標２）
	第7回	不安障害：パニック障害、強迫性障害、社会不安性障害、解離性障害（目標１）
	第8回	依存症：アルコール依存、薬物依存、プロセス依存（目標１）
	第9回	摂食障害（目標１） パーソナリティ障害(目標１）
	第10回	認知症：アルツハイマー病と類似疾患（目標１）
	第11回	記憶の脳科学(目標２）
	第12回	リハビリテーションにおける精神問題その１（高次脳機能障害他）（目標２）
	第13回	発達障害とその経過(目標１）
	第14回	てんかん（目標１）
	第15回	世界の精神医療と全体のまとめ（目標１．２）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第１５回（共通）関連する教科書の項目の内容を読んでおく。
	復習	第１回～第15回(共通）関連する動画等を視聴する。授業中に渡した理解度チェックを読む
	展開	精神科領域に関連した書籍、映画、DVDなどを探しそれを読書したり、視聴する。
成績評価	評価の基準	1.2.授業の内容に即した精神保健・精神医学の基本的な知識の理解を有すること。
	評価の方法	試験（択一式）80%，授業への取り組み20%とし，総合的に評価する。
教科書	書籍名	これならわかる精神医学
	著者名	上島国利（著）
	出版社	ナツメ社
	価格	1,944円（税込）
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4816350849
推薦図書等	書籍名	我が国の精神保健福祉
	著者名	－
	出版社	太陽美術出版部
	価格	2，571円（税込）
	ISBN・ISSN	9784870551237

参考URL	http://www.e-rapport.jp/index.html
備考	担当教員からのメッセージ 　この授業では，これから医療職を目指す者として精神障害はもとより心の健康に至るまで広い視点を持てるようになってほしいと思っています。わからないことは積極的に質問してください。

小児科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM209
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	小児科学
科目責任者	前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2016001　火4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	小児，成長発達，疾病
学生の到達目標	1．正常小児の成長発達を理解する。 2．小児疾患の特性及び病態を理解する。 3．重症心身障害児の特性と療育について理解する。
授業内容	第1回　Part 1 小児の評価（面接、診察、評価）（目標１） 第2回　Part 1 小児の評価（成長、検査結果）（目標１）

第3回	Part 2 成長する子ども（栄養、保育と教育、健康増進）（目標1）
第4回	Part 2 成長する子ども（予防接種、思春期、虐待）（目標1）
第5回	Part 3 新生児（先天異常、スクリーニング、未熟児）（目標2）
第6回	Part 3 新生児（新生児黄疸、先天性心疾患、年長児心雑音）（目標2）
第7回	Part 4 よく見られる症状（成長と発達、気道、腹部）（目標2）
第8回	Part 4 よく見られる症状（泌尿生殖器、神経筋、皮膚）（目標2）
第9回	Part 5 小児の救急疾患（急性重症、心停止、乳児突然死（目標2）
第10回	Part 5 小児の救急疾患（意識不明、けいれん、事故、熱傷、中毒（目標2）
第11回	Part 6 小児の慢性疾患（気管支喘息、糖尿病、CF）（目標2）
第12回	Part 6 小児の慢性疾患（関節炎、てんかん、小児悪性腫瘍）（目標2）
第13回	Part 7 障害をもつ子ども（脳性まひ）（目標3）
第14回	Part 7 障害をもつ子ども（知的障害、視覚・聴覚障害）（目標3）
第15回	Part 8 症例検討とまとめ（目標2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～15回、各項目の最初のページは目を通しておく。
	復習	第1回～15回、教科書の「キーポイント」を確認しておく。
	展開	可能な限り小児の発達を考えるようにする。身近に子供がいればよく観察する。

成績評価	評価の基準	1．正常小児の成長発達を理解したか。 2．小児疾患の特性及び病態を理解したか。 3．重症心身障害児の特性と療育について理解したか。 について問う。
	評価の方法	試験（択一式）100%を基本とするが、60%に満たない場合はレポート提出とし、60%及第とする。

教科書	書籍名	一目でわかる小児科学第２版
	著者名	五十嵐隆（監訳）
	出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
	価格	4,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89592-568-6 C 3047

推薦図書等

参考URL

備考

担当教員からのメッセージ
　この授業では，これから医療職を目指す者として小児科学について広い視点を持てるようになってほしいと思っています。

薬理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM212
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	薬理学
科目責任者	西山　眞理子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2017001　水2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援

授業のキーワード

薬物の作用機序，薬物の臨床応用，薬物の副作用

学生の到達目標

1.薬物が薬理作用をあらわす基本的機序を一般論として説明できる。
2.種々の疾患の治療に用いられる代表的な薬物の作用・作用機序・副作用を説明できる。
3.薬物の使用に関する法的規制を説明できる。

授業内容

第1回　薬の主作用・副作用と薬理作用、受容体理論に関する基礎的知識（目標１）

第2回	自律神経と薬物（交感神経作用薬・遮断薬）（目標１・２）
第3回	自律神経と薬物（副交感神経作用薬・遮断薬）（目標１・２） 筋弛緩薬（目標１・２）
第4回	心血管作用薬（高血圧・狭心症・心筋梗塞等の疾患に用いられる薬物）（目標１・２）
第5回	鎮痛薬・局所麻酔薬・全身麻酔薬（痛みに対して用いられる薬物）（目標２）
第6回	抗炎症薬（非ステロイドと副腎皮質ステロイド）・抗リウマチ薬（目標２）
第7回	中枢神経作用薬（パーキンソン病・不眠・てんかんなどに用いられる薬物）（目標２）
第8回	中枢神経作用薬（抗うつ薬・抗精神病薬物）（目標２） 薬物に関する法律（薬事法・麻薬および向精神薬取締法・覚醒剤取締法等）（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	薬理学を充分理解するには、既習の解剖学・生理学・生化学等の基礎的知識が必須である。そのため、授業前に以下の事項を整理・理解しておくことが必要である。 第2回予習：交感神経系の構造と機能について解剖学・生理学を理解しておく。 第３回予習：副交感神経系の構造と機能及び骨格筋に関する解剖学・生理学を理解しておく。 第４回予習：血管の収縮・弛緩にかかわる生理活性物質、および正常な血圧調節機構について理解しておく。 第５回予習：痛覚伝導路とその特性を理解しておく。 第６回予習：炎症に関与する生理活性物質について調べておく。また、副腎皮質ホルモンに関する生理学・生化学を復習しておく。 第７回予習：中枢神経系における主要な神経伝達物質について調べておく。 第８回予習：うつ病と統合失調症について特徴的な症状を調べておく。
復習	第１回復習：薬理学総論のキーワードを把握しておくこと。また、受容体理論を理解しておくこと。 第２回復習：交感神経系に働く薬物について、作用機序別に整理しておくこと。 第３回復習：副交感神経系に働く薬物、および筋弛緩薬について、作用機序別に整理しておくこと。 第４回復習：高血圧症に対して用いられる薬物について、それぞれの薬物の作用部位・作用機序を生化学的・生理学的観点から理解し、整理しておくこと。 第５回復習：主要な鎮痛薬について整理しておくこと。局所麻酔の種類を理解し、用いられる薬物をまとめておくこと。 第６回復習：主要な抗炎症薬について非ステロイドと副腎皮質ステロイドにわけて整理しておくこと。 第７回復習：パーキンソン病の病態と治療薬について理解し、整理しておくこと。 第８回復習：うつ病と統合失調症の治療に用いられる薬についてまとめておくこと。薬物に関する法規制を理解し、重要な用語・薬物について整理しておくこと。
展開	関心のある疾患に用いられる主要な治療薬を分類・整理する。その際には、まずその疾患の病態を把握し、その病態に対して、なぜ、どのように、それらの薬物が治療上有効であるのか、また、どのような副作用が起こり得るのか、薬物の作用機序の観点から理解を深めるようにする。

成績評価

評価の基準	目標１：受容体理論に基づいて、作動薬・拮抗薬の説明ができることを合格基準とする。 目標２：授業で取り上げた代表的薬物の作用・作用機序を説明できることを合格基準とする。

		目標３：薬物に関してどんな法的規制があるか説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験８０％、授業内での取り組み態度２０％で、総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	シリーズ看護の基礎科学７　薬との関わり　臨床薬理学
	著者名	中谷晴昭　大橋京一／編
	出版社	日本看護協会出版会
	価格	3,200円 + 税
	ISBN・ISSN	978-4-8180-0661-4
	書籍名	はじめの一歩のイラスト薬理学
	著者名	石井邦雄　著
	出版社	羊土社
	価格	2,900円 + 税
	ISBN・ISSN	978-4-7581-2045-6
参考URL		
備考	・薬理学を充分理解するには、既習の解剖学・生理学・生化学等の基礎的知識が必須である。 ・各授業時間の講義の最後に、配付した資料を参照しながら、その日の授業内容に関する簡単な演習を行う。 ・教員への連絡方法：メールによる。mnishiya@abox22.so-net.ne.jp または、教務課を介して連絡してください。	

リハビリテーション概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC101
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2018001　木4
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 5 科学的思考の形成と発展
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	リハビリテーションの理念，障害の構造、リハビリテーションの領域、チームアプローチ、関連法規	
学生の到達目標	１．リハビリテーションの概念、定義、障害を説明できる。 ２．医療、職業、社会、教育の緒領域のリハビリテーションについて説明できる。 ３．リハビリテーション過程に関与する、リハビリテーション専門職、および、関連法規・社会保障制度について説明できる。	

授業内容	第1回	リハビリテーションとは、リハビリテーションの概念・理念･定義(目標1)
	第2回	健康とは、病気とは(目標1)
	第3回	障害とは、（目標2)
	第4回	人間活動と発達(目標2)
	第5回	リハビリテーションと心理(目標1,2)
	第6回	リハビリテーションの諸段階（目標1,2)
	第7回	リハビリテーションの領域（目標3)
	第8回	医療とリハビリテーション専門職の役割(目標3)
	第9回	チームアプローチ(目標１,2,3)
	第10回	先天異常、精神障害(目標１,2,3)
	第11回	社会保障(目標１,2,3)
	第12回	保健・医療制度(目標2,3)
	第13回	社会保険、公的扶助 (目標2,3)
	第14回	介護保険制度(目標2,3)
	第15回	災害とリハビリテーション(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	予習　これから4年間に学ぶリハビリテーションについての概略の授業。毎回テーマが変わるので　核となるキーワードを教科書から探し考えてくることを、予習課題とする。 第2回　「健康」「病気」について、教科書第2章を読んで考えてくる 第3回「障害とは何か」教科書第2章を読んで考えてくる 第4回 発達とは何か」教科書第3章を読んで考えてくる 第５回　リハビリテーションにおける「心理とは何か」教科書第4章を読んで考えてくる 第6回　リハビリテーションの諸段階とは何かについて教科書5章を読んで考えてくる 第7回　リハビリテーションの領域について教科書第5章を読んで考えてくる 第8回リハビリテーションにかかわる専門職について教科書第6章を読んで考えてくる 第9回チームアプローチ教科書第6章を読んで考えてくる 第10回　4つの障害について教科書第7章を読んで考えてくる 第11回　「社会保障」とは何かについて教科書第8章を読んで考えてくる 第12回　リハビリテーション医療とは何かについて教科書第8章を読んで考えてくる 第13回　社会保険、公的扶助とは何かについて教科書第8章を読んで考えてくる 第14回　介護保険制度について教科書第8章を読んで考えてくる 第15回災害とリハビリテーションについて調べ考えてくる
	復習	配布資料に授業中に各自加筆したものをさらに整理し、自分の文章としてまとめ、理解する 復習を通して、リハビリテーションについて学ぶことへの意識・関心を育てる。 第1回　リハビリテーションの概念についてまとめる 第2回　「健康」、「病気」についてまとめる 第3回　「障害とは何か」ＩＣＦについてまとめる 第4回　「発達とは何か」まとめる 第５回　「心理とは何か」障害受容についてまとめる 第6回　リハビリテーションの諸段階とは何かについてまとめる 第7回　リハビリテーションの領域についてまとめる 第8回リハビリテーションにかかわる専門職についてグループでレ

		ポート作成 第9回　チームアプローチについてまとめる 第10回　4つの障害について、代表的疾患をまとめる 第11回　「社会保障」とは何かについてまとめる 第12回補装具等リハビリ医療についてまとめる 第13回　社会保険、公的扶助とは何かについてまとめる 第14回　　介護保険制度についてまとめる 第15回　災害とリハビリテーションについてまとめる 。
	展開	リハビリテーションと理学療法の関係について理解する。専門科目に学習につなげる
成績評価	評価の基準	各回で学んだリハビリテーションについて大まかに自分の言葉で説明できることを目標達成の基準とする。レポート、期末試験の結果を総合して評価する
	評価の方法	本試験　８０%、レポート２０%。この割合は変更することがあります。
教科書	書籍名	入門リハビリテーション概論
	著者名	中村隆一、佐直信彦編著
	出版社	医歯薬出版
	価格	5800
	ISBN・ISSN	978-4-263-21326-1
推薦図書等	書籍名	目で見るリハビリテーション医学
	著者名	上田敏
	出版社	東京大学出版会
	価格	3800
	ISBN・ISSN	4-13-062402-4
参考URL		
備考		

リハビリテーション医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション医学
科目責任者	前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2019001　月3
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	医学的リハビリテーション，リハビリテーション評価，リハビリテーション治療
学生の到達目標	1．障害の概念，定義，分類とリハビリテーション評価について復習し，理解を深める。 2．リハビリテーション診療の実際と治療手技について学ぶ。 3．具体的な疾患における介入の仕方について学ぶ。
授業内容	第1回　リハビリテーション医学・医療の概要（目標1） 第2回　リハビリテーション診療の手順，各種の診断法（目標1･2）

	第3回	リハビリテーション治療手技（目標1･2･3）
	第4回	廃用症候群のリハビリテーション（目標1･2･3）
	第5回	褥創･排尿障害･性機能障害などのリハビリテーション（目標1･2･3）
	第6回	高次脳機能障害のリハビリテーション（目標1･2･3）
	第7回	疾患とリハビリテーション（脳血管障害　急性期）（目標1･2･3）
	第8回	疾患とリハビリテーション（脳血管障害　回復期･維持期）（目標1･2･3）
	第9回	疾患とリハビリテーション（頭部外傷）（目標1･2･3）
	第10回	疾患とリハビリテーション（脊髄損傷）（目標1･2･3）
	第11回	疾患とリハビリテーション（神経変性疾患）（目標1･2･3）
	第12回	疾患とリハビリテーション（呼吸器疾患）（目標1･2･3）
	第13回	疾患とリハビリテーション（虚血性心疾患）（目標1･2･3）
	第14回	スポーツ外傷，障害・慢性疼痛・熱傷（目標1･2･3）
	第15回	リスク管理とまとめ
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～15回、「テキスト」で授業前にシラバスの「学習項目」にあたる箇所などを前もって読んでおくこと。
	復習	第1回～15回、講義で習った範囲のことは次の回までに理解しておき、不明箇所のないようにする。
	展開	「推薦参考書」や，「国家試験問題」の参考書などで，該当箇所類似の「問題」等に挑戦すること。
成績評価	評価の基準	1．障害の概念、定義、分類とリハビリテーション評価について理解を深めたか。 2．リハビリテーション診療の実際と治療手技を習得したか。 3．具体的な疾患における介入の仕方を習得したか。 を問う。
	評価の方法	期末定期試験（100点満点）により評価（100%）。 60点以上を「合格」とし、「不合格者」には「課題」に対する「レポート」を提出させて再評価(最高60%）。
教科書	書籍名	リハビリテーション医学テキスト　改訂第3版
	著者名	三上　真弘，出江　紳一（編）
	出版社	南江堂
	価格	￥5,724E
	ISBN・ISSN	978-4-524-26202-1
推薦図書等	書籍名	わかりやすいリハビリテーション
	著者名	編集・岡島康友
	出版社	中山書店
	価格	￥4,300E
	ISBN・ISSN	978-4-521-73768-3

書籍名	最新　リハビリテーション医学　改訂第2版
著者名	監修　米本　恭三　編集　石神　重信　石田　暉　江藤　文夫　宮野　左年
出版社	医師薬出版株式会社
価格	￥6,696E
ISBN・ISSN	978-4-263-21284-4

参考URL

備考

チーム医療演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC102
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	チーム医療演習
科目責任者	中野　聡子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2020001　金1
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 チーム医療 ・地域貢献 カリキュラムポリシー　5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	チーム医療，専門職の役割，連携と協働
学生の到達目標	1．多職種連携の重要性について理解し、各医療職種の専門性、役割および責任を説明できる 2．症例に対して医療職種ごとに問題点を明確化し、理学療法士の役割と仕事を説明できる 3．グループワークを通じて、協働や連携を図り、討議の結果をプレゼンテーションできる

授業内容	第1回	チーム医療とは　(目標1)
	第2回	障害のとらえかた　ICF(目標1)
	第3回	各専門職の職域(目標1-2)
	第4回	急性期病院における理学療法士の役割(目標1-2)
	第5回	回復期病院における理学療法士の役割(目標1-2)
	第6回	地域における理学療法士の役割(目標1-2)
	第7回	看護師の仕事とチーム医療の役割(目標1-2)
	第8回	作業療法士の仕事とチーム医療の役割(目標1-2)
	第9回	言語聴覚士の仕事とチーム医療の役割(目標1-2)
	第10回	栄養士の仕事とチーム医療の役割(目標1-2)
	第11回	介護福祉士・ケアマネージャーの仕事とチーム医療の役割(目標1-2)
	第12回	チーム医療とは　グループ討議(目標1-3)
	第13回	グループによる発表(目標1-3)
	第14回	チーム医療における理学療法士像　グループ討議(目標1-3)
	第15回	グループによる発表(目標1-3)
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	各授業内容に応じてこれまでの学習を確認しておくこと。さらに、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 1回：チーム医療、多職種協働 2回：障害とは　ICFとは 3回：医療関連職種 4回：急性期病院の特徴 5回：回復期病院の特徴 6回：地域介護分野の特徴 7回：看護師 8回：作業療法士 9回：言語聴覚士 10回：栄養士 11回：介護福祉士・ケアマネージャー 12回～15回：グループにて課題を行う
	復習	チーム医療における理学療法士像について，自ら熟考すること。 各回ごとに配布資料や参考資料を熟読し、各職種の理解を深めること。 1回：チーム医療、多職種協働について理解する 2回：障害とは、ICFとはについて理解する 3回：医療関連職種を理解し、各職種の役割を整理する 4回：急性期病院の特徴を理解する 5回：回復期病院の特徴を理解する 6回：地域介護分野の特徴を理解する 7回：看護師の仕事とチーム医療の役割を理解する 8回：作業療法士の仕事とチーム医療の役割を理解する 9回：言語聴覚士の仕事とチーム医療の役割を理解する 10回：栄養士の仕事とチーム医療の役割を理解する 11回：介護福祉士・ケアマネージャーの仕事とチーム医療の役割を理解する 12回～15回：グループにて課題を討議し、発表資料を作成する
	展開	評価実習，総合臨床実習において理学療法士の役割を理解し，他職種と協働できる準備ができる。

成績評価	評価の基準	目標１．多職種連携の重要性について理解し、各医療職種の専門性、役割および責任を説明できることを合格基準とする ２．症例に対して医療職種ごとに問題点を明確化し、理学療法士の役割と仕事を説明できることを合格基準とする ３．グループワークを通じて、協働や連携を図り、討議の結果をプレゼンテーションできることを合格基準とする
	評価の方法	レポート（50%），グループ発表（50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ゲストスピーカーの都合で，1回の授業時間および日程等を変更する場合があります．教員への連絡はメールを利用すること。	

社会福祉学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC103
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	社会福祉学
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2021001　金2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力
カリキュラムポリシー	3 共生社会

授業のキーワード　社会福祉の理念，社会福祉制度，社会福祉専門職

学生の到達目標

1．私たちの生活と社会福祉を関連づけて考えることができるようになる。
2．社会福祉のしくみの特質を理解し、説明できるようになる。
3．社会福祉の現状と課題について説明できるようになる。

授業内容

第1回	現代日本の特徴と社会福祉 (目標1)
第2回	社会福祉とはなにか (目標1)

	第3回	社会福祉の歴史 (目標1,2)
	第4回	社会福祉と社会保障 (目標2)
	第5回	社会福祉援助の方法1（対人援助）（目標2)
	第6回	社会福祉援助の方法2 (地域支援)　（目標2）
	第7回	社会福祉の法と行財政（目標2）
	第8回	所得の保障と生活保護制度 (目標2,3)
	第9回	子ども家庭福祉1 (子ども家庭福祉の法律と実施体制) (目標2,3)
	第10回	子ども家庭福祉2 (児童虐待,ひとり親,女性への福祉的支援) (目標2,3)
	第11回	高齢者の生活と福祉(目標2,3)
	第12回	障害者の自立と福祉1（障害者福祉の理念と法体系）(目標2,3)
	第13回	障害者の自立と福祉2（障害者福祉の実際）(目標2,3)
	第14回	医療福祉（医療と社会福祉専門職）(目標2,3)
	第15回	社会福祉の今後の課題(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	毎回予習：次回の該当する内容をテキスト等で確認する。授業は、テキストの内容を補足する形で説明する。 第1回予習：データから社会福祉をめぐる現状について調べる。 第2回～4回予習：社会福祉の理念と基本となる枠組み、社会保障との関係について調べる。 第5回～6回予習：地域支援に当たり、自身の近隣の地域社会に関する情報収集をし、まとめる。 第7回～8回予習：生活保護に関する資料を配布し、それをもとに、生活保護制度をめぐる現状をレポートとして提出。授業でその内容の共有及びコメントを行う。 第9回～14回予習：今までに取り扱った内容を再度確認することで、それぞれの回のテーマとの関連付けを意識した予習を心掛ける。 第15回予習：今までに取り扱った内容を意識し、社会福祉の全体像をつかむ予習を心掛ける。
	復習	第1回復習：配布された資料(データ)から読み取れることを再度確認する。 第2回～4回復習：社会福祉の理念と基本となる枠組み、社会保障との関係を、授業の内容を含め再度整理をする。 第5回～6回復習：授業で行った、対人援助、地域援助の技法に関するグループワークを通して、自らの専門職としてのあり方を改めて考えてみる。 第7回～8回復習：授業の要旨に加え、生活保護制度をめぐる現状に関する資料を用いたグループワークで得られた見解を整理し、理解を深める。 第9回～14回復習：授業の要旨の作成に加え、今まで取り扱った内容を総合的に理解することを試みる。 第15回復習：社会福祉の全体像と今後の課題についての理解を、授業で示された資料等を用いて行う。
	展開	疑問点等について、他の文献等を用いてさらに理解を深め、社会福祉の全体像をつかむ。
成績評価	評価の基準	1．私たちの生活と社会福祉を関連づけて考えることができること。 2．社会福祉のしくみの特質を理解し、説明できること。 3．社会福祉の現状と課題について説明できること。
	評価の方法	平常点（期間中に課す小レポートを含む） 30%，最終レポート　70%

教科書	書籍名	よくわかる社会福祉
	著者名	山縣文治他編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-623-05740-5

推薦図書等

参考URL

備考

オフィスアワー：金曜1限
e-mail:miyashita@uekusa.ac.jp

特別支援教育概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC104
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	特別支援教育概論
科目責任者	森田　麻登
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2022001 水4,5　（第4週を除く）
教室	ゼミ室7
卒業要件	保健医療学部：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次・3年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要	不要
保育士：	不要	不要	不要
理学療法士：	選択	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　　2 障害支援

カリキュラムポリシー　　2 障害支援

授業のキーワード

特別支援教育の理念と制度，特別な教育的ニーズ、インクルーシブ教育システム，教育と医療の連携

学生の到達目標

1.特別支援教育の理念や対象とする障害について理解する。
2. 各障害の種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。
3. 医療学生として障害児(者)への教育と医療の連携について理解する。

授業内容

第1回　「特別支援教育の歴史１」－戦前の特殊教育から養護学校の義務化-(目標1,3)

第2回　「特別支援教育の歴史２」-特殊教育から特別支援教育への転換-(目標1,3)

	第3回	「視覚障害教育と聴覚障害教育」－ 視覚障害児(者)・聴覚障害(者)の特性と教育支援-((目標1,2,3)
	第4回	「肢体不自由教育,病弱教育」-肢体不自由児(者)・病児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第5回	「知的障害教育」-知的障害児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第6回	「特別支援学級や通級による指導における特別支援教育」-発達障害児(者)・情緒障害児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第7回	「インクルーシブ教育システムにおける学びと交流及び共同学習」目標（１,2,3)
	第8回	「まとめ」-個別の教育支援計画の作成・障害児(者)の家族への支援,教育と医療の連携(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	様々な情報メディアの発信する障害児(者)に関する知識をある程度整理しておく。(1回から8回)
	復習	授業で学んだ障害児(者)や特別支援教育の内容について確認しておく。(1回から8回)
	展開	理学療法学の視点から特別支援教育との連携や関連性について主体的に考えられるようになる。(1回から8回)
成績評価	評価の基準	特別支援教育について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害児（者）援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（60%），レポート/リアクションペーパー（小テスト等を含む）40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版 (有斐閣アルマ)
	著者名	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子
	出版社	有斐閣
	価格	2160円
	ISBN・ISSN	978-4641220386
	書籍名	ゼロから学べる特別支援教育 ―若い教師のための気になる子への支援入門―
	著者名	青山新吾・長瀬拓也
	出版社	明治図書
	価格	2052円
	ISBN・ISSN	978-4182335129
	書籍名	特別支援教育の基礎・基本（新訂版）
	著者名	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2916円
	ISBN・ISSN	978-4863712973
参考URL		
備考		

障害者・高齢者の福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC105
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の福祉
科目責任者	佐々木かすみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2023001　月3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力

授業のキーワード	障害者，高齢者，社会福祉，関係法規
学生の到達目標	1. 障害者・高齢者の福祉の歴史的変遷を知り，最新の動向について理解を深める。 2. 社会福祉関連法規の内容を理解し，その問題点を指摘することができる。 3. 障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割についても述べることができる。

授業内容	第1回	「障害者・高齢者の福祉の歴史的変遷と最新の動向」―社会からの迫害，相互扶助，ノーマライゼーション，福祉サービスの確立―（目標1,2,3）
	第2回	「障害者・高齢者の地域社会での生活実態」―身体・個人・社会の3つの視点による障害の概念，当事者の意見―（目標1,2,3）
	第3回	「障害者・高齢者のための社会保障」―社会保険，公的扶助，社会福祉，公衆衛生および医療―（目標1,2,3）
	第4回	「社会保険サービス」―医療保険，年金保険，雇用保険，介護保険―（目標1,2,3）
	第5回	「障害者福祉の関連法規」―児童福祉法，身体障害者福祉法，知的障碍者福祉法，精神保健福祉法―（目標1,2,3）
	第6回	「高齢者保健・医療・福祉の関連法規」―老人保健法，老人福祉法，後期高齢者医療制度―（目標1,2,3）
	第7回	「障害者自立支援制度の内容と問題点」―自立支援給付，地域生活支援事業，障害者の意見―（目標1,2,3）
	第8回	「まとめ」―障害者・高齢者の福祉の今後の課題について―（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	障害者や高齢者の福祉に関連する新書を1冊以上読んでおく。(1回から8回)
	復習	授業で学んだ社会福祉の用語や関連法規についてまとめ，必要事項を暗記する。(1回から8回)
	展開	地域のリハビリテーションと障害者や高齢者の福祉を関連させ，向上・発展させることができるようになる。(1回から8回)
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の福祉について授業で取り上げる内容が理解できていること，障害者・高齢者福祉の向上について自分自身の考え方を明確に述べることができる。
	評価の方法	試験成績（80%），課題提出状況および内容（10%），授業への参加意欲・態度（10%）
教科書	書籍名	はじめて学ぶ人のための社会福祉
	著者名	三本松政之・坂田周一
	出版社	誠信書房
	価格	1,836円
	ISBN・ISSN	978-4414601572
推薦図書等	書籍名	実践としての・科学としての社会福祉
	著者名	訓覇法子・田澤あけみ
	出版社	法律文化社
	価格	3,564円
	ISBN・ISSN	978-4589035677
参考URL		
備考		

障害者・高齢者の心理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC106
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の心理
科目責任者	佐々木かすみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2024001　月3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力

授業のキーワード	リハビリテーション，行動分析学，症例研究，生活の自立支援，高次脳機能障害
学生の到達目標	1. リハビリテーション医療が抱える問題点を解決するために必要な行動分析学の知識と技術について理解する。 2. 人間の行動を「身体－心理－社会」という多因子の側面から総合的に解明し，そこから得られた法則性を利用して人間の行動を科学的に予測・制御しようとする行動科学的アプローチを習得する。 3. 環境への介入を主体とする「行動分析学的アプローチ」という技法について一通り理解する。

授業内容	第1回	なぜ今行動分析学なのか（目標1,2,3）
	第2回	行動が学習される仕組み（目標1,2,3）
	第3回	行動の観察・記録の方法（目標1,2,3）
	第4回	症例研究の方法（目標1,2,3）
	第5回	慢性痛に対する行動分析学的アプローチ（目標1,2,3）
	第6回	生活の自立を支援するための行動分析学的アプローチ（目標1,2,3）
	第7回	高次脳機能障害に対する行動分析学的アプローチ（目標1,2,3）
	第8回	健康教育・患者教育と急性期脳卒中片麻痺患者に対する行動分析学的アプローチ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	行動分析学の考え方を理解するため，学習心理学の理論について整理しておく。(1回から8回)
	復習	行動分析学の理論は積み重ねが重要であるため，用語の理解を中心にノートにまとめる。(1回から8回)
	展開	行動分析学をリハビリテーションに応用できるように具体的な症例を想像する。(1回から8回)
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の支援のために役立つ行動分析学の基礎的知識や支援方法を理解できていること。
	評価の方法	試験成績（80%），課題提出状況および内容（10%），授業への参加意欲・態度（10%）
教科書	書籍名	メリットの法則――行動分析学・実践編
	著者名	奥田健次
	出版社	集英社
	価格	799円
	ISBN・ISSN	978-4087206647
	書籍名	プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック
	著者名	吉野智富美・吉野俊彦
	出版社	学苑社
	価格	2,700円
	ISBN・ISSN	978-4761407834
推薦図書等	書籍名	リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ―応用行動分析で運動療法とADL訓練は変わる
	著者名	山崎裕司・山本淳一 (編)
	出版社	三輪書店
	価格	3,672円
	ISBN・ISSN	978-4895904070
	書籍名	リハビリテーションのための行動分析学入門
	著者名	河合伊六・辻下守弘・小林和彦（著）

出版社	医歯薬出版
価格	3,024円
ISBN・ISSN	978-4263212974

参考URL

備考

生命倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM213
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生命倫理学
科目責任者	出雲　春明
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2025001 金3（4/28, 5/12, 5/26, 6/9, 6/16, 6/23, 7/7, 7/14）
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　1 徳育・教養

カリキュラムポリシー　1 徳育・教養

授業のキーワード

生命と倫理，医療技術の発展に伴う生命観の変化，価値判断の基準

学生の到達目標

1．現代医療をめぐる問題状況についての基礎的な知識を習得する。
2．1.に基づき自分の考えを表現することができる。
3．自分と異なる意見をもつ人々に対する理解を深める。

授業内容

第1回　ガイダンス―生命倫理学について（目標1）

第2回　生殖補助医療―人工授精，体外受精，代理母（目標1,2,3）

	第3回	ヒトゲノム計画と遺伝子診断技術（目標1,2,3）
	第4回	クローン技術と幹細胞研究（目標1,2,3）
	第5回	安楽死とホスピスケア（目標1,2,3）
	第6回	臓器移植(1)生体臓器移植（目標1,2,3）
	第7回	臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正（目標1,2,3）
	第8回	医療従事者としての責任（目標1）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　シラバスを読み、各回のテーマについての自分の知識を確認してみること。 第2回～第8回（共通）　医療をめぐる報道について日常から関心を持つこと。特に関心のあるテーマについては、書籍などの資料にあたって下調べをしておくこと。
	復習	第1回～第8回（共通）配布資料の内容を確認し、自分の考え方と照らし合わせて理解を深めること。
	展開	1．授業で得た知識を元にして、関連報道等に接する際に、ただ情報を受けいれるのではなく、批判的視座をもって考えてみること。 2．疑問がある場合、関連する図書を読むなどの手段により、その解消を図る習慣を身につけること。
成績評価	評価の基準	1．現代医療をめぐる基礎的な用語、問題の所在について説明することができる。また、関連報道などに接した際、その文脈を理解し、関心を持つことができる。 2. 1. に基づき、自分の考えを表現することができる。 3．2. を行う際に、中立性を意識し、自分と対立する意見の長所短所を踏まえて語ることができる。
	評価の方法	授業への参加態度50%，期末試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	なるべく平易な表現を用いて授業を行う。授業中に取り扱われる問題をめぐっては，様々な，そして，しばしば対立する見解が示されることになる。自分ならどの立場をとるか，対立する相手にどのように反論するか，相手の主張に傾聴すべき点があるかなどをつねに考えながら授業に臨んで欲しい。	

作業療法学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC107
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	作業療法学概論
科目責任者	白石　英樹
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2026001　金1，2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー　4 チーム医療 ・地域貢献

カリキュラムポリシー　5 チーム医療 ・地域貢献

授業のキーワード

作業療法とは？，歴史的背景，作業療法の現状，領域・病期・圏域別，自助具・福祉器機

学生の到達目標

1.作業療法の職種内容と理論が理解できる。
2.作業療法の領域別・病気別・圏域別の介入が理解できる。
3.作業療法で用いる道具(自助具）と理学療法と作業療法の協業・役割について理解できる。

授業内容

第1回　作業療法の概観について講義（目標1）

第2回　作業療法の職種内容について講義（目標1）

第3回	作業療法（日本・世界）の歴史的背景について講義（目標1）
第4回	作業療法の治療的介入の考え方及びリハビリテーション（目標1）
第5回	日本の作業療法の現状についての講義（1）（目標1）
第6回	日本の作業療法の現状についての講義（2）（目標1）
第7回	作業療法で用いている介入・治療の理論的背景について講義(目標1)
第8回	作業療法で用いている介入・治療の理論的背景について講義(目標1)
第9回	作業療法が介入する医療・福祉領域について講義(目標2)
第10回	作業療法が介入する就労支援・その他の領域について講義(目標2)
第11回	作業療法における病期（急性期・回復期・維持期・終末期）ごとの介入について講義（目標2）
第12回	作業療法における圏域（医療・福祉・介護・教育）ごとの介入について講義（目標2）
第13回	作業療法で作製・使用する自助具について講義（目標3）
第14回	作業療法で用いる福祉機器(用具)について講義（目標3）
第15回	日本及び世界の理学療法の歴史と役割・現状，作業療法との協業についてのプレゼンテーション発表(目標3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　作業療法について、自分でも事前に調べてみること及び自分の専門である理学療法との基本的な違いについて考えてみること。 第２回～15回（共通）授業中に配布した資料を基に、次回の授業内容（作業療法の内容）を確認すること。また、その授業内容に関連した理学療法についても調べて授業に臨むこと。 第15回の授業においては，日本や世界の理学療法に関する歴史的背景や役割・現状について，学生さんによるプレゼンテーション発表を行っていただきますので，資料取集など予習による準備をしておくこと。
	復習	第１回～15回（共通）　授業中に配布した資料内容を再確認し、作業療法と理学療法の違いや共通、それぞれの役割について考えてみること。 また、毎回の授業内容について「質問」や「更に聞きたいこと」をまとめておくようにすること。
	展開	作業療法のみならず，臨床で行われているチーム医療（多職種連携）に関わっている専門職種について調べ，チーム医療とはどのようなものか理解を深めるように努めること。

成績評価	評価の基準	1.　作業療法の職種内容や役割、歴史的背景、治療的理論についての理解度 2.　作業療法が行われる領域別（身障、老年、発達、精神など）や時期別（急性期、回復期、生活期など）での介入内容の違いや圏域（医療、福祉、介護など）における役割の違い等についての理解度 3.　作業療法で用いる自助具・福祉機器についての理解度と理学療法と作業療法の協業とそれぞれの役割についての理解度
	評価の方法	出席・授業への取り組む姿勢・意欲等（30%） 授業のまとめレポート（40%） 自己学習のプレゼン発表（30%） 授業において質疑応答形式による理解度の確認や授業への姿勢・意欲なども参考に評価を行う。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	
参考URL	
備考	1）授業は，「作業療法学全書改訂第3版　第1巻　作業療法概論」を基に作成した資料を印刷・配布して行います．また，授業内容に応じて必要な資料は印刷・配布をいたします． 2）他職種を理解することは，臨床現場におけるチーム医療のなかで，自身（理学療法）の役割についても明確にでき，また他職種との連携や協業ができるようになります。そのためにも，他職種の一つである作業療法について理解することは必要であり，積極的な意見や質問により作業療法をさらに知っていただければと思います。

言語聴覚学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC108
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	言語聴覚学概論
科目責任者	中山　剛志
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2027001 水3, 4, 5（5/10, 5/24, 6/7, 6/21, 6/28）
教室	講義室14
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	4 チーム医療 ・地域貢献
カリキュラムポリシー	5 チーム医療 ・地域貢献

授業のキーワード　言語聴覚療法，言語聴覚士，言語聴覚障害，摂食嚥下障害

学生の到達目標

1.言語聴覚障害の種類について名称と意味を説明できる。
2.言語聴覚障害に対する言語聴覚士の業務を説明できる。
3.摂食嚥下障害の評価技能の基礎的事項を説明できる。

授業内容

第1回	オリエンテーション，言語聴覚障害の種類を調べてみよう（1）（目標1）
第2回	言語聴覚障害の種類を調べてみよう（2）（目標1）

第3回	言語聴覚障害の種類を調べてみよう（3）（目標1）
第4回	任意の言語聴覚障害をひとつあげ、その障害に対する言語聴覚士の業務を調べてみよう（1）（目標2）
第5回	任意の言語聴覚障害をひとつあげ、その障害に対する言語聴覚士の業務を調べてみよう（2）（目標2）
第6回	任意の言語聴覚障害をひとつあげ、その障害に対する言語聴覚士の業務を調べてみよう（3）（目標2）
第7回	摂食嚥下障害について学ぼう～基礎的知識の整理～（目標3）
第8回	摂食嚥下障害について学ぼう～嚥下造影検査の解析（演習）～（1）（目標3）
第9回	摂食嚥下障害について学ぼう～嚥下造影検査の解析（演習）～（2）（目標3）
第10回	摂食嚥下障害について学ぼう～嚥下造影検査の解析（演習）～（3）（目標3）
第11回	摂食嚥下障害について学ぼう～嚥下造影検査の解析（演習）～（4）（目標3）
第12回	摂食嚥下障害について学ぼう～嚥下造影検査の解析（演習）～（5）（目標3）
第13回	言語聴覚士法、言語聴覚障害の特性、言語聴覚療法と科学、言語聴覚士とチーム医療（1）（目標1,2,3）
第14回	言語聴覚士法、言語聴覚障害の特性、言語聴覚療法と科学、言語聴覚士とチーム医療（2）（目標1,2,3）
第15回	まとめ、補足的説明、試験に関するオリエンテーション（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第6回（共通）　理学療法士になる上で、言語聴覚障害や言語聴覚士を知ることの大切さを確認し、授業に望むこと。 第7回～第12回（共通）　自身の食事の際に、正常な嚥下のパターンを意識すること。第8回以降は、正常な嚥下のパターンの項目を理解すること。 第13回～第15回（共通）　言語聴覚障害の種類、言語聴覚士の業務について、口頭で説明できるようにすること。
	復習	第1回～第15回（共通）　講義で説明したことの要旨を関連科目の知識と合わせてノートにまとめ、配布資料とともに整理し保管すること。
	展開	講義を通じて，理学療法士として必要な言語聴覚障害や言語聴覚士に関する正しい認識を深める。

成績評価	評価の基準	1.言語聴覚障害の種類について名称を5つ以上あげ、それぞれの意味を200字程度で説明できる能力があること。 2.言語聴覚障害（特に失語症）に対する言語聴覚士の業務を200字程度で説明できる能力があること。 3.正常な嚥下機能を、嚥下各期に分けて全項目を述べることができること。 さらに、これら1～3について説明する際に、誤字脱字、助詞の誤り等がないこと。
	評価の方法	記述試験またはレポートでの成績評価を行う（100%）。ただし、解答において文章作成能力に難がある場合は、1か所につき5点を試験またはレポートの得点から減点する。また、講義において受講態度に難がある場合は、本人に通告の上、通告1回につき5点を試験またはレポートの得点から減点することがある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	
参考URL	
備考	第8～12回は、各自PCが必要となる。委細は後日通知する。 連絡は教務課を通じて行うことが可能である。

救命救急医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM211
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	救命救急医学
科目責任者	武島　玲子
担当教員	大賀　優
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2028001 火4, 5（4/11, 6/20, 6/27, 7/4, 7/18）
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	2 障害支援
カリキュラムポリシー	2 障害支援

授業のキーワード	心肺蘇生法， AED，救急処置，集中治療，急性期リハビリテーション
学生の到達目標	1.救急医療を理解し，一次救命処置(AED含む)ができる。 2.ショックとは何か理解し，救急処置が理解できる。 3.救急医療と重症救急疾患の特性をリハビリテーション医学的観点から捉えることができ，急性期リハビリテーションの重要性が理解できる。

授業内容	第1回	救急医療の概論(到達目標1)
	第2回	心肺蘇生法とAED(到達目標1)
	第3回	重症救急疾患と患者管理(集中治療,救急処置,ショックなど)(到達目標1,2)
	第4回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論1(到達目標3)
	第5回	リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論2(到達目標3)
	第6回	救急医療の対象としての中枢神経疾患の種類と病態(到達目標3)
	第7回	中枢神経疾患を主とした重症救急疾患における急性期リハビリテーションの実際(到達目標3)
	第8回	総括(到達目標1～3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回：救急医療について最近の報道や話題について調べておくこと。 第２回～第７回：テーマについて準備した上で授業に臨むこと。 第８回：これまでの授業内容で不明なところを調べて理解しておくこと。
	復習	第１回：授業での配布資料の内容を理解し、保管すること。 第２回：一時救命処置について知識や技術を身につけるように努めること。 第３回～第８回：毎回の授業において、配布資料の内容を理解し、保管すること。また、救急救命医学について知識を身につけるように努めること。
	展開	救命救急医療に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．一時救命処置についての理解度と定着度 ２．基本的な救命処置ができる能力が養われていること。 ３．急性期リハビリテーションの重要性が理解できていること。
	評価の方法	試験 80%，授業への参加態度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は主に講義形式で行うが，一次救命法は，ＤＶＤを視聴しながら蘇生人形を使用し，心臓マッサージ・人工呼吸・ＡＥＤの使用を実際に行う。 医療従事者として，緊急事態を理解し，心肺蘇生法を自分一人でできるようになってほしい（武島，分担：授業計画１～３，８）。 急性期リハビリテーションの重要性を理解する一助になってほしい（大賀，分担：授業計画４～７）。	

栄養学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM214
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	栄養学
科目責任者	梅村　詩子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2029001　木3
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	人体，栄養素，食品、生活習慣病、栄養管理
学生の到達目標	1.人体の仕組みを人体の構成成分、消化吸収、ホメオスタシス、代謝などから理解する。 2.食品の分類,食品に含まれる栄養素について理解する。また栄養素の機能、役割等各栄養素の栄養学的意義を理解する。 3．成人期や高齢期の特性、病態、栄養管理を理解する。生活習慣病、メタボさら低栄養、サルコペニア、ロコモティブシンドローム等の主な疾病の栄養管理を理解する。

授業内容	第1回	1．人体の仕組み－人体の構成成分、消化吸収、ホメオスタシス等(目標1)
	第2回	2．食品と栄養－食品の分類（食品群）と栄養素(目標2)－
	第3回	3．栄養素の栄養学的役割と多く含まれる食品 （1）炭水化物、脂質（目標2)
	第4回	（2）たんぱく質(目標2)
	第5回	（3）無機質(目標2)
	第6回	（4）ビタミン(目標2)
	第7回	4．成人期、高齢期の特性と栄養管理(目標3) （1）成人期や高齢期の特性、メタボリックシンドローム、生活習慣病の栄養管理
	第8回	（2）主な疾病の栄養管理 －低栄養、サルコペニア、ロコモティブシンドローム等の栄養管理
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回：自分の体は何でできているか、また摂取した食物はどのように消化しているかを考えたり、調べて見ること。 第２～７回：教科書の中の講義予定の“内容”のページにあらかじめ目を通し、その日の授業はどの様な“内容”か概略を理解しておくこと。 第８回：主な疾病は各自調べておくこと。
	復習	第１～８回 1．授業の中でわからなかったり，理解できなかったキーワード、内容は教科書、参考書で調べてみること。（さらに次回質問してください） 2．レジュメでまとめた内容を確認すること。特に各栄養素の栄養学的意義や含まれる食品は復習し、覚えておくこと。
	展開	1．栄養や食品の基礎知識、疾病の栄養管理の知識を理解し、NST、リハビリﾃｰｼｮﾝ実施時に役立ててください。 2．各自の食生活の見直しに繋げてください。
成績評価	評価の基準	1．人体の構成成分、食物の化学的消化を理解していること。 2．食品の種類、それらに含まれる各栄養素について理解していること。また各栄養素の栄養学的意義を理解していること。 3．成人期以降のライフステージの特性や生活習慣病、その他の疾病について理解していること。
	評価の方法	評価の基準に基づき、筆記試験（100%）で評価します。
教科書	書籍名	保健・医療・福祉のための栄養学
	著者名	渡邊　早苗、寺本　房子、丸山　千寿子編
	出版社	医師薬出版株式会社
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-263-70459-2
推薦図書等	書籍名	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎
	著者名	栢下　淳、若林　秀隆編著
	出版社	医師薬出版株式会社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4263214381

参考URL	
備考	担当教員から：自己の健康管理はもちろん、将来のリハビリテーションやNSTの仕事にも役立つ様に、栄養、食品や疾病の栄養管理の基本知識をしっかり学んでください。

公衆衛生学・衛生学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM212
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	公衆衛生学・衛生学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2030001　火2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力 4 チーム医療 ・地域貢献
	カリキュラムポリシー	5 チーム医療 ・地域貢献 6 科学的思考の形成と発展
授業のキーワード	公衆衛生と集団の医学,1次・2次・3次予防，疫学・保健統計，環境，疾病予防と保健行政	
学生の到達目標	1.公衆衛生の概念,意義を学び,公衆衛生活動の概略を説明, 1次・2次・3次予防の概念,保健統計,疫学的方法論を会得る。 2.人間を取り巻く環境の健康影響・保全・対策等について説明し,疾病予防と健康管理について,感染症を含む主疾病の予防について説明する。さらに食品保健,国民栄養・健康増進,地域保健,精神保健,保健行政,医療関連法規等を説明する。 3.ライフサイクルと健康管理,母子保健,学校保健,成人・老人保健,産業保健,国際保健について説明する.また,災害時や社会病理を学び、社会の真の健康に対して理解し説明する。	

授業内容	第1回	公衆衛生学の概念【歴史,疾病の進展と予防の段階】(目標1)
	第2回	公衆衛生活動の特徴【プライマリヘルスケア,ヘルスプロモーションの展開】(目標1,2)
	第3回	人口統計【人口動態,死亡統計,統計指標】(目標1)
	第4回	疫学の考え方と事例【疾病解明の方法論】(目標1) (角友起)
	第5回	物理・化学的環境【大気,上水・下水,水質汚濁と健康】 環境保全と公害【環境保全】 (目標2)
	第6回	生物学的環境と健康【微生物,有害動物】 生活環境衛生【住居,衣服,廃棄物等】 (目標2)
	第7回	社会的環境と健康【労働環境,労働災害】 産業保健【産業保健,職業病】(目標2,3)
	第8回	感染症とその対策【感染症の成立,感染症予防法,結核・感染症情報事業】(目標2,3)
	第9回	食品保健【食品衛生法,食中毒,食品,添加物】 国民栄養【食事摂取基準,国民栄養調査】 (目標2)
	第10回	ライフサイクルと健康【母子保健,学校保健,健康教育,健康増進】(目標2,3)
	第11回	ライフサイクルと健康【成人保健,老人保健,生活習慣病の予防】(目標3)
	第12回	精神保健,法と医【精神保健,精神障害,精神保健対策,社会病理と対策,異状死等】 (目標2,3)
	第13回	保健行政【保健行政】 保健行政関連法規【関連法規】(目標2)
	第14回	国際保健,緊急時の救援医療【災害医療,救援医療】(目標3)
	第15回	まとめ,個人あるいはグループ発表と総括(目標1～3)

予習・復習の内容 (毎回90分程度)	予習	1.前日までに,各回ごとの用語を確認し,テキスト参考書などで事前の知識を得る。 2. テキストは理解しやすいので、該当部分を読んでおくこと。関連法規を学習しておくこと。
	復習	1. テキストおよびプリントで授業内容を確認復習しておくこと。 2.特定の用語について確認しておくこと。
	展開	1.公衆衛生学関係法規は多岐にわたり、集団の医学を会得するためには広範な知識と深い思考の上に成り立つことに鑑み、リハビリテーションを専攻、従事するために、どのように公衆衛生活動を展開するか実践することと結びつけて行く。

成績評価	評価の基準	公衆衛生学・衛生学の概念，我が国における問題点および問題解決に繋がる方法論の基礎が理解できているか，さらに地域における疾病予防，保健活動，予防医学，健康増進，健康な社会に対する考え方が医療職を目指すものとして明確にできているかを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（ 80%），積極的参加度（ 5%），レポート等（ 15%）による。

教科書	書籍名	シンプル衛生公衆衛生学2016
	著者名	鈴木庄亮ら
	出版社	南江堂
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	9784524253586

推薦図書等

書籍名	公衆衛生マニュアル2015
著者名	柳川　洋　ら
出版社	南山堂
価格	5500円+税
ISBN・ISSN	978-4-525-18739-2

書籍名	やさしい疫学－疫学への招待－　　改訂　版
著者名	日本疫学会
出版社	南江堂
価格	2000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-524-26086-7

参考URL

備考

医療職にとってリハビリテーションの専門性を身につける上で大切な公衆衛生学について，広く予防医学の基礎を理解し，医療職のあり方について学び，理解を深めます。広い学問分野ですから，予習復習に心がけてください。オフィスアワーについては連絡してください。

病原微生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM210
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病原微生物学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2031001　火3
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力 5 科学的思考の形成と発展
カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 4 臨床実践能力評価

授業のキーワード　細菌，真菌，ウイルス，感染と発症，感染防御と免疫，

学生の到達目標

1.主たる病原微生物の概念,感染・発症,さらに生体と病原微 生物の相互関係を理解する。 病原微生物総論と各論を学修,感染,発症,治療について理解する。
2.新興感染症や再興感染症,院内感染や日和見感染等の概念を理解し,感染に対する医療職の役割および感染と予防対策に関する理論と実際を学ぶ。感染症にかかわるわが国の法律,行政を理解し,説明,応用できる。
3.生体防御機構としての免疫の概念,役割と機構を解説する。
体液性免疫,細胞性免疫 ,免疫反応による感染防御や移植免疫,腫瘍免疫とがん治療について理解する。

授業内容	第1回	病原微生物の定義,歴史,種類と分類【細菌,ウイルス,真菌,原虫】 形態と構造【原核生物,真核生物,球菌,桿菌,芽胞,ベン毛,核 ,プラスミド】 微生物の【グラム染色,同定,命名】(目標1,2)
	第2回	微生物の増殖 微生物の生理【培養, pH,酸素,増殖曲線】 微生物の培養と保存【好気,嫌気,微好気,二酸化炭素,発酵,培地,凍結乾燥】(目標1)
	第3回	微生物の代謝 微生物の生化学【糖・脂質代謝,代謝回路】 微生物の遺伝【病原性ゲノム】 (目標1)
	第4回	感染防御機構と宿主【宿主生体反応】(目標1,2,3)
	第5回	微生物の滅菌と殺菌,消毒,病原細菌【グラム陽性球・桿菌,グラム陰性球・桿菌,腸内細菌,スピロヘータ】(目標1,2)
	第6回	病原細菌【嫌気性菌,抗酸菌,芽胞菌,マイコプラズマ,クラミジア,リケッチア】(目標1)
	第7回	病原真菌【表在性真菌,深在性真菌】(小纏め)(目標1,2)
	第8回	病原ウイルス,その他の病原微生物【 RNAウイルス, DNAウイルス,原虫,寄生虫,その他プリオン等】(目標1,2)
	第9回	病原微生物と化学療法【薬剤耐性菌】(目標1,2,3)
	第10回	感染症予防対策【感染症法,結核予防法】 予防法【予防接種,ワクチン】(目標1,2,3)
	第11回	免疫学の概要【自然免疫(急性期蛋白,補体,インターフェロン,食細胞,),自己免疫疾患,獲得免疫,免疫寛容】(目標1,3)
	第12回	B細胞の分化と抗体の多様性【 B細胞受容体, IgD,IgM,IgG,IgA,IgE,TH2サイトカイン】 T細胞の認識と MHCの多様性【 MHC,T細胞受容体,抗原提示細胞, NK細胞,ヘルパー T,キラー T】(目標1,3)
	第13回	自己免疫疾患と免疫寛容【 Ⅰ型アレルギー, Ⅱ型アレルギー, Ⅲ型アレルギー, Ⅳ型アレルギー,トレランス,先天性免疫不全,後天性免疫不全】(目標1,3)
	第14回	日和見感染と予防【院内感染,易感染宿主】(目標1,2,3)
	第15回	まとめ,個人およびグループ発表と総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	1.前日までに,各回ごとの用語を確認、調べておく。 2.テキストの相当部分を読んでおくこと。
	復習	1.各回ごとに,テキストおよびプリントで授業の内容を確認し,整理しておくこと. 2.授業で特出した病原微生物について,リスト作成,確認する。
	展開	感染症と対策に対する正確な理解によって、医療現場における安全対策への問題解決能力を養う。 特に、理解の進行に併せて生菌を用いた観察、実験、自らが採取する微生物の生態、医療現場における感染予防対策などを応用できるようにする。
成績評価	評価の基準	病原微生物の概念と種類，感染と発症，生体との相互関係の基礎を理解しているか，医療職としての感染防御に対する問題解決方法を説明・実践することが可能かなど評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（ 80%），レポート（ 10%），平常時の積極的参加態度（ 10%）等による。
教科書		
	書籍名	微生物学・感染看護学-微生物から感染防止を考える-
	著者名	岡田忍、小池和子、白澤浩ら
	出版社	医歯薬出版株式会社

	価格	2600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-23583-6

推薦図書等	書籍名	系統看護学講座　微生物学　疾病の成り立ちと回復の促進
	著者名	南嶋洋一、吉田真一
	出版社	医学書院
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	984-4-260-00673-6
	書籍名	コンパクト微生物学
	著者名	小熊恵二、堀田博 (改訂第4版)
	出版社	南江堂
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-524-26537-4
	書籍名	MICROBIOLOGY
	著者名	J.G.BLACK
	出版社	John Wiley & Sons,Inc
	価格	
	ISBN・ISSN	0-471-38729-0

参考URL	
備考	原則として生物学を履修していること。エボラ出血熱、MERSの流行に驚き、デング熱や新型インフルエンザ、ノロウイルスや日和見感染に悩まされる今日，医療職として種々の感染症を正しく知り，何をなすべきかを理解しましょう。スライドを主として DVDなどを使って理解を助けます。オフィスアワーでなくとも声をかけてください。

生化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM211
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生化学
科目責任者	芦野　洋美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2032001　火2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成

授業のキーワード	生体成分・生合成・代謝・遺伝子・生命の維持
学生の到達目標	1．身体の構成成分や細胞の構造の化学的組成・分子的レベルの成り立ちを把握する。 2．生命維持と調節の精緻で膨大な反応を学び、複雑な制御機構の統合体としての生命を理解する。 3．疾患の予防と治療には生化学的解析が必須であり、現代医療の原点であることを理解する。

授業内容

第1回	生体の構成要素・細胞の基本構造と機能(目標1)
第2回	生体成分の構造と機能1-糖・脂質(目標1)
第3回	生体成分の構造と機能2-アミノ酸・タンパク質・核酸(目標1)
第4回	生体成分の構造と機能3-ビタミン および 代謝1-酵素と代謝(目標1,2)
第5回	代謝2-糖質の代謝(目標2)
第6回	代謝3-脂質・アミノ酸・タンパク質の代謝(目標2)
第7回	代謝4-代謝総括 および 酸・塩基平衡(目標2)
第8回	核酸とタンパク質の生合成(目標2)
第9回	遺伝の生化学(目標2,3)
第10回	ホメオスタシスとホルモン1-ホルモンの分類,作用機序,各論(下垂体/甲状腺等)(目標2,3)
第11回	ホメオスタシスとホルモン2-各論(副腎/性腺/プロスタノイド等)および 臓器の生化学1-循環器系・呼吸器系・消化器系(目標2,3)
第12回	臓器の生化学2-泌尿器系・神経系・血液(目標2,3)
第13回	がんの生化学(発がん機序/転移/治療と予防等)(目標2,3)
第14回	免疫の生化学(目標2,3)
第15回	骨・軟骨の生化学(骨吸収/骨形成/リモデリング等)(目標2,3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	第1回～第15回（共通）テーマに関係する高校までの生物，および１年次生物学の知識を見直しておくこと。高校までの化学のレベルに関係なく理解可能なように授業を展開していくが，充分な吸収を促すため各回の教科書内容に眼を通しておくこと。また科学的思考の育成につながるので、生活や臨床のどのような場で生化学が役立っているか，日常から関心を持つこと。
復習	第1回～第15回（共通）その日の重要なポイントが理解できるようプリントを配り記入提出してもらうが、授業資料中にも同プリントを入れておくので，当日再度復習すること。次週返却後も必ず不明点がないか確かめ，２回の復習により徹底して授業内容を理解し身につけること。
展開	生化学は単元ごとに独立した内容ではなく積み重ねであるため、初期の基礎的な部分を充分復習しながら授業の進行に臨むこと。それにより、中期、後期の分子レベルの解析、疾患の解明や治療の現況に対する理解が速くまた深まる。更に国家試験への対策ともなる。

成績評価

評価の基準	１．身体の構成成分や細胞の化学的組成・分子レベルの成り立ちを把握できたか、提出プリント、期末試験で評価する。 ２．生命維持と調節を司る反応及び制御機構の統合体としての生命を理解できたか、提出プリント、期末試験の他に短文を書かせ、到達度を評価する。 ３．疾患の予防と治療に必須な生化学的解析が、現代医療の原点であることを真に理解できたか、期末試験と期末レポートで評価する。
評価の方法	期末試験とレポートおよび平常点によって評価する。比率は概ね，期末筆記試験40%，レポート30%，平常点30%で，これらの成績を総合する。

教科書

書籍名	コンパクト生化学　改訂第３版
著者名	大久保岩男／賀佐伸省著

	出版社	南江堂
	価格	2,160円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-524-26226-7

推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ生化学 改訂第２版
	著者名	奥恒行／山田和彦著
	出版社	南江堂
	価格	2,700円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-524-26774-3

参考URL	
備考	生化学の学問領域は広く，日々発展し続けながら医療に貢献している。本講義では親しみ易い日常的な事例を通して理解し易く説明し，生化学の基本的重要点を半期１５回で一通り身につけられるように進めていく。生体における様々な反応の動的な連続性と維持，調節の緻密さ，生命と種の存続の本質を理解しつつ，医療職において，身体の仕組みの生化学的認識が重要であることを，実感して欲しい。

看護学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC109
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	看護学
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2033001　木3
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養
カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 5 チーム医療 ・地域貢献

授業のキーワード	ヘルスケア，コメディカル，専門職，連携

学生の到達目標

1．利用者を中心とした看護の役割を理解する。
2．看護職と利用者の関わりから,コメディカルスタッフの役割を理解する。
3．専門職として、看護との連携のあり方を理解する。

授業内容

第1回	看護の目的,方法,対象について(目標1)
第2回	保健・医療・福祉における看護の役割,看護と関係のある法律(目標1)

	第3回	ヘルスケアの主体としての人間と看護の関わり(目標2)
	第4回	健康の定義と看護職の役割(目標1)
	第5回	急性期・回復期・終末期の看護（目標1,2,3）
	第6回	小児・母性・成人・老人の各期の看護(目標1)
	第7回	精神科看護・在宅看護・地域看護の特徴およびそれらを利用する人々を支える職種(目標2,3)
	第8回	他職種との連携,看護の果たす役割(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　実習や，今までの経験のなかから，患者さんと看護職との関わりを見て，考えたこと・感じたことをまとめておく。 第2回～第8回　次回のテーマと内容について新聞や図書を参考に準備しておく。
	復習	第1回～第8回（共通）　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。レポート課題を提出すること。期間中に３回程度。返却後，気付いたこと，不足していることを加筆しておくこと。
	展開	看護の基礎、看護概論などのテキストを調べ，保健医療チームの中の看護の役割理解を深める。理学療法との相違を意識する。
成績評価	評価の基準	１．健康の各期における看護職の役割を述べられる。 ２．利用者を中心としたコメディカルスタッフ間の連携の仕方について事例を挙げて延べられる。 ３．理学療法士として看護職と連携をとる意義、内容の理解度によって評価する。
	評価の方法	授業への参加態度10%，レポート30%，試験60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

安全管理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM210
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	安全管理論
科目責任者	武島　玲子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2034001 火4, 5（4/11, 5/9, 5/16, 5/30, 7/18）
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	医療安全，ヒヤリ・ハット（インシデント）報告，安全管理
学生の到達目標	1.安全管理（医療安全）を理解し，医療事故に対するリスクマネジメントができる。 2.ヒヤリ・ハット報告・事故報告を理解し，それらの報告ができ，事例を分析できる。 3.医療事故予防対策を考えることができる。

授業内容	第1回	安全管理（医療安全）の概論-医療環境と医療事故(到達目標1)
	第2回	安全管理の必要性・重要性の理解(組織のマネジメント)(到達目標1)
	第3回	事故発生のメカニズムと防止対策(到達目標1,3)
	第4回	事故分析(分析手法)(到達目標2)
	第5回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法1-事例の提示とグループ演習(到達目標2)
	第6回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法2－グループ演習と発表(到達目標2)
	第7回	医療環境と事故予防,医療事故防止のための安全管理のあり方(到達目標1,3)
	第8回	総括(到達目標1～3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回：医療安全に関する最近の報道について調べておくこと。 第１回～第７回：次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。 第８回：安全管理に関する自分の考えをまとめて授業に臨むこと。
	復習	第１回～第８回：毎回の授業において、配布資料の内容を確認し、保管すること。また授業での内容で不明な点は自分で調べて、理解するように努めること。
	展開	患者安全に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．安全管理（医療安全）の理解度、およびリスクマネジメント能力の定着度。 ２．ヒヤリ・ハット・事故報告についての理解度と事故分析能力の定着度。 ３．予防策を作る能力が養われていること。
	評価の方法	試験 70%，授業への参加態度 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は講義形式で行うが，ヒヤリ・ハット報告，事故報告の分析はグループ学習を実施し，その発表会を行う。 安全管理（医療安全）を理解し，実践できる医療従事者になってほしい。	

放射線医科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM213
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	放射線医科学
科目責任者	阿部　慎司
担当教員	石森　佳幸 對間　博之 布施　拓 川村　拓 中島　絵梨華
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2076001 月5（4/10, 4/17, 4/24, 5/1, 5/8, 5/15） 火1（5/23, 5/30）
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　2 障害支援 カリキュラムポリシー　2 障害支援
授業のキーワード	放射線の性質，画像診断技術，核医学検査技術，放射線治療技術，放射線安全管理

学生の到達目標	1.医学に利用される放射線の基本的な特性について理解できるようになる。 2.放射線医学の概要について理解できるようになる。 3.放射線防護,放射線管理の概要について理解できるようになる。
授業内容	第1回　放射線に関する基本的性質と放射線医学の変遷(目標1) 担当教員: 阿部　慎司 第2回　X線撮影技術と画像診断(X線装置,X線単純・造影撮影,造影剤,X線CT撮影)(目標2) 担当教員: 川村　拓 第3回　X線CT検査と画像診断(X線CT装置,X線CT検査(頭部・脳,胸部,腹部等)(目標2) 担当教員: 川村　拓 第4回　磁気共鳴映像法の原理(目標2) 担当教員: 石森　佳幸 第5回　各種磁気共鳴映像法とその臨床的意義(目標2) 担当教員: 石森　佳幸 第6回　核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義(目標2) 担当教員: 對間　博之 第7回　放射線治療の概要と様々な治療法(目標2) 担当教員: 布施　拓 第8回　超音波検査法の概要と放射線安全管理(目標2,3) 担当教員: 中島　絵梨華
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　第1回　医療と放射線のかかわりについて調べ、概要を把握してから授業に臨むこと。 第2～8回　配布する資料や参考書により各テーマに関連する内容について予習をすること。 復習　第１～8回　授業で配布する資料を中心に復習し、学んだ知識の修得に努めること。 展開　放射線医科学に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準　1.放射線の基本的な特性についての理解度 2.放射線医学の概要についての理解度 3.放射線防護,放射線管理の概要についての理解度 評価の方法　試験（100%）による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　診療放射線技術　上・下 著者名　山下一也　他　編集 出版社　南江堂 価格　7,344円（上巻、下巻とも同じ価格） ISBN・ISSN　上巻：978-4-524-26324-0，下巻：978-4-524-26325-7
参考URL	公益社団法人 日本診療放射線技師会　http://www.jart.jp/
備考	

理学療法学概論Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論Ⅰ
科目責任者	前田　哲男
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2035101　金4
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	大学　法律　理学療法　入門
学生の到達目標	1．理学療法（士）について主体的に知る勉強法を実践できる。 2．クラスメートの気持ちに寄り添い，共同して勉強が行える。 3．患者さんの動作の原因の中で物理的なことについては説明できる。
授業内容	第1回　理学療法学概論Ⅰ・Ⅱの授業の行い方（目標1,2,3） 第2回　ジグソー法（前田改変）１回目の大項目の提示（目標1）

第3回	各グループで中項目を検討する（目標1,2）
第4回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第5回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分達の言葉でまとめ，白板に書く（目標1,2）
第6回	宿題で行っていた「体が不自由な人のバイオニクス」に関する質問と解説を行う（目標３）
第7回	２回目大項目の提示 学生が質問をグループ別に考え，白板に書く。それに関し教員が解説する（目標1,2）
第8回	各グループで中項目を検討する（目標1,2）
第9回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第10回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分たちの言葉でまとめ，白板に書く（目標1,2）
第11回	宿題で行っていた「体が不自由な人のバイオニクス」に関する質問と解説を行う（目標3）
第12回	３回目大項目の提示 学生が質問をグループ別に考え，白板に書く。それに関し教員が説明する（目標1,2）
第13回	各グループで中項目を検討する（目標1,2）
第14回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第15回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分たちの言葉でまとめ白板に書く（目標1,2）

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	１．教科書「理学療法学概説」を２週で１章を読み，レポートを提出する（第1～15回共通）。 ２．各項目についてグループで検討する（第1～15回共通）。（具体的内容は授業で説明する） ３．教科書「解いてなっとく使えるバイオメカニクス」を１日１問行い，質問をノートに書いておく（第1～15回共通）。
	復習	分からなかった事項をノートに書き，授業時間やメールでの質問コーナーで質問する（第1～15回共通）。
	展開	クラスメートとこの授業の内容について話し合う（第1～15回共通）。

成績評価	評価の基準	１．理学療法学が理解できている ２．グループで勉強できた ３．患者さん特有の動作を物理的に理解できている
	評価の方法	レポート60%，質問の質20%，授業への参加度（討論内容，白板への板書）20%

教科書

書籍名	理学療法学概説
著者名	奈良　勲 監
出版社	医学書院
価格	税込5,832円
ISBN・ISSN	978-4-260-01336-9

書籍名	解いてなっとく　使えるバイオメカニクス
著者名	前田　哲男 著

出版社	医学書院
価格	税込3,780円
ISBN・ISSN	978-4-260-02161-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	１．１コマの授業の中でグループ学習，学生間の討論，白板へのプレゼンテーション，学生からの質問への解説をほぼ毎回行う。 ２．教員の研究室の電話番号とメールアドレスは授業時間内で教える。 ３．オフィスアワーも授業時間内に知らせる。

理学療法学概論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP202
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論Ⅱ
科目責任者	前田　哲男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2037101　火3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	法律　理学療法　発展
学生の到達目標	1．理学療法（士）について主体的に知る勉強法を自ら実践できる。 2．クラスメートの心に寄り添い,積極的に共同して勉強が行える。 3．患者さんの動作の原因の中で物理的なことについては詳しく説明できる。
授業内容	第1回　ジグソー法（前田改変）１回目の大項目の提示（目標1） 第2回　各グループで中項目を検討する（目標1,2）

第3回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第4回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分達の言葉でまとめ，白板に書く（目標1,2）
第5回	宿題で行っていた「体が不自由な人のバイオニクス」に関する質問と解説を行う（目標３）
第6回	２回目大項目の提示 学生が質問をグループ別に考え，白板に書く。それに関し教員が解説する（目標1,2）
第7回	各グループで中項目を検討する（目標1,2）
第8回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第9回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分たちの言葉でまとめ，白板に書く（目標1,2）
第10回	宿題で行っていた「体が不自由な人のバイオニクス」に関する質問と解説を行う（目標3）
第11回	３回目大項目の提示 学生が質問をグループ別に考え，白板に書く。それに関し教員が説明する（目標1,2）
第12回	各グループで中項目を検討する（目標1,2）
第13回	グループ内で中項目に対応する小項目を検討する（目標1,2）
第14回	各自が調べてきた小項目をグループ内で発表し，大項目について自分たちの言葉でまとめ白板に書く（目標1,2）
第15回	宿題で行っていた「体が不自由な人のバイオニクス」に関する質問と解説を行う（目標3）

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	１．教科書「理学療法学概説」を２週で１章を読み，レポートを提出する（第1～15共通）。 ２．各項目についてグループで検討する（具体的内容は授業で説明する）（第1～15共通）。 ３．教科書「解いてなっとく使えるバイオメカニクス」を１日１問行い，質問をノートに書いておく（第1～15共通）
	復習	分からなかった事項をノートに書き，先ずは自分で調べ,それでも分からないことを授業時間やメールでの質問コーナーで質問する（第1～15共通）。
	展開	クラスメートとこの授業の内容について議論する（第1～15共通）。

成績評価	評価の基準	１．理学療法学を理解している。 ２．グループで学習できた。 ３．体が不自由な人特有な動作を力学的に理解している。
	評価の方法	レポート60%，質問の質20%，授業への参加度（討論内容，白板への板書）20%

教科書

書籍名	理学療法学概説
著者名	奈良　勲 監
出版社	医学書院
価格	税込5,832円
ISBN・ISSN	78-4-260-01336-9

書籍名	解いてなっとく　使えるバイオメカニクス
著者名	前田　哲男 著
出版社	医学書院
価格	税込3,780円
ISBN・ISSN	978-4-260-02161-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	1．１コマの授業の中でグループ学習，学生間の討論，白板へのプレゼンテーション，学生からの質問への解説をほぼ毎回行う。 2．教員の研究室の電話番号とメールアドレスは授業時間内で教える。 3．オフィスアワーも授業時間内に知らせる。

高齢者理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT314
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高齢者理学療法学
科目責任者	永原　久栄
担当教員	小林　量作
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2036001 木3（7/28～12/7）
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	老化、健康増進、介護予防、ロコモ症候群、高齢者認知機能、	
学生の到達目標	１．超高齢社会の医学的・社会的課題と理学療法の基本的考え方を修得できている。 ２．在宅高齢者の健康増進，介護予防に対応する理学療法の知識を修得できている。 ３．病院・施設での高齢者対象の理学療法について理解している。	

授業内容	第1回	加齢と老化、高齢者の身体的特徴（目標1,2）
	第2回	高齢者生理機能・身体機能（目標1,2）
	第3回	高齢者認知機能（目標1,2）
	第4回	介護予防とロコモ症候群（目標1,2,3）
	第5回	高齢者リスク管理（目標1,2,3）
	第6回	高齢者の転倒・骨折（目標1,2,3）
	第7回	高齢者の排泄障害（目標1,2,3）
	第8回	高齢者と地域ケアシステム（目標1、2、3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	教科書の該当ページに目を通し、キーワードをチエックしてくる。 第2回高齢者生理機能・身体機能　教科書Ｉ、2,　　第3回　高齢者認知機能　教科書4章 第4回　介護予防とロコモ症候群　　教科書5章 第５回　高齢者リスク管理　教科書6章 第6回　　高齢者の転倒・骨折教科書７，８章 第7回　高齢者の排泄障害　教科書11-13章 第8回高齢者と地域ケアシステム　教科書14,１５章
	復習	配布資料に授業中に各自加筆したものをさらに整理し、自分の文章としてまとめ、理解する　授業中に口頭質疑で確認する。 第1回　加齢と老化、高齢者の身体的特徴 第2回　高齢者生理機能・身体機能 第3回　高齢者認知機能 第4回　介護予防とロコモ症候群 第５回　高齢者リスク管理 第6回　　高齢者の転倒・骨折 第7回　高齢者の排泄障害 第8回　高齢者と地域ケアシステム
	展開	これまでの専門科目との関連を理解する。
成績評価	評価の基準	超高齢社会の理学療法の基本的考え方を修得できている。健康増進，介護予防に対応する理学療法の知識を修得できている。
	評価の方法	定期試験100%.
教科書	書籍名	高齢者理学療法学テキスト
	著者名	山田和政、小松泰喜、木村勉（編集）
	出版社	南江堂
	価格	3800
	ISBN・ISSN	978-4524257836
推薦図書等		
参考URL		
備考		

運動療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学
科目責任者	千葉　諭
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2049101 金4
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	運動療法　筋の働き　リスク管理
学生の到達目標	目標1：運動療法の目的と運動療法の原理原則を理解する。 目標2：各種障害に対する適切な運動療法を選択し、説明できる。 目標3：運動療法を行う上でのリスク管理について説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション　運動療法の概念(目標1,2,3) 第2回　運動に関連する骨,関節の構造と機能(目標1)

	第3回	運動に関連する骨,関節の構造と機能(目標1)
	第4回	運動に関連する筋の構造と機能(目標1)
	第5回	運動に関連する筋の構造と機能(目標1)
	第6回	運動に関連する神経の構造と機能(目標1)
	第7回	関節可動域制限に対する運動療法(目標1,2,3)
	第8回	関節可動域制限に対する運動療法(目標1,2,3)
	第9回	筋力低下に対する運動療法(目標1,2,3)
	第10回	運動と呼吸・循環・代謝機能(目標1,2,3)
	第11回	運動と呼吸・循環・代謝機能(目標1,2,3)
	第12回	持久力低下に対する運動療法(目標1,2,3)
	第13回	運動制御と運動学習(目標1)
	第14回	運動制御と運動学習(目標1)
	第15回	発達・老化と運動機能(目標1)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～15回： 教科書の該当の範囲を一読する。 運動学・生理学・解剖学の該当範囲を復習する。
	復習	第1～15回： 講義範囲が広いため、各講義の復習を実施する。 復習プリントの提出。
	展開	運動療法学実習につながる基礎知識を養う。 理学療法基礎科目で学んだ内容を統合する。
成績評価	評価の基準	目標1：運動療法の目的と原理原則を、解剖学・生理学・運動学に基づき説明できることを合格基準とする。 目標2：各種障害に対して適切な運動療法を選択し、説明できることを合格基準とする。 目標3：運動療法を実施するにあたり留意すべきリスクについて説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末試験100%で評価する。
教科書	書籍名	運動療法学－障害別アプローチの理論と実際　第2版
	著者名	市橋則明　編集
	出版社	文光堂
	価格	7 ,000円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-8306-4503-7
推薦図書等	書籍名	運動療法学　総論
	著者名	吉尾雅春　編集
	出版社	医学書院
	価格	4,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-260-00898-3

書籍名	コメディカル専門基礎科目シリーズ　生理学
著者名	桑名俊一・荒田晶子
出版社	理工図書
価格	5,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-844-60848-6

書籍名	基礎運動学　第6版補訂
著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
出版社	医歯薬出版
価格	本体 6,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3

参考URL	
備考	運動療法は運動学，解剖学，生理学そして物理学を基本として成り立っている分野である。同時進行している該当科目の復習を行い，講義に臨んで欲しい。 *オフィスアワー：月曜2限、金曜5限 *e-mail：s-chiba@uekusa.ac.jp

運動療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT202
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学実習
科目責任者	上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2038101　金1，2
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	運動療法　関節可動域運動　筋力増強運動
学生の到達目標	1．運動療法の原理原則を理解する 2．治療方法の目的と，各種障害に対する運動療法の目的を理解する 3．各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション。運動療法に必要な基礎知識とリスク管理について理解，実演できる（目標1）

	第2回	関節可動域制限に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法について，ストレッチングについて実演できる（目標2,3）
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法について，ストレッチングについて実演できる（目標2,3）
	第5回	筋力低下および筋持久力低下に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第6回	全身持久力低下に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第7回	各運動療法による身体への効果について課題を設定し，実施計画を立てる（目標2,3）
	第8回	姿勢保持、基本動作に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第9回	歩行動作に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第10回	ADL動作に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第11回	各運動療法による身体への効果について成果をまとめる（目標2,3）
	第12回	各運動療法による身体への効果について報告する（目標2,3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	1年時に学習した解剖学，生理学，運動療法学を基盤に授業を進めるため，十分に理解しておくこと。 第１回～１２回：教科書の中の該当箇所を一読し疑問を抽出しておく。
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また理解不十分な箇所は，教員に質問して課題を残さないようにすること。 第１回～１２回：実習が主なため、記録に残すこと。また臨床実習の際に活用出来る様、実技練習を行っておくこと。
	展開	学生同士で実技を中心に行っていくため，健常者の状態を十分に把握する。将来的には疾患を有する症例に対して，理学療法を提供できる様展開していく。
成績評価	評価の基準	目標１．運動療法の原理原則を理解することを合格基準とする 目標２．治療方法の目的と，各種障害に対する運動療法の目的を理解することを合格基準とする 目標３．各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できることを合格基準とする
	評価の方法	提出レポート及び期末試験（実技試験と筆記試験）で評価する。 提出レポート30%（初期，最終），発表40%，期末試験30%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	運動療法学ー障害別アプローチの理論と実際　第２版
	著者名	市橋則明　編集
	出版社	文光堂
	価格	7,560円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-8306-4503-7

推薦図書等	書籍名	運動療法学　改訂第2版
	著者名	柳澤健　編集
	出版社	金原出版
	価格	6,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-307-75026-4

参考URL	
備考	実際の臨床場面を想定しているため，服装や髪型にも留意すること。

基礎理学療法学見学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP207
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	基礎理学療法学見学実習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2039001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　4 臨床実践能力評価
授業のキーワード	理学療法士、実習生の資質、見学実習
学生の到達目標	1．各施設の役割と機能、リハビリテーションの位置づけ、チームワーク医療の意義、医療スタッフの業務内容・連携、理学療法・理学療法士の役割と位置づけ、諸施設や機器の使用目的等、患者・障害者の病態などを理解できるようになる。 2．理学療法士および実習生としての資質が身につけ，理学療法士の現場を見学することで、各学生が将来像をイメージできるようになる。 3．見学実習、報告会、レポートを通じて、コミュニケーションスキルを向上できるようになる。

授業内容	担当教員は巡回指導にあたる ・事前指導Ⅰ：実習施設および諸注意（目標１,２） ・事前指導Ⅱ：マナー講座（目標２,3） ・事前指導Ⅲ：情報の共有と見学実習前の最終確認（目標２） ・見学実習：９月１日（月）～１２日（金）（目標１,2,3） 各学生、同一施設で３日間の見学実習を行う。 実習施設の都合により若干期間外になることがある。 見学実習施設：リハビリテーションセンター、総合病院、 クリニック、介護老人保健施設、小児施設等 ・見学実習報告会（目標１,2,3） ・課題レポート（目標１,2,3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習　＊インターメディエイトセミナーでも事前指導を行う。 ＊事前に見学施設の病院情報についてまとめる。 ＊事前に抗体検査の実施 復習　各施設で学習した内容をレポートとしてまとめる。 展開　見学実習を円滑に実施できるように事前指導を行う。 基本的な姿勢を重要視しながら講義を展開する。
成績評価	評価の基準　学生の到達目標1～3の到達度を測る指標として課題レポートと報告会 で理解度を確認とする。 評価の方法　原則、すべて出席することを基準とし、下記の割合で評価を行う。 課題レポート（80%）や見学実習報告会（20%）について、担当教員全員で判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	1．見学実習は学外実習であるため、実習態度、服装、頭髪（茶髪、男子の長髪は厳禁）、および装飾品（厳禁）等は、学生であっても、一医療人としての常識を必要とする。 2．上記の項目に関して指導を行うが、指導されないように各学生心掛ける。 3．事前電話連絡や礼状が必要であり、日頃から適切な言葉使いが文章作成能力の向上を心掛ける。 4．見学実習中の学習効果を上げるために、積極的な態度が重要である。 5．見学実習に必要な知識を習得するため、インターメディエイトセミナーを含めて実施していく。 6．忌引きなどの不測の事態以外の、欠席・遅刻は原則認めない。 7．見学実習は見学予定施設と患者様のご厚意によって実施されることを自覚すること。 8.教員への連絡は実習要項に準ずる。

エレメンタリーセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP101
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	エレメンタリーセミナー
科目責任者	小池　和子
担当教員	郭　丹 倉山　太一
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2040101 水4･5（第4水曜日は開講しない）
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

免許・資格との関係

	1年次
小学校教諭：	不要
特別支援学校教諭：	不要
幼稚園教諭：	不要
保育士：	不要
理学療法士：	必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	1 徳育・教養 2 障害支援
カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 5 チーム医療 ・地域貢献

授業のキーワード

大学における学修，建学の精神と期待される人間像，専門職業人，障害と医療専門職，理学療法士，保健・医療・福祉施設

学生の到達目標

１．建学の精神に沿い、障害に優しい医療専門職を目指し、本学保健医療学部学生として期待される人間像を深く理解する。(本学保健医療学部の３つのポリシーによる)
２．保健医療学部学生として,保健・医療・福祉関連施設の役割を理論的に理解する。
３．病院・施設への実地見学により,医療のあり方を概観する。

授業内容	第1回	本学学生としてのオリエンテーシヨン 建学の精神の理解(目標1) 保健医療学部の3つのポリシーの確認（目標1）
	第2回	社会に求められる医療職について学ぶ（目標1,2） 障害のある人の生き方に関して講演を聴く等によって体感する。
	第3回	医療専門職に求められるコミュニケーション能力,倫理,礼節などを学ぶ(目標1,2)
	第4回	医療専門職,理学療法士,保健・医療・福祉関連施設の役割について学ぶ(目標1,2)
	第5回	施設見学の目的・学習内容・態度などの学習(目標1,2,3)
	第6回	施設見学のガイダンス(Ⅰ)事前準備(目標1,2,3)(第Ⅱ部)
	第7回	施設見学(1日目)(目標2,3)
	第8回	施設見学(1日目)(目標2,3)
	第9回	施設見学(1日目)(目標2,3)
	第10回	施設見学(1日目)(目標2,3)
	第11回	施設見学(2日目)(目標2,3)
	第12回	施設見学(2日目)(目標2,3)
	第13回	施設見学(2日目)(目標2,3
	第14回	施設見学(2日目)(目標2,3)
	第15回	施設見学報告会・反省会・ エレメンタリーセミナー総括、(目標1,2,3)
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	1．本学・保健医療学部が定める3つのポリシー (①アドミッション　ポリシー、②カリキュラム　ポリシー、③ディプロマ　ポリシー)について確認、考察しておくこと。 2．各回ごとのキーワードについて各自が確認し、調べておくこと。
	復習	授業で学習した事項について理解を深め、次授業に関連させておくこと。
	展開	エレメンタリセミナーは、前半の建学の精神に基づく障害と医療について深く理解したうえで、後半のEarly Exposure(早期体験)に連関させるものであり、この展開を理論と実践で理解すること。
成績評価	評価の基準	本学保健医療学部学生としての自覚度および学習への積極的態度，社会における医療関連施設の役割に対する理解度，レポートの提出状況と発表の内容について評価する。
	評価の方法	建学の精神に則ったセミナーの理解、積極的授業態度（30%），施設見学における姿勢（30%），レポートおよび報告会における医療関連施設の理解度（40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	保健医療学部学生として本セミナーは初年度の重要なセミナーであり，また、本施設見学は最初の学外実習であるので，真剣に受講すること。	

インターメディエイトセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP206
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	インターメディエイトセミナー
科目責任者	中野　聡子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A2040201　水1
教室	(前期)講義室18,(後期)治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	キャリアアップ講座、理学療法評価、医療・福祉専門職、マナー（接遇）、コミュニケーションスキル	
学生の到達目標	目標1：理学療法士としての専門性を理解し、その専門性を発揮する。領域を理解でき，医療・福祉領域における理学療法士についての知識や技能を一層確かなものできる。 目標２：コーチングなどのコミュニケーションスキル，基礎理学療法技術を身に着け、模擬患者への対応ができる。 目標３：患者に対する接遇の能力を身に着け、模擬患者に対応でき，職業人としての必要な諸能力を高め、それを実践・実習の場で生かすことができる。	

授業内容	第1回	オリエンテーション,理学療法士としてのキャリア、プロフェッショナルについて(目標1,3)
	第2回	理学療法士の社会的な位置づけと今後の方向性(目標1,3)
	第3回	コミュニケーション・マナー(目標2)
	第4回	自己管理(目標1,2)
	第5回	自己実現(目標1,2)
	第6回	社会人としてのマナー・コミュニケーション（目標1,2)
	第7回	医療現場におけるマナー・コミュニケーション（目標1,2)
	第8回	キャリア形成（目標1,2)
	第9回	理学療法評価の方法論（目標2,3) ROM t を主体とした技法
	第10回	理学療法評価の方法論（目標2,3) ROM t を主体とした技法
	第11回	理学療法評価の方法論（目標2,3) MMTを主体とした技法
	第12回	理学療法評価の方法論（目標2,3) MMTを主体とした技法
	第13回	理学療法評価の方法論（目標2,3) 基本的評価法を主体とした技法
	第14回	理学療法評価の方法論（目標2,3) 基本的評価法を主体とした技法
	第15回	理学療法評価の方法論 （目標2,3) 評価報告書の書き方

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	理学療法概論、エレメンタリーセミナーで学んだ内容について復習しておくこと。 各単元に関する部分を教科書で確認して授業に臨むこと。 また、基本的理学療法評価と初期面接について復習しておくこと。 第1回 理学療法士としてのキャリア・プロフェッショナル 第2回 理学療法士の社会的な位置づけと今後の方向性 第3回 コミュニケーション力 第4回 自己管理 第5回 自己実現 第6回 社会人としてのマナー・コミュニケーション 第7回 医療現場におけるマナー・コミュニケーション 第8回 キャリア形成 第9回 理学療法評価の方法論　ROM t を主体とした技法 第10回 理学療法評価の方法論　ROM t を主体とした技法 第11回 理学療法評価の方法論　MMTを主体とした技法 第12回 理学療法評価の方法論　MMTを主体とした技法 第13回 理学療法評価の方法論　基本的評価法を主体とした技法 第14回 理学療法評価の方法論　基本的評価法を主体とした技法 第15回 理学療法評価の方法論　評価報告書の書き方
	復習	各回ごとに課題を提示し、レポートの提出を求める。 第1回 理学療法士としてのキャリア・プロフェッショナルについて理解する 第2回 理学療法士の社会的な位置づけと今後の方向性について理解する 第3回 コミュニケーション力について理解する 第4回 自己管理について理解し、実践する 第5回 自己実現について理解する 第6回 社会人としてのマナー・コミュニケーションを理解し、実践する 第7回 医療現場におけるマナー・コミュニケーションを理解し、実践する

		第8回 キャリア形成について理解する 第9・10回 理学療法評価の方法論　ROM t を主体とした技法を実践できるようにする 第11・12回 理学療法評価の方法論　MMTを主体とした技法を実践できるようにする 第13・14回 理学療法評価の方法論　基本的評価法を主体とした技法を実践できるようにする 第15回 理学療法評価の方法論　評価報告書の書き方を実践できるようにする
	展開	・基本的にグループによるディスカッションや発表を行い、自らの考えを整理する。 ・医療人に必要な接遇・コミュニケーションスキル、理学療法評価技術を身につける。

成績評価	評価の基準	コミュニケーションスキル，基礎理学療法技術を身に着け、模擬患者への対応ができる。 目標３：患者に対する接遇の能力を身に着け、模擬患者に対応でき，職業人としての必要な諸能力を高め、それを実践・実習の場で生かすことができる。 目標１：下肢帯と下肢の構造と運動、およびその運動に関わる筋について説明できることを合格基準とする。 目標２：姿勢，歩行について理解し，授業で取り上げた基本事項を説明できることを合格基準とする。 目標３：授業で取り上げた、運動学習の基本的事項を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	レポートの内容30%　グループワークの参加度10%　グループ発表10% OSCE形式の実技試験　50%（この評価の6割未満は再試験を課すことがある） ＊課題の未提出などは採点困難となるため、必ず遅れずに提出すること。 ＊積極的な発表を行うこと

教科書	書籍名	PT・OTのための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第2版
	著者名	山口　美和
	出版社	医学書院
	価格	2,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-260-02787-8

推薦図書等

参考URL

備考

・原則すべて出席すること。
・提出物の遅れは評価の対象とする。また、提出物の未提出は認めない。
・実際の実習で対応できるように「報・連・相」の徹底し、自分の考えを持って授業に臨むこと。
・マナー講座はテキストを配布する。その他、必要なものはプリントにて配布する。
・教員への連絡はメールを利用すること。

理学療法学研究法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP204
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学研究法
科目責任者	倉山　太一
担当教員	桑名　俊一 森田　麻登
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2041001　木4
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	研究方法論、研究倫理、研究論文	
学生の到達目標	1. 各領域の研究の意義と方法論を理解する。 2. 研究に必要な資料を検索、取得することが出来る。 3. 研究成果の発表方法、論文投稿のプロセスについて理解する。	

授業内容

第1回　科学的研究の方法論（目標1）
担当教員: 倉山　太一

第2回　研究テーマ探索法　（目標2）
担当教員: 倉山　太一

第3回　研究の倫理とルール　（目標1）
担当教員: 桑名　俊一

第4回　データのまとめ方と統計解析について①（目標1,2,3）
担当教員: 森田　麻登

第5回　データのまとめ方と統計解析について②（目標1,2,3）
担当教員: 森田　麻登

第6回　データのまとめ方と統計解析について③（目標1,2,3）
担当教員: 森田　麻登

第7回　理学療法科学研究の最前線　（目標1,3）
担当教員: 倉山　太一

第8回　リハビリテーション科学研究の最前線　（目標1,3）
担当教員: 倉山　太一

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習　下記の通り予定されている第1回～第8回の授業内容に基づき各自で実施してください（詳細は1回目の授業時に提示します）。
第1回 科学的研究の方法論について
第2回 研究テーマ探索法についての
第3回 研究の倫理とルールについて
第4回 統計解析について
第5回 統計解析について
第6回 統計解析について
第7回 レポート作成方法
第8回 レポート作成方法

復習
第1回 科学的研究の方法論についての復習
第2回 研究テーマ探索法についての復習
第3回 研究の倫理とルールについての復習
第4回 統計解析についての復習
第5回 統計解析についての復習
第6回 統計解析についての復習
第7回 学会参加レポートの提出
第8回 学会参加レポートの提出

展開　自らのアイデアで研究計画を立て、実行に必要な事項を学ぶ。

成績評価

評価の基準
目標1：各領域の研究の意義と方法論を説明できることを合格基準とする。
目標2：研究に必要な資料を検索、取得することが出来ることを合格基準とする。
目標3：研究成果の発表方法、論文投稿のプロセスについて理解し、説明できることを合格基準とする。

評価の方法　授業中の質疑・応答（20%）、レポート等（80%）を総合的に評価する。

教科書

書籍名	これからレポート・卒論を書く若者のために
著者名	酒井聡樹 (著)
出版社	共立出版
価格	1944円+税
ISBN・ISSN	978-4320005747

書籍名	わかって楽しい心理統計法入門〈Ver.2〉
著者名	松田 文子 (著), 橋本 優花里 (著), 三宅 幹子 (著)
出版社	北大路書房
価格	2700円
ISBN・ISSN	978-4762827846

推薦図書等	
参考URL	
備考	各授業の内容は進行度によって変更されることがあります。

理学療法英文講読

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP205
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法英文講読
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2042101　水2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連

ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力
カリキュラムポリシー	7 生涯探究心の育成

授業のキーワード　医療系英語の専門用語，英語表現，英語文献講読

学生の到達目標

1．理学療法学に関する英語の専門用語を理解し,表現する力を身につけることができる。
2．目的とする英語文献を検索することができる。
3．英語文献の内容を理解し,批判的,客観的に読解する力を身につけることができる。

授業内容

第1回	演習のガイダンス (目標1～3)
第2回	理学療法の英語表現（目標1, 3）

	第3回	病気とリハビリテーション 1 骨折（目標1, 3）
	第4回	病気とリハビリテーション 2 腰痛（目標1, 3）
	第5回	病気とリハビリテーション 3 パーキンソン病（目標1, 3）
	第6回	病気とリハビリテーション 4 脳卒中（目標1, 3）
	第7回	病気とリハビリテーション 5 脊髄損傷（目標1, 3）
	第8回	前半のまとめ
	第9回	英語文献の検索　図書館　ネット検索の利用（目標2）
	第10回	英語文献の検索　専門分野の文献検索（目標2）
	第11回	英語文献を読む　学術論文　抄録の構成（目標3）
	第12回	英語文献を読む1 学術論文 論文の検索・調査 (目標2)
	第13回	英語文献を読む2 学術論文 抄録の読解 (目標3)
	第14回	英語文献を読む3 学術論文 本文の読解 (目標3)
	第15回	英語文献を読む4 学術論文 本文の読解 (目標3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～15回：各回ともに、Pre-Reading Tasks, Words & Phrasesを事前に調べて予習しておく。
	復習	第1回～15回：毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える。
	展開	自分の興味ある分野の英語文献を探し出し、abstractだけでも読んでみる。
成績評価	評価の基準	1. 理学療法に関する英語の専門用語の意味を理解すること 2. 辞書を引きながら理学療法関連の資料を読めること 3. 目的に応じた英語文献を検索し，その内容を読解できること 小テスト、期末試験で，正答率が60%以上であることを合格基準とする。
	評価の方法	実技演習（30%）、レポート（50%）、授業中の活動（20%）を合計して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	高校生程度の英語力を必要とする。教材には、さまざまな文献を用いる。授業には、必ず英語辞書を持参すること。	

理学療法評価学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP201
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学Ⅰ
科目責任者	前田　哲男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2043001　金1
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	評価　目標　理学療法計画　関節可動域検査　徒手筋力検査
学生の到達目標	1．理学療法評価について説明できる。 2．関節可動域検査が45分で指以外は誤差10°以内で行える。
授業内容	第1回　授業の行い方の説明(目標1,2) 第2回　理学療法評価総論　問診（目標1） 第3回　理学療法評価総論　評価計画（目標1）

第4回	理学療法評価総論　統合（目標1）
第5回	理学療法評価総論　目標（目標1）
第6回	理学療法評価総論　プログラム（目標1）
第7回	関節可動域検査　上肢帯（目標2）
第8回	関節可動域検査　肩関節（目標2）
第9回	関節可動域検査　肘関節,前腕,手関節（目標2）
第10回	関節可動域検査　手指（目標2）
第11回	関節可動域検査　股関節,膝関節（目標2）
第12回	関節可動域検査　足関節,足部,足指（目標2）
第13回	関節可動域検査　体幹（目標2）
第14回	関節可動域検査　その他の方法（目標2）
第15回	関節可動域検査　まとめ（目標2）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	・次回の授業内容への質問をグループで話し合い,解決しない質問を教員にメールで送る。教員は質問への回答をプリントにして配布する（第1～15回共通）。 ・次回,グループが担当する内容の練習をしておく（第1～15回共通）。
	復習	・教科書を見ないで関節可動域検査が行えるようになる。そのレベルは次回の授業で確認する（第1～15回共通）。
	展開	・授業で行った方法で測定できない場合に合理的な別の方法を考えだし,実践することができる（第1～15回共通）。

成績評価	評価の基準	1．理学療法評価総論の知識の理解 2．関節可動域検査が行える
	評価の方法	筆記テスト50%,実技のレベル50%

教科書	書籍名	ＰＴ・ＯＴビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学
	著者名	潮見泰蔵　下田信明　編集
	出版社	羊土社
	価格	税込6,372円
	ISBN・ISSN	978-4-758-10793-8
	書籍名	解いてなっとく　使えるバイオメカニクス
	著者名	前田　哲男 著
	出版社	医学書院
	価格	税込3,780円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02161-6

推薦図書等

参考URL

備考	1．総論,関節可動域検査ともグループで予習・復習を行う。 2．関節可動域検査は病院で行われる臨床実習を想定して行うので,理学療法を実感できる。 3．教科書「解いてなっとく使えるバイオメカニクス」は授業の進行を考慮し,適時行う。 4．教員の研究室の電話番号とメールアドレスは授業時間内で教える。 5．オフィスアワーも授業時間内に知らせる。

理学療法評価学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP301
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ
科目責任者	千葉　諭
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2044001　月1
教室	運動療法室, 講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	理学療法評価, 感覚, 反射, 脳機能
学生の到達目標	1．理学療法の各検査測定の意義と方法を理解する。 2．対象者の治療や治療効果の判定に必要な検査測定を選択できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション, 痛みの評価 (目標1,2) 第2回　感覚検査 (目標1,2) 第3回　反射検査 (目標1,2)

	第4回	反射検査 (目標1,2)
	第5回	協調性検査 (目標1,2)
	第6回	筋トーヌス検査 (目標1,2)
	第7回	片麻痺運動機能検査(目標1,2)
	第8回	片麻痺運動機能検査(目標1,2)
	第9回	脳神経検査(目標1,2)
	第10回	高次脳機能検査 (目標1,2)
	第11回	高次脳機能検査 (目標1,2)
	第12回	日常生活活動検査 (目標1,2)
	第13回	日常生活活動検査 (目標1,2)
	第14回	呼吸機能検査 (目標1,2)
	第15回	循環機能検査 (目標1,2)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～15回： 教科書の該当ページを一読する。 解剖学・生理学の関連箇所を復習する。
	復習	第1～15回： 各講義の復習を行う。 復習プリントの提出。
	展開	検査の方法だけでなく、意義や目的、治療への繋がりまでを説明する。
成績評価	評価の基準	目標1：感覚検査や反射検査など、授業で取り上げた基本的な検査の意義と目的を説明できることを合格基準とする。 目標2：様々な対象者に対し、必要な検査項目を選定し、説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末試験 100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書	書籍名	理学療法評価学
	著者名	松澤正
	出版社	金原出版株式会社
	価格	6200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-307-75032-5
推薦図書等		
参考URL		
備考	理学療法評価学Ⅰ，理学療法評価学実習Ⅰが履修されていることを前提とする。 評価が正しくできなければ、どんな治療も意味をなさないことを念頭に置き、緊張感を持って授業に臨むことを希望する。 原則として、すべての授業に出席すること。 *オフィスアワー：月曜2限、金曜5限 *e-mail：s-chiba@uekusa.ac.jp	

理学療法評価学実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP202
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅰ
科目責任者	前田　哲男
授業形態	実習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A2045001　木1,　2
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	関節可動域検査　徒手筋力検査法
学生の到達目標	1．関節可動域検査・徒手筋力検査の原理を理解する。 2．両検査をクラスメートに行えるようになる。 3．その時の態度は患者さんを想定したものである。
授業内容	第1回　徒手筋力検査　総論（目標1,2,3） 第2回　徒手筋力検査　頭部伸展～頸部回旋（目標1,2,3）

第3回	徒手筋力検査　体幹伸展～肩甲骨下制（目標1,2,3）
第4回	徒手筋力検査　肩甲骨内転と下方回旋～肩関節外旋（目標1,2,3）
第5回	徒手筋力検査　肩関節内旋～ＭＰ関節屈曲　目標（1,2,3）
第6回	徒手筋力検査　手指最後まで（目標1,2,3）
第7回	徒手筋力検査　股関節屈曲～外転　目標（1,2,3）
第8回	徒手筋力検査　膝関節伸展まで（目標1,2,3）
第9回	徒手筋力検査　下肢最後まで（目標1,2,3）
第10回	徒手筋力検査　まとめ（目標1,2,3）
第11回	徒手筋力検査　予備１（目標1,2,3）
第12回	徒手筋力検査　予備２（目標1,2,3）
第13回	徒手筋力検査　予備３（目標1,2,3）
第14回	徒手筋力検査　予備４（目標1,2,3）
第15回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）１（目標1,2,3）
第16回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）２（目標1,2,3）
第17回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）３（目標1,2,3）
第18回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）４（目標1,2,3）
第19回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）５（目標1,2,3）
第20回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）６（目標1,2,3）
第21回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）７（目標1,2,3）
第22回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）８（目標1,2,3）
第23回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）９（目標1,2,3）
第24回	関節可動域検査・徒手筋力検査（臨床を想定）10（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	学生が自ら積極的に行う １．次回の授業内容への質問をグループで話し合い，解決しない質問を教員にメールで送る。教員は質問への回答をプリントにして配布する（第1～24回共通）。 ２．次回グループが担当する内容の練習をしておく（第1～23回共通）。
	復習	学生が自ら積極的に行う ・教科書を見ないで徒手筋力検査が行えるようになる（第1～24回共通）。そのレベルは次回の授業で確認する。
	展開	授業で行った方法で測定できない場合に合理的な別の方法を考え出し，実践することができる（第1～24回共通）。

成績評価	評価の基準	１．理学療法評価の知識が理解できている ２．評価が行える ３．評価の態度は患者さんを評価していると想定したものである
	評価の方法	レポート50%，実技のレベル50%

教科書

書籍名	新・徒手筋力検査法[原著第9版]
著者名	Helen J. Hislop 他著／津山　直一 訳／中村　耕三 訳
出版社	協同医書出版社

価格	税込8,100円
ISBN・ISSN	978-4-7639-0038-8

書籍名	解いてなっとく　使えるバイオメカニクス
著者名	前田　哲男 著
出版社	医学書院
価格	税込3,780円
ISBN・ISSN	978-4-260-02161-6

推薦図書等

参考URL

備考

1．関節可動域検査・徒手筋力検査ともグループで予習・復習を行う。
2．両検査とも病院で行われる臨床実習を想定して行うので，理学療法を実感できる。
3．教科書「解いてなっとく使えるバイオメカニクス」は授業の進行を考慮し，適時行う。
4．教員の研究室の電話番号とメールアドレスは授業時間内で教える。
5．オフィスアワーも授業時間内に知らせる。

理学療法評価学実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP302
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ
科目責任者	千葉　諭
担当教員	郭　丹
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2046001　月3，4
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	理学療法検査，検査の意義，統合と解釈，動作分析
学生の到達目標	1．検査測定の意義と方法を理解し,実施できる。 2．検査測定から得られた結果を統合し、解釈できる。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 各種検査測定の意義、検査結果の解釈についてＲＯＭ－Ｔ、徒手筋カテスト（目標1,2） 担当教員：郭　丹

	第2回	各種検査測定の意義、検査結果の解釈についてＲＯＭ－Ｔ、徒手筋力テスト（目標1,2） 担当教員: 郭　丹
	第3回	片麻痺運動機能検査（ＳＩＡＳ）（目標1,2） 担当教員: 郭　丹
	第4回	脳血管障害疾患の評価総合演習（目標1,2） 担当教員: 郭　丹
	第5回	脳血管障害疾患の評価総合演習（目標1,2） 担当教員: 郭　丹
	第6回	神経難病疾患の評価総合演習（目標1,2） 担当教員: 郭　丹
	第7回	痛みの評価（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
	第8回	協調性検査の実際（目標1,2） 整形外科疾患検査（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
	第9回	運動器疾患の評価総合演習Ⅰ（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
	第10回	運動器疾患の評価総合演習Ⅱ（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
	第11回	運動器疾患の評価総合演習Ⅲ（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
	第12回	総合評価演習（目標1,2） 担当教員: 千葉　諭
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～12回： 基礎医学科目（解剖学、生理学、運動学）の復習。 理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学実習Ⅰ、理学療法評価学Ⅱで習得した技術・知識の復習。 *事前に予習課題を課す場合がある。
	復習	第1～12回： 各回で実施した実技を、空き時間を利用して練習する。
	展開	実際の患者の情報を提供し、グループを主体としてのロールプレイを取り入れる。 実技を主体とするが、今まで学習した内容の総まとめであり、関連する他の科目も含め、十分な予習・復習を求める。
成績評価	評価の基準	目標1：各種検査測定を説明・実施できることを合格基準とする。 目標2：検査測定の結果を統合・解釈し、説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	出席4／5以上が単位認定の条件である。 実技試験および筆記試験（100%）で成績評価を行う。 実技・筆記ともに60%以上の者を合格と判断する。
教科書	書籍名	姿勢・動作・歩行分析
	著者名	臨床歩行分析研究会
	出版社	羊土社
	価格	5,400,円
	ISBN・ISSN	978-4-7581-0796-9

推薦図書等

書籍名	理学療法評価学　第３版
著者名	松澤正
出版社	金原出版
価格	6 ,510円
ISBN・ISSN	978 -4307750257

書籍名	神経診察クローズアップ
著者名	鈴木則宏
出版社	メジカルビュー社
価格	7 ,350円
ISBN・ISSN	978 -4-7583-0358-3

参考URL

備考

理学療法評価学Ⅰ，Ⅱと理学療法評価学実習Ⅰで使用した教科書も適宜利用する。
実技可能な服装で受講すること。
臨床実習前に評価を学ぶことができる最後の機会であることを意識し、緊張感を持って授業に臨むことを希望する。
オフィスアワー：月曜2限、火曜2限（郭）
水曜1限、金曜1,2限（千葉）
e-mail：授業中に提示する。

アドバンストセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE301
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	アドバンストセミナー
科目責任者	上倉　將太
担当教員	小山内　正博 三浦　達浩 倉山　太一 千葉　諭 中野　聡子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2047101 火2 水1 木1,2
教室	(火曜日)治療室,運動療法室 (木曜日)治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	4 臨床実践能力評価
授業のキーワード	理学療法評価　目標設定　理学療法プログラム　臨床実習　ＯＳＣＥ	

学生の到達目標	１．基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、説明および実践できる。また，労働法の基礎について説明できる。 ２．現場を想定した模擬事例について症例記録、症例レポートを書くことができる。 ３．実習前ＯＳＣＥ（運動器系疾患、脳血管障害、神経・筋疾患）に合格し、臨床実習に臨む準備ができる。	
授業内容	第1回	学外実習の概要ガイダンス（理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習）
	第2回	実習前 OSCEの準備（問診・面接、ROM）(目標１～３)
	第3回	実習前 OSCEの準備（MMT, Brunnstrom stage, 神経学的検査）(目標１～３)
	第4回	実習前 OSCEの準備（トランスファー）(目標１～３)
	第5回	模擬症例（運動器疾患）について症例レジュメ、症例レポートの書き方１(目標1、２)
	第6回	模擬症例（運動器疾患）について症例レジュメ、症例レポートの書き方２(目標1、２)
	第7回	模擬症例（脳血管障害）について症例レジュメ、症例レポートの書き方１(目標1、２)
	第8回	模擬症例（脳血管障害）について症例レジュメ、症例レポートの書き方２(目標1、２)
	第9回	模擬症例についての記録の書き方(目標1、２)
	第10回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第11回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第12回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第13回	ＯＳＣＥ実施後の再指導 (目標１～３)
	第14回	ＳＶ会議の指導・4年生からの助言（目標１）
	第15回	労働法について（目標１）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	1～3年で学習した基礎的知識、技術をまとめ、想定した模擬事例、ＯＳＣＥの事例に対して準備学習する。 第１～１５回：これまで学習した内容を、再度実習での症例を想定して実技練習を行うこと
	復習	理学療法評価学臨床実習に向けて、学んだことを整理する。 第１～１５回：実習の準備として補う必要のある実技の注意点や課題について身につけられる様繰り返し練習を行う。
	展開	理学療法評価学臨床実習、４年次総合臨床実習につなげる。
成績評価	評価の基準	１．基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、説明および実践できる。また，労働法の基礎について説明できることを合格基準とする ２．現場を想定した模擬事例について症例記録、症例レポートを書けることを合格基準とする ３．実習前ＯＳＣＥ（運動器系疾患、脳血管障害、神経・筋疾患）に合格すること これらの理学療法評価学臨床実習に必要な基本的な知識、技術を習得できていることを合格基準とする
	評価の方法	レポート40%，OSCEの結果60%とする。ただし、この割合は、若干変更することがある。

教科書

書籍名	３日間で行う理学療法臨床評価プラニング
著者名	中山恭秀（編集）
出版社	南江堂
価格	3,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4524268146

推薦図書等

参考URL

備考

動作分析学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP203
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	動作分析学
科目責任者	倉山　太一
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2048001　水1
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　4 臨床実践能力評価 6 科学的思考の形成と発展
授業のキーワード	定型動作，逸脱動作，臨床意思決定
学生の到達目標	1.定型的動作パターンについて記述し，口頭で表現できる。 2.逸脱動作・代償動作の代表例とその原因について説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標1,2） ※終了次第、第2回の内容へ進行します。 第2回　アライメント表現方法の演習 ～スティックピクチャーの描き方～（目標1,2）

	第3回	寝返り動作（目標1,2）
	第4回	起き上がり動作（目標1,2）
	第5回	起立・着座動作（目標1,2）
	第6回	歩行動作－1（目標1,2）
	第7回	逸脱歩行について班ごとに実演および調査内容を発表（目標1,2）
	第8回	現職理学療法士による歩行動作分析のデモンストレーション
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	指定教科書について，下記講義内容と対応する部分を読む。 第1回 アライメント表現方法について 第2回 アライメント表現方法について 第3回 寝返り動作 第4回 起き上がり動作 第5回 起立着座動作 第6回 歩行動作 第7回 逸脱歩行について 第8回 これまでの講義のまとめ
	復習	第1回 アライメント表現方法についての復習 第2回 アライメント表現方法についての復習 第3回 寝返り動作の復習 第4回 起き上がり動作の復習 第5回 起立着座動作の復習 第6回 歩行動作の復習 第7回 逸脱歩行についての復習 第8回 これまでの講義のまとめ
	展開	臨床実習における動作分析ケース学習へとつなげる。
成績評価	評価の基準	目標1：定型的動作パターンについて記述し，口頭で表現できることを合格基準とする。 目標2：逸脱動作・代償動作の代表例とその原因について説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	小テストを含む筆記試験にて100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	動作分析 臨床活用講座
	著者名	石井 慎一郎
	出版社	メディカルビュー
	価格	6048円+税
	ISBN・ISSN	978-4758314749
推薦図書等		
参考URL		
備考	シラバスは教授内容の目安です。聴講者の理解度に応じて、講義内容及び進め方を変更します。	

運動器系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT301
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動器系疾患理学療法学
科目責任者	上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2050101　金1，2，4
教室	運動療法室,治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	組織再生と修復　肩関節周囲炎　肩の外傷　靭帯損傷　関節リウマチ
学生の到達目標	1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し実施できる。 3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる。
授業内容	第1回　組織再生・修復:総論 (目標1) 第2回　組織再生・修復:評価 (目標2)

第3回	組織再生・修復:治療 (目標3)
第4回	肩関節周囲炎：総論 (目標1)
第5回	肩関節周囲炎：評価 (目標2)
第6回	肩関節周囲炎：治療 (目標3)
第7回	肩の外傷：総論(目標1)
第8回	肩の外傷：評価(目標2)
第9回	肩の外傷：治療(目標3)
第10回	靭帯損傷と半月板損傷：総論(目標1)
第11回	靭帯損傷と半月板損傷：評価(目標2)
第12回	靭帯損傷と半月板損傷：治療(目標3)
第13回	関節リウマチ：総論(目標1)
第14回	関節リウマチ：評価(目標2)
第15回	関節リウマチ：治療(目標3)

予習・復習の内容（毎回90分程度）

予習	解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学・評価学・運動療法学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。 第１～１５回：教科書該当単元を熟読し臨むこと。
復習	各疾患の特徴，病因と症状の関係，診断，手術，管理などの知識を身につける。検査測定を症状に合わせて選択・実施し，結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明でき実施できるようにする。 第１～１５回：記録を残し各自の考察を行うことで疾患の理解を深めること
展開	理学療法の対象疾患として，代表的な運動器系疾患に対する理学療法を理解した上で，臨床実習で介入する際の基礎的な知識となる。

成績評価

評価の基準	1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を理解すること 2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し実施できること 3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる これらの目標が達成され，説明できることを合格基準とする。
評価の方法	提出レポート及び期末試験（実技試験と筆記試験）で評価する。 期末試験 80%，レポート20%の成績を総合する。 ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ
著者名	石川　朗
出版社	中山書店
価格	2,400円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73229-9

書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ
著者名	石川　朗
出版社	中山書店

	価格	2,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73230-5

推薦図書等	書籍名	整形外科運動療法ナビゲーション　上肢・体幹
	著者名	整形外科リハビリテーション学会　編集
	出版社	メジカルビュー社
	価格	6,800円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7583-1478-7
	書籍名	整形外科運動療法ナビゲーション　下肢
	著者名	整形外科リハビリテーション学会　編集
	出版社	メジカルビュー社
	価格	6,800円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7583-1479-4

参考URL	
備考	実技も行います。動きやすい服装で参加すること。 ※実習にふさわしいジャージ，頭髪，身だしなみを準備すること。

運動器系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT302
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動器系疾患理学療法学実習
科目責任者	小山内　正博
授業形態	実習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A2051101　月1,　2
教室	運動療法室,講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	骨折、脱臼、変形性関節症、脊椎疾患
学生の到達目標	目標1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 目標2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し実施できる。 目標3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる。
授業内容	第1回　骨折と脱臼：総論 (目標1) 第2回　骨折と脱臼：評価 (目標2) 第3回　骨折と脱臼：治療 (目標3)

第4回	骨折と脱臼：実際 (目標1～3)
第5回	高齢者の骨折と脱臼：上肢 (目標1)
第6回	高齢者の骨折と脱臼：下肢・脊椎 (目標1)
第7回	高齢者の骨折と脱臼：評価 (目標2)
第8回	高齢者の骨折と脱臼：治療 (目標3)
第9回	高齢者の骨折と脱臼：実際 (目標1～3)
第10回	変形性股・膝関節症:総論 (目標1)
第11回	変形性股・膝関節症:評価 (目標2)
第12回	変形性股・膝関節症:治療 (目標3)
第13回	変形性股・膝関節症:実際 (目標1～3)
第14回	人工股・膝関節置換術:総論 (目標1)
第15回	人工股・膝関節置換術: 評価(目標2)
第16回	人工股・膝関節置換術: 治療 (目標3)
第17回	人工股・膝関節置換術: 実際 (目標1～3)
第18回	頚部疾患:総論 (目標1)
第19回	頚部疾患:評価 (目標2)
第20回	頚部疾患:治療 (目標3)
第21回	頚部疾患:実際 (目標1～3)
第22回	腰部疾患:総論 (目標1)
第23回	腰部疾患:評価 (目標2)
第24回	腰部疾患:治療 (目標3)
第25回	腰部疾患:実際 (目標1～3)
第26回	脊椎手術:総論 (目標1)
第27回	脊椎手術:評価 (目標2)
第28回	脊椎手術:治療 (目標3)
第29回	脊椎手術:実際 (目標1～3)
第30回	総括：(目標1～3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1.5.6.10.14.18.22.26回は、解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学とともに教科書の該当単元を熟読し臨むこと。 第2.7.11.15.19.23.27回は、評価学とともに教科書の該当単元を熟読し臨む。 第3.8.12.16.20.24.28回は、運動療法学とともに教科書の該当単元を熟読し臨むこと。
	復習	第4.9.13.17.21.25.29.30回は、各疾患の特徴、病因と症状の関係、診断,手術,管理などの知識を身につける。検査,測定を症状に合わせて選択・実施し、結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明でき実施できるようにすること。
	展開	疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明します。

成績評価	評価の基準	目標1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識(国家試験レベル)を身に付いていることを合格基準とする。 目標2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し説明・実施できることを合格基準とする。

		目標3：一般的な治療プログラムの立案・実施ができることを合格基準とする。
	評価の方法	筆記試験30% 実技試験30%，レポート・プレゼン・小テスト40%

教科書	書籍名	運動器障害理学療法学Ⅰ
	著者名	石川朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73229-9
	書籍名	運動器障害理学療法学Ⅱ
	著者名	石川朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73230-5

推薦図書等	書籍名	整形外科理学療法の理論と技術
	著者名	山嵜　勉
	出版社	メジカルビュー社
	価格	9 ,500円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-89553-636-3
	書籍名	下肢関節疾患の理学療法
	著者名	黒川幸雄
	出版社	三輪書店
	価格	3800円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-89590-142-0
	書籍名	結果の出せる整形外科理学療法
	著者名	山口光國
	出版社	MEDICAL VIEW
	価格	7500円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7583-0666-9

参考URL	
備考	実技中心となるため動きやすい服装で参加すること。 半年後には，一人で実際の患者様を評価し治療します。十分に心得て臨み復習すること。 実技やディスカッションの時間を確保するため予習動画を用意します。授業前に視聴し臨むこと。 ＊オフィスアワー：月・火・木（２時限） ＊e-mail:研究前に掲示

成人中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT303
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	倉山　太一
担当教員	前田　仁士 水上　昌文
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2052001　木1，2
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 2 障害支援
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	脳神経解剖、中枢神経疾患の病態生理・臨床所見、中枢神経系理学療法の概略	
学生の到達目標	1．中枢神経系の構造とメカニズム、およびを障害像を理解する 2．中枢神経系障害に対して医師が行う処置と目的を理解する 3．中枢神経系疾患の理学療法介入の概略を理解する	

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 脳神経解剖① 脳神経解剖② （目標1）
	第2回	脳神経解剖③ 脳神経解剖④ （目標1）
	第3回	脳神経解剖⑤ 脳神経解剖⑥ （目標1）
	第4回	脳神経解剖⑦ 脳神経解剖⑧ （目標1）
	第5回	＜脳・神経解剖試験＞ 脳血管障害の病態生理① （目標1）
	第6回	脳血管障害の病態生理② 脳血管障害の病態生理③ （目標1）
	第7回	脳血管障害の医学的治療① 脳血管障害の臨床所見① （目標1・2）
	第8回	脳血管障害の臨床所見② 脳血管障害の臨床所見③ （目標1）
	第9回	神経難病① 神経難病② （目標1・2）
	第10回	神経難病③ 神経難病④（発表課題） （目標1・2）
	第11回	＜中間試験＞ 脳血管障害の医学的治療② （目標1・2）
	第12回	脳血管障害の臨床所見③ 脳血管障害の臨床所見④ （目標1）
	第13回	脳血管障害の回復過程と機能予後予測 脳卒中理学療法概論①（急性期） （目標1・3）
	第14回	脳卒中理学療法概論②（回復期） 脳卒中理学療法概論③（慢性期） （目標1・3）
	第15回	前期授業重要箇所のまとめと復習 （目標1～3）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	※初回の授業開始前までに国立循環器病センターの「脳」関連ページをすべて読んでおくこと。 http://www.ncvc.go.jp/cvdinfo/pamphlet/ 第1回 神経系解剖の予習 第2回 神経系解剖の予習 第3回 神経系解剖の予習 第4回 神経系解剖の予習 第5回 テスト問題の予習 第6回 病態生理の予習 第7回 医学的治療の予習

第8回 臨床所見の予習
第9回 神経難病についての予習
第10回 神経難病についての予習
第11回 医学的治療の予習
第12回 臨床所見の予習
第13回 予後予測についての予習
第14回 脳卒中理学療法概論についての予習
第15回 全体の予習とテスト対策

復習　第1回 神経系解剖の復習
第2回 神経系解剖の復習
第3回 神経系解剖の復習
第4回 神経系解剖の復習
第5回 テスト問題の復習
第6回 病態生理の復習
第7回 医学的治療の復習
第8回 臨床所見の復習
第9回 神経難病についての復習
第10回 神経難病についての復習
第11回 医学的治療の復習
第12回 臨床所見の復習
第13回 予後予測についての復習
第14回 脳卒中理学療法概論についての復習
第15回 全体の復習とテスト対策

展開　主に脳卒中を中心とした、中枢神経系疾患に対する理学療法介入について、下記の流れで授業を進めます。教授内容の根拠として可能な限り最新の英語論文を典拠とします。
①脳解剖・脳機能
②中枢神経のメカニズムと臨床所見との関連
③中枢神経系疾患患者に対して「理学療法士は何ができるのか・何をしなければならないのか」を理解する
④「③」を実践するための基礎知識
※授業の進行に伴って展開内容は見直される場合があります。
※毎回小テスト・課題を実施します。

成績評価

評価の基準　1．中枢神経系の構造とメカニズム、およびを障害像を理解し説明できること。
2．中枢神経系障害に対して医師が行う処置と目的を理解し説明できること。
3．中枢神経系疾患の理学療法介入の概略を理解し説明できること。

評価の方法　筆記試験100%（適宜小・中テストを実施。配点は適宜説明します）

教科書

書籍名	ニューロリハビリテーション
著者名	編集：道免　和久
出版社	医学書院
価格	4200円
ISBN・ISSN	978-4-260-02009-1

書籍名	よくわかる脳卒中患者さんの退院時必携書
著者名	片山泰朗
出版社	ヴァンメディカル
価格	1600円
ISBN・ISSN	4-86092-066-X

推薦図書等	書籍名	脳卒中患者に対する課題指向型トレーニング
	著者名	潮見泰蔵
	出版社	文光堂
	価格	6480円
	ISBN・ISSN	978-4830645211
	書籍名	極める! 脳卒中リハビリテーション 必須スキル
	著者名	吉尾 雅春 (監修)・他
	出版社	gene
	価格	4860円
	ISBN・ISSN	978-4905241959
	書籍名	自信がもてる！リハビリテーション臨床実習
	著者名	里宇明元／監修
	出版社	医歯薬出版
	価格	4,968円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21499-2

参考URL	https://www.pedro.org.au/japanese/
備考	中枢神経系は、学問的な面白さで満ちている反面、十分解明されていない分野であり、「エセ治療」や「権威」が蔓延る（はびこる）領域です。理学療法士はこれらを自己判断によって除外し、正しい介入を選択する能力が必要になります。そのための一助として本講義では一定の立場や見解にとらわれず、中立的・科学的な考え方を教示するよう努めます。 ※シラバス内容は授業の進行度に合わせて随時変更されます。 ※教科書は全て授業内で使用します。必ず購入してください。（上記記載以外に「よくわかる脳卒中患者さんの退院時必携書、ヴァンメディカル：1728円」）も購入願います。 ※推薦書の購入は各自に任せます。ここに挙げた推薦図書以外に、初回の授業で参考書を提示します。

成人中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT304
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	倉山　太一
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2053001　月3，4
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 徳育・教養 2 障害支援
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 4 臨床実践能力評価
授業のキーワード	中枢神経系，成人中枢神経系疾患，理学療法	
学生の到達目標	1．成人中枢神経系難病に対する評価が実施できる。 2．成人中枢神経系難病の評価結果の記録ができる。 3．成人中枢神経系難病の理学療法が実施できる。	

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第2回	パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第3回	脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第4回	脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第5回	筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第6回	筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第7回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第8回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第9回	多発筋炎・皮膚筋炎の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第10回	多発筋炎・皮膚筋炎の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第11回	ギラン・バレー症候群の理学療法理論と実践（目標1，2，3）
	第12回	ギラン・バレー症候群の理学療法理論と実践（目標1，2，3）
予習・復習の内容 （毎回60分程度）	予習	神経内科の関連知識、第1回～第12回までの授業講義内容について 予習すること（詳細は初回授業時に示します）。
	復習	第1回 授業内容についての復習① 第2回 授業内容についての復習② 第3回 授業内容についての復習③ 第4回 授業内容についての復習④ 第5回 授業内容についての復習⑤ 第6回 授業内容についての復習⑥ 第7回 授業内容についての復習⑦ 第8回 授業内容についての復習⑧ 第9回 授業内容についての復習⑨ 第10回 授業内容についての復習⑩ 第11回 授業内容についての復習⑪ 第12回 授業内容についての復習⑫
	展開	健常者でのシミュレーション
成績評価	評価の基準	合格基準 １．成人中枢神経系難病に対する評価が実施できること ２．成人中枢神経系難病の評価結果の記録ができること ３．成人中枢神経系難病の理学療法が実施できること
	評価の方法	筆記試験100%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	※本年度より急遽担当講師が変わります。 ※授業内容は大幅に更新されますが、初回授業時に示します。	

小児中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT305
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	宮崎　泰
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2054001 土1,2,3（4/15, 22, 5/20, 27, 6/3, 24, 7/1）
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	正常運動発達　Piaget　脳性麻痺　重症心身障害児(者)　二分脊椎　筋委縮症　骨折　骨形成不全　認知機能
学生の到達目標	1．正常運動発達の原則及び正常運動発達課程を説明できる。 2．この授業で学習する小児関連疾患の理学療法の基本的な考え方について説明できる。 3．チーム医療のあり方について各自の考えを説明することができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ及び３コマ連続で行います。 オリエンテーション(授業の進め方、参考書、成績評価、他) 小児期の身体的発達の特長(目標１) 正常運動発達（1：粗大運動）(目標１)
	第2回	正常運動発達（2：座位の発達・上肢機能の発達）(目標１) 初期の認知機能の発達（Piagetの考えを基に）(目標１)
	第3回	脳性まひの類型別発達(目標１,２,３)
	第4回	重症心身障害児（者）(目標１,２,３)
	第5回	二分脊椎(目標１,２,３)
	第6回	筋委縮症(目標１,２,３)
	第7回	小児整形外科疾患（骨折・骨形成不全）(目標１,２,３) 小児リハビリテーションとチーム医療(目標１,２,３)
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回　シラバスを熟読すること。成績評価について理解しておくこと（45分） 教科書の正常運動発達について熟読し、授業に臨むこと（45分） 第２回　初期の頃の認知機能の発達を予習し、授業に臨むこと（生涯人間発達を参考に）（45分） 第３回　教科書をよく読んで脳性麻痺の病型別特長をイメージして授業に臨むこと（90分） 第4回　教科書をよく読んで重症心身障害児（者）の障害像をイメージしておくこと（90分） 第５回　参考書をよく読んで、二分脊椎の障害像をイメージしておくこと（90分） 第6回　参考書をよく読んで筋委縮症の障害像をイメージしておくこと（90分） 第7回　参考書をよく読んで小児整形外科疾患をイメージしておくこと（90分）
	復習	第１回　成績評価について確認すること 教科書の正常運動発達について再確認し、理解を深めること 第２回　授業を基にPiajetの認知機能の発達を整理し、理解を深めること 第３回　授業資料を基に、脳性麻痺の病型別特長を多面的に説明できるように整理しておくこと 第4回　授業を基に重症心身障害児（者）の障害像のイメージを修正しし、理解を深めること 第５回　授業を基に二分脊椎の障害像をイメージを修正し、理解を深めること 第6回　授業を基に筋委縮症の障害像のイメージを修正し、理解を深めること 第7回　参考書をよく読んで小児整形外科疾患に関するチーム医療の大切さを再確認すること
	展開	小児科学・運動学・解剖学・生理学について復習を取り入れとともにデモンストレーション、視聴覚教材を多く利用する。 学生・教員とのより良いコミュニケーションを形成するために積極的に学習すること。
成績評価	評価の基準	１・正常運動発達と理学療法との関連の理解度 ２・小児疾患及びその理学療法についての理解度 ３・ 小児疾患の多様なチーム医療について、レポートとして他者に伝える能力　（レポート内容）
	評価の方法	試験 90%，小テスト 10% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書		
	書籍名	こどもの理学療法（第２版）

著者名	監修　千住　秀明，編集代表　田原　弘幸
出版社	神陵文庫
価格	4 ,725円
ISBN・ISSN	4915814203

推薦図書等

書籍名	生涯人間発達学[改訂第2版増補版]
著者名	上田　礼子 著
出版社	三輪書店
価格	税込4,104円
ISBN・ISSN	978-4-89590-399-8

書籍名	系統理学療法学　筋骨格障害系理学療法学
著者名	居村　茂幸 編／丸山　仁司 編／奈良　勲 編
出版社	医歯薬出版
価格	税込6,480円
ISBN・ISSN	978-4-263-21295-0

書籍名	イラストでわかる小児理学療法
著者名	上杉　雅之 監／成瀬　進 他著
出版社	医歯薬出版
価格	税込4,536円
ISBN・ISSN	978-4-263-21425-1

書籍名	ベッドサイドの神経の診かた
著者名	田崎　義昭 他著／斎藤　佳雄 他著／坂井　文彦 他著
出版社	南山堂
価格	税込　7,776円
ISBN・ISSN	978-4-525-24798-0

参考URL

備考

小児中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT306
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	宮崎　泰
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2055001 土2,3,4（9/23, 30, 10/7, 21, 28, 11/18, 25, 12/2, 16）
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	評価　誘導法　小児の理学療法　装具療法　摂食嚥下指導　呼吸療法
学生の到達目標	1．小児関連疾患に必要な評価を正確に安全に実施し、その解釈ができる。 2．誘導法を安全に実施できる。 3．必要な理学療法を安全に実施できる。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ及び３コマ連続で行います。 オリエンテーション(授業の進め方、参考書、成績評価、他) 正常運動発達の復習、脳性麻痺の復習

		評価1（姿勢・動作の評価）（目標１） 評価1関連の実技指導：ポジショニング（目標１,３）
	第2回	評価2（変形・拘縮）（目標１） 評価2関連の実技指導：ROM-Ｅｘ（目標１,３）
	第3回	評価3（筋緊張）（目標１） 評価3関連の実技指導：リラクゼーション、ROM－Ex（目標１,３）
	第4回	評価4（反射：深部腱反射・姿勢反射・病的反射）、自律的反応（目標１） 評価4関連の実技指導：評価方法、評価結果の記述（目標１,３）
	第5回	評価5（運動発達評価）（目標１） 評価5関連の実技指導：評価方法（3種の評価）（目標１）
	第6回	評価についての「学習の到達目標」の確認（目標１,３）
	第7回	誘導法（実技指導）（目標２）
	第8回	小児の装具（講義と実技指導）（目標１,３） 「学習の到達目標」の確認
	第9回	摂食嚥下指導（講義と実技指導）（目標１,３） 「学習の到達目標」の確認
	第10回	呼吸理学療法（講義と実技指導）（目標１,３） 「学習の到達目標」の確認
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　シラバスをよく読むこと 正常運動発達、脳性麻痺の病型別発達についての理解の程度を再確認しておくこと。 第２回～第１０回　次回のテーマと主な内容についての予告に従って、準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第２回～第１０回　前回の配布資料の内容を確認し、理解を深めること。実技学習では、3名以上の学生を１グループとして、知識・技術の確認を行うこと。自主的なグループ学習ではリスク管理を十分に行うこと。
	展開	１．資料を配布する。 ２．理学療法に関する知識・技術の定着を図るために、毎回の授業に積極的に取り組むこと。 ３．些細な疑問点も担当教員に質問すること。 ４．第６回の「学習の到達目標」の確認で、到達度の低い学生には第８回～第１０回の昼休みに再確認を行う。（初回授業で、学生の皆さんとの相談の上、決定します。） ５．理解度に応じて、授業内容を変更する時があります。その時は、事前連絡をします。
成績評価	評価の基準	到達目標に到達し、この授業で扱う小児理学療法に関する実習の基本事項を理解していること （前提として既定の出席日数が必要：２コマ・３コマの連続授業なので複数回の出席確認をする） １・適応に見合った評価方法の選択 ・評価手技の正確性・リスク管理 ・評価結果の解釈の理解度 ２・個々に見合った誘導（介助量・介助の方向性・声掛け） ・誘導時のリスク管理 ３・適応に見合った理学療法の選択、実施、 ・理学療法実施時のリスク管理
	評価の方法	定期試験７０点（70%）、第6回の「学習の到達目標」での知識・技術に修得状況２０点（20%）、レポート１０点（10%）合計１００点で６０点以上を合格とする。

教科書	書籍名	子どもの理学療法（第２版）
	著者名	監修　千住　秀明　編集代表　田原　弘幸
	出版社	神陵文庫
	価格	4,725円
	ISBN・ISSN	4915814203
推薦図書等	書籍名	生涯人間発達学[改訂第2版増補版]
	著者名	上田　礼子 著
	出版社	三輪書店
	価格	税込4,104円
	ISBN・ISSN	978-4-89590-399-8
	書籍名	イラストでわかる小児理学療法
	著者名	上杉　雅之 監／成瀬　進 他著
	出版社	医歯薬出版
	価格	税込4,536円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21425-1
	書籍名	ベッドサイドの神経の診かた
	著者名	田崎　義昭 他著／斎藤　佳雄 他著／坂井　文彦 他著
	出版社	南山堂
	価格	税込　7,776円
	ISBN・ISSN	978-4-525-24798-0
参考URL		
備考	・小児中枢神経系疾患理学療法学の内容を踏まえて行うため，復習しておくこと。 ・視覚教材等を使用する。 ・グループ学習，発表を行う予定である。	

内部障害系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT307
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学
科目責任者	中野　聡子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2056001　金2
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	内部障害, リスク管理, 疾患別理学療法
学生の到達目標	1. 内部障害系疾患理学療法に関する基礎的な知識を説明できる。 2. 内部障害系疾患理学療法に関するリスク管理について説明できる。 3. 内部障害系疾患に関する疾患別の理学療法について説明できる。
授業内容	第1回　内部障害と理学療法(総論)1　（目標１） 第2回　内部障害とフィジカルアセスメント（目標2）

第3回	心臓機能の障害と理学療法　1　（目標1）
第4回	心臓機能の障害と理学療法　2　（目標1）
第5回	心臓機能障害と心電図 （目標2）
第6回	心臓リハビリテーション （目標3）
第7回	肝・腎機能の障害と理学療法　（目標1～3）
第8回	代謝の障害と理学療法　1　（目標1～3）
第9回	代謝の障害と理学療法　2　（目標1～3）
第10回	末梢循環障害と理学療法　（目標1～3）
第11回	がんのリハビリテーション　1　（目標1, 2）
第12回	がんのリハビリテーション　2　（目標1～3）
第13回	サルコペニアとフレイル　（目標1～3）
第14回	産前・産後の理学療法　（目標1～3）
第15回	臓器移植，HIV感染症 （目標1～3）

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	各授業内容に応じて、解剖学・生理学・運動学・内科学での学習を確認しておくこと。また、教科書該当単元を熟読して臨むこと。さらに、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 キーワード 第1回　内部障害、障害者総合支援法、身体障害者福祉法 第2回　問診、視診、触診、打診、聴診、バイタルサイン 第3回　心臓の解剖・生理、心機能評価 第4回　心不全、虚血性心疾患、不整脈 第5回　心電図の基本波形、狭心症、心筋梗塞、期外収縮、心房細動 第6回　心臓リハビリテーション、運動負荷試験 第7回　腎機能、慢性腎不全(CKD)、透析、肝機能、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH) 第8回　脂質異常症、メタボリックシシンドーム、糖尿病、血糖値、糖負荷テスト、インスリン抵抗性 第9回　糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症、糖尿病性神経障害、フットケア 第10回　閉塞性動脈動脈硬化症(PAD)、深部静脈血栓症(DVT) 第11回　がん予防、がん周術期リハ、リンパ浮腫 第12回　造血幹細胞移植、化学療法、疼痛管理、終末期リハ 第13回　サルコペニア、フレイル、低栄養 第14回　妊産婦のリスク管理、腰痛、尿失禁 第15回　HIV、臓器移植、拒絶反応、免疫抑制剤
	復習	各疾患の特徴，病因と症状の関係，診断，手術，管理などの知識を身につける。また理学療法の役割を理解し説明できるようにすること。 キーワード 第1回　内部障害、障害者総合支援法、身体障害者福祉法について整理しておくこと。 第2回　問診、視診、触診、打診、聴診、バイタルサインを実践できるようにしておくこと。 第3回　心臓の解剖・生理、心機能評価について整理しておくこと。 第4回　心不全、虚血性心疾患、不整脈の病態について整理しておくこと。 第5回　心電図の基本波形、各疾患の心電図波形(狭心症、心筋梗塞、期外収縮、心房細動など)について理解しておくこと。 第6回　心臓リハビリテーション、運動負荷試験について整理しておくこと。 第7回　腎機能、慢性腎不全(CKD)、透析、肝機能、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)について整理しておくこと。

第8回　脂質異常症、メタボリックシシンドーム、糖尿病、血糖値、糖負荷テスト、インスリン抵抗性について理解しておくこと。
第9回　糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症、糖尿病性神経障害、フットケア、療法指導について整理しておくこと。
第10回　閉塞性動脈動脈硬化症(PAD)、深部静脈血栓症(DVT)について整理しておくこと。
第11回　がん予防、がん周術期リハ、リンパ浮腫について整理しておくこと。
第12回　造血幹細胞移植、化学療法、疼痛管理、終末期リハについて整理しておくこと。
第13回　サルコペニア、フレイル、低栄養について整理しておくこと。
第14回　妊産婦のリスク管理、腰痛、尿失禁について整理しておくこと。
第15回　HIV、臓器移植、拒絶反応、免疫抑制剤について整理しておくこと。

展開　疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがある。その理由とともに説明できるようにすること。

成績評価

評価の基準　目標1：内部障害系疾患理学療法に関する基礎的な知識を説明できることを合格基準とする。
目標2：内部障害系疾患理学療法に関するリスク管理について説明できることを合格基準とする。
目標3：内部障害系疾患に関する疾患別の理学療法について説明できることを合格基準とする。

評価の方法　期末試験を重視する。ほぼ毎回内部障害系理学療法に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験80%，小テストおよびレポート20%とする。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	系統理学療法学 内部障害系理学療法学
著者名	居村茂幸　編
出版社	医歯薬出版
価格	4,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21174-8

推薦図書等

参考URL

備考

・内部障害系疾患理学療法には解剖学・生理学・運動学等の基礎的知識が必須である。
・十分や予習と復習を行い、授業に臨むことを希望する。
・推薦図書等は，授業で紹介する。
(オフィスアワー　月曜 3 限)

内部障害系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT308
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学実習
科目責任者	小山内　正博
担当教員	居村　茂幸
授業形態	実習
開講時期	後期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	A2057001 月1,2 火3,4（9/26）
教室	治療室, 講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	呼吸器疾患、呼吸不全、呼吸理学療法、呼吸リハビリテーション
学生の到達目標	目標1：呼吸器疾患、呼吸不全の病態を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 目標2：呼吸理学療法を行う上で必要な評価を病態に合わせて選択し実施できる。 目標3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる。

授業内容

第1回　総論（目標1～3）
担当教員: 小山内　正博

第2回　呼吸器系の解剖学（目標2・3）
担当教員: 小山内　正博

第3回　呼吸器系の運動学（目標2・3）
担当教員: 小山内　正博

第4回　呼吸器系の生理学（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第5回　呼吸器系の生理学（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第6回　呼吸不全の病態（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第7回　呼吸器疾患（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第8回　評価1：フィジカルアセスメント1（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第9回　評価1：フィジカルアセスメント2（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第10回　評価2：その他の評価法1（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第11回　評価2：その他の評価法2（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第12回　評価2：その他の評価法3（目標2）
担当教員: 小山内　正博

第13回　基本手技1：コンディショニング1（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第14回　基本手技1：コンディショニング2（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第15回　基本手技2：排痰法1（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第16回　基本手技2：排痰法2（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第17回　基本手技3：呼吸介助1（目標3）
担当教員: 居村　茂幸

第18回　基本手技3：呼吸介助2（目標3）
担当教員: 居村　茂幸

第19回　基本手技4：運動療法1（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第20回　基本手技4：運動療法2（目標3）
担当教員: 小山内　正博

第21回　酸素療法1　（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第22回　酸素療法2　（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第23回　人工呼吸1　（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第24回　人工呼吸2　（目標1）
担当教員: 小山内　正博

第25回

		吸引1　（目標1～3） 担当教員: 小山内　正博
	第26回	吸引2　（目標1～3） 担当教員: 小山内　正博
	第27回	総括1：慢性呼吸不全1　（目標1～3） 担当教員: 居村　茂幸
	第28回	総括1：慢性呼吸不全2　（目標1～3） 担当教員: 小山内　正博
	第29回	総括2：急性呼吸不全1　（目標1～3） 担当教員: 居村　茂幸
	第30回	総括2：急性呼吸不全2　（目標1～3） 担当教員: 小山内　正博

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1～7回は、教科書の該当単元を熟読し臨むこと。また不足な部分は、解剖学・生理学・運動学・内科学を十分に復習し授業に臨むこと。第8～30回は、教科書の該当単元を熟読し臨むこと。
	復習	呼吸不全の病態、各疾患の特徴、病因と症状の関係、診断,管理などの知識を身につける（第1～7回）。理学療法評価を症状・病態に合わせて選択・実施し、結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること（第8～12回）。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明でき実施できるようにすること（第13～30回）。
	展開	病態、疾患，診断，管理、評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明します。

成績評価	評価の基準	学生の到達目標1：基本的内容（国家試験レベル）が理解できていることを合格基準とする。 学生の到達目標2：評価の内容を説明し実施でることを合格基準とする。 学生の到達目標3：一般的な治療プログラムの立案・実施ができることを合格基準とする。
	評価の方法	筆記試験30% 実技試験30%，レポート・プレゼン・小テスト40%

教科書	書籍名	内部障害理学療法学　呼吸
	著者名	石川朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73228-2
	書籍名	呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法　第2版
	著者名	日本呼吸ケアリハビリテーション学会
	出版社	照林社
	価格	3700円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7965-2278-6

推薦図書等	書籍名	呼吸・心臓リハビリテーション
	著者名	居村茂幸

出版社	羊土社
価格	4.600円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-7581-0786-0

参考URL

備考

学生同士で互いに体に触れることが多くなります。真摯で前向きな態度を望みます。
また実技実習において聴診器が必要となります。授業開始前に、各自準備して下さい。
実技やディスカッションの時間を確保するため予習動画を用意します。授業前に視聴し臨むこと。
＊オフィスアワー：月・火・木（２時限）
＊e-mail:研究前に掲示

物理療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT203
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学
科目責任者	倉山　太一
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2058001　火1
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	4 臨床実践能力評価 6 科学的思考の形成と発展
授業のキーワード	物理療法の適用・作用機序・禁忌	
学生の到達目標	１．物理療法の効果と治療対象（目的）について説明できる。 ２．物理療法の作用機序について説明できる。 ３．各種物理療法の禁忌とリスク管理について説明できる。	
授業内容	第1回	総論(目標1,2,3)
	第2回	温熱療法（1）－伝導熱：ホットパック（目標1,2,3）
	第3回	温熱療法（2）－伝導熱：パラフィン浴（目標1,2,3）

	第4回	温熱療法（3）－エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法-1（目標1,2,3）
	第5回	温熱療法（4）－エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法-2（目標1,2,3）
	第6回	超音波療法（目標1,2,3）-1
	第7回	超音波療法（目標1,2,3）-2
	第8回	超音波療法（目標1,2,3）-3
	第9回	牽引療法（目標1,2,3），マッサージ療法（目標1,2）
	第10回	物理療法関連：国家試験演習-1
	第11回	寒冷療法（目標1,2,3）
	第12回	水治療法（目標1,2,3）
	第13回	電気刺激療法-1（目標1,2,3）
	第14回	電気刺激療法-2（目標1,2,3）
	第15回	物理療法関連：国家試験演習-2
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	指定教科書について，下記、講義内容と対応する部分を読む。授業で扱った国家試験演習を復習する。 第1回 総論(目標1,2,3) 第2回 伝導熱：ホットパックについて 第3回 伝導熱：パラフィンについて 第4回 エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法について 第5回 エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法について 第6回 超音波療法について 第7回 超音波療法について 第8回 超音波療法について 第9回 牽引療法について 第10回 授業で行った演習問題について 第11回 寒冷療法について 第12回 水治療法について 第13回 電気刺激療法について 第14回 電気刺激療法について 第15回 授業で行った演習問題について
	復習	第1回 総論(目標1,2,3) 第2回 伝導熱：ホットパックについての復習 第3回 伝導熱：パラフィンについての復習 第4回 エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法についての復習 第5回 エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法についての復習 第6回 超音波療法についての復習 第7回 超音波療法についての復習 第8回 超音波療法についての復習 第9回 牽引療法についての復習 第10回 授業で行った演習問題についての復習 第11回 寒冷療法についての復習 第12回 水治療法についての復習 第13回 電気刺激療法についての復習 第14回 電気刺激療法についての復習 第15回 授業で行った演習問題についての復習
	展開	講義で学習した基礎知識をもとに，物理療法学実習において機器を適切に使用できるようになる。
成績評価	評価の基準	目標１：物理療法の効果と治療対象（目的）について説明できることを合格基準とする。 目標２：物理療法の作用機序について説明できることを合格基準とする。

		目標３：各種物理療法の禁忌とリスク管理について説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験（95%），出席・レポート（5%）等による。 定期試験は100点満点で60点以上を合格とする。

教科書	書籍名	物理療法学・実習
	著者名	責任編集：日髙正巳・玉木　彰
	出版社	中山書店
	価格	2,400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-521-73670-9

推薦図書等	
参考URL	
備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。

物理療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT204
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学実習
科目責任者	倉山　太一
担当教員	桑名　俊一
授業形態	実習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2059001 水4,5（第4水曜日は開講しない）
教室	治療室,水治室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 4 臨床実践能力評価
授業のキーワード	物理刺激，生体反応，物理療法機器の特性	
学生の到達目標	１．各種物理療法機器の特徴を知り，適切に取り扱うことができる。 ２．物理刺激に対する人体の反応を理解できる。 ３．各種物理療法機器を用いて，生体反応を測定し，物理療法の効果を定量的に判定。またそれらをレポートにまとめることができる。	

授業内容

第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。
オリエンテーション・レポート作成実習-1（目標3）
担当教員: 倉山　太一

第2回　物理療法に関連した生理学-1（目標2,3）
担当教員: 桑名　俊一

第3回　物理療法に関連した生理学-2（目標2,3）
担当教員: 桑名　俊一

第4回　レポート作成実習-2（目標3）
担当教員: 倉山　太一

第5回　レポート作成実習-3（目標3）
担当教員: 倉山　太一

第6回　温熱療法・寒冷療法・水治療法・超音波療法・電気療法・牽引療法
について各班ローテーション形式で実施（目標1,2,3）
担当教員: 倉山　太一

第7回　温熱療法・寒冷療法・水治療法・超音波療法・電気療法・牽引療法
について各班ローテーション形式で実施（目標1,2,3）
担当教員: 倉山　太一

第8回　温熱療法・寒冷療法・水治療法・超音波療法・電気療法・牽引療法
について各班ローテーション形式で実施（目標1,2,3）
担当教員: 倉山　太一

第9回　温熱療法・寒冷療法・水治療法・超音波療法・電気療法・牽引療法
について各班ローテーション形式で実施（目標1,2,3）
担当教員: 倉山　太一

第10回　温熱療法・寒冷療法・水治療法・超音波療法・電気療法・牽引療法
について各班ローテーション形式で実施（目標1,2,3）
担当教員: 倉山　太一

第11回　最新電気刺激療法（目標1,2,3）
（外部講師）
担当教員: 倉山　太一

第12回　最新温熱療法（目標1,2,3）
（外部講師）
担当教員: 倉山　太一

予習・復習の内容
（毎回60分程度）

予習　前期の物理療法学を中心に，下記実習科目に関連した解剖学，生理学を予習しておくこと。
第1回 レポート作成実習について
第2回 物理療法に関連した生理学について
第3回 物理療法に関連した生理学について
第4回 レポート作成実習について
第5回～第10回
班ごとに下記実習を実施

1）温浴効果
2）ホットパック・パラフィン
3）牽引療法
4）超音波療法
5）電気生理学
6）寒冷療法

第11回 最新電気刺激療法
第12回 最新温熱療法

復習　第1回 レポート作成実習についての復習
第2回 物理療法に関連した生理学についての復習
第3回 物理療法に関連した生理学についての復習
第4回 レポート作成実習についての復習
第5回～第10回

班ごとに下記実習内容について復習

1）温浴効果
2）ホットパック・パラフィン
3）牽引療法
4）超音波療法
5）電気生理学
6）寒冷療法

第11回 最新電気刺激療法についての復習
第12回 最新温熱療法についての復習

展開　各種物理療法機器の特性を把握し，物理刺激に対する生体の反応を理解し，物理療法機器を用いた治療が選択できるようになる事。

成績評価

評価の基準　目標１：各種物理療法機器の特徴を知り，適切に取り扱うことができることを合格基準とする。
目標２：物理刺激に対する人体の反応を理解できることを合格基準とする。
目標３：各種物理療法機器を用いて，生体反応を測定し，物理療法の効果を定量的に判定。またそれらをレポートにまとめることができることを合格基準とする。

評価の方法　試験（50%），レポート（50%）等による。
100点満点で60点以上を合格とする。

教科書

書籍名	Excelでできるらくらく統計解析
著者名	藤本壱 (著)
出版社	自由国民社
価格	1728円
ISBN・ISSN	978-4426121587

書籍名	できるポケット Excelグラフ 基本マスターブック
著者名	きたみあきこ (著), できるシリーズ編集部 (著)
出版社	インプレス
価格	950円
ISBN・ISSN	978-4295000327

推薦図書等

参考URL

備考　この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。

日常生活活動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT309
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2060001　金3,　4
教室	運動療法室,講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	ＡＤＬ，ＩＡＤＬ，ＩＣＦ，ＢＩ，ＦＩＭ	
学生の到達目標	1)ADL,IADL,QOL,ICF,生活機能評価を説明できる。 2)代表的な ADL評価法で評価ができる 3)代表的疾患・障害(片麻痺・四肢麻痺）についてＡＤＬ指導ができる。	
授業内容	第1回　ADL　IADLの概念, 評価の方法(目標1) 第2回　ADLの評価１(バーセル指数) (目標1,2,3))	

	第3回	ADLの評価2(FIM①) (目標1,2,3)
	第4回	ADLの評価3(FIM②) (目標1,2,3)
	第5回	ADLの評価3(FIM③) (目標1,2,3)
	第6回	ADLの評価４（Katz ほか) (目標1,2,3)
	第7回	ICF、IADL,QOL　（目標１）
	第8回	ＡＤＬ指導１ 起居・移動動作（床上・車椅子）（目標1,2,3）
	第9回	起居・移動動作 と福祉用具の選定・指導(目標1,2,3)
	第10回	ＡＤＬ指導２　移動動作（歩行）(目標1,2,3)
	第11回	歩行補助具選定・指導 (目標1,2,3)
	第12回	ＡＤＬ指導３　食事・更衣・トイレ動作 (目標1,2,3)
	第13回	食事・更衣・トイレ動作と福祉用具（自助具等）（目標1,2,3）
	第14回	ＡＤＬ指導４　入浴動作と福祉用具(目標1,2,3)
	第15回	IADLと福祉用具、(目標1)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	該当する教科書のページを良く読んでくること。 第2回　ADLの評価１(バーセル指数)　教科書4章を読んでくること 第3、４回　ADLの評価2，３(FIM)　教科書５章 第５回　ADLの評価４（Katz ほか）　２章 第6回　　ICF、IADL,QOL　　教科書１，２章 第7回　ＡＤＬ指導１ 起居・移動動作（床上・車椅子）７，８章 第8回起居・移動動作 と福祉用具の選定・指導　　教科書7,8章 第9回　ＡＤＬ指導２　移動動作（歩行）教科書９,１０章 第10回　歩行補助具選定・指導　教科書６、９,１０章 第11回　ＡＤＬ指導３　食事・更衣・トイレ動作　教科書１１章 第12回　食事・更衣・トイレ動作と福祉用具（自助具等）教科書１１章 第13回　ＡＤＬ指導３　食事・更衣・トイレ動作　教科書１１,１２章 第14回　ＡＤＬ指導４　入浴動作と福祉用具教科書１１,１２章 第15回　IADLと福祉用具、教科書Ｉ章
	復習	第1回　ADL　IADLの概念, 評価を整理して説明できる 第2回　ADLの評価１(バーセル指数)を使える 第3、４回　ADLの評価2(FIM①)を使える 第５回　ADLの評価４（Katz ほか)を使える 第6回　ICF、IADL,QOL　でＡＤＬ評価、指導ができる 第7、8回　起居・移動動作 と福祉用具の選定・指導(目標ができる 第9,10回　ＡＤＬ指導２　移動動作（歩行）と　歩行補助具選定・指導ができる 第11、12回　　食事・更衣・トイレ動作と福祉用具（自助具等）ができる 第13,14,15回　ＡＤＬ指導３　食事・更衣・トイレ動作、入浴動作と福祉用具ができる
	展開	概念、評価、代表的疾患のＡＤＬ支援へと進める。代表的事例をBIやFIMでＡＤＬ評価ができる。
成績評価	評価の基準	到達目標に挙げた各内容、ＡＤＬ評価を説明できる、代表的なＡＤＬ評価を評価表を使ってできること。
	評価の方法	中間試験・レポート課題（ 20%），期末筆記試験（ 80%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書	書籍名	日常生活活動学テキスト
	著者名	河本岩男、坂口勇人、村田伸
	出版社	南江堂
	価格	4000　円
	ISBN・ISSN	9784524266098

推薦図書等	書籍名	日常生活活動学･生活環境学
	著者名	鶴見隆正
	出版社	医学書院
	価格	5400
	ISBN・ISSN	978-4-260-01603-2

参考URL

備考

日常生活活動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT310
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学実習
科目責任者	郭　丹
担当教員	倉山　太一
授業形態	実習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2061001　火3，4
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	ＡＤＬ評価，要介助者のＡＤＬ指導，片麻痺のＡＤＬ指導	
学生の到達目標	１）ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ支援技法を具体的に述べることができ,模倣できる。 ２）ＡＤＬ要介助者に必要なリハビリテーション機器を選定し、模擬使用できる。 ３）ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ能力を模擬評価し、ＡＤＬ指導ができる。	

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 脳卒中片麻痺①起居移動移乗動作（目標１、３）
	第2回	脳卒中片麻痺②歩行･応用歩行（目標１，２，３）
	第3回	脳卒中片麻痺③　食事･入浴動作（目標１，２、３）
	第4回	脳卒中片麻痺④　更衣･トイレ動作(目標１，２,３）
	第5回	ADL指導　片麻痺とFIM（目標１，２，３）
	第6回	ADL指導　片麻痺とBI（目標１，２，３）
	第7回	パーキンソン病のADL（目標１，２，３）
	第8回	対麻痺、四肢麻痺のADL１（目標１，２，３）
	第9回	対麻痺、四肢麻痺のADL２（目標１，２，３）
	第10回	対麻痺、四肢麻痺のADL３（目標１，２，３）
	第11回	ADL指導　疾患とFIM（目標１，２，３）
	第12回	スペシャル講義と実習 ＲＡ,脳性まひ者等のための「足底板」(目標１,３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～12回　日常生活活動学で学んだことをもとに対象疾患のＡＤＬを予習しておくこと。
	復習	第1回～第12回　障害度別のＡＤＬ支援内容をまとめる
	展開	ＡＤＬ指導の実践ができる。
成績評価	評価の基準	1.ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ支援技法を具体的に述べることができ,模倣できること。 2.ＡＤＬ要介助者に必要なリハビリテーション機器を選定し、模擬使用できること。 3.ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ能力を模擬評価し、ＡＤＬ指導ができること。
	評価の方法	討議発表、期末実技試験（ 100%）、を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	ADL
	著者名	芝　喜嵩・下田信明
	出版社	羊土社
	価格	5200
	ISBN・ISSN	978-4-7581-0795-2
推薦図書等	書籍名	日常生活活動学･生活環境学
	著者名	鶴見隆正　編集
	出版社	医学書院
	価格	5400
	ISBN・ISSN	978-4-260-01603-2
	書籍名	動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション
	著者名	園田　茂

出版社	医学書院
価格	4700
ISBN・ISSN	4-260-00079-9

書籍名	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション
著者名	田中宏太佳
出版社	医学書院
価格	5700
ISBN・ISSN	978-4-260-00778-8

参考URL	
備考	ADL動作の練習を行なうために体を動かしやすい服装で出席すること（ジャージの上下など）。　2年後期の「日常生活活動学」を復習しておくこと。

リハビリテーション工学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP303
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	リハビリテーション工学
科目責任者	中野　聡子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2062101　金3
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力 5 科学的思考の形成と発展
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	リハビリテーション工学、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	
学生の到達目標	1. バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方について理解できる。 2. 障害者・高齢者の閉じこもりを減らし、社会参加できるための地域づくりや街づくりについて説明できる。 3. 福祉機器の現状と課題を学び、種々の福祉機器の構造と活用方法について理解し、機器の選択やアプローチ方法を習得する。	
授業内容	第1回　生活支援と工学　(目標1.2) 第2回　国際福祉機器展　H.C.R. 2017参加　(目標1～3) 2017/9/27～29	

第3回	国際福祉機器展　H.C.R. 2017参加　(目標1～3) 2017/9/27～29
第4回	国際福祉機器展　H.C.R. 2017報告会　(目標1～3)
第5回	支援機器による生活支援－支援機器活用のポイント、日常生活動作 (目標3～5)
第6回	支援機器による生活支援－姿勢保持装置、リフト、環境制御装置 (目標3～5)
第7回	支援機器による生活支援－移動、コミュニケーション　(目標3)
第8回	支援機器による生活支援－情報収集・発信の支援　(目標3)
第9回	支援機器による生活支援－認知障害に対する支援　(目標3)
第10回	バリアフリーとユニバーサルデザイン　(目標1,2)
第11回	住まいに必要な条件　日本家屋の特徴 (目標2)
第12回	アクセシブルデザイン　(目標3)
第13回	まちの観察1 (車いす)　(目標3)
第14回	まちの観察2 (杖、高齢者) (目標3)
第15回	まちの観察報告会 (目標3)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	各授業内容に応じて、地域理学療法学での学習を確認しておくこと。また、教科書該当単元を熟読して臨むこと。さらに、以下の事項について調べておくこと。それらについて授業内で説明を求める予定である。 キーワード 第1回　生活支援工学　支援機器 障害者総合支援法 第2 ～4回　福祉機器 第5回　自助具、義肢、装具、ロボットアーム 第6回　姿勢保持装置、リフト、環境制御装置 第7回　各種車いす、歩行ロボット、意思伝達装置 第8回　情報収集システム 第9回　認知障害　ICT 第10回　バリアフリー、ユニバーサルデザイン 第11回　建築基準法、住宅改修 第12回　アクセシブルデザイン、ISO、IEC 第13～15回　住環境、都市環境
	復習	講義で疑問に感じた部分について調べる。講義の内容を整理し、他者へ説明できるようにする。 第1回　生活支援工学　支援機器 障害者総合支援法について整理しておくこと。 第2 ～4回　福祉機器展に参加し、内容を整理しておくこと。 第5回　自助具、義肢、装具、ロボットアームについて整理しておくこと。 第6回　姿勢保持装置、リフト、環境制御装置について整理しておくこと。 第7回　各種車いす、歩行ロボット、意思伝達装置について整理しておくこと。 第8回　情報収集システムについて整理しておくこと。 第9回　認知障害　ICTについて整理しておくこと。 第10回　バリアフリー、ユニバーサルデザインについて整理しておくこと。 第11回　建築基準法、住宅改修について整理しておくこと。 第12回　アクセシブルデザイン、ISO、IECについて整理しておくこと。 第13～15回　住環境、都市環境
	展開	住環境や都市環境を理解し、障害者や高齢者に必要な機器や福祉用具、システム等を考え、選定できるようになること。

成績評価	評価の基準	1. バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方について理解できることを合格基準とする。 2. 障害者・高齢者の閉じこもりを減らし、社会参加できるための地域づくりや街づくりについて説明できることを合格基準と

		する。 3. 福祉機器の現状と課題を学び、種々の福祉機器の構造と活用方法について理解し、機器の選択やアプローチ方法を説明できることを合格基準とする
	評価の方法	期末筆記試験80%　授業内での取り組み態度とレポート20%で総合的に評価する。 ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	書籍名	生活支援工学概論
	著者名	日本生活支援工学会，日本リハビリテーション工学協会編
	出版社	コロナ社
	価格	3,024円
	ISBN・ISSN	978-4-339-07235-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	国際福祉機器展の見学は別途日時を定めて実施します。 尚，この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。 (オフィスアワー　月曜 3 限)

スポーツ理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT315
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2063001 火1～4（5/30）, 木1～4（6/1）
教室	(火曜日)治療室 (木曜日)運動療法室, 治療室
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　6 生涯探究心の育成 カリキュラムポリシー　7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	アスレティックリハビリテーション　競技力向上　障害予防
学生の到達目標	1．スポーツ理学療法の概要を理解する。 2．スポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションを選択実施できる。 3．スポーツ理学療法を通じて，他のスタッフとのコミュニケーションを図ることができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション　スポーツ理学療法の状況，目標や基本的な考え方を理解する（目標1）
	第2回	スポーツ外傷・障害に対する評価 代表的な整形外科的テストを用い対象とする疾患の評価を行える（目標2）
	第3回	スポーツ理学療法における障害予防プログラムの実際（目標1,2,3）
	第4回	アスリートのコンディショニング法 テーピング，ストレッチ（目標2,3）
	第5回	アスリートのコンディショニング法 テーピング，ストレッチ（目標2,3）
	第6回	足関節内反捻挫に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
	第7回	前十字靱帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
	第8回	投球障害肩・野球肘に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	スポーツ理学療法の基本となる解剖学，運動学の整理と，運動器系疾患の理学療法について一読してくる。 第１回：運動器系疾患に対する理学療法についての理解 第２回：スポーツ理学療法における評価について整形外科的テストを整理する 第３回：障害予防に必要な運動療法を把握する 第４・５回：テーピングやストレッチについて目的方法を把握する 第６～８回：各疾患の病態を把握する
	復習	各講義終了後に振り返り，内容を理解する。 理解に乏しい部分は次の講義までに解決すること。 第１回スポーツ理学療法の現状について振り返る 第２回整形外科的テストが症例で実施できる様練習する 第３回運動療法について実施説明できる 第４・５回テーピングやストレッチについて症例に実施できるよう練習を行う 第６～８回各疾患に対する理学療法の特徴について整理する
	展開	スポーツ疾患の原因を把握し，予防プログラムを実施指導できることで臨床の理学療法への展開を図る。 各自の専門外の領域になることも想定して，スポーツ理学療法を学ぶ貴重な機会と捉えること。
成績評価	評価の基準	授業回数の3分の2以上の出席の上，到達目標１，２，３ができることが合格基準である １．スポーツ理学療法の概要を理解する ２．スポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションを選択実施できる ３．スポーツ理学療法を通じて，他のスタッフとのコミュニケーションを図る
	評価の方法	テーピング等の実技試験による期末試験（80%） 授業内課題（20%）を総合して評価。 ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド
	著者名	臨床スポーツ医学編集委員会：編

出版社	文光堂
価格	7,350円
ISBN・ISSN	978-4-8306-5135-9

書籍名	ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医科学ガイドブック
著者名	金岡恒治　編集
出版社	メジカルビュー社
価格	5,400＋税
ISBN・ISSN	978-4-7583-1691-0

参考URL	
備考	オフィスアワー：火曜日２，３限

高次脳機能障害学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT311
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高次脳機能障害学
科目責任者	渡辺　学
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2064001 金4,5（9/29, 10/6, 10/20, 10/27）
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	高次脳機能障害・失行症・半側空間無視
学生の到達目標	1.高次脳機能障害とは何かを理解できるようになる。 2.主要な高次脳機能について発現メカニズムとアプローチ法を理解できるようになる。 3.高次脳機能障害の基本的評価について理解できるようになる。
授業内容	第1回　総論1:高次脳機能障害の概観(目標1) 第2回　各論1:意識障害,注意障害の概要と治療アプローチ(目標2)

	第3回	各論1:全般性認知障害,記憶障害の概要と治療アプローチ(目標2)
	第4回	各論2:半側空間無視の概要と治療アプローチ(目標2)
	第5回	各論3:視覚失認,その他の空間認知に関する概要と治療アプローチ(目標2)
	第6回	各論4:失行症の概要と治療アプローチ(目標2)
	第7回	各論5:遂行機能障害,その他の行為障害に関する概要と治療アプローチ(目標2)
	第8回	各論6:失語症の概要と治療アプローチ(目標2) 総論2：高次脳機能障害の基本的評価(目標3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　脳卒中の発生メカニズムを理解し、高次脳機能障害と理学療法との関連性は何かを考えておくこと。 第2回～第8回（共通）成書やネットの情報を通じて各高次脳機能障害の症状がどのようなものかをイメージしておくこと。
	復習	第1回　脳の認知機能システムについて全体像を概観しながらまとめなおすこと。 第2回～第8回（共通）　理学療法の側面から必要なメカニズム・評価・治療をまとめなおすこと。
	展開	脳の機能に関する最新の研究成果を、様々な資料の中で最もわかりやすいものを抽出し理解する。
成績評価	評価の基準	1　理学療法の観点から高次脳機能障害が患者に及ぼす影響を説明できる。 2　第2回～第8回の内容から各高次脳機能障害の発現メカニズムとアプローチ法を理解し説明できる。 3　高次脳機能障害の全体的な評価の考え方と手順、基本的評価の内容を説明できる。
	評価の方法	講義への態度10%，筆記試験90%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	高次脳機能障害が理学療法の臨床にどのように関連し，脳卒中をどのように捉えていくかを中心に講義します。 なお、連絡が必要な場合は教務課にお申し出ください。	

プロフェッショナルセミナーⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE302
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルセミナーⅠ
科目責任者	上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2065101
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 障害支援 3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力 4 臨床実践能力評価
授業のキーワード	ＰＮＦ治療手技、関節モビライゼーション、運動動作分析	
学生の到達目標	1. 治療手技の理論を理解する 2. 評価治療の一貫性を学ぶ 3. 治療手技の応用方法を覚える	

授業内容	第1回	運動動作分析（目標1,2,3）
	第2回	運動動作分析（目標1,2,3）
	第3回	関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3）
	第4回	関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3）
	第5回	運動動作分析（目標1,2,3）
	第6回	運動動作分析（目標1,2,3）
	第7回	ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3）
	第8回	ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3）
	第9回	運動発達理論の臨床治療応用（目標1,2,3）
	第10回	運動発達理論の臨床治療応用（目標1,2,3）
	第11回	運動動作分析の基本（目標1,2,3）
	第12回	運動動作分析の基本（目標1,2,3）
	第13回	運動動作分析の基本　症例検討（目標1,2,3）
	第14回	運動動作分析の基本　症例検討（目標1,2,3）
	第15回	運動動作分析の基本　症例検討（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第15回　毎回授業内容に関係する解剖学、生理学、機能解剖学の知識を復習しておく。
	復習	第1回～第15回　毎回授業内容で学習した各治療手技の理論と実践をまとめる。
	展開	健常者同士の反復練習により臨床場面で応用できる
成績評価	評価の基準	1.治療手技の理論を理解し，実施できる。 2.評価治療の一貫性を理解できる。 3.治療手技が応用できる。
	評価の方法	定期試験100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

プロフェッショナルセミナーⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE303
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルセミナーⅡ
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	千葉　諭
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2065201 月～金1～5
教室	講義室17, ゼミ室8, ゼミ室16
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	国家試験対策
学生の到達目標	1. 解剖学，生理学，運動学の知識を習得する 2. 臨床医学，理学療法基礎および専門知識を習得する 3. 国家試験問題を想定した模試で合格点を獲得する
授業内容	第1回　解剖学(目標1-3) 担当教員: 三浦　達浩

第2回　生理学(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第3回　運動学(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第4回　病理学(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第5回　神経内科学（基礎・専門）(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第6回　整形外科学（基礎・専門）(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第7回　内科学（基礎・専門）(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第8回　臨床心理・精神医学(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第9回　理学療法評価、運動療法学(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第10回　義肢装具学、物理療法学、ADL(目標1-3)
担当教員: 三浦　達浩

第11回　国家試験模試問題１(目標1-3)
担当教員: 千葉　諭

第12回　国家試験模試問題２(目標1-3)
担当教員: 千葉　諭

第13回　国家試験模試問題３(目標1-3)
担当教員: 千葉　諭

第14回　国家試験模試問題４(目標1-3)
担当教員: 千葉　諭

第15回　国家試験模試問題５(目標1-3)
担当教員: 千葉　諭

予習・復習の内容
（毎回45分程度）

予習　これまでに学習した理学療法基礎科目および理学療法専門科目の過去の国家試験問題をとき、知識の確認をする。各回の範囲は以下の通りである。
第1回　解剖学
第2回　生理学
第3回　運動学
第4回　病理学
第5回　神経内科学（基礎・専門）
第6回　整形外科学（基礎・専門）
第7回　内科学（基礎・専門）
第8回　臨床心理・精神医学
第9回　理学療法評価、運動療法学
第10回　義肢装具学、物理療法学、ADL
第11回～第15回　全範囲

復習　実施した国家試験問題を見直し，不足している知識の再習得に努める。
各回の範囲は以下の通りである。
第1回　解剖学
第2回　生理学
第3回　運動学
第4回　病理学
第5回　神経内科学（基礎・専門）
第6回　整形外科学（基礎・専門）
第7回　内科学（基礎・専門）
第8回　臨床心理・精神医学
第9回　理学療法評価、運動療法学
第10回　義肢装具学、物理療法学、ADL
第11回～第15回　全範囲

	展開	過去の国家試験問題による学習を継続することで過去10年分の国家試験問題を網羅し，知識の再習得と定着を図る。また、苦手な分野については、図表を中心として知識を整理したノートを作成し、繰り返し学習することにより知識を確実に定着させる。
成績評価	評価の基準	目標1：国家試験範囲の、解剖学，生理学，運動学の知識を習得できていることを合格基準とする。 目標2：国家試験範囲の、臨床医学，理学療法基礎および専門知識を習得できていることを合格基準とする。 問題3：国家試験問題を想定した模試で合格点を獲得できることを合格基準とする。
	評価の方法	12月に実施する期末試験（国家試験形式）を受験し合格すること。なお、知識確認テスト（国家試験形式）の全てに合格することを期末試験の受験資格条件とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士　国家試験問題解説２０１７　共通問題
	著者名	
	出版社	メディックメディア
	価格	本体4,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-634-5
	書籍名	クエスチョン・バンク　理学療法士　国家試験問題解説２０１７　専門問題
	著者名	
	出版社	メディックメディア
	価格	本体4,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-635-2
参考URL		
備考	オフィスアワー　火曜３限、木曜３限	

地域理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP301
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2066001　金4
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 チーム医療 ・地域貢献 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力 5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	ＩＣＦ，ＣＢＲ，目標設定，生活指導，住宅改修
学生の到達目標	１）地域理学療法の必要背景,関連する法,制度の変遷を説明し,現状の課題を提案できる。 ２）地域理学療法における生活指導・支援プログラムについて述べることができる。 ３）住宅改修と福祉用具活用支援の関係について説明できる。
授業内容	第1回　地域理学療法の理念と背景(目標1) 第2回　地域理学療法の理念と背景２(目標1)

第3回	地域に根ざしたリハビリテーションＣＢＲ、CBID(目標1,2)
第4回	QOL増大に向けて(目標1,2)
第5回	介護保険と地域理学療法(目標1,2)
第6回	地域理学療法の展開　①通所･入所サービス　(目標1,2)
第7回	地域理学療法の展開　②訪問サービス　(目標１,２)
第8回	地域理学療法の展開　③介護予防(目標１,２)
第9回	ケアマネジメント、リスクマネジメント、地域包括ケアシステム(目標１,２)
第10回	地域における生活環境整備（制度、まちづくり、住宅と交通）（目標1,２,３）
第11回	環境整備　段差と手すり（目標２,３）
第12回	生活場所からみた住宅改修の方法①（玄関、廊下、トイレ）（目標２,３）
第13回	生活場所からみた住宅改修の方法②（浴室、居間、寝室、台所）（目標２,３）
第14回	住宅改修案①図面の書き方、改修案つくり（目標２,３）
第15回	住宅改修案②（事例発表）（目標２,３）

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	各回ごとに教科書の該当章と資料を配布する。 第2回　地域理学療法の理念と必要背景について教科書Ｉ章を読んでくる。 第3回　　地域に根ざしたリハビリテーションＣＢＲについて教科書Ⅳ章を読んでくる、 第4回　QOL増大に向けて何が必要か教科書Ⅵ章を読んで考える 第5回　介護保険と地域理学療法について教科書Ⅱ章を読んでくる。 第6回　地域理学療法の展開　①通所･入所サービスについて教科書Ⅲ章、Ⅴ章を読んでくる。 第7回地域理学療法の展開　②訪問サービスについて教科書Ⅲ章、Ⅴ章を読んでくる。 第8回　地域理学療法の展開　③介護予防についてⅢ章、Ⅴ章を読んでくる。 第9回　ケアマネジメント、リスクマネジメント、地域包括ケアシステムについて教科書Ⅲ、Ⅴ章を読んでくる。 第10回　地域における生活環境整備について教科書Ｉ－４章を読んでくる 第11回　環境整備　段差と手すりについて教科書５－６章を読んでくる 第12回　生活場所からみた住宅改修の方法①（玄関、廊下、トイレ）教科書7.8.９章を読んでくる 第13回　生活場所からみた住宅改修の方法②（浴室、居間、寝室、台所）教科書10.11.12章を読んでくる 第14回　住宅改修案①図面の書き方、改修案つくり教科書Ｉ3,14,15章を読んでくる 第15回　住宅改修案②（事例発表）課題を作成してくる。
	復習	配布資料に授業中に各自加筆したものをさらに整理し、自分の文章としてまとめ、理解する 第1回　地域理学療法の変遷の理解から、今後の地域支援の方向性に関心を持てる。 第2回　1回に引き続き、今後の地域支援の方向性に関心を持てる。 第3回　ＣＢＲの展開から、我が国の地域理学療法の在り方を比較推測してみる、 第4回　QOL増大に向けて地域理学療法の課題を考える 第5回　介護保険を十分理解することの必要性を理解する。 第6回　地域理学療法の展開　①通所･入所サービスの現状を考え、学外実習準備につなげられる。　　第7回地域理学療法の展開　②訪問サービスの方法を考え、学外実習準備につなげられる。

第8回　地域理学療法の展開　③介護予防を理解する
第9回　ケアマネジメント、リスクマネジメント、地域包括ケアシステムをまとめる
第10回　地域における生活環境整備（制度、まちづくり、住宅と交通）を理解する
第11回　環境整備　段差と手すりを整理し、改造案つくりに役だてられる
第12回　住宅改修の方法①（玄関、廊下、トイレ）を整理し、改造案つくりに役だてられる
第13回　住宅改修の方法②（浴室、居間、寝室、台所）を整理し、改造案つくりに役だてられる
第14回　住宅改修案①図面の書き方、改修案つくりを整理し、改造案つくりに役だてられる
第15回　住宅改修案②（事例発表）発表について修正し、レポートが完成できる

展開　この授業で学習したことをもとに、学外実習（９月集中）として、介護老人保健施設、訪問ステーションの見学実習を行う。

成績評価

評価の基準　評価の基準：目標1,2,3が説明できることを目安とする。到達目標に挙げた各内容が理解できていること。

評価の方法　住宅改修案レポート（２０%）期末筆記試験（ 80%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	地域理学療法学第４版
著者名	牧田光代、金谷さとみ
出版社	医学書院
価格	4700
ISBN・ISSN	9784260028516

書籍名	生活環境学テキスト
著者名	村田伸、岡本加奈子、北島栄二
出版社	南江堂
価格	3800
ISBN・ISSN	9784524258222

推薦図書等

書籍名	現場から学ぶ自立支援のための住宅改修
著者名	鶴見隆正ほか
出版社	医学書院
価格	2,400円
ISBN・ISSN	978-4-260-00454-1

書籍名	地域理学療法学
著者名	柳澤健
出版社	メジカルビュー
価格	3800
ISBN・ISSN	978-4-7583-1114-4

書籍名	住宅改修ハンドブック

著者名	財団法人テクノエイド協会
出版社	財団法人テクノエイド協会
価格	1200
ISBN・ISSN	

□上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

地域理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP302
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学実習
科目責任者	上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2067001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 チーム医療 ・地域貢献 カリキュラムポリシー　5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	介護老人保健施設　訪問リハビリテーション　介護保険制度
学生の到達目標	１．地域におけるサービス実施機関の活動内容を把握し理解する ２．職員，対象者に対して適切なコミュニケーションが取れ，見学に必要な態度を工夫できる ３．地域理学療法の実施を補助する

授業内容	実習期間：平成２９年8月２８日（月）～9月9日（土）の内５日間 １．地域理学療法学実習オリエンテーション（目標１，２） ２．介護老人保健施設・訪問リハ・通所施設にて実習を５日間行う（目標１，２，３） ３．各「介護老人保健施設等での５日間」についての発表（目標１，２）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　自分が見学する施設（介護老人保健施設，訪問・通所施設）について，資料，ホームページなどから調べ，まとめておくこと。 復習　第１回～８回すべて施設実習：実習にて学んだことデイリーノートに記載することで，記憶にとどめるのでなく記録に残し復習とする。 展開　治療実習は行わないが，検査測定の実施を可能な範囲で行うことにより評価学臨床実習につながる。
成績評価	評価の基準　介護老人保健施設等および訪問・通所施設での５日間の学外実習に出席の上，目標１～３を達成し，課題発表を行えることを合格基準とする １．地域におけるサービス実施機関の活動内容を把握し理解する ２．職員，対象者に対して適切なコミュニケーションが取れ，見学に必要な態度を工夫できる ３．地域理学療法の実施を補助する 評価の方法　発表（50%），デイリーノートおよび見学レポート（50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　地域リハビリテーション学テキスト 著者名　細田多穂　監修 出版社　南江堂 価格　4,200円 ISBN・ISSN　978-4-524-26957-0 □上記の図書等は市販されていません。
参考URL	
備考	

義肢学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT312
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	義肢学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	A2068101 月5（5/22,5/29） 火1（5/23,5/30以外）
教室	義肢装具加工室,講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	切断，義肢，アライメント，理学療法，支給システム
学生の到達目標	目標1：切断に関する医学的知識を身につける。 目標2：各種の義肢の構造と各部品について理解できアライメントの調整ができる。 目標3：下肢切断者の理学療法を理解し実施できる。
授業内容	第1回　切断と義肢の基礎知識（目標１・２） 第2回　早期義肢装着法と義足適合の流れ（目標１・２）

第3回	大腿切断・膝離断の基本と義足構造（目標１・２）
第4回	大腿義足・膝義足のアライメント（目標２・３）
第5回	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造（目標１・２）
第6回	下腿義足・サイム義足のアライメント（目標２・３）
第7回	股離断・片側骨盤切除・足部離断の義足構造とアライメント（目標１・２・３）
第8回	ベンチアライメント調整（目標2・3）
第9回	ベンチアライメント調整（目標2・3）
第10回	ベンチアライメント調整（目標2・3）
第11回	下肢切断の義足装着前理学療法（目標１・3）
第12回	疾患別の留意点（目標１・3）
第13回	下肢切断の評価（目標１・2・3）
第14回	義足装着理学療法（目標２・３）
第15回	義肢装具の支給体系とチームアプローチ（目標1・3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～10回は、教科書の各該当単元を熟読すること。 第11～14回は、教科書の各該当単元、また関連する解剖学・運動学・評価学・運動療法学・臨床医学の復習も合わせて行うこと。
	復習	知識として備えなければならない事が多いです。第1～7・15回は、絵を描き，まとめ整理してください。 第8～14回は、実際に調整、実施できるよう練習すること。
	展開	切断に関する医学的知識，各種義足の構造と各部品，アライメントの概念，姿勢・歩行動作に与える影響について学習する。

成績評価	評価の基準	目標1：切断に関する医学的知識を理解できていること。 目標2：各種の義肢の構造と各部品について理解できアライメントの調整ができること。 目標3：下肢切断者の理学療法を実施できること。
	評価の方法	試験50%，レポート・小テスト・プレゼン50%

教科書	書籍名	理学療法テキスト　義肢学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-521-73225-1

推薦図書等	書籍名	切断と義肢
	著者名	澤村　誠志
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	7000円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-263-21300-1
	書籍名	義肢学
	著者名	日本義肢装具学会　監修

出版社	医歯薬出版株式会社
価格	8600円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-263-21539-5

書籍名	理学療法ＭＯＯＫ　７　義肢装具
著者名	黒川　幸雄　他
出版社	三輪書店
価格	3800円+税
ISBN・ISSN	ISBN4-89590-130-0

参考URL

備考

知識として備えなければならない事が多いです。各回ごとに絵を描き，まとめ整理してください。
＊オフィスアワー：月・火・木（２時限）
＊e-mail:研究前に掲示

装具学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT313
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	装具学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	A2069101　火1
教室	義肢装具加工室, 講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	装具療法，チェックアウト，姿勢，歩行
学生の到達目標	目標1：装具の構造と各部品について理解できる。 目標2：各種疾患別に装具を選択できる。 目標3：装具のチェックアウトができ姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
授業内容	第1回　総論（目標１～3） 第2回　装具の部品と機能（目標１）

第3回	短下肢装具（目標１・２・3）
第4回	長下肢装具（目標１・２・3）
第5回	靴型装具（目標１・２・3）
第6回	下肢装具のチェックアウト（目標３）
第7回	チェックアウト　長下肢装具　（目標３）
第8回	チェックアウト　金属支柱付き短下肢装具　（目標３）
第9回	チェックアウト　プラスチック短下肢装具　（目標３）
第10回	体幹装具（目標１・２）
第11回	上肢装具（目標１・２）
第12回	疾患別装具の処方（１）－脳卒中片麻痺の装具－（目標２）
第13回	疾患別装具の処方（２）－整形外科疾患の装具－（目標２）
第14回	疾患別装具の処方（３）－関節リウマチの装具－（目標２）
第15回	疾患別装具の処方（４）－対麻痺・小児の装具－（目標２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	教科書の各回の該当単元を熟読すること。また第1～6・10・11回関連する解剖学・運動学を中心に十分に復習し授業に臨むこと。第7～9回は、第6回を熟読 すること。第12～15回は、関係する臨床医学の領域を復習すること。
	復習	知識として備えなければならないことが多いです。第1～6・10・11回は、絵を描き整理してください。第7～9回は、グループワーク後に単独でプレゼンできるよう練習すること。第12～15回は、各種疾患別に装具を選択できるよう復習すること。
	展開	装具の構造・各部品の適応について学習する。各種疾患別に装具を選択。装具のチェックアウト，調整を行う。

成績評価	評価の基準	目標1：装具の構造と各部品について理解でていること。 目標2：各種疾患別に装具を選択できること。 目標3：装具のチェックアウトができ姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できること。
	評価の方法	試験50%，レポート・小テスト・プレゼン50%

教科書	書籍名	理学療法テキスト　装具学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-521-73226-8

推薦図書等	書籍名	装具学　第3版
	著者名	加倉井周一
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	6200円+税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-263-21276-9

書籍名	装具治療マニュアル
著者名	加倉井周一
出版社	医歯薬出版株式会社
価格	7000円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-263-21525-8

書籍名	義肢装具のチェックポイント　第7版
著者名	日本整形外科学会
出版社	医学書院
価格	7600円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-260-00446-6

参考URL	
備考	知識として備えなければならない事が多いです。各回ごとに絵を描き，まとめ整理してください。 ＊オフィスアワー：月・火・木（２時限） ＊e-mail:研究前に掲示

理学療法評価学臨床実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学臨床実習
科目責任者	上倉　將太
担当教員	郭　丹 小山内　正博 三浦　達浩 倉山　太一 千葉　諭 中野　聡子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2070001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　4 チーム医療 ・地域貢献 カリキュラムポリシー　5 チーム医療 ・地域貢献
授業のキーワード	理学療法評価　目標設定　治療計画
学生の到達目標	１．医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ，行動することができる。 ２．症例に即した検査・側定・記録ができ，問題点の抽出，目標の設定および基本的な治療計画の立案ができる。 ３．記録と報告が適切に実施できる。

授業内容	・後期２月から３月の間に臨床実習施設での実習（4週間）（目標1,2,3） ・担当教員は巡回指導にあたる。
予習・復習の内容（毎回60分程度）	予習　理学療法評価学臨床実習に必要な，基礎知識，評価技術の整理，練習をしておくこと。 復習　現場で学んだ知識，評価技術について，整理しまとめ，デイリーノート等に記録を残す。この後，受講することになる総合臨床実習Ⅰへの準備につなげること。 展開　続いて受講する総合臨床実習Ⅰ，総合臨床実習Ⅱへとつながるため，適切な治療計画と目標設定が必要となる。
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していることを合格基準とする。 評価の方法　実習施設の実習指導者の評価・意見（80%）と，提出されたレポートおよび発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	書籍名　PT症例レポート赤ペン添削　ビフォー＆アフター 著者名　相澤　純也（編集） 出版社　羊士社 価格　3,６00円＋税 ISBN・ISSN　978-4758102148
推薦図書等	書籍名　３日間で行う理学療法臨床評価プラニング 著者名　中山恭秀（編集） 出版社　南江堂 価格　3,200円＋税 ISBN・ISSN　978-4524268146 書籍名　PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド 著者名　山口美和 出版社　医学書院 価格　2,800円＋税 ISBN・ISSN　978-4260015691
参考URL	
備考	１．３年次前期までに配置されているすべての必修科目を履修し，単位を修得していること。 ２．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ３．「アドバンストセミナー」で，必要な知識・技術を習得し実施する。 ４．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。 ５．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。

総合臨床実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE402
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習Ⅰ
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	郭　丹 小山内　正博 上倉　將太 倉山　太一 前田　哲男 千葉　諭 中野　聡子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2071001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、治療計画、理学療法プログラム	

学生の到達目標	目標1：医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 目標2：臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 目標3：目標2に関して,記録ができる。また症例報告書を作成し,発表できる。	
授業内容	・４月から１０月の間に，臨床現場での臨床体験（８週間）（目標1～3） ・担当教員は巡回指導にあたる。	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	１年から３年までに使用した教科書、資料の整理、理学療法評価学臨床実習での学習内容の整理を行い、臨床指導者の指導のもとで、基本的理学療法を実施できる準備をする。
	復習	総合臨床実習Ⅱに向けて準備をする。
	展開	臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見（80%）と，提出されたレポートおよび発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学外実習実施要項を再確認し臨むこと。 （オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）	

総合臨床実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE403
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習Ⅱ
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	郭　丹 小山内　正博 上倉　將太 倉山　太一 前田　哲男 千葉　諭 中野　聡子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2072001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 知識・技能・実践力
	カリキュラムポリシー	3 知識・技能・実践力
授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、治療計画、理学療法プログラム	

学生の到達目標	目標1：医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 目標2：臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 目標3：目標2に関して,記録ができる。また症例報告書を作成し,発表できる。	
授業内容	・４月から１０月の間に，臨床現場での臨床実践（８週間）（目標1～3） ・担当教員は巡回指導にあたる。	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	総合臨床実習Ⅰで学習した知識・技術を整理、復習し、引き続き、次の実習施設で臨床実習を実施する準備をする。
	復習	総合臨床実習Ⅱで得た臨床体験をもとに、自分の理学療法士としての基本的な態度や資質を考え、さらに向上させる。
	展開	総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱを体験したことで、理学療法士としての基礎を作る。
成績評価	評価の基準	実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。
	評価の方法	実習先の指導者の評価・意見とレポート（80%）および発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学外実習実施要項を再確認し臨むこと。 （オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）	

プロフェッショナルスキル

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE304
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルスキル
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 郭　丹 小山内　正博 上倉　將太 山本　雅哉 倉山　太一 森田　麻登 前田　哲男 前田　仁士 千葉　諭 中野　聡子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	A2073001 月～金1～5
教室	(前期)講義室9,講義室13,講義室17, 講義室16, 講義室18,講義室20,ゼミ室8, ゼミ室16 (後期)講義室17,ゼミ室8, ゼミ室16
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー　3 知識・技能・実践力 カリキュラムポリシー　4 臨床実践能力評価

授業のキーワード	基礎医学、理学療法基礎専門科目、理学療法専門科目
学生の到達目標	目標1　理学療法基礎科目（基礎医学・臨床医学等専門基礎科目）の知識を整理し定着できる。 目標2　理学療法専門科目（評価学、中枢神経系障害、運動器系障害、等）の知識を整理し定着できる。 目標3　各系統疾患別理学療法の知識を整理できる。
授業内容	第1回　理学療法基礎科目（運動学、生理学、解剖学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 担当教員：三浦　達浩・桑名　俊一・山本　雅哉 第2回　理学療法基礎科目（病理学、内科学、整形外科学、臨床神経医学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 担当教員：前田　仁士 第3回　理学療法基礎科目（臨床心理学、精神医学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 担当教員：森田　麻登 第4回　理学療法基礎科目（リハビリテーション医学、リハビリテーション概論）について、基礎知識のレビュー（目標１） 担当教員：前田　哲男 第5回　理学療法専門科目（基礎理学療法学、評価学）について、基礎知識のレビュー（目標２） 担当教員：三浦　達浩・郭　丹 第6回　理学療法専門科目（中枢神経系障害、運動器系障害）について、基礎知識のレビュー（目標２） 担当教員：小山内　正博・倉山　太一 第7回　理学療法専門科目（内部障害、神経筋障害）について、基礎知識のレビュー（目標２） 担当教員：小山内　正博・倉山　太一 第8回　理学療法専門科目（治療学、義肢装具、ＡＤＬ、物理療法、その他）について、基礎知識のレビュー（目標２） 担当教員：郭　丹・小山内　正博・倉山　太一 第9回　代表的疾患（脳血管障害）事例の症例検討を行う（目標３） 担当教員：倉山　太一 第10回　代表的疾患（運動器系障害）事例の症例検討を行う（目標３） 担当教員：小山内　正博 第11回　代表的疾患（内部障害）事例の症例検討を行う（目標３）） 担当教員：小山内　正博 第12回　代表的疾患（神経筋障害）事例の症例検討を行う（目標３） 担当教員：郭　丹 第13回　OSCEを受験する（目標１～３）① 担当教員：三浦　達浩・小池　和子・小山内　正博・上倉　將太・倉山　太一・千葉　諭・中野　聡子 第14回　OSCEを受験する（目標１～３）② 担当教員：三浦　達浩・小池　和子・小山内　正博・上倉　將太・倉山　太一・千葉　諭・中野　聡子 第15回　OSCE結果のフィードバックと指導（目標１～３） 担当教員：三浦　達浩・小山内　正博・上倉　將太・倉山　太一
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　事前に教科書（1～3年で購入したもの）の該当する部分を一読してくること。各回の範囲は以下の通りである。 第1回　運動学、生理学、解剖学 第2回　病理学、内科学、整形外科学、臨床神経医学 第3回　臨床心理学、精神医学 第4回　リハビリテーション医学、リハビリテーション概論 第5回　基礎理学療法学、評価学 第6回　中枢神経系障害、運動器系障害 第7回　内部障害、神経筋障害

第8回　治療学、義肢装具学、ＡＤＬ、物理療法学
第9回　脳血管障害
第10回　運動器系障害
第11回　内部障害
第12回　神経筋障害
第13回～第15回　上記の全範囲

復習　各自の知識の不十分な部分や、あいまいな項目を明らかにして復習する。各回の範囲は以下の通りである。
第1回　運動学、生理学、解剖学
第2回　病理学、内科学、整形外科学、臨床神経医学
第3回　臨床心理学、精神医学
第4回　リハビリテーション医学、リハビリテーション概論
第5回　基礎理学療法学、評価学
第6回　中枢神経系障害、運動器系障害
第7回　内部障害、神経筋障害
第8回　治療学、義肢装具学、ＡＤＬ、物理療法学
第9回　脳血管障害
第10回　運動器系障害
第11回　内部障害
第12回　神経筋障害
第13回～第15回　上記の全範囲

展開　国家試験過去問題を利用し、各分野の設問に対して解説を作成することで、理学療法士（養成校卒業レベル）の基礎を築く。

成績評価

評価の基準　目標1:理学療法基礎科目（基礎医学・臨床医学等専門基礎科目）の知識を整理し、習得できていることを合格基準とする。
目標2:理学療法専門科目（評価学、中枢神経系障害、運動器系障害、等）の知識を整理し、習得できていることを合格基準とする。
目標3　各系統疾患別理学療法の知識を整理し、習得できていることを合格基準とする。

評価の方法　客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）に合格し、かつ、知識確認テスト（国家試験形式）に合格する。成績はＯＳＣＥ20%、基礎知識テスト80%で算出する。ただし、この比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書　教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名　クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士　国家試験問題解説２０１７　共通問題
著者名
出版社　メディックメディア
価格　本体4,500円＋税
ISBN・ISSN　978-4-89632-634-5

書籍名　クエスチョン・バンク　理学療法士　国家試験問題解説２０１７　専門問題
著者名
出版社　メディックメディア
価格　本体4,500円＋税
ISBN・ISSN　978-4-89632-635-2

参考URL

備考　この科目履修者は、総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ実施との関係で、時期をⅠ(4、5月)、Ⅱ(6，7月）とし、Ⅰ、Ⅱのいずれか１つを履修する。
（オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	小池　和子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074001
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文,引用文献,科学論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回60分程度）	予習　関連する先行研究論文を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	桑名　俊一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074002
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。 オフィスアワー：木曜日1-4限

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	前田　哲男
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074003
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	1．研究課題の決定（目標１） 2．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） 3．研究計画の立案（目標２） 4．研究の実施、推進（目標２） 5．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） 6．研究結果の整理と分析（目標２） 7．研究成果の発表（目標３） 8．研究成果の論文化（目標３） 9．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	前田　仁士
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074004
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	山本　雅哉
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074005
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	小山内　正博
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074006
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	1．研究課題の決定（目標１） 2．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） 3．研究計画の立案（目標２） 4．研究の実施、推進（目標２） 5．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） 6．研究結果の整理と分析（目標２） 7．研究成果の発表（目標３） 8．研究成果の論文化（目標３） 9．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。 ＊オフィスアワー：月・火・木（２時限） ＊e-mail:研究室前に掲示

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074007
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文,文献研究	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回60分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	郭　丹
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074008
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074009
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	1．研究課題の決定（目標１） 2．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） 3．研究計画の立案（目標２） 4．研究の実施、推進（目標２） 5．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） 6．研究結果の整理と分析（目標２） 7．研究成果の発表（目標３） 8．研究成果の論文化（目標３） 9．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。 （オフィスアワー　火曜３限、木曜３限）

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	倉山　太一
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074010
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	1．研究課題の決定（目標１） 2．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） 3．研究計画の立案（目標２） 4．研究の実施、推進（目標２） 5．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） 6．研究結果の整理と分析（目標２） 7．研究成果の発表（目標３） 8．研究成果の論文化（目標３） 9．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	森田　麻登
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074011
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	卒業論文，心理学研究法，実験，調査
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	書籍名　Progress & Application心理学研究法 著者名　村井潤一郎 出版社　サイエンス社 価格　2,376円 ISBN・ISSN　978-4781913070 書籍名　心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの10ステージ 著者名　小塩真司・宅香菜子 出版社　金子書房 価格　2,700円 ISBN・ISSN　978-4760826551
推薦図書等	
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074012
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	中野　聡子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	A2074013
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準　1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。 評価の方法　研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　レポート論文の書き方入門 著者名　河野哲也 出版社　慶應義塾大学出版会 価格　1,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7664-0969-7 書籍名　理科系の作文技術 著者名　木下是雄 出版社　中央公論新社 価格　700円＋税 ISBN・ISSN　978-4-12-100624-0
参考URL	
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2017年度
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	千葉　諭
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	A2074014
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	5 科学的思考の形成と発展 6 生涯探究心の育成
	カリキュラムポリシー	6 科学的思考の形成と発展 7 生涯探究心の育成
授業のキーワード	卒業研究，卒業論文	
学生の到達目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。	

授業内容	第1回	研究課題の決定（目標１）
	第2回	領域の先行研究論文の詳細検討（目標２）
	第3回	研究計画の立案（目標２）
	第4回	研究の実施、推進（目標２）
	第5回	研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施）（目標２）
	第6回	研究結果の整理と分析（目標２）
	第7回	研究成果の発表（目標３）
	第8回	研究成果の論文化（目標３）
	第9回	卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。
	復習	自分の行った研究結果を整理し、分析する。
	展開	科学的問題解決能力を身に付ける。
成績評価	評価の基準	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。
	評価の方法	論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	レポート論文の書き方入門
	著者名	河野哲也
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	1,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7664-0969-7
	書籍名	理科系の作文技術
	著者名	木下是雄
	出版社	中央公論新社
	価格	700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-12-100624-0
参考URL		
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。 オフィスアワー：月曜2限、金曜5限 e-mail：s-chiba@uekusa.ac.jp	